高齢者実態調査等
報告書

令和2年３月

木津川市

目　次

Ⅰ　調査の概要 1

1　調査目的 1

2　実施概要 1

3　報告書の見方 2

Ⅱ　調査結果 3

Ⅱ-1　介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 3

1　調査対象者の属性 3

2　家族や生活状況について 6

3　からだを動かすことについて 12

4　食べることについて 20

5　毎日の生活について 25

6　地域での活動について 33

7　たすけあいについて 42

8　健康について 51

9　認知症について 58

10　その他 63

Ⅱ-2 生活機能評価等に関する分析 89

1　生活機能評価 89

2　日常生活評価 103

3　社会参加評価 105

Ⅱ-3 在宅介護実態調査 109

1 調査対象者の属性..... 109

2 調査対象者本人について［A票］..... 112

3 主な介護者について［B票］..... 141

Ⅱ-4 介護サービス事業所調査..... 149

1 事業所について..... 149

2 職員の確保について..... 154

3 職員の研修や資格に関することについて..... 174

4 事業所の運営について..... 178

Ⅱ-5 介護支援専門員調査 183

1 回答者属性..... 183

2 勤務状況..... 186

3 介護支援専門員としての業務..... 189

4 自由意見..... 204

資料編 205

調査票見本『介護予防・日常生活圏域ニーズ調査』..... 205

調査票見本『在宅介護実態調査』..... 217

調査票見本『介護サービス事業所調査』..... 225

調査票見本『介護支援専門員調査』..... 237

Ⅰ　調査の概要

１　調査目的

本調査は、令和３年度を初年度とする「第９次木津川市高齢者福祉計画・第８期木津川市介護保険事業計画」を策定するにあたり、市民の現在の心身の状況や、介護保険制度・高齢者福祉サービスに対する考えや意向などを把握するとともに、計画策定の基礎資料とすることを目的とする。

２　実施概要

	調査区分	
	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	在宅介護実態調査
（１）調査対象	令和２年１月１日現在で 65 歳以上の市民から無作為抽出	令和元年度、介護保険の更新申請又は変更申請等を行い、認定調査を受けた在宅の方から無作為抽出
（２）調査期間	令和２年１月２４日（金）～２月１０日（月）	
（３）調査方法	郵送配布・郵送回収	
（４）配布数	２，０００ 件	９００ 件
（５）有効回収数 ［有効回収率］	１，２３７ 件 ［ ６１．９％ ］	４６３ 件 ［ ５１．４％ ］

	調査区分	
	介護サービス事業所調査	介護支援専門員調査
（１）調査地域	木津川市全域	
（２）調査対象	市内に拠点を置く 介護サービス事業所運営法人	市内の事業所に勤務する 介護支援専門員
（３）抽出方法	全数	全数
（４）配布数	８２ 件	５１ 件
（５）有効回収数 ［有効回収率］	７３ 件 ［ ８９．０ ％ ］	４０ 件 ［ ７８．４ ％ ］
（６）調査方法	郵送配布・郵送回収（介護支援専門員調査は所属する事業所のアンケートに同梱）	
（７）調査期間	令和２年１月２４日（金）～ ２月１０日（月）	

３ 報告書の見方

（１）図表中の「ｎ（number of case)」は、有効標本数（集計対象者総数）を表している。

（２）回答結果の割合「%」は有効標本数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第２位で四捨五入したものである。そのため、単一回答であっても合計値が 100.0%にならない場合がある。また、項目同士を合算する際は、回答実数を合算した上で割合を算出しているため、図表上の数値（割合）を合算した値と異なる場合がある。

（３）複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示している。そのため、合計が 100.0%を超える場合がある。

（４）図表中に以下の表示がある場合は、複数回答を依頼した質問を示している。

- ＭＡ ％（Multiple Answer）：回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合
- ５ＬＡ％（5 Limited Answer）：回答選択肢の中からあてはまるものを５つ以内で選択する場合
- ３ＬＡ％（3 Limited Answer）：回答選択肢の中からあてはまるものを３つ以内で選択する場合

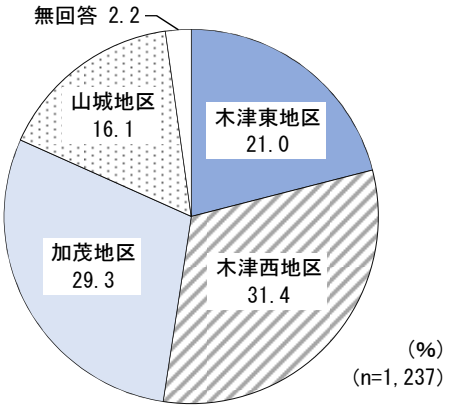
※特に断りがない限り、単一回答（回答選択肢の中からあてはまるものを１つだけ選択する）形式の設問である。

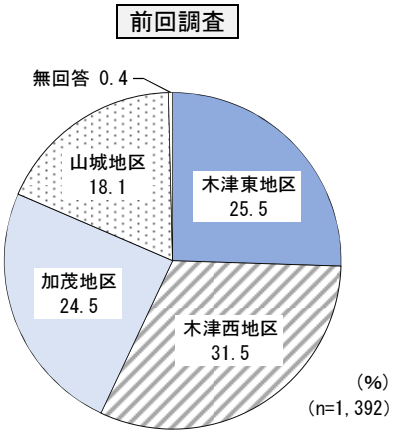
Ⅱ　調査結果

Ⅱ-１　介護予防･日常生活圏域ニーズ調査

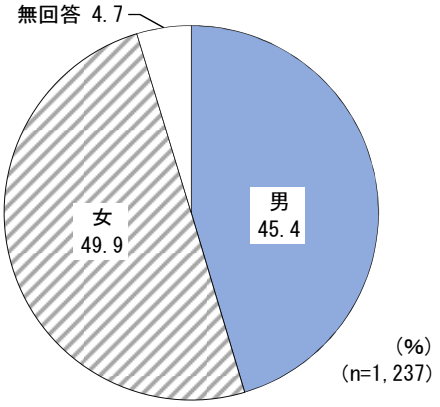
1　調査対象者の属性

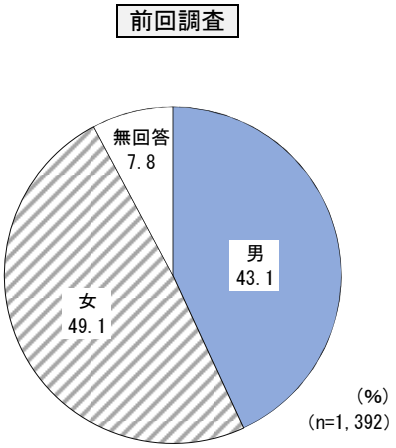
（1）住まい（居住地区）



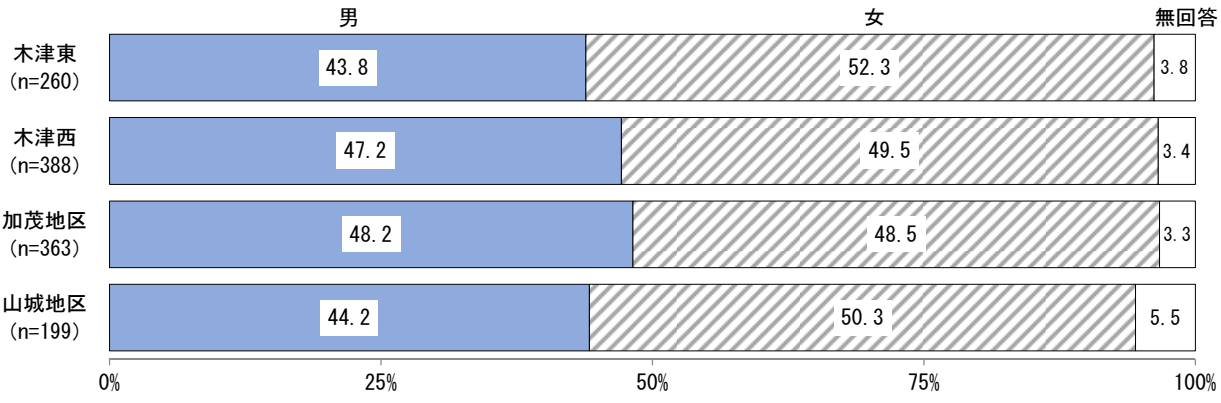


（2）性別

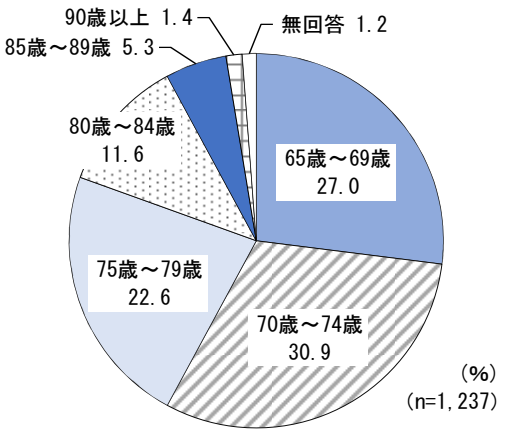


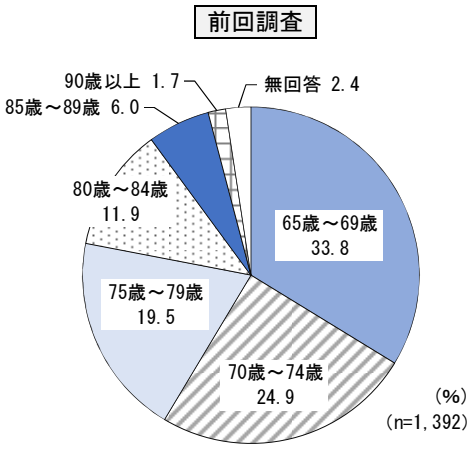


【居住地区別　性別】

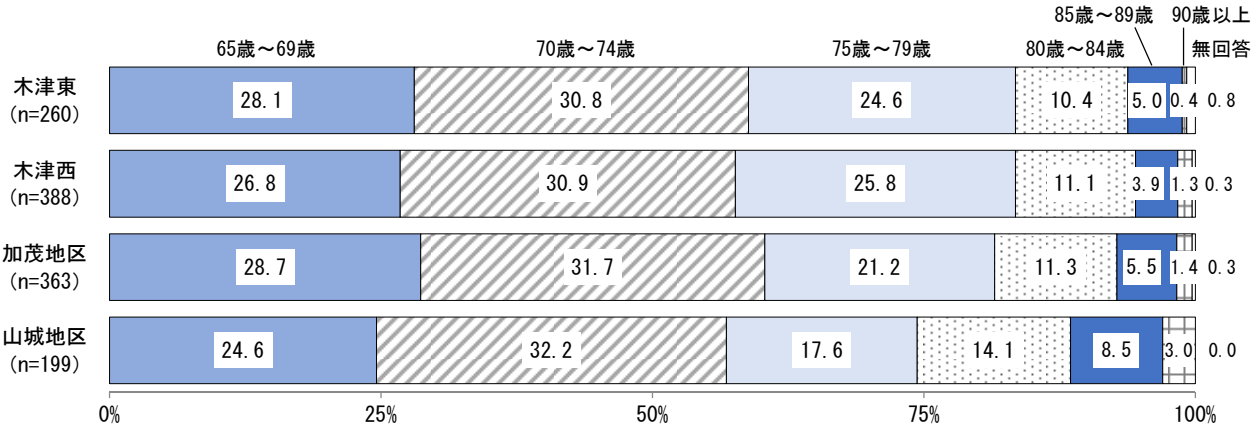


（３）年齢

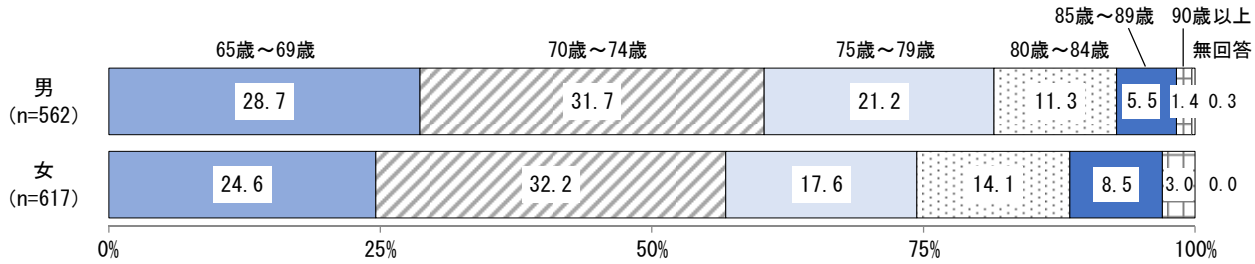




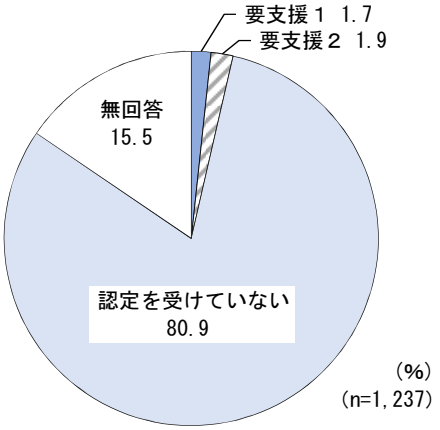
【居住地区別　年齢】

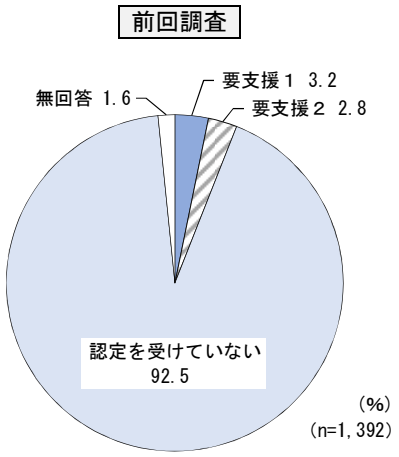


【性別　年齢】

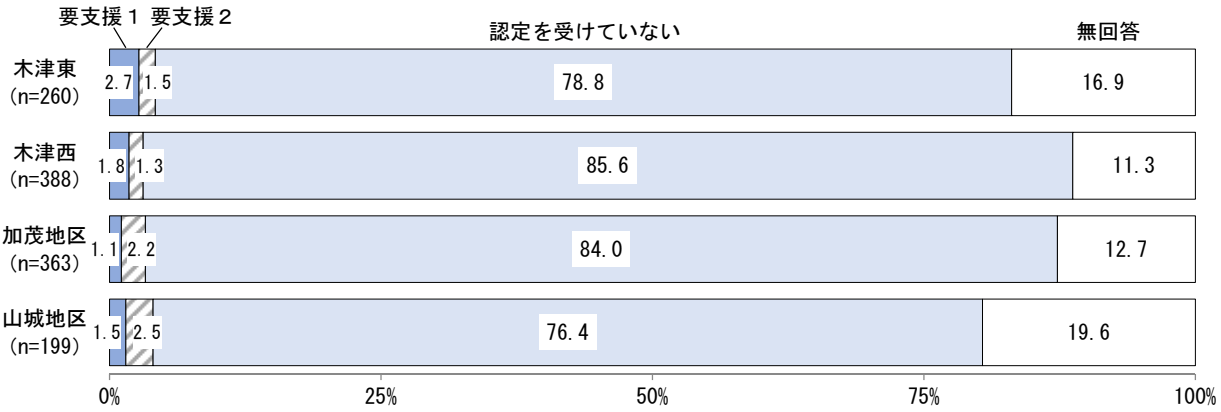


（４）要介護認定の有無

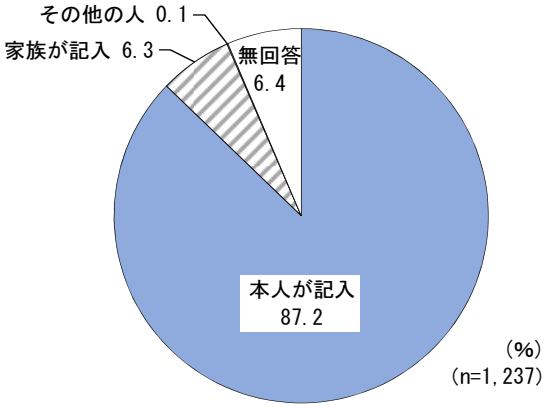


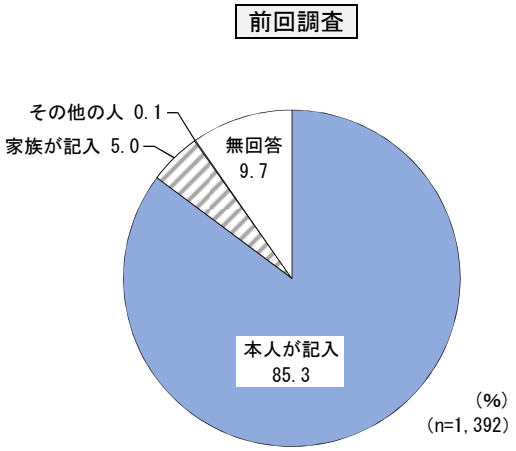


【居住地区別　要介護認定の有無】



（５）記入者



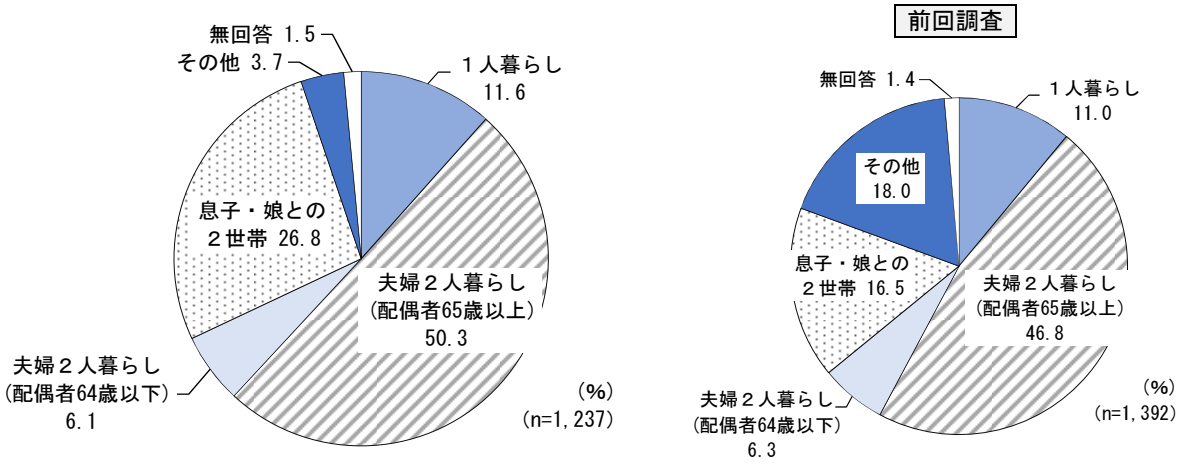


2　家族や生活状況について

（１）家族構成

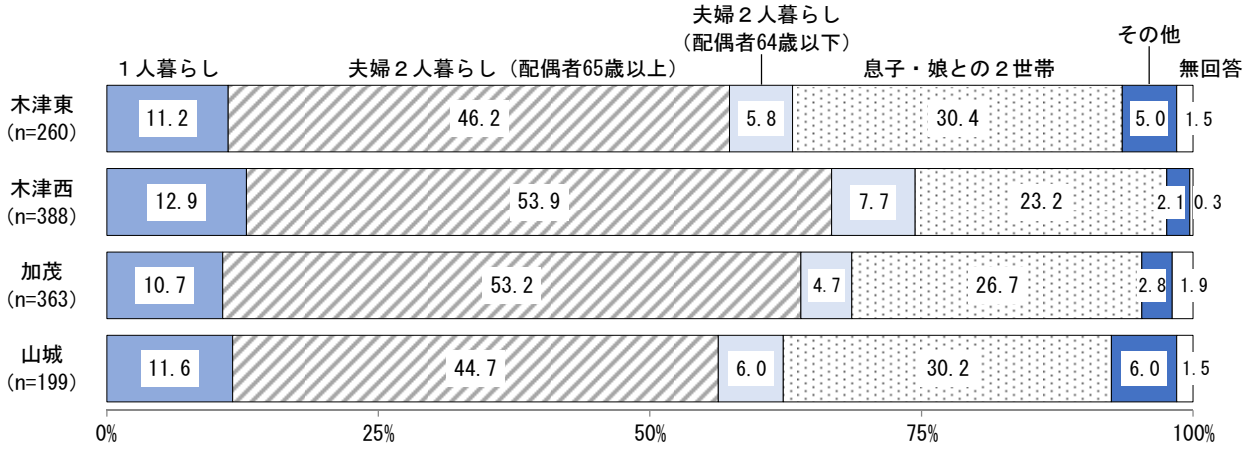
問 1(1)　家族構成をお教えください

家族構成としては、「夫婦２人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が 50.3%と最も多く、前回調査(46.8%)から 3.5 ポイント増えている。これに続くのが、「息子・娘との２世帯」で 26.8%、「１人暮らし」で 11.6%となっている。



居住地区別にみると、「１人暮らし」はいずれの地区も１割台となっている。また、「夫婦２人暮らし（配偶者 65 歳以上)」が木津西地区で 53.9%、加茂地区で 53.2%、「息子・娘との２世帯」が木津東地区で 30.4%、山城地区で 30.2%と、それぞれ他の地区に比べて高い割合となっている。

【居住地区別　家族構成】

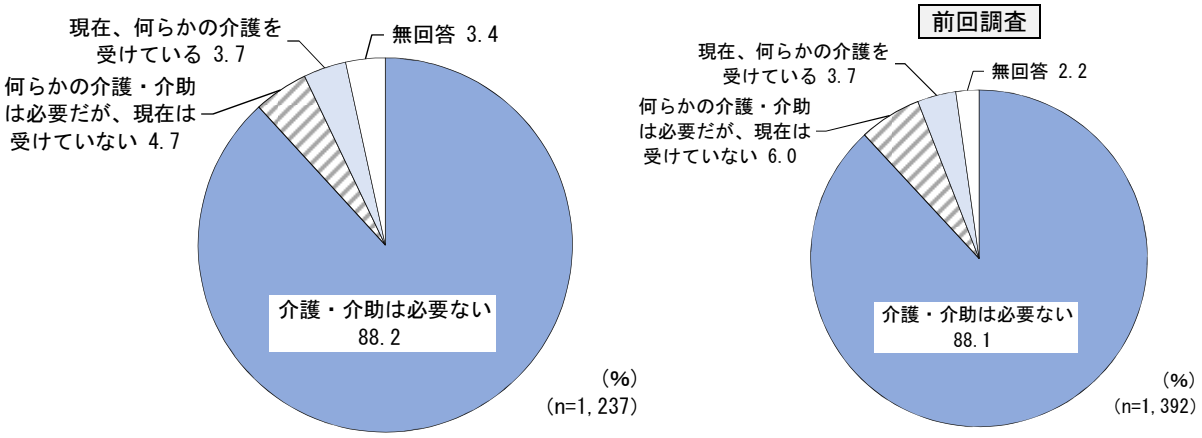


（２）介護・介助の状況

①介護・介助の必要性

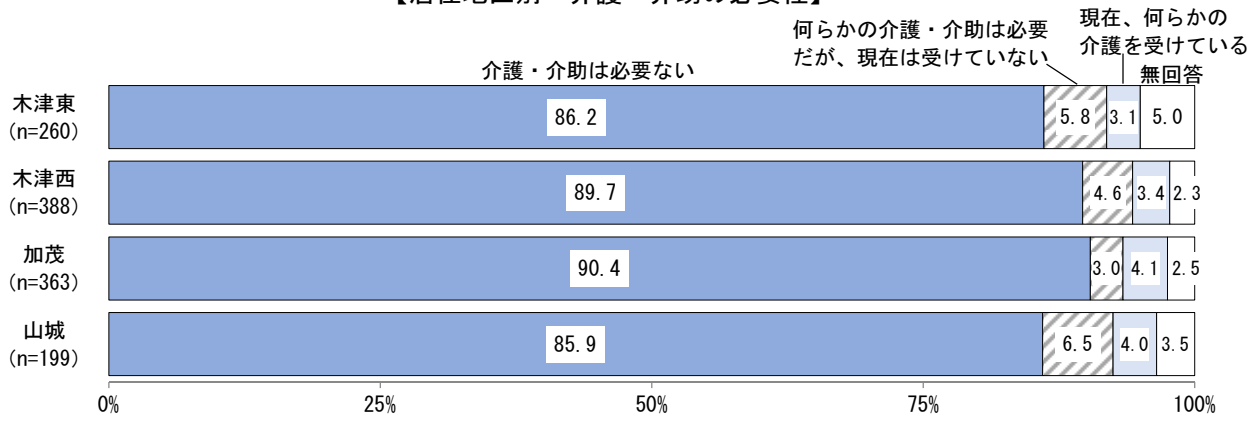
問 1(2)　あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか

介護・介助の必要性としては、「現在、何らかの介護を受けている」が 3.7%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が 4.7%となっており、合わせると、何らかの介護・介助が必要という割合が 8.4%みられ、前回調査（9.7%）から 1.3 ポイント減っている。



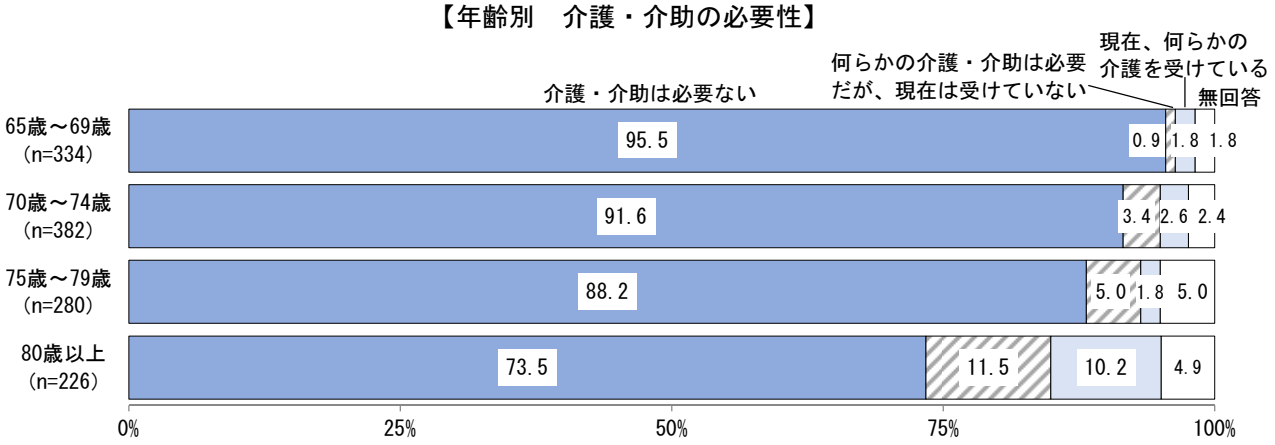
居住地区別にみると、介護・介助が必要という割合はいずれの地区も 1 割前後となっており、山城地区で 10.5%と最も高い。

【居住地区別　介護・介助の必要性】



年齢別にみると、介護・介助が必要という割合が、79 歳以下では 1 割未満に対し、80 歳以上では 2 割台（21.7%）みられる。

【年齢別　介護・介助の必要性】



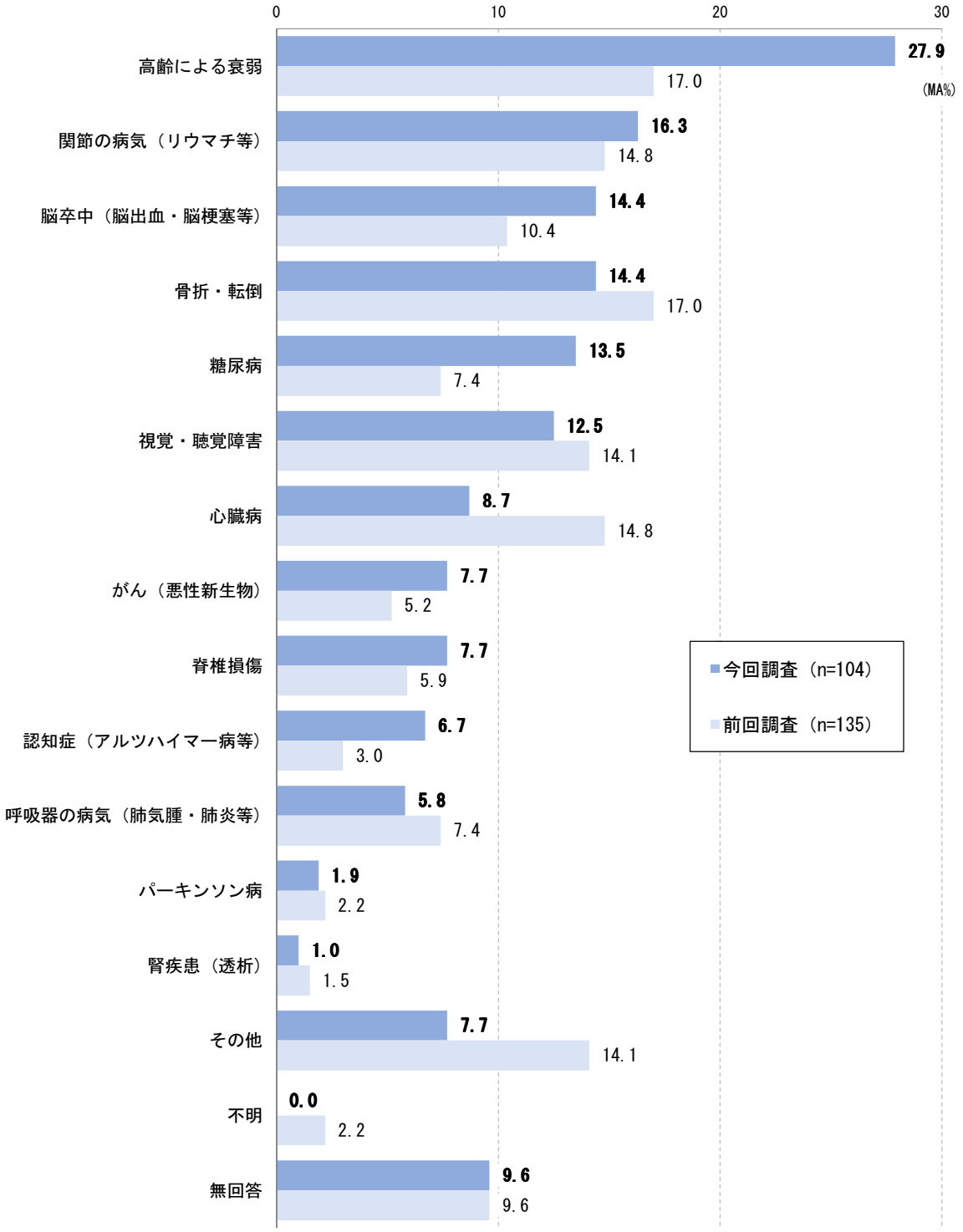
②介護・介助が必要になった原因

【問１(2)で何らかの介護・介助が必要と回答の方のみ】

問１(2)① 介護・介助が必要になった主な原因は何ですか（いくつでも）

介護・介助が必要になった原因としては、「高齢による衰弱」が 27.9%と最も多く、次いで「関節の病気（リウマチ等）」が 16.3%、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」、「骨折・転倒」がともに 14.4%、「糖尿病」が 13.5%となっている。

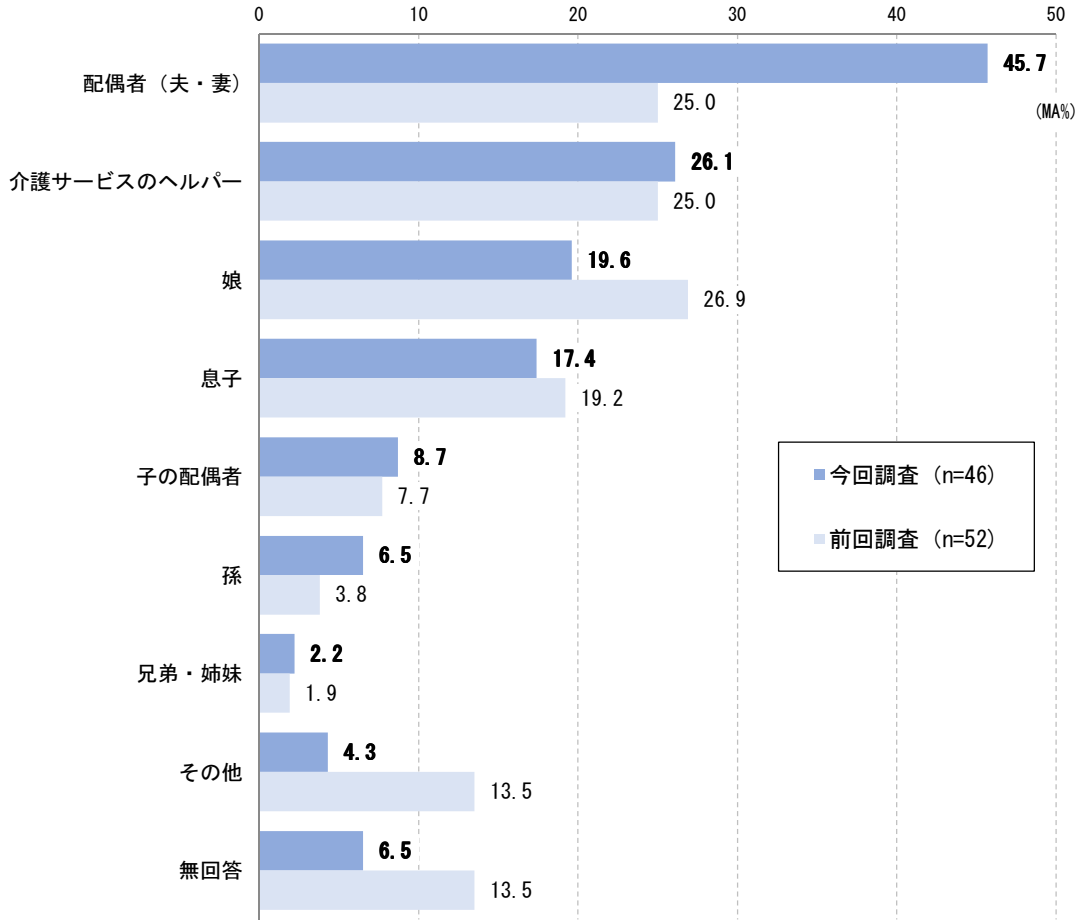
前回調査と比べると、「高齢による衰弱」（前回 17.0%）が 10.9 ポイント増、「糖尿病」（前回 7.4%）が 6.1 ポイント増に対し、「心臓病」（今回 8.7%、前回 14.8%）は 6.1 ポイント減となっている。



③介護・介助者の続柄等

【問１⑵で「現在、何らかの介護を受けている」と回答の方のみ】
問１⑵② 主にどなたの介護、介助を受けていますか（いくつでも）

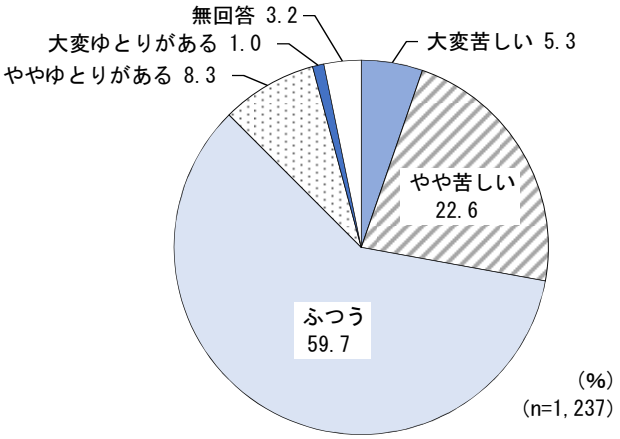
現在、何らかの介護を受けている人の介護・介助者としては、「配偶者（夫・妻）」が 45.7%と最も多く、前回調査（25.0%）から 20.7 ポイント増えている。これに続くのが、「介護サービスのヘルパー」で 26.1%、「娘」で 19.6%、「息子」で 17.4%となっている。

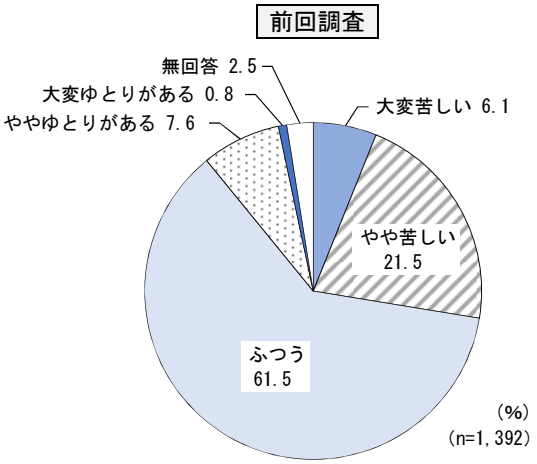


（３）暮らしの状況

問１(3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか

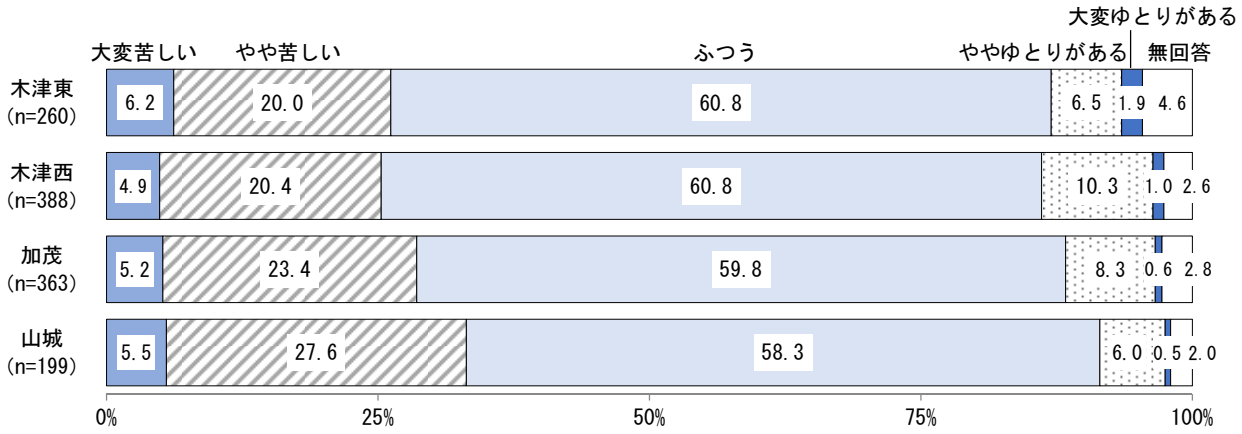
現在の暮らしの状況としては、「大変苦しい」が 5.3%、「やや苦しい」が 22.6%となっており、合わせると、経済的に苦しいという割合が３割近く（27.9%）みられ、前回調査（27.6%）と同程度となっている。





居住地区別にみると、経済的に苦しいという割合が、山城地区で 33.2%と最も高く、そのほかの地区ではいずれも２割台となっている。

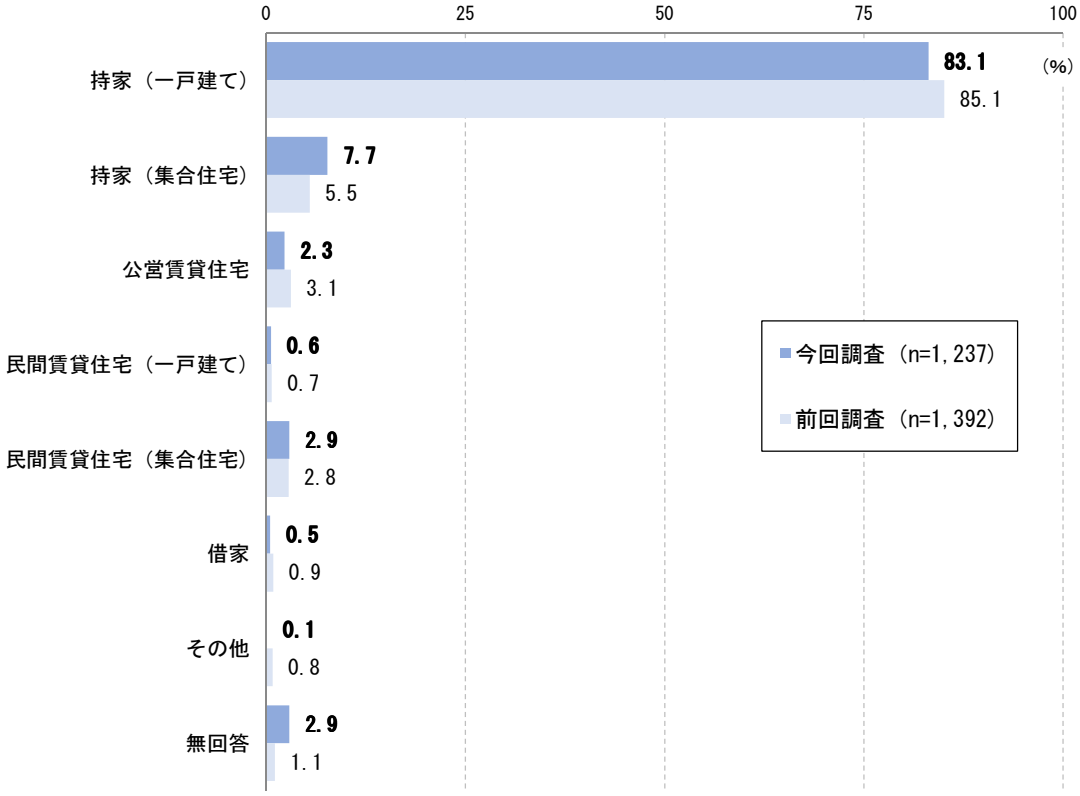
【居住地区別　暮らしの状況】



（４）住居形態

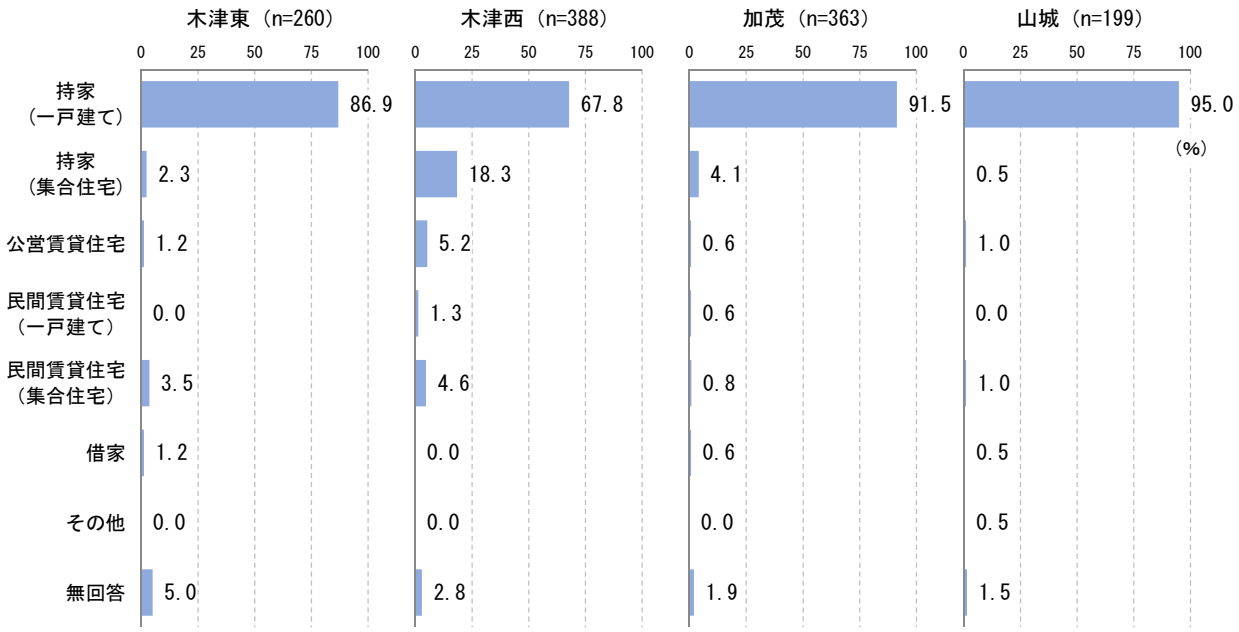
問 1(4) お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか

住居形態としては、「持家（一戸建て）」が８割台（83.1%）を占めており、前回調査（85.1%）と同程度となっている。



居住地区別にみると、いずれの地区も持家率（一戸建てまたは集合住宅）は８～９割台を占めており、木津西地区では「持家（集合住宅）」が 18.3%と、他の地区に比べて高くなっている。

【居住地区別　住居形態】

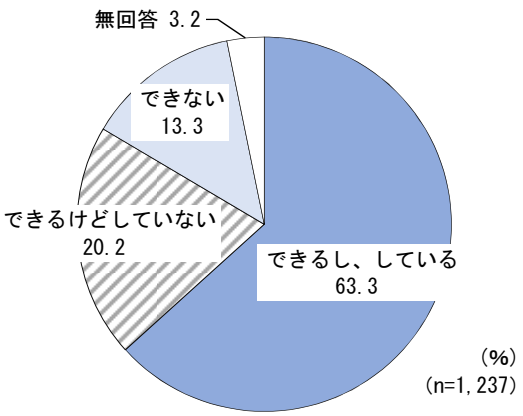


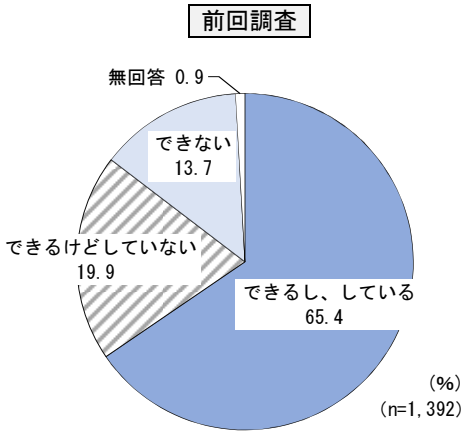
3　からだを動かすことについて

（１）運動機能の状況

問 2(1) 階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか

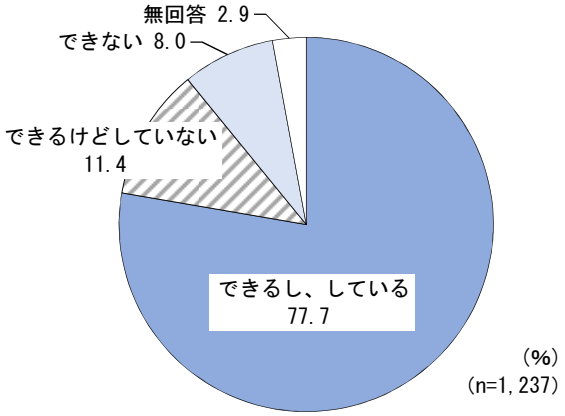
階段を手すりや壁をつたわらずに昇ることが「できない」は１割台（13.3%）となっている。

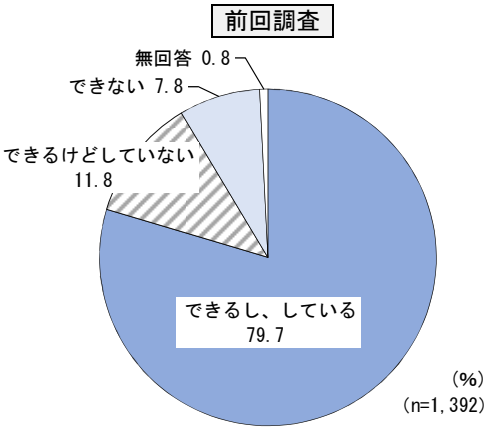




問 2(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか

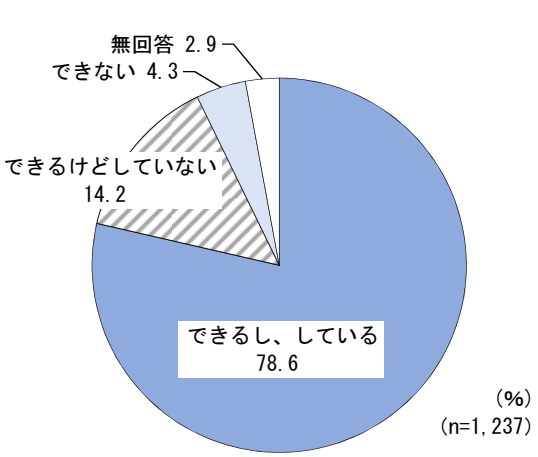
椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることが「できない」は 8.0%となっている。

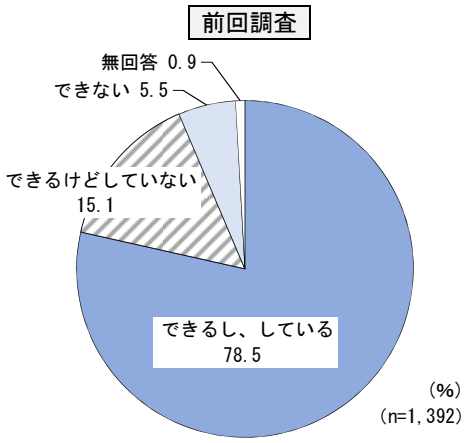




問 2(3) 15 分位続けて歩いていますか

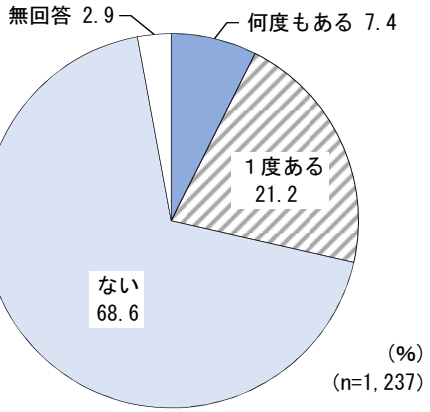
15 分位続けて歩くことが「できない」は 4.3%となっている。

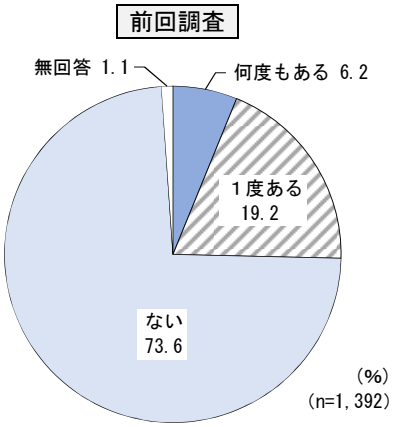




問 2(4) 過去１年間に転んだ経験がありますか

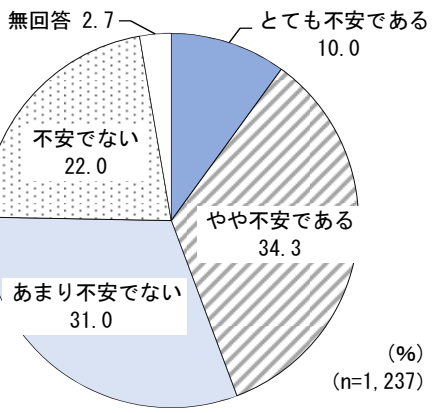
過去１年間に転んだ経験が「何度もある」が 7.4%、「１度ある」が 21.2%となっており、合わせると、転んだ経験があるという割合が３割弱（28.5%）みられる。

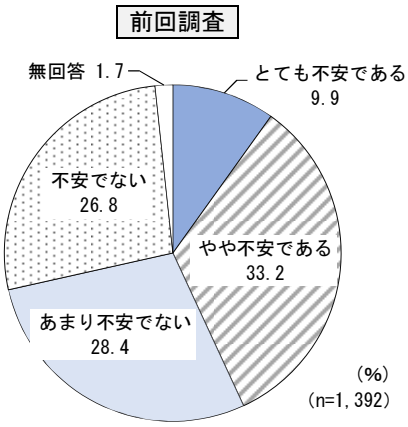




問 2(5) 転倒に対する不安は大きいですか

転倒に対して「やや不安である」が 34.3%と最も多く、「とても不安である」（10.0%）を合わせると、不安という割合が４割台（44.3%）となっている。



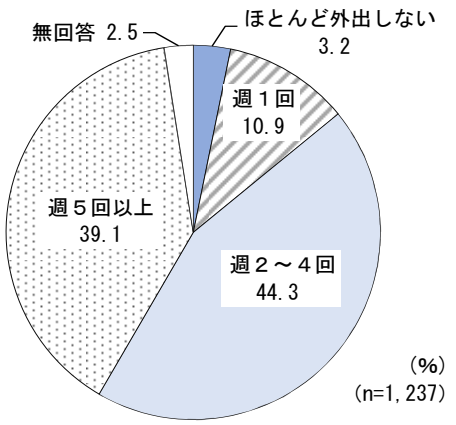


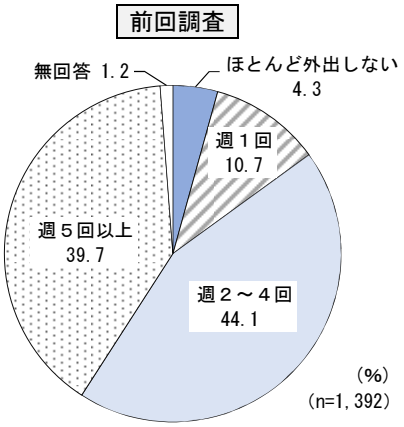
（２）外出の状況

①外出頻度

問 2(6) 週に１回以上は外出していますか

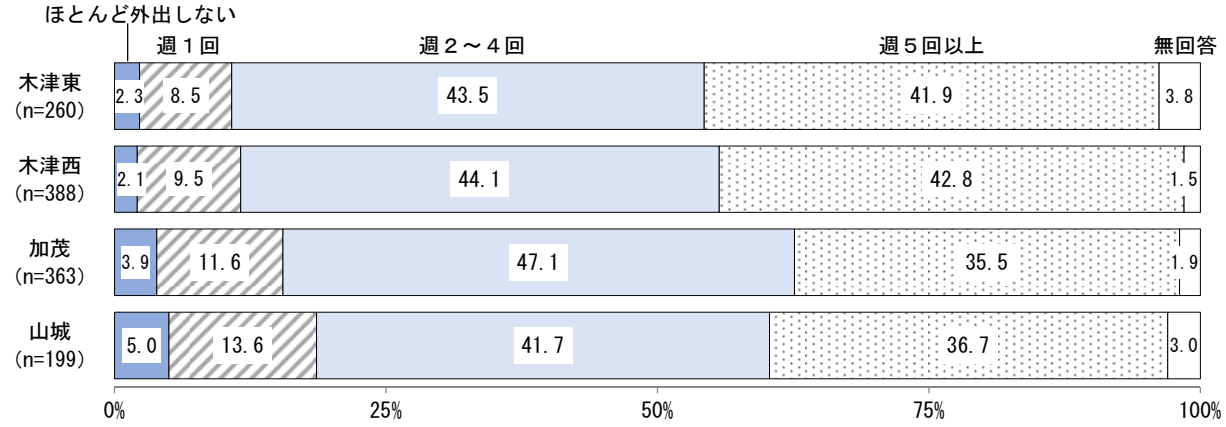
１週間あたりの外出の頻度としては、「週２～４回」が 44.3%と最も多くなっている。一方、週１回以下の割合は１割台（14.1%）みられ、前回調査（15.0%）と同程度となっている。





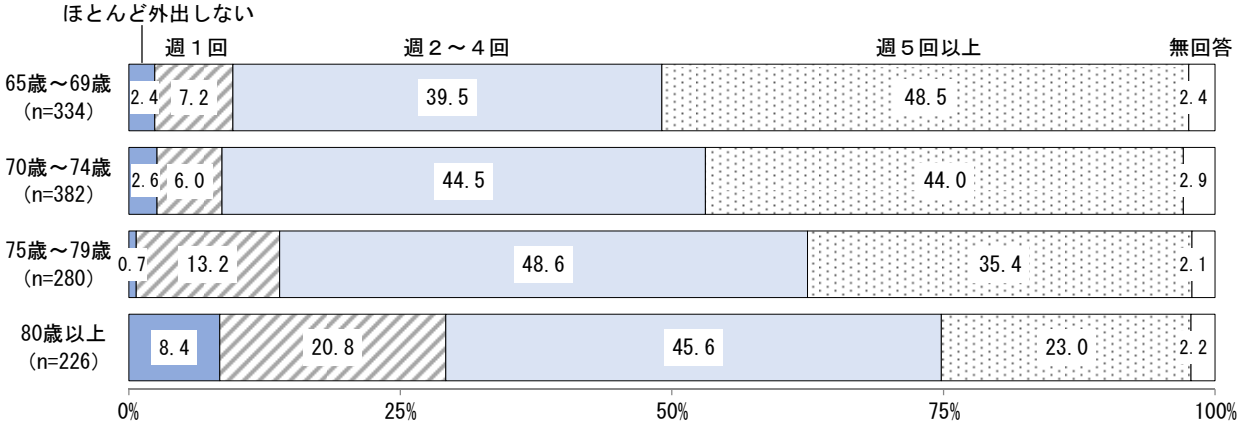
居住地区別にみると、週１回以下の割合が、山城地区で 18.6%と最も高く、次いで加茂地区で 15.4%となっている。

【居住地区別　外出頻度】



年齢別にみると、週１回以下の割合が、79 歳以下では１割前後に対し、80 歳以上では約３割(29.2%)みられる。

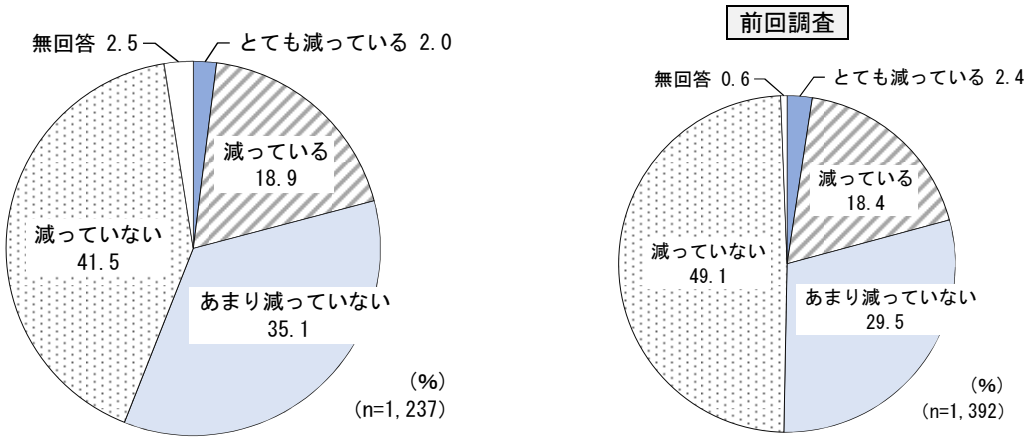
【年齢別　外出頻度】



②外出回数の減少度合い

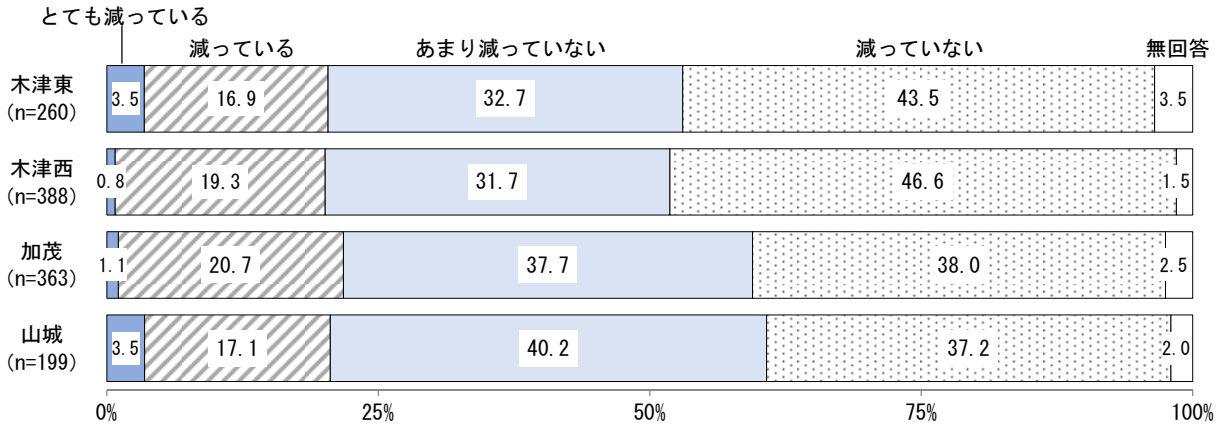
問 2(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか

昨年と比べて外出の回数が「とても減っている」が 2.0%、「減っている」が 18.9%となっており、合わせると、減っているという割合が約２割（20.9%）みられ、前回調査（20.8%）と同程度となっている。



居住地区別にみると、減っているという割合はいずれの地区も２割程度となっている。

【居住地区別　外出回数の減少度合い】

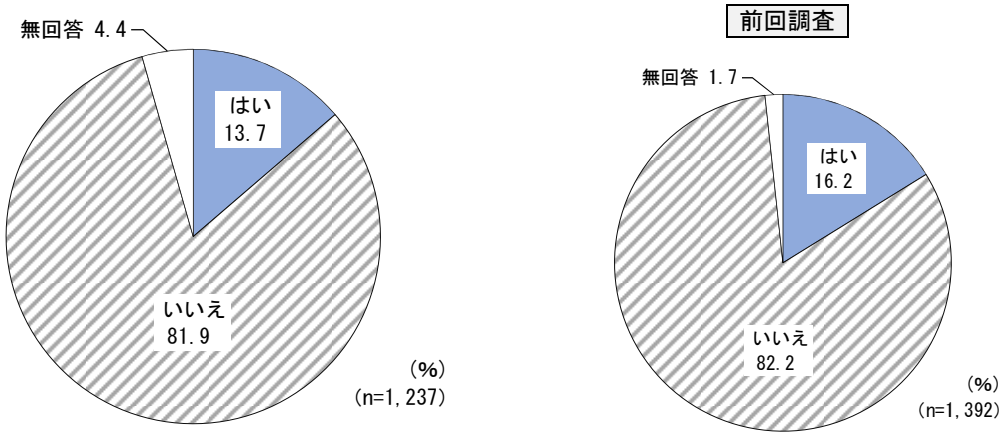


（３）外出控えの状況

①外出控えの有無

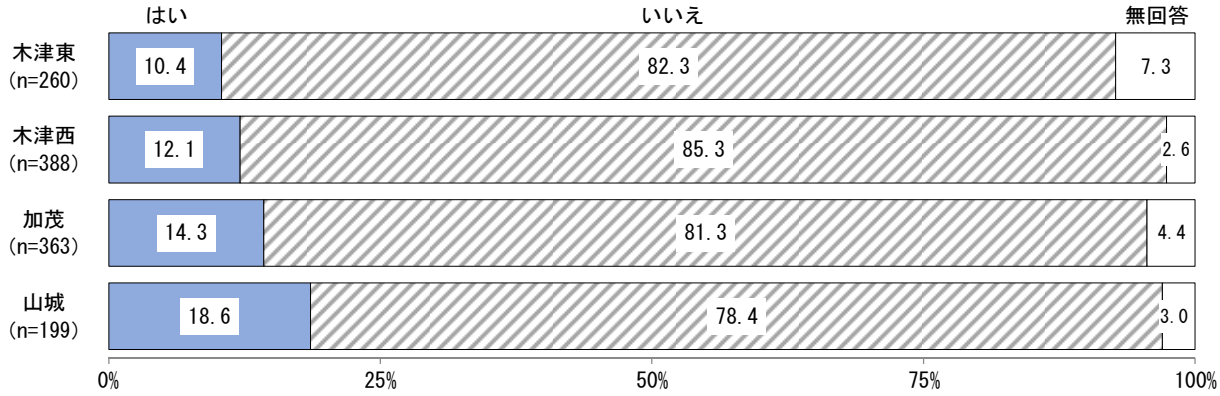
問 2(8) 外出を控えていますか

外出を控えているという割合（「はい」）は１割台（13.7%）となっており、前回調査（16.2%）から 2.5 ポイント減っている。



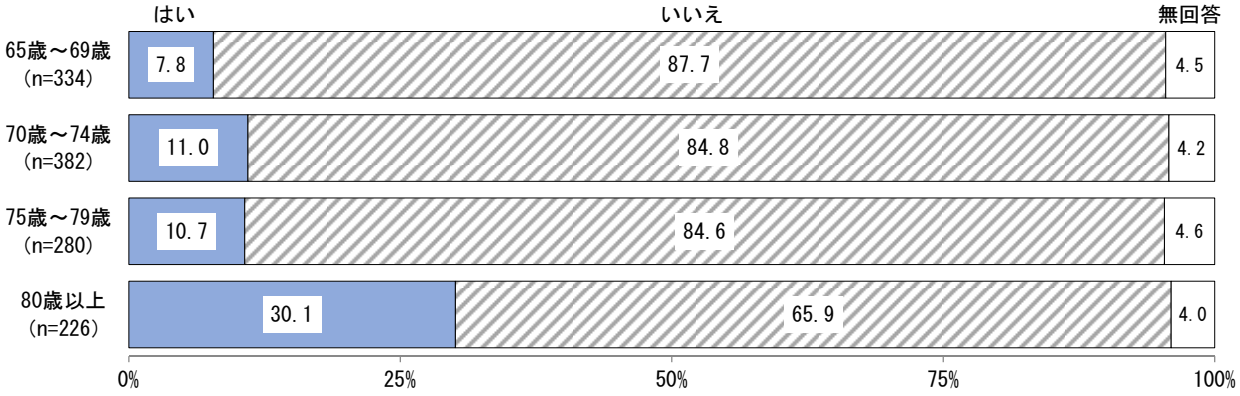
居住地区別にみると、外出を控えているという割合が、山城地区で 18.6%と最も高く、次いで加茂地区で 14.3%となっている。

【居住地区別　外出控えの有無】



年齢別にみると、外出を控えているという割合が、79 歳以下では１割前後に対し、80 歳以上では約３割（30.1%）みられる。

【年齢別　外出控えの有無】

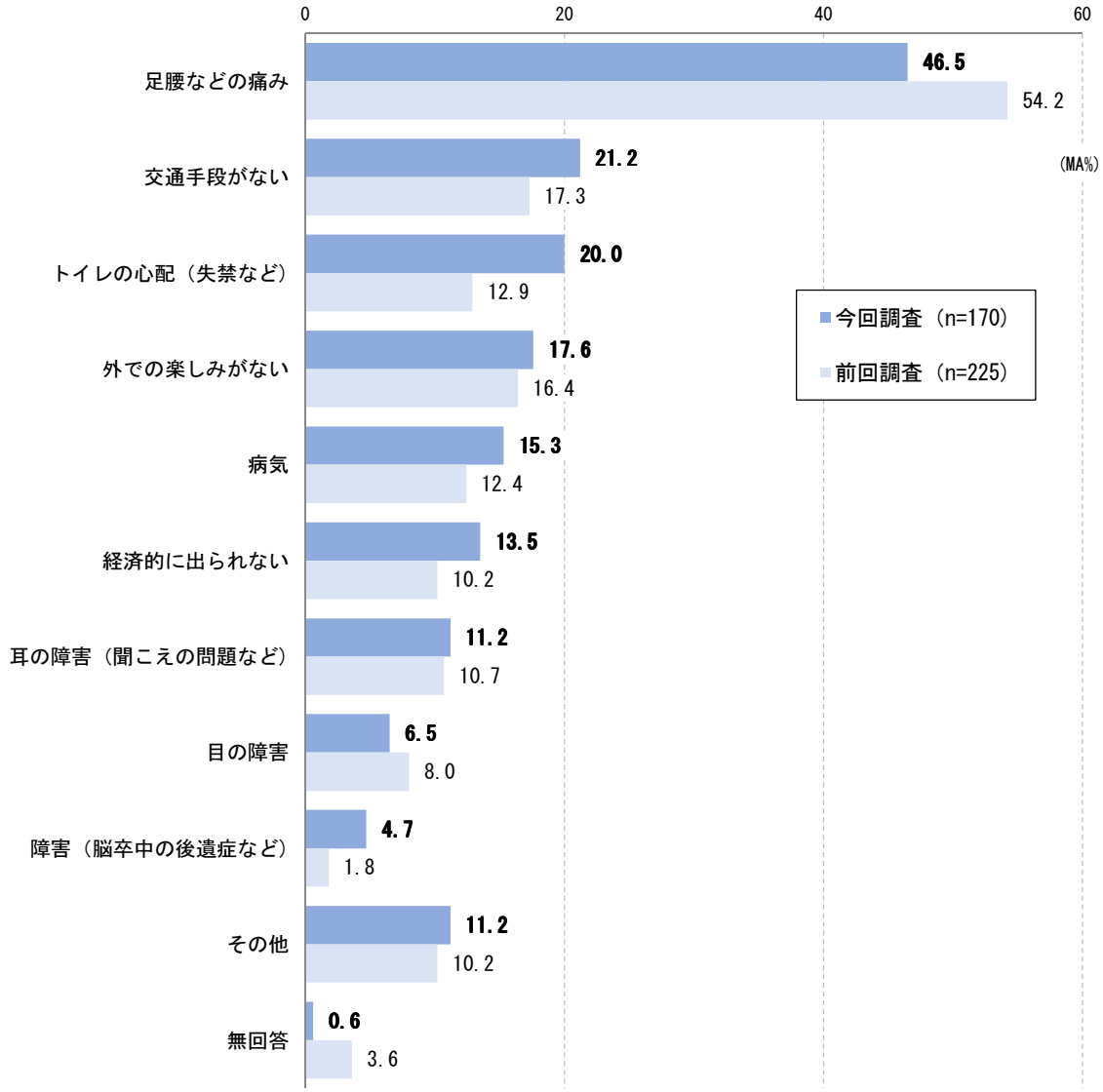


②外出を控えている理由

【問 2(8)で「はい」と回答の方のみ】

問 2(8)① 外出を控えている理由は、次のどれですか（いくつでも）

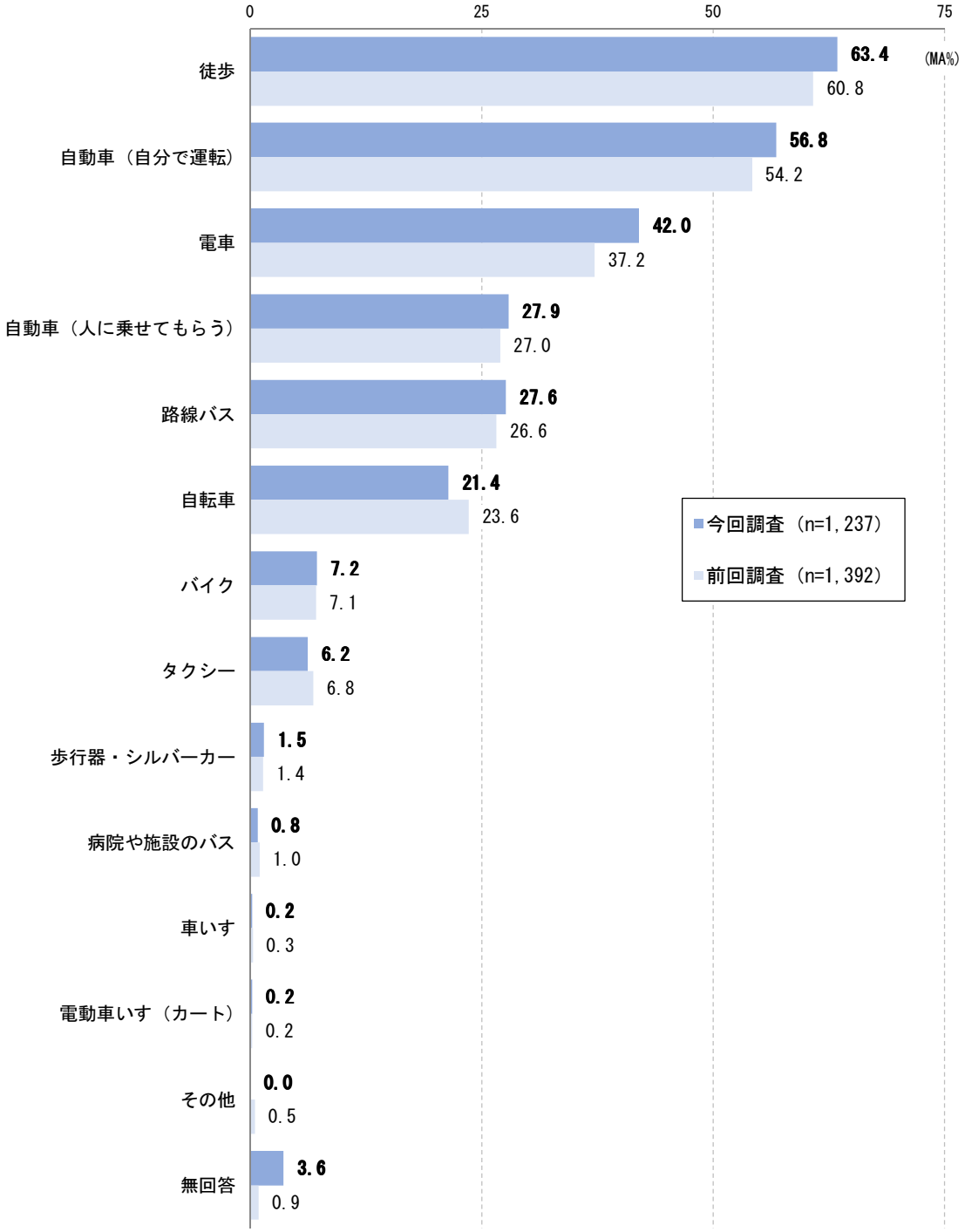
外出を控えているという人の理由としては、「足腰などの痛み」が 46.5%と最も多くなっているものの、前回調査（54.2%）からは 7.7 ポイント減っている。これに続くのが、「交通手段がない」で 21.2%、「トイレの心配（失禁など）」で 20.0%、「外での楽しみがない」で 17.6%となっている。



（４）移動手段

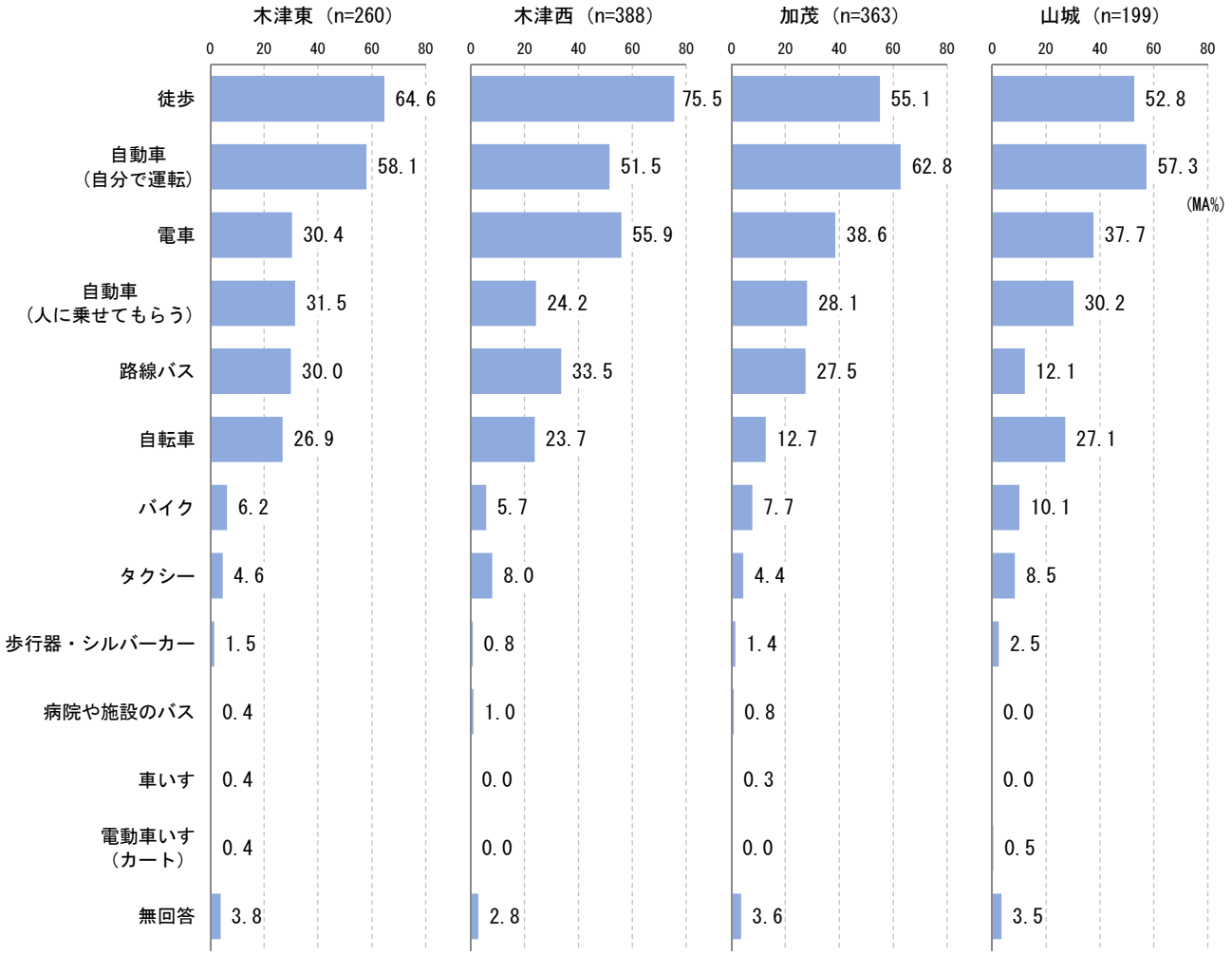
問 2(9) 外出する際の移動手段は何ですか（いくつでも）

外出する際の移動手段としては、「徒歩」が 63.4%と最も多く、次いで「自動車（自分で運転）」が 56.8%、「電車」が 42.0%、「自動車（人に乗せてもらう）」が 27.9%、「路線バス」が 27.6%となっており、前回調査と同じ傾向となっている。



居住地区別にみると、いずれの地区も「自動車（自分で運転)」が５～６割台、「自動車（人に乗せてもらう)」が２～３割台みられるが、木津西地区ではともに最も低い割合となっており、「電車」が 55.9%、「路線バス」が 33.5%と、木津西でそれぞれ最も高い。また、「路線バス」が山城地区で 12.1%と、他の地区に比べて低い割合となっている。

【居住地区別　移動手段】

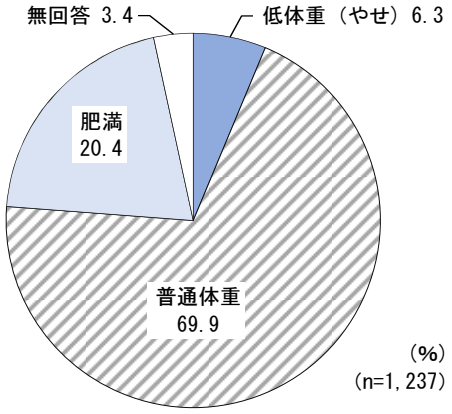


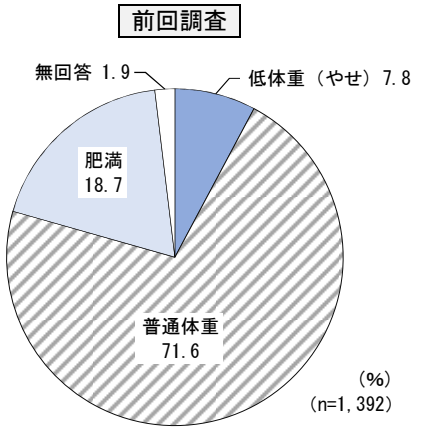
4　食べることについて

（1）ＢＭＩ

問 3(1)　身長・体重

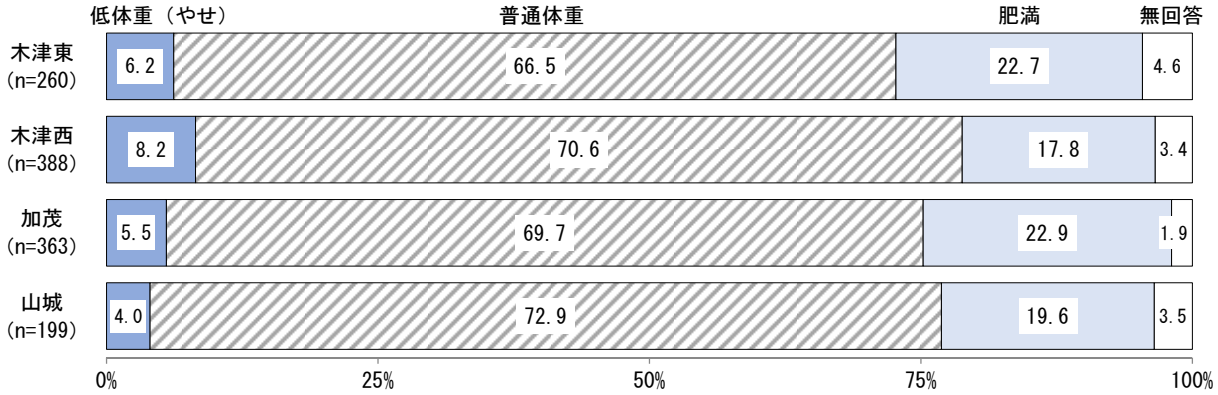
身長・体重から算出したＢＭＩ値をみると、「低体重（やせ）（BMI：18.5 未満）」が 6.3%、「肥満（BMI：25 以上）」が 20.4%となっており、前回調査と比べると、「低体重（やせ）」（前回 7.8%）が 1.5 ポイント減に対し、「肥満」（前回 18.7%）は 1.7 ポイント増となっている。





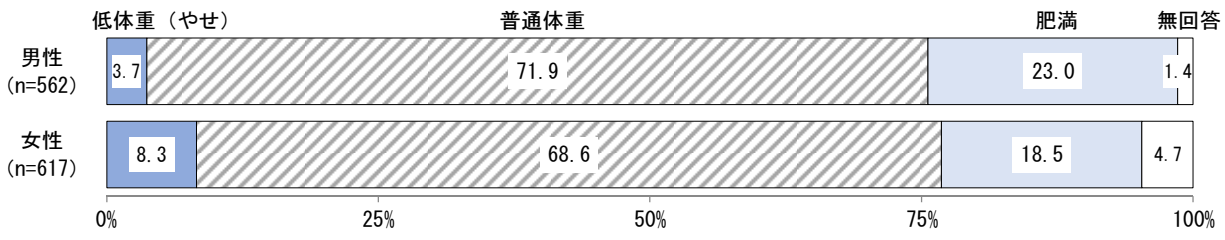
居住地区別にみると、「低体重（やせ）」が木津西地区で 8.2%、「肥満」が加茂地区で 22.9%、木津東地区で 22.7%と、それぞれ高くなっている。

【居住地区別　ＢＭＩ】



性別にみると、「低体重（やせ）」は女性（8.3%）、「肥満」は男性（23.0%）のほうが、それぞれ高くなっている。

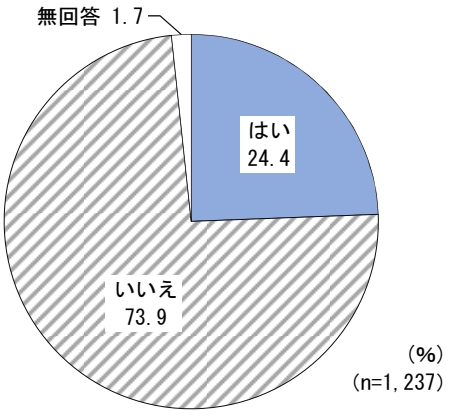
【性別　ＢＭＩ】

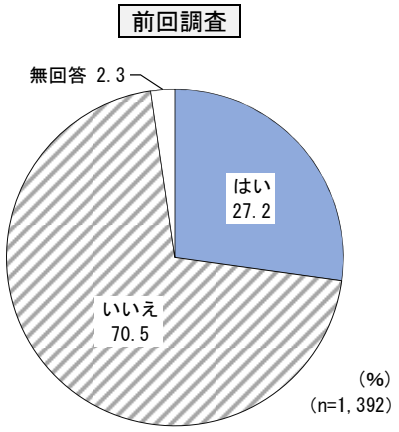


（２）口腔機能の状況

問 3(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか

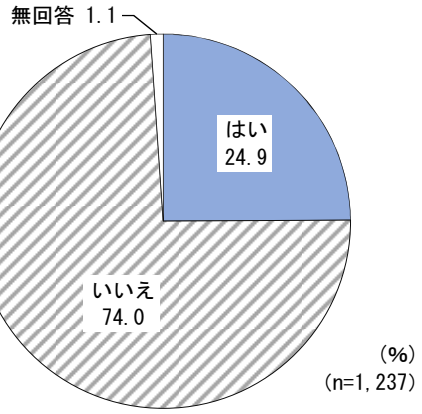
固いものが食べにくくなったという割合（「はい」）は２割台（24.4%）となっている。

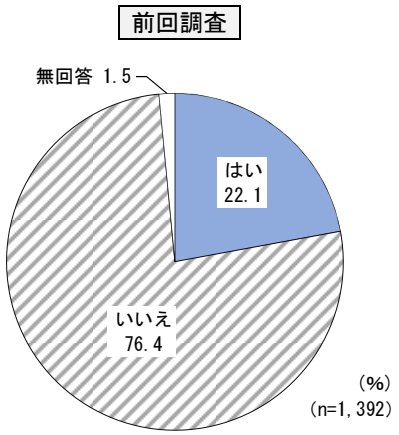




問 3(3) お茶や汁物等でむせることがありますか

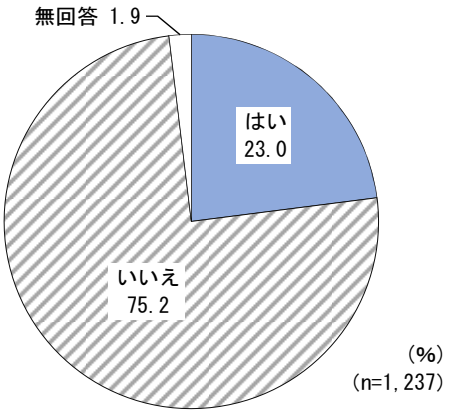
お茶や汁物等でむせることがあるという割合（「はい」）は２割台（24.9%）となっている。

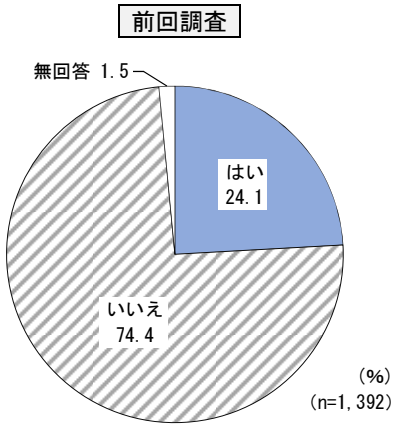




問 3(4) 口の渇きが気になりますか

口の渇きが気になるという割合（「はい」）は２割台（23.0%）となっている。

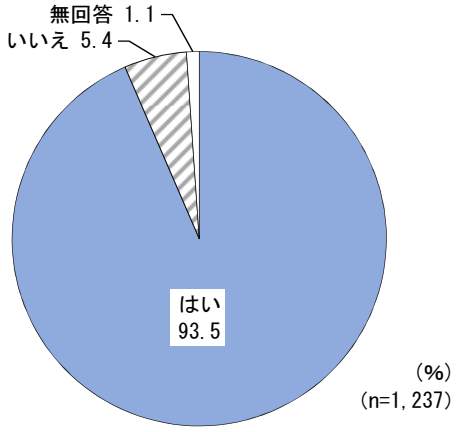


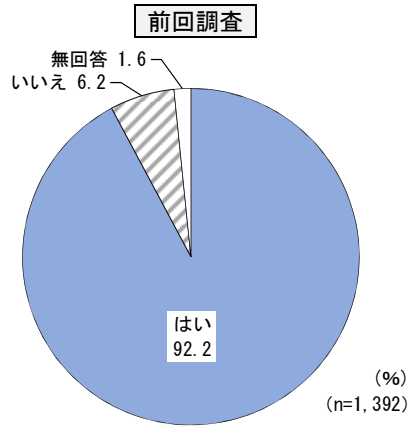


（３）口腔ケアの状況

問 3(5) 歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか

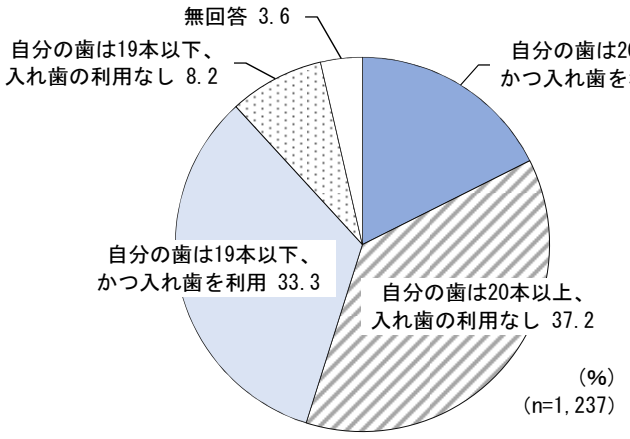
歯磨きを毎日しているという割合（「はい」）は９割台（93.5%）となっている。

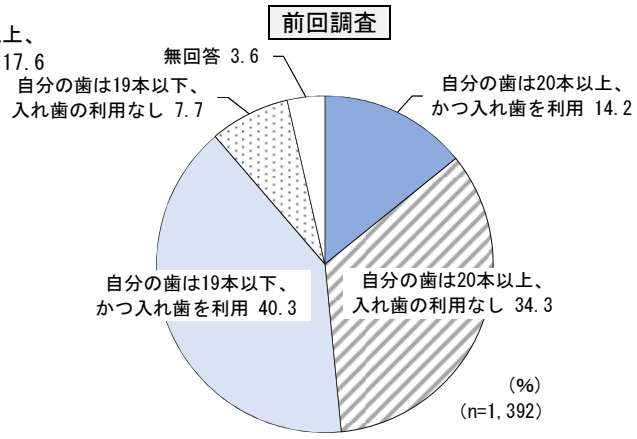




問 3(6) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えください

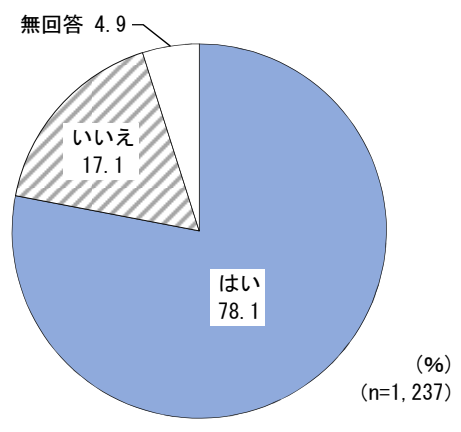
歯の数と入れ歯の利用状況としては、「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」が 37.2%と最も多く、次いで「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」が 33.3%となっている。

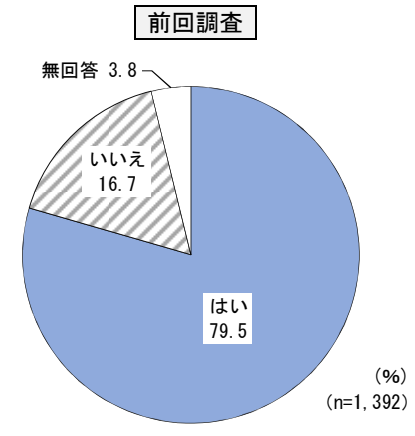




問 3(6)① 噛み合わせは良いですか

噛み合わせは良いという割合（「はい」）は、８割弱（78.1%）となっている。

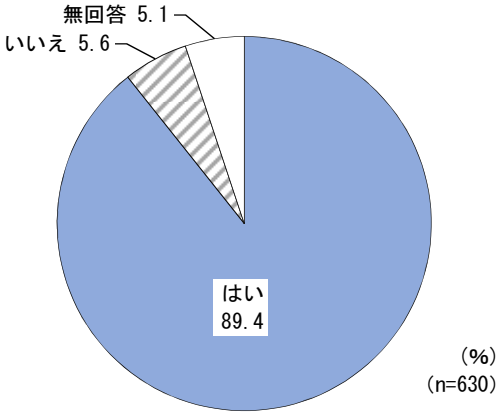


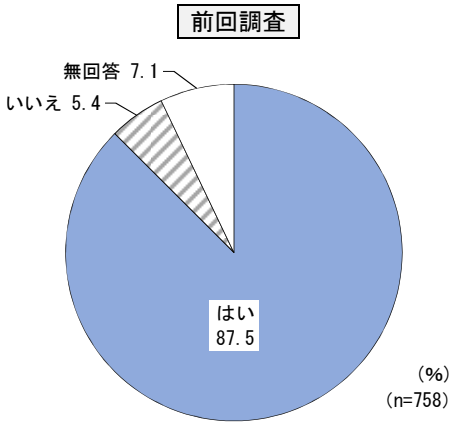


【問 3(6)で入れ歯を利用していると回答の方のみ】

問 3(6)② 毎日入れ歯の手入れをしていますか

入れ歯を利用している人のうち、毎日手入れをしているという割合（「はい」）は約９割（89.4%）となっている。

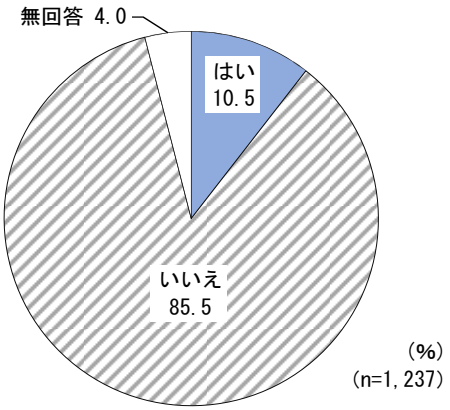


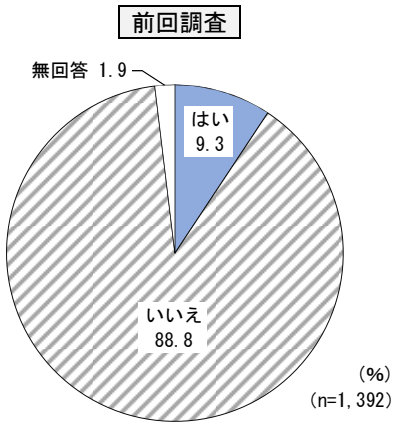


（４）体重減少の有無

問 3(7) ６か月間で２～３kg 以上の体体重減少がありましたか

６か月間で２～３kg 以上の体重減少があったという割合（「はい」）は約１割（10.5%）となっている。

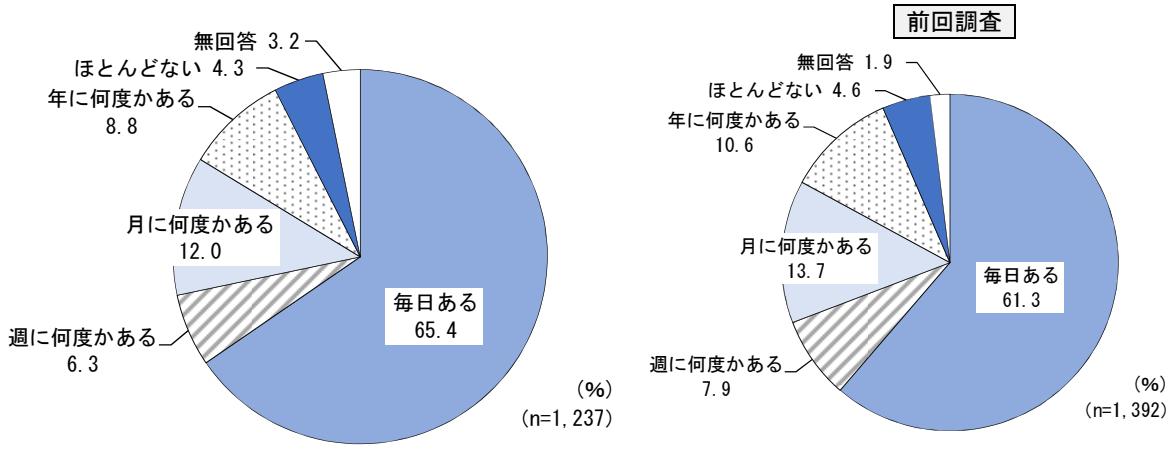




（５）共食の状況

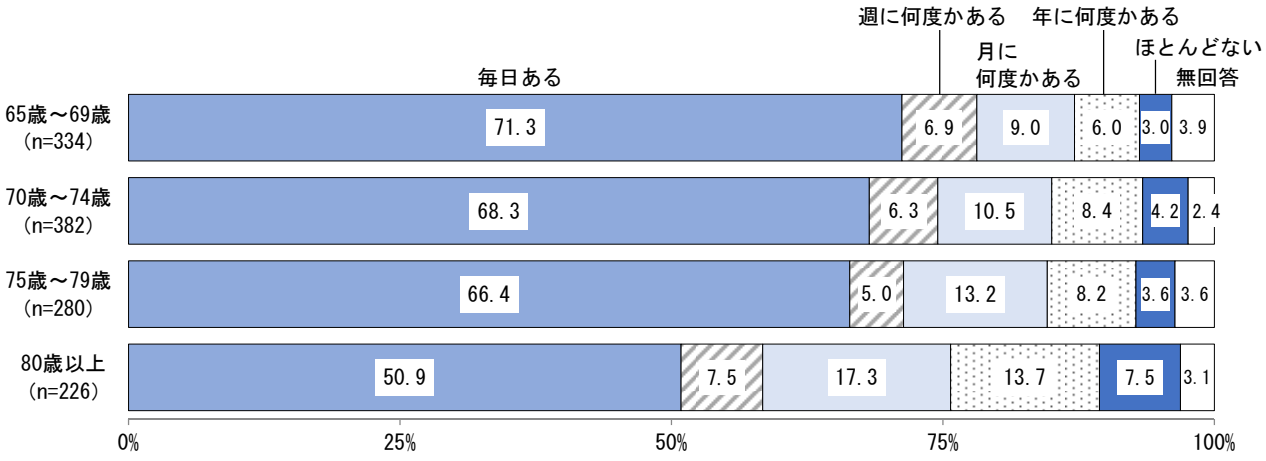
問 3(8) どなたかと食事をともにする機会はありますか

誰かと食事をともにする機会が「毎日ある」が６割台（65.4%）を占めている。一方、月に数回以下の割合（「月に何度かある」「年に何度かある」「ほとんどない」の計）は２割台（25.1%）みられ、前回調査（29.0%）から 3.9 ポイント減っている。



年齢別にみると、月に数回以下の割合は年齢が上がるにしたがって高くなる傾向にあり、80 歳以上では４割近く（38.5%）みられる。

【年齢別　共食の状況】

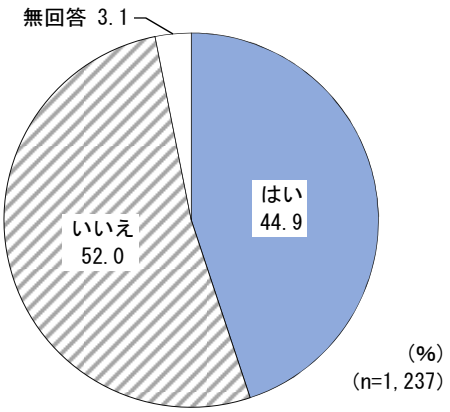


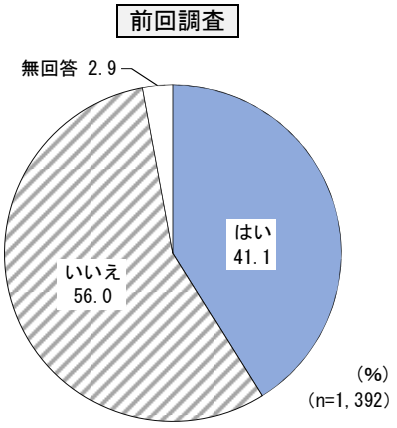
5　毎日の生活について

（１）認知機能の状況

問 4(1)　物忘れが多いと感じますか

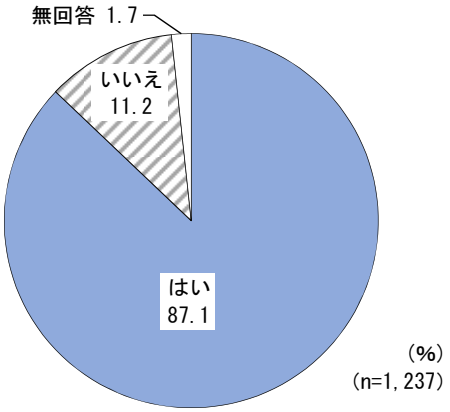
物忘れが多いと感じるという割合（「はい」）は４割台（44.9%）となっている。

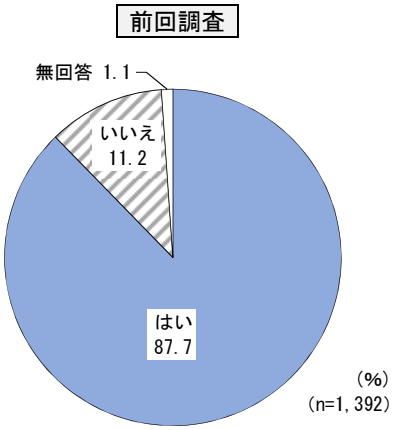




問 4(2)　自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか

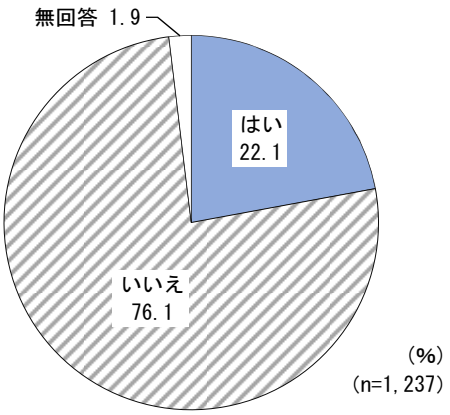
自分で電話番号を調べてかけることをしているという割合（「はい」）は８割台（87.1%）となっている。

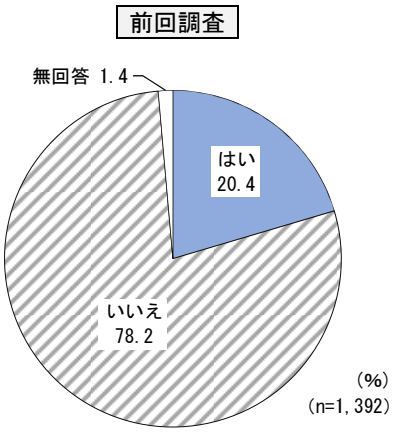




問 4(3)　今日が何月何日かわからない時がありますか

今日が何月何日かわからない時があるという割合（「はい」）は２割台（22.1%）となっている。

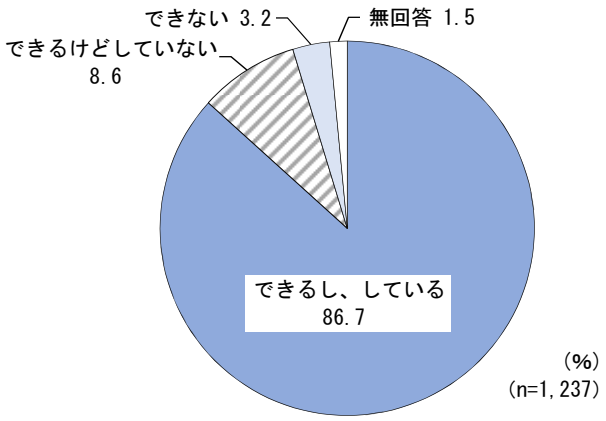


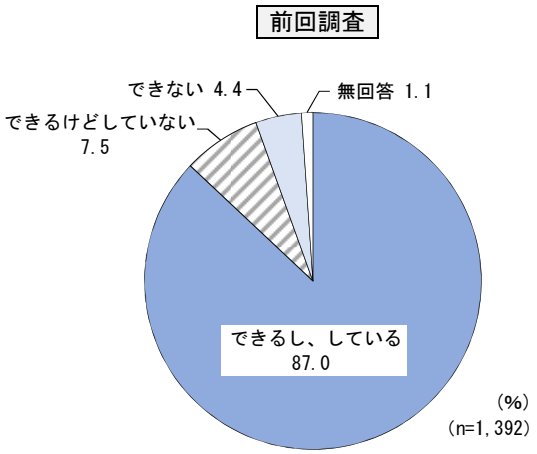


（２）手段的日常生活動作の状況

問 4(4) バスや電車を使って１人で外出していますか（自家用車でも可）

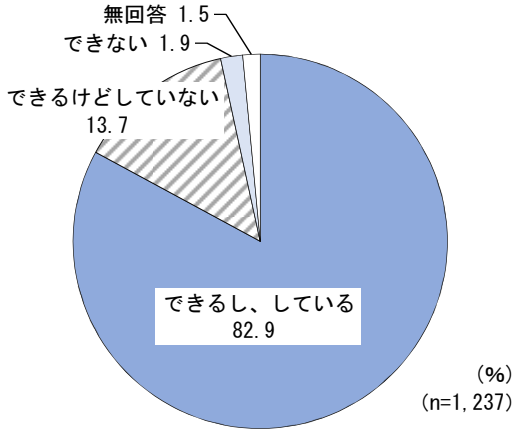
１人での外出が「できない」は 3.2%となっている。

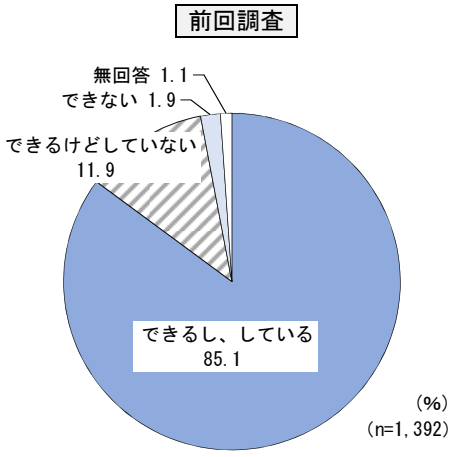




問 4(5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか

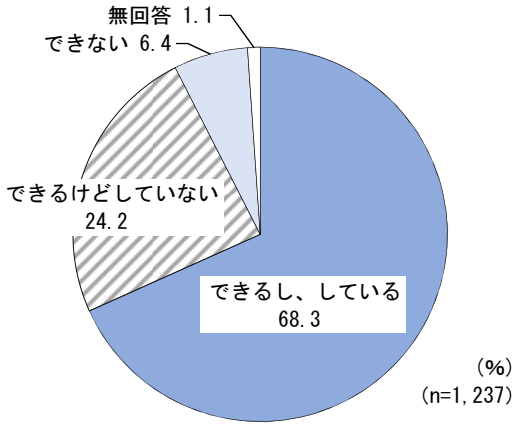
食品・日用品の買い物が「できない」は 1.9%となっている。

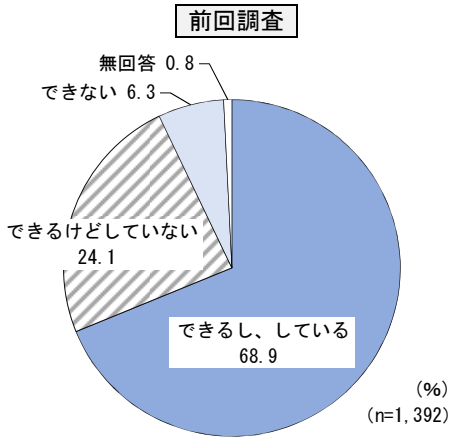




問 4(6) 自分で食事の用意をしていますか

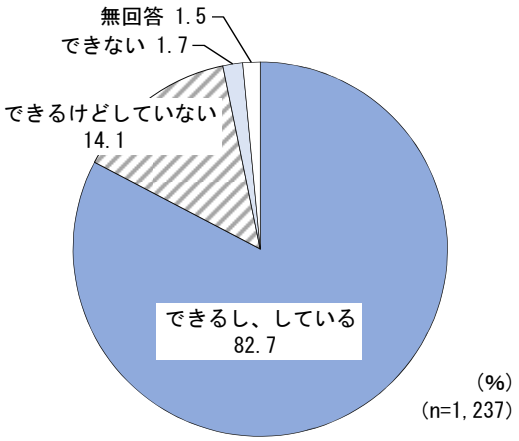
食事の用意が「できない」は 6.4%となっている。

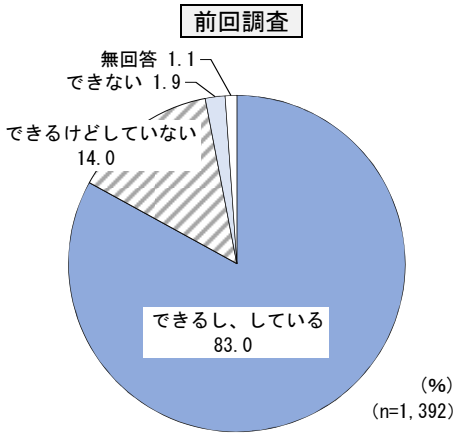




問 4(7) 自分で請求書の支払いをしていますか

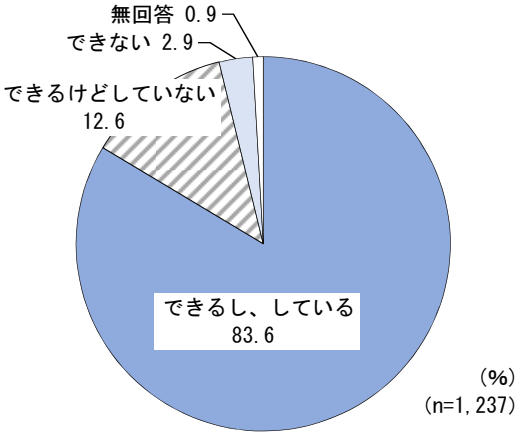
請求書の支払いが「できない」は 1.7%となっている。

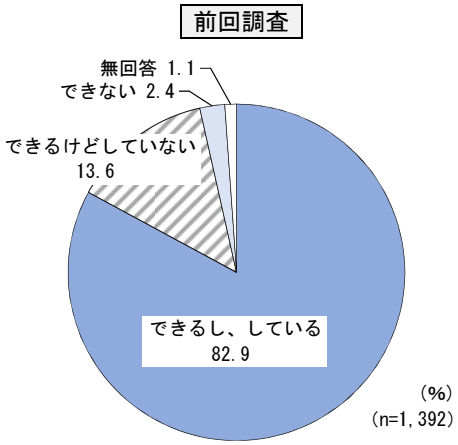




問 4(8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか

預貯金の出し入れが「できない」は 2.9%となっている。

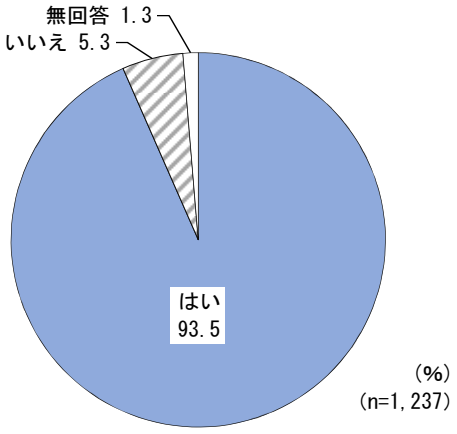


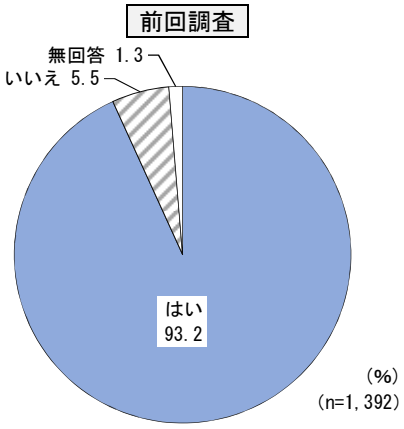


（３）知的能動性の状況

問 4(9) 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか

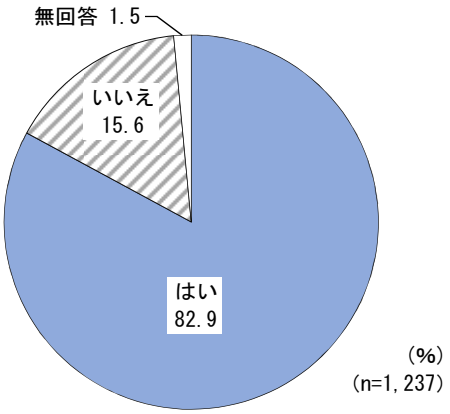
役所や病院などに出す書類が書けるという割合（「はい」）は９割台（93.5%）となっている。

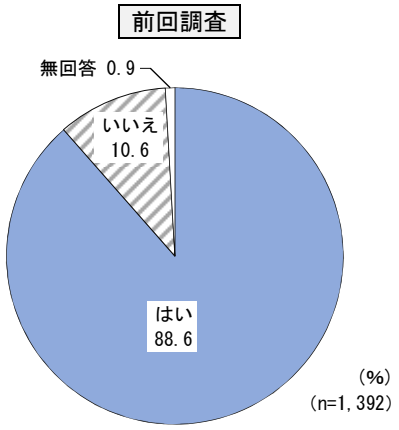




問 4(10) 新聞を読んでいますか

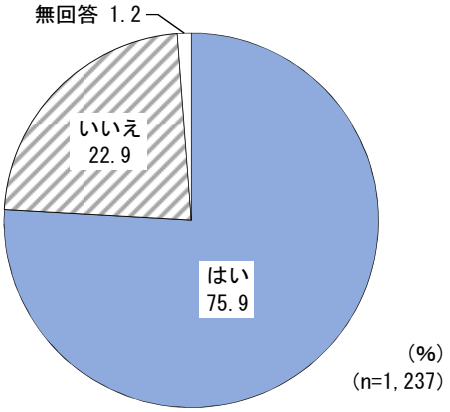
新聞を読んでいるという割合（「はい」）は８割台（82.9%）となっている。

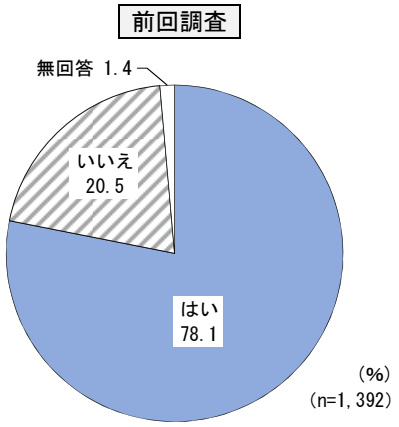




問 4(11) 本や雑誌を読んでいますか

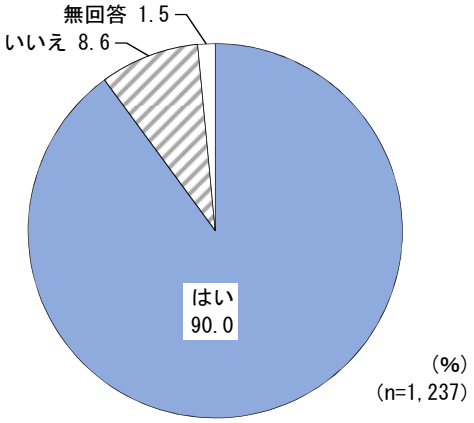
本や雑誌を読んでいるという割合（「はい」）は７割台（75.9%）となっている。

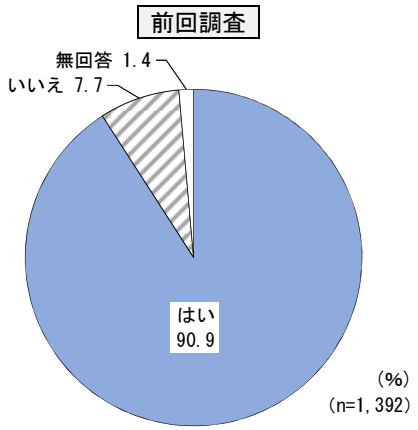




問 4(12) 健康についての記事や番組に関心がありますか

健康についての記事や番組に関心があるという割合（「はい」）は９割（90.0%）となっている。

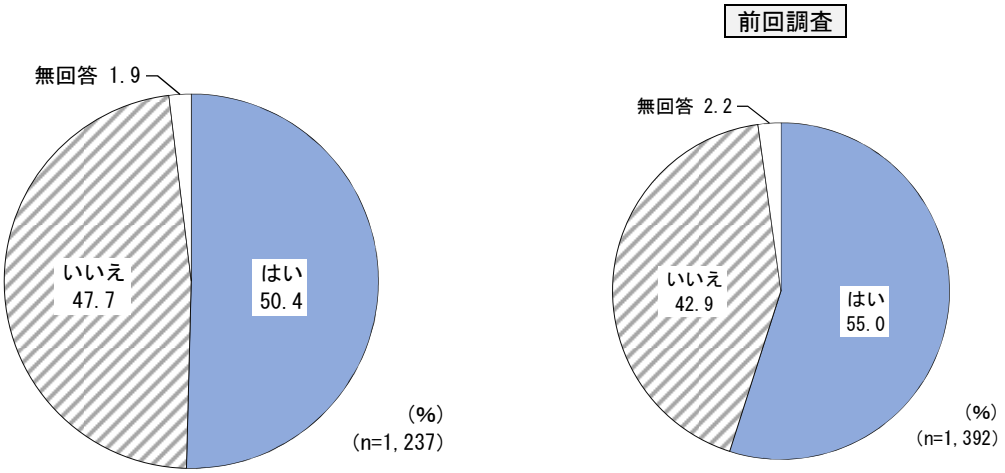




（４）他者との関わりの状況

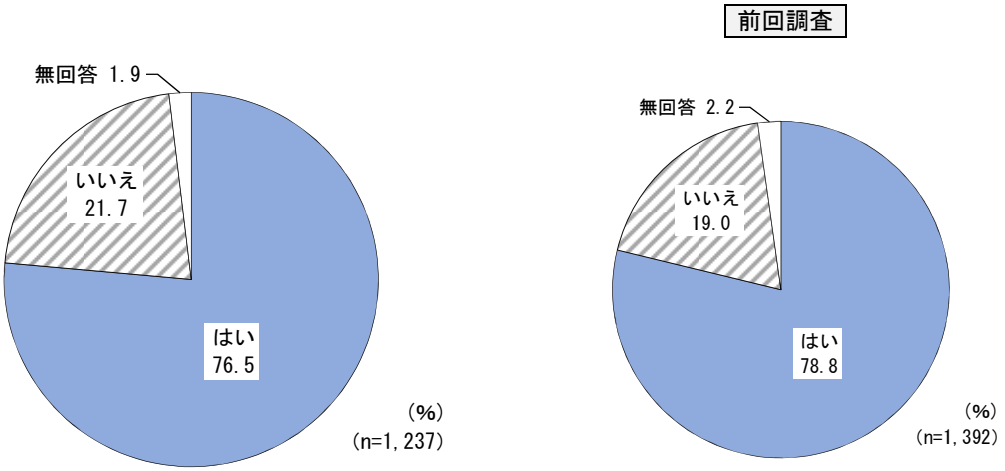
問 4(13) 友人の家を訪ねていますか

友人の家を訪ねているという割合（「はい」）は半数程度（50.4%）となっている。



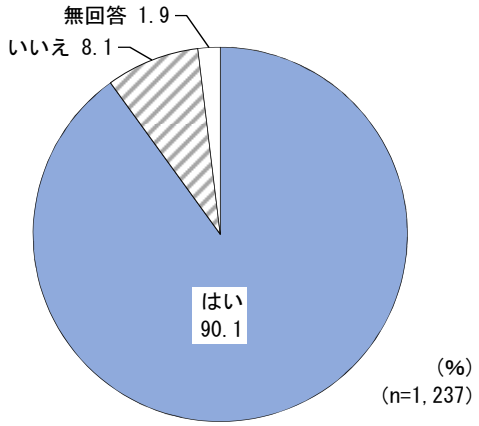
問 4(14) 家族や友人の相談にのっていますか

家族や友人の相談にのっているという割合（「はい」）は７割台（76.5%）となっている。

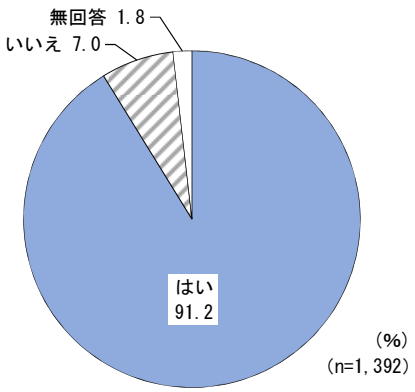


問 4(15) 病人を見舞うことができますか

病人を見舞うことができるという割合（「はい」）は約９割（90.1%）となっている。

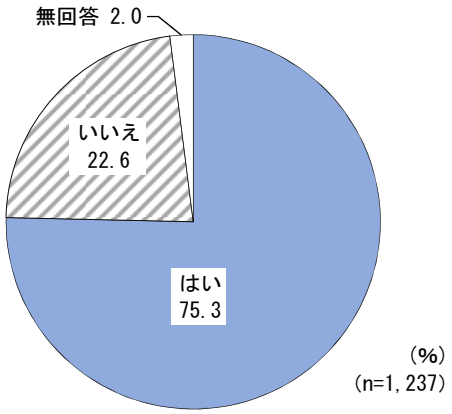


前回調査

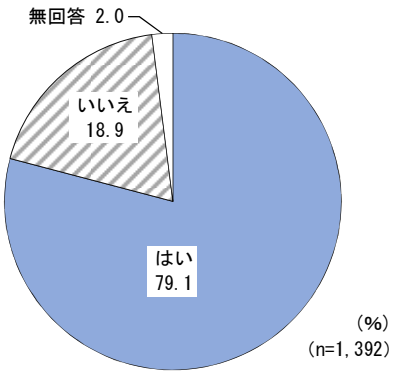


問 4(16) 若い人に自分から話しかけることがありますか

若い人に話しかけることがあるという割合（「はい」）は７割台（75.3%）となっている。



前回調査

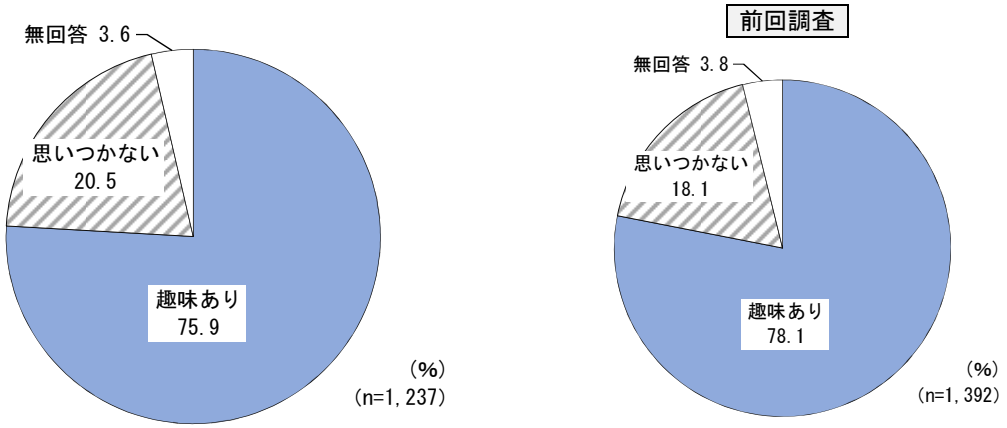


（５）趣味や生きがいの有無

①趣味の有無

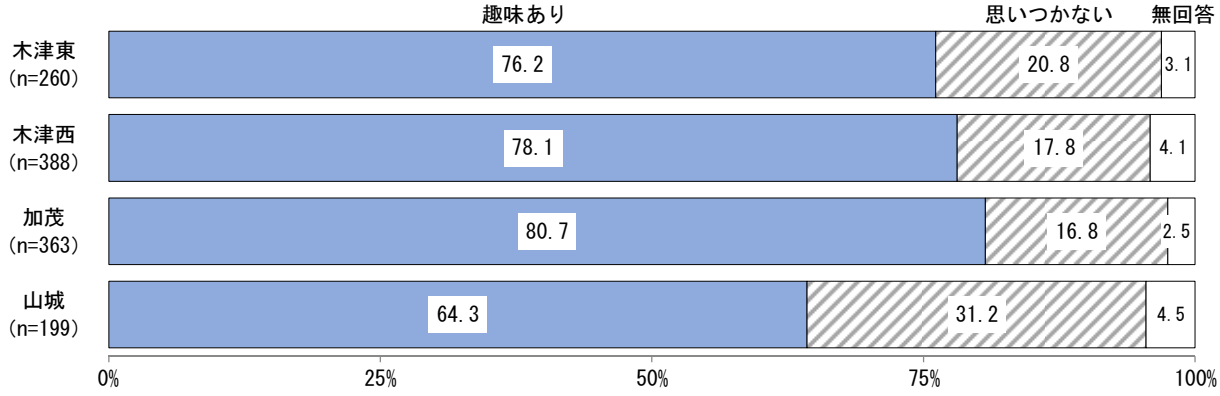
問 4(17) 趣味はありますか

趣味があるという割合（「趣味あり」）は７割台（75.9%）となっており、前回調査（78.1%）から 2.2 ポイント減っている。



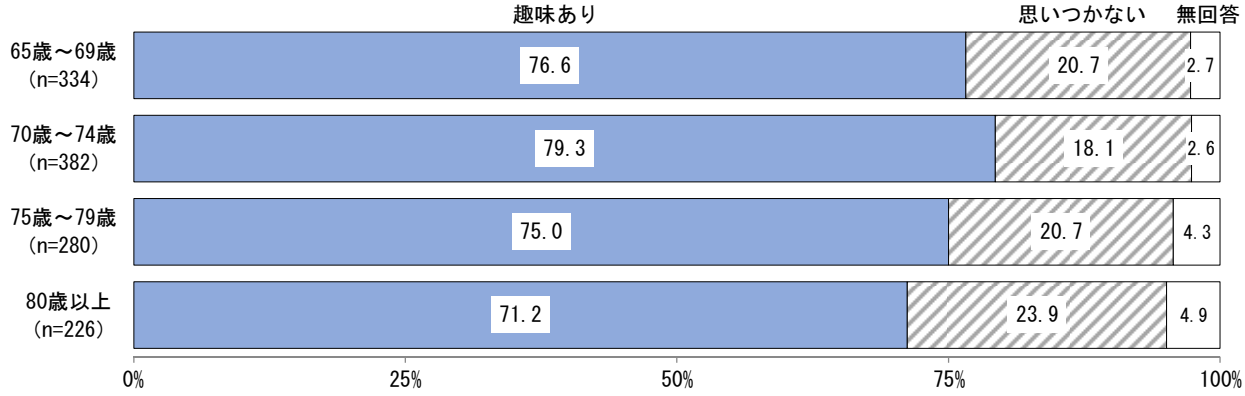
居住地区別にみると、趣味があるという割合が、山城地区で 64.3%と最も低く、他の地区（７～８割台）と比べて差がみられる。

【居住地区別　趣味の有無】



年齢別にみると、趣味があるという割合はいずれの年齢も７割台となっており、70 歳～74 歳で 79.3%と最も高く、80 歳以上で 71.2%と最も低い。

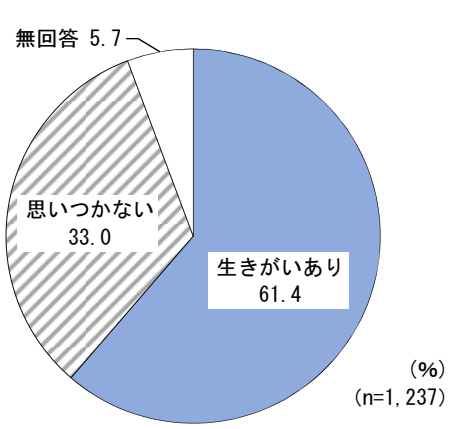
【年齢別　趣味の有無】

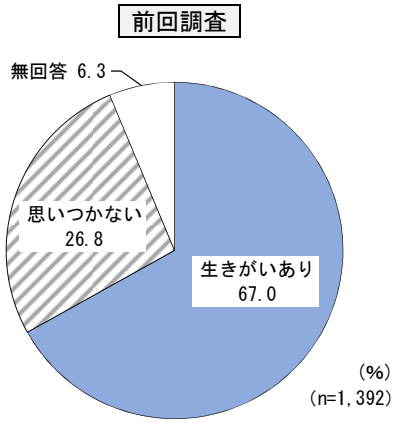


②生きがいの有無

問 4(18) 生きがいはありますか

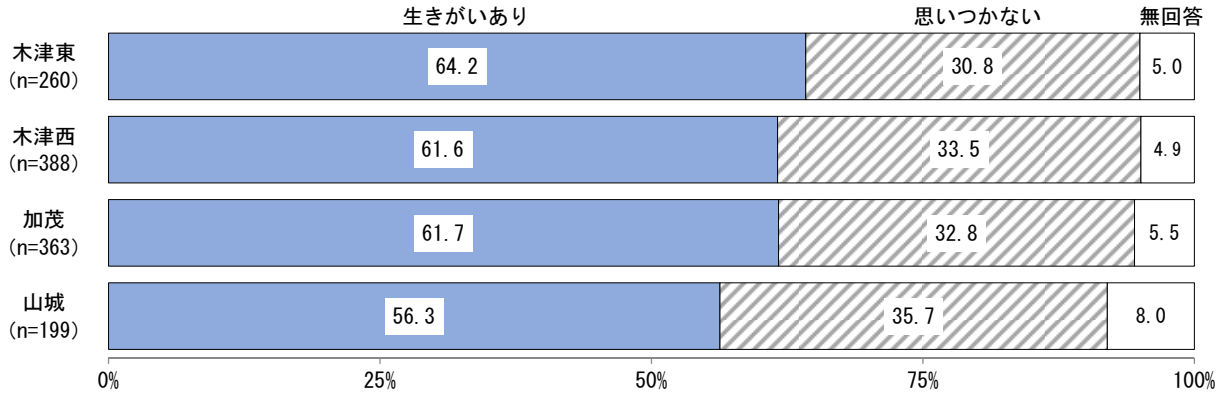
生きがいがあるという割合(「生きがいあり」)は６割台(61.4%)となっており、前回調査(67.0%)から 5.6 ポイント減っている。





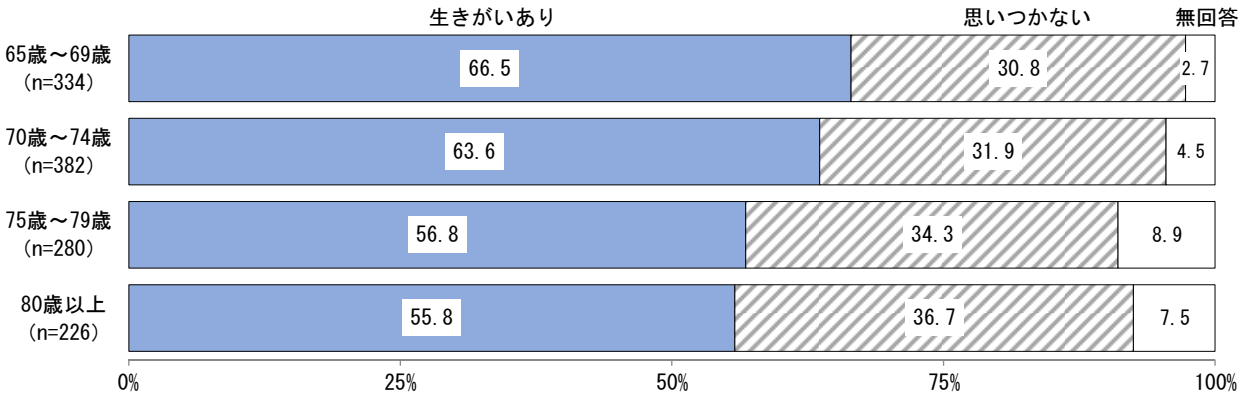
居住地区別にみると、生きがいがあるという割合が、木津東地区で 64.2%と最も高く、山城地区で 56.3%と最も低くなっている。

【居住地区別　生きがいの有無】



年齢別にみると、生きがいがあるという割合が、74 歳以下では６割台みられるのに対し、75 歳以上では５割台と低くなっている。

【年齢別　生きがいの有無】



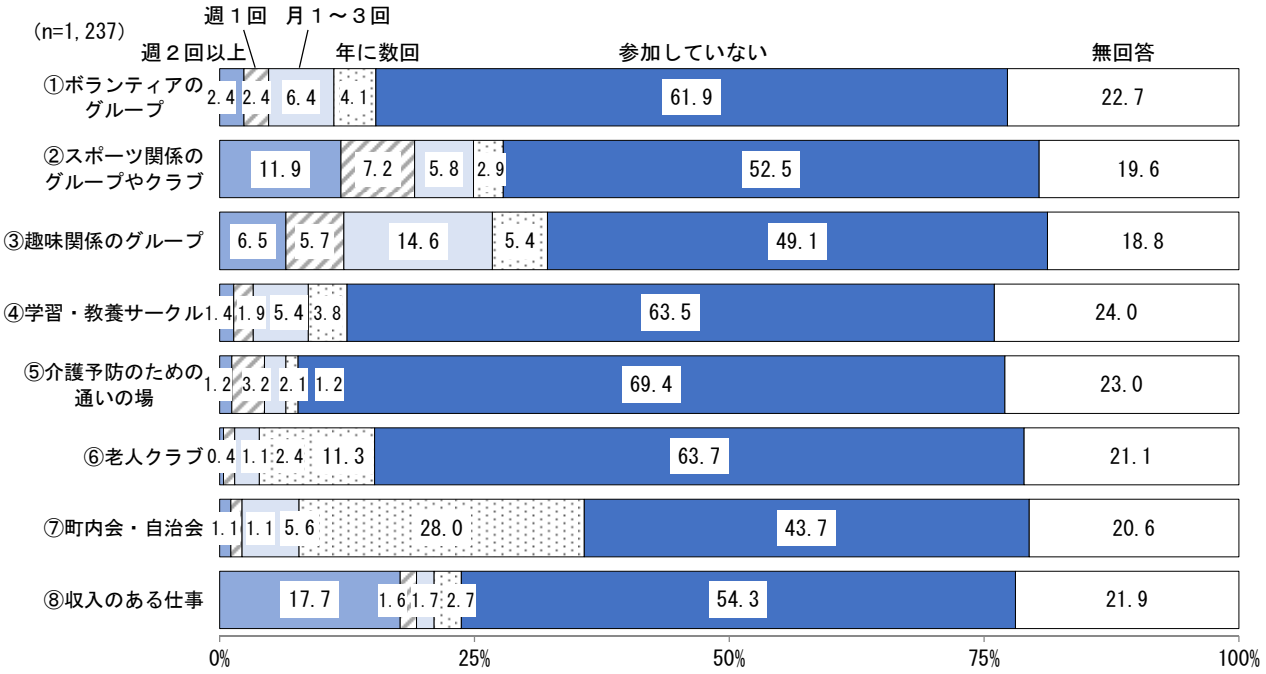
6　地域での活動について

（１）地域での活動等への参加状況

①地域の会・グループ等への参加頻度

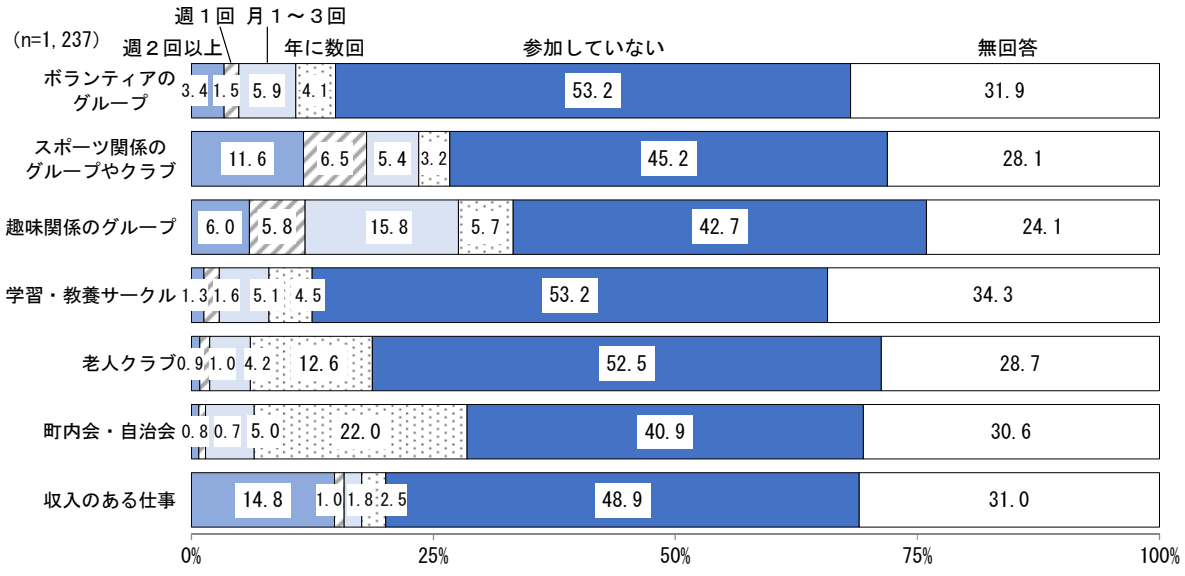
問 5(1) ①～⑧のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか

地域の会・グループ等への参加状況として８項目についてたずねたところ、月１回以上参加している割合（「週２回以上」「週１回」「月１～３回」の計）が、『③趣味関係のグループ』で 26.8%と最も多く、次いで『②スポーツ関係のグループやクラブ』で 24.9%、『⑧収入のある仕事』で 21.0%、『①ボランティアのグループ』で 11.2%と、前回調査と同じ傾向となっている。一方、このほかの項目については、いずれも１割未満となっている。



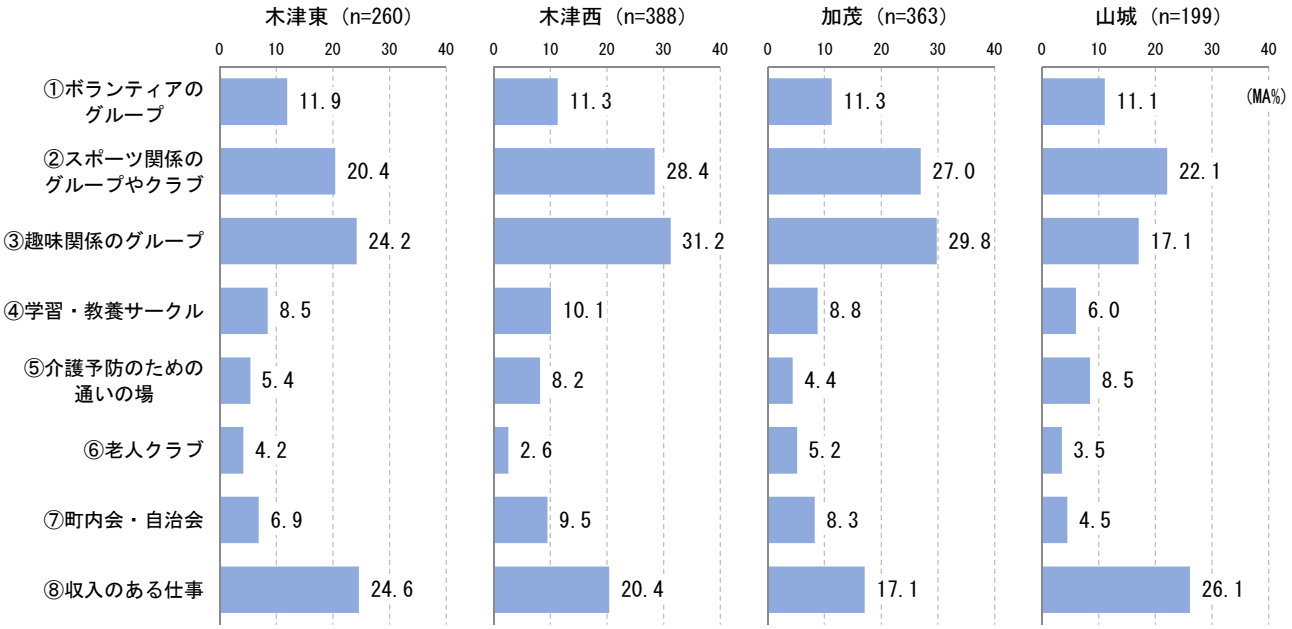
⑤介護予防のための通いの場：元気デイ、元気もりもりクラブなど（※今回調査からの新規項目）

前回調査



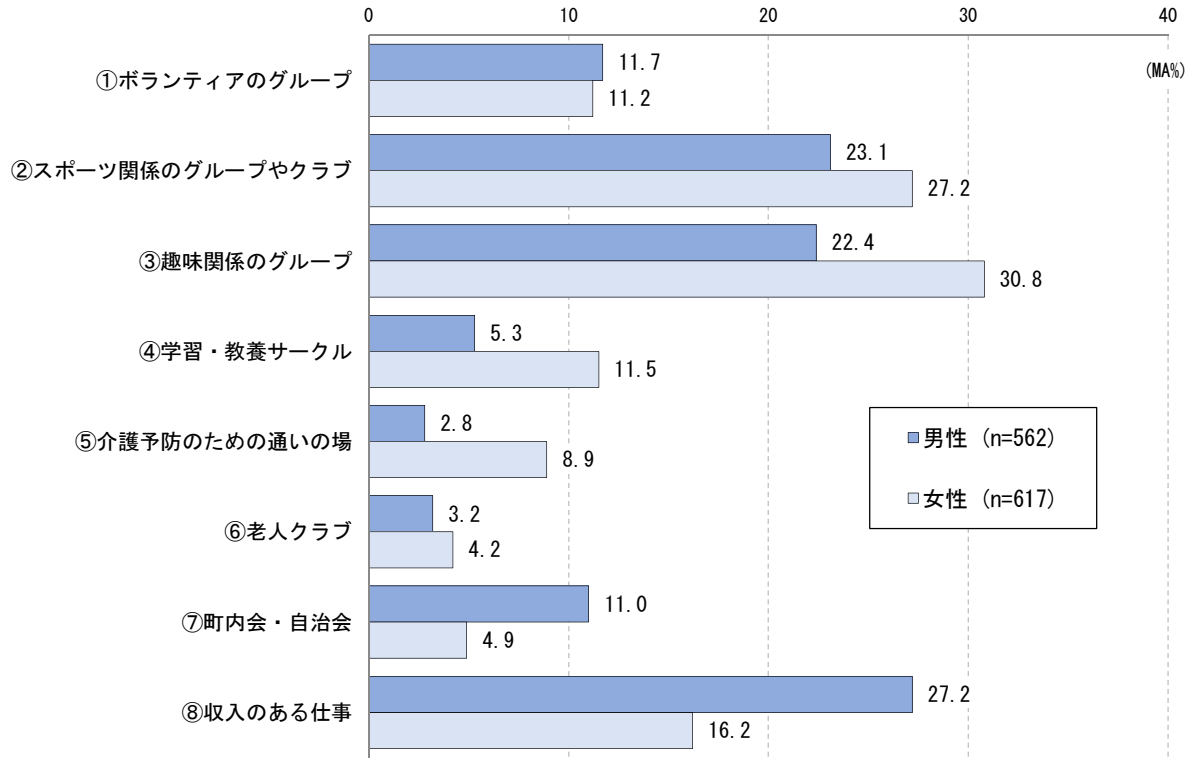
月１回以上参加している割合について、居住地区別にみると、『③趣味関係のグループ』が木津西地区で 31.2%、加茂地区で 29.8%、『②スポーツ関係のグループやクラブ』が木津西地区で 28.4%、加茂地区で 27.0%と、ともに木津東地区・山城地区に比べて高い割合となっている。

【居住地区別　地域の会・グループ等への参加頻度】　（※月１回以上参加している割合）



月１回以上参加している割合について、性別にみると、多くの項目で男性より女性のほうが高い割合となっており、『③趣味関係のグループ』が、男性で 22.4%に対し、女性では 30.8%と 8.4 ポイントの差がみられる。

【性別　地域の会・グループ等への参加頻度】　（※月１回以上参加している割合）

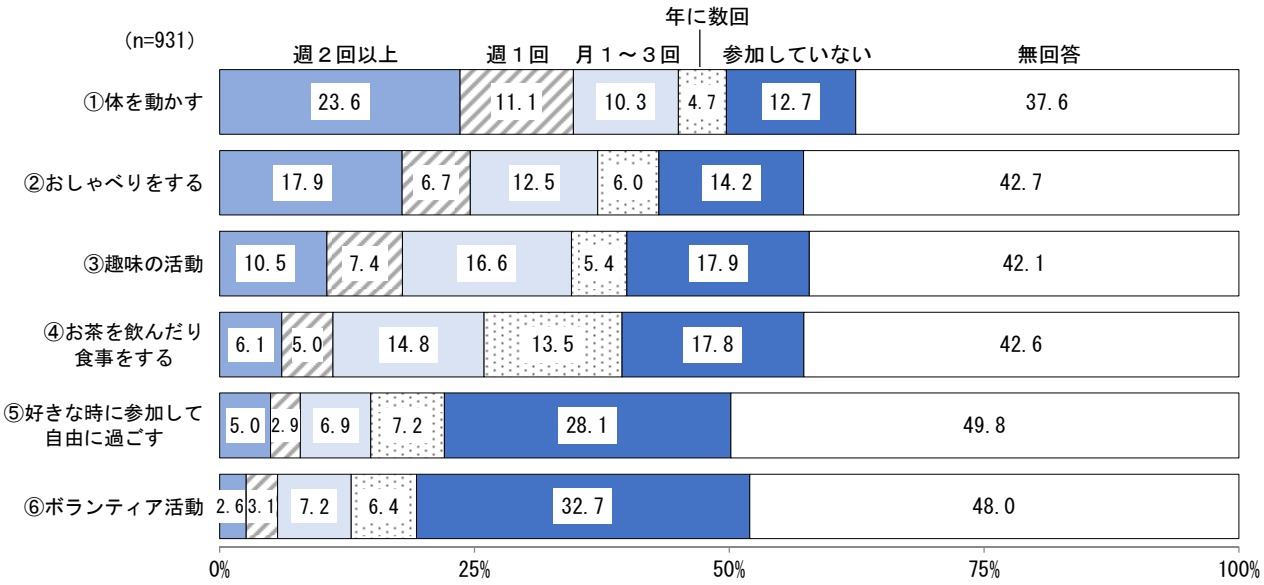


②活動内容別の頻度

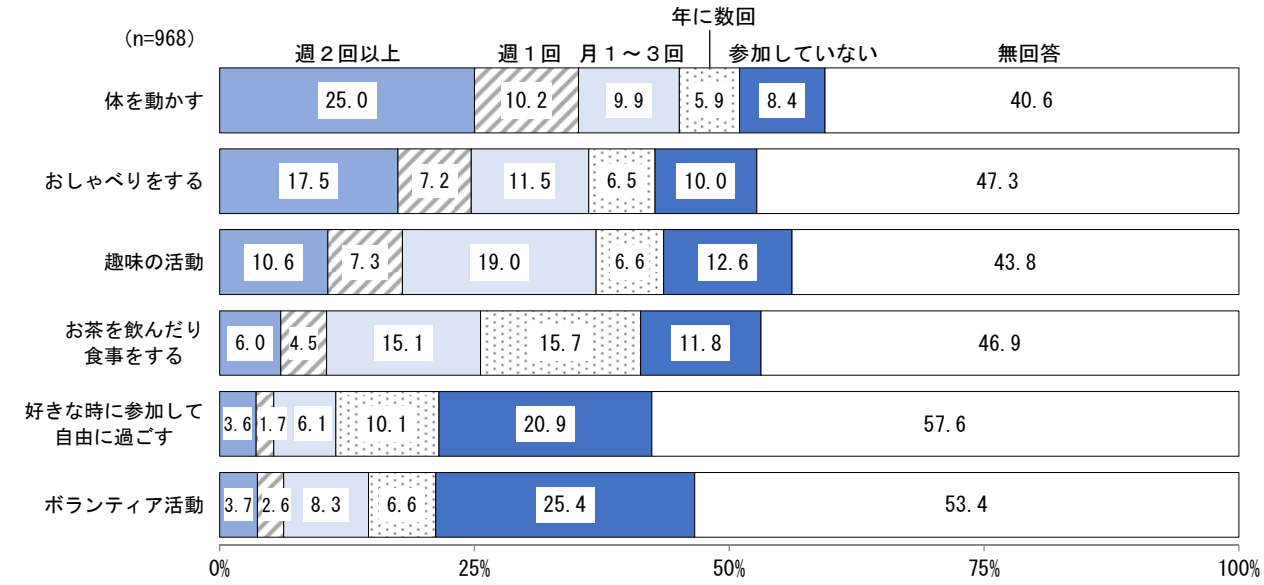
【問 5(1)で①～⑧いずれかに参加していると回答の方のみ】

問 5(1)-1 そこではどのような活動をしていますか、また、どれくらいの回数ですか

（前問で）地域の会・グループ等のいずれかへ参加していると回答した人に、その活動内容（６項目）別の頻度をたずねたところ、週に１回以上活動している割合（「週２回以上」「週１回」の計）が、『①体を動かす』で 34.7%と最も多く、次いで『②おしゃべりをする』で 24.6%、『③趣味の活動』で 17.9%となっており、前回調査と同じ傾向となっている。

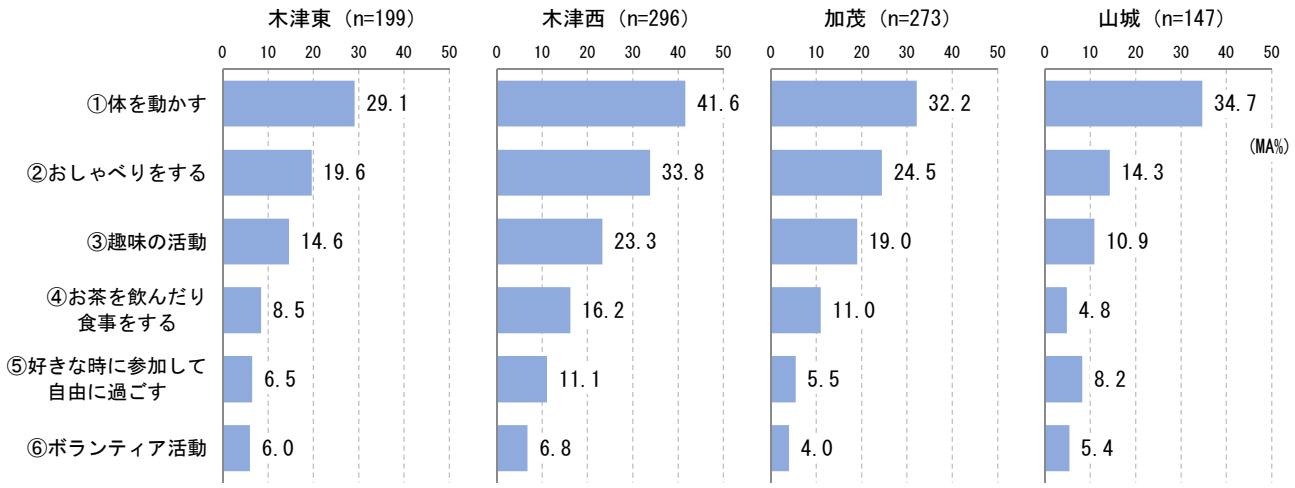


前回調査



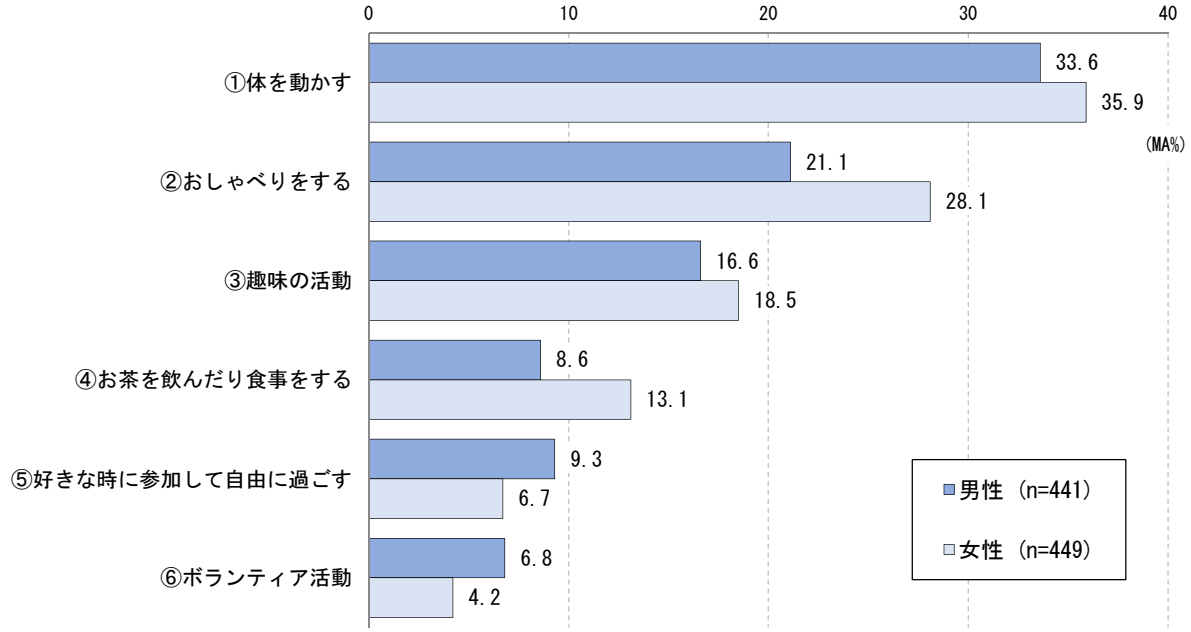
週１回以上活動している割合について、居住地区別にみると、いずれの地区も『①体を動かす』が最も多く、次いで『②おしゃべりをする』、『③趣味の活動』となっている。また、すべての項目について、木津西地区で最も高い割合となっている。

【居住地区別　活動内容別の頻度】（※週１回以上活動している割合）



週１回以上活動している割合について、男女ともに『①体を動かす』が最も多く、次いで『②おしゃべりをする』、『③趣味の活動』となっており、いずれも女性のほうが高い割合となっている。

【性別　活動内容別の頻度】（※週１回以上活動している割合）

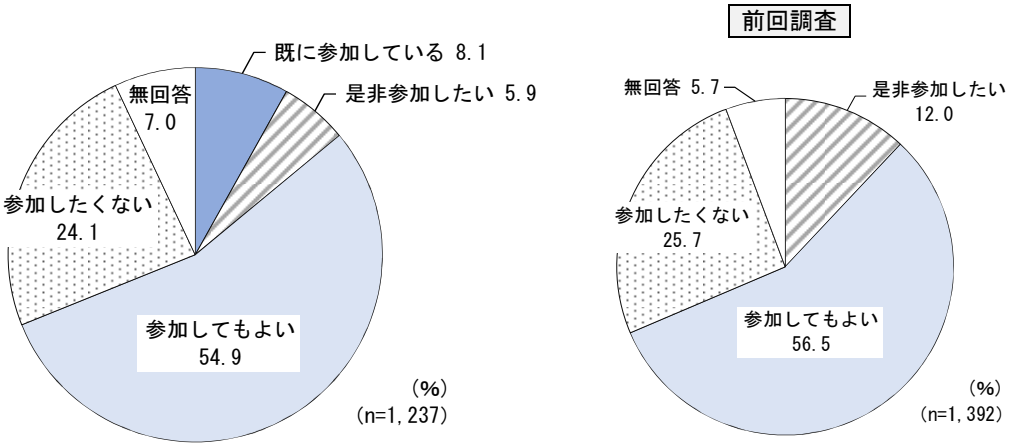


（２）地域の会・グループ等への参加意向

①参加者としての参加

問 5(2)　地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか

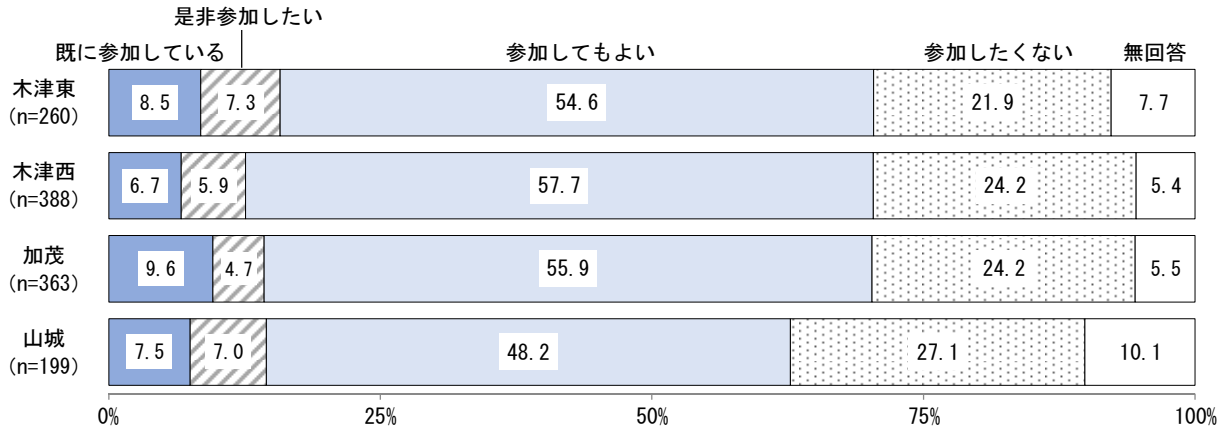
参加者としての活動への参加意向としては、「参加してもよい」が過半数（54.9%）を占めており、「既に参加している」（8.1%）、「是非参加したい」（5.9%）を合わせると、参加意向がある割合は７割弱（68.9%）となっている。



※「既に参加している」は、今回調査からの新規選択肢

居住地区別にみると、参加者として参加意向がある割合が、木津東地区（70.4%）・木津西地区（70.4%）・加茂地区（70.2%）でいずれも約７割みられるのに対し、山城地区では 62.8%と低くなっている。

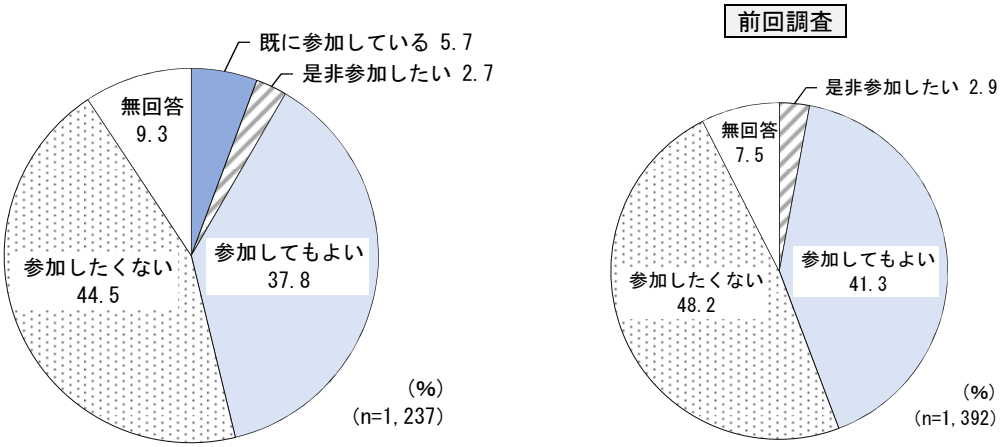
【居住地区別　地域の会・グループ等への参加意向『参加者としての参加』】



②企画・運営としての参加

問 5(3)　地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか

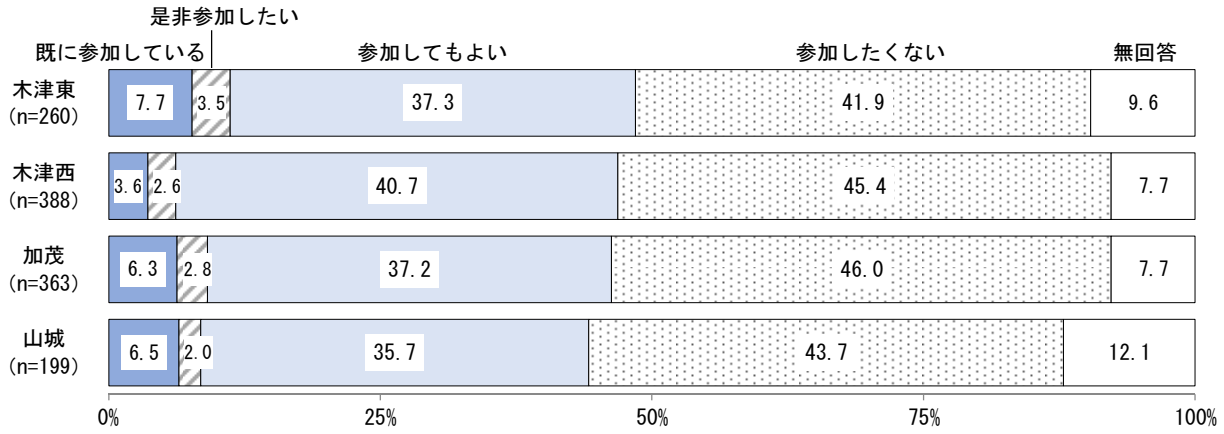
企画・運営（お世話役）として、活動への参加意向がある割合（「既に参加している」「是非参加したい」「参加してもよい」の計）は４割台（46.2%）となっている。



※「既に参加している」は、今回調査からの新規選択肢

居住地区別にみると、企画・運営として参加意向がある割合はいずれも４割台となっており、木津東地区で 48.5%と最も高い。

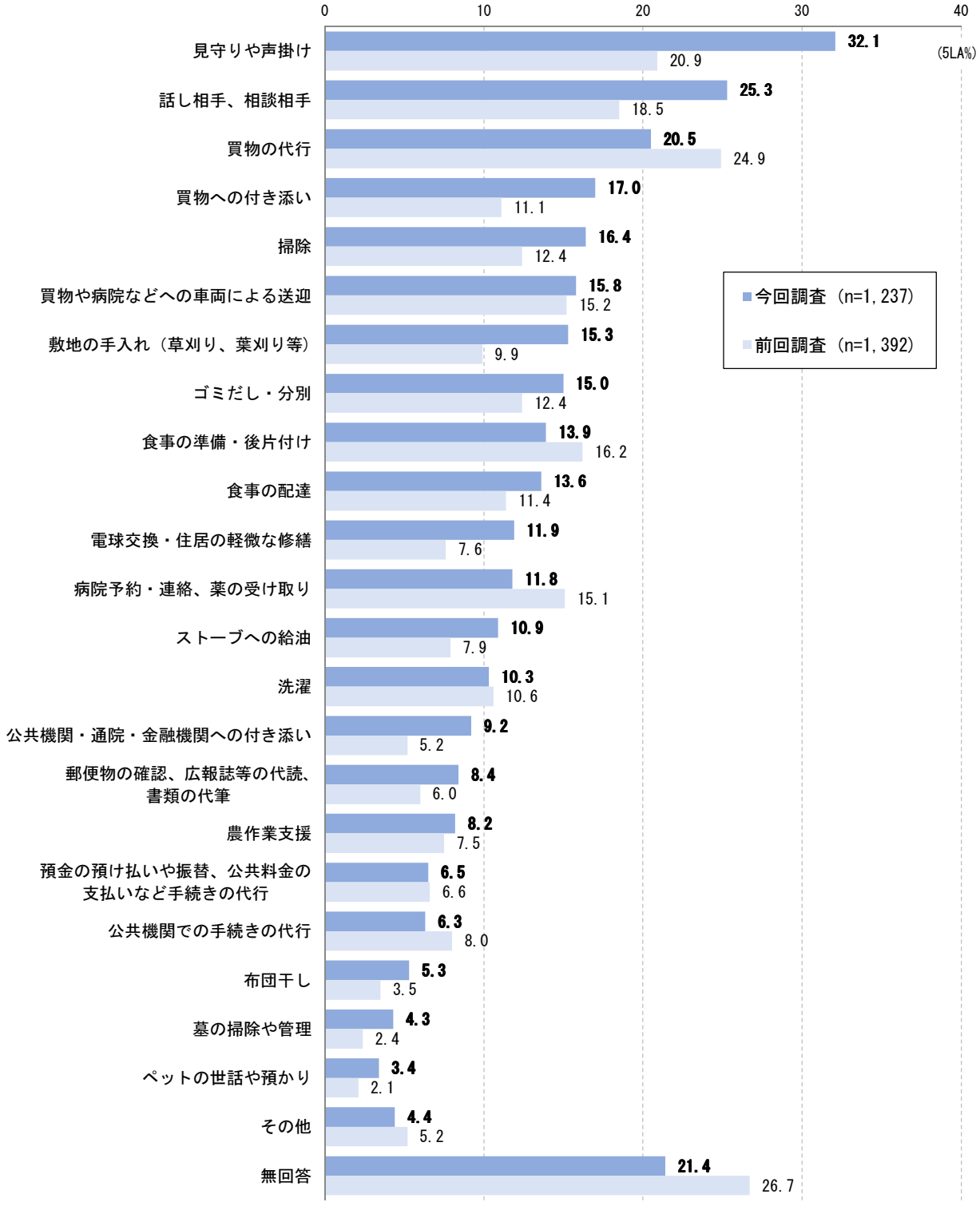
【居住地区別　地域の会・グループ等への参加意向『企画・運営としての参加』】



（３）高齢者に対する手助けとして支援できる内容

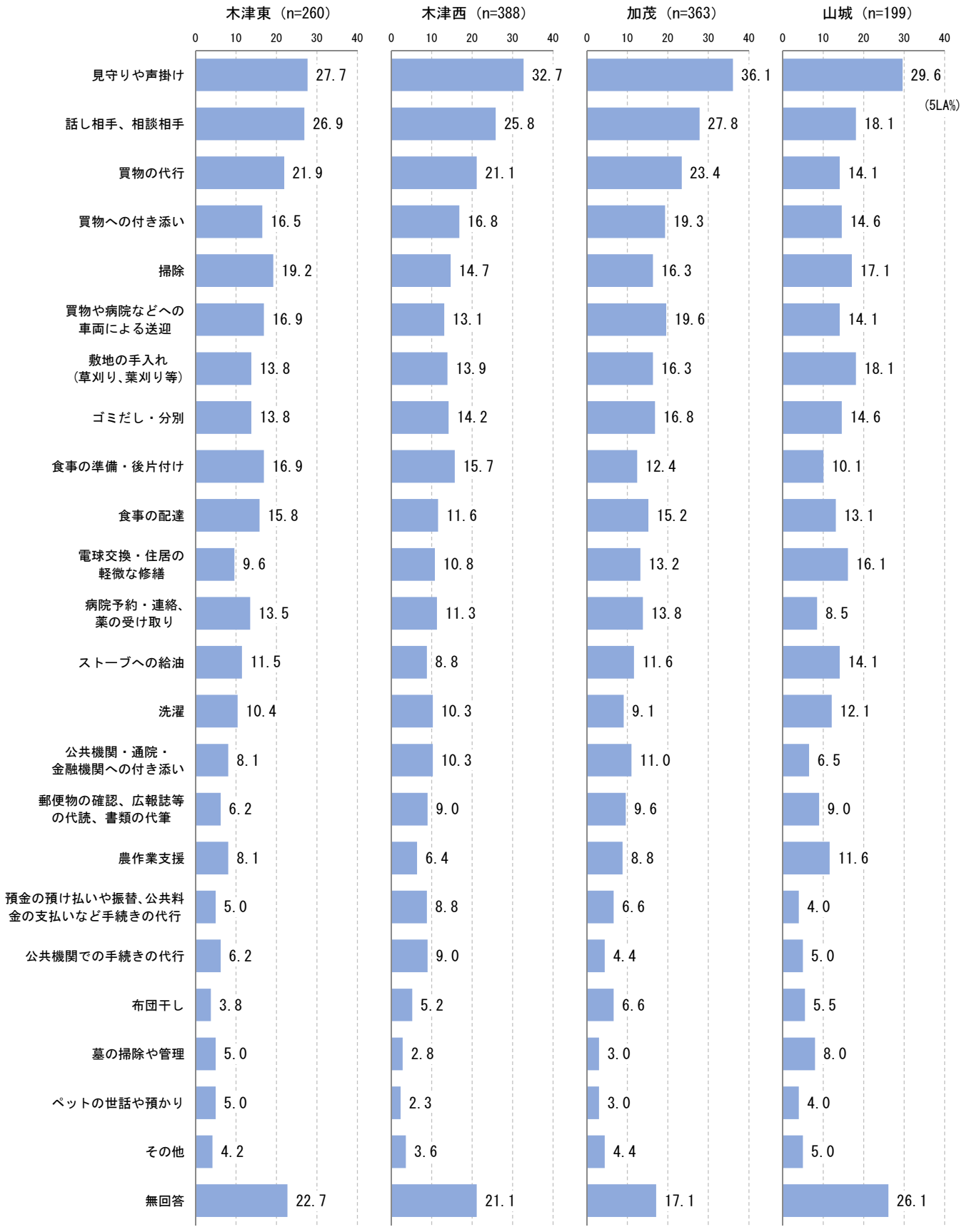
問 5(4)　次の項目で、生活行為ができにくくなっている高齢者に対する手助けとして、あなた自身が支援出来る内容はどれですか（あてはまるもの５つまでに○）

高齢者に対する手助けとして支援できる内容としては、「見守りや声掛け」が 32.1%と最も多く、次いで「話し相手、相談相手」が 25.3%となっており、ともに前回調査から 10 ポイント前後増えている。また、これに続くのが、「買物の代行」で 20.5%、「買物への付き添い」で 17.0%、「掃除」で 16.4%、「買物や病院などへの車両による送迎」で 15.8%となっている。



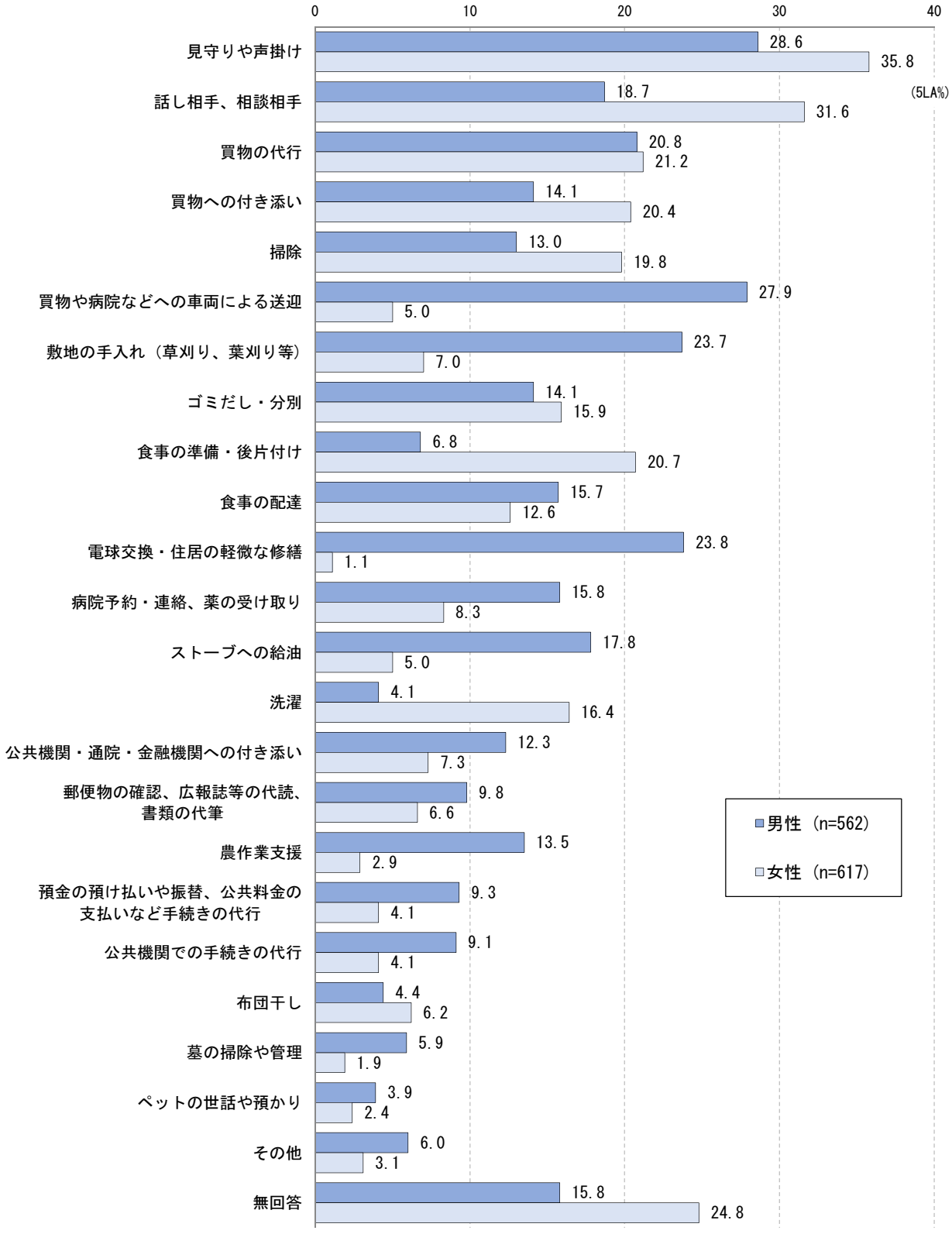
居住地区別にみると、いずれの地区も「見守りや声掛け」が最も多くなっており、特に、加茂地区で 36.1%と高い。

【居住地区別　高齢者に対する手助けとして支援できる内容】



性別にみると、男女ともに「見守りや声掛け」が最も多いものの、男性で 28.6%に対し、女性では 35.8%と 7.2 ポイント高くなっている。また、これに続くのが、男性では「買物や病院などへの車両による送迎」が 27.9%、「電球交換・住居の軽微な修繕」が 23.8%、「敷地の手入れ（草刈り、葉刈り等)」が 23.7%となっており、女性では「話し相手、相談相手」が 31.6%、「買物の代行」が 21.2%、「食事の準備・後片付け」が 20.7%となっている。

【性別　高齢者に対する手助けとして支援できる内容】



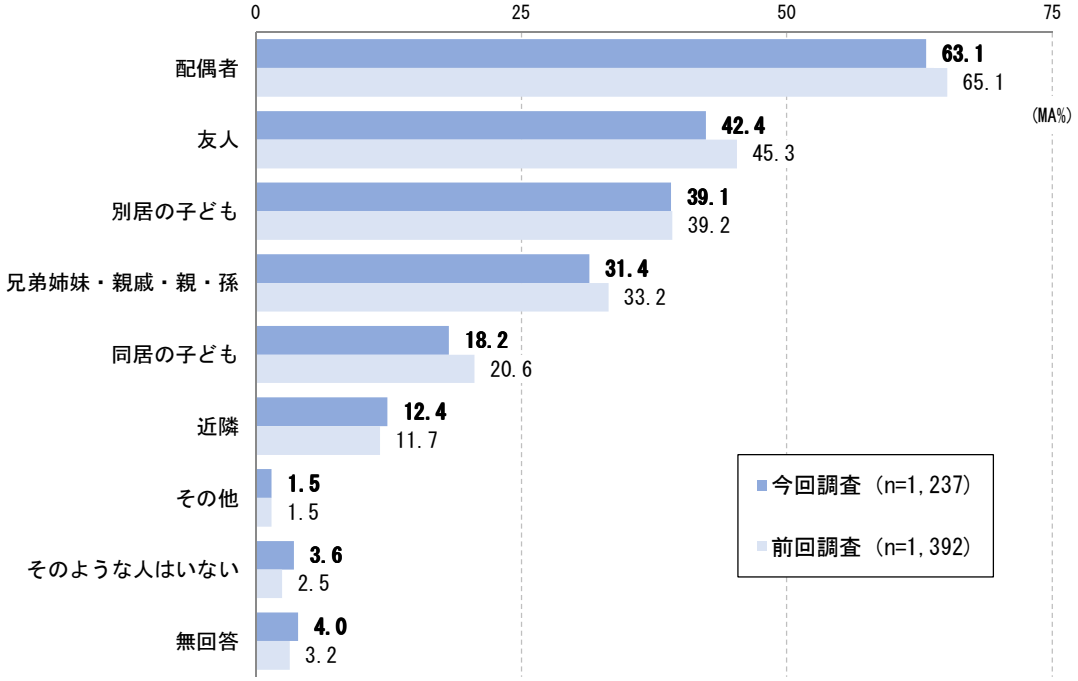
7　たすけあいについて

（１）心配事や愚痴の相談状況

①心配事や愚痴を聞いてくれる人

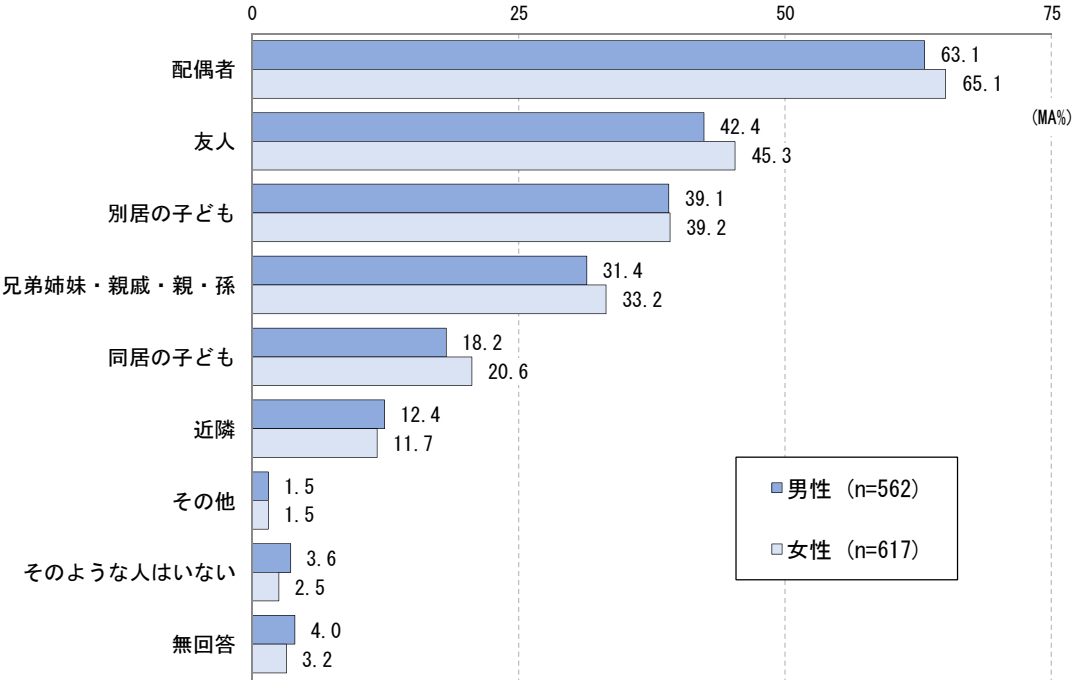
問 6(1) あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人（いくつでも）

心配事や愚痴を聞いてくれる人としては、「配偶者」が 63.1％と最も多く、次いで「友人」が 42.4％、「別居の子ども」が 39.1％、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 31.4％となっており、前回調査と同じ傾向となっている。



性別にみても、男女ともに「配偶者」が６割台と最も多く、次いで「友人」、「別居の子ども」、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」となっている。

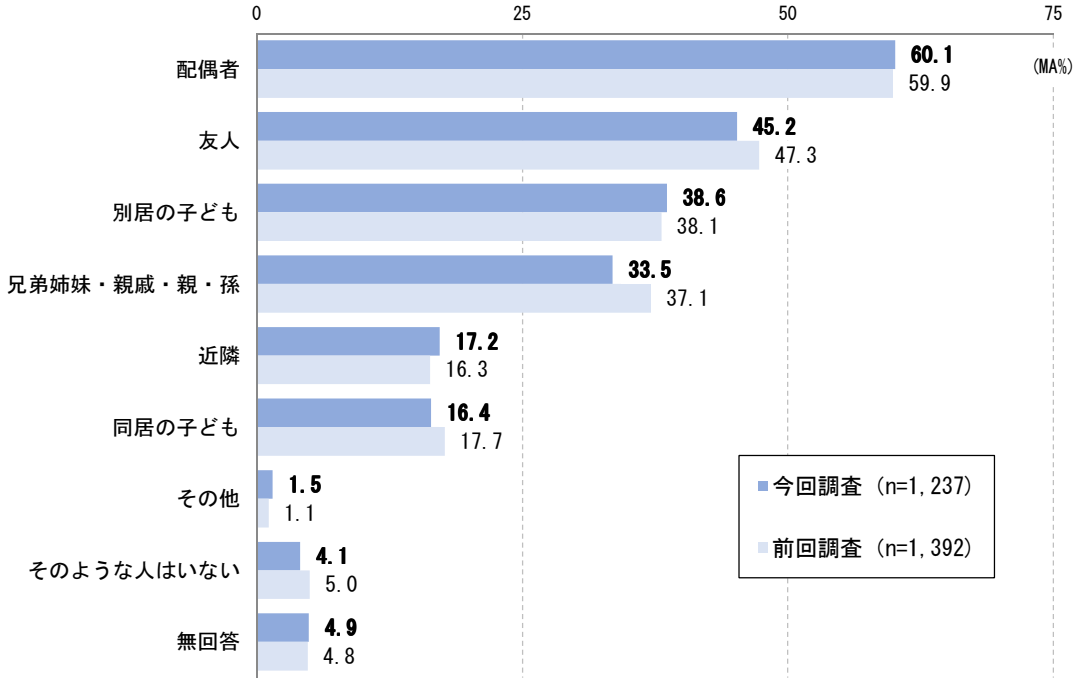
【性別　心配事や愚痴を聞いてくれる人】



②心配事や愚痴を聞いてあげる人

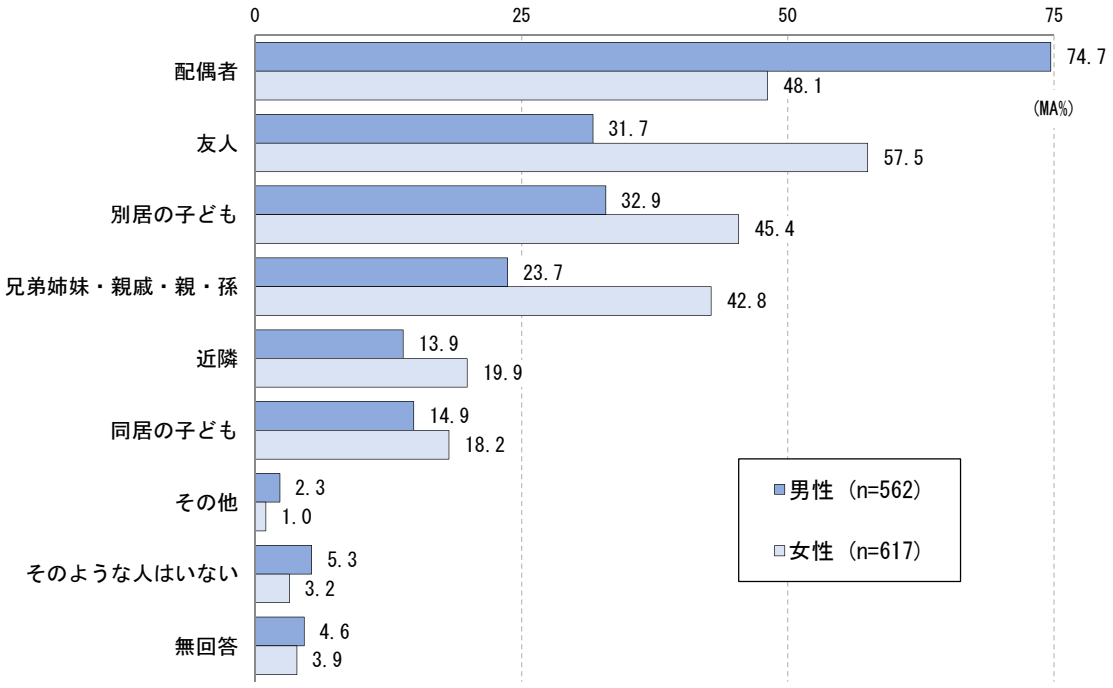
問 6(2)　反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人（いくつでも）

一方、心配事や愚痴を聞いてあげる人としては、「配偶者」が 60.1%と最も多く、次いで「友人」が 45.2%、「別居の子ども」が 38.6%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 33.5%となっており、前回調査と同じ傾向となっている。



性別にみると、男性では「配偶者」が 74.7%、女性では「友人」が 57.5%と、それぞれ最も多くなっている。

【性別　心配事や愚痴を聞いてあげる人】

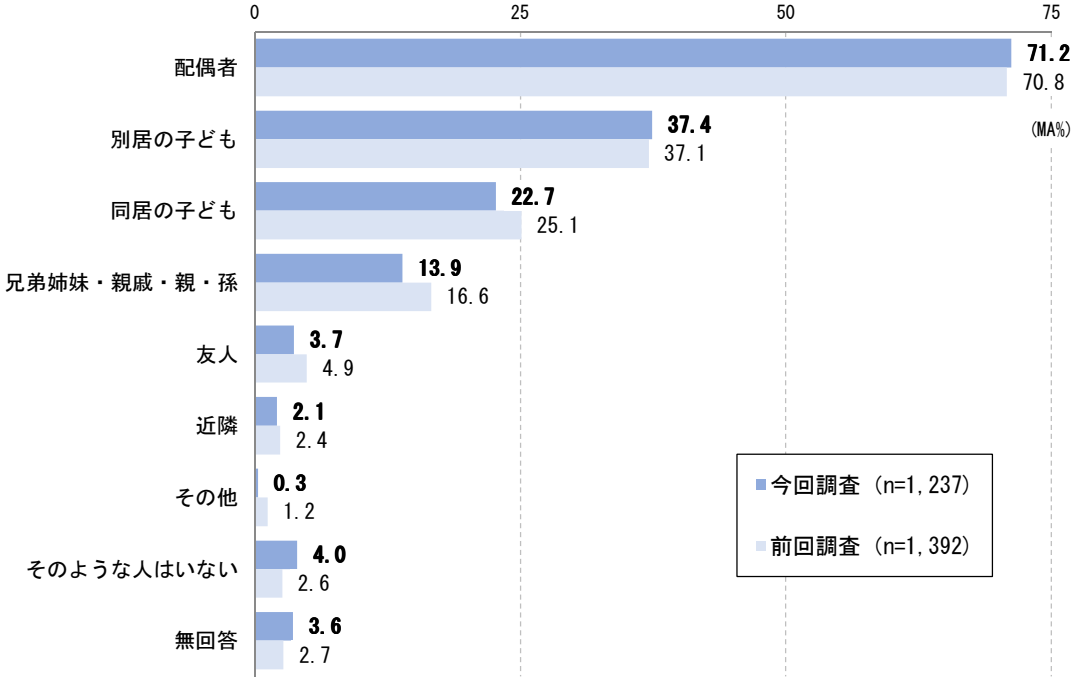


（２）看病や世話が必要な場合の対応状況

①看病や世話をしてくれる人

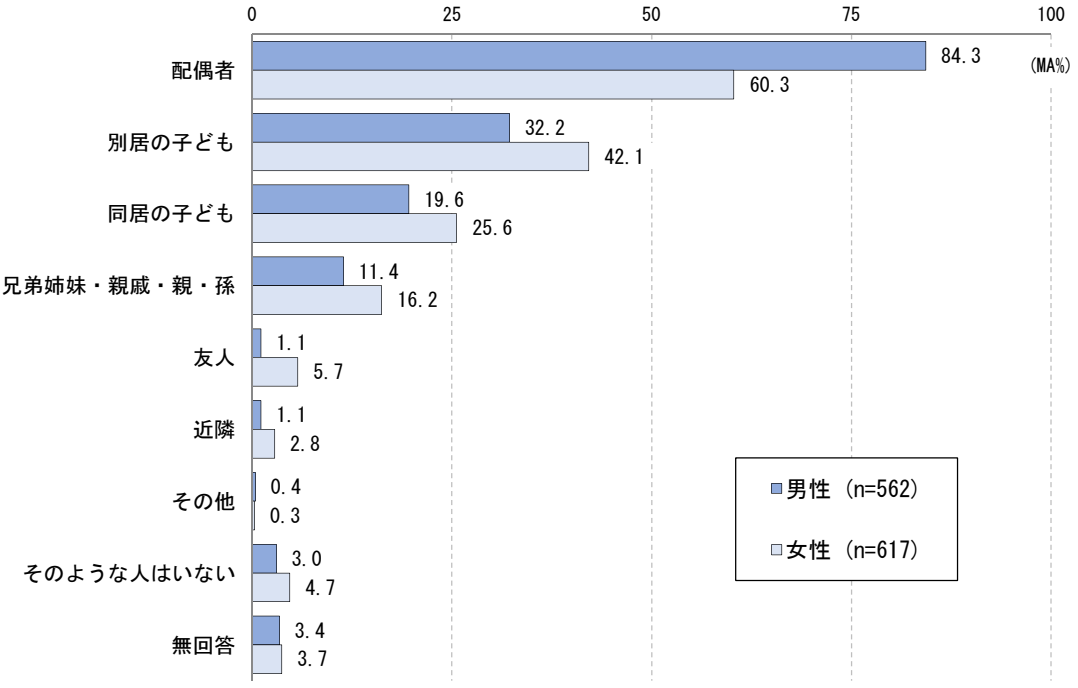
問 6(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（いくつでも）

病気で寝込んだときに看病や世話をしてくれる人としては、「配偶者」が 71.2%と最も多く、次いで「別居の子ども」が 37.4%、「同居の子ども」が 22.7%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 13.9%となっており、前回調査と同じ傾向となっている。



性別にみると、男女ともに「配偶者」が最も多く、女性で 60.3%に対し、男性では 84.3%と高い。一方、このほかの項目については、いずれも女性のほうが高い割合となっている。

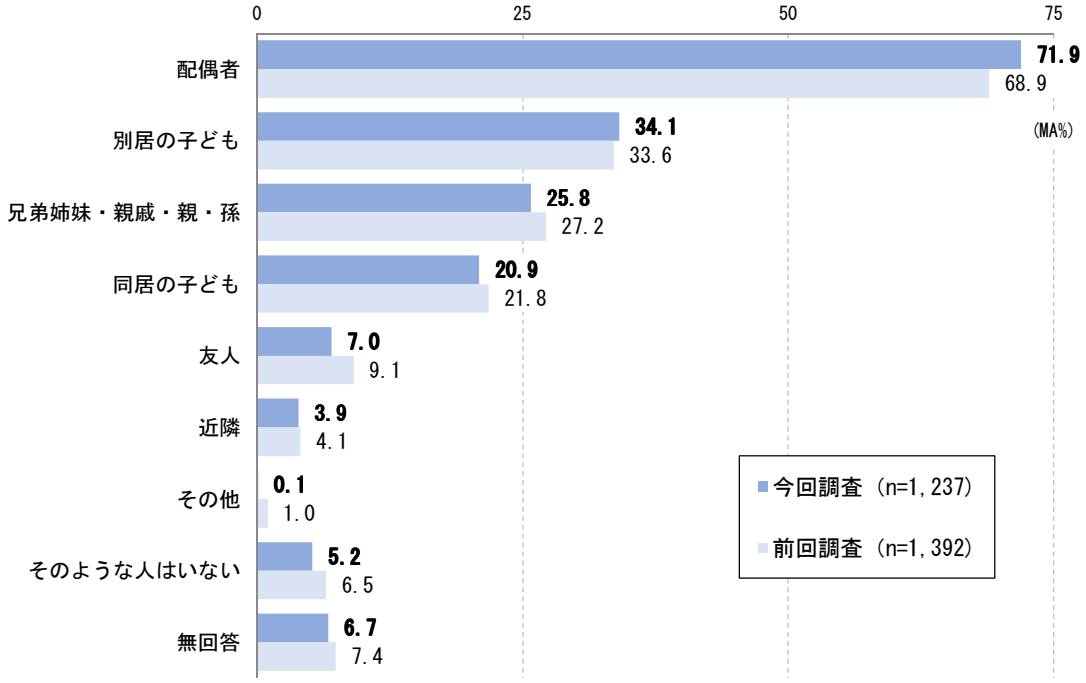
【性別　看病や世話をしてくれる人】



②看病や世話をしてあげる人

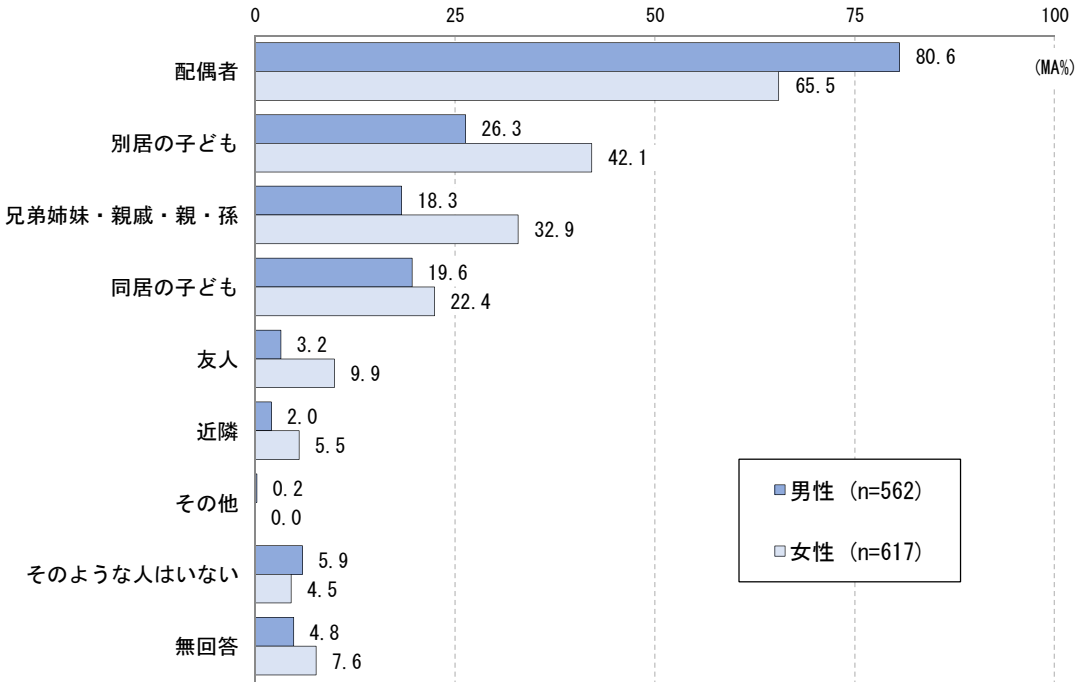
問 6(4) 反対に、看病や世話をしてあげる人（いくつでも）

一方、看病や世話をしてあげる人としては、「配偶者」が 71.9%と最も多く、次いで「別居の子ども」が 34.1%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 25.8%、「同居の子ども」が 20.9%となっており、前回調査と同じ傾向となっている。



性別にみると、男女ともに「配偶者」が最も多く、女性で 65.5%に対し、男性では 80.6%と高い。一方、このほかの項目については、いずれも女性のほうが高い割合となっている。

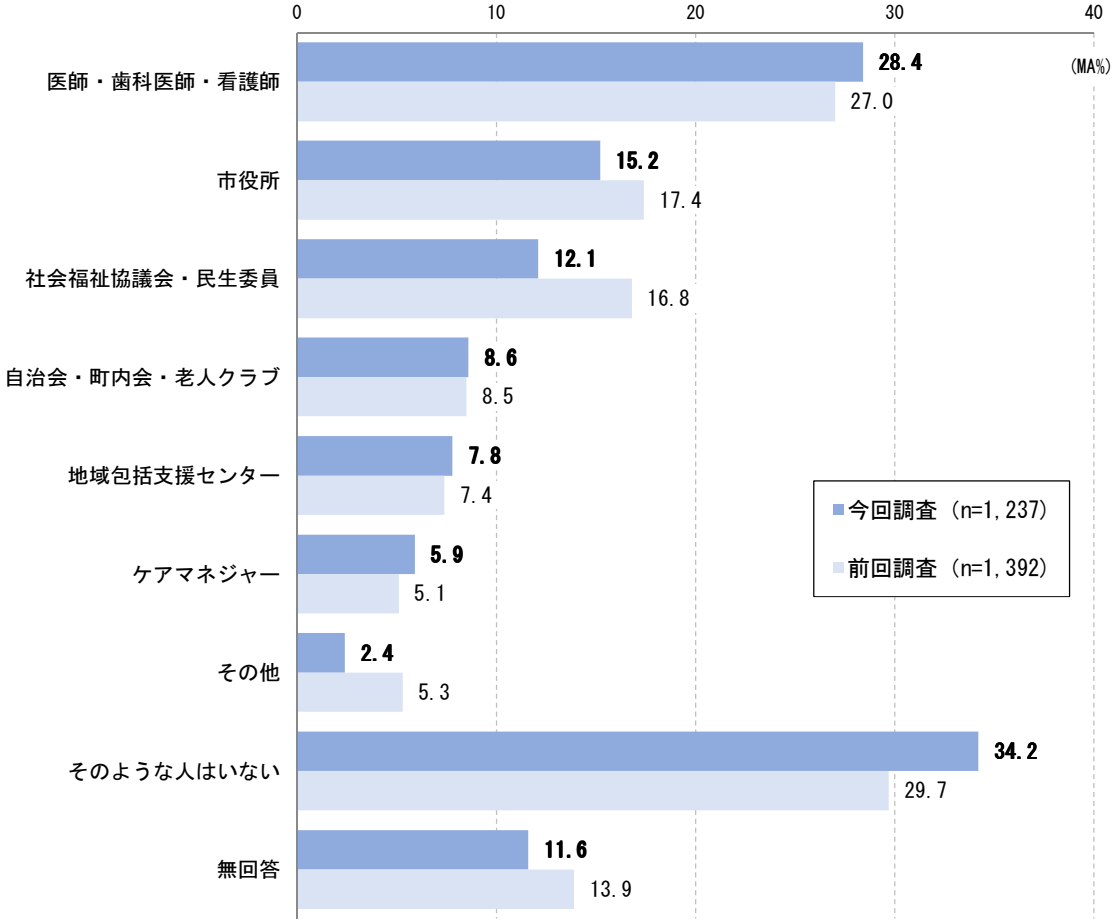
【性別　看病や世話をしてあげる人】



（３）家族や友人・知人以外の相談相手

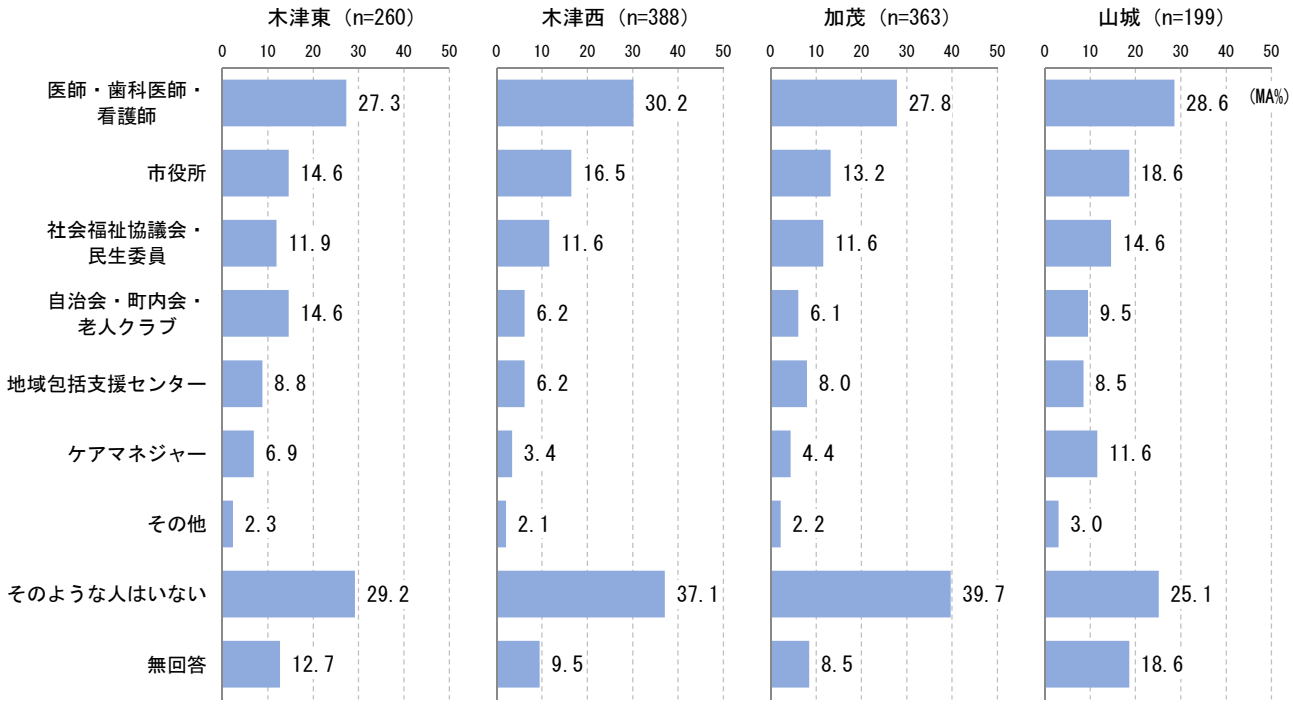
問 6(5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください（いくつでも）

家族や友人・知人以外の相談相手としては、「医師・歯科医師・看護師」が 28.4%と最も多く、次いで「市役所」が 15.2%、「社会福祉協議会・民生委員」が 12.1%となっている。一方、「そのような人はいない」は３割台（34.2%）みられ、前回調査（29.7%）から 4.5 ポイント増えている。



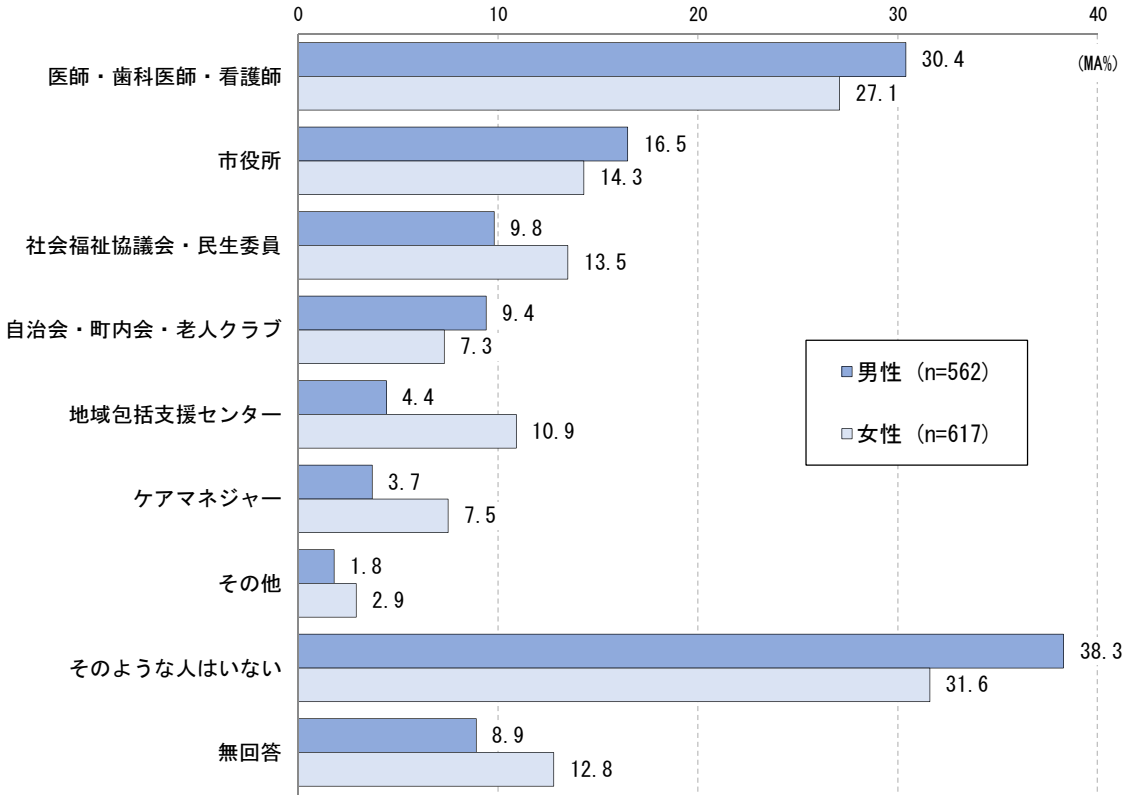
居住地区別にみると、いずれの地区も「医師・歯科医師・看護師」が３割前後と最も多くなっている。一方、「そのような人はいない」が、加茂地区で 39.7%、木津西地区で 37.1%と高い。

【居住地区別　家族や友人・知人以外の相談相手】



性別にみると、男女ともに「医師・歯科医師・看護師」が最も多く、次いで「市役所」となっている。一方、「そのような人はいない」は、女性（31.6%）より男性（38.3%）のほうが高い。

【性別　家族や友人・知人以外の相談相手】

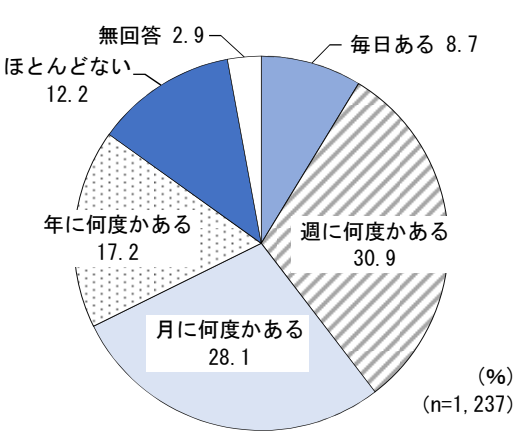


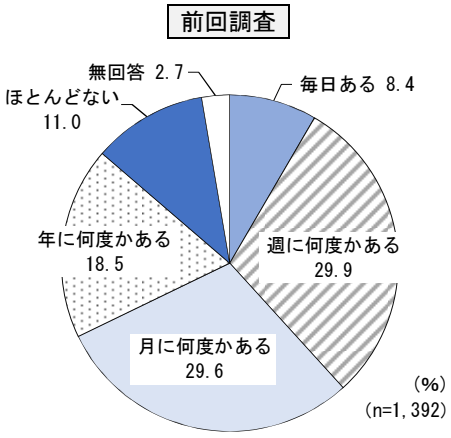
（４）友人・知人との交流状況

①友人・知人と会う頻度

問 6(6) 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか（１つに○）

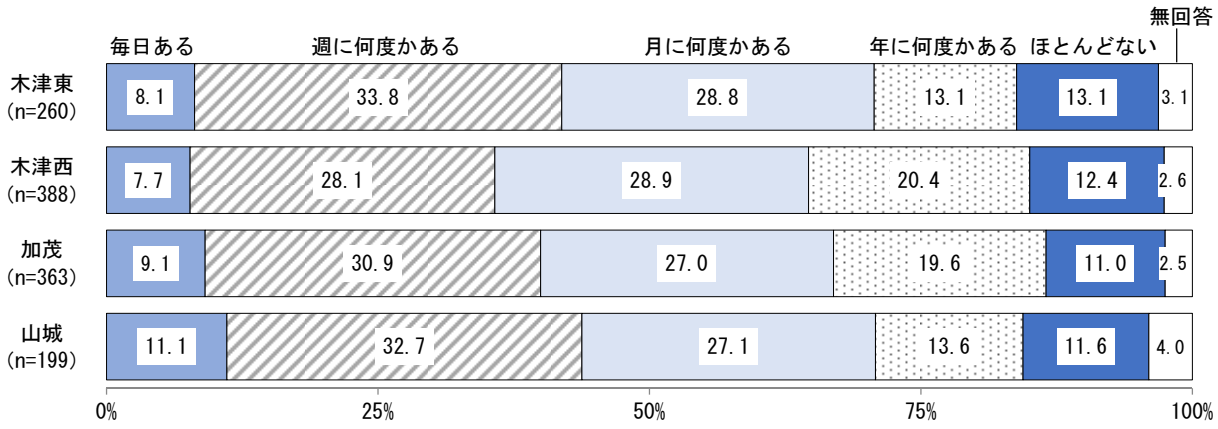
友人・知人と会う頻度としては、「週に何度かある」が 30.9%と最も多く、次いで「月に何度かある」が 28.1%となっている。一方、年に数回以下の割合（「年に何度かある」「ほとんどない」の計）は約３割（29.4%）となっており、前回調査（29.5%）と同程度となっている。





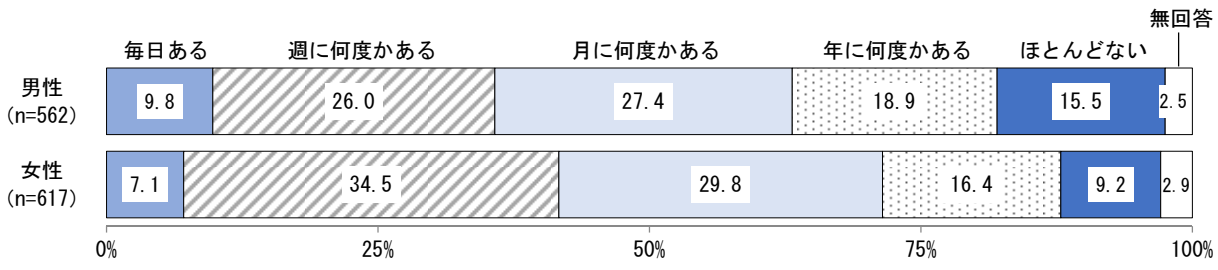
居住地区別にみると、年に数回以下の割合が、木津西地区で 32.7%と最も高く、次いで加茂地区で 30.6%となっている。

【居住地区別　友人・知人と会う頻度】



性別にみると、年に数回以下の割合が、女性で 25.6%に対し、男性では 34.3%と、8.7 ポイント高くなっている。

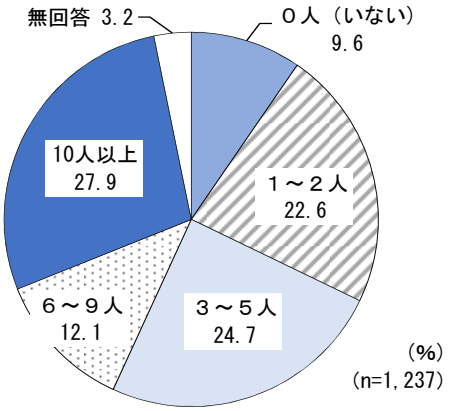
【性別　友人・知人と会う頻度】

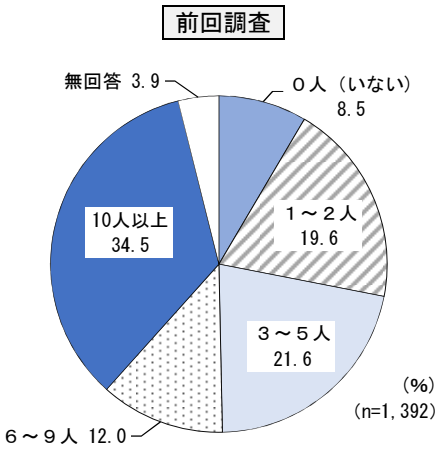


②１か月に会う友人・知人の人数

問 6(7)　この１か月間、何人の友人・知人と会いましたか（※同じ人には何度会っても１人と数える）

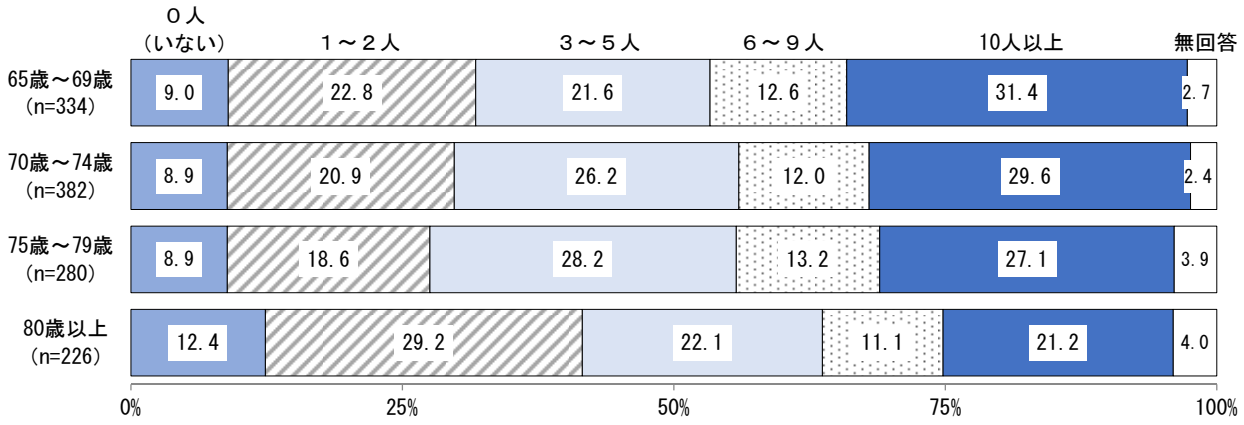
直近１か月間に会った友人・知人の人数としては、「10 人以上」が 27.9%と最も多く、次いで「３～５人」が 24.7%、「１～２人」が 22.6%となっている。一方、「０人（いない）」は約１割（9.6%）みられ、前回調査（8.5%）から 1.1 ポイント増えている。





年齢別にみると、74 歳以下では「10 人以上」が最も多く、65 歳～69 歳で 31.4%、70 歳～74 歳で 29.6%となっている。これに対し、75 歳～79 歳では「３～５人」が 28.2%、80 歳以上では「１～２人」が 29.2%と最も多い。

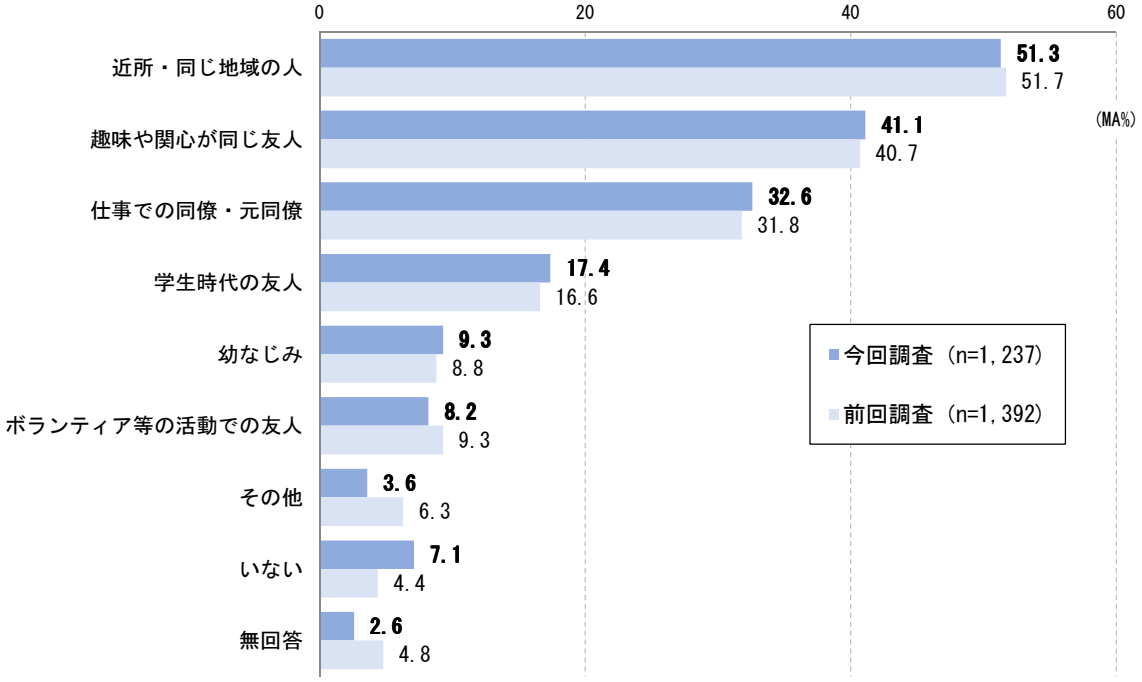
【年齢別　１か月に会う友人・知人の人数】



③友人・知人との関係

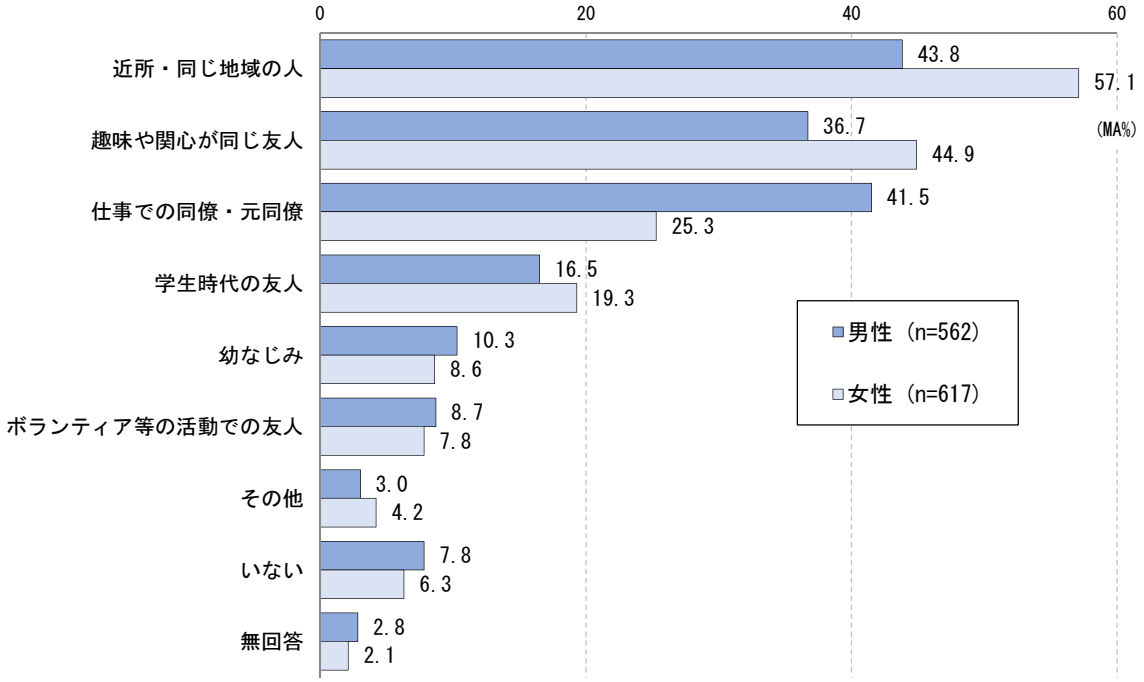
問 6(8) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか（いくつでも）

よく会う友人・知人との関係としては、「近所・同じ地域の人」が 51.3%と最も多く、次いで「趣味や関心が同じ友人」が 41.1%、「仕事での同僚・元同僚」が 32.6%となっており、前回調査と同じ傾向となっている。



性別にみると、「近所・同じ地域の人」が男性で 43.8%、女性で 57.1%と、ともに最も多くなっている。これに続くのが、男性では「仕事での同僚・元同僚」で 41.5%、女性では「趣味や関心が同じ友人」で 44.9%となっている。

【性別　友人・知人との関係】

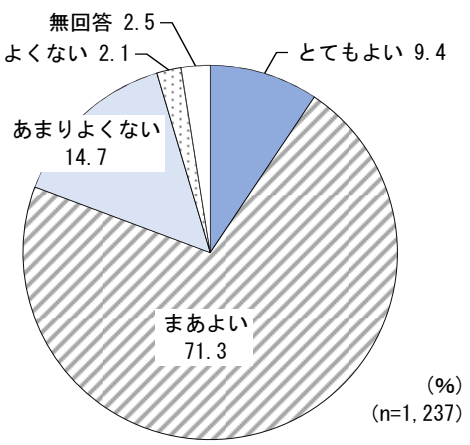


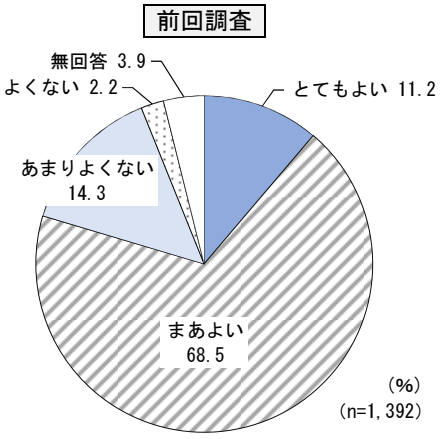
8　健康について

（１）主観的健康観

問 7(1)　現在のあなたの健康状態はいかがですか

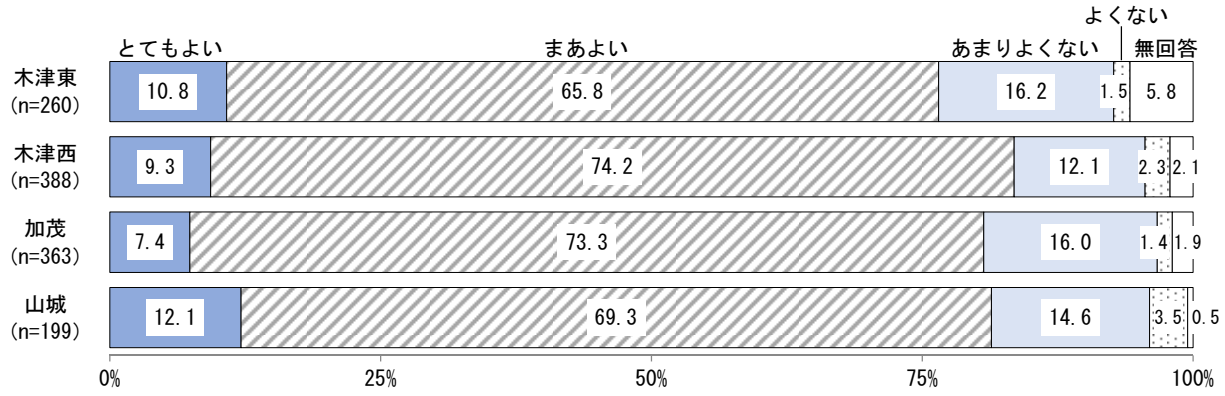
現在の健康状態としては、「まあよい」が７割台（71.3%）を占めている。一方、「あまりよくない」が 14.7%、「よくない」が 2.1%となっており、合わせると、健康状態がよくないという割合は１割台（16.8%）みられ、前回調査（16.5%）と同程度となっている。





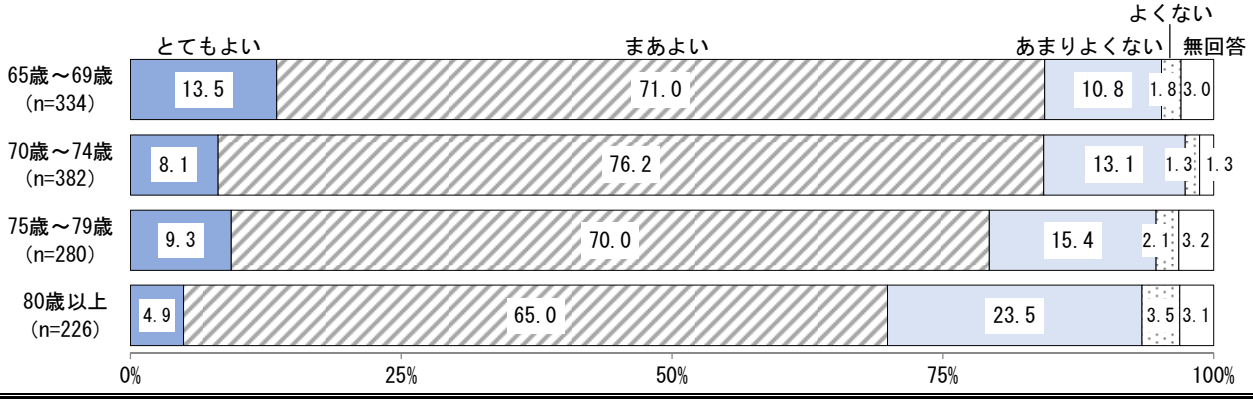
居住地区別にみると、健康状態がよくないという割合はいずれの地区も１割台となっている。

【居住地区別　主観的健康観】



年齢別にみると、健康状態がよくないという割合が、79 歳以下で１割台に対し、80 歳以上では 27.0%みられる。

【年齢別　主観的健康観】

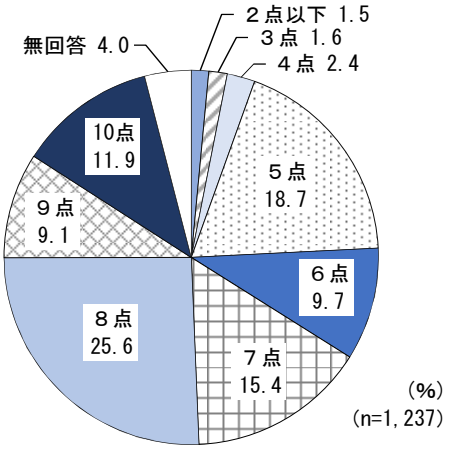


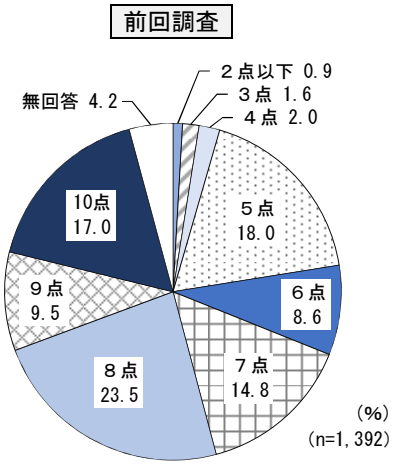
（２）主観的幸福感

問 7(2)　あなたは、現在どの程度幸せですか（「とても不幸」を０点、「とても幸せ」を 10 点として、ご記入ください）

現在どの程度幸せかを 10 点満点でたずねたところ、「８点」が 25.6%と最も高く、次いで「５点」が 18.7%、「７点」が 15.4%となっている。なお、平均点は 7.1 点となっている。

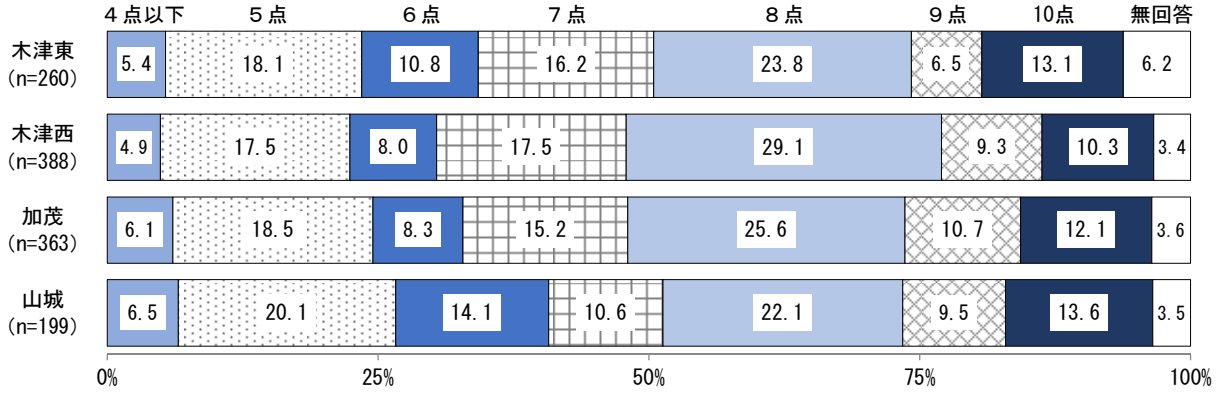
前回調査と比べると、「10 点」（今回 11.9%、前回 17.0%）が 5.1 ポイント減っている。





居住地区別にみると、いずれの地区も「８点」が２割台と最も多くなっている。一方、６点以下の割合が、山城地区で 40.7%と高くなっている。

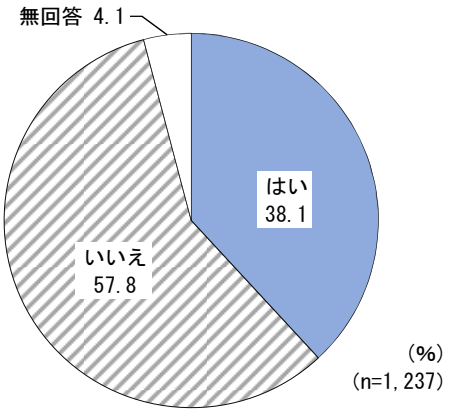
【居住地区別　主観的幸福感】

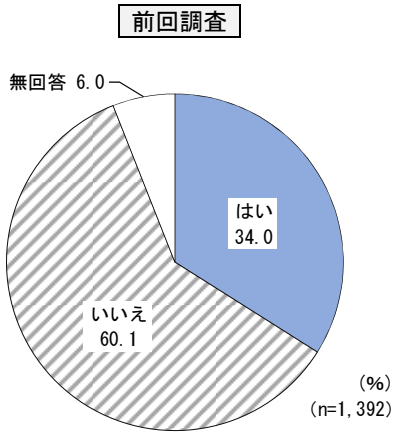


（３）ゆううつ感や物事に対する興味の喪失感など

問 7(3) この１か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか

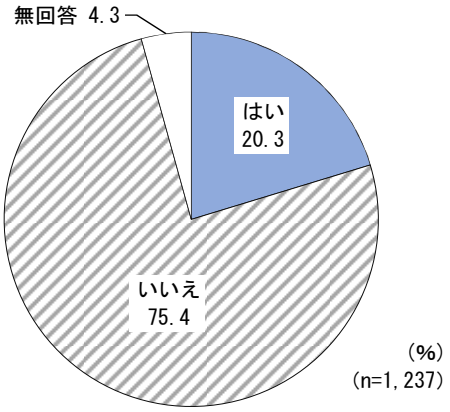
この１か月間にゆううつな気持ちになったりすることがあったという割合（「はい」）は４割弱（38.1%）となっている。

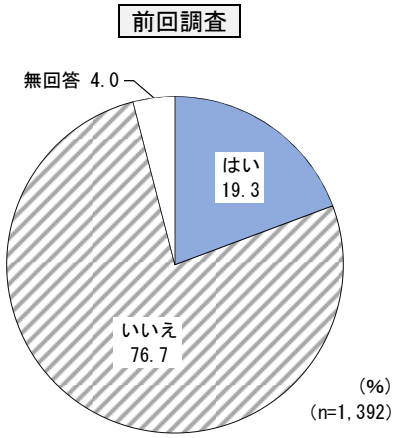




問 7(4) この１か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか

この１か月間に物事に対して興味がわかない感じがよくあったという割合（「はい」）は約２割（20.3%）となっている。

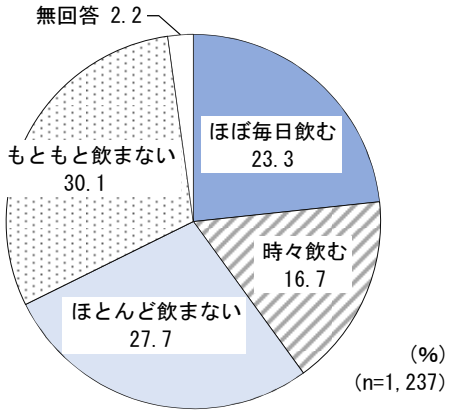


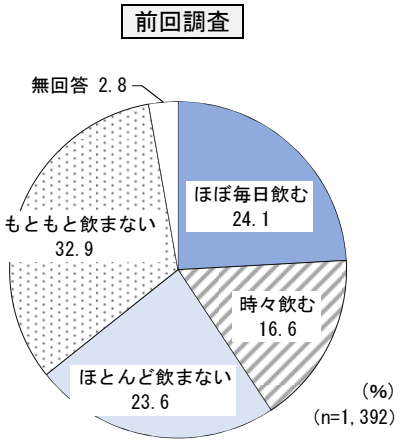


（４）飲酒習慣の有無

問 7(5) お酒は飲みますか

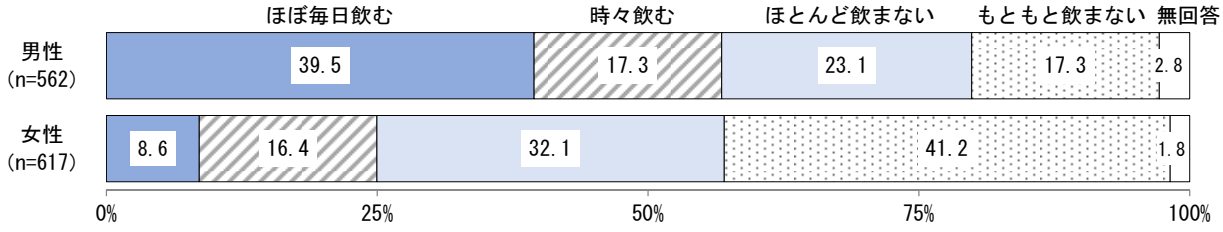
お酒について、「もともと飲まない」が 30.1%と最も多く、次いで多い「ほとんど飲まない」(27.7%)を合わせると、飲酒習慣がない割合が半数以上（57.8%）を占めており、前回調査（56.5%）と同程度となっている。一方、「ほぼ毎日飲む」は 23.3%みられる。





性別にみると、「ほぼ毎日飲む」が女性で 8.6%に対し、男性では 39.5%と、30.9 ポイント高くなっている。

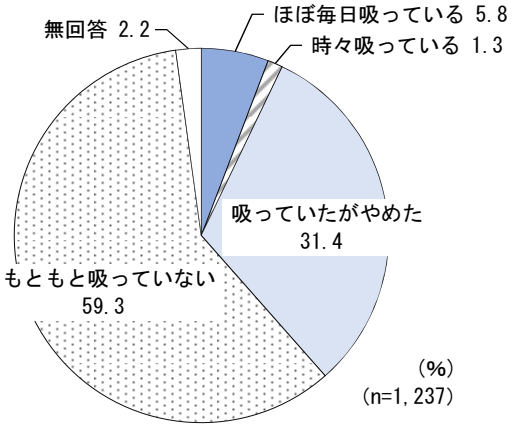
【性別　飲酒習慣の有無】

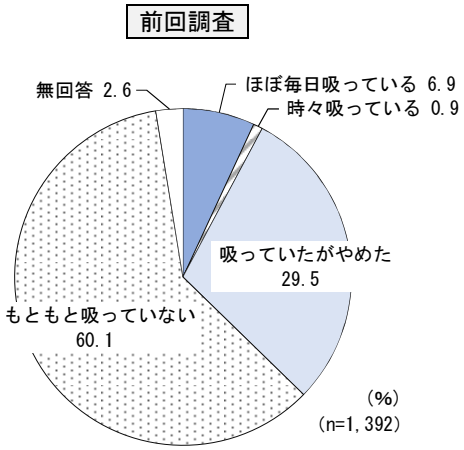


（５）喫煙習慣の有無

問 7(6) タバコは吸っていますか

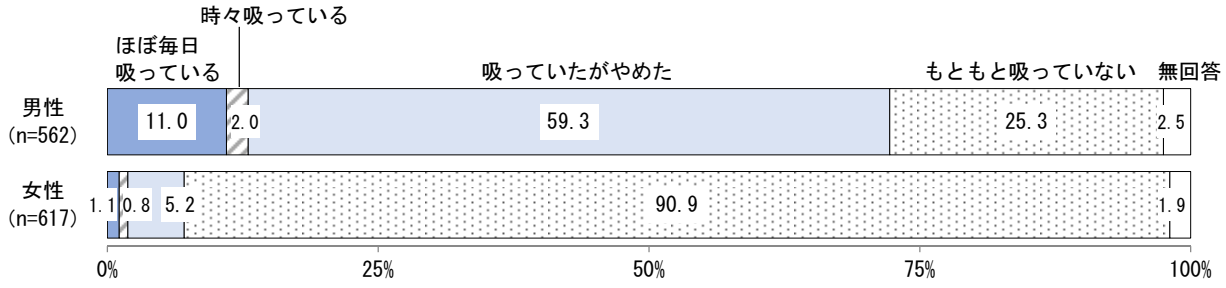
タバコについて、「もともと吸っていない」が約６割（59.3%）を占めており、次いで「吸っていたがやめた」が 31.4%となっている。一方、「ほぼ毎日吸っている」は 5.8%みられ、前回調査(6.9%)から 1.1 ポイント減っている。





性別にみると、喫煙習慣がある割合（「ほぼ毎日吸っている」「時々吸っている」の計）が、女性で 1.9%に対し、男性では 13.0%と、11.1 ポイント高くなっている。

【性別　喫煙習慣の有無】

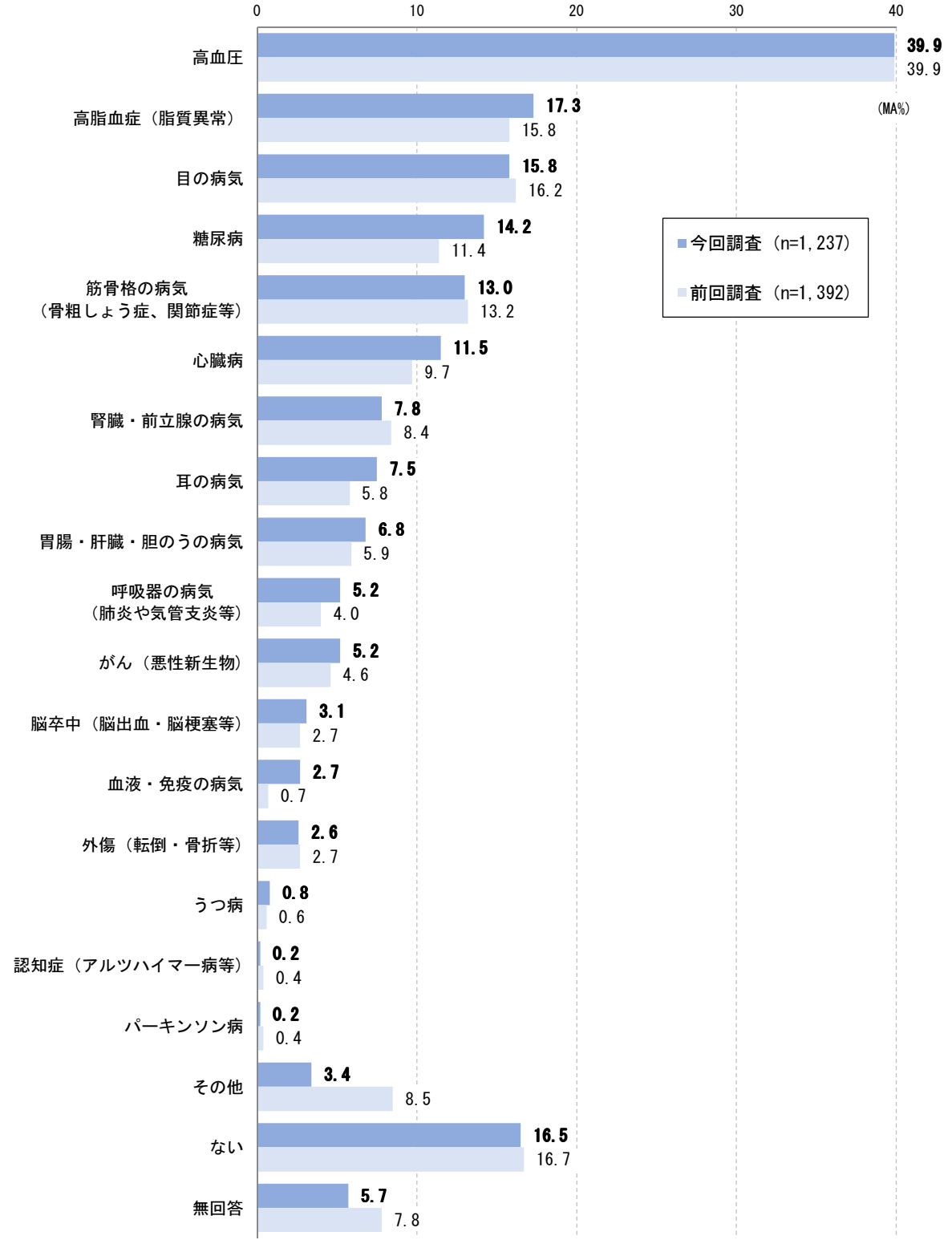


（６）治療中や後遺症のある病気

問 7(7) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか（いくつでも）

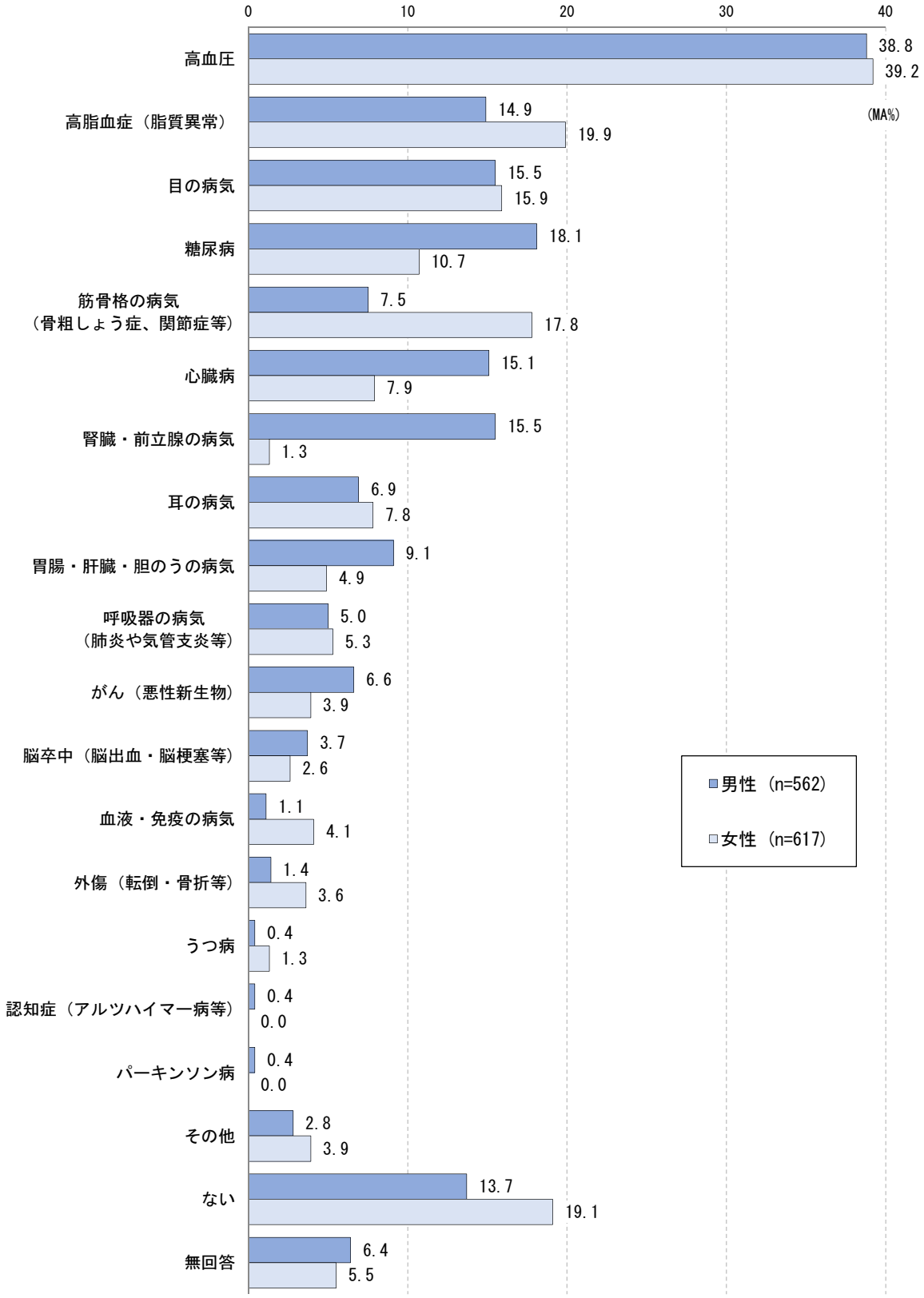
現在治療中または後遺症のある病気としては、「高血圧」が 39.9%と最も多く、次いで「高脂血症（脂質異常）」が 17.3%、「目の病気」が 15.8%、「糖尿病」が 14.2%、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」が 13.0%、「心臓病」が 11.5%となっている。

前回調査と比べると、「糖尿病」（前回 11.4%）、「心臓病」（前回 9.7%）が２～３ポイント程度増えている。



性別にみると、男女ともに「高血圧」が最も多く、男性で 38.8%、女性で 39.2%となっている。これに続くのが、男性では「糖尿病」が 18.1%、「目の病気」、「腎臓・前立腺の病気」がともに 15.5%、「心臓病」が 15.1%となっており、女性では「高脂血症（脂質異常）」が 19.9%、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」が 17.8%、「目の病気」が 15.9%となっている。

【性別　治療中や後遺症のある病気】

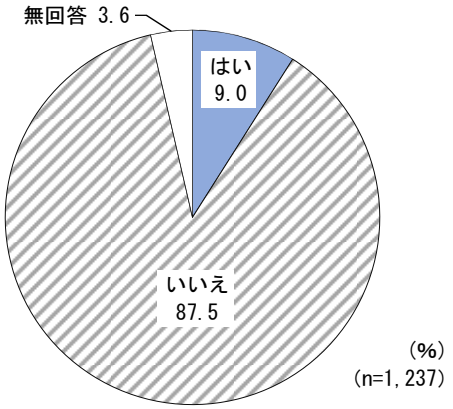


9　認知症について

（１）認知症の症状の有無

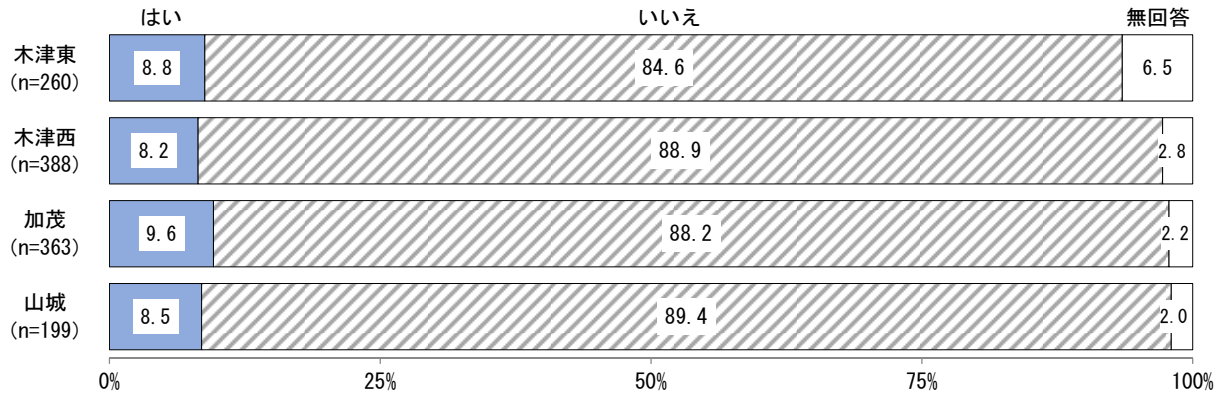
問 8(1)　認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか

自身または家族に認知症の症状があるという割合（「はい」）は約１割（9.0%）となっている。



居住地区別にみると、自身または家族に認知症の症状があるという割合はいずれの地区も１割未満となっており、加茂地区で 9.6%と最も高い。

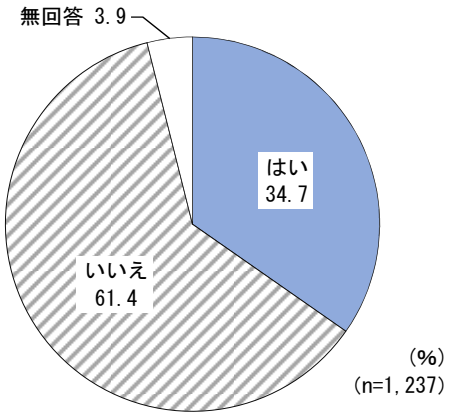
【居住地区別　認知症の症状の有無】



（２）認知症に関する相談窓口の認知度

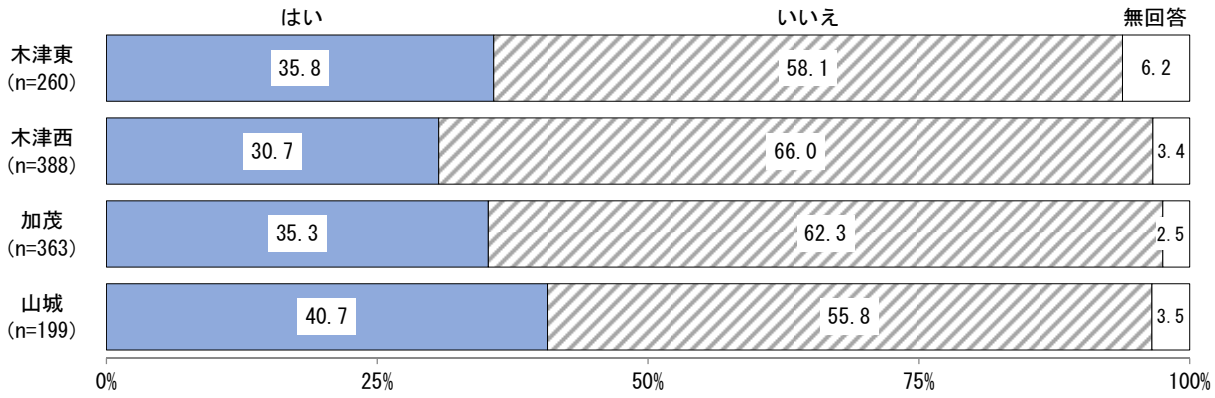
問 8(2) 認知症に関する相談窓口（地域包括支援センターなど）を知っていますか

認知症に関する相談窓口を知っているという割合（「はい」）は３割台（34.7%）となっている。



居住地区別にみると、認知症に関する相談窓口を知っているという割合が、山城地区で 40.7%と最も高く、木津西地区で 30.7%と最も低くなっている。

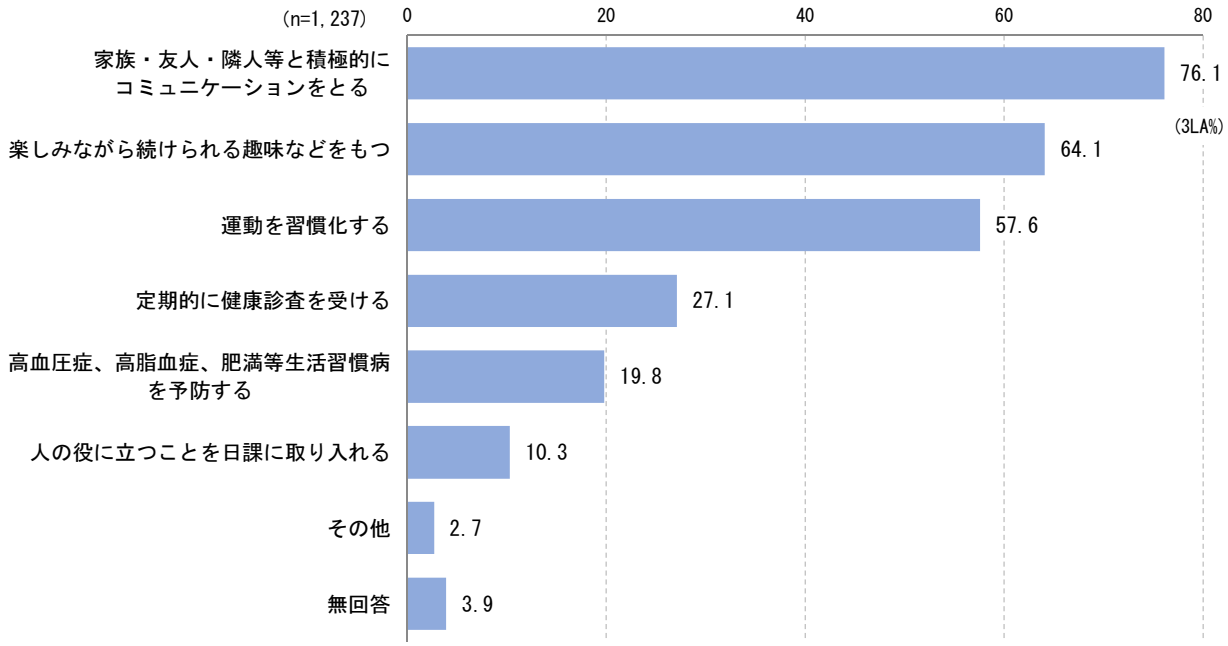
【居住地区別　認知症に関する相談窓口の認知度】



（３）認知症予防として重要な方法

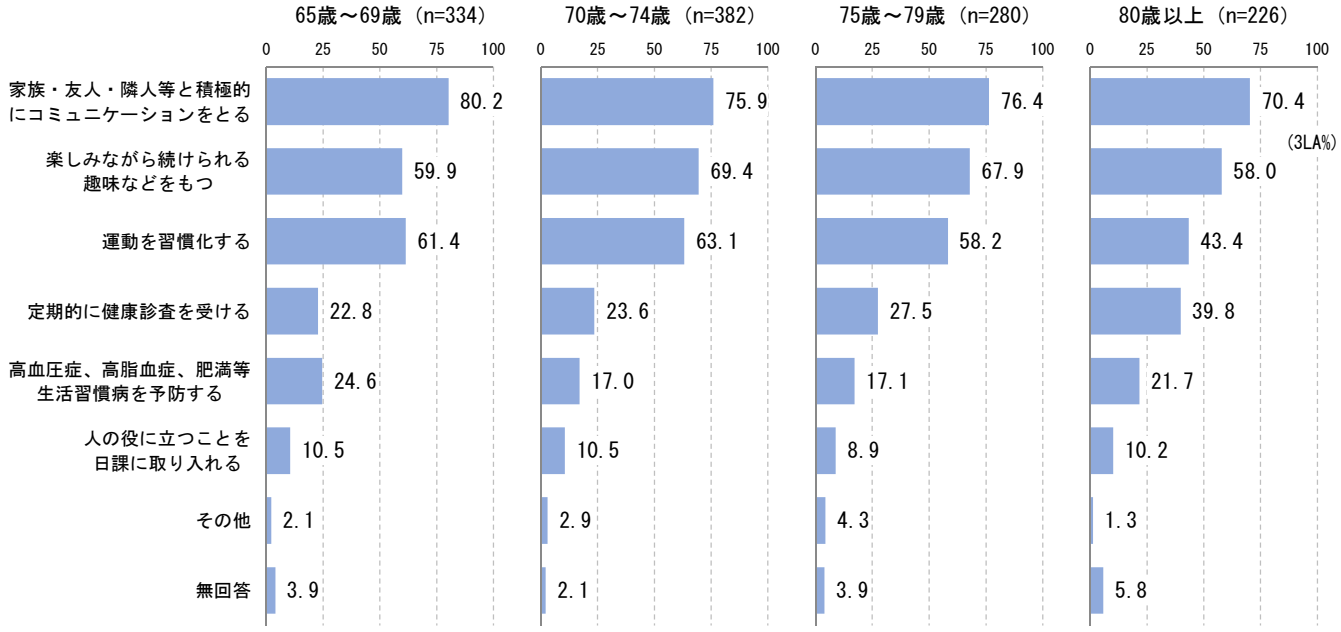
問 8(3)　あなたにとって認知症予防の方法として、重要なものは次のうち、どれだと思いますか（あてはまるもの３つまでに○）

認知症予防の方法として重要と思うものとしては、「家族・友人・隣人等と積極的にコミュニケーションをとる」が 76.1%と最も多く、次いで「楽しみながら続けられる趣味などをもつ」が 64.1%、「運動を習慣化する」が 57.6%となっている。



年齢別にみると、いずれの年齢も「家族・友人・隣人等と積極的にコミュニケーションをとる」が７～８割台と最も多くなっている。また、80 歳以上において、「定期的に健康診査を受ける」が 39.8%と高いのに対し、「運動を習慣化する」が 43.4%と低い。

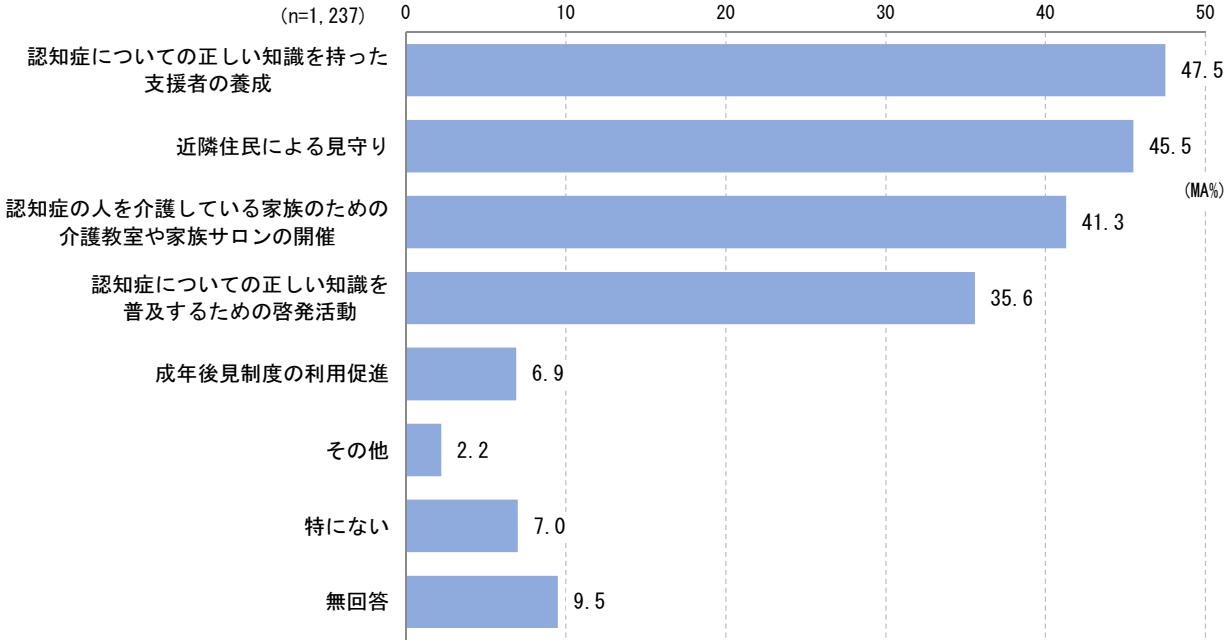
【年齢別　認知症予防として重要な方法】



（４）認知症の人への支援で必要なこと

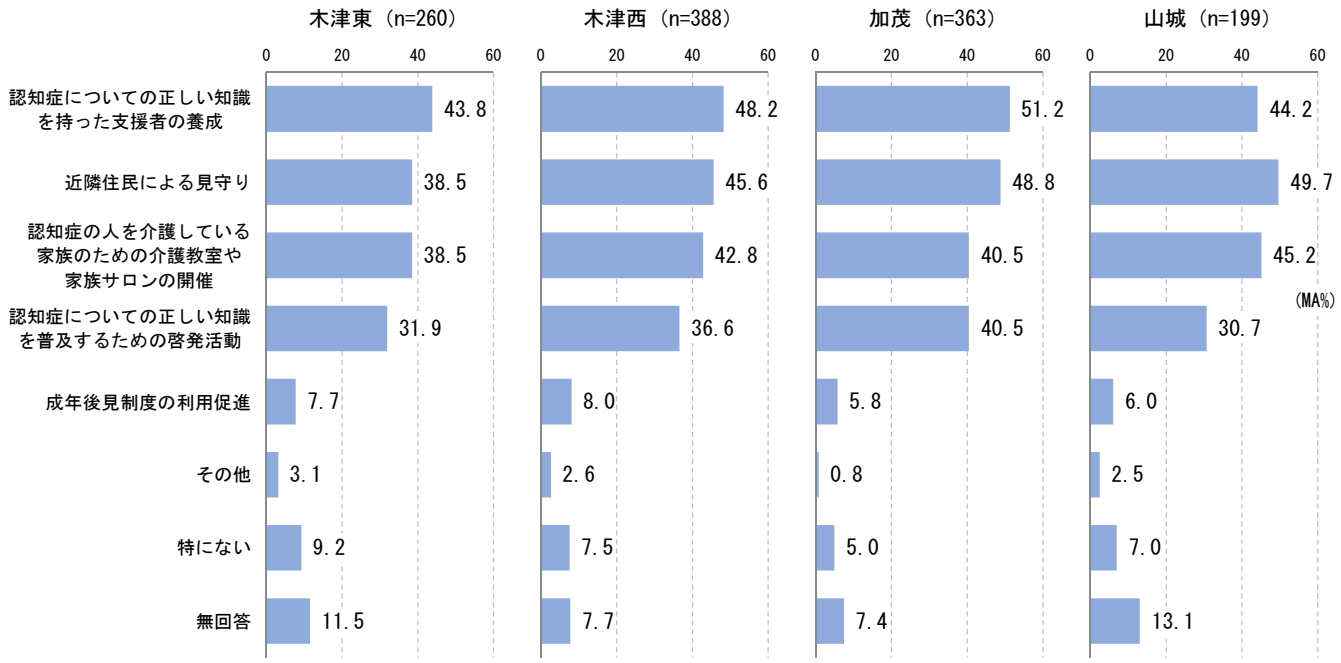
問 8(4) 認知症の人への支援で必要なことはどのようなことだと思いますか（いくつでも）

認知症の人への支援で必要と思うこととしては、「認知症についての正しい知識を持った支援者の養成」が 47.5%と最も多く、次いで「近隣住民による見守り」が 45.5%となっている。



居住地区別にみると、山城地区では「近隣住民による見守り」が 49.7%と最も多いのに対し、そのほかの地区ではいずれも「認知症についての正しい知識を持った支援者の養成」が最も多く、加茂地区で 51.2%、木津西地区で 48.2%、木津東地区で 43.8%となっている。

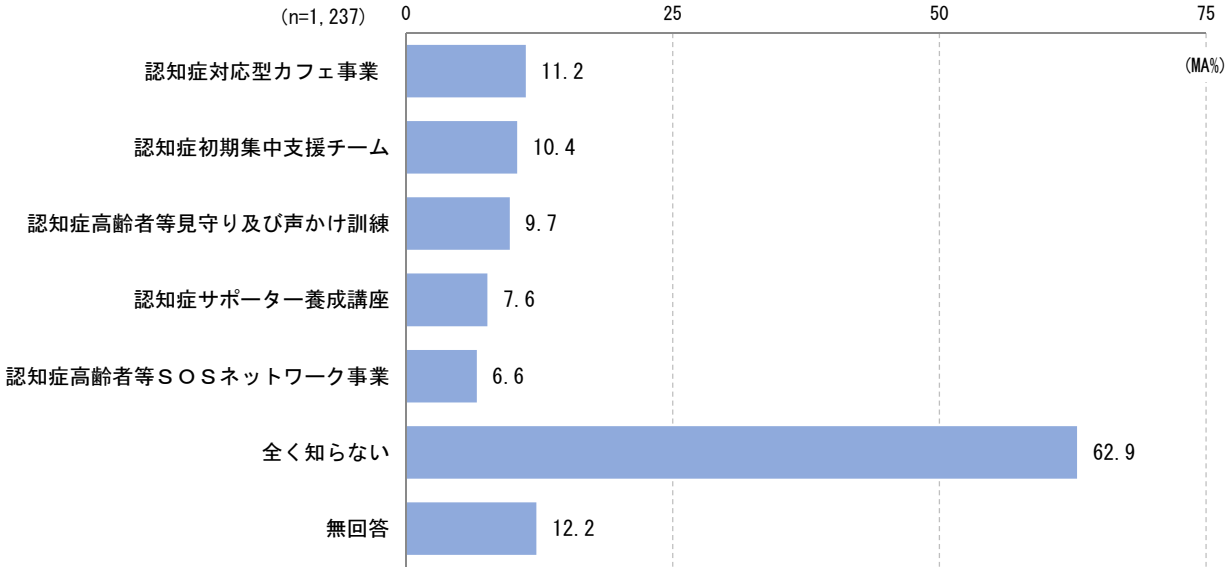
【居住地区別　認知症の人への支援で必要なこと】



（５）認知症に関する事業の認知度

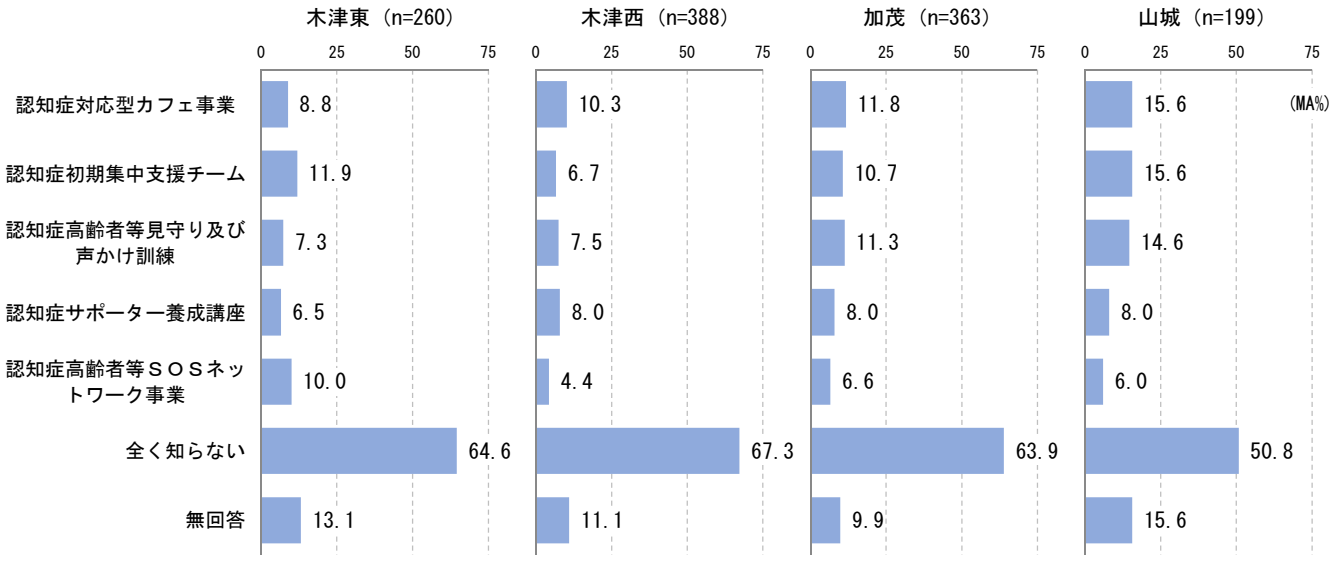
問 8(5) 木津川市が実施している認知症に関する事業を知っていますか（いくつでも）

市が実施している認知症に関するいずれかの事業を知っているという割合（「全く知らない」及び無回答を除いた割合）は、全体の２割台（24.9%）となっており、具体的には「認知症対応型カフェ事業」が 11.2%、「認知症初期集中支援チーム」が 10.4%などとなっている。



居住地区別にみると、いずれかの事業を知っているという割合が、山城地区で 33.7%と最も高く、次いで加茂地区で 26.2%、木津東地区で 22.3%、木津西地区で 21.6%となっている。

【居住地区別　認知症に関する事業の認知度】

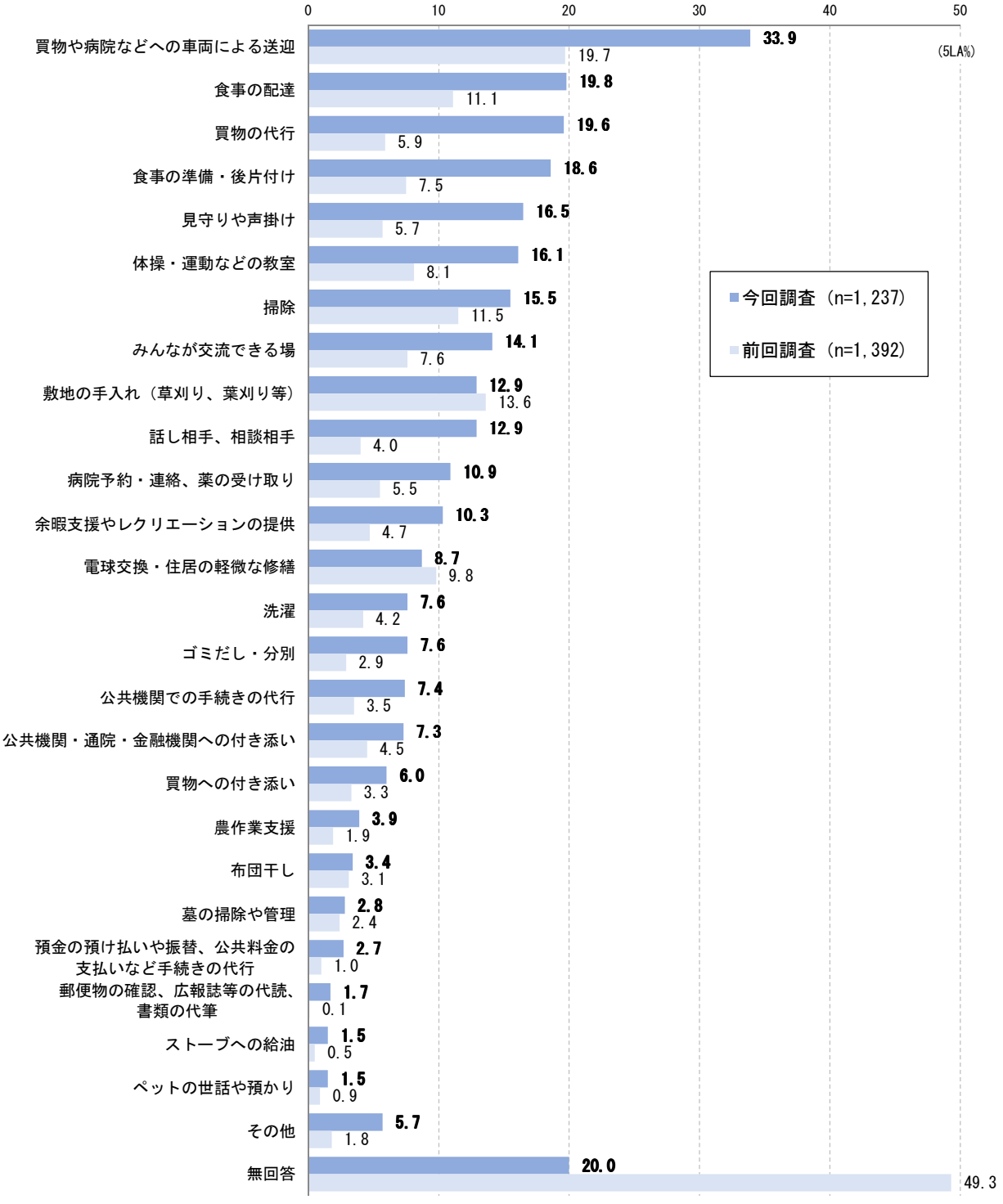


10　その他

（１）利用したいサービス

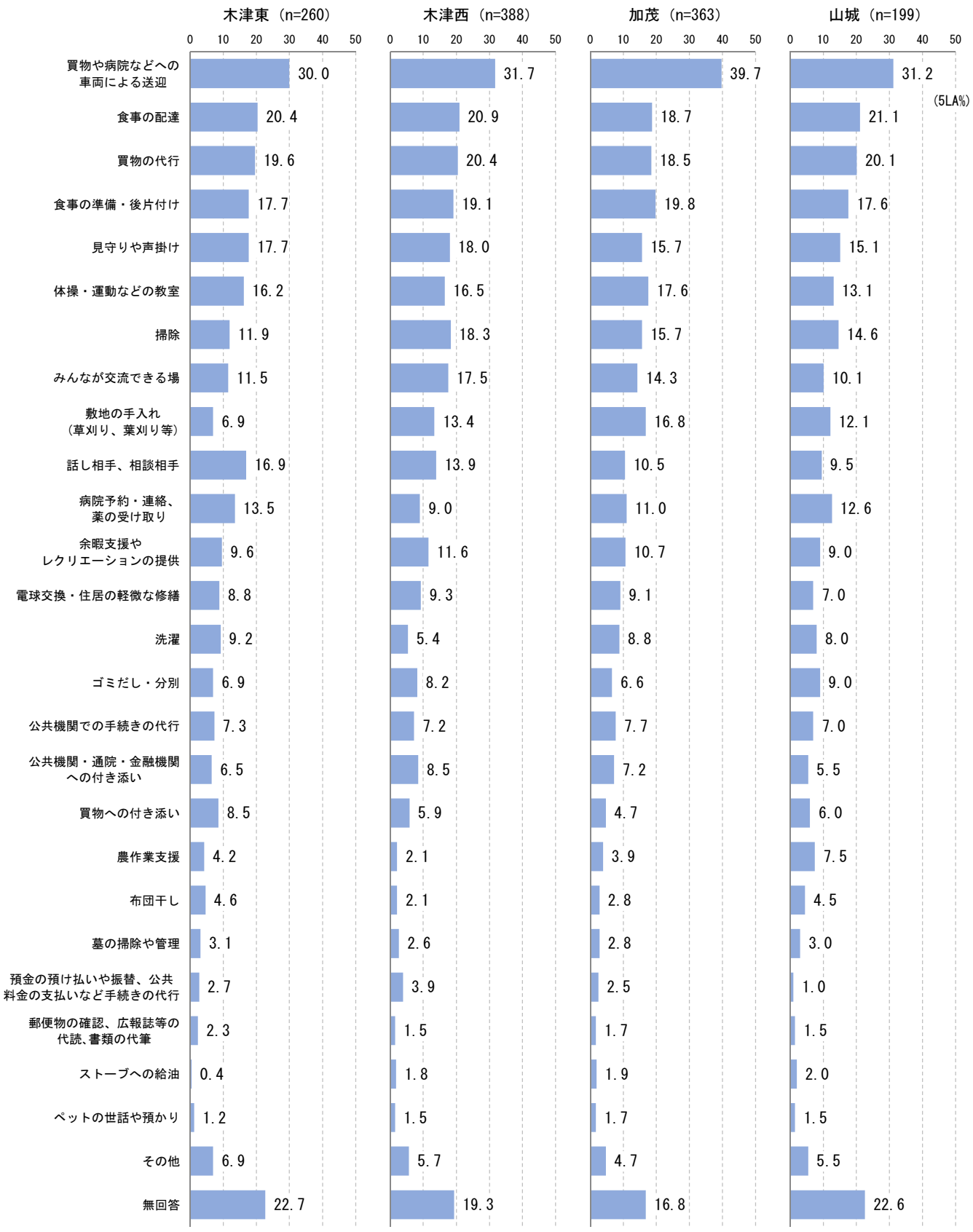
問 9(1) 在宅生活を続ける上で、利用したいと考えるサービスはどれですか（あてはまるもの５つまでに○）

在宅生活を続ける上で、利用したいと考えるサービスとしては、「買物や病院などへの車両による送迎」が 33.9%と最も多く、前回調査（19.7%）から 14.2 ポイント増えている。これに続くのが、「食事の配達」で 19.8%、「買物の代行」で 19.6%、「食事の準備・後片付け」で 18.6%、「見守りや声掛け」で 16.5%となっている。



居住地区別にみると、いずれの地区も「買物や病院などへの車両による送迎」が３割台と最も多くなっており、特に、加茂地区で 39.7％と高い。

【居住地区別　利用したいサービス】

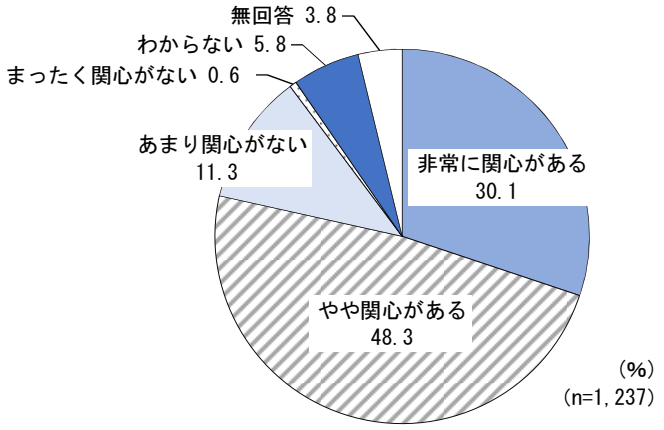


（２）介護予防事業の利用状況

①介護予防についての関心度

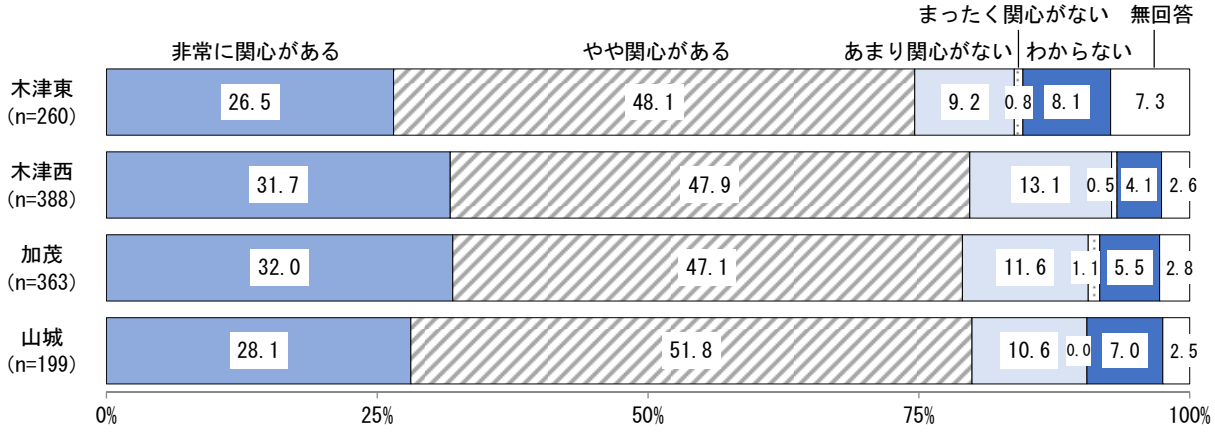
問 9(2)-1 あなたは、介護予防（介護が必要になることを予防すること）について関心がありますか

介護予防について、「やや関心がある」が半数近く（48.3%）を占め、次いで「非常に関心がある」が 30.1%となっており、合わせると、関心があるという割合は８割弱（78.4%）となっている。



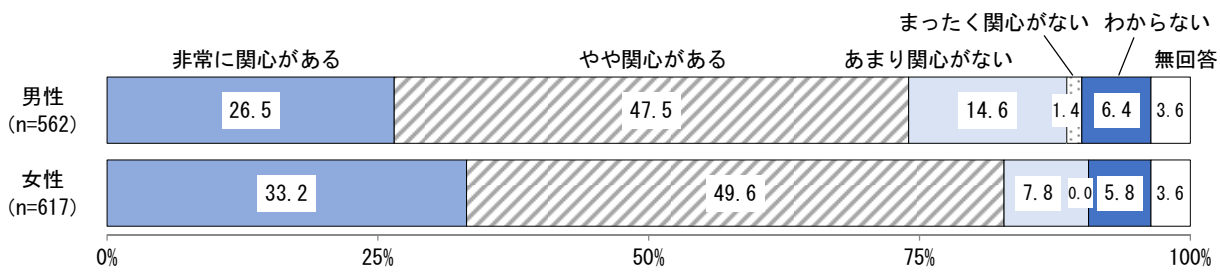
居住地区別にみると、関心があるという割合はいずれの地区も７割台を占めており、「非常に関心がある」が、加茂地区で 32.0%、木津西地区で 31.7%と高い。

【居住地区別　介護予防についての関心度】



性別にみると、関心があるという割合が、男性で 74.0%に対し、女性では 82.8%と、8.8 ポイント高くなっている。

【性別　介護予防についての関心度】

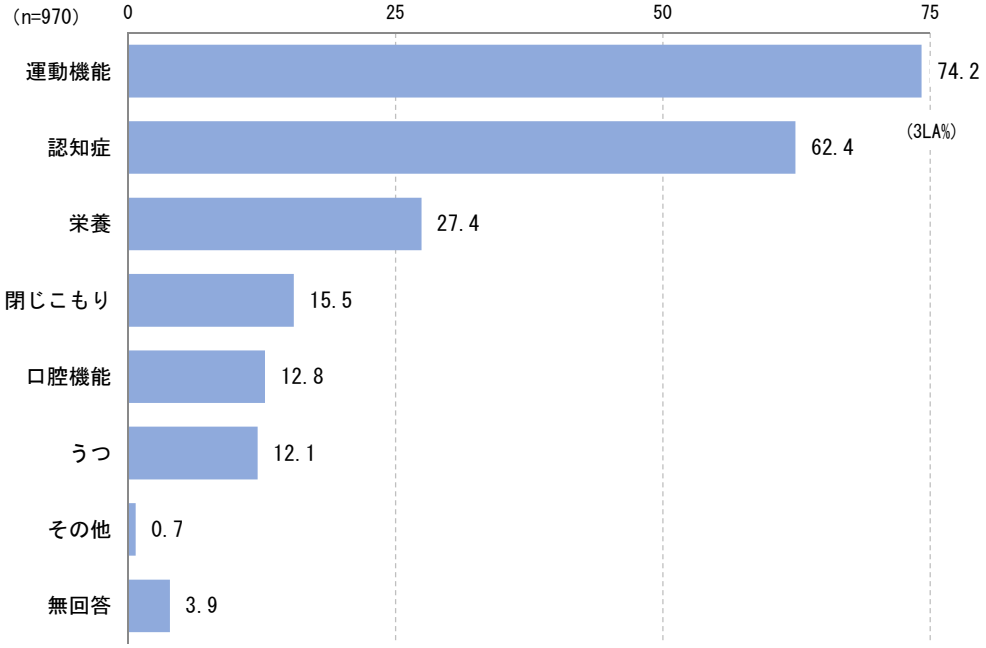


②関心がある介護予防の内容

【問 9(2)-1 で「非常に関心がある」又は「やや関心がある」と回答の方のみ】

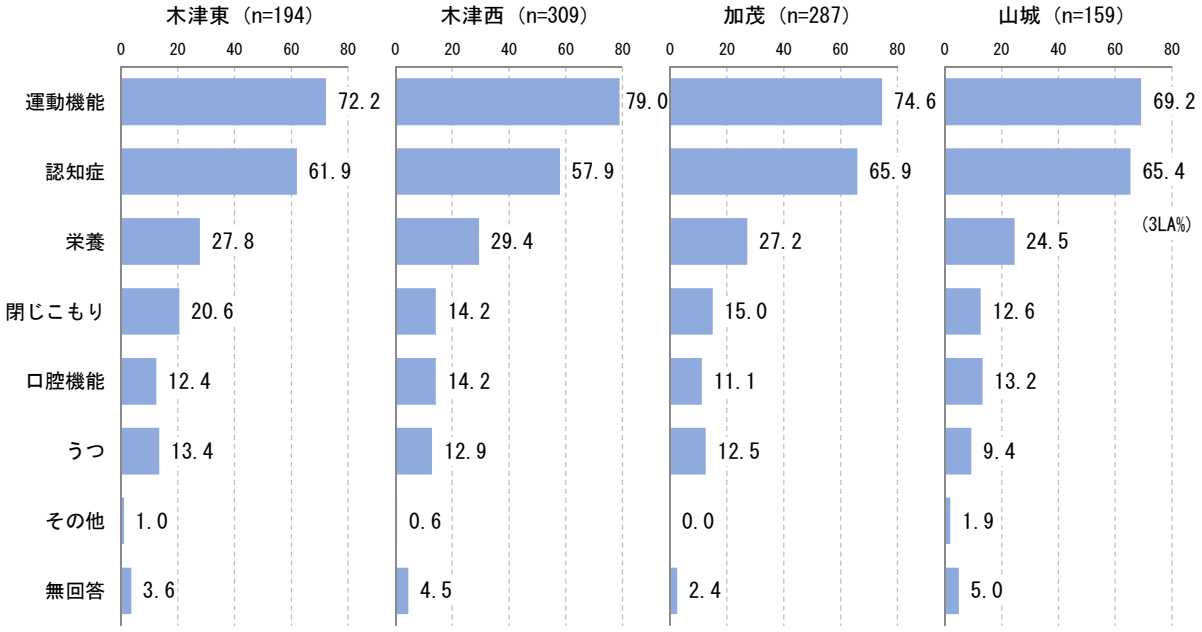
問 9(2)-1-1 どのような介護予防に関心がありますか（あてはまるもの３つまでに○）

介護予防に関心があるという人の具体的な内容としては、「運動機能」が 74.2%、「認知症」が 62.4%と多く、次いで「栄養」が 27.4%となっている。



居住地区別にみると、いずれの地区も「運動機能」が６～７割台と最も多く、次いで「認知症」が５～６割台となっている。

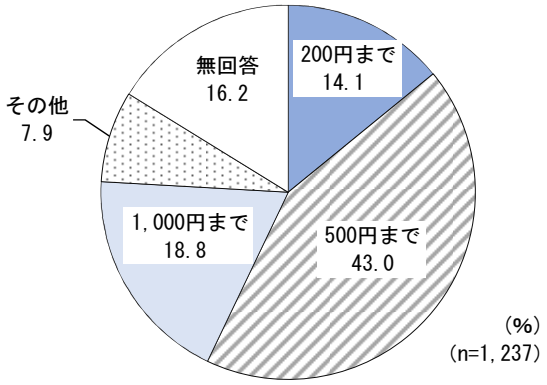
【居住地区別　関心がある介護予防の内容】



③介護予防事業の参加費の許容額

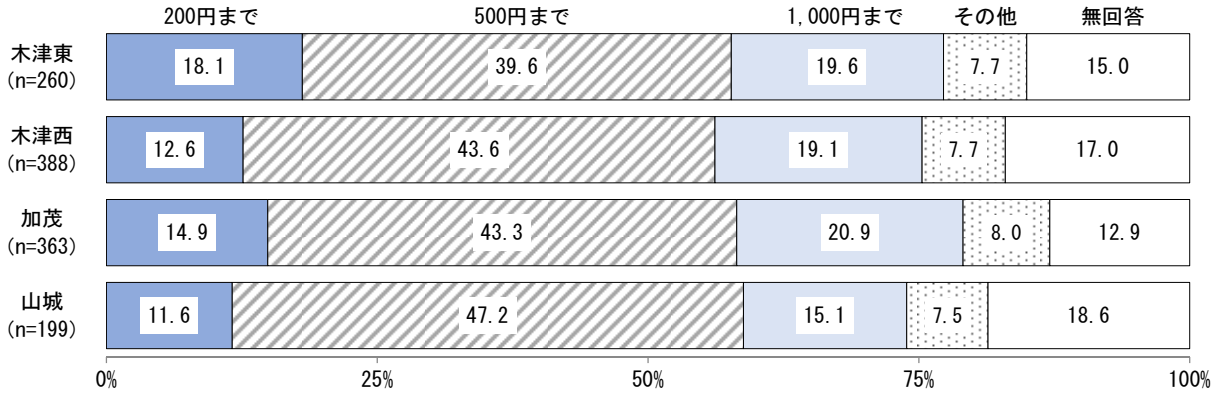
問 9(2)-2 あなたは、介護予防事業の参加について１回いくらまで出費することが出来ますか

介護予防事業の参加について１回に出費できる金額としては、「500 円まで」が４割台（43.0%）と最も多く、次いで「1,000 円まで」が 18.8%、「200 円まで」が 14.1%となっている。



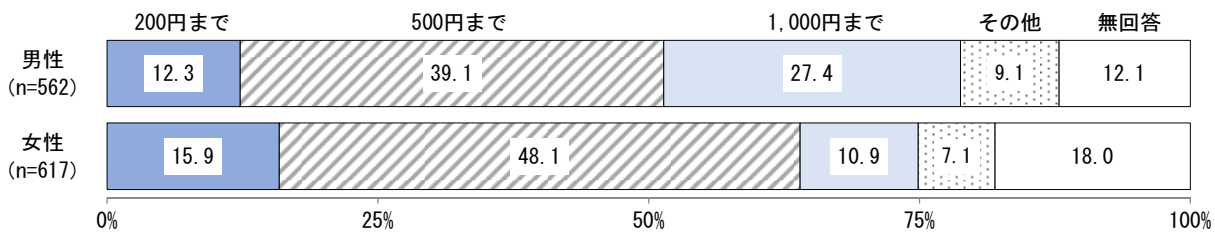
居住地区別にみると、いずれの地区も「500 円まで」が最も多くなっている。一方、「200 円まで」は木津東地区で 18.1%、「1,000 円まで」は加茂地区で 20.9%と、それぞれ最も高い。

【居住地区別　介護予防事業の参加費の許容額】



性別にみると、「1,000 円まで」が、女性で 10.9%に対し、男性では 27.4%と、16.5 ポイント高くなっている。

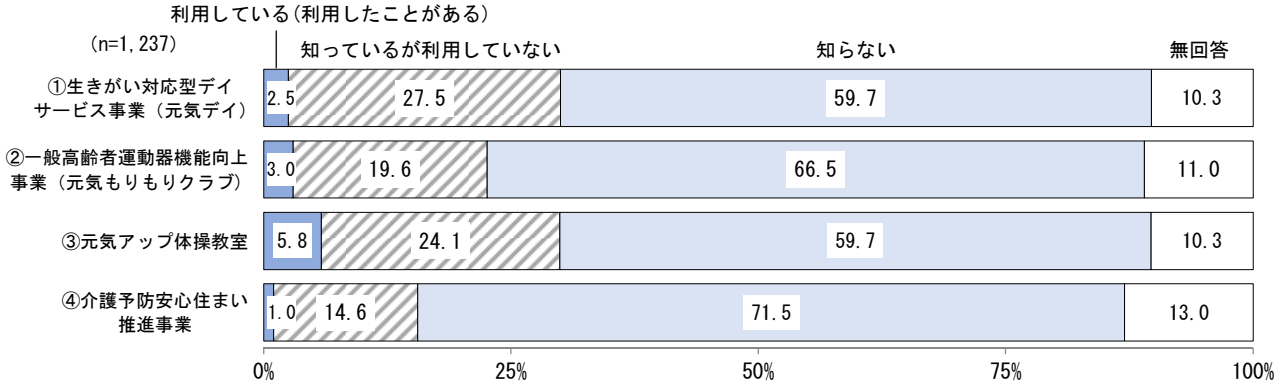
【性別　介護予防事業の参加費の許容額】



④介護予防事業の利用経験

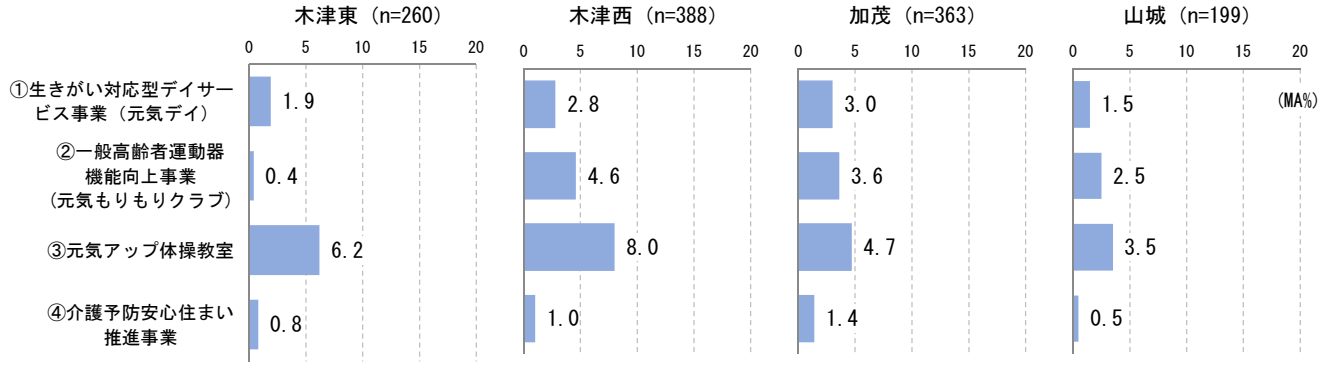
問 9(2)-3 あなたは次の介護予防事業を利用したことがありますか

介護予防事業の利用経験として４項目についてたずねたところ、「利用している（利用したことがある）」はいずれも１割未満となっており、『③元気アップ体操教室』で 5.8%などとなっている。一方、「知っているが利用していない」は『①生きがい対応型デイサービス事業（元気デイ）』で 27.5%、「知らない」は『④介護予防安心住まい推進事業』で 71.5%と、それぞれ最も高くなっている。



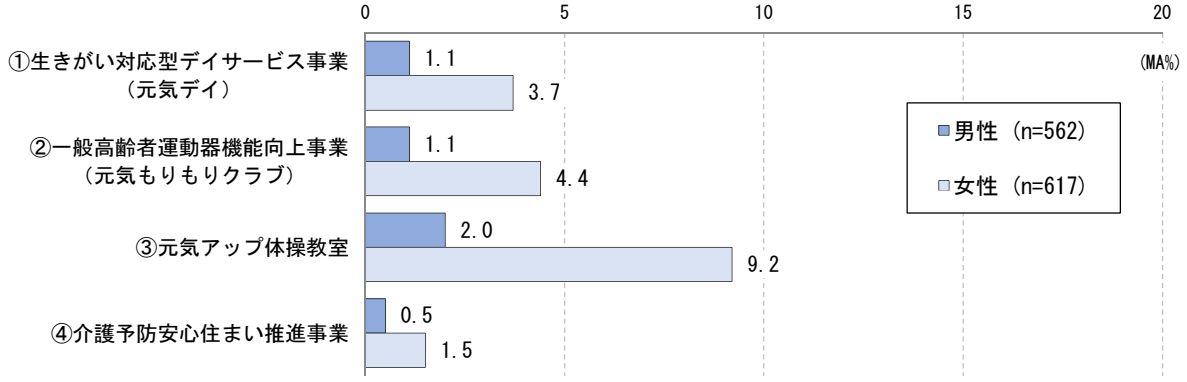
「利用している（利用したことがある）」について、居住地区別にみると、いずれの地区も『③元気アップ体操教室』が最も多く、木津西地区で 8.0%、木津東地区で 6.2%と高い。

【居住地区別　介護予防事業の利用経験】　（※「利用している（利用したことがある）」）



性別にみると、いずれの項目も男性に比べて女性のほうが「利用している（利用したことがある）」は高くなっており、『③元気アップ体操教室』が女性で 9.2%などとなっている。

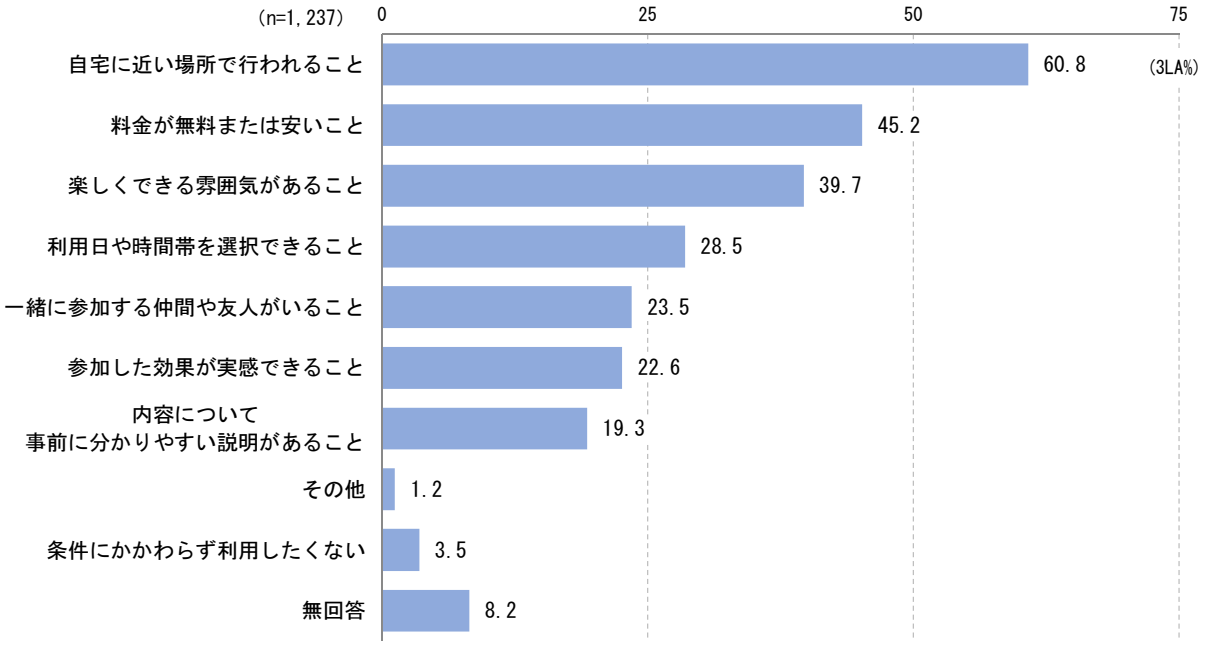
【性別　介護予防事業の利用経験】　（※「利用している（利用したことがある）」）



⑤介護予防事業の利用に必要な条件

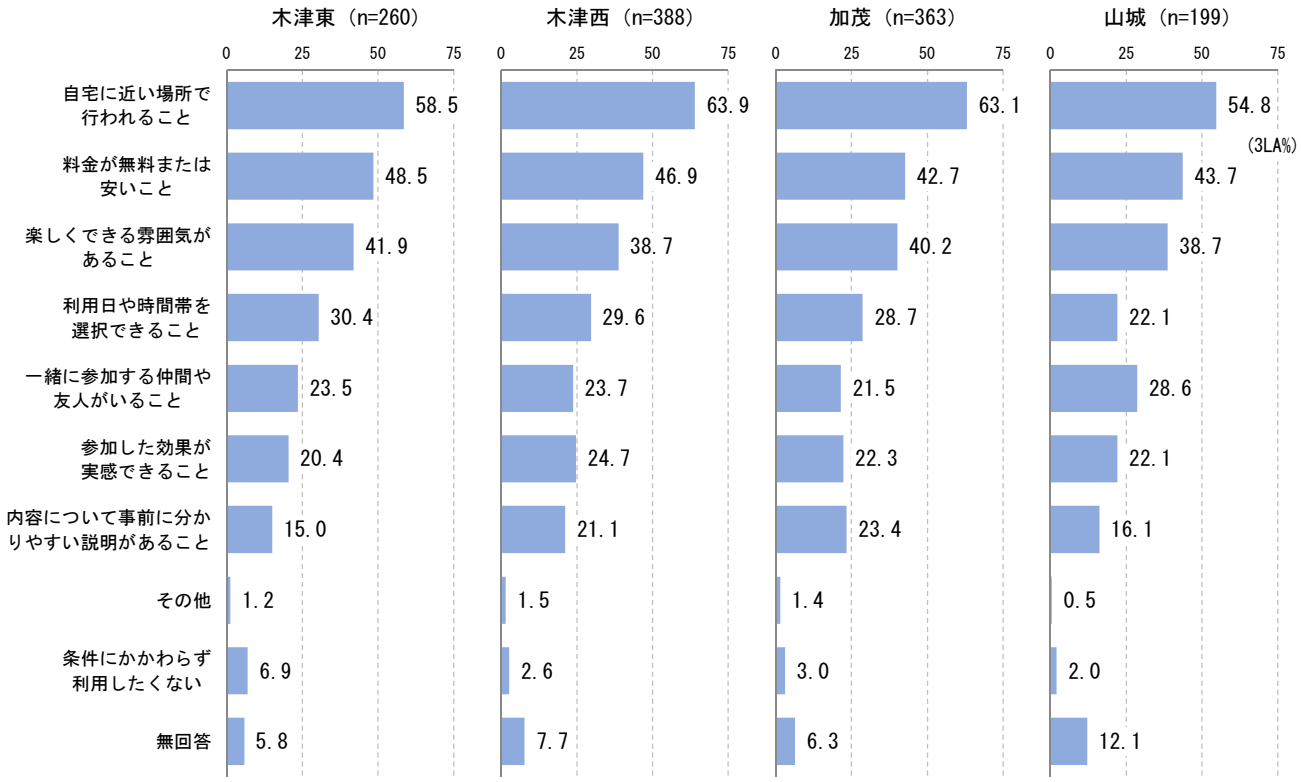
問 9(2)-4 介護予防事業を利用するために必要な条件は何だと思いますか（あてはまるもの３つまでに○）

介護予防事業を利用するために必要と思う条件としては、「自宅に近い場所で行われること」が 60.8%と最も多く、次いで「料金が無料または安いこと」が 45.2%、「楽しくできる雰囲気があること」が 39.7%となっている。



居住地区別にみると、いずれの地区も「自宅に近い場所で行われること」が５～６割台と最も多くなっており、特に、木津西地区で 63.9%、加茂地区で 63.1%と高い。

【居住地区別　介護予防事業の利用に必要な条件】

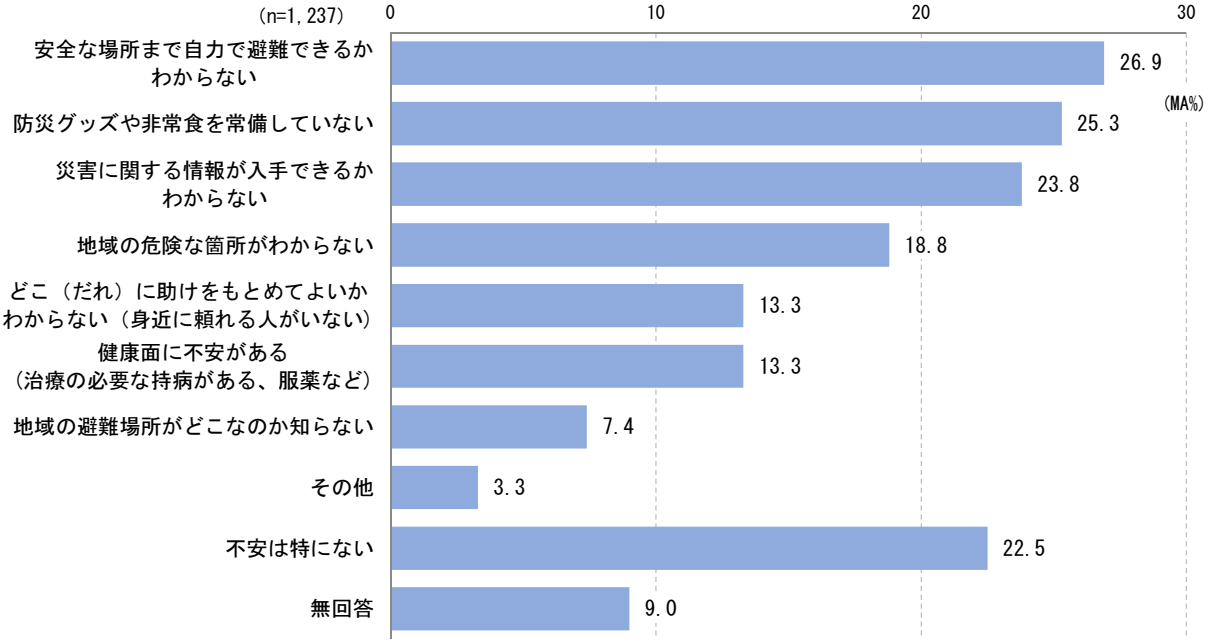


（３）災害時の対応

①災害時に対する不安

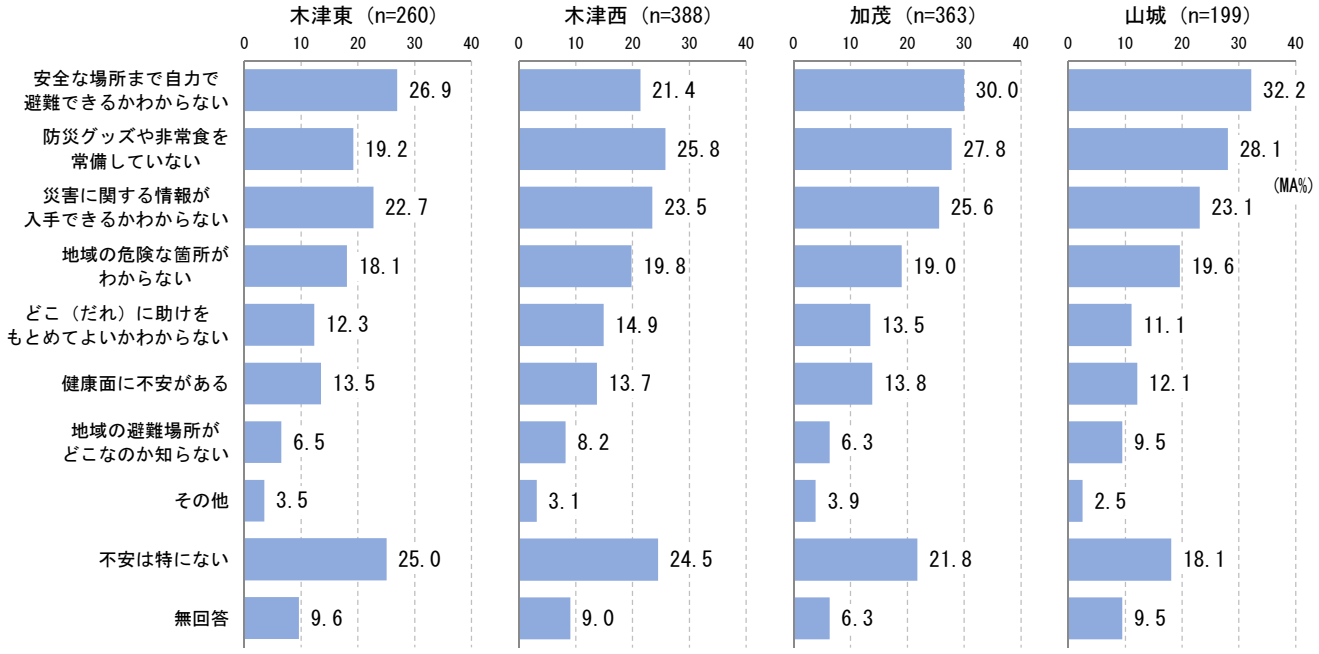
問 9(3)-1 地震や風水害などの災害時に対し、不安に思うことはありますか（いくつでも）

災害時に対して不安に思うこととしては、「安全な場所まで自力で避難できるかわからない」が 26.9%と最も多く、次いで「防災グッズや非常食を常備していない」が 25.3%、「災害に関する情報が入手できるかわからない」が 23.8%となっている。一方、「不安は特にない」は２割台（22.5%）みられる。



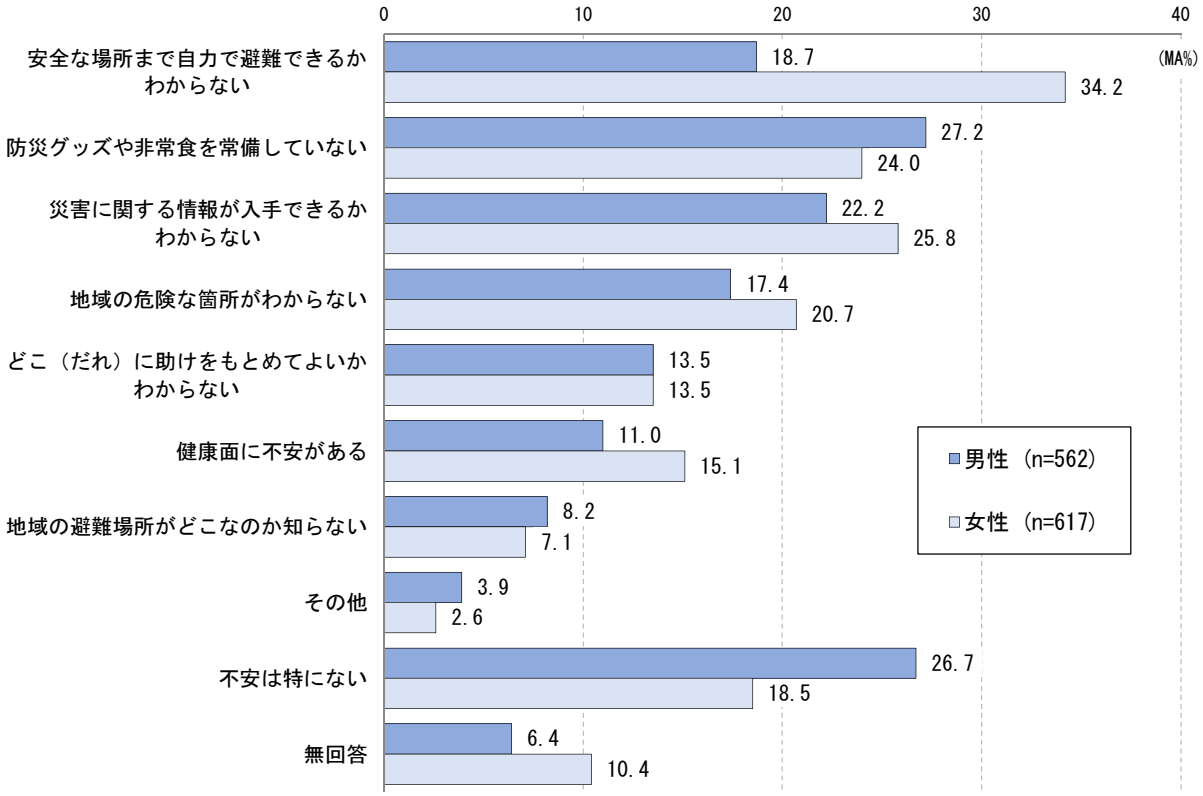
居住地区別にみると、木津西地区では「防災グッズや非常食を常備していない」が 25.8%と最も多いのに対し、そのほかの地区ではいずれも「安全な場所まで自力で避難できるかわからない」が最も多く、山城地区で 32.2%、加茂地区で 30.0%、木津東地区で 26.9%となっている。

【居住地区別　災害時に対する不安】



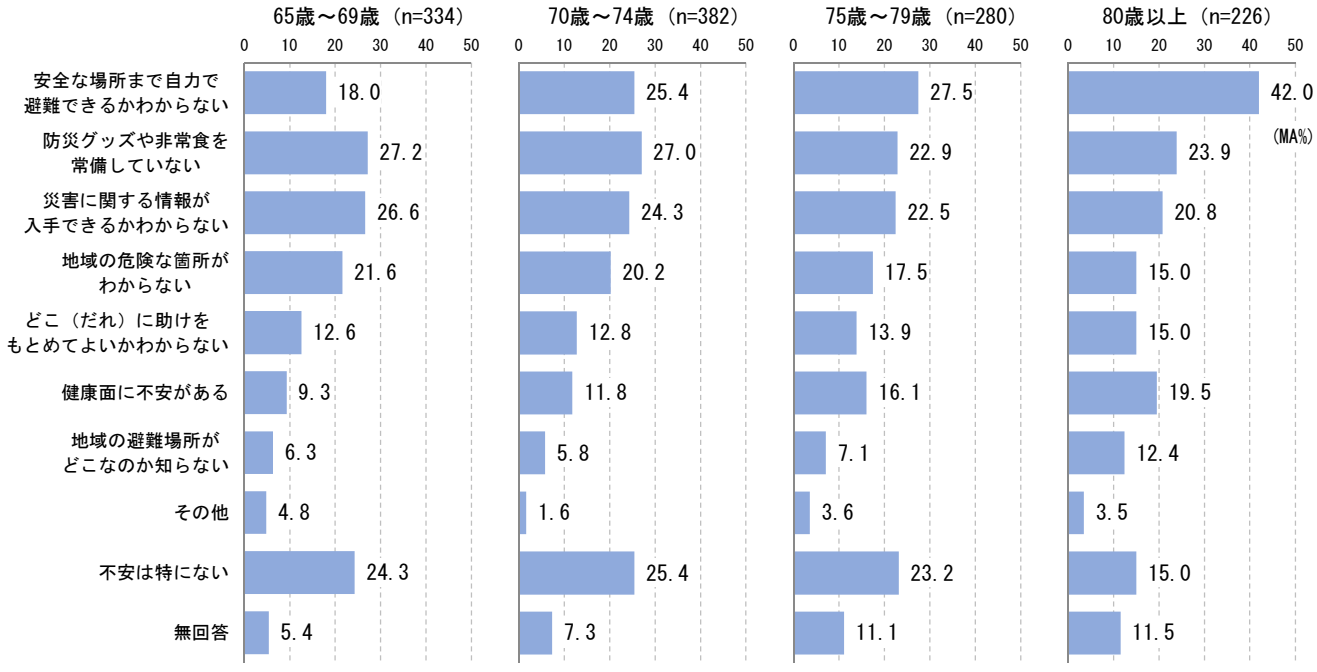
性別にみると、「安全な場所まで自力で避難できるかわからない」が、男性で 18.7%に対し、女性では 34.2%と、15.5 ポイント高くなっている。

【性別　災害時に対する不安】



年齢別にみると、「安全な場所まで自力で避難できるかわからない」が、80 歳以上で 42.0%と、79 歳以下（１～２割台）に比べて高い割合となっている。

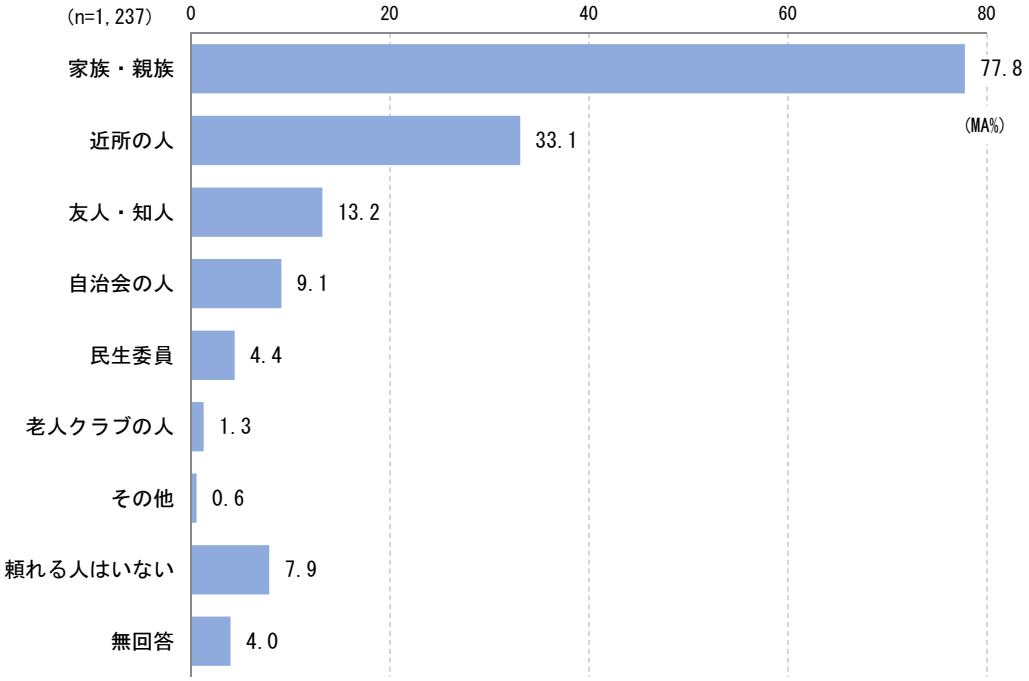
【年齢別　災害時に対する不安】



②避難時に頼れる人

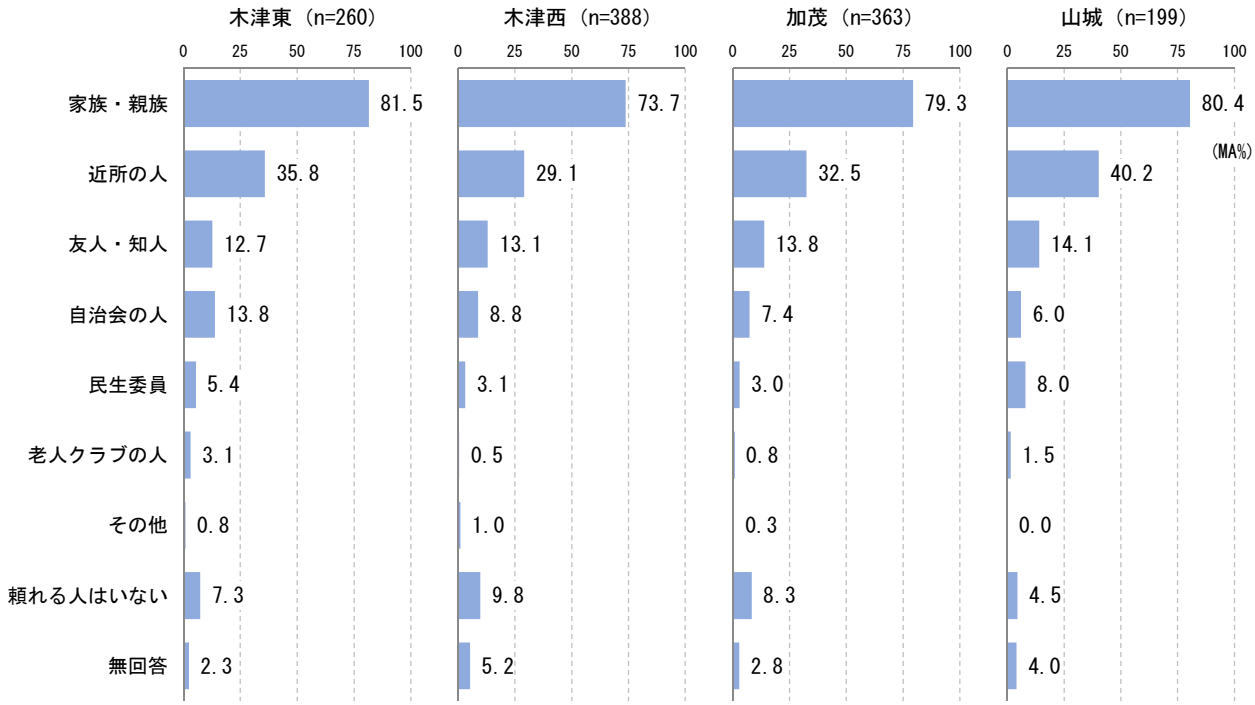
問 9(3)-2 災害等で避難が必要な際、頼れる人はいますか（いくつでも）

災害等で避難が必要な際に頼れる人としては、「家族・親族」が 77.8%と最も多く、次いで「近所の人」が 33.1%、「友人・知人」が 13.2%となっている。



居住地区別にみると、いずれの地区も、「家族・親族」が７～８割台と最も多く、次いで「近所の人」となっており、「頼れる人はいない」は１割未満となっている。

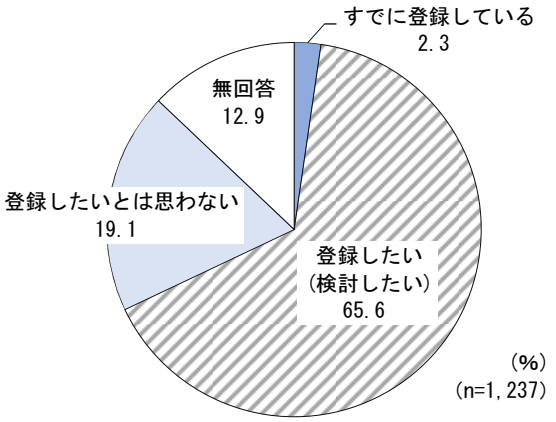
【居住地区別　避難時に頼れる人】



③避難行動要支援者名簿への登録意向

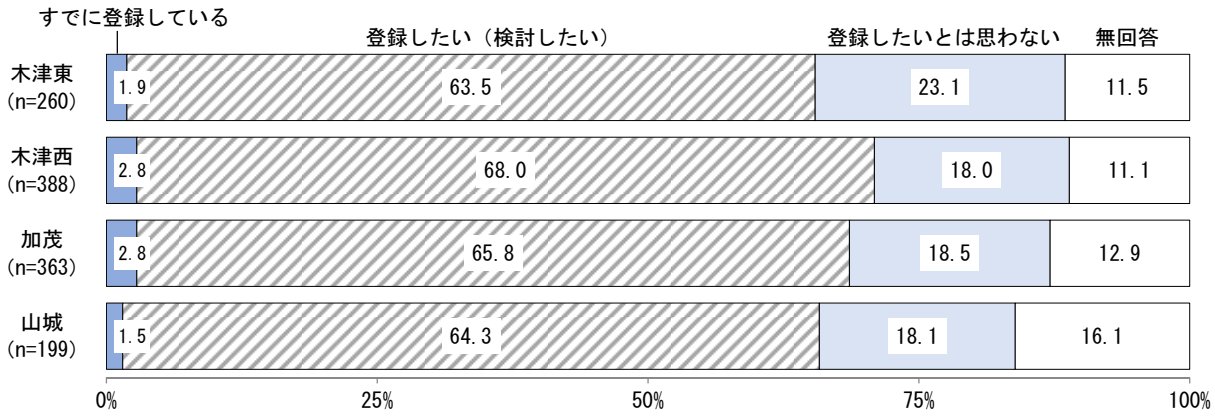
問 9(3)-3 市では、災害時の支援体制づくりとして、支援が必要な方（災害時要援護者）を対象に市への登録申請を受け付けています（木津川市避難行動要支援者名簿登録制度）
将来的に、ご自身が支援が必要な状態になった場合、要支援者として登録したいと思いますか

支援が必要な状態になった場合、避難行動要支援者名簿に「すでに登録している」が 2.3%、「登録したい（検討したい)」が 65.6%となっており、合わせると、要支援者として登録意向がある割合が７割弱（68.0%）を占めている。



居住地区別にみると、登録意向がある割合が、木津西地区で 70.9%と最も多く、次いで加茂地区で 68.6%、山城地区で 65.8%、木津東地区で 65.4%となっている。

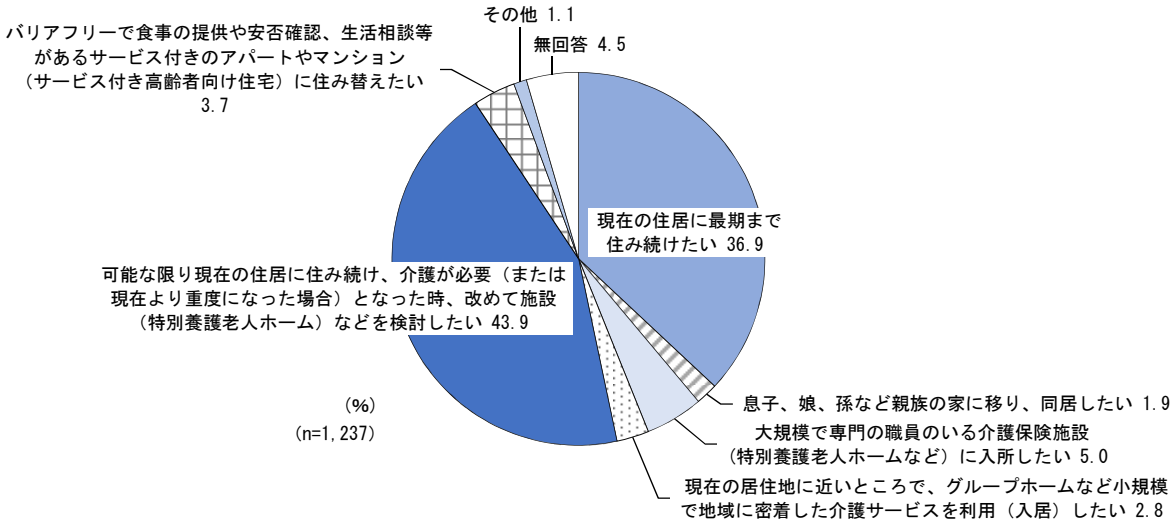
【居住地区別　避難行動要支援者名簿への登録意向】



（４）介護が必要になった場合に希望する住まい

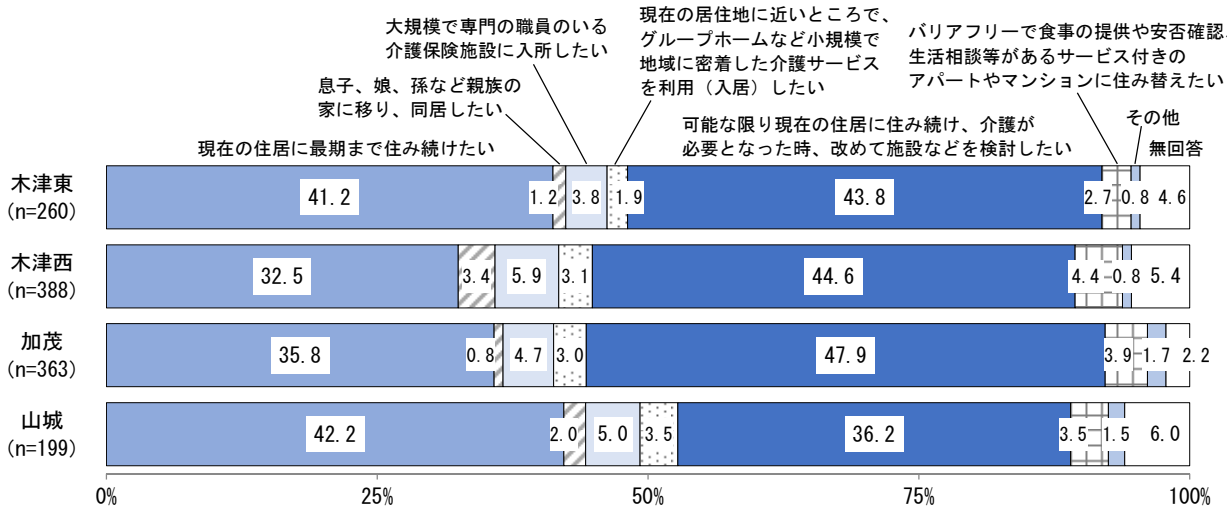
問 9(4) 今後、日常生活に不安を感じたり、介護が必要になった場合などの住まいについて、どのようにお考えですか

介護が必要になった場合などの住まいについての考えとしては、「可能な限り現在の住居に住み続け、介護が必要（または現在より重度になった場合）となった時、改めて施設（特別養護老人ホーム）などを検討したい」が４割台（43.9%）と最も多く、次いで「現在の住居に最期まで住み続けたい」が 36.9%となっている。



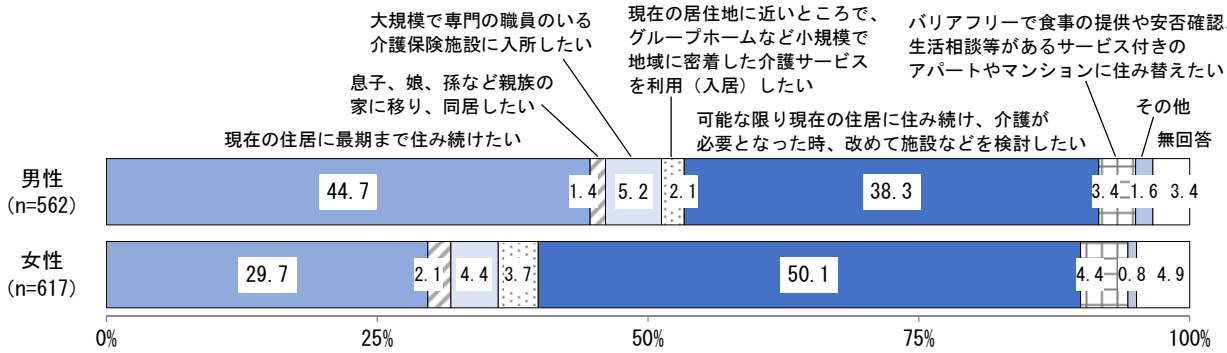
居住地区別にみると、「現在の住居に最期まで住み続けたい」が、山城地区で 42.2%、木津東地区で 41.2%と高くなっている。一方、「可能な限り現在の住居に住み続け、介護が必要となった時、改めて施設などを検討したい」は、加茂地区で 47.9%と最も高い。

【居住地区別　介護が必要になった場合に希望する住まい】



性別にみると、男性では「現在の住居に最期まで住み続けたい」が 44.7%、女性では「可能な限り現在の住居に住み続け、介護が必要となった時、改めて施設などを検討したい」が 50.1%と、それぞれ最も多くなっている。

【性別　介護が必要になった場合に希望する住まい】

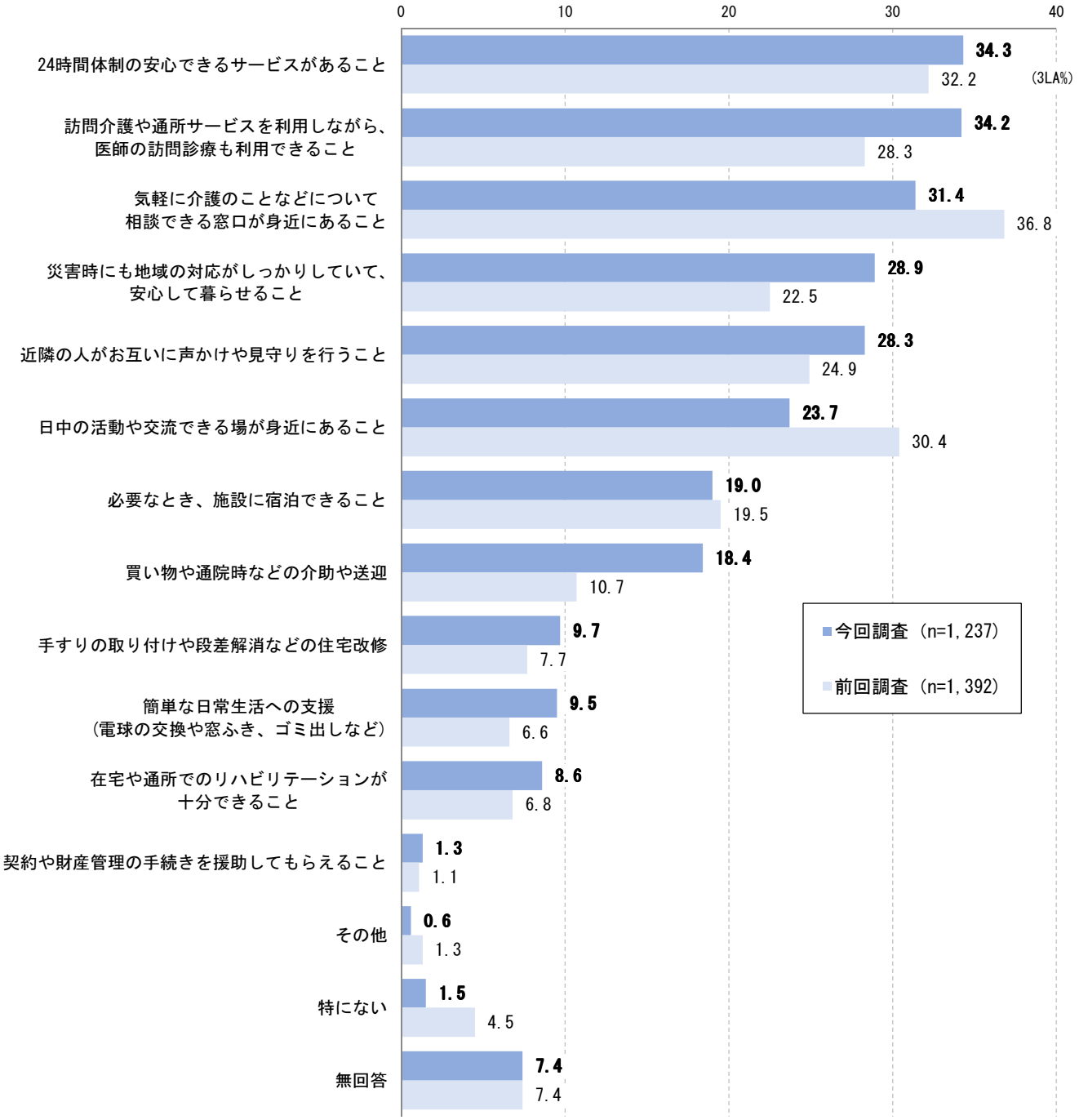


（５）地域や自宅での生活に必要な支援

問 9(5) 高齢者に対してどのような支援があれば、身近な地域や自宅での生活を続けていくことができると思いますか（あてはまるもの３つまでに○）

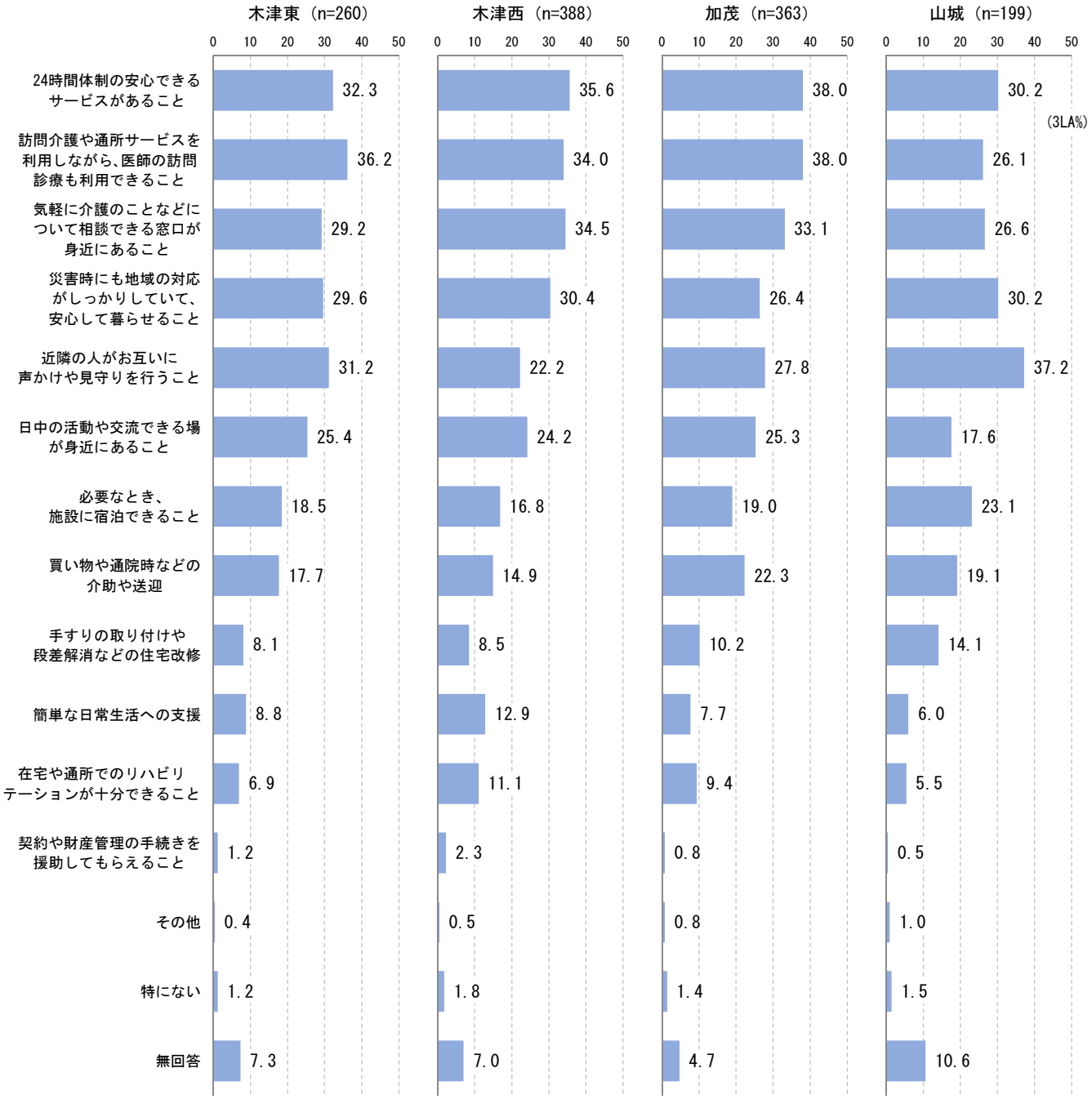
身近な地域や自宅での生活を続けていくために必要な高齢者に対する支援としては、「24 時間体制の安心できるサービスがあること」が 34.3%、「訪問介護や通所サービスを利用しながら、医師の訪問診療も利用できること」が 34.2%と多く、次いで「気軽に介護のことなどについて相談できる窓口が身近にあること」が 31.4%となっている。

前回調査と比べると、「災害時にも地域の対応がしっかりしていて、安心して暮らせること」（今回 28.9%、前回 22.5%）が 6.4 ポイント増、「訪問介護や通所サービスを利用しながら、医師の訪問診療も利用できること」（前回 28.3%）が 5.9 ポイント増となっている。



居住地区別にみると、木津東地区では「訪問介護や通所サービスを利用しながら、医師の訪問診療も利用できること」が 36.2%、木津西地区では「24 時間体制の安心できるサービスがあること」が 35.6%、加茂地区では「24 時間体制の安心できるサービスがあること」、「訪問介護や通所サービスを利用しながら、医師の訪問診療も利用できること」がともに 38.0%、山城地区では「近隣の人がお互いに声かけや見守りを行うこと」が 37.2%と、それぞれ最も多くなっている。

【居住地区別　地域や自宅での生活に必要な支援】

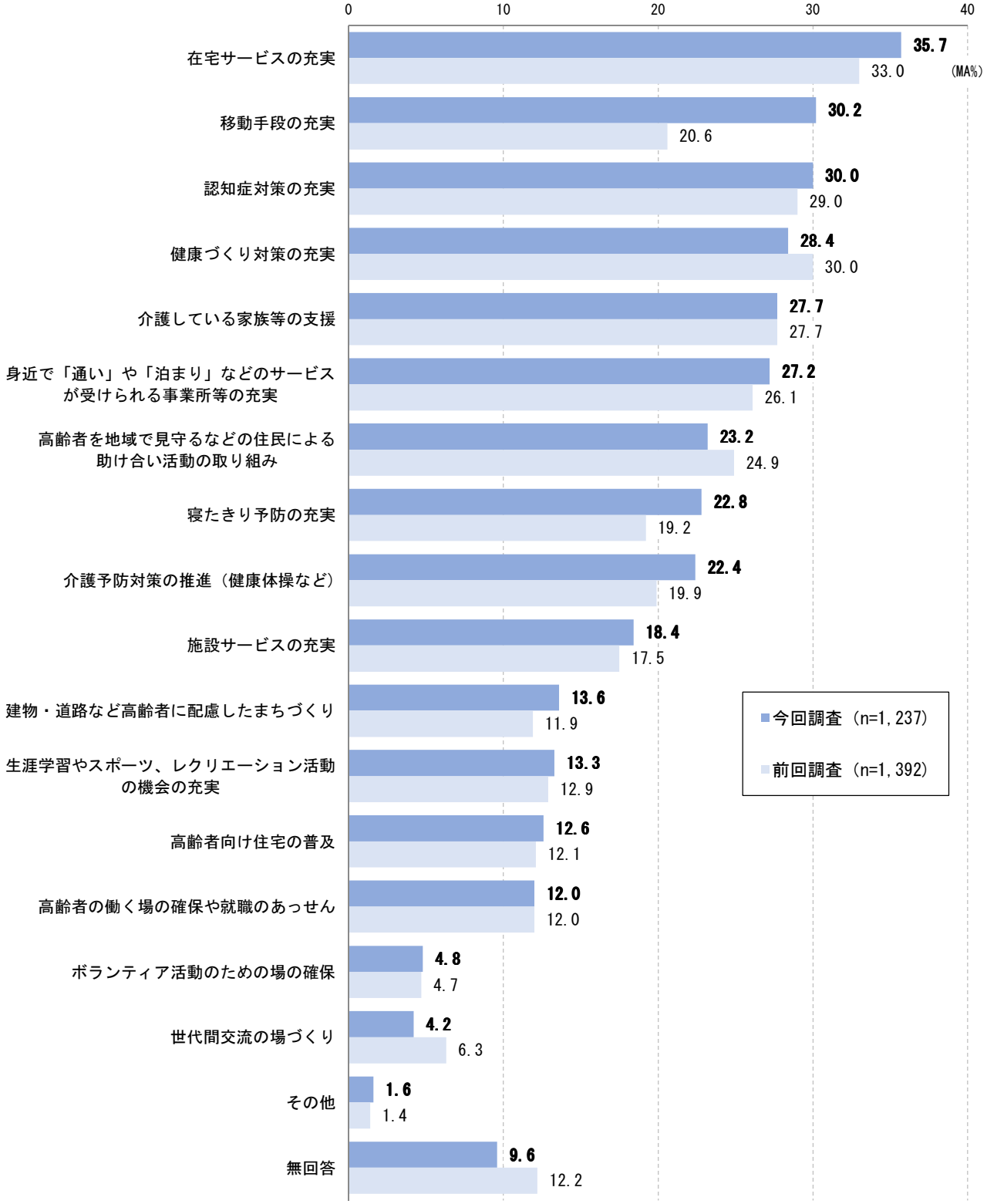


（６）高齢者福祉について重要な施策

問 9(6) 高齢者福祉について、今後どのような施策の拡充が重要とお考えですか（いくつでも）

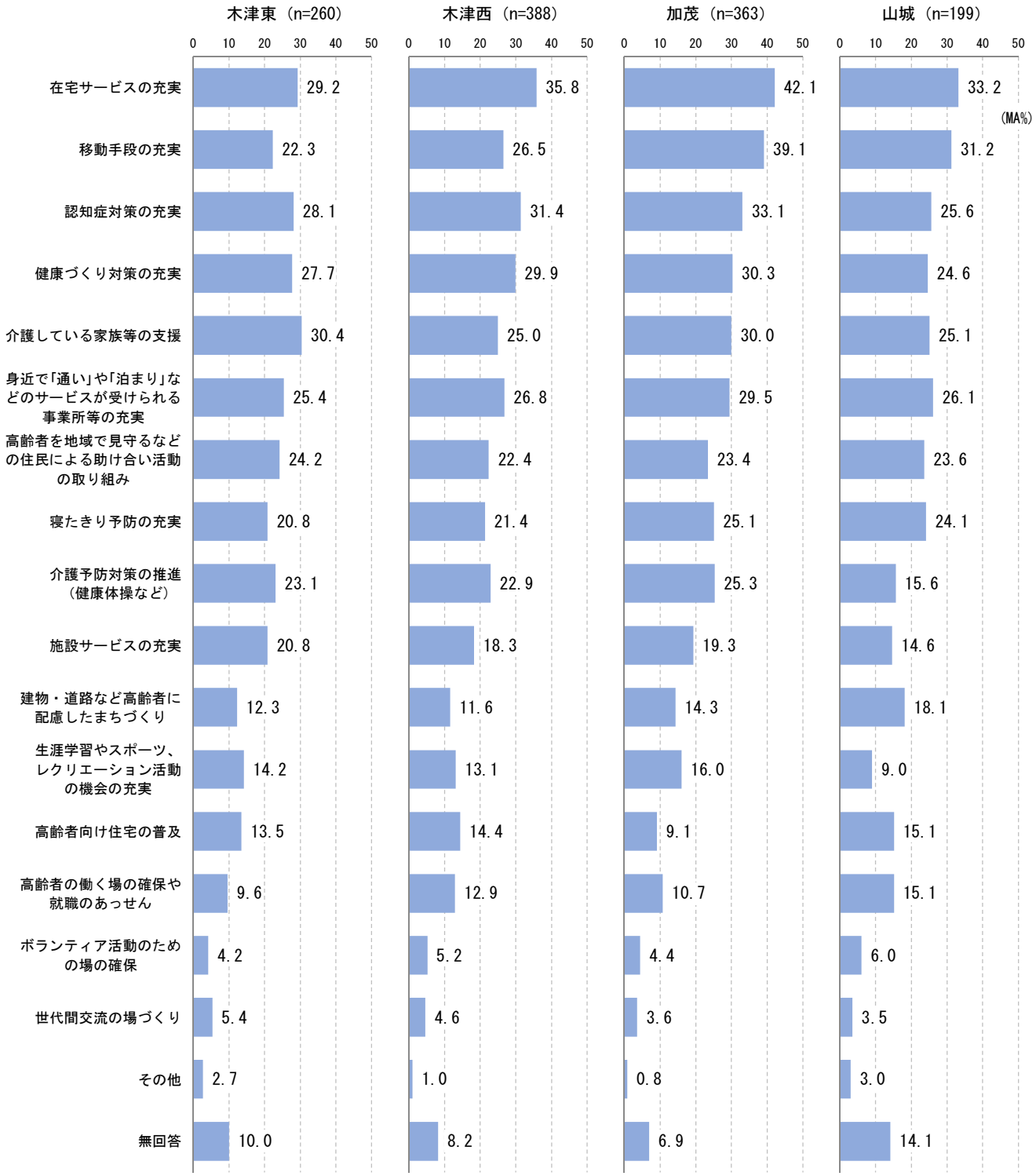
高齢者福祉について重要と考える施策としては、「在宅サービスの充実」が 35.7%と最も多く、次いで「移動手段の充実」が 30.2%、「認知症対策の充実」が 30.0%、「健康づくり対策の充実」が 28.4%、「介護している家族等の支援」が 27.7%となっている。

前回調査と比べると、「移動手段の充実」（前回 20.6%）が 9.6 ポイント増えている。



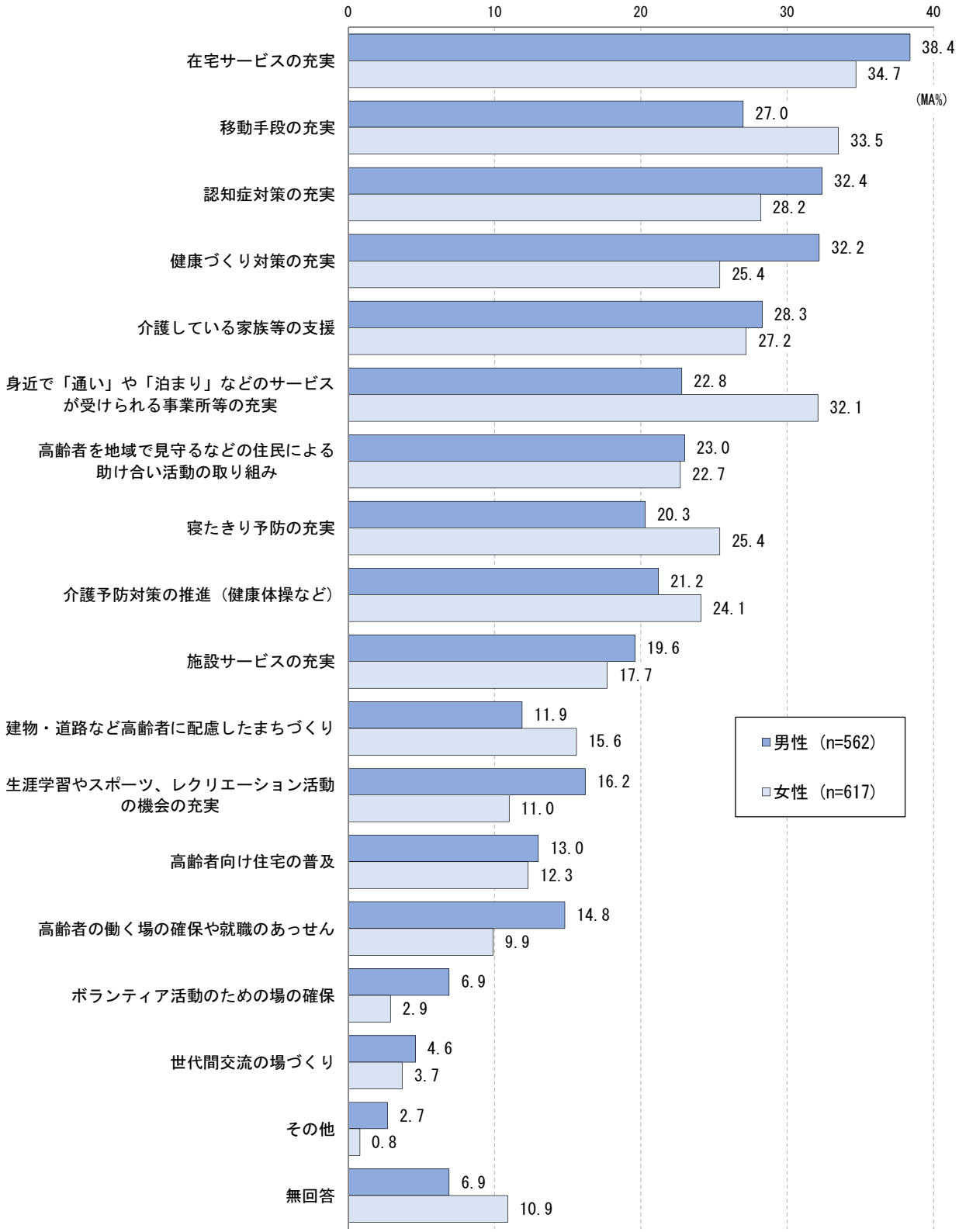
居住地区別にみると、木津東地区では「介護している家族等の支援」が 30.4%と最も多いのに対し、そのほかの地区ではいずれも「在宅サービスの充実」が最も多く、加茂地区で 42.1%、木津西地区で 35.8%、山城地区で 33.2%となっている。また、「移動手段の充実」が、加茂地区で 39.1%と、他の地区に比べて高い。

【居住地区別　高齢者福祉について重要な施策】



性別にみると、男女ともに「在宅サービスの充実」が最も多く、男性で 38.4%、女性で 34.7%となっている。これに続くのが、男性では「認知症対策の充実」が 32.4%、「健康づくり対策の充実」が 32.2%となっており、女性では「移動手段の充実」が 33.5%、「身近で「通い」や「泊まり」などのサービスが受けられる事業所等の充実」が 32.1%となっている。

【性別　高齢者福祉について重要な施策】

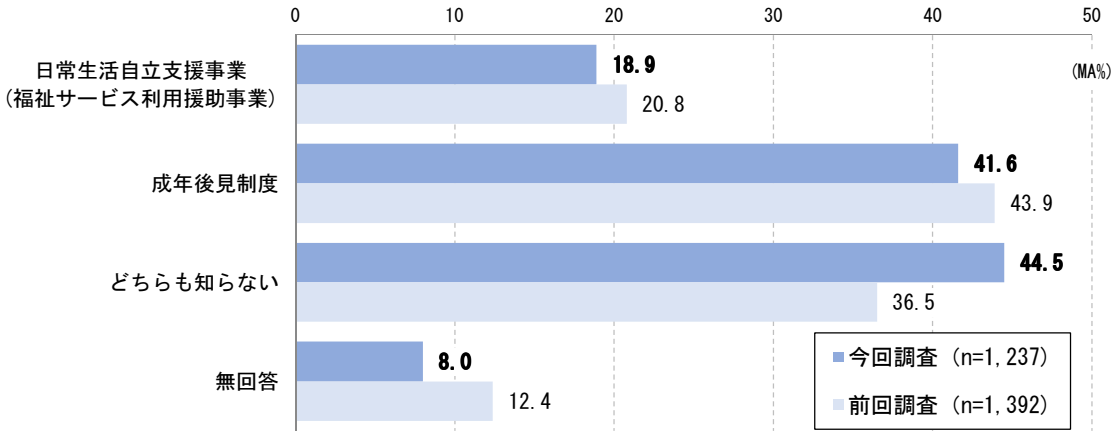


（７）権利擁護制度の利用状況

①事業や制度の認知度

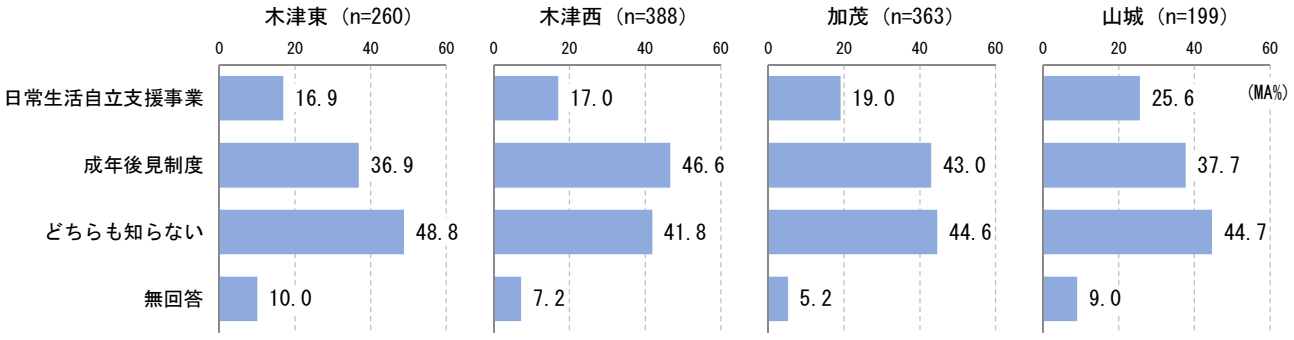
高齢者の権利擁護（高齢者の権利や生活､財産などを守ります）のための制度についておうかがいします
問 9(7)-1 次の事業や制度を知っていますか（いくつでも）

高齢者の権利擁護について知っている事業や制度としては、「成年後見制度」が 41.6%、「日常生活自立支援事業（福祉サービス利用援助事業)」が 18.9%となっており、前回調査と比べると、ともに２ポイント程度減っている。



居住地区別にみると、「日常生活自立支援事業」は山城地区で 25.6%、「成年後見制度」は木津西地区で 46.6%、加茂地区で 43.0%と高くなっている。一方、「どちらも知らない」がいずれの地区も４割台みられ、木津東地区で 48.8%と最も高い。

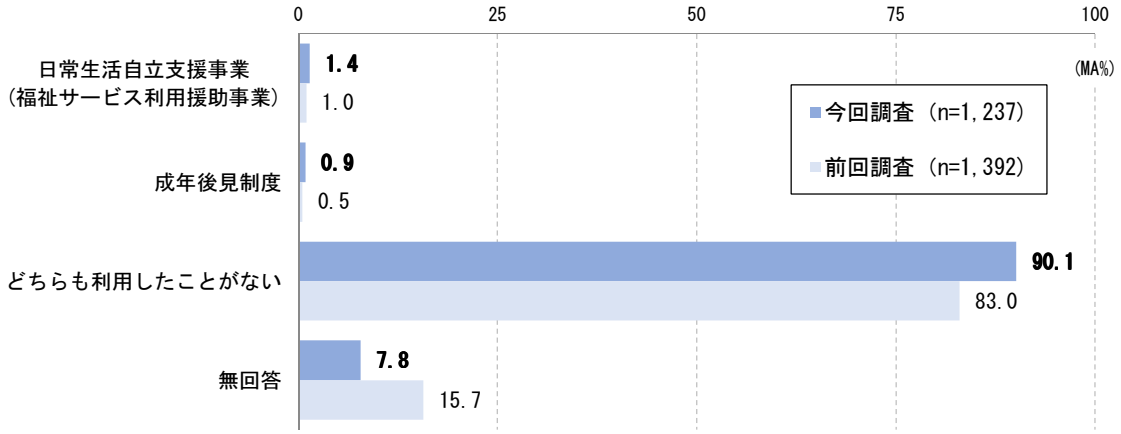
【居住地区別　権利擁護のための事業や制度の認知度】



②事業や制度の利用経験

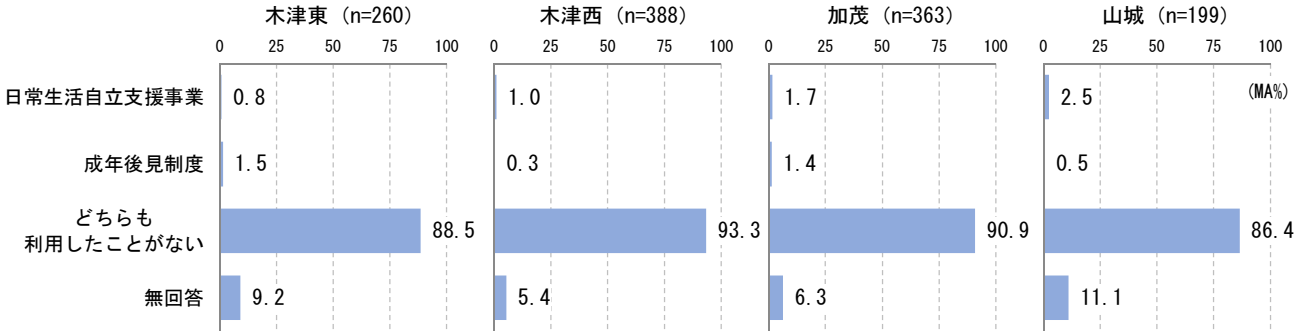
問 9(7)-2 利用したこと（利用している）がありますか（いくつでも）

権利擁護事業や制度について、いずれかを利用した経験があるという割合（「どちらも利用したことがない」及び無回答を除いた割合）は、全体の 2.1%にとどまっており、「日常生活自立支援事業（福祉サービス利用援助事業）」が 1.4%、「成年後見制度」が 0.9%となっている。



居住地区別にみると、いずれかを利用した経験があるという割合が、加茂地区で 2.8%、山城地区で 2.5%、木津東地区で 2.3%、木津西地区で 1.3%となっている。

【居住地区別　権利擁護のための事業や制度の利用経験】



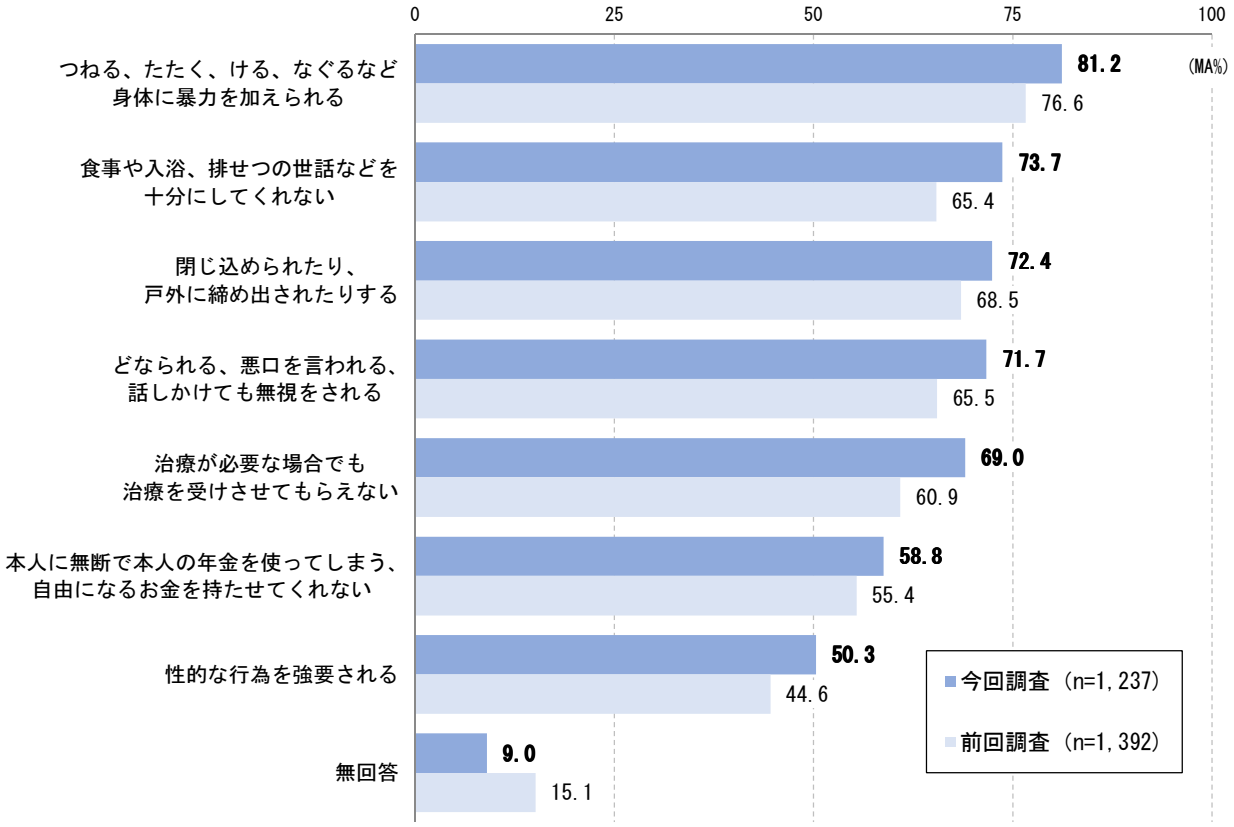
（８）高齢者虐待に対する認識

①高齢者虐待と思う行為

問 9(8) あなたが高齢者への虐待だと思う行為はどれですか（いくつでも）

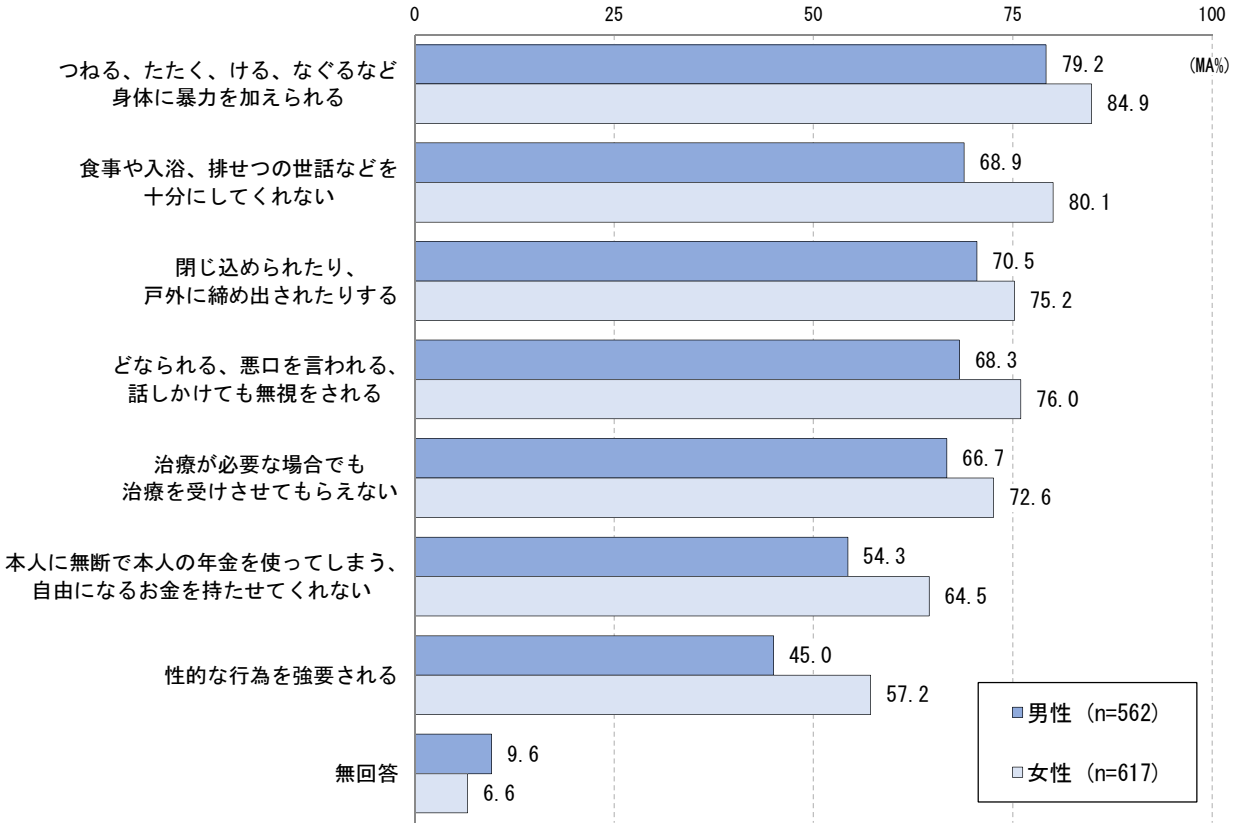
高齢者への虐待だと思う行為としては、「つねる、たたく、ける、なぐるなど身体に暴力を加えられる」が 81.2%と最も多く、次いで「食事や入浴、排せつの世話などを十分にしてくれない」が 73.7%、「閉じ込められたり、戸外に締め出されたりする」が 72.4%となっている。

前回調査と比べると、いずれの項目についても増加傾向にあり、５ポイント前後増えている。



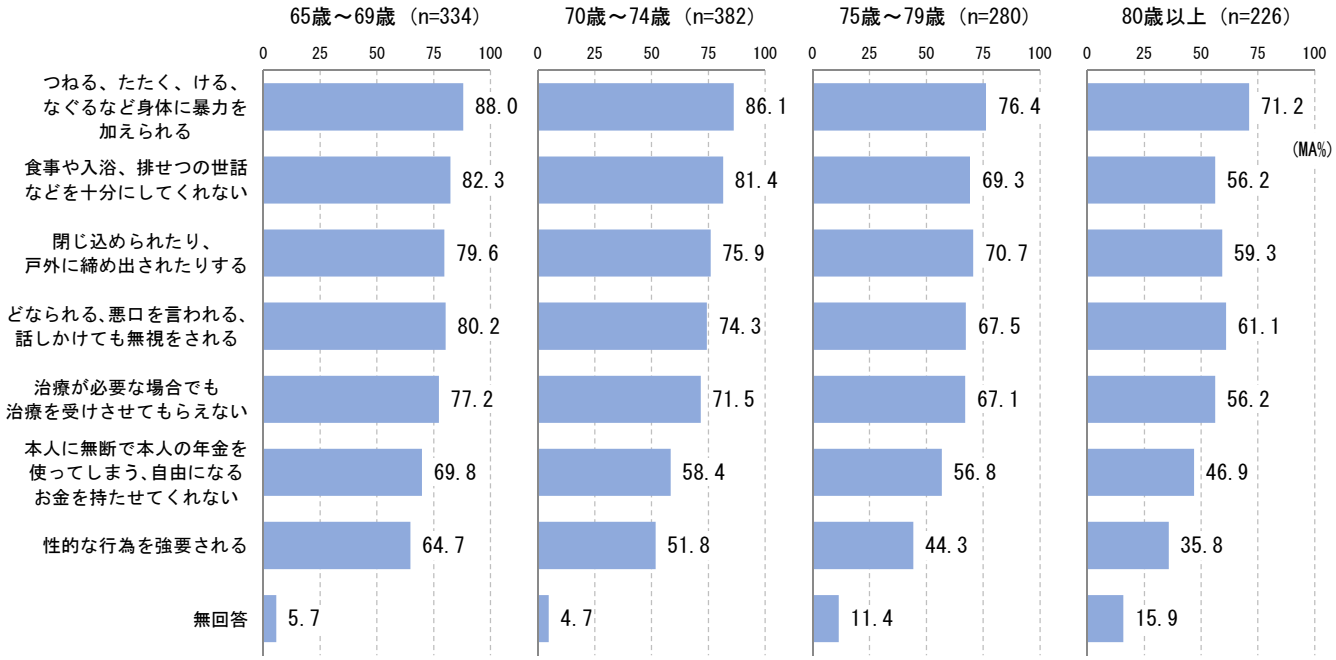
性別にみると、いずれの項目についても、男性より女性のほうが高い割合となっている。

【性別　高齢者虐待と思う行為】



年齢別にみると、いずれの項目についても、年齢が上がるにしたがって割合は低くなる傾向にある。

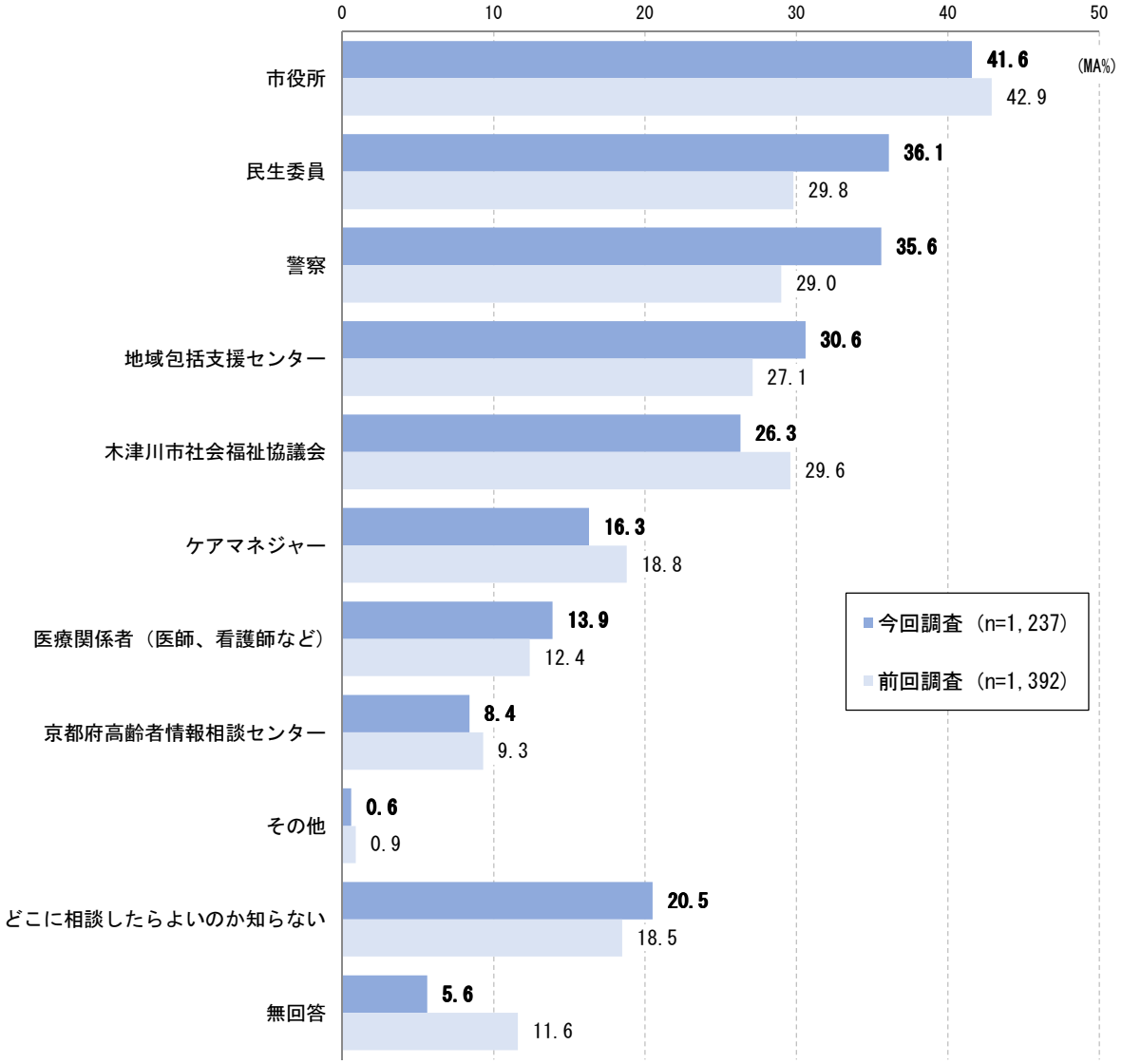
【年齢別　高齢者虐待と思う行為】



②高齢者虐待の相談先の認知度

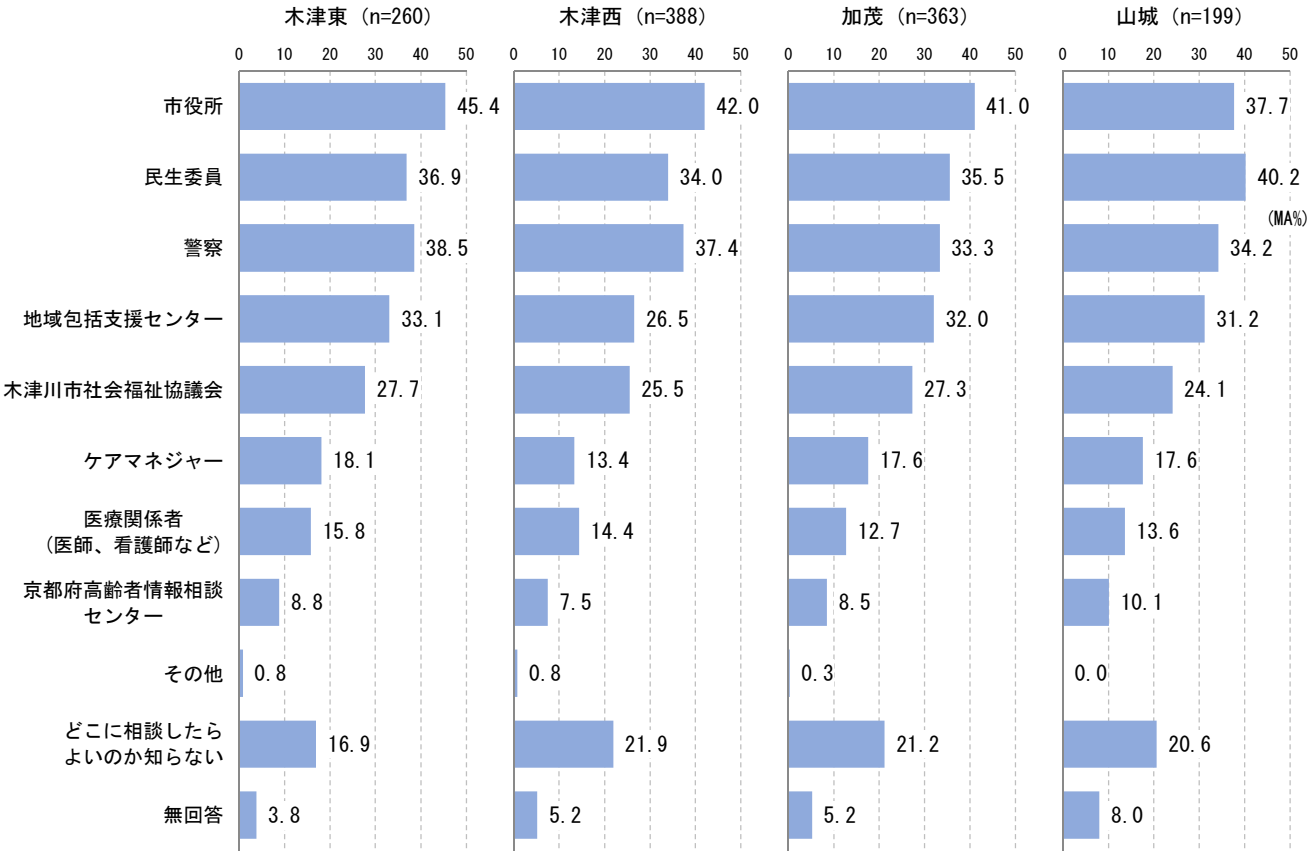
問 9(9) 高齢者の虐待についての相談先としてどんなところを知っていますか（いくつでも）

高齢者の虐待についての相談先として知っているところとしては、「市役所」が 41.6%と最も多く、次いで「民生委員」が 36.1%、「警察」が 35.6%となっている。一方、「どこに相談したらよいのか知らない」は約２割（20.5%）みられ、前回調査（18.5%）から２ポイント増えている。



居住地区別にみると、山城地区では「民生委員」が 40.2%と最も多いのに対し、そのほかの地区ではいずれも「市役所」が最も多く、木津東地区で 45.4%、木津西地区で 42.0%、加茂地区で 41.0%となっている。一方、「どこに相談したらよいのか知らない」が木津東（16.9%）以外の地区で２割台みられる。

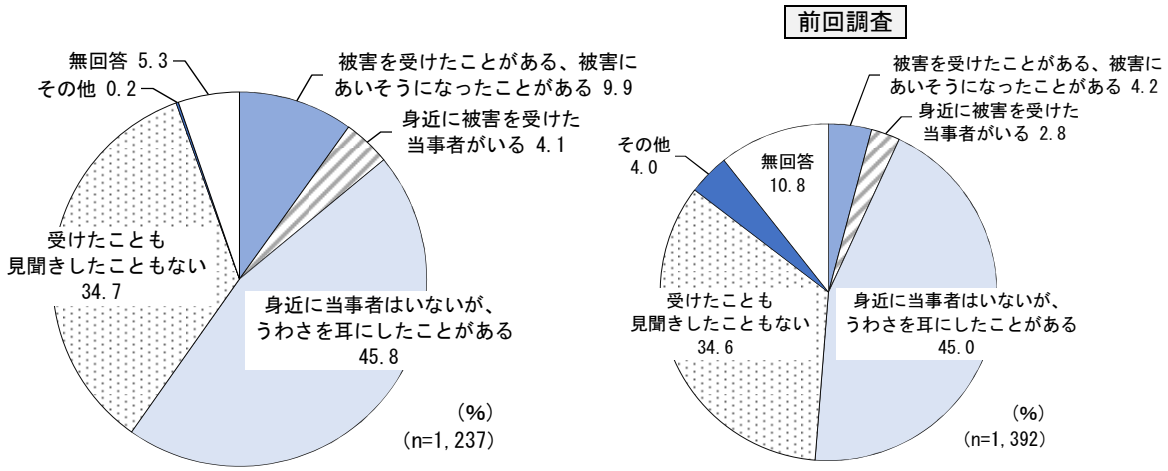
【居住地区別　高齢者虐待の相談先の認知度】



（９）悪質商法の被害にあったり見聞きした経験

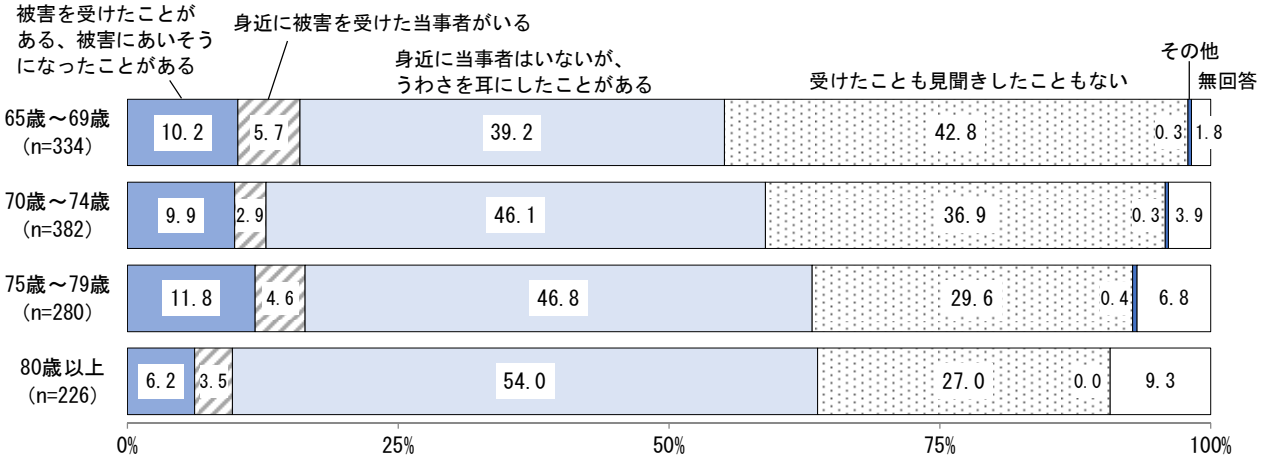
問 9(10) あなたは、振り込め詐欺をはじめとする悪質商法の被害にあった経験や見聞きしたことがありますか

悪質商法について、「被害を受けたことがある、被害にあいそうになったことがある」が 9.9%、「身近に被害を受けた当事者がいる」が 4.1%みられ、ともに前回調査から増えている。



年齢別にみると、「被害を受けたことがある、被害にあいそうになったことがある」が 79 歳以下で１割前後みられるのに対し、80 歳以上では 6.2%とやや低い。

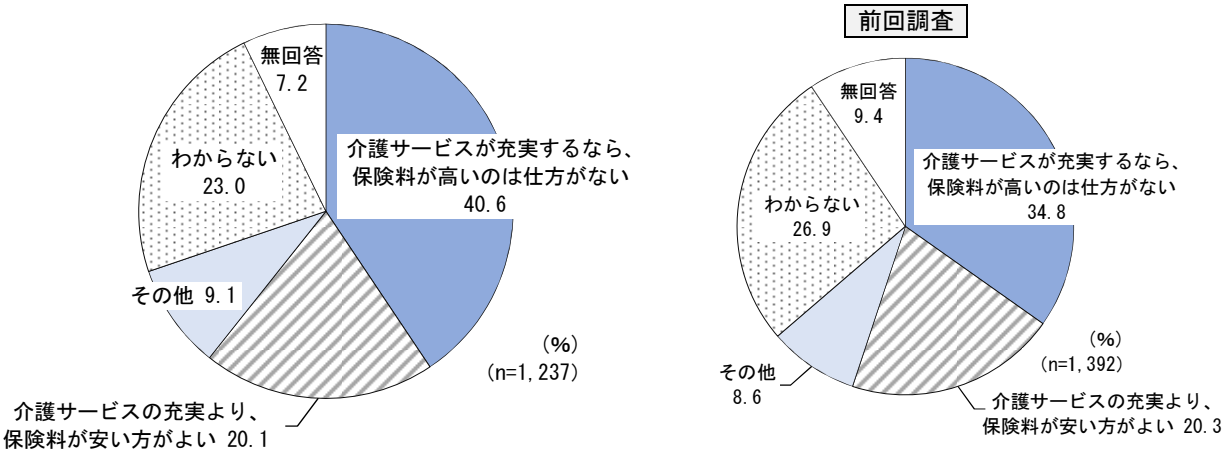
【年齢別　悪質商法の被害にあったり見聞きした経験】



（10）保険料の負担と介護サービスの充実の優先度

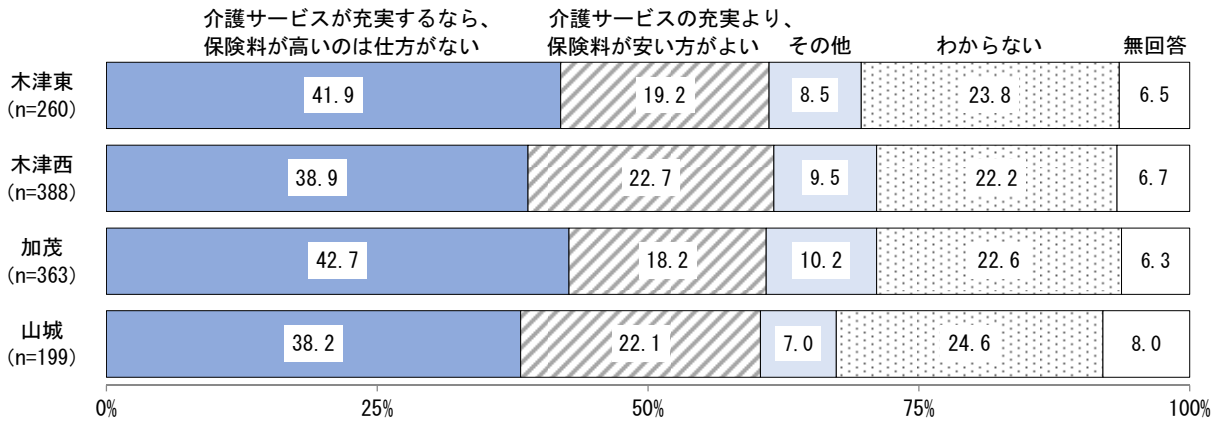
問 9(11) 介護保険の保険料は、市全体で使われた介護サービスの量で決まります
あなたは、保険料の負担と介護サービスについてどう思いますか

保険料の負担と介護サービスについての考えとしては、「介護サービスが充実するなら、保険料が高いのは仕方がない」が約４割（40.6%）と最も多く、前回調査（34.8%）から 5.8 ポイント増えている。一方、「介護サービスの充実より、保険料が安い方がよい」は約２割（20.1%）となっている。



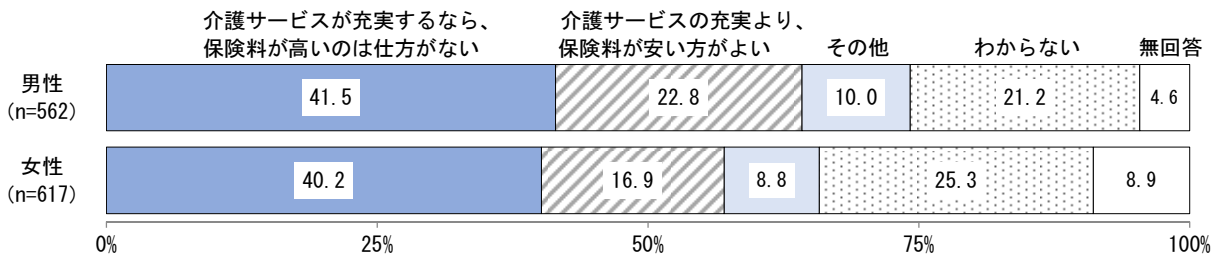
居住地区別にみると、いずれの地区も「介護サービスが充実するなら、保険料が高いのは仕方がない」が４割前後と最も多くなっており、特に、加茂地区で 42.7%、木津東地区で 41.9%と高い。

【居住地区別　保険料の負担と介護サービスの充実の優先度】



性別にみると、「介護サービスの充実より、保険料が安い方がよい」が、女性で 16.9%に対し、男性では 22.8%と、5.9 ポイント高くなっている。

【性別　保険料の負担と介護サービスの充実の優先度】



Ⅱ-2 生活機能評価等に関する分析

本調査は、地域における高齢者の課題や必要な支援・サービス等をより的確に把握するため、国が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の調査項目を取り入れており、介護予防事業の「基本チェックリスト」や「手段的自立度（ＩＡＤＬ）」などの指標の判定に関する調査項目が設定されている。

本報告書の『生活機能評価等に関する分析』では、これらの調査項目を使用し、各指標の判定（リスク評価等）を行っている。

1　生活機能評価

（1）運動器の機能低下

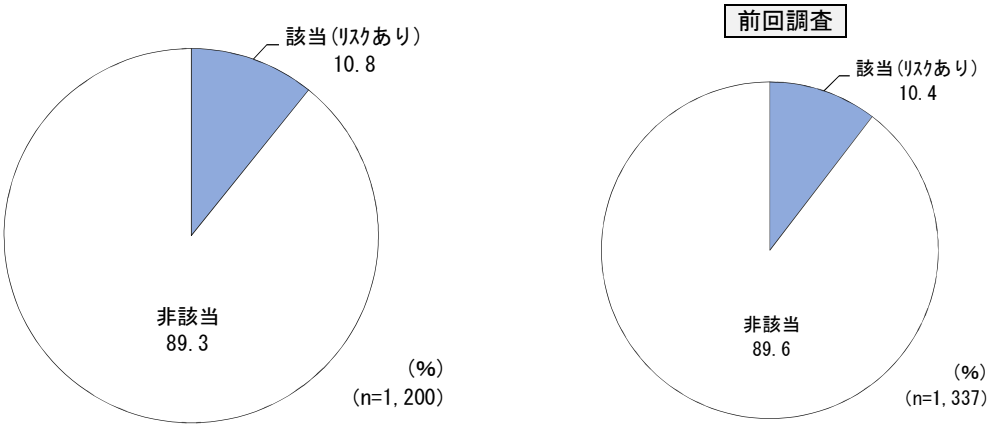
国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、５項目のうち３項目以上に該当する人を『運動器の機能低下』のリスク該当者と判定している。

≪判定設問≫

問番号		設問	該当する選択肢
問２	（１）	階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか	３．できない
	（２）	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	３．できない
	（３）	１５分位続けて歩いていますか	３．できない
	（４）	過去１年間に転んだ経験がありますか	１．何度もある ２．１度ある
	（５）	転倒に対する不安は大きいですか	１．とても不安である ２．やや不安である

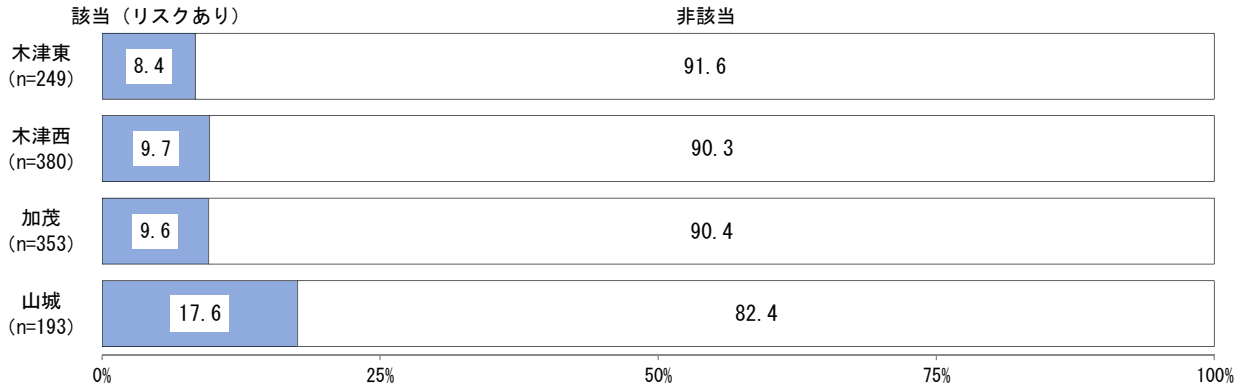
≪リスク該当状況≫　※無回答により判定・評価困難な場合は、調査数（ｎ数）から除外して集計している。（以下、同様）

国の手引きに基づく『運動器の機能低下』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）は約１割（10.8%）となっており、前回調査（10.4%）と同程度なっている。



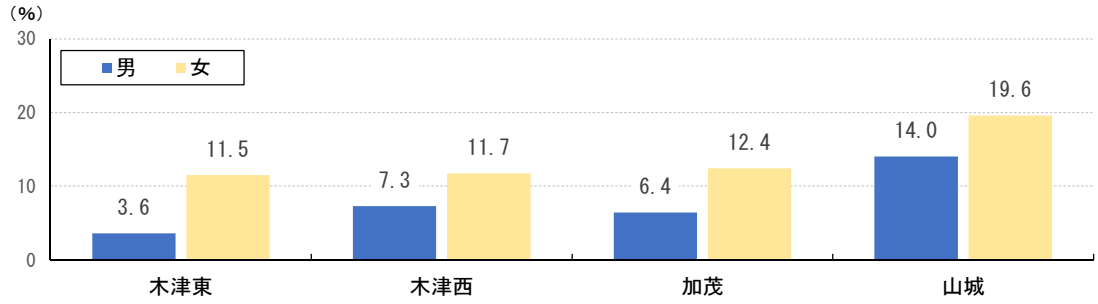
居住地区別にみると、『運動器の機能低下』の該当者（リスクあり）の割合は、山城地区で 17.6%と最も高く、このほかの地区ではいずれも１割未満となっている。

【居住地区別　生活機能評価『運動器の機能低下』】



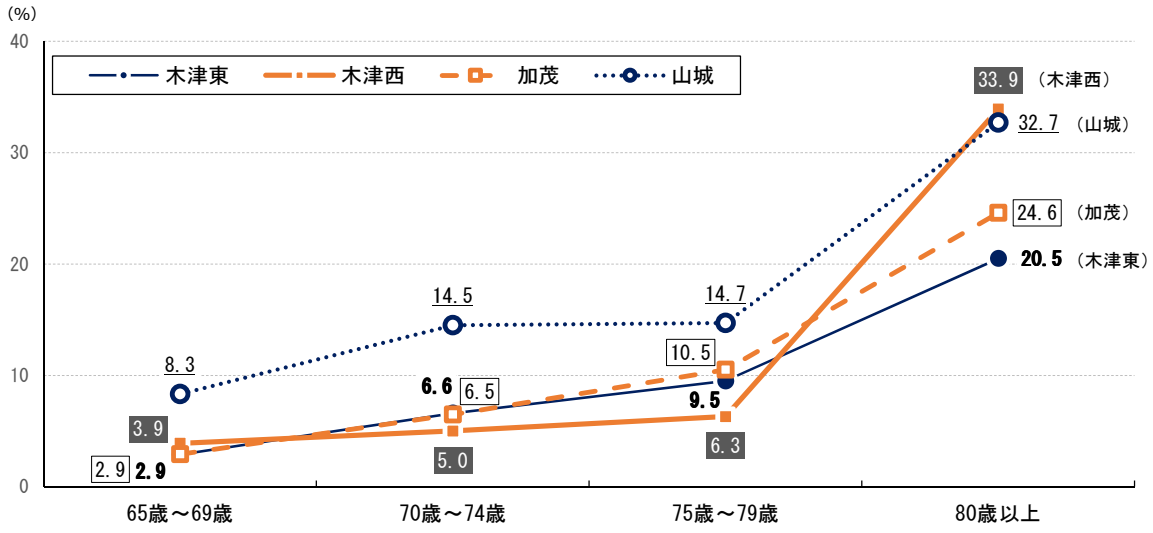
『運動器の機能低下』の該当者（リスクあり）の割合について、居住地区毎に性別にみると、いずれの地区も女性のほうが高くなっており、山城地区の女性で 19.6%と最も高い。

【居住地区・性別　生活機能評価『運動器の機能低下』】※「該当者（リスクあり）」の割合



『運動器の機能低下』の該当者（リスクあり）の割合について、居住地区毎に年齢別にみると、80 歳以上の木津西地区で 33.9%、山城地区で 32.7%と高くなっている。また、79 歳以下ではいずれの年齢層においても、山城地区で最も高い割合となっている。

【居住地区・年齢別　生活機能評価『運動器の機能低下』】※「該当者（リスクあり）」の割合



（２）転倒リスク

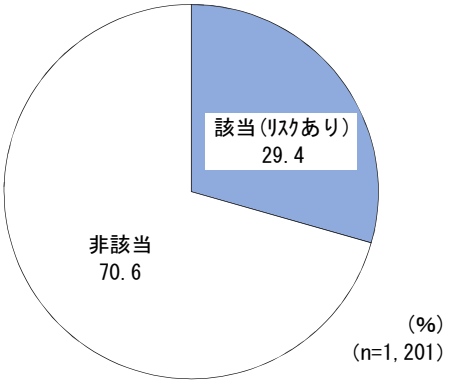
国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を『転倒リスク』の該当者と判定している。

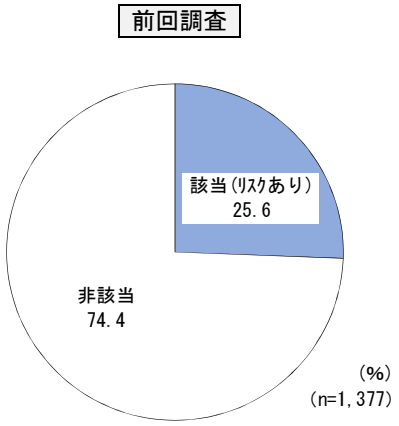
≪判定設問≫

問番号		設問	該当する選択肢
問２	（４）	過去１年間に転んだ経験がありますか	１．何度もある ２．１度ある

≪リスク該当状況≫

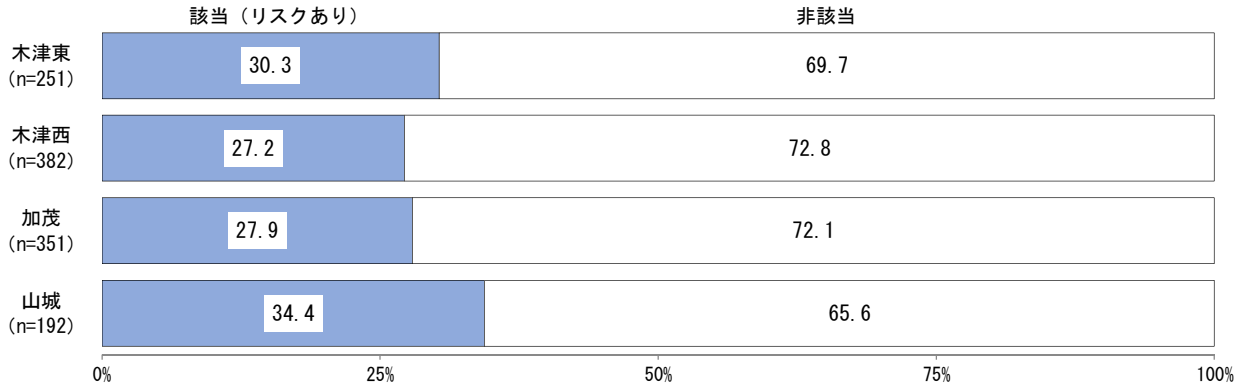
国の手引きに基づく『転倒リスク』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）は約３割（29.4%）となっており、前回調査（25.6%）から 3.8 ポイント増えている。





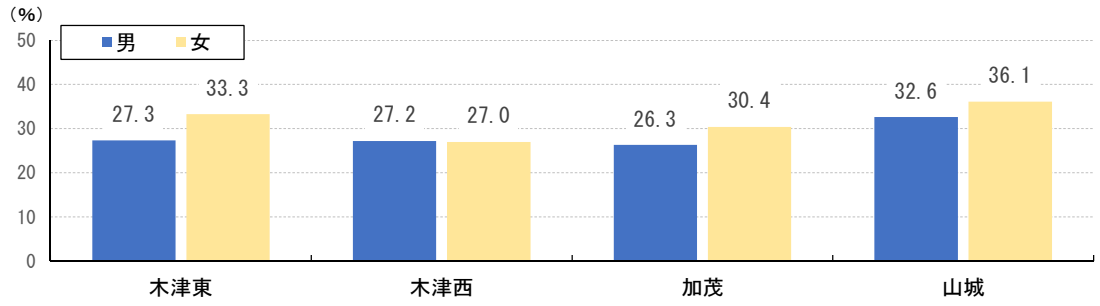
居住地区別にみると、『転倒リスク』の該当者（リスクあり）の割合は、山城地区で 34.4%と最も高く、次いで木津東地区で 30.3%となっている。

【居住地区別　生活機能評価『転倒リスク』】



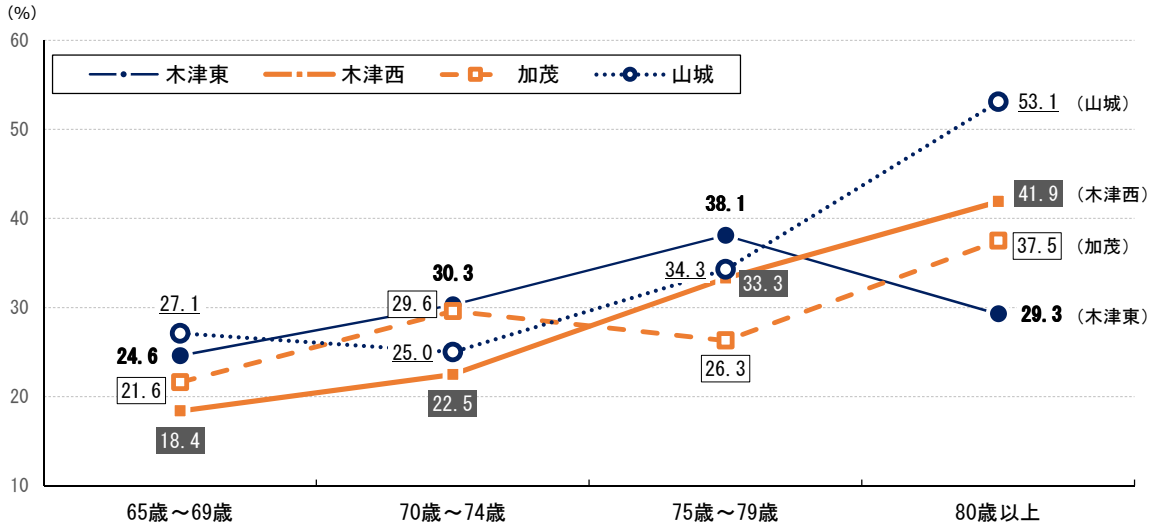
『転倒リスク』の該当者（リスクあり）の割合について、居住地区毎に性別にみると、男女ともに山城地区で最も高く、男性で 32.6%、女性で 36.1%となっている。

【居住地区・性別　生活機能評価『転倒リスク』】※「該当者（リスクあり）」の割合



『転倒リスク』の該当者（リスクあり）の割合について、居住地区毎に年齢別にみると、山城地区の 80 歳以上で 53.1%と最も高くなっている。また、木津東地区においては、75 歳～79 歳が 38.1%と最も高い。

【居住地区・年齢別　生活機能評価『転倒リスク』】※「該当者（リスクあり）」の割合



（３）閉じこもり傾向

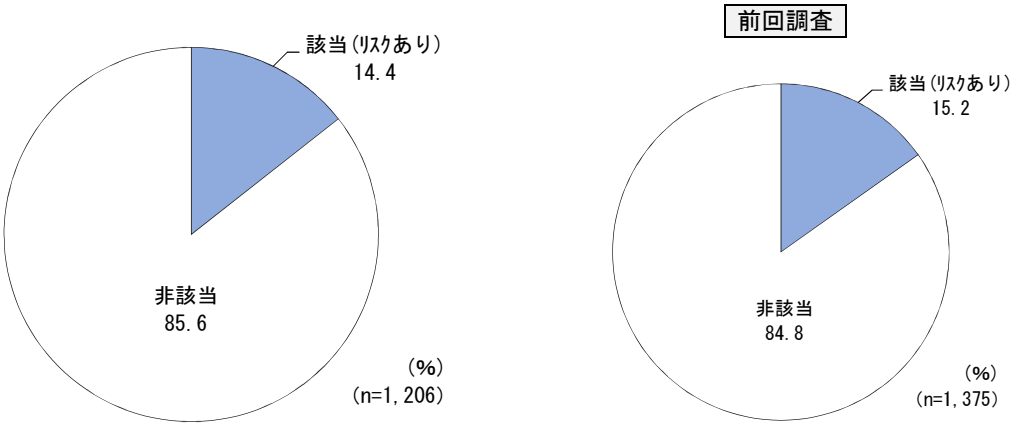
国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を『閉じこもり傾向』のリスク該当者と判定している。

≪判定設問≫

問番号		設問	該当する選択肢
問２	（６）	週に１回以上は外出していますか	１．ほとんど外出しない ２．週１回

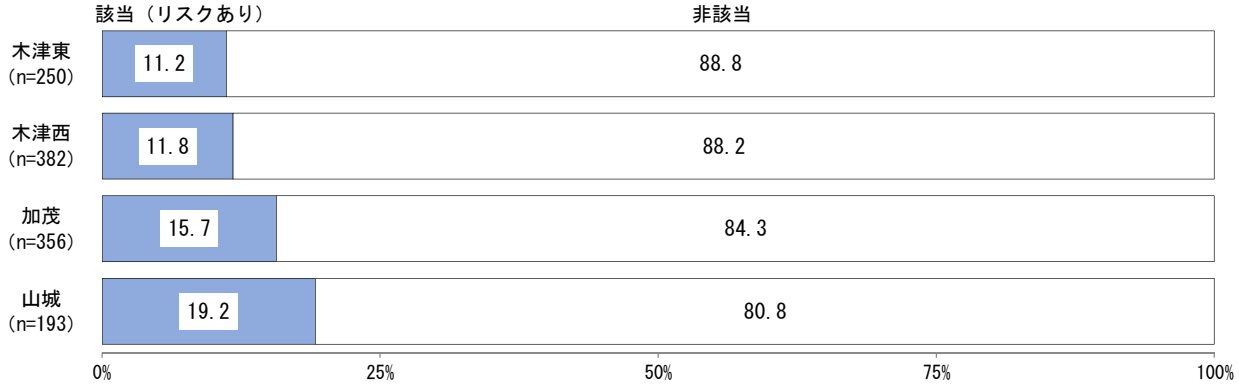
≪リスク該当状況≫

国の手引きに基づく『閉じこもり傾向』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）は１割台（14.4%）となっており、前回調査（15.2%）と同程度となっている。



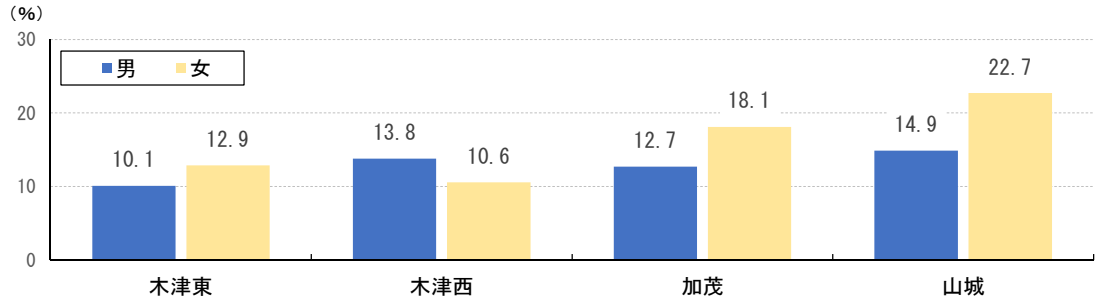
居住地区別にみると、『閉じこもり傾向』の該当者（リスクあり）の割合は、山城地区で19.2%と最も高く、次いで加茂地区で15.7%となっている。

【居住地区別　生活機能評価『閉じこもり傾向』】



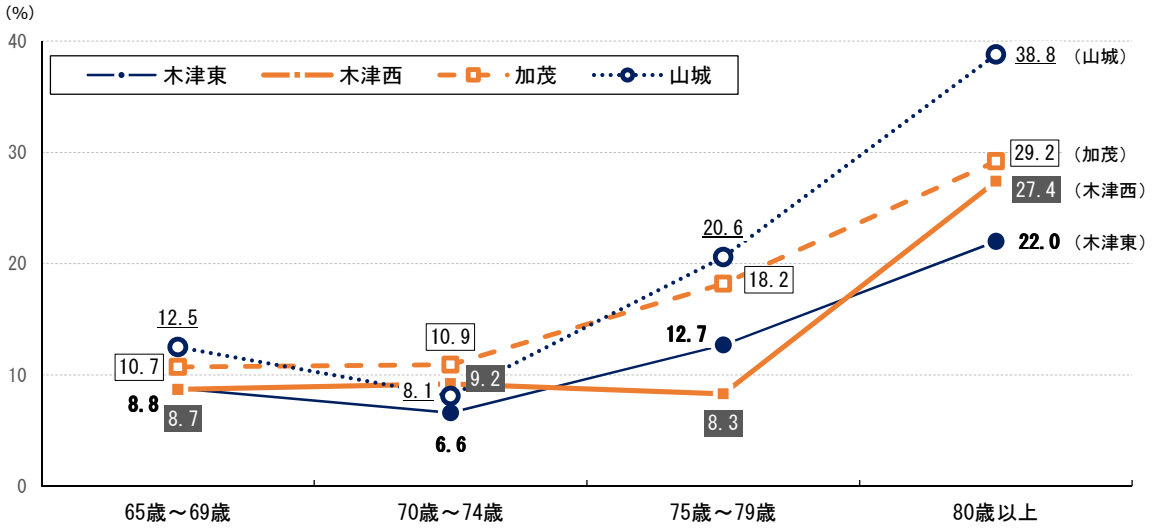
『閉じこもり傾向』の該当者（リスクあり）の割合について、居住地区毎に性別にみると、男女ともに山城地区で最も高く、男性で 14.9%、女性で 22.7%となっている。

【居住地区・性別　生活機能評価『閉じこもり傾向』】※「該当者（リスクあり）」の割合



『閉じこもり傾向』の該当者（リスクあり）の割合について、居住地区毎に年齢別にみると、山城地区の 80 歳以上で 38.8%と最も高くなっている。

【居住地区・年齢別　生活機能評価『閉じこもり傾向』】※「該当者（リスクあり）」の割合



（４）低栄養の傾向

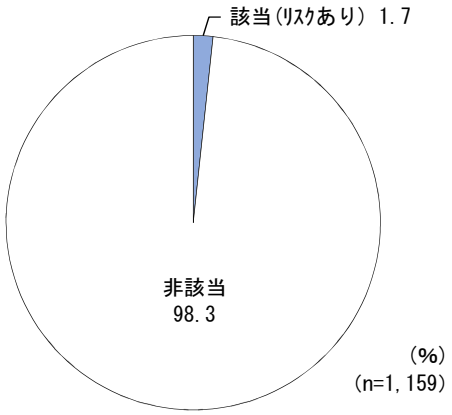
国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、２項目ともに該当する人を『低栄養の傾向』のリスク該当者と判定している。

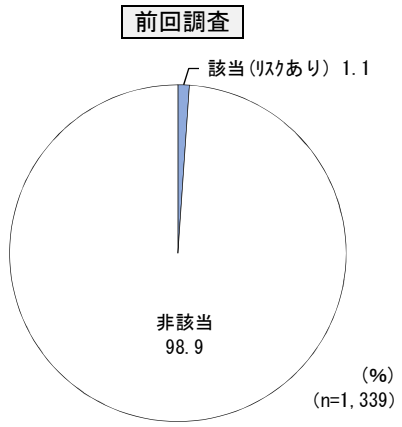
≪判定設問≫

問番号		設問	該当する選択肢
問３	（１）	身長・体重を記入ください	ＢＭＩ18.5 未満
	（７）	６か月間で２～３kg 以上の体重減少がありましたか	１．はい

≪リスク該当状況≫

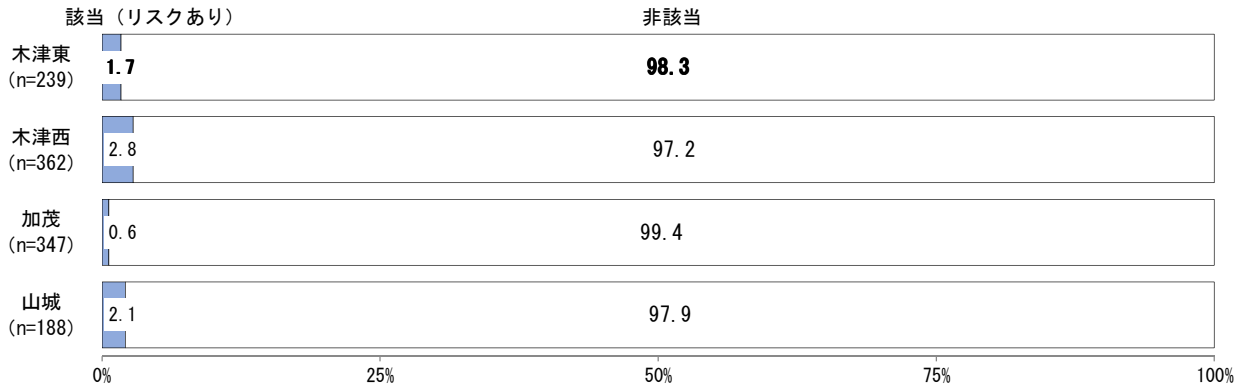
国の手引きに基づく『低栄養』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）は 1.7%にとどまっており、前回調査（1.1%）と同程度となっている。





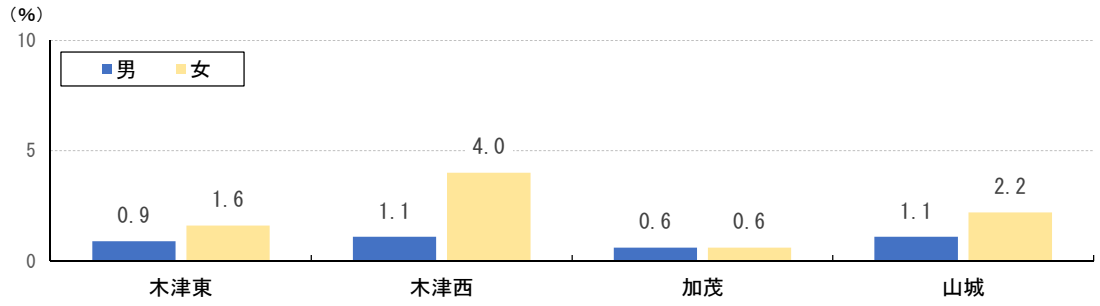
居住地区別にみると、『低栄養』の該当者（リスクあり）の割合は、木津西地区で 2.8%、山城地区で 2.1%などとなっている。

【居住地区別　生活機能評価『低栄養の傾向』】



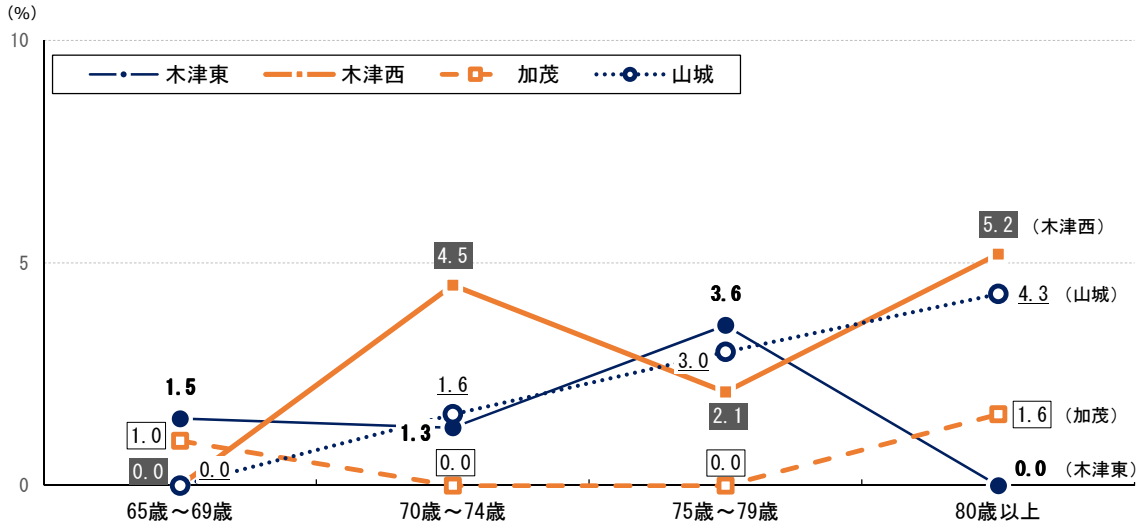
『低栄養の傾向』の該当者（リスクあり）の割合について、居住地区毎に性別にみると、木津西地区の女性で4.0%とやや高くなっている。

【居住地区・性別　生活機能評価『低栄養の傾向』】※「該当者（リスクあり）」の割合



『低栄養の傾向』の該当者（リスクあり）の割合について、居住地区毎に年齢別にみると、70歳～74歳において、木津西地区で4.5%と、他の地区に比べて高い割合となっている。

【居住地区・年齢別　生活機能評価『低栄養の傾向』】※「該当者（リスクあり）」の割合



（５）口腔機能の低下

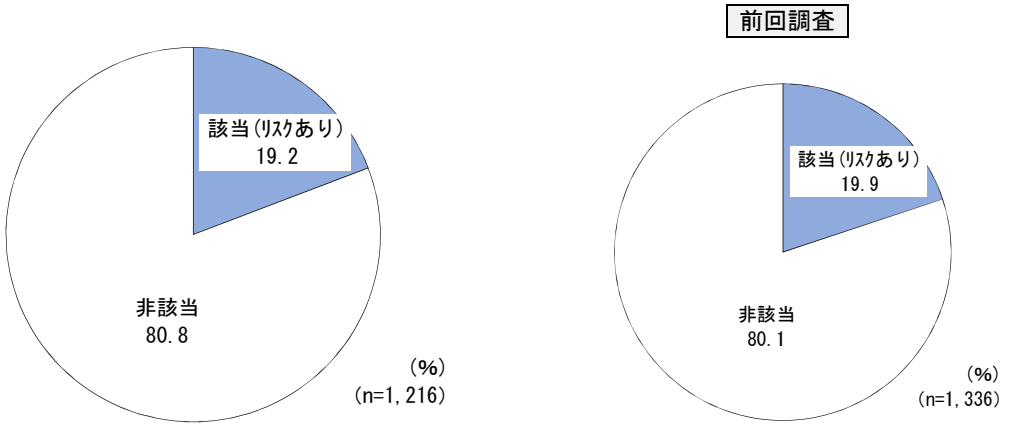
国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、３項目のうち２項目以上に該当する人を『口腔機能の低下』のリスク該当者と判定している。

≪判定設問≫

問番号		設問	該当する選択肢
問３	（２）	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	１．はい
	（３）	お茶や汁物等でむせることがありますか	１．はい
	（４）	口の渇きが気になりますか	１．はい

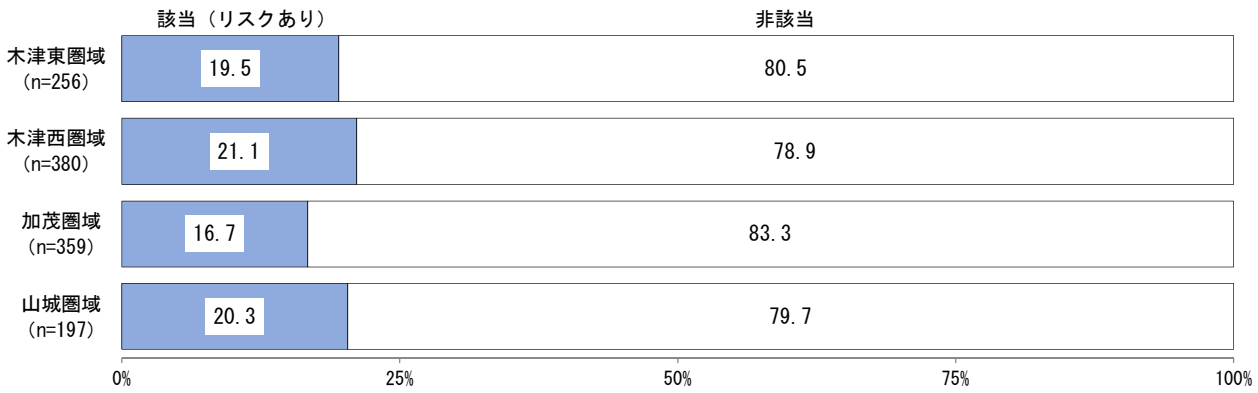
≪リスク該当状況≫

国の手引きに基づく『口腔機能の低下』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）は約２割（19.2%）となっており、前回調査（19.9%）と同程度となっている。



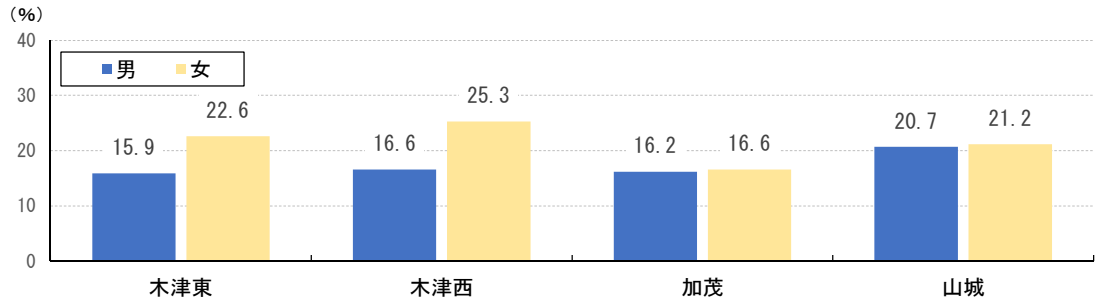
居住地区別にみると、『口腔機能の低下』の該当者（リスクあり）の割合は、木津西地区で21.1%と最も高く、次いで山城地区で20.3%となっている。

【居住地区別　生活機能評価『口腔機能の低下』】



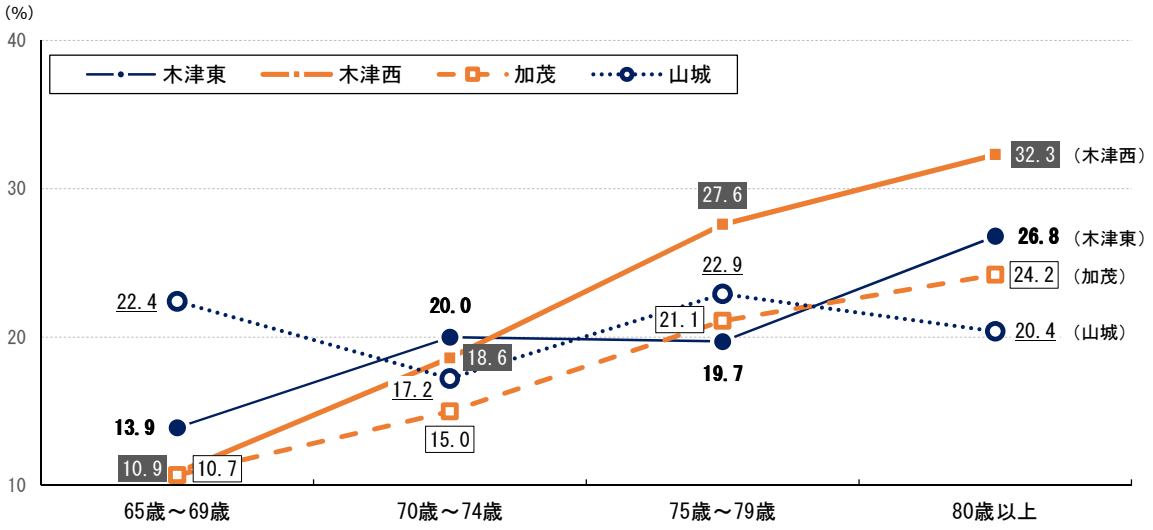
『口腔機能の低下』の該当者（リスクあり）の割合について、居住地区毎に性別にみると、男性では山城地区で 20.7%、女性では木津西地区で 25.3%と、それぞれ最も高くなっている。

【居住地区・性別　生活機能評価『口腔機能の低下』】※「該当者（リスクあり）」の割合



『口腔機能の低下』の該当者（リスクあり）の割合について、居住地区毎に年齢別にみると、木津西地区の 80 歳以上で 32.3%、75～79 歳で 27.6%と高くなっている。また、65～69 歳において、山城地区で 22.4%と、他の地区に比べて高い割合となっている。

【居住地区・年齢別　生活機能評価『口腔機能の低下』】※「該当者（リスクあり）」の割合



（６）認知機能の低下

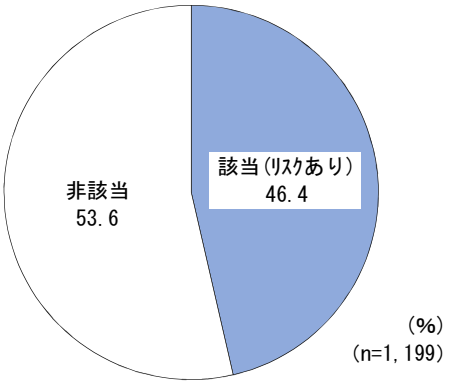
国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を『認知機能の低下』のリスク該当者と判定している。

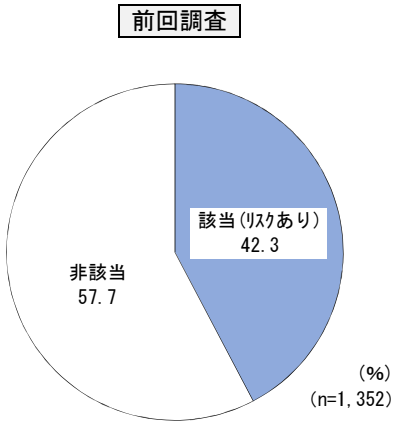
≪判定設問≫

問番号		設問	該当する選択肢
問４	（１）	物忘れが多いと感じますか	１．はい

≪リスク該当状況≫

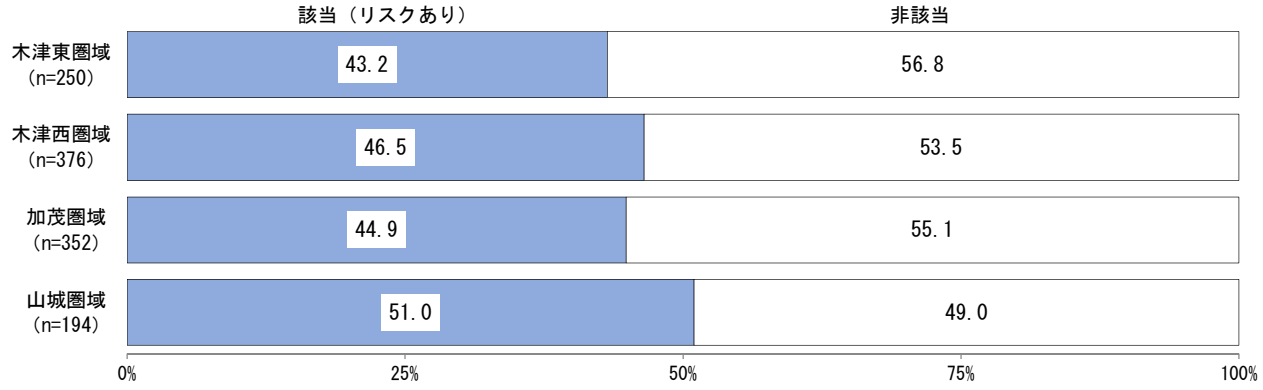
国の手引きに基づく『認知機能の低下』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）は４割台（46.4%）となっており、前回調査（42.3%）から 4.1 ポイント増えている。





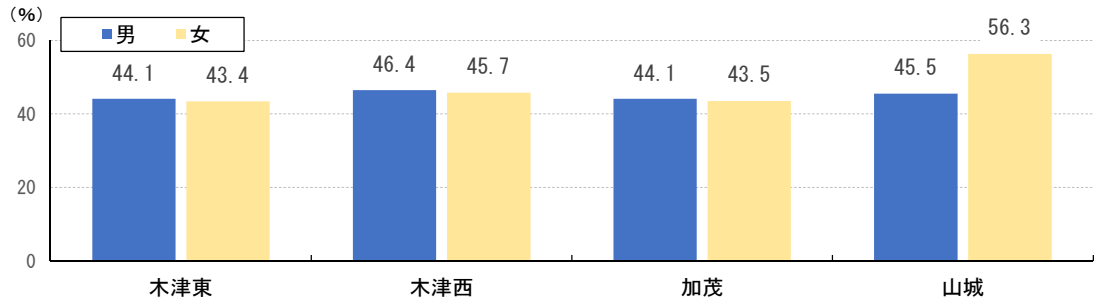
居住地区別にみると、『認知機能の低下』の該当者（リスクあり）の割合は、山城地区で 51.0%と最も高く、次いで木津西地区で 46.5%となっている。

【居住地区別　生活機能評価『認知機能の低下』】



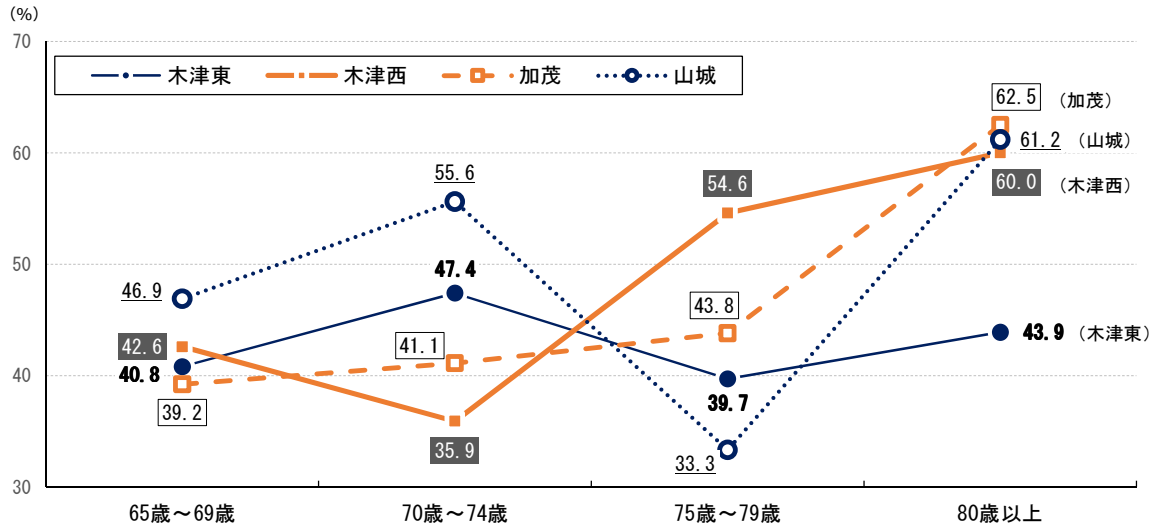
『認知機能の低下』の該当者（リスクあり）の割合について、居住地区毎に性別にみると、山城地区の女性で 56.3%と最も高く、このほかはいずれも４割台となっている。

【居住地区・性別　生活機能評価『認知機能の低下』】※「該当者（リスクあり）」の割合



『認知機能の低下』の該当者（リスクあり）の割合について、居住地区毎に年齢別にみると、加茂地区・山城地区・木津西地区の 80 歳以上でいずれも６割台と高くなっている。また、70 歳～74 歳において、山城地区で 55.6%、75 歳～79 歳において、木津西地区で 54.6%と、それぞれ他の地区に比べて高い割合となっている。

【居住地区・年齢別　生活機能評価『認知機能の低下』】※「該当者（リスクあり）」の割合



（７）うつ傾向

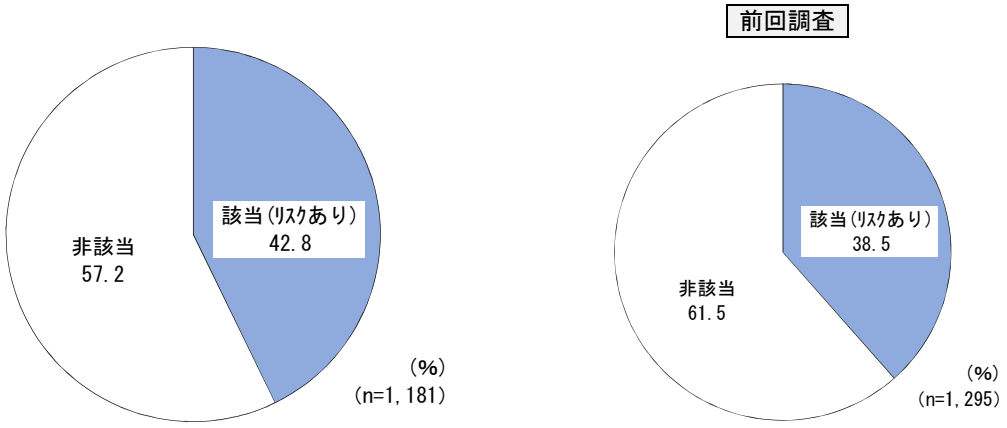
国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を『うつ傾向』のリスク該当者と判定している。

≪判定設問≫

問番号		設問	該当する選択肢
問７	（３）	この１か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	１．はい
	（４）	この１か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	１．はい

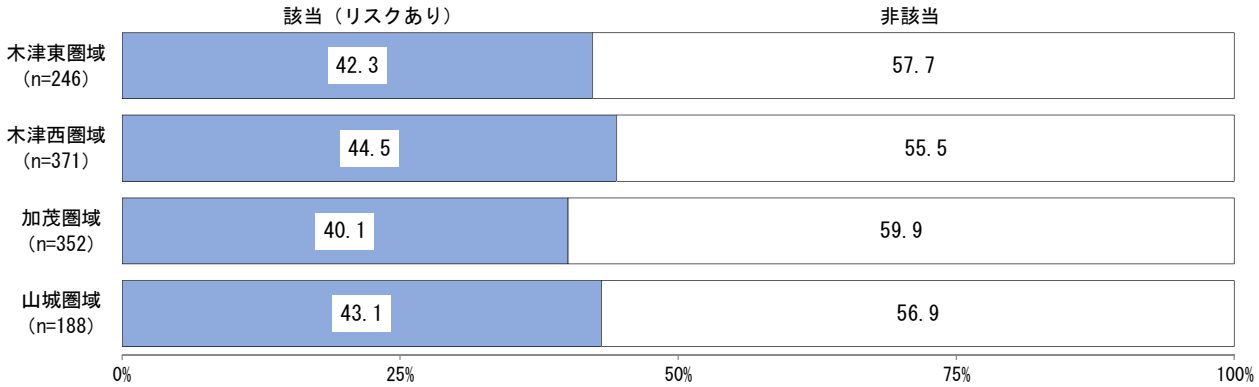
≪リスク該当状況≫

国の手引きに基づく『うつ傾向』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）は４割台（42.8%）となっており、前回調査（38.5%）から 4.3 ポイント増えている。



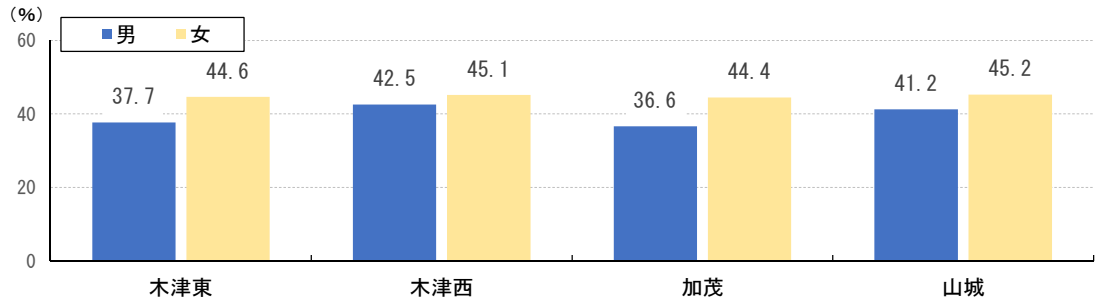
居住地区別にみると、『うつ傾向』の該当者（リスクあり）の割合は、いずれの地区も４割台となっており、木津西地区で 44.5%と最も高い。

【居住地区別　生活機能評価『うつ傾向』】



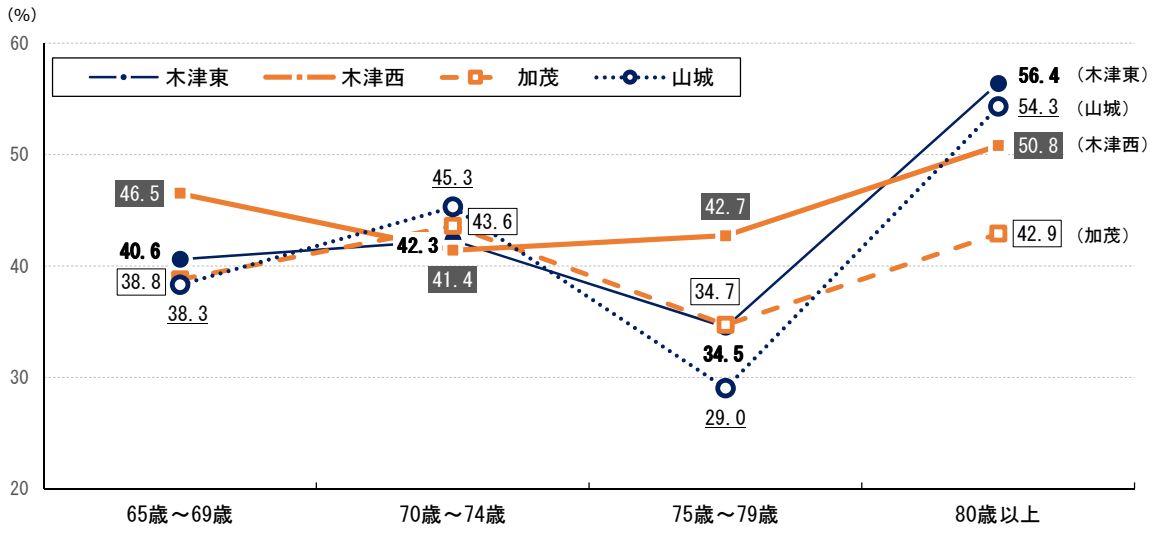
『うつ傾向』の該当者（リスクあり）の割合について、居住地区毎に性別にみると、いずれの地区も男性より女性のほうが高い割合となっている。

【居住地区・性別　生活機能評価『うつ傾向』】※「該当者（リスクあり）」の割合



『うつ傾向』の該当者（リスクあり）の割合について、居住地区毎に年齢別にみると、木津東地区・山城地区・木津西地区の 80 歳以上でいずれも５割台と高くなっている。また、木津西地区ではいずれの年齢層も４割以上みられ、65 歳～69 歳で 46.5％と高い。

【居住地区・年齢別　生活機能評価『うつ傾向』】※「該当者（リスクあり）」の割合



2　日常生活評価

（1）手段的自立度（ＩＡＤＬ）

高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標に準じた設問（5項目）に基づき、活動的な日常生活をおくるための能力（手段的自立度：ＩＡＤＬ）が低下している人の状況を把握する。

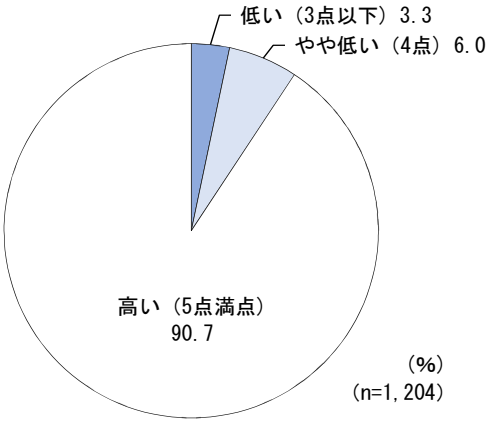
評価は、調査票の以下の設問に「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した場合を“1点”として、5点満点で評価し、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」（※4点以下を低下者）と評価している。

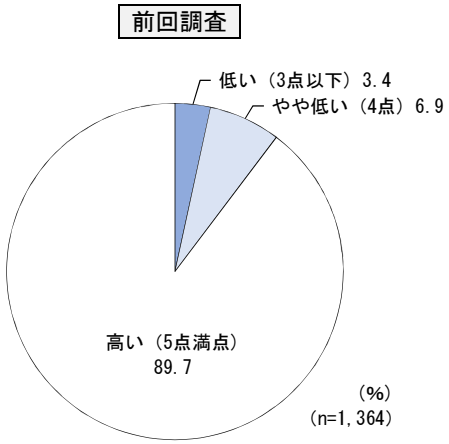
≪評価設問≫

問番号		設問	該当する選択肢
問4	（4）	バスや電車を使って1人で外出していますか	1．できるし、している（1点） 2．できるけどしていない（1点）
	（5）	自分で食品・日用品の買物をしていますか	1．できるし、している（1点） 2．できるけどしていない（1点）
	（6）	自分で食事の用意をしていますか	1．できるし、している（1点） 2．できるけどしていない（1点）
	（7）	自分で請求書の支払いをしていますか	1．できるし、している（1点） 2．できるけどしていない（1点）
	（8）	自分で預貯金の出し入れをしていますか	1．できるし、している（1点） 2．できるけどしていない（1点）

≪該当状況≫

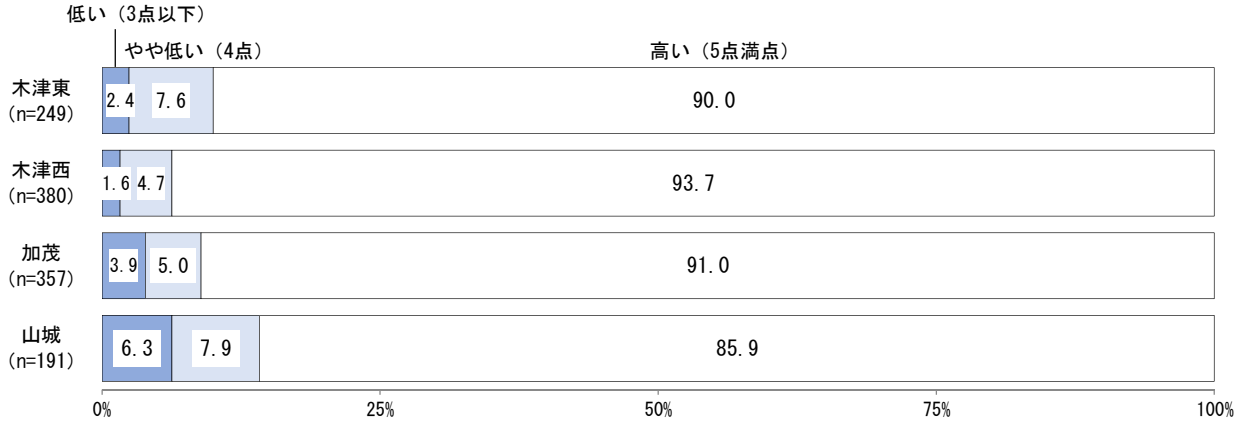
老研式活動能力指標に基づく『手段的自立度（ＩＡＤＬ）』の評価結果をみると、低下者（「低い」「やや低い」の計）は約1割（9.3%）となっており、前回調査（10.3%）から1ポイント減っている。





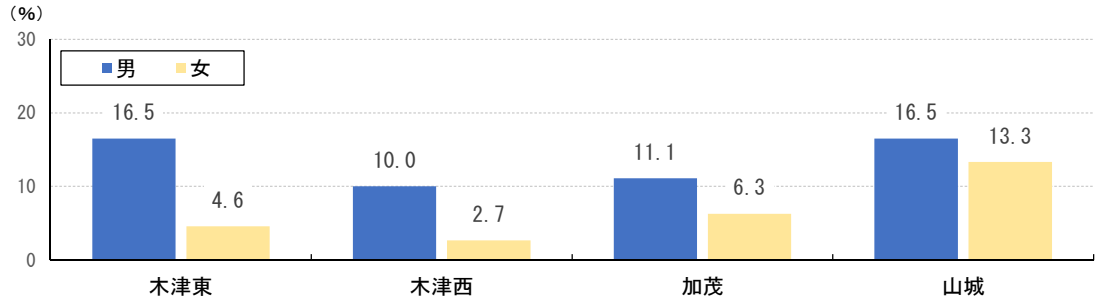
居住地区別にみると、『手段的自立度（ＩＡＤＬ）』の評価結果における低下者の割合は、山城地区で 14.1%と最も高く、次いで木津東地区で 10.0%となっている。

【居住地区別　日常生活評価『手段的自立度（ＩＡＤＬ）』】



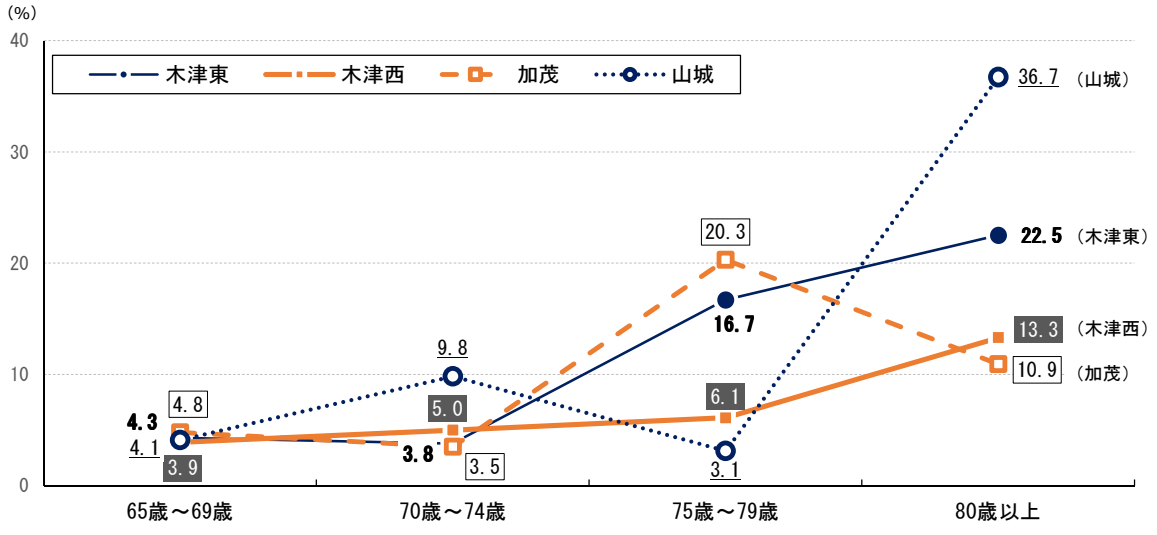
『手段的自立度（ＩＡＤＬ）』の評価結果における低下者の割合について、居住地区毎に性別にみると、いずれの地区も男性のほうが割合が高く、木津東地区、山城地区でともに 16.5%と最も高い。

【居住地区・性別　日常生活評価『手段的自立度（ＩＡＤＬ）』】※「低下者」の割合



『手段的自立度（ＩＡＤＬ）』の評価結果における低下者の割合について、居住地区毎に年齢別にみると、山城地区の 80 歳以上で 36.7%と最も高くなっている。

【居住地区・年齢別　日常生活評価『手段的自立度（ＩＡＤＬ）』】※「低下者」の割合



3　社会参加評価

（１）知的能動性

老研式活動能力には、高齢者の余暇や創作など生活を楽しむ能力に関する設問が４問あり、『知的能動性』として尺度化されており、これが低下している人の状況を把握する。

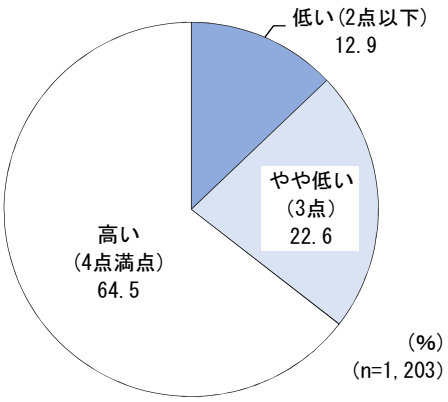
評価は、調査票の以下の設問に「はい」と回答した場合を“１点”として、４点満点で評価し、４点を「高い」、３点を「やや低い」、２点以下を「低い」（※３点以下を低下者）と評価している。

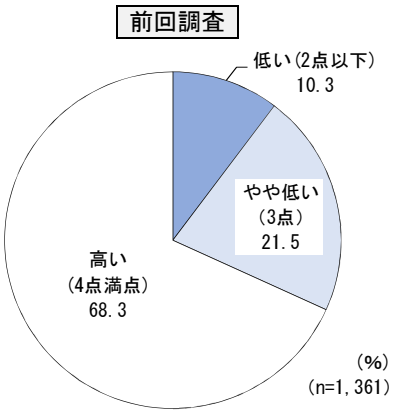
≪評価設問≫

問番号		設問	該当する選択肢
問４	（９）	年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか	１．はい（１点）
	(10)	新聞を読んでいますか	１．はい（１点）
	(11)	本や雑誌を読んでいますか	１．はい（１点）
	(12)	健康についての記事や番組に関心がありますか	１．はい（１点）

≪該当状況≫

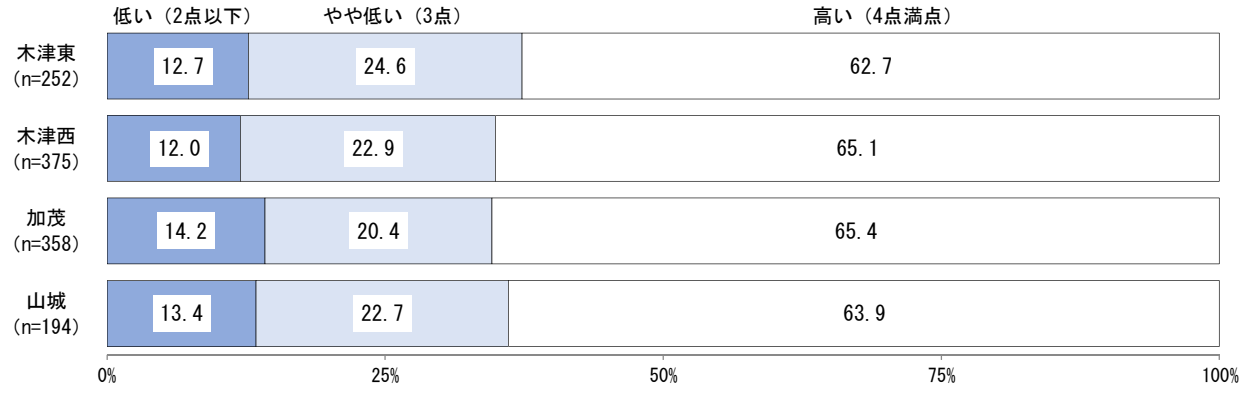
老研式活動能力指標に基づく『知的能動性』の評価結果をみると、低下者（「低い」「やや低い」の計）は３割台（35.5%）となっており、前回調査（31.8%）から 3.7 ポイント増えている。





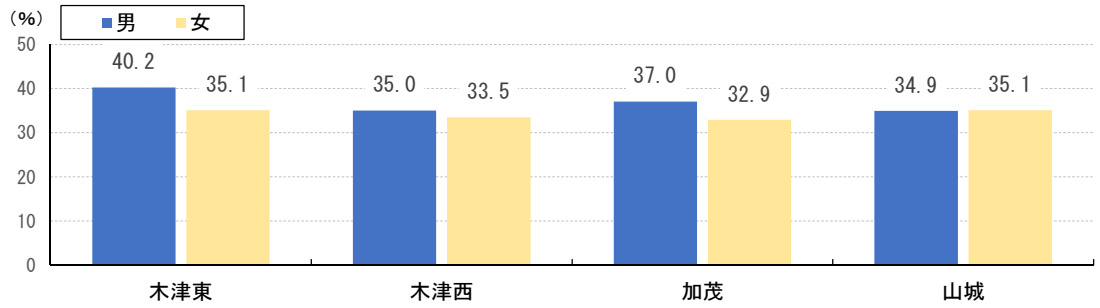
居住地区別にみると、『知的能動性』の評価結果における低下者の割合は、いずれの地区も３割台となっており、木津東地区で 37.3%と最も高い。

【居住地区別　社会参加評価『知的能動性』】



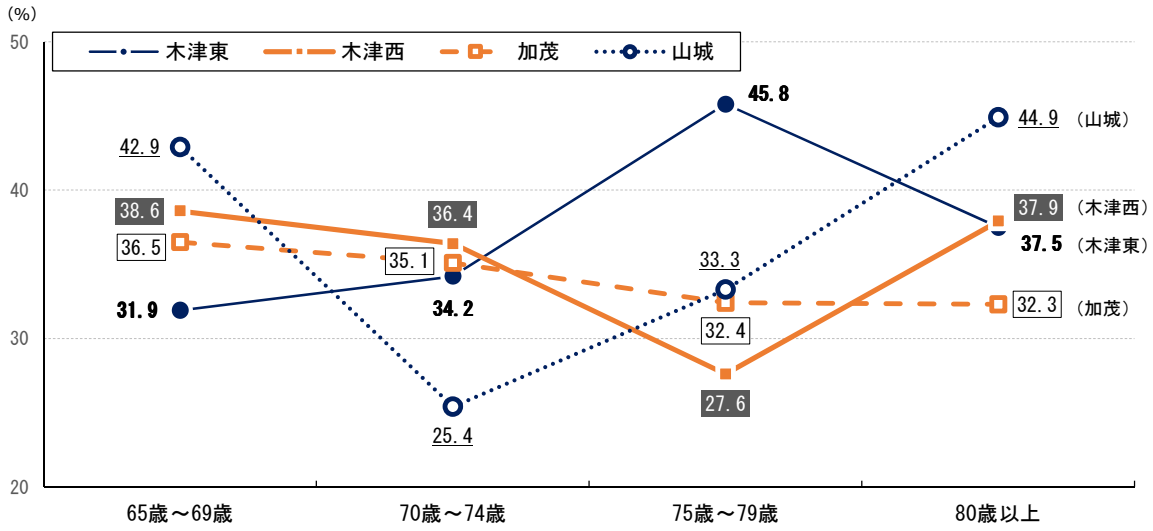
『知的能動性』の評価結果における低下者の割合について、居住地区毎に性別にみると、木津東地区の男性で 40.2%と最も高く、このほかはいずれも３割台となっている。

【居住地区・性別　社会参加評価『知的能動性』】※「低下者」の割合



『知的能動性』の評価結果における低下者の割合について、居住地区毎に年齢別にみると、木津東地区の 75 歳～79 歳で 45.8%と最も高く、次いで山城地区の 80 歳以上で 44.9%、65 歳～69 歳で 42.9%となっている。

【居住地区・年齢別　社会参加評価『知的能動性』】※「低下者」の割合



（２）社会的役割

老研式活動能力には、地域で社会的な役割を果たす能力に関する設問が４問あり、『社会的役割』として尺度化されており、これが低下している人の状況を把握する。

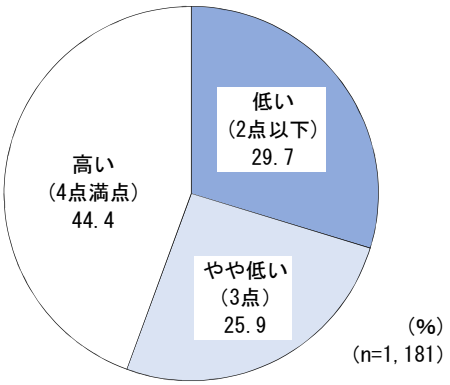
評価は、調査票の以下の設問に「はい」と回答した場合を“１点”として、４点満点で評価し、４点を「高い」、３点を「やや低い」、２点以下を「低い」（※３点以下を低下者）と評価している。

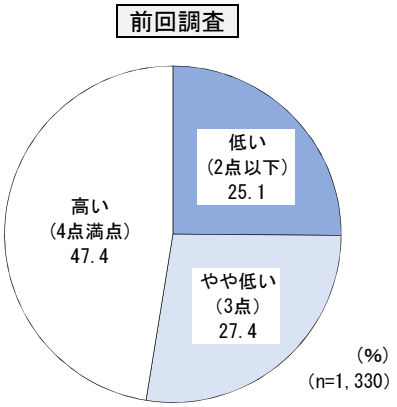
≪評価設問≫

問番号		設問	該当する選択肢
問４	(13)	友人の家を訪ねていますか	１．はい（１点）
	(14)	家族や友人の相談にのっていますか	１．はい（１点）
	(15)	病人を見舞うことができますか	１．はい（１点）
	(16)	若い人に自分から話しかけることがありますか	１．はい（１点）

≪該当状況≫

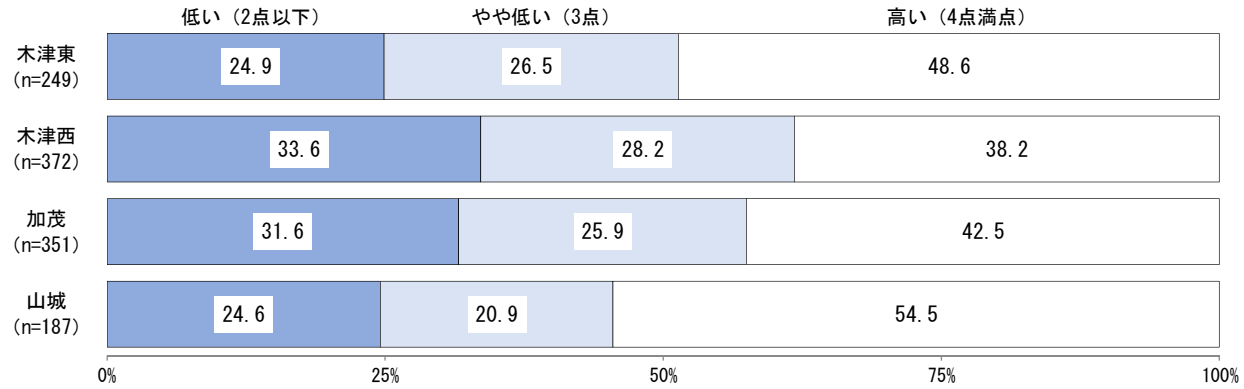
老研式活動能力指標に基づく『社会的役割』の評価結果をみると、低下者（「低い」「やや低い」の計）は半数以上（55.6%）を占めており、前回調査（52.5%）から 3.1 ポイント増えている。





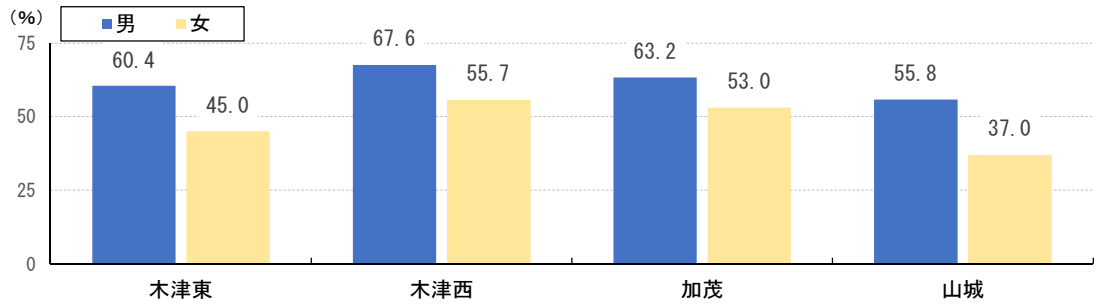
居住地区別にみると、『社会的役割』の評価結果における低下者の割合は、木津西地区で 61.8%と最も高く、次いで加茂地区で 57.5%となっている。

【居住地区別　社会参加評価『社会的役割』】



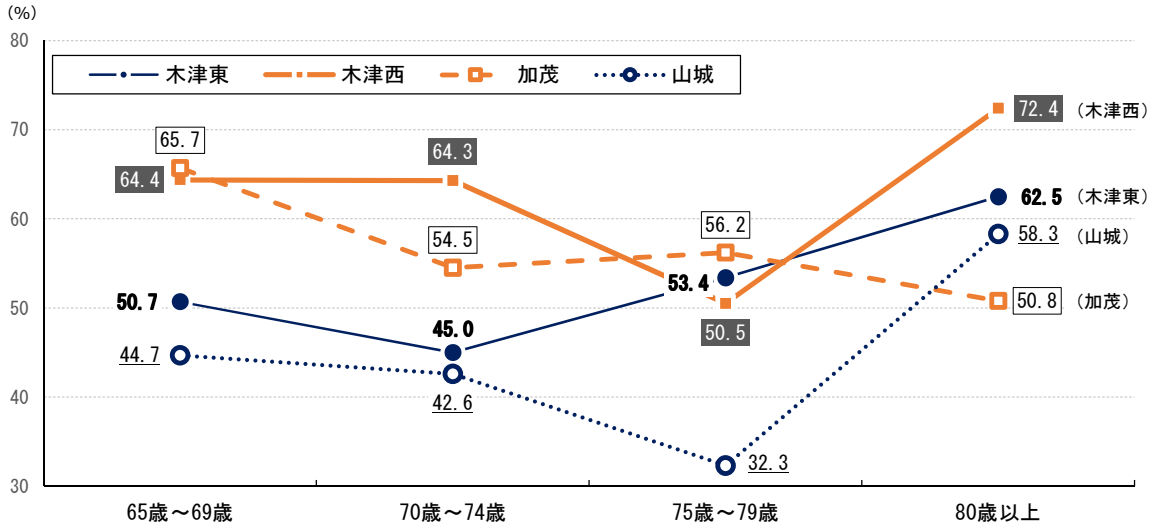
『社会的役割』の評価結果における低下者の割合について、居住地区毎に性別にみると、男女ともに木津西地区で最も高く、男性で 67.6%、女性で 55.7%となっている。また、いずれの地区も男性のほうが女性よりも 10～20 ポイント程度高い割合となっている。

【居住地区・性別　社会参加評価『社会的役割』】※「低下者」の割合



『社会的役割』の評価結果における低下者の割合について、居住地区毎に年齢別にみると、木津西地区の 80 歳以上で 72.4%と最も高く、同地区の 74 歳以下においても 6 割台と高い。また、加茂地区では、65 歳～69 歳で 65.7%と、70 歳以上よりも高い割合となっている。

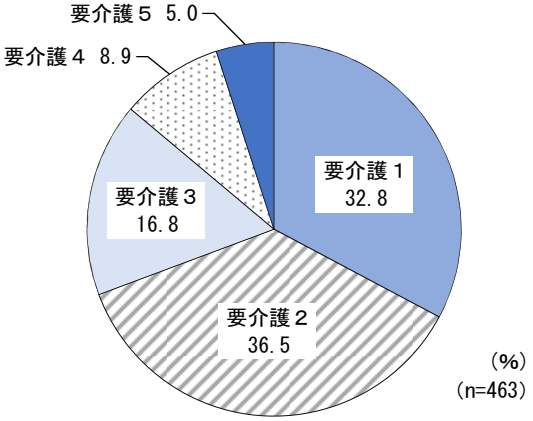
【居住地区・年齢別　社会参加評価『社会的役割』】※「低下者」の割合

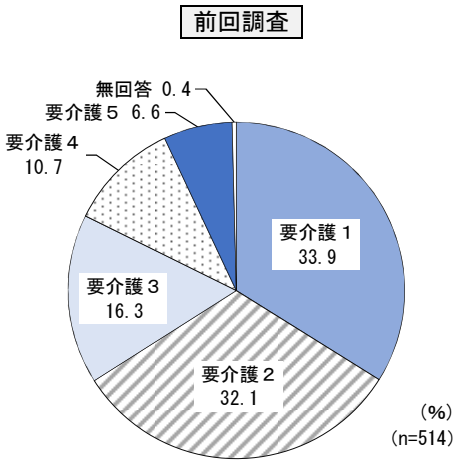


Ⅱ-3　在宅介護実態調査

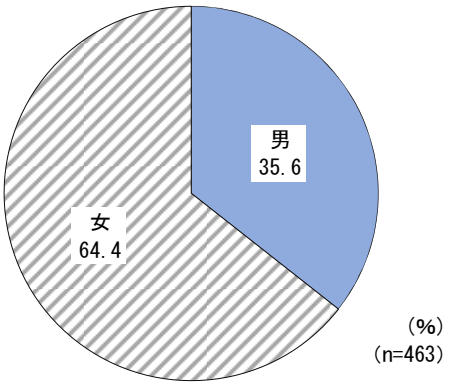
1　調査対象者の属性

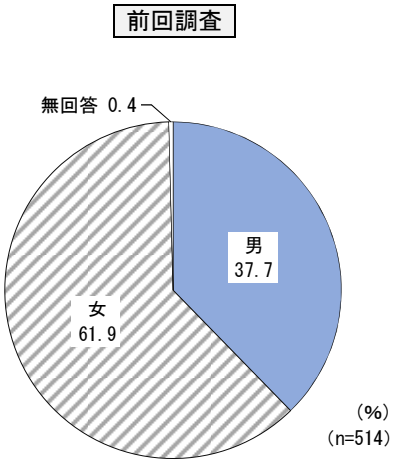
（１）要介護度



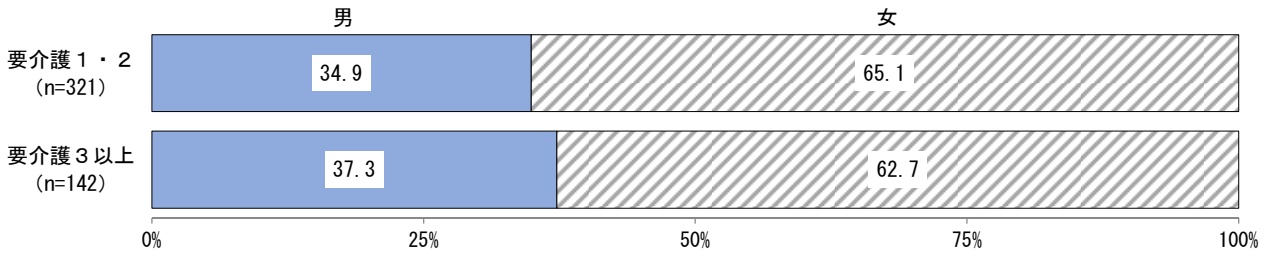


（２）性別

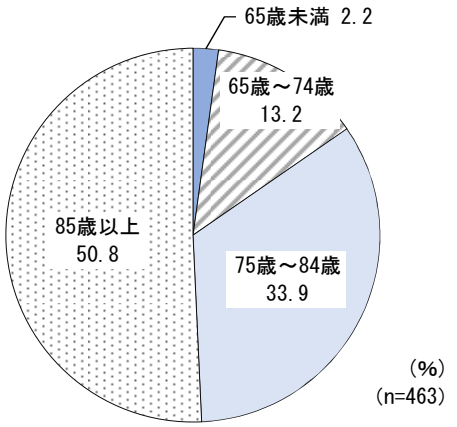




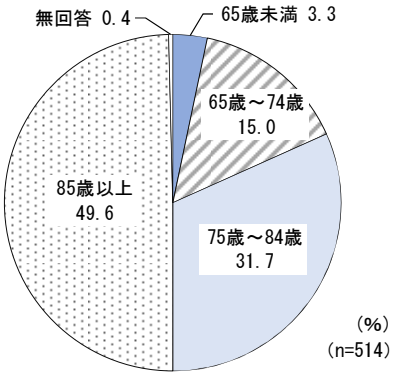
【要介護度別　性別】



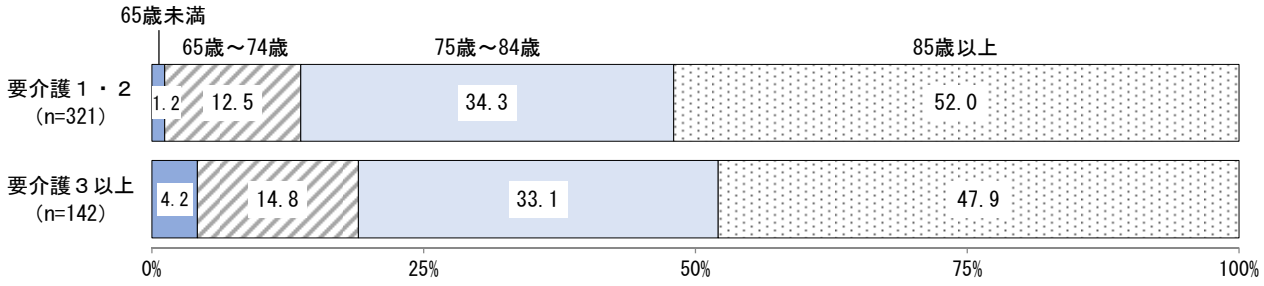
（３）年齢



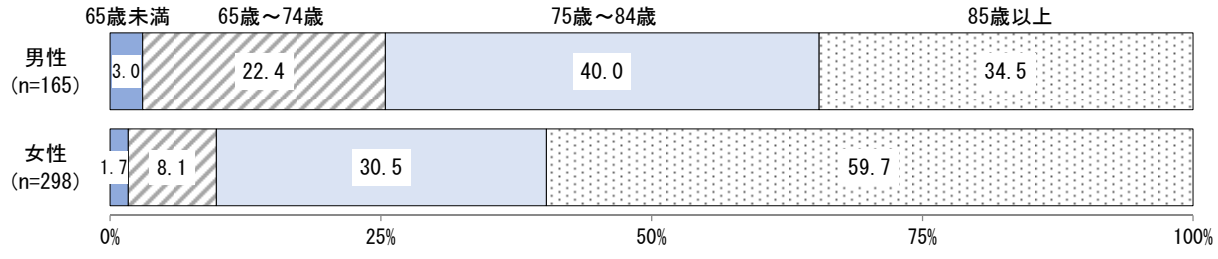
前回調査



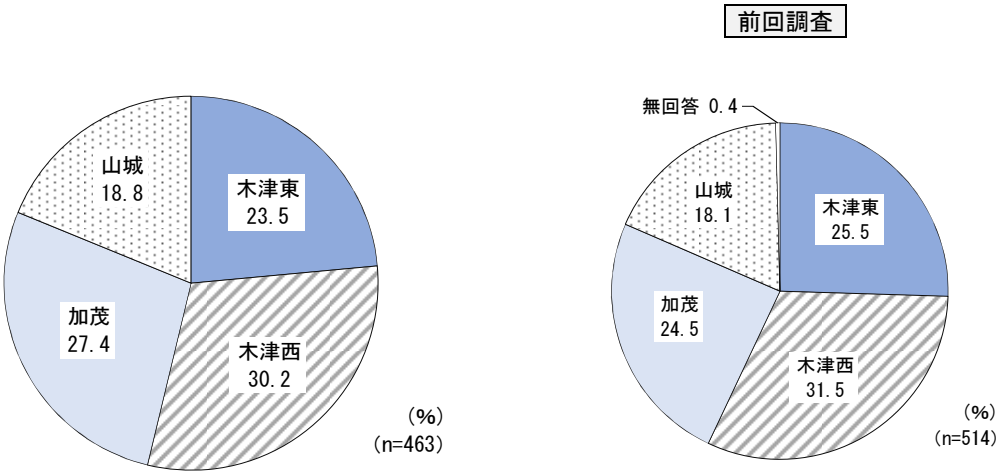
【要介護度別　年齢】



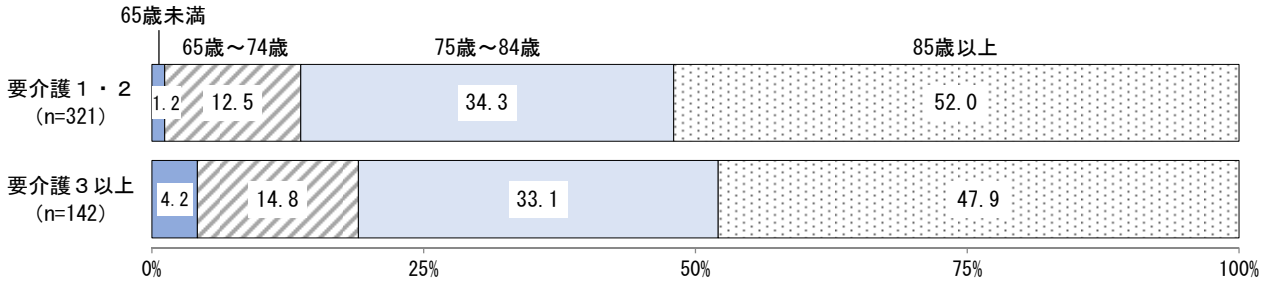
【性別　年齢】



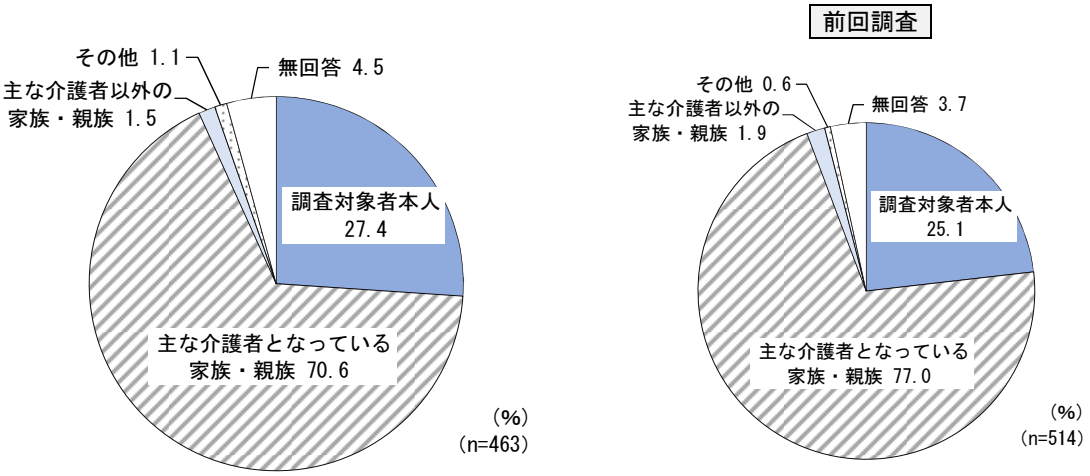
（４）住まい（居住地区）



【要介護度別　住まい（居住地区）】



（５）回答者



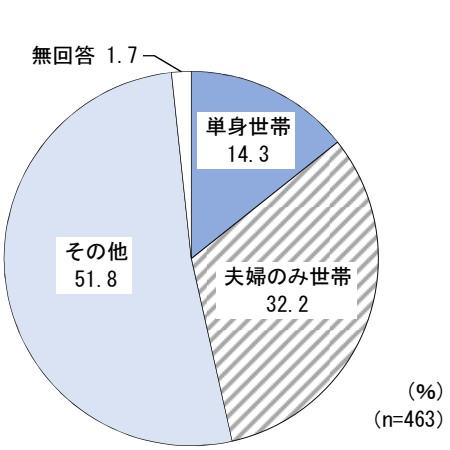
本アンケートは、以下の２種類から構成されている。
［Ａ票］調査対象者本人について（全員回答対象）
［Ｂ票］主たる介護者の方について（調査対象者が介護を受けている場合のみ回答）

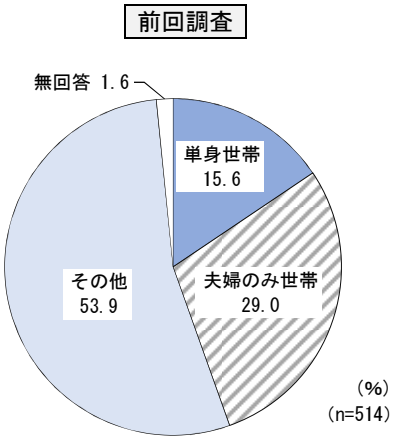
２　調査対象者本人について［Ａ票］

（１）世帯類型

［Ａ票］問１　世帯類型について、ご回答ください

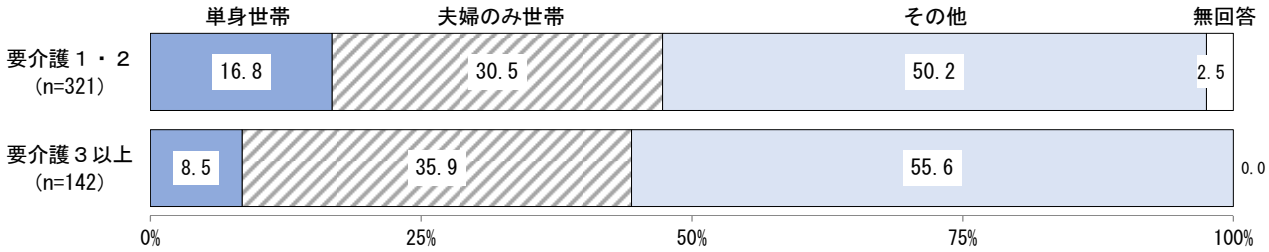
世帯類型としては、「単身世帯」が 14.3%、「夫婦のみ世帯」が 32.2%となっている。
前回調査と比べると、「単身世帯」(前回 15.6%)は 1.3 ポイント減、「夫婦のみ世帯」(前回 29.0%)は 3.2 ポイント増となっている。





要介護度別にみると、「単身世帯」が、要介護１・２で 16.8%、要介護３以上で 8.5%となっている。

【要介護度別　世帯類型】

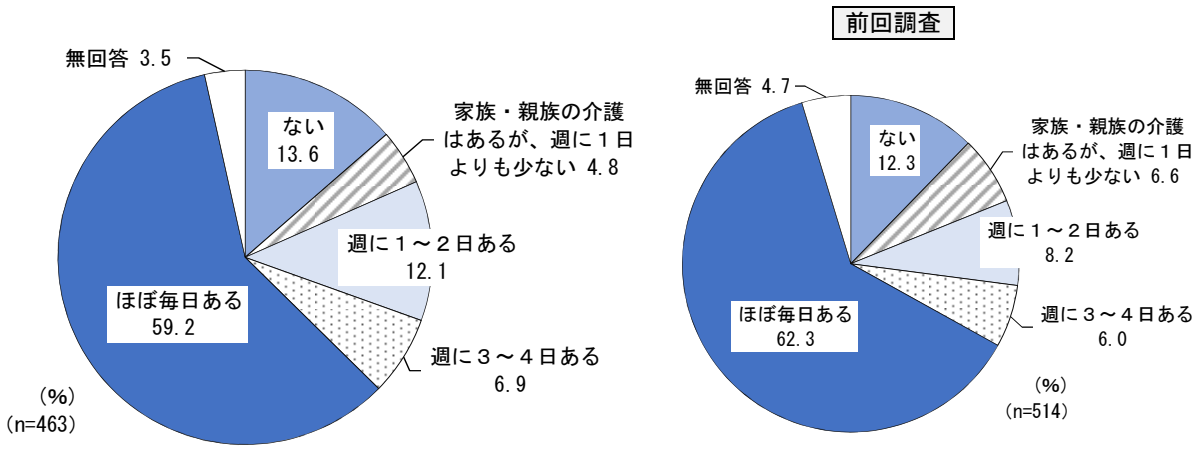


（２）介護の頻度

［Ａ票］問２　ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）

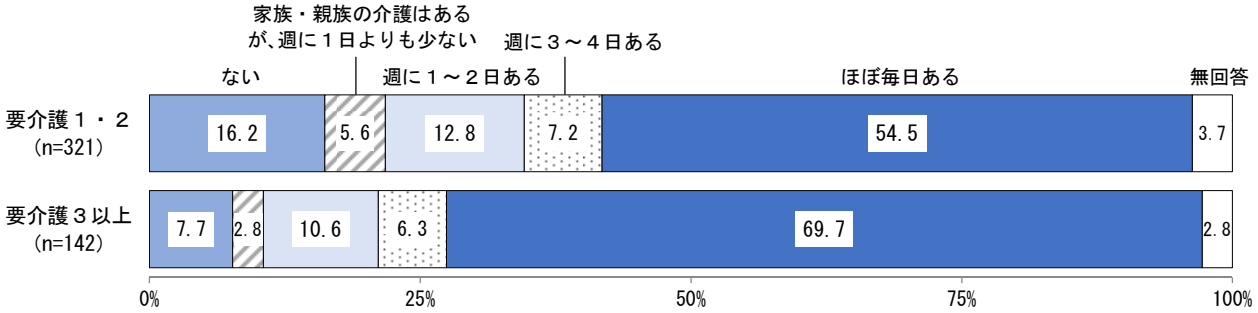
家族や親族からの介護を受けているという割合は、全体の８割台（82.9%）となっており、「ほぼ毎日ある」が 59.2%と最も多くなっている。

前回調査と比べると、介護を受けているという割合（前回 83.1%）は同程度となっているものの、「ほぼ毎日ある」（前回 62.3%）は 3.1 ポイント減っている。



要介護度別にみると、「ほぼ毎日ある」が、要介護１・２で５割台（54.5%）、要介護３以上で約７割（69.7%）をそれぞれ占めている。

【要介護度別　介護の頻度】



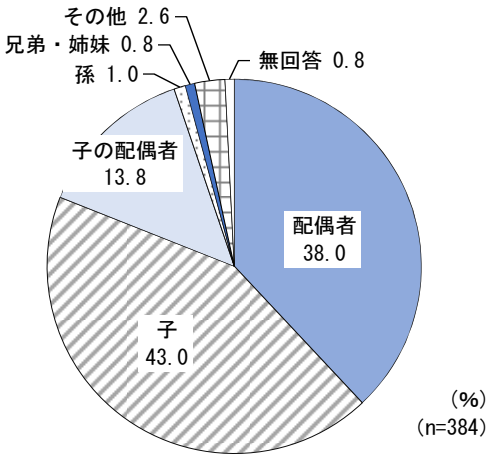
（３）主な介護者の属性等

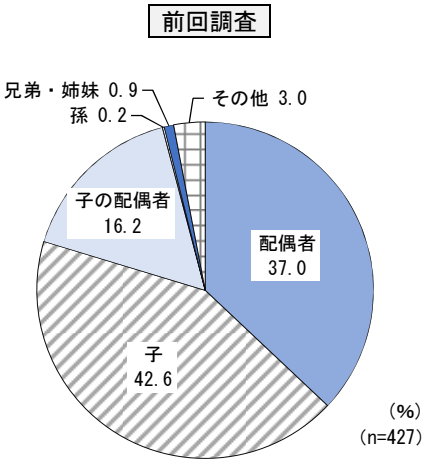
①介護者の続柄等

【問 3～問 7 は、問 2 で“家族や親族からの介護を受けている（「ない」以外のいずれか）”と回答の方のみ】

［Ａ票］問３　主な介護者の方は、どなたですか

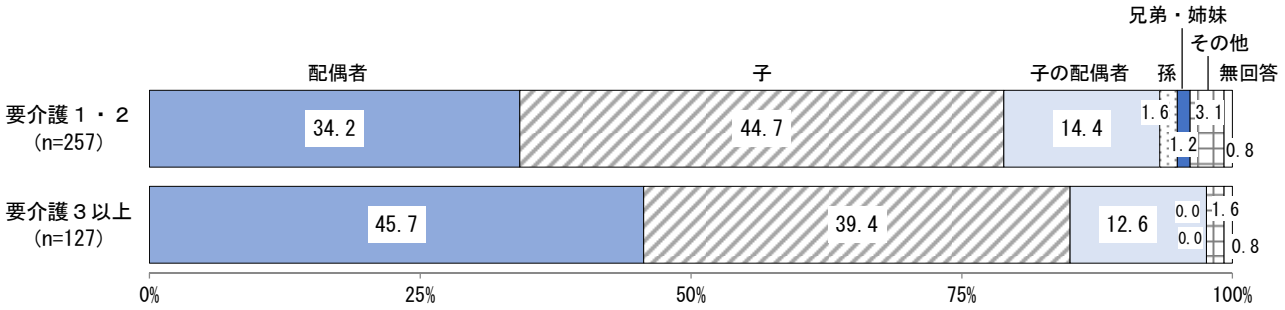
主な介護者としては、子どもの割合（「子」「子の配偶者」の計）が５割台（56.8%）を占め、次いで「配偶者」が 38.0%となっており、前回調査（子ども 58.8%、配偶者 37.0%）と同程度となっている。





要介護度別にみると、ともに子どもから介護を受けている割合が半数以上を占めており、要介護１・２で 59.1%、要介護３以上で 52.0%となっている。

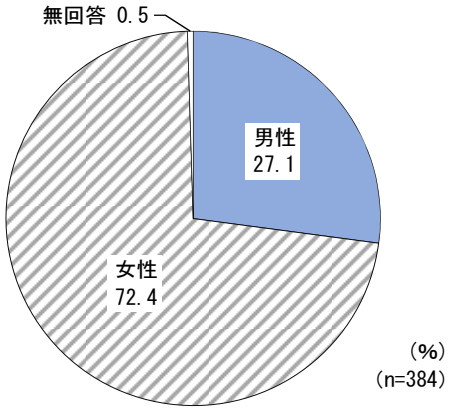
【要介護度別　介護者の続柄等】

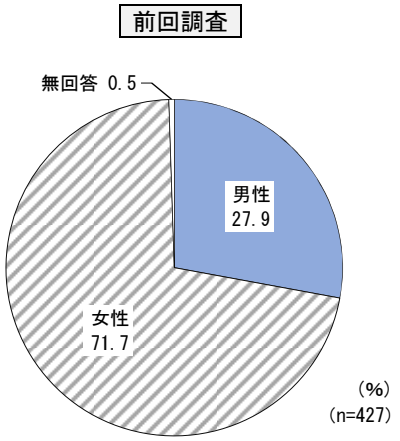


②介護者の性別

［A票］問４　主な介護者の方の性別について、ご回答ください

主な介護者の性別としては、「男性」が 27.1%に対し、「女性」が 72.4%となっており、前回調査（男性 27.9%、女性 71.7%）と同程度となっている。

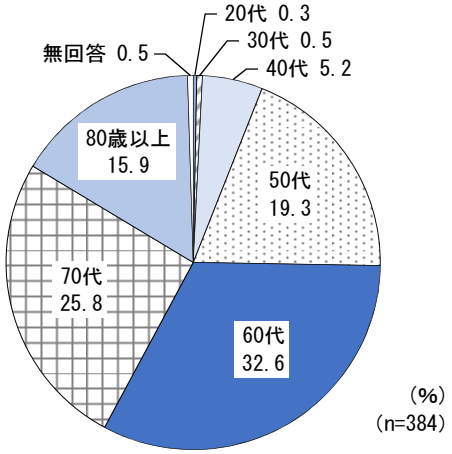


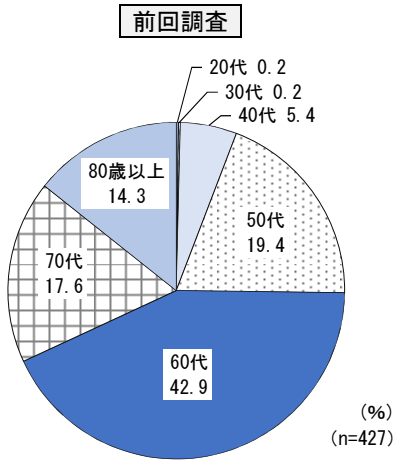


③介護者の年齢

［A票］問５　主な介護者の方の年齢について、ご回答ください

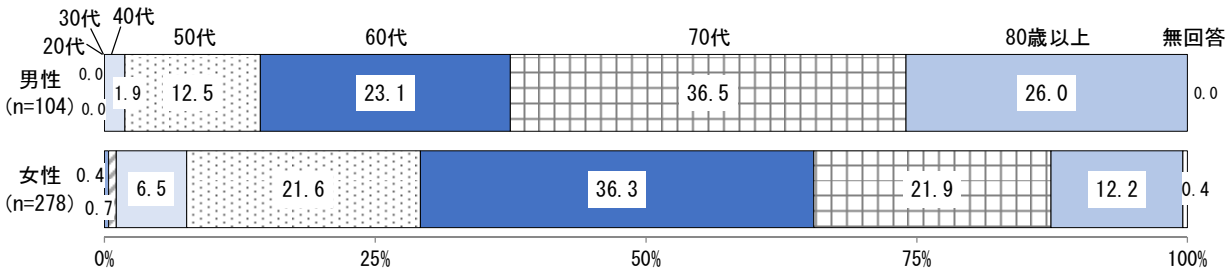
主な介護者の年齢としては、「60 代」が 32.6%と最も多くなっている。また、70 歳以上が４割台（41.7%）を占めており、前回調査（31.9%）から 9.8 ポイント増えている。





介護者の性別にみると、70 歳以上の割合が、女性の介護者で３割台（34.2%）に対し、男性の介護者では６割台（62.5%）を占めている。

【介護者の性別　介護者の年齢】

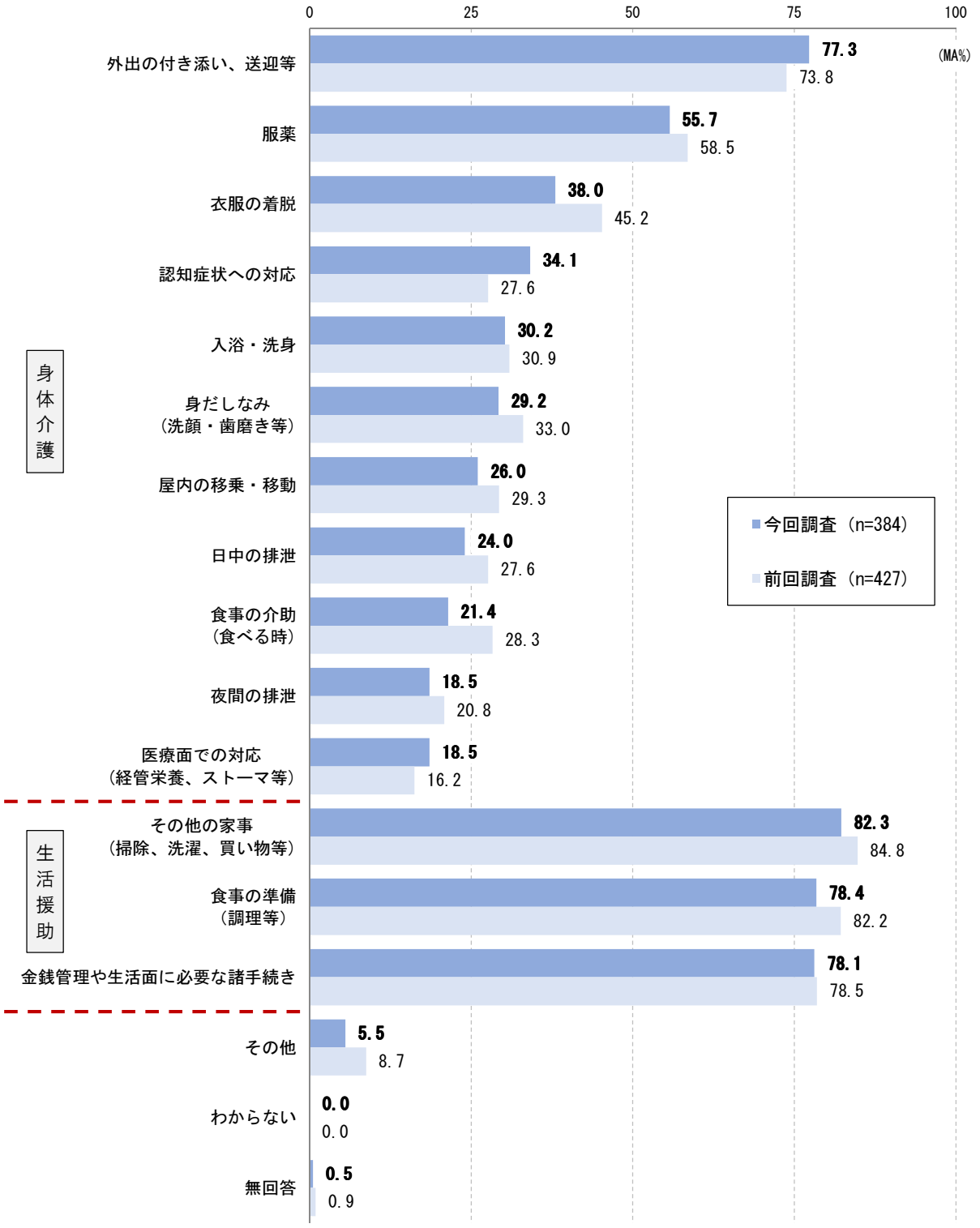


④介護等の内容

［A票］問６　現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください（いくつでも）

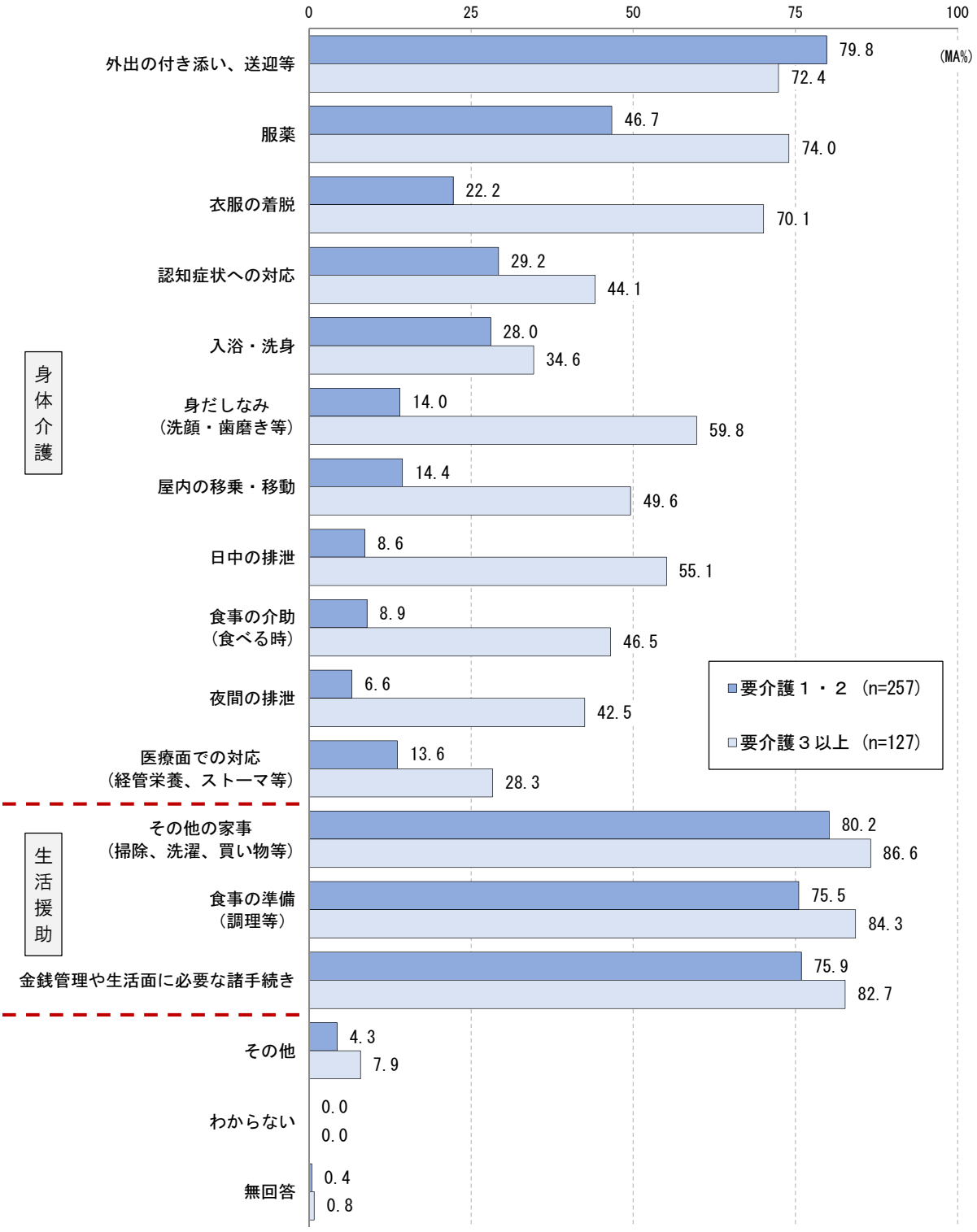
主な介護者が行っている介護等としては、生活援助に関する介護等がいずれも多く、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が 82.3%、「食事の準備（調理等）」が 78.4%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 78.1%となっている。一方、身体介護に関する介護等では、「外出の付き添い、送迎等」が 77.3%と最も多く、次いで「服薬」が 55.7%となっている。

前回調査と比べると、「認知症状への対応」（今回 34.1%、前回 27.6%）が 6.5 ポイント増えている。



要介護度別にみると、ともに生活援助に関する内容がいずれも７～８割台と多くなっており、身体介護に関する内容においても「外出の付き添い、送迎等」が７割台と多い。また、このほかの項目についてはいずれも要介護１・２に比べて、要介護３以上では高い割合がみられ、「服薬」が 74.0%、「衣服の着脱」が 70.1%などとなっている。

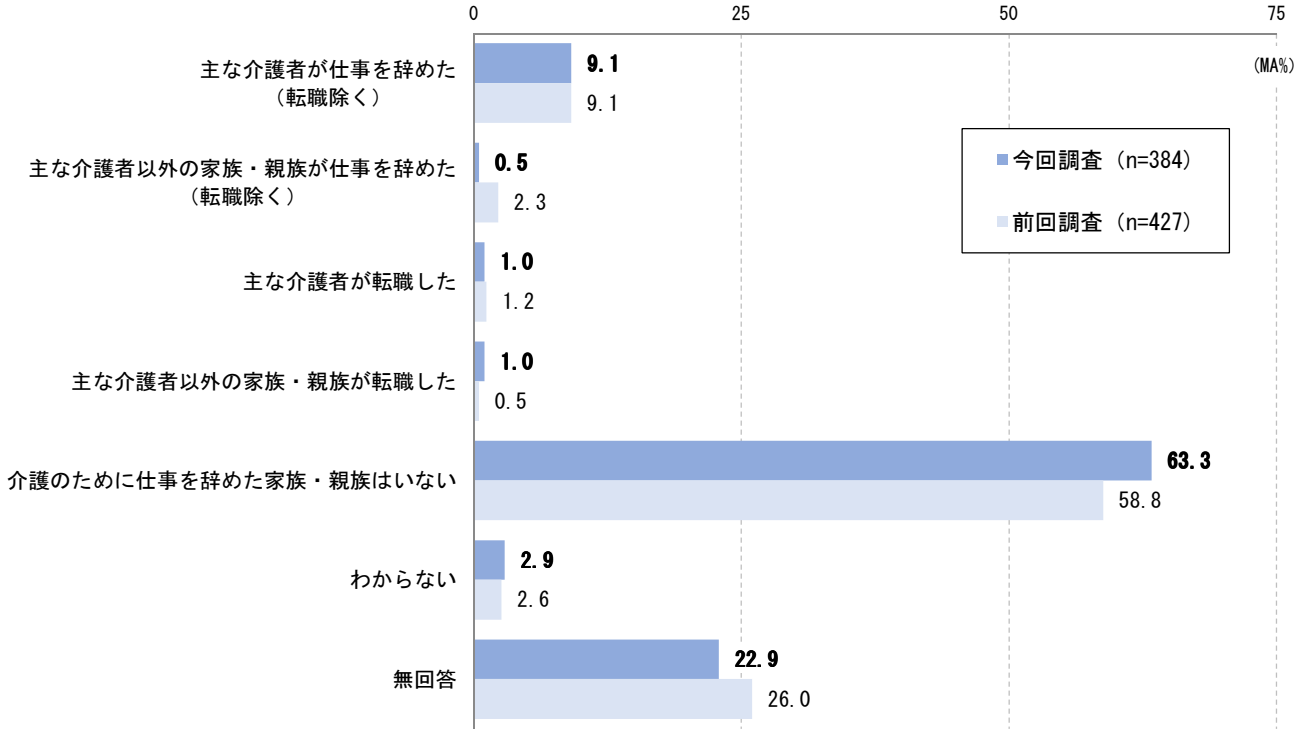
【要介護度別　介護等の内容】



⑤介護離職の状況

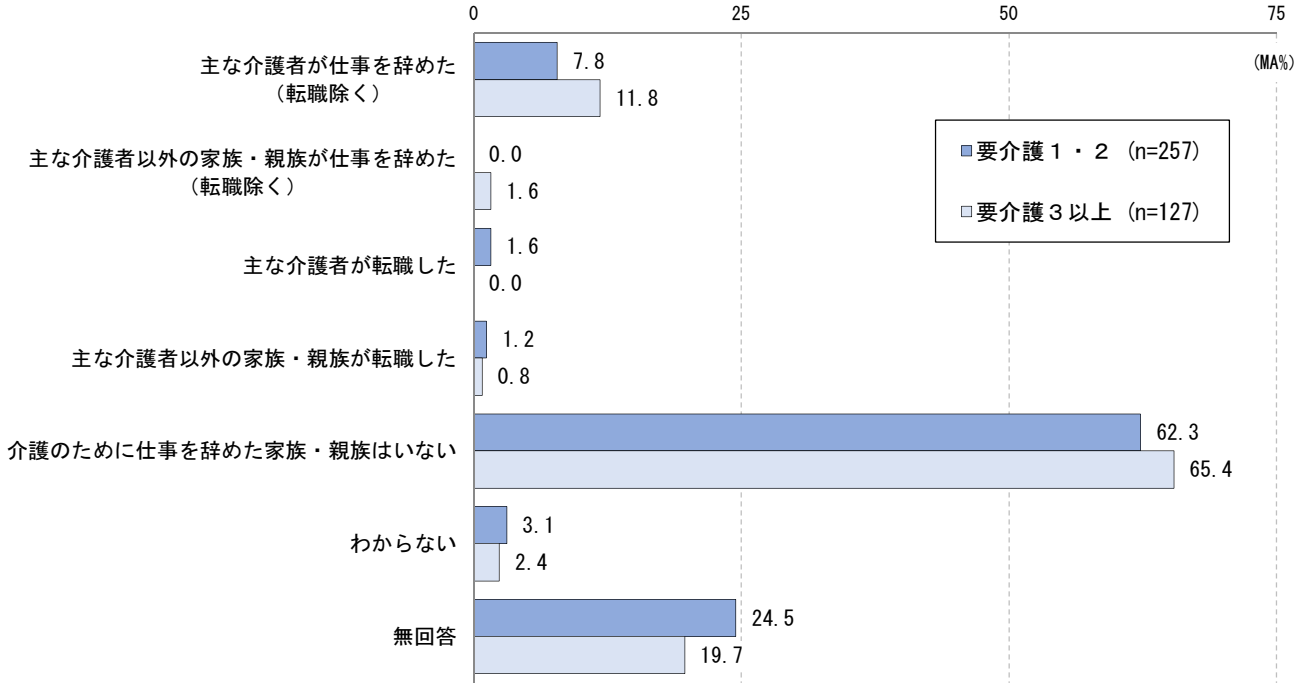
［A票］問７　ご家族やご親族の中で、ご本人（認定調査対象者）の介護を主な理由として、過去１年の間に仕事を辞めた方はいますか（いくつでも）

過去１年間に、介護を理由に仕事を辞めた（または転職した）家族や親族がいるという割合（「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」「わからない」及び無回答を除いた割合）は、全体の約１割（10.9%）となっており、前回調査（12.6%）から 1.7 ポイント減っている。



要介護度別にみると、仕事を辞めた（または転職した）家族や親族がいるという割合が、要介護１・２で 10.1%、要介護３以上で 12.6%となっている。

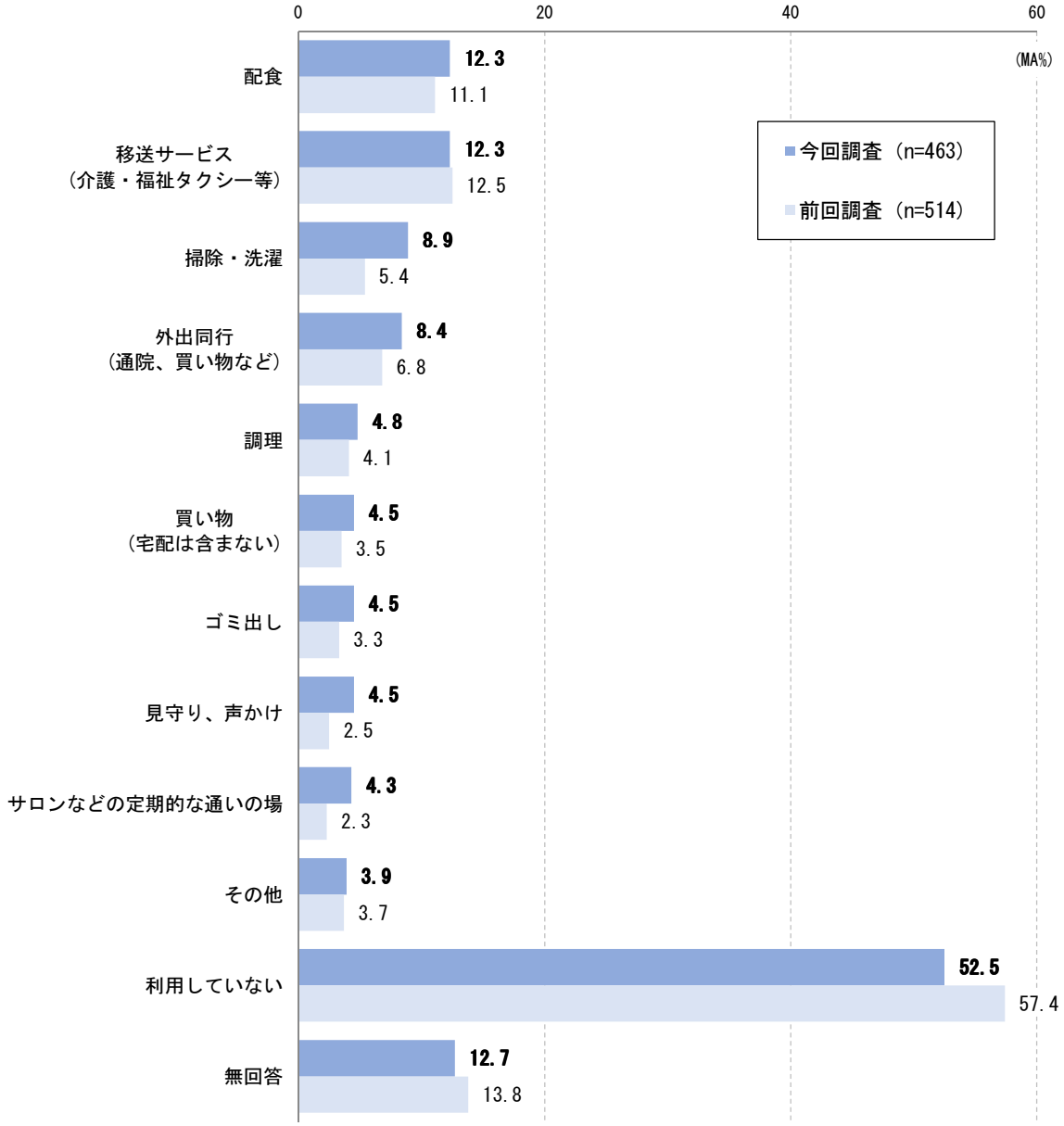
【要介護度別　介護離職の状況】



（４）介護保険以外の支援やサービスの利用状況

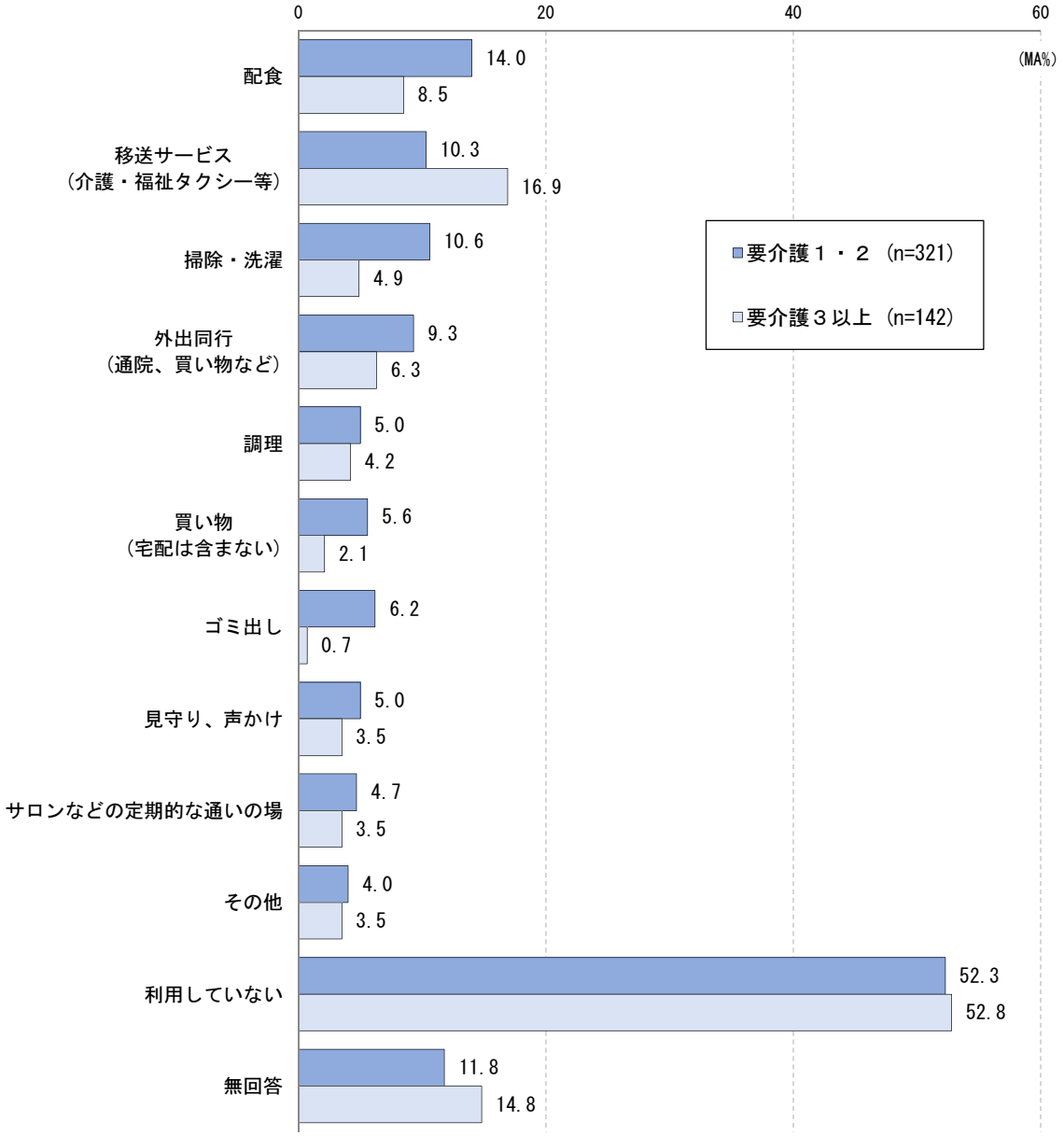
［Ａ票］問８「介護保険サービス以外」で、現在利用している支援・サービスについて、ご回答ください（いくつでも）

介護保険サービス以外で利用している支援やサービスがあるという割合（「利用していない」及び無回答を除いた割合）は、全体の３割台（34.8%）となっており、前回調査（28.8%）から６ポイント増えている。具体的に利用している支援・サービスとしては、「配食」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」がともに 12.3%と最も多く、次いで「掃除・洗濯」が 8.9%、「外出同行（通院、買い物など）」が 8.4%となっている。



要介護度別にみると、いずれかの支援やサービスを利用しているという割合が、要介護１・２で35.8%、要介護３以上で 32.4%となっている。具体的に利用している支援やサービスとしては、要介護１・２では「配食」が 14.0%、要介護３以上では「移送サービス（介護・福祉タクシー等)」が16.9%と、それぞれ最も多くなっている。

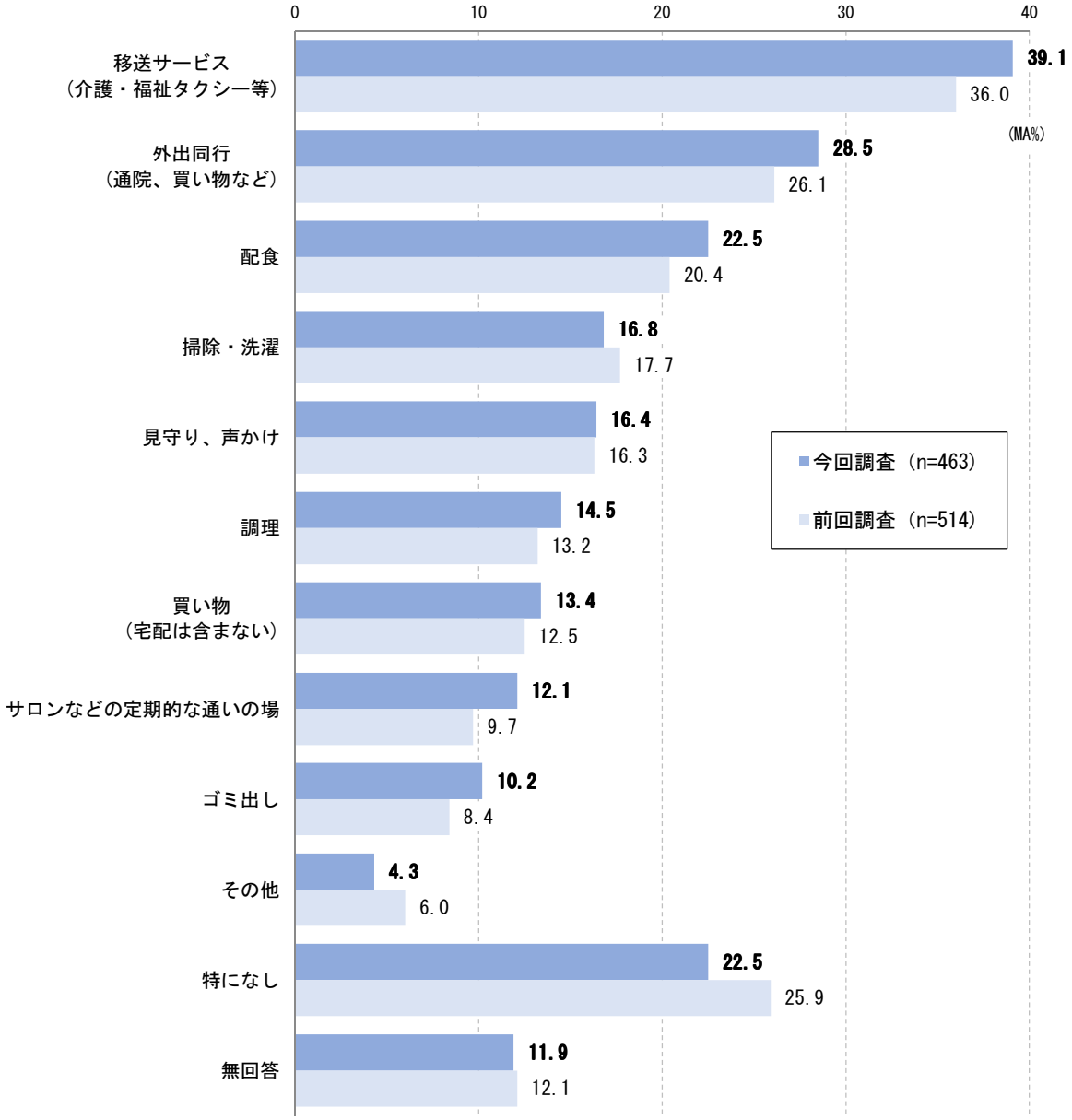
【要介護度別　介護保険以外の支援やサービスの利用状況】



（５）在宅生活の継続に必要な支援やサービス

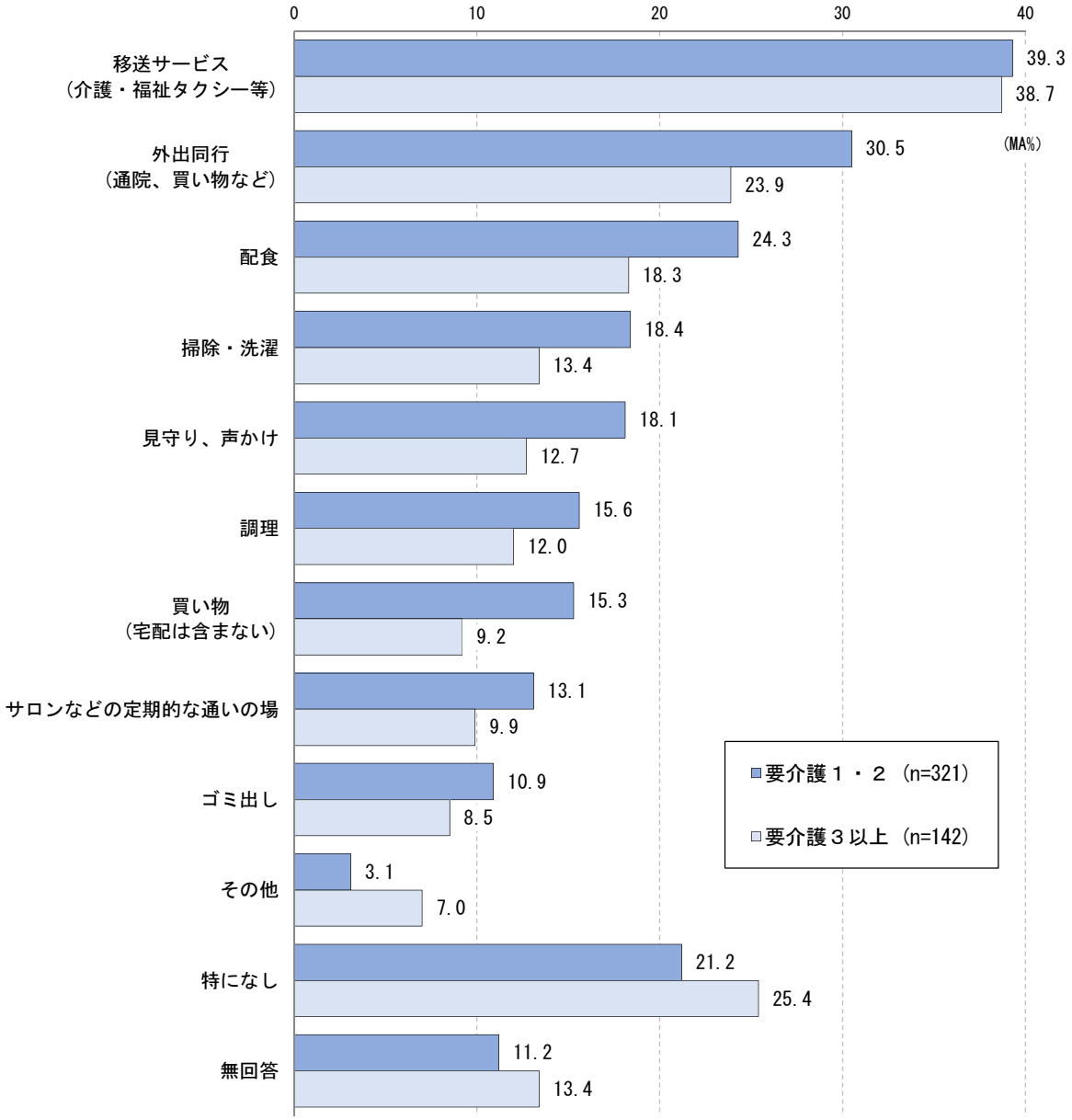
［Ａ票］問９　今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください（いくつでも）

今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援やサービスとしては、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 39.1％と最も多く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が 28.5％、「配食」が 22.5％となっており、いずれも前回調査から２～３ポイント程度増えている。



要介護度別にみると、ともに「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が４割近くと最も多く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」、「配食」となっており、いずれの項目も要介護１・２のほうが高い割合となっている。

【要介護度別　在宅生活の継続に必要な支援やサービス】

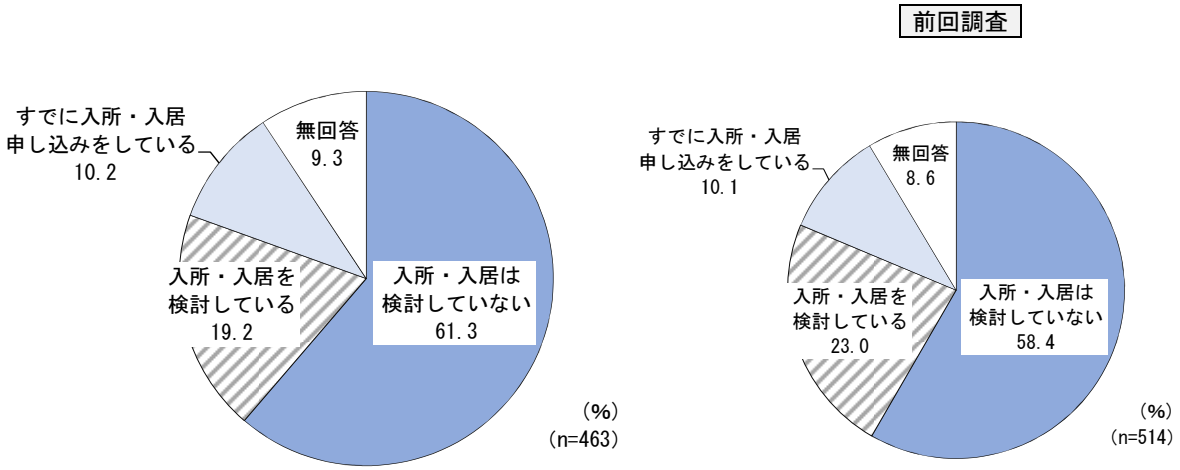


（６）施設等への入所・入居の意向

①入所・入居の検討状況

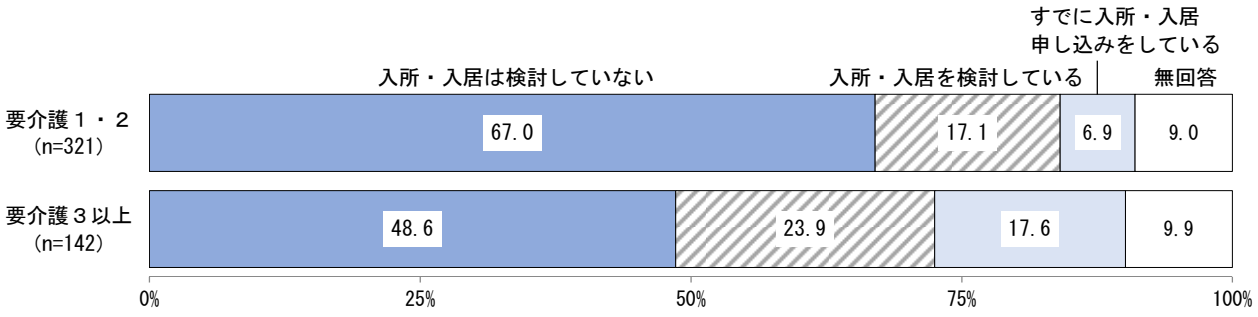
［Ａ票］問 10 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください

施設等への入所・入居について、「入所・入居を検討している」が 19.2%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が 10.2%となっており、入所・入居意向があるという割合は約３割（29.4%）みられ、前回調査（33.1%）から 3.7 ポイント減っている。



要介護度別にみると、入所・入居意向があるという割合が、要介護１・２で２割台（24.0%）に対し、要介護３以上では４割台（41.5%）となっている。

【要介護度別　入所・入居の検討状況】

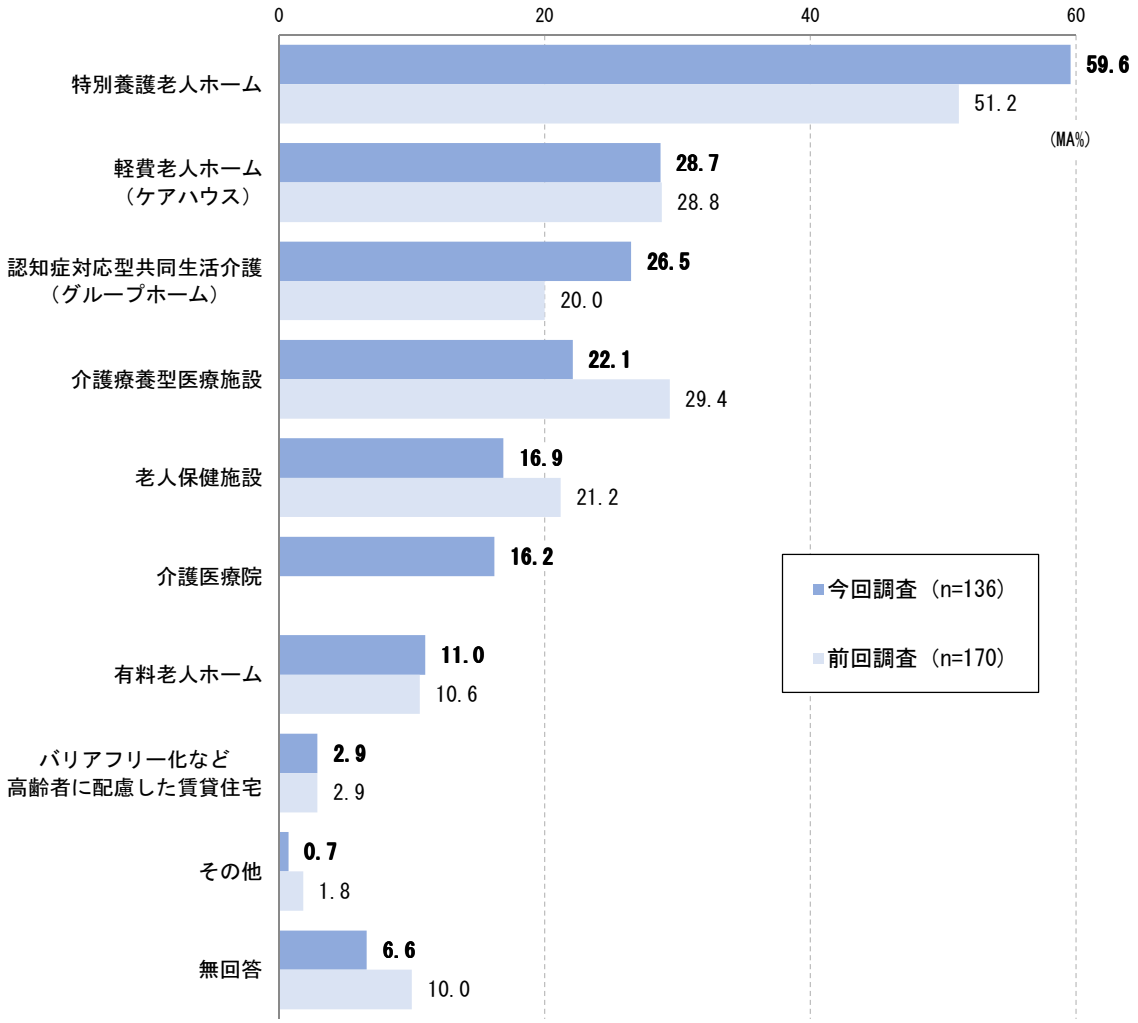


②希望する入所・入居施設

【問 10 で「入所･入居を検討している」または「すでに入所･入居申し込みをしている」と回答の方のみ】
［A 票］問 10-1 どのような施設を希望しますか（いくつでも）

施設への入所・入居を検討している（すでに申し込んでいる）という人の希望する入所・入居先としては、「特別養護老人ホーム」が 59.6%と最も多く、次いで「軽費老人ホーム（ケアハウス）」が 28.7%、「認知症対応型共同生活介護（グループホーム）」が 26.5%となっている。

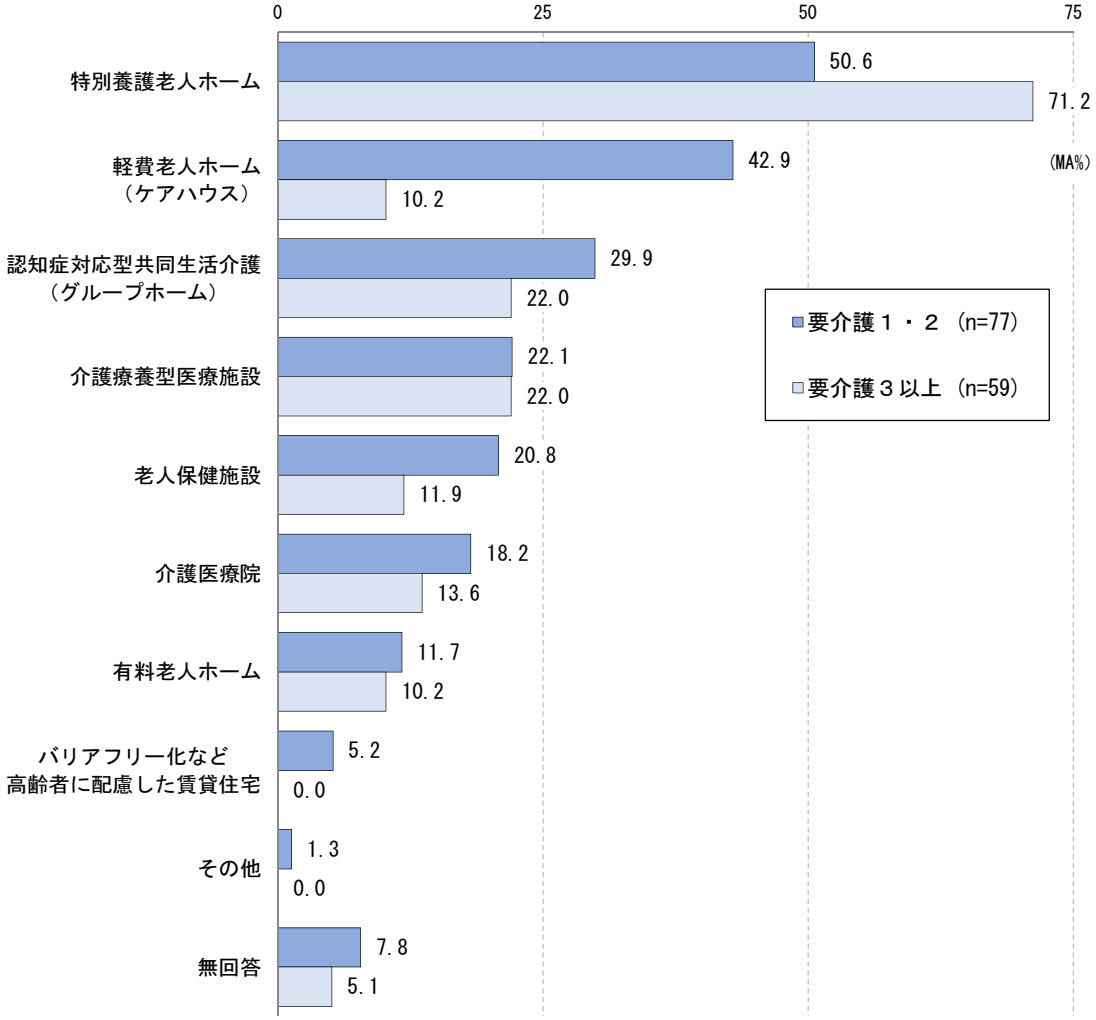
前回調査と比べると、「特別養護老人ホーム」（前回 51.2%）が 8.4 ポイント、「認知症対応型共同生活介護（グループホーム）」（前回 20.0%）が 6.5 ポイント、それぞれ増えている。



※「介護医療院」は、今回調査からの新規選択肢

要介護度別にみると、ともに「特別養護老人ホーム」が最も多いものの、要介護１・２で 50.6%に対し、要介護３以上では 71.2%と高い。一方、「軽費老人ホーム（ケアハウス）」は、要介護３以上で 10.2%に対し、要介護１・２では 42.9%と高くなっている。

【要介護度別　希望する入所・入居施設】

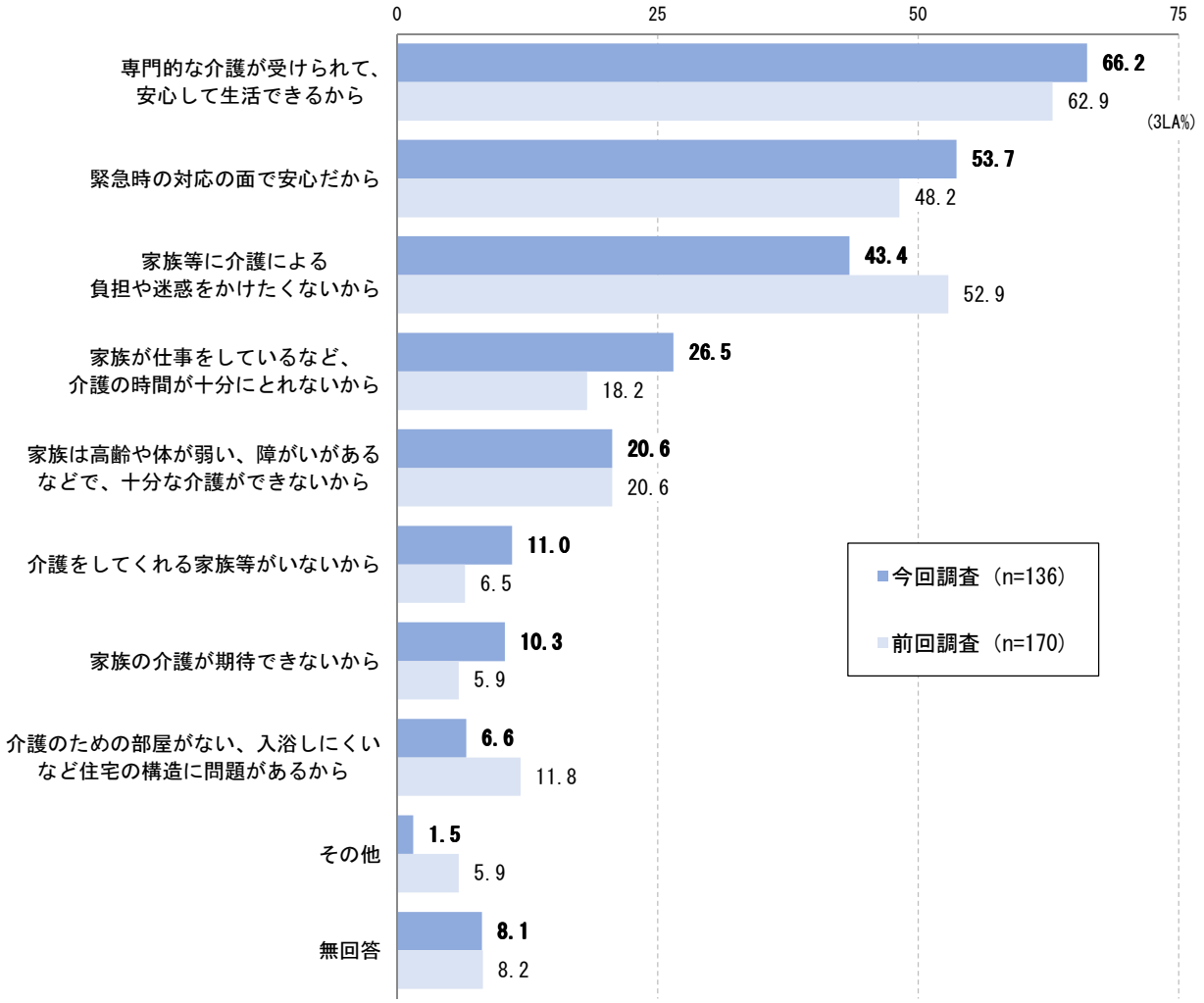


③入所・入居を希望する理由

【問 10 で「入所･入居を検討している」または「すでに入所･入居申し込みをしている」と回答の方のみ】

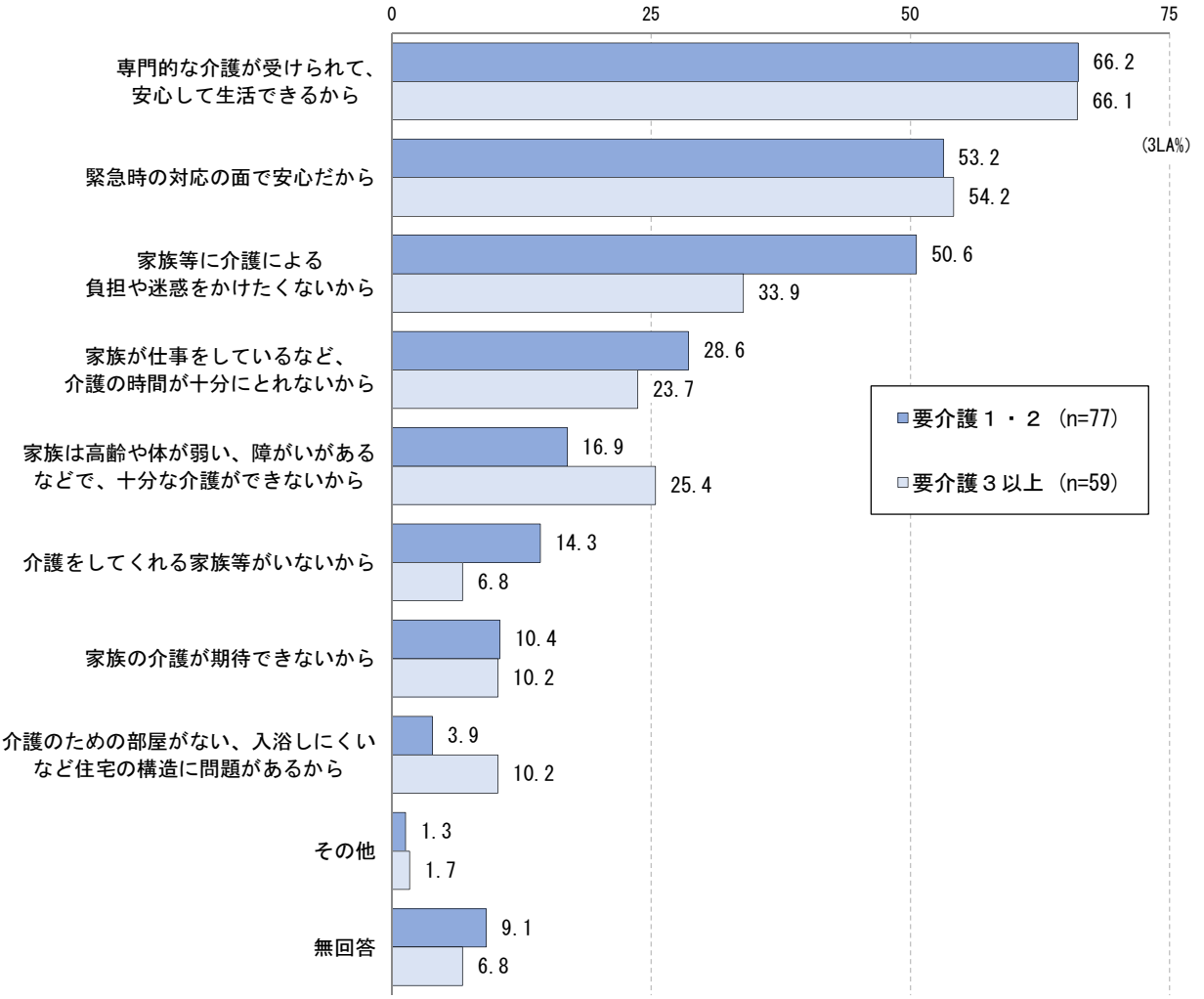
［A 票］問 10-2 あなたが施設での介護を希望される主な理由は、次のうちどれですか（○は３つまで）

施設への入所・入居を検討している（すでに申し込んでいる）という人の理由としては、「専門的な介護が受けられて、安心して生活できるから」が 66.2%と最も多く、次いで「緊急時の対応の面で安心だから」が 53.7%となっており、前回調査からそれぞれ５ポイント前後増えている。



要介護度別にみると、ともに「専門的な介護が受けられて、安心して生活できるから」が６割台と最も多く、次いで「緊急時の対応の面で安心だから」が５割台となっている。また、「家族等に介護による負担や迷惑をかけたくないから」が、要介護３以上で33.9%に対し、要介護１・２では50.6%と高い。

【要介護度別　入所・入居を希望する理由】

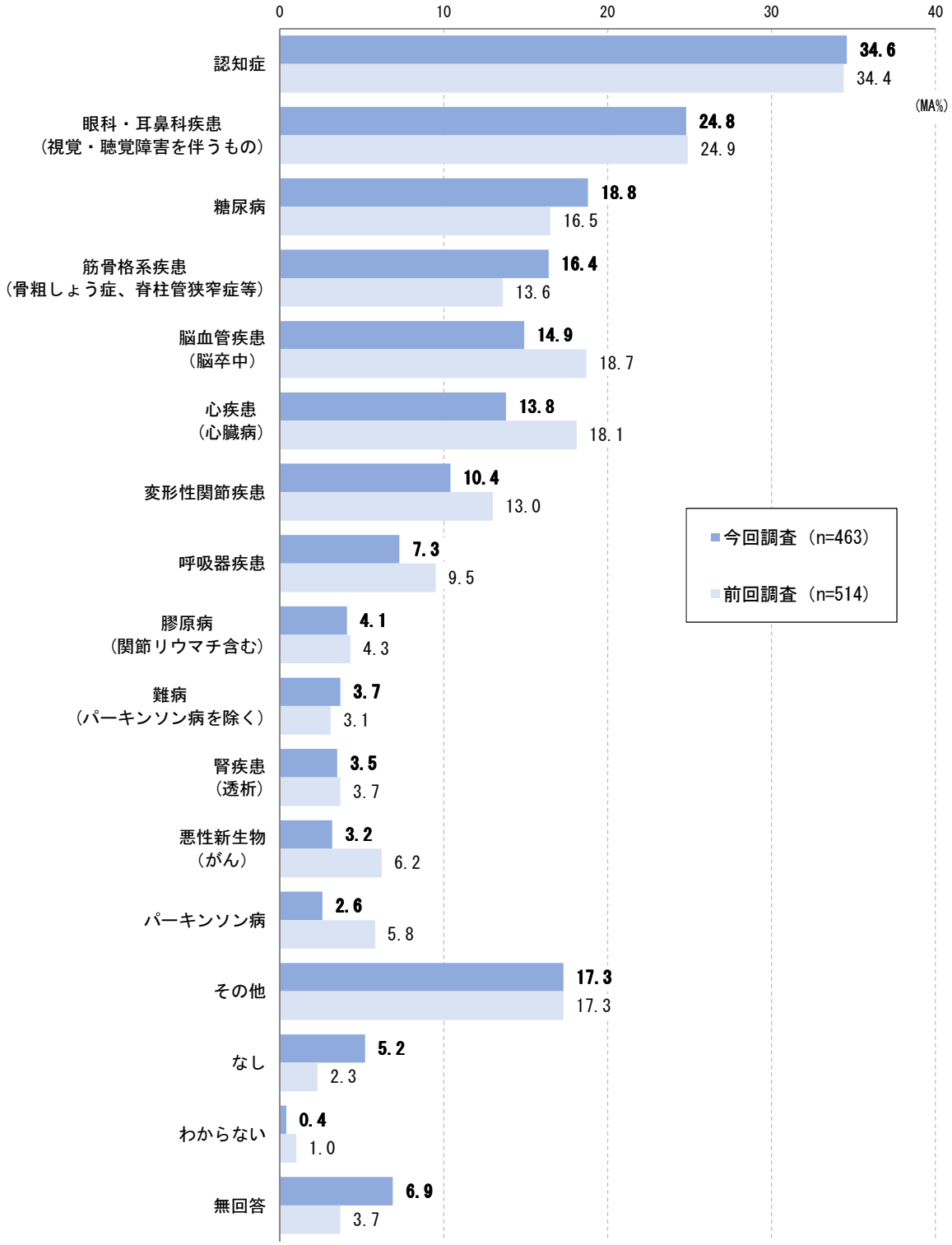


（７）本人の傷病

［Ａ票］問 11 ご本人（調査対象者）が、現在抱えている傷病について、ご回答ください（いくつでも）

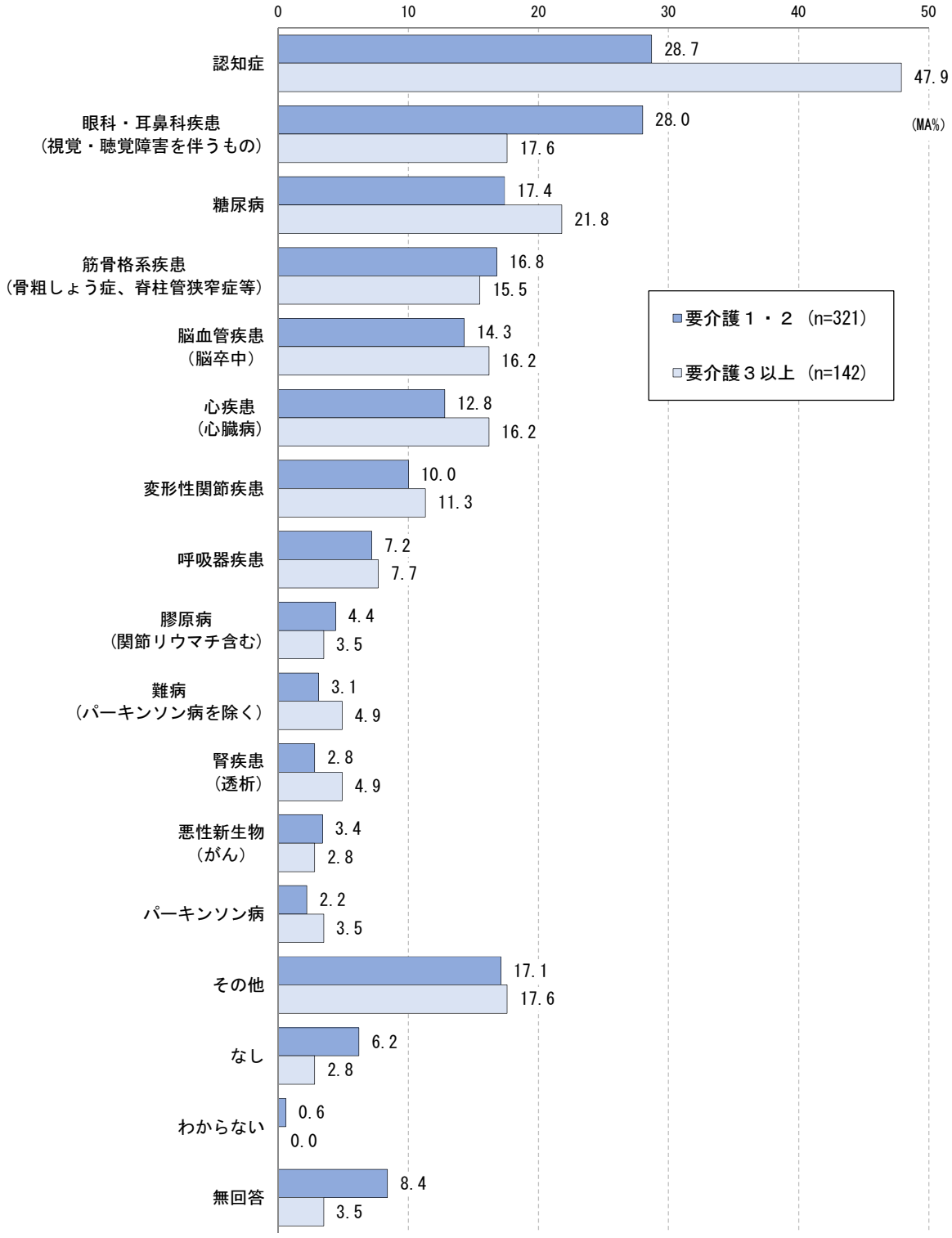
本人（調査対象者）が現在抱えている傷病としては、「認知症」が 34.6%と最も多く、次いで「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が 24.8%、「糖尿病」が 18.8%、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が 16.4%、「脳血管疾患（脳卒中）」が 14.9%となっている。

前回調査と比べると、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」（前回 13.6%）が 2.8 ポイント増、「糖尿病」（前回 16.5%）が 2.3 ポイント増となっている。



要介護度別にみると、ともに「認知症」が最も多いものの、要介護１・２で 28.7%に対し、要介護３以上では 47.9%と高くなっている。

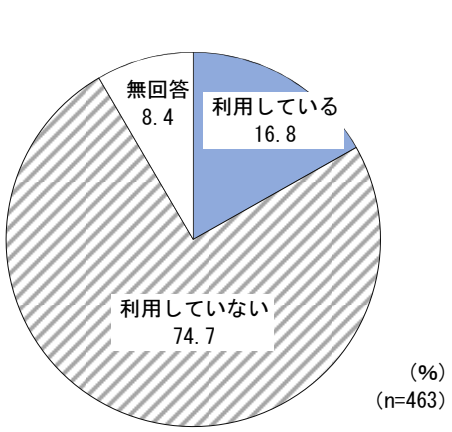
【要介護度別　本人の傷病】

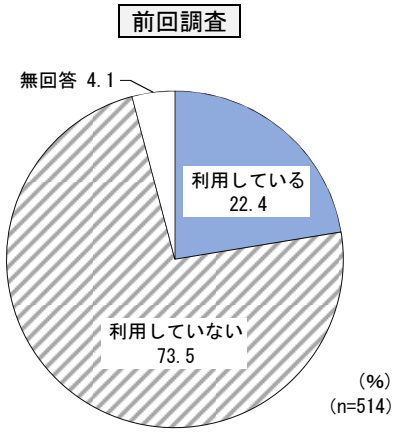


（８）訪問診療の利用有無

［Ａ票］問 12 ご本人（調査対象者）は、現在、訪問診療を利用していますか

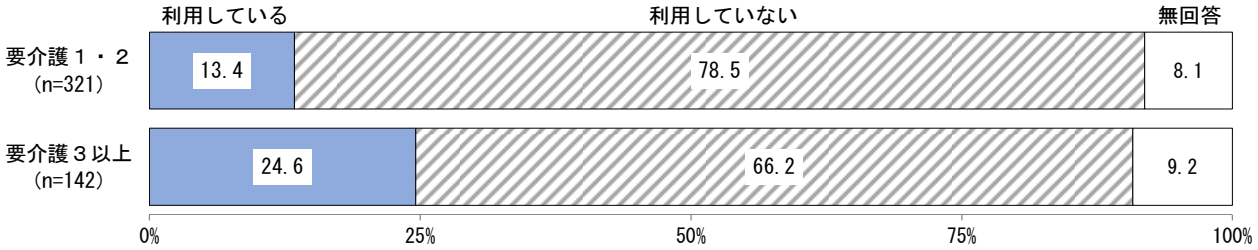
訪問診療について、「利用している」は１割台（16.8%）となっており、前回調査（22.4%）から 5.6 ポイント減っている。





要介護度別にみると、「利用している」が、要介護１・２で 13.4%、要介護３以上で 24.6%となっている。

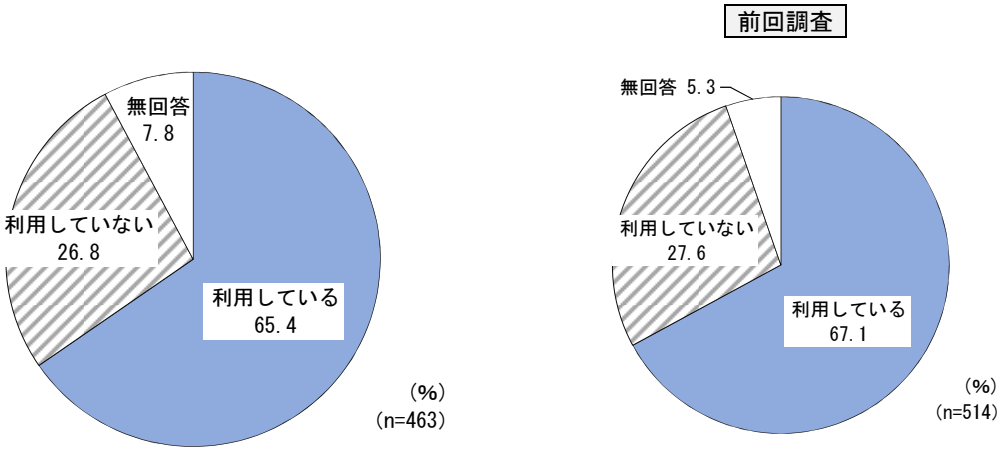
【要介護度別　訪問診療の利用有無】



（９）介護保険サービスの利用有無

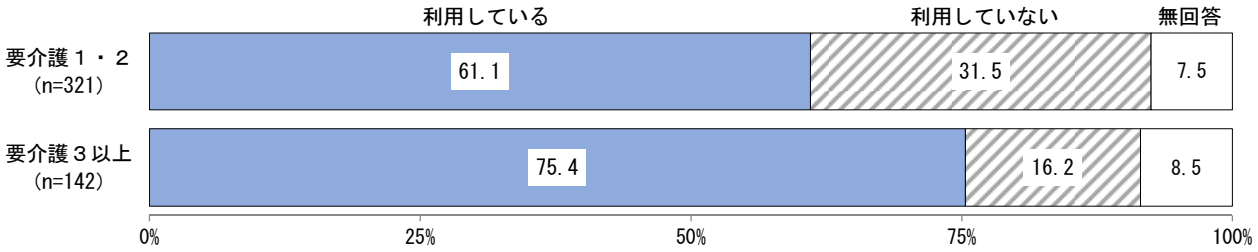
［Ａ票］問 13 現在、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用していますか

介護保険サービスについて、「利用している」は６割台（65.4%）となっており、前回調査（67.1%）と同程度となっている。



要介護度別にみると、「利用している」が、要介護１・２で 61.1%、要介護３以上で 75.4%となっている。

【要介護度別　介護保険サービスの利用有無】

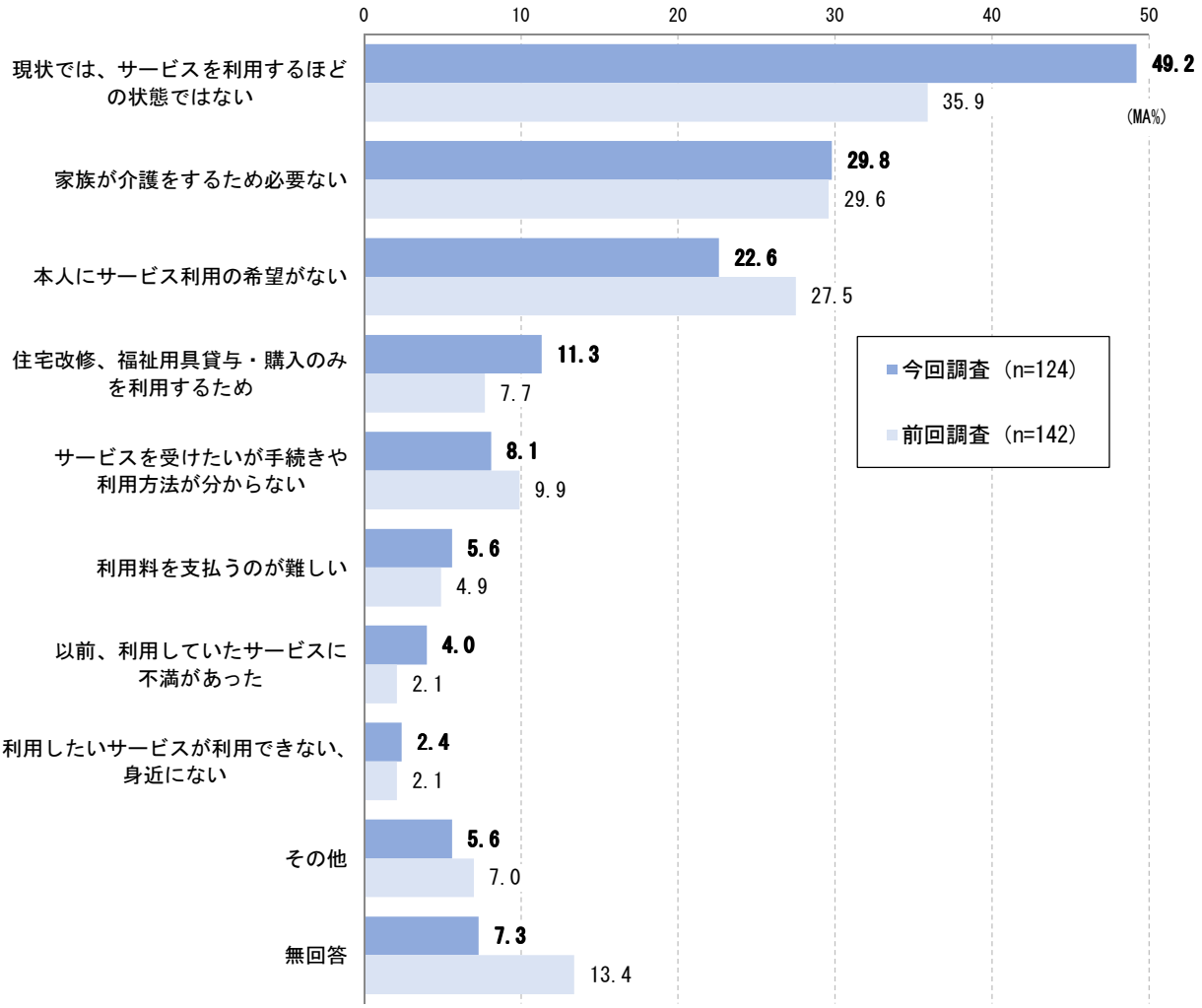


（10）介護保険サービス未利用者の意向

①介護保険サービスを利用していない理由

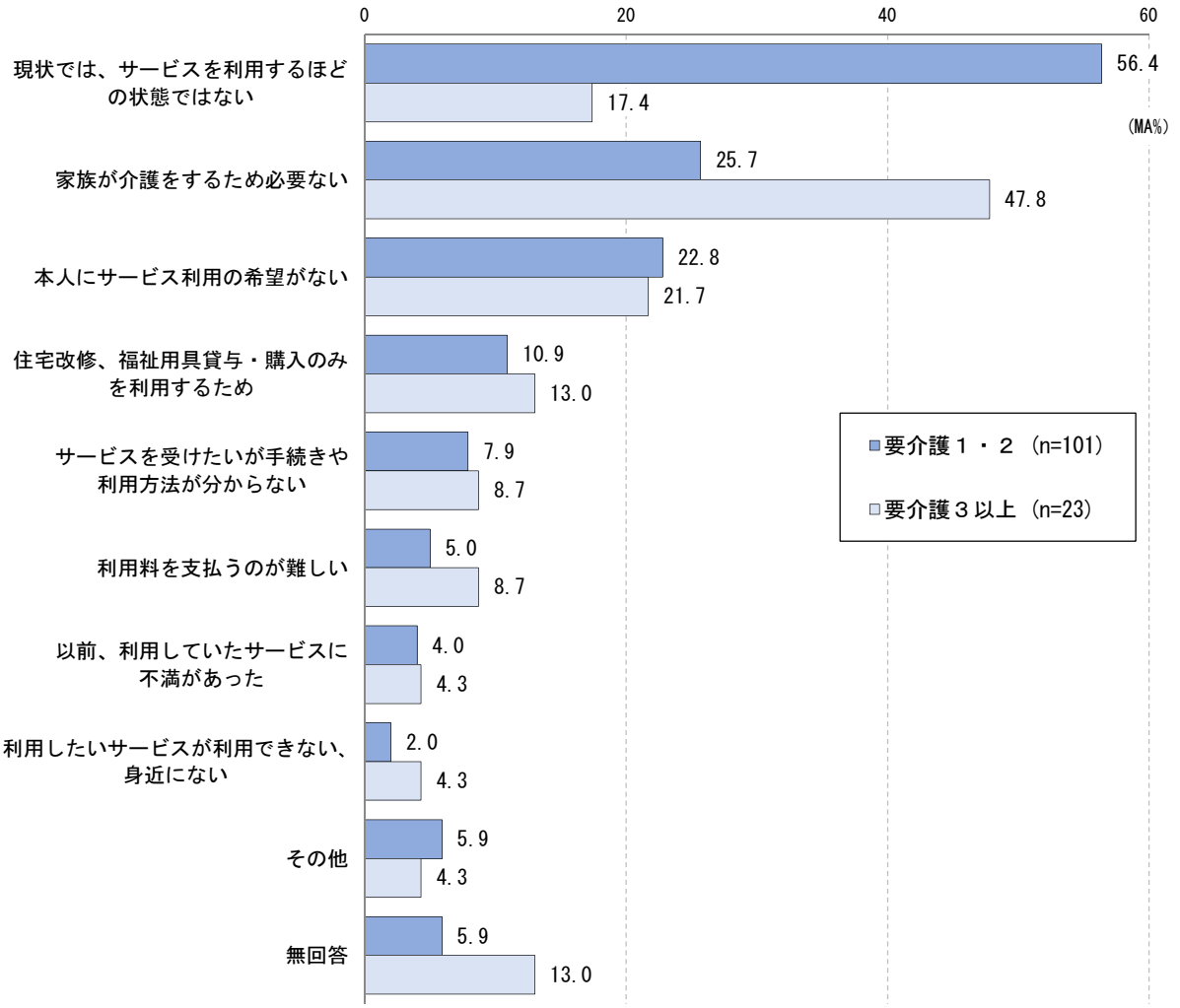
【問 13 で「利用していない」と回答の方のみ】
［A 票］問 14-1 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか（いくつでも）

介護保険サービスを利用していない人の理由としては、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 49.2%と最も多く、前回調査（35.9%）から 13.3 ポイント増えている。これに続くのが、「家族が介護をするため必要ない」で 29.8%、「本人にサービス利用の希望がない」で 22.6%となっている。



要介護度別にみると、要介護１・２では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 56.4%、要介護３以上では「家族が介護をするため必要ない」が 47.8%と、それぞれ最も多くなっている。

【要介護度別　介護保険サービスを利用していない理由】

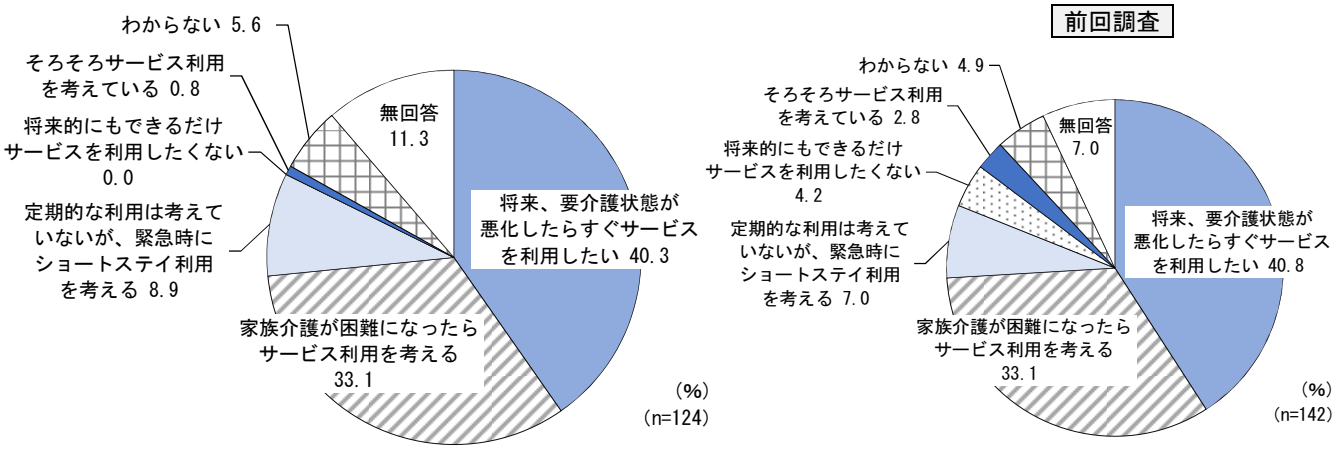


②介護保険サービスの利用意向

【問 13 で「利用していない」と回答の方のみ】

［A 票］問 14-2 今後の介護保険サービスの利用について、どのようにお考えですか

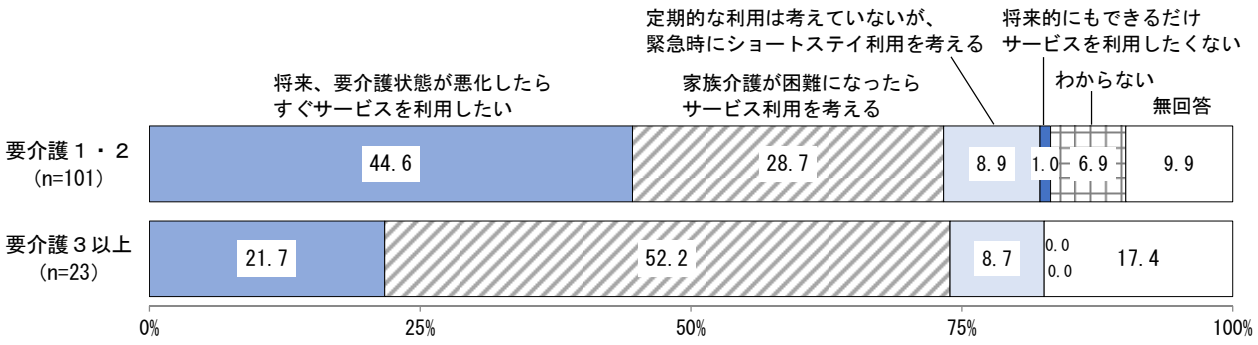
今後の介護保険サービスの利用についての考えとしては、「将来、要介護状態が悪化したらすぐサービスを利用したい」が 40.3%と最も多く、次いで「家族介護が困難になったらサービス利用を考える」が 33.1%となっており、前回調査と同じ傾向となっている。



※「その他」は、今回・前回調査とも 0 件（0.0%）のため省略

要介護度別にみると、要介護１・２では「将来、要介護状態が悪化したらすぐサービスを利用したい」が 44.6%、要介護３以上では「家族介護が困難になったらサービス利用を考える」が 52.2%と、それぞれ最も多くなっている。

【要介護度別　介護保険サービスの利用意向】

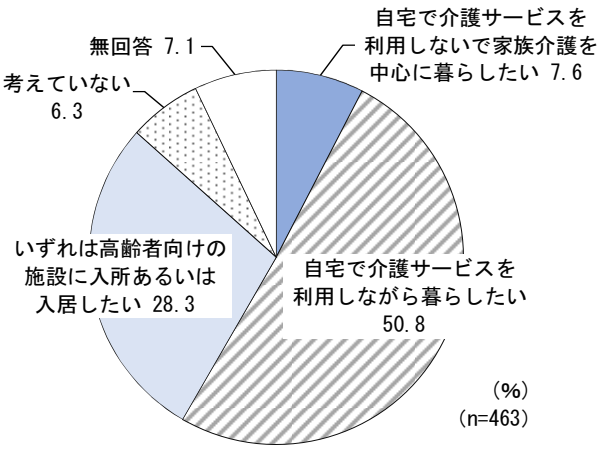


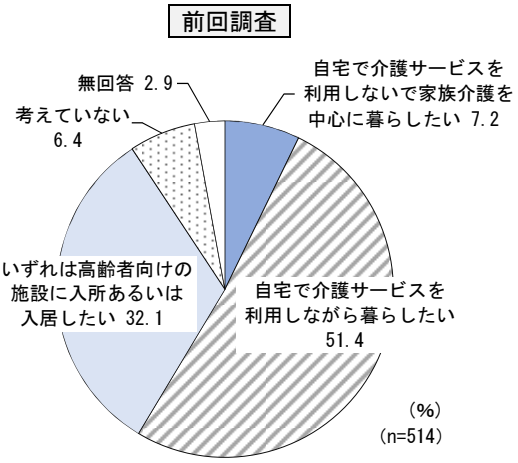
※「将来的にもできるだけサービスを利用したくない」は、全体で 0 件（0.0%）のため省略

（11）介護サービスの利用希望

［A票］問 15 介護サービスについて、今後の希望をお答えください

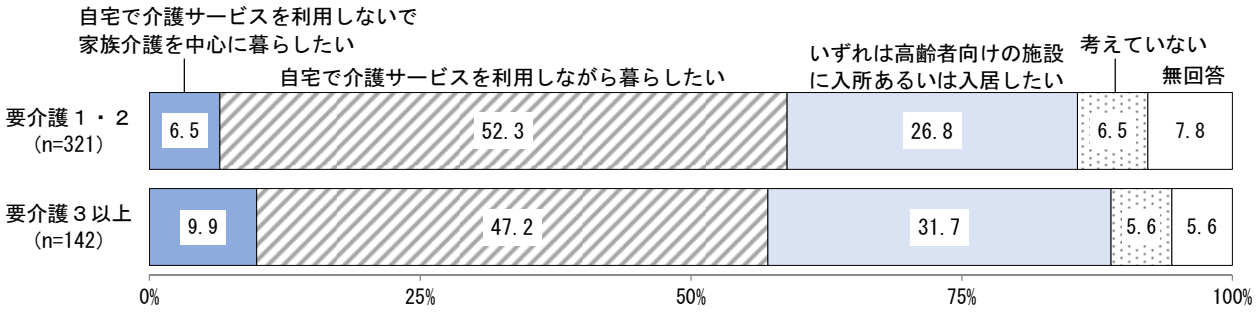
介護サービスについての今後の希望としては、「自宅で介護サービスを利用しながら暮らしたい」が半数以上（50.8%）を占めており、前回調査（51.4%）と同程度となっている。





要介護度別にみると、ともに「自宅で介護サービスを利用しながら暮らしたい」が半数前後を占めており、要介護１・２で 52.3%、要介護３以上で 47.2%となっている。一方、「いずれは高齢者向けの施設に入所あるいは入居したい」が、要介護１・２で 26.8%に対し、要介護３以上では 31.7%と高い。

【要介護度別　介護サービスの利用希望】

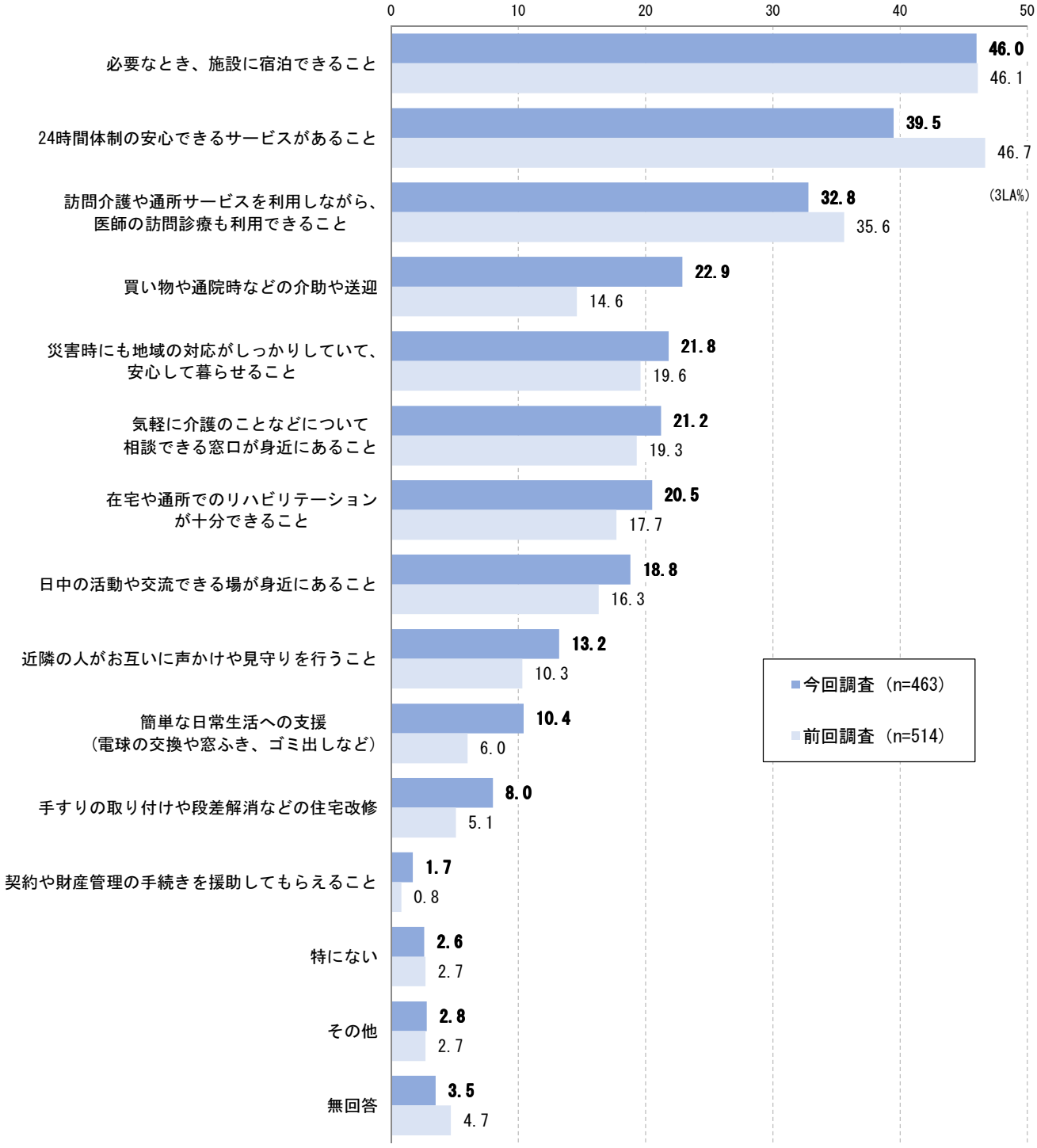


（12）地域や自宅での生活継続のために必要な支援

［A票］問 16 高齢者に対してどのような支援があれば、身近な地域や自宅での生活を続けていくことができると思いますか（○は３つまで）

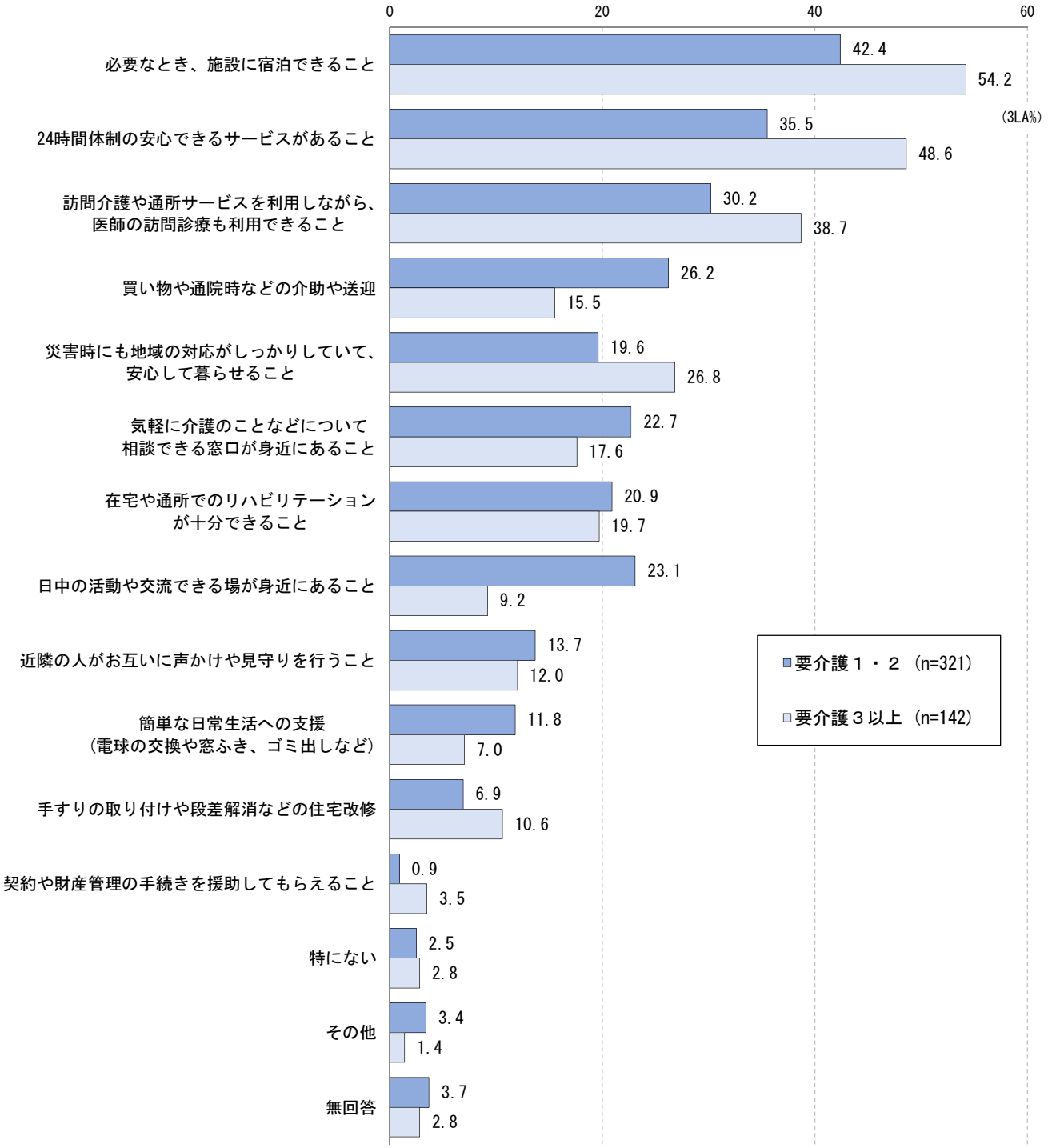
身近な地域や自宅での生活を続けていくために特に必要な支援としては、「必要なとき、施設に宿泊できること」が 46.0%と最も多く、次いで「24 時間体制の安心できるサービスがあること」が 39.5%、「訪問介護や通所サービスを利用しながら、医師の訪問診療も利用できること」が 32.8%となっている。

前回調査と比べると、「買い物や通院時などの介助や送迎」（今回 22.9%、前回 14.6%）が 8.3 ポイント増えている。



要介護度別にみると、ともに「必要なとき、施設に宿泊できること」が４～５割台と最も多く、次いで「24 時間体制の安心できるサービスがあること」、「訪問介護や通所サービスを利用しながら、医師の訪問診療も利用できること」となっており、いずれも要介護３以上のほうが 10 ポイント前後高い割合となっている。

【要介護度別　地域や自宅での生活継続のために必要な支援】

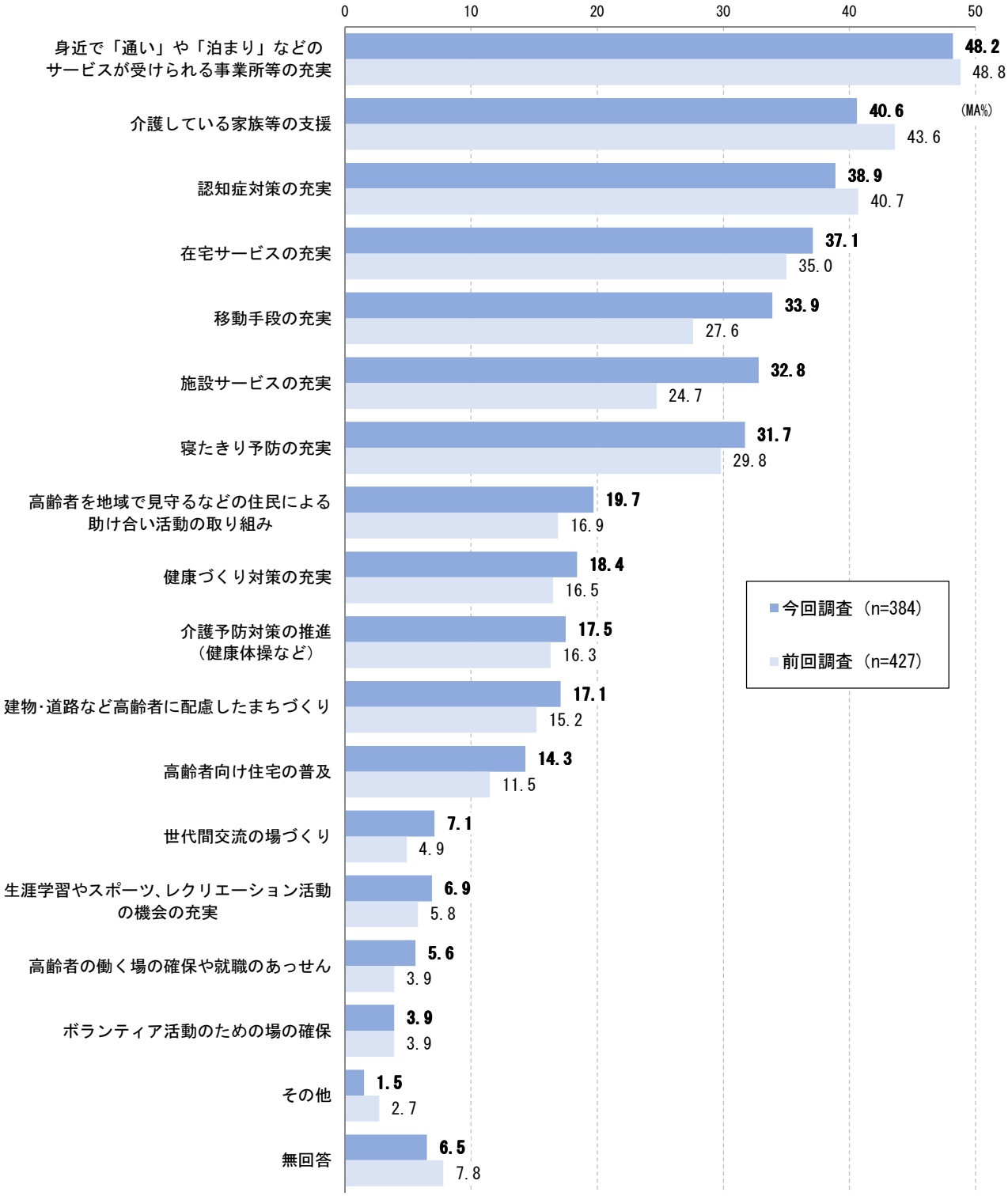


（13）高齢者福祉について重要と考える施策

［A票］問 17 高齢者福祉について、今後どのような施策の拡充が重要とお考えですか（いくつでも）

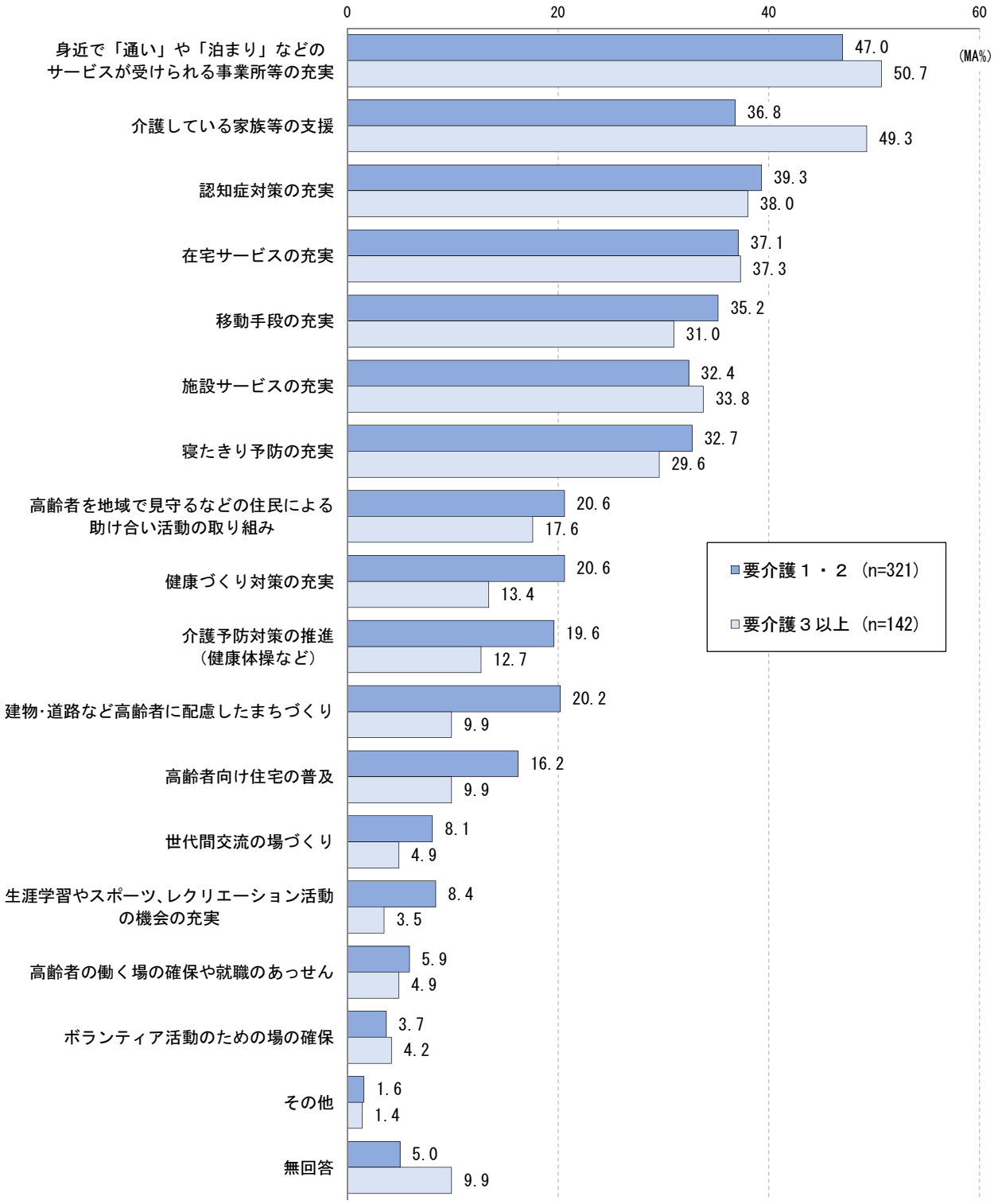
高齢者福祉について重要と考える施策としては、「身近で「通い」や「泊まり」などのサービスが受けられる事業所等の充実」が 48.2%と最も多く、次いで「介護している家族等の支援」が 40.6%、「認知症対策の充実」が 38.9%、「在宅サービスの充実」が 37.1%となっている。

前回調査と比べると、「施設サービスの充実」（今回 32.8%、前回 24.7%）が 8.1 ポイント増、「移動手段の充実」（今回 33.9%、前回 27.6%）が 6.3 ポイント増となっている。



要介護度別にみると、ともに「身近で「通い」や「泊まり」などのサービスが受けられる事業所等の充実」が最も多く、要介護１・２で 47.0%、要介護３以上で 50.7%となっている。これに続くのが、要介護１・２では「認知症対策の充実」で 39.3%、要介護３以上では「介護している家族等の支援」で 49.3%となっている。

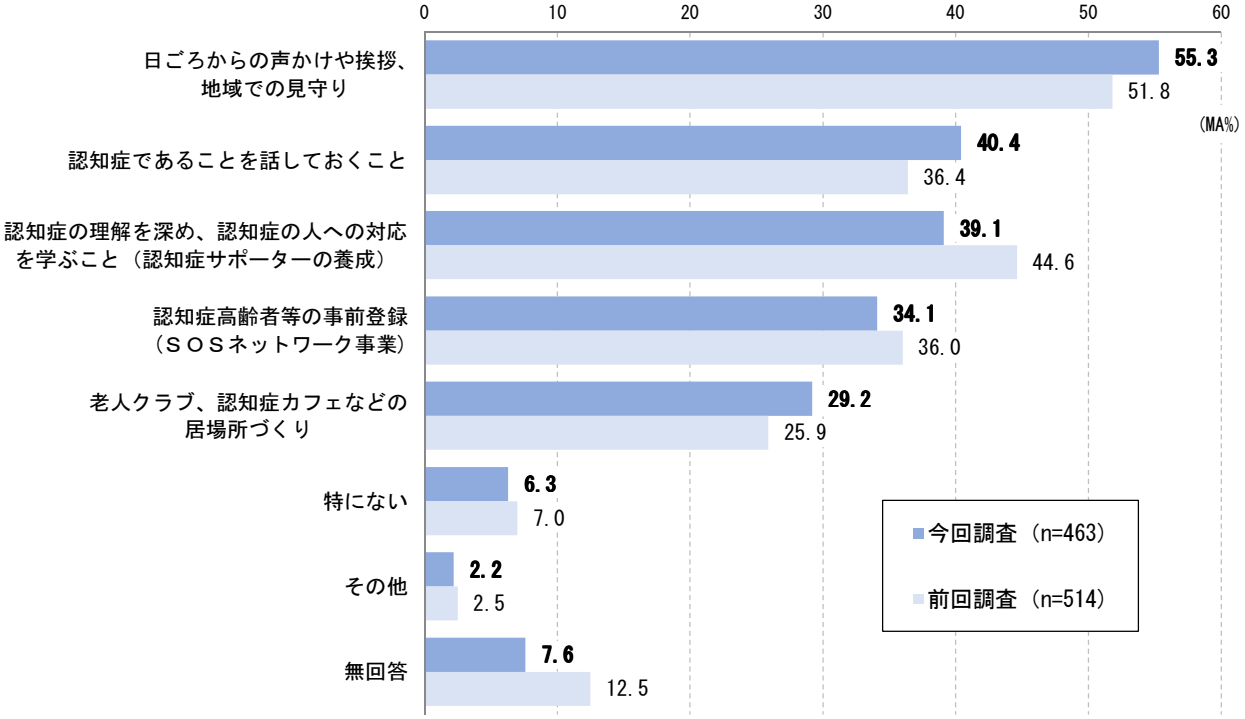
【要介護度別　高齢者福祉について重要と考える施策】



（14）認知症の人が地域での生活継続のために大切なこと

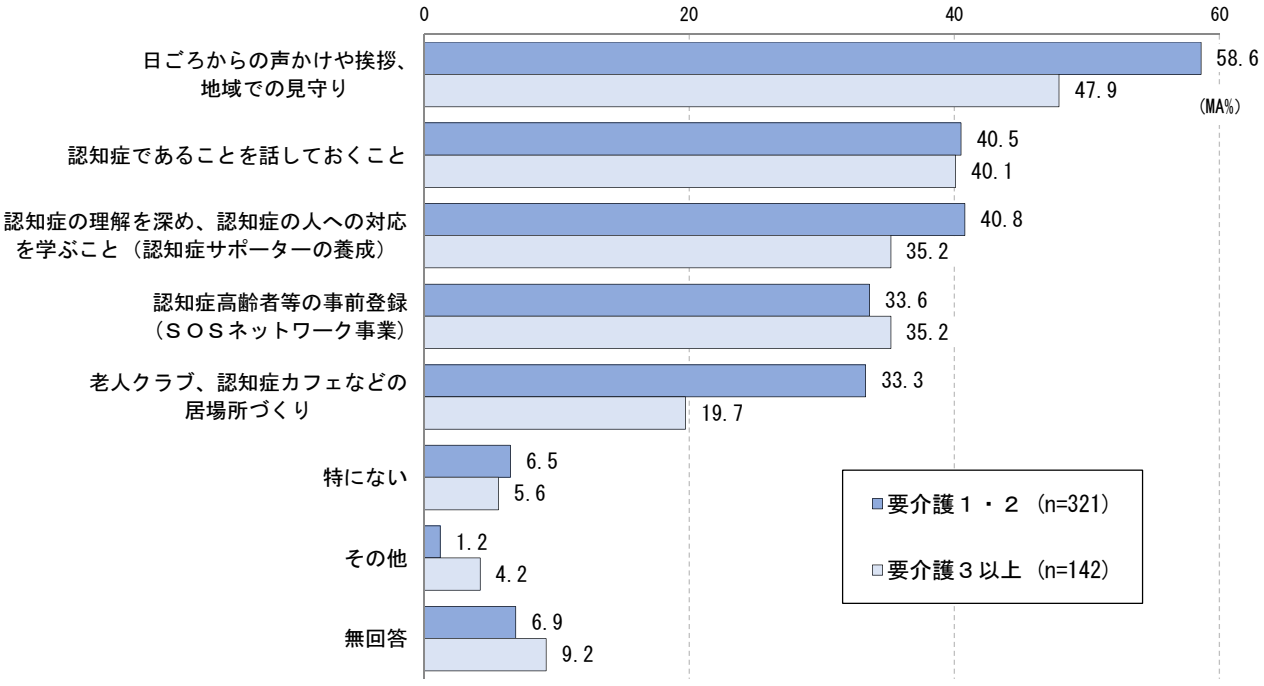
［A票］問 18 認知症があっても住み慣れた地域で安心して生活を続けるために、どのようなことが大切だと思いますか（いくつでも）

認知症があっても地域で安心して生活を続けていくために大切と思うこととしては、「日ごろからの声かけや挨拶、地域での見守り」が 55.3%と最も多く、次いで「認知症であることを話しておくこと」が 40.4%となっており、ともに前回調査から４ポイント程度増えている。



要介護度別にみると、ともに「日ごろからの声かけや挨拶、地域での見守り」が最も多く、要介護１・２で 58.6%、要介護３以上で 47.9%となっている。

【要介護度別　認知症の人が地域での生活継続のために大切なこと】

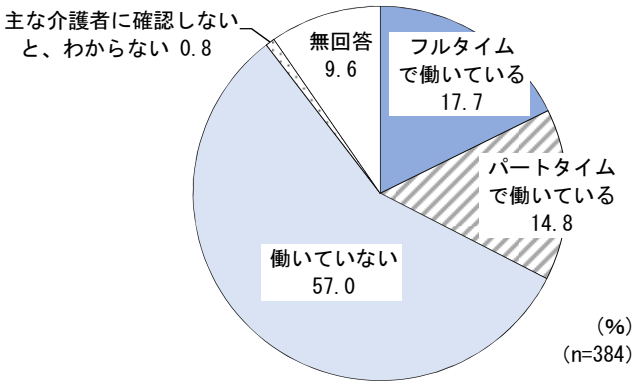


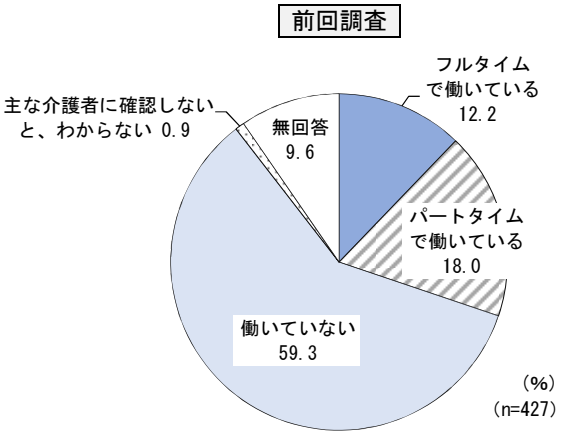
3　主な介護者について［B票］

（1）介護者の勤務形態

【以下、問 1～問 5（[B 票]）は、[A 票]問 2 で調査対象者が介護を受けていると回答の方のみ】
［B票］問１ 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください

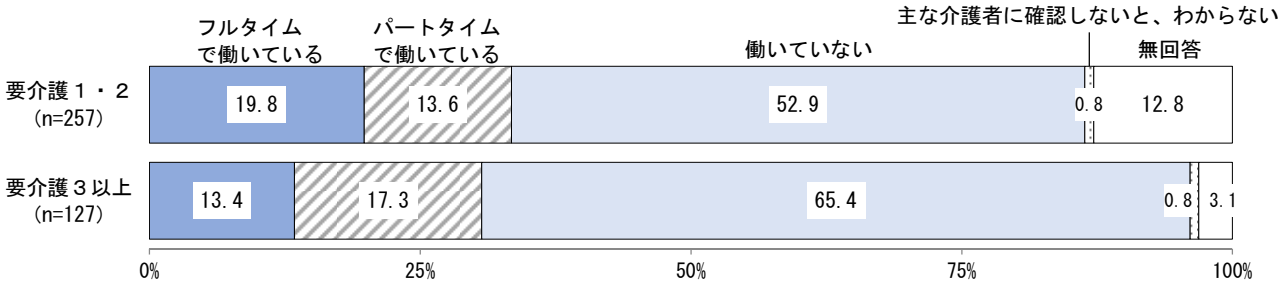
主な介護者の勤務形態としては、「フルタイムで働いている」が 17.7%、「パートタイムで働いている」が 14.8%となっており、合わせると、就労している人は３割台（32.6%）みられる。
前回調査と比べると、「フルタイムで働いている」（前回 12.2%）が 5.5 ポイント増えている。





要介護度別にみると、就労している人の割合はともに３割台みられ、要介護１・２で 33.5%、要介護３以上で 30.7%となっている。また、そのうち「フルタイムで働いている」が、要介護１・２で 19.8%に対し、要介護３以上では 13.4%と低い。

【要介護度別　介護者の勤務形態】

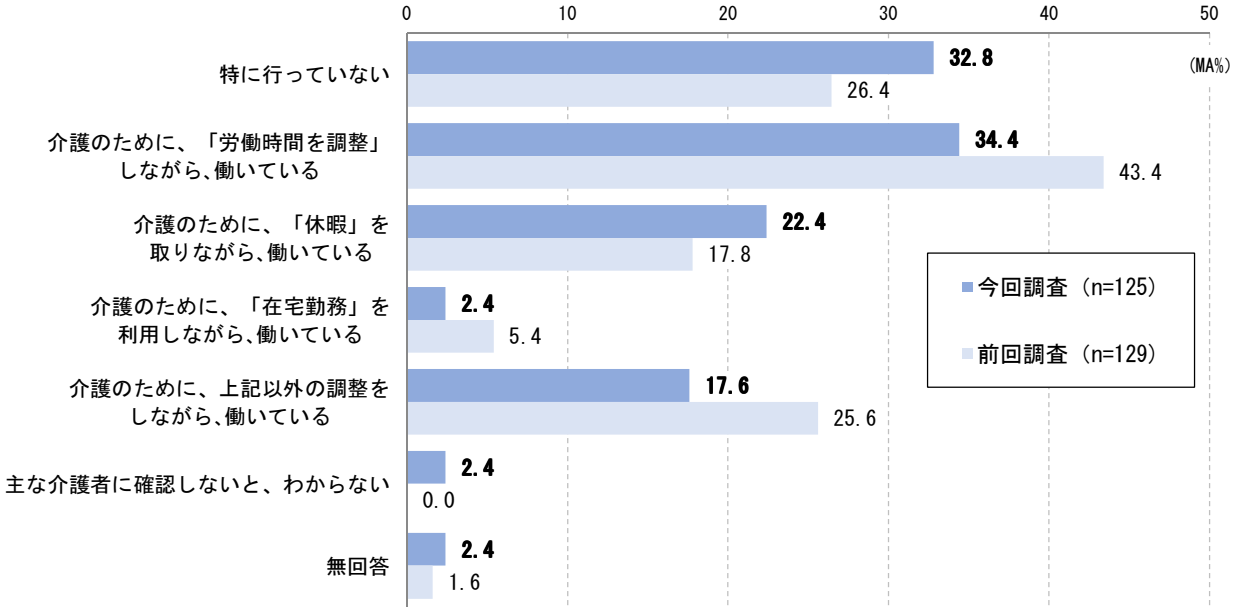


（２）働き方の調整等の有無

【問１で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答の方のみ】

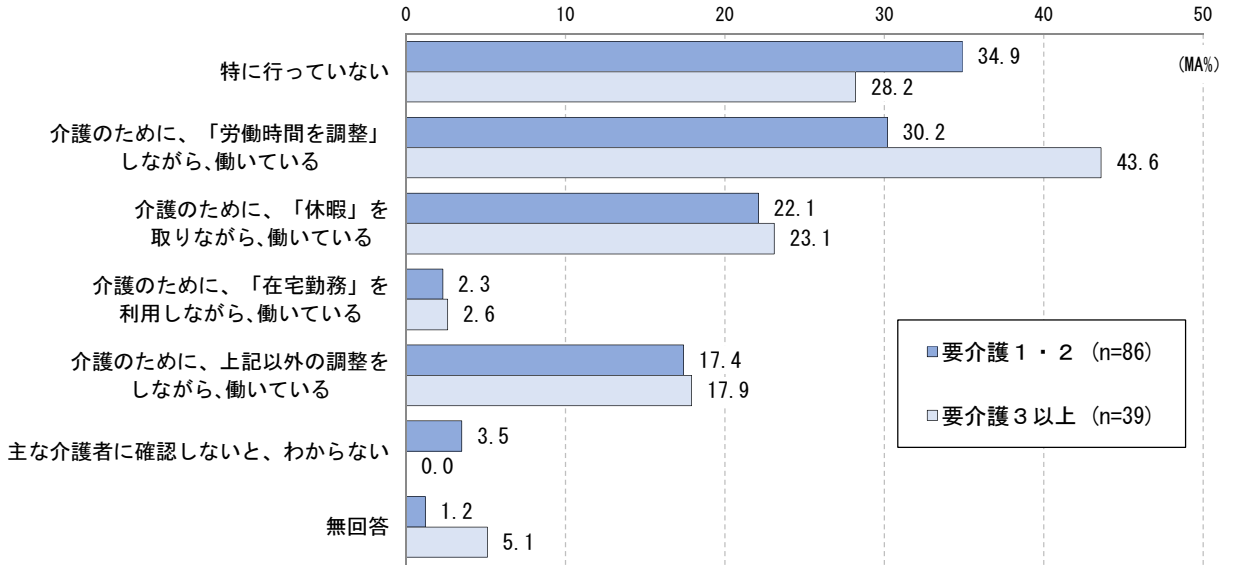
［Ｂ票］問２ 主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか（いくつでも）

働いている介護者のうち、働き方について何らかの調整等をしているという割合（「特に行っていない」「主な介護者に確認しないと、わからない」及び無回答を除いた割合）は、全体の６割台（62.4%）となっており、具体的な調整等としては、「介護のために、「労働時間を調整」しながら、働いている」が 34.4%と最も多い。また、前回調査と比べると、何らかの調整等をしているという割合（前回 72.1%）は 9.7 ポイント減っているものの、「介護のために、「休暇」を取りながら、働いている」（今回 22.4%、前回 17.8%）は 4.6 ポイント増えている。



要介護度別にみると、何らかの調整等をしているという割合が、要介護１・２で 60.5%、要介護３以上で 66.7%となっている。また、「介護のために、「労働時間を調整」しながら、働いている」が要介護３以上で 43.6%と高い。

【要介護度別　働き方の調整等の有無】



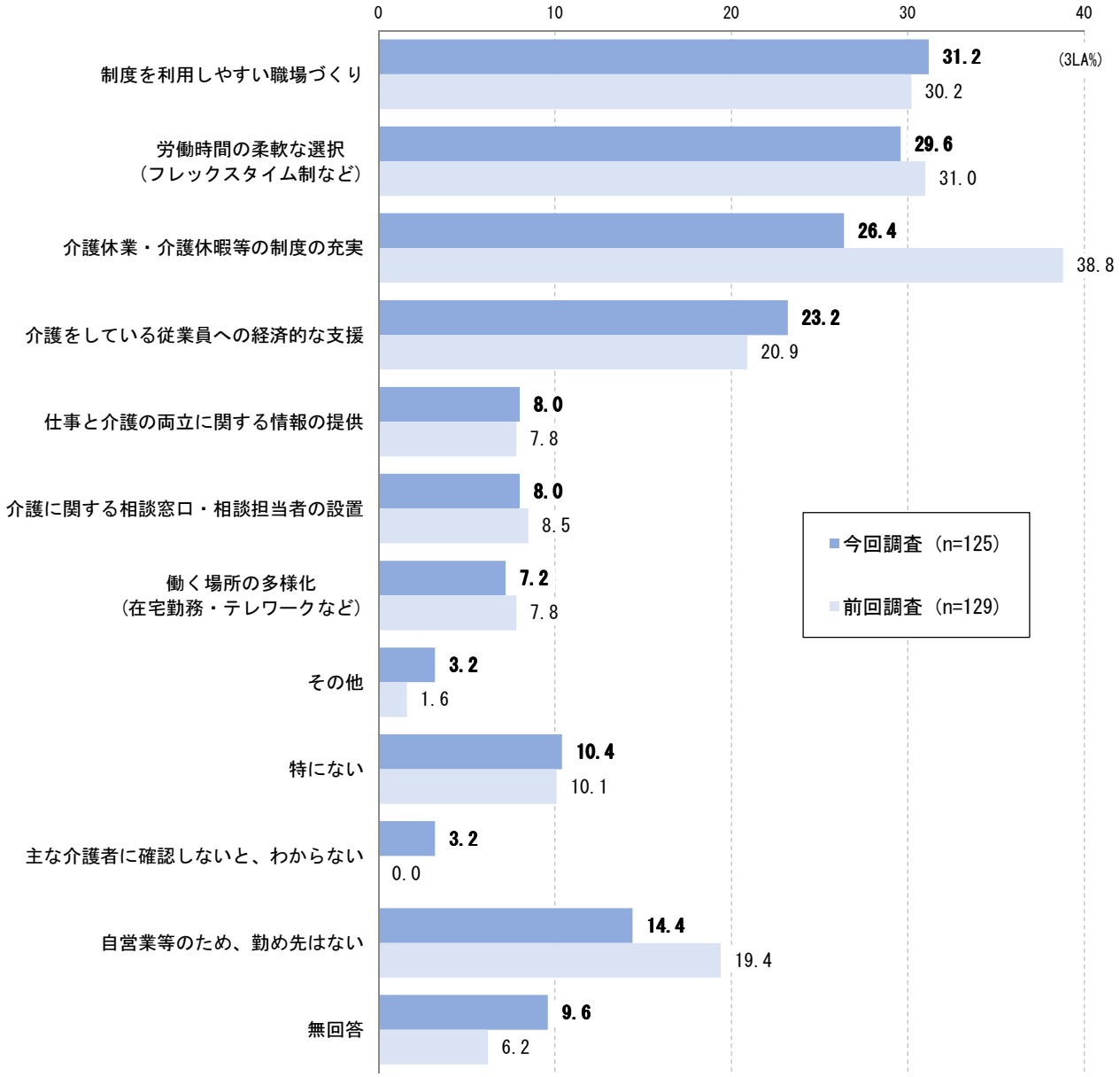
（３）勤め先からの支援の希望

【問１で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答の方のみ】

［Ｂ票］問３　主な介護者の方は、勤め先から特にどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか（○は３つまで）

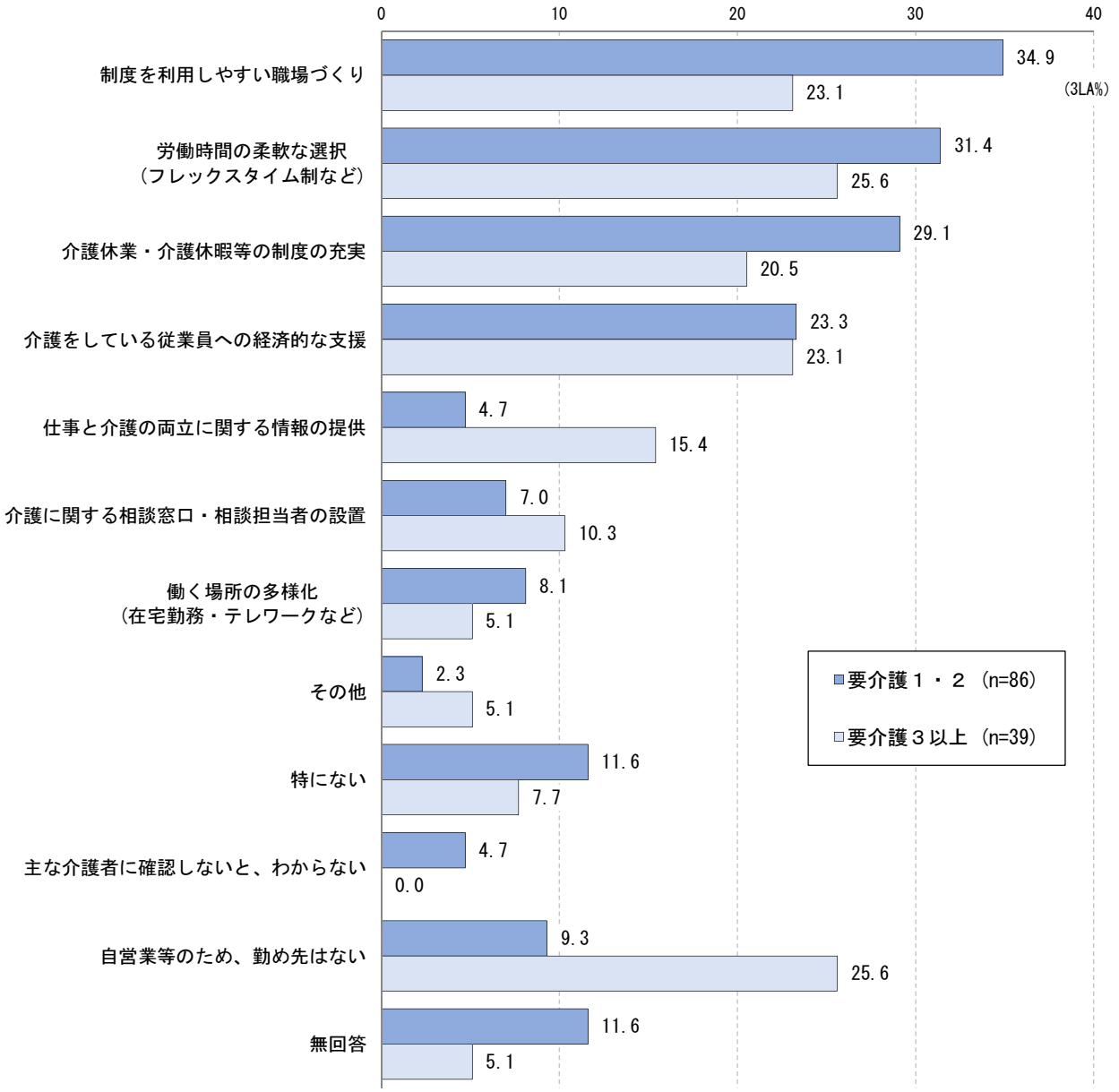
働いている介護者が、仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援としては、「制度を利用しやすい職場づくり」が 31.2%と最も多く、次いで「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が 29.6%、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が 26.4%、「介護をしている従業員への経済的な支援」が 23.2%となっている。

前回調査と比べると、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が前回調査（38.8%）から 12.4 ポイント減っている。



要介護度別にみると、要介護１・２では「制度を利用しやすい職場づくり」が 34.9%、要介護３以上では「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が 25.6%と、それぞれ最も多くなっている。

【要介護度別　勤め先からの支援の希望】

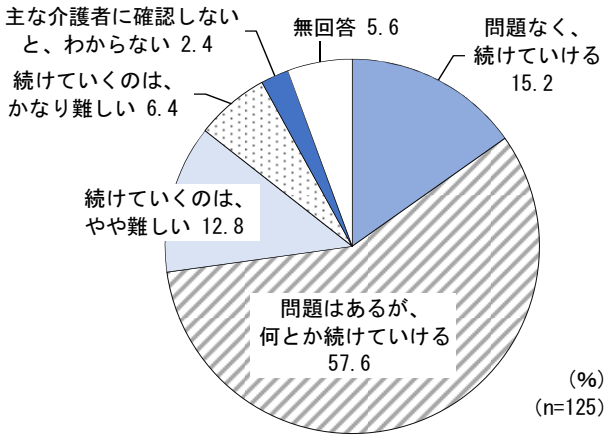


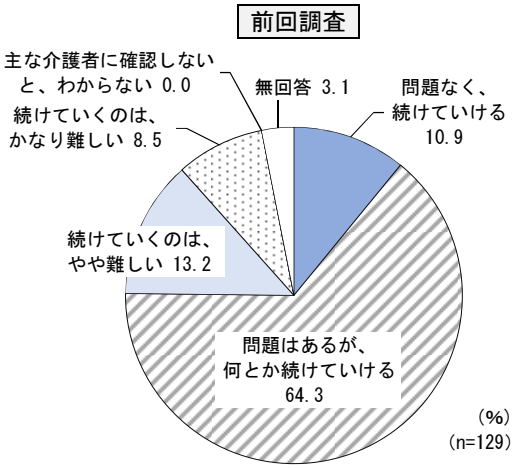
（４）仕事と介護の両立の可否

【問１で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答の方のみ】

［Ｂ票］問４　主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか

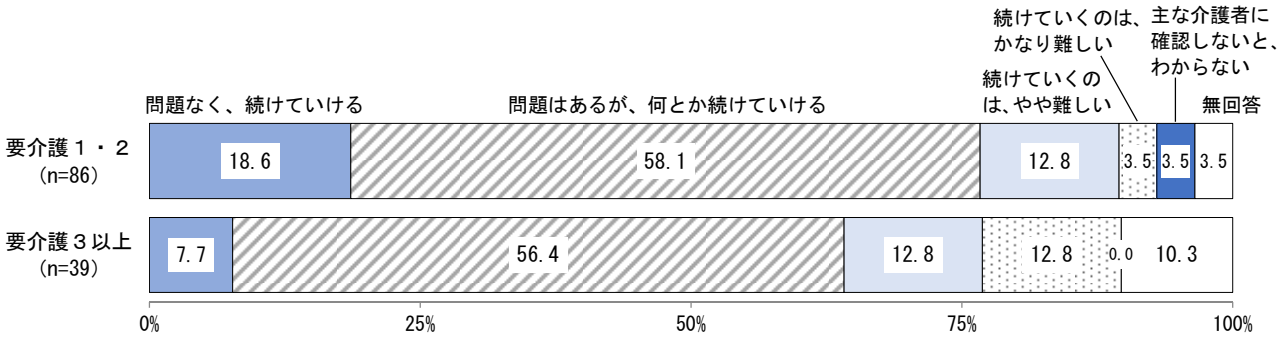
働いている介護者のうち、今後働きながら介護を続けていくことは難しいという割合（「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」の計）は、全体の約２割（19.2%）となっており、前回調査（21.7%）から 2.5 ポイント減っている。





要介護度別にみると、介護を続けていくことは難しいという割合が、要介護１・２で 16.3%に対し、要介護３以上では 25.6%と高く、「続けていくのは、かなり難しい」が 12.8%みられる。

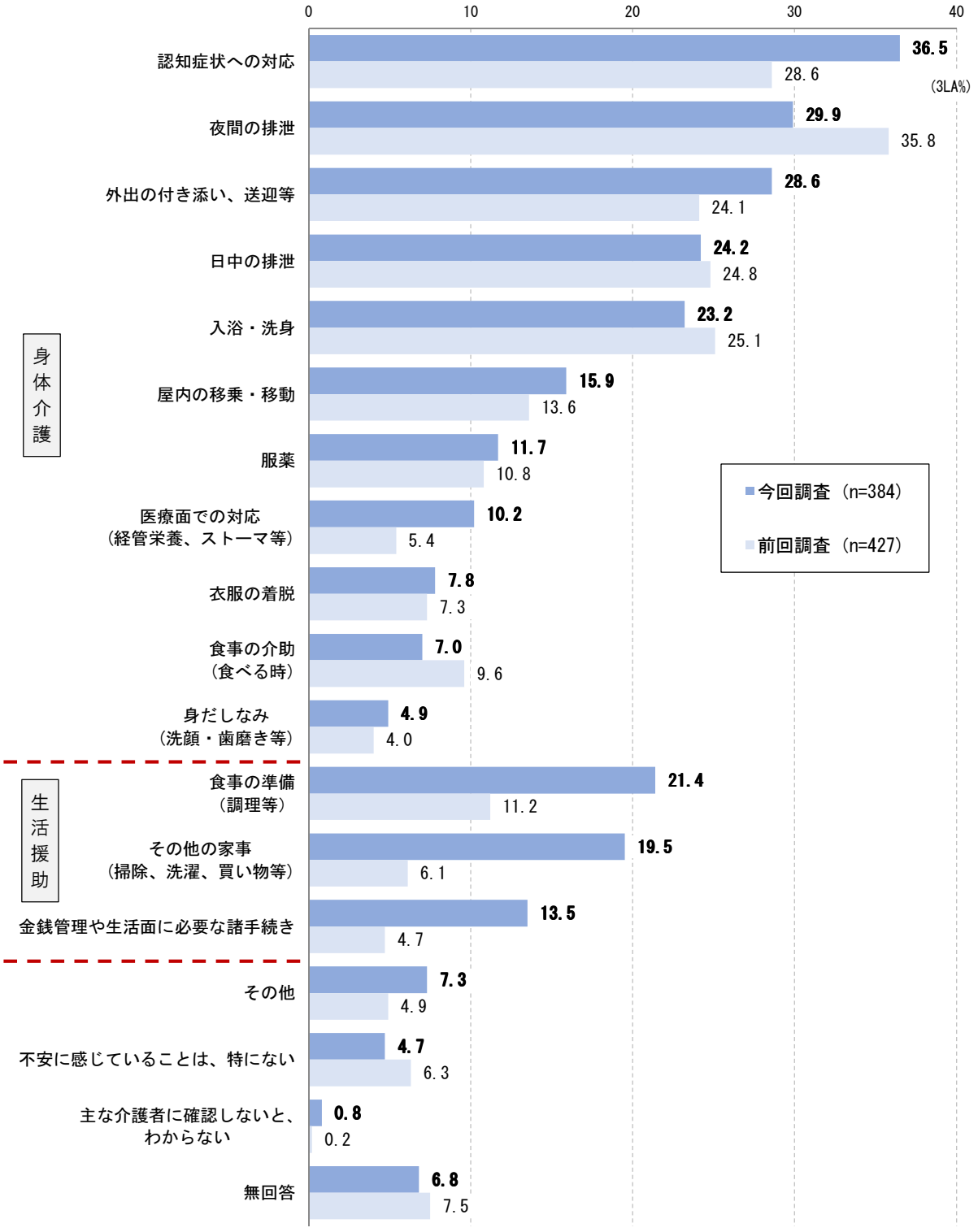
【要介護度別　仕事と介護の両立の可否】



（５）不安に感じる介護等

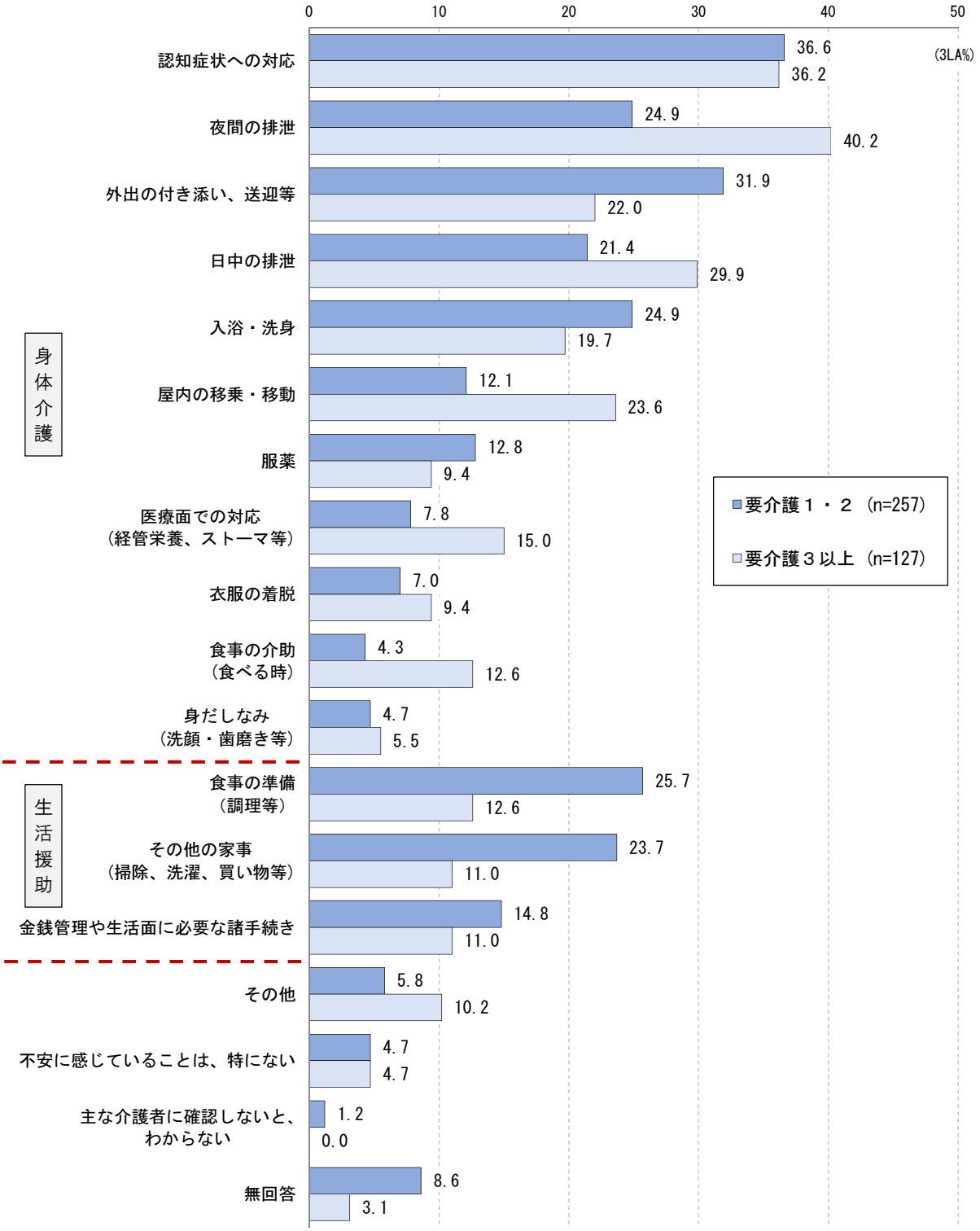
［Ｂ票］問５　現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください（○は３つまで）

現在の生活を継続していくにあたり、主な介護者が特に不安に感じる介護等としては、「認知症状への対応」が 36.5%と最も多く、前回調査（28.6%）から 7.9 ポイント増えている。これに続くのが、「夜間の排泄」で 29.9%、「外出の付き添い、送迎等」で 28.6%、「日中の排泄」で 24.2%、「入浴・洗身」で 23.2%となっている。



要介護度別にみると、要介護１・２では、「認知症状への対応」が 36.6%と最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が 31.9%、「夜間の排泄」、「入浴・洗身」がともに 24.9%となっている。一方、要介護３以上では「夜間の排泄」が 40.2%と最も多く、次いで「認知症状への対応」が 36.2%、「日中の排泄」が 29.9%、「屋内の移乗・移動」が 23.6%となっている。

【要介護度別　不安に感じる介護等】



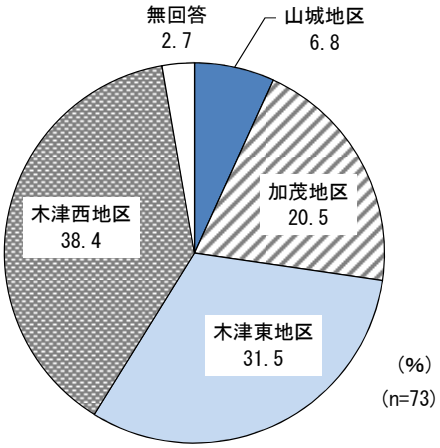
Ⅱ-４　介護サービス事業所調査

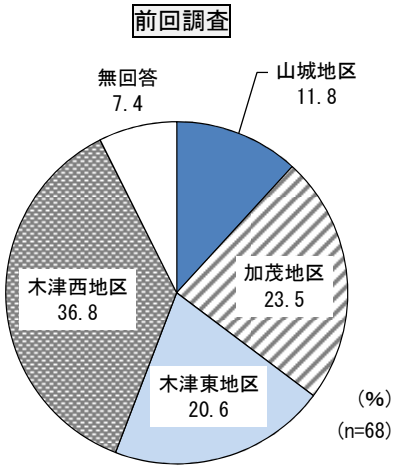
1　事業所について

（1）所在地

問1　貴事業所の所在地はどこですか。あてはまるもの１つに○をつけてください。

回答事業所の所在地は、「木津西地区」が 38.4%と最も多く、次いで、「木津東地区」が 31.5%、「加茂地区」が 20.5%、「山城地区」が 6.8%となっている。前回調査と比べると、「木津東地区」（前回 20.6%）が 10.9 ポイント増えている。

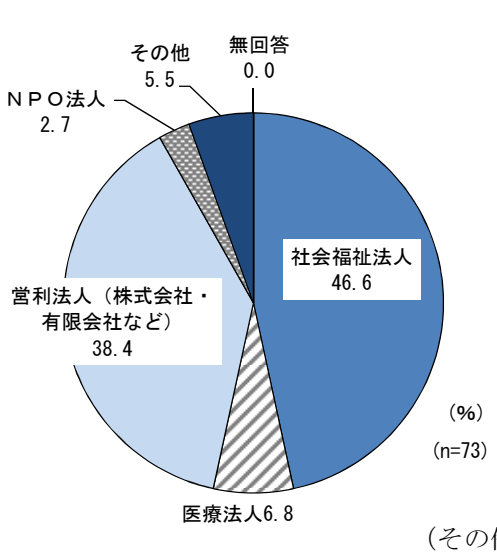


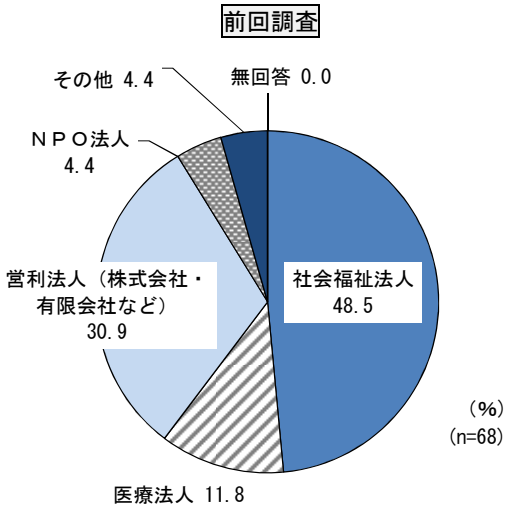


（2）運営主体

問2　貴事業所の運営主体について、あてはまるもの１つに○をつけてください。

運営主体は、「社会福祉法人」が 46.6%と最も多く、次いで、「営利法人（株式会社・有限会社など）」が 38.4%、「医療法人」が 6.8%、「ＮＰＯ法人」が 2.7%となっている。前回調査と比べると、「営利法人（株式会社・有限会社など）」（前回 30.9%）が 7.5 ポイント増えている。





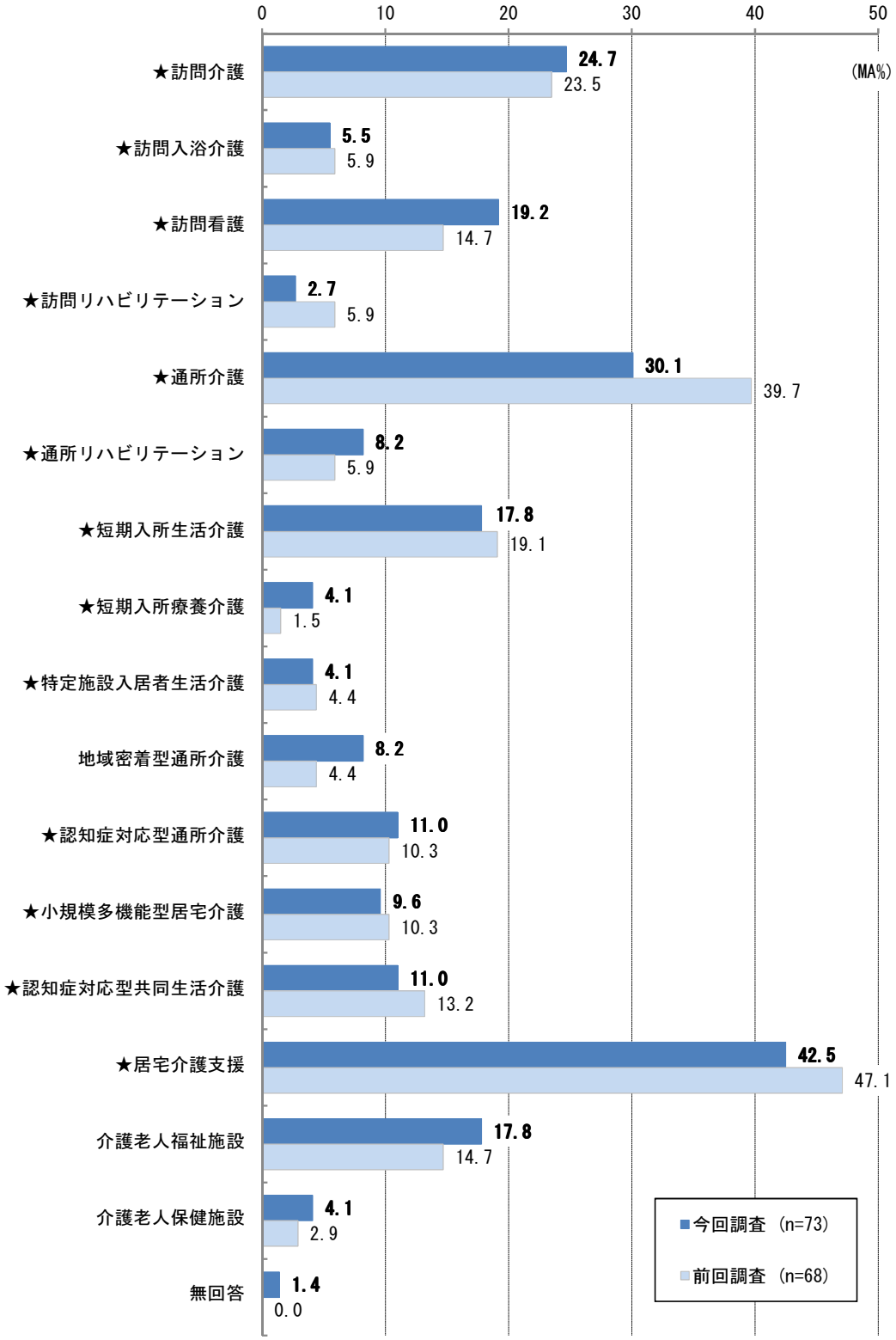
（その他内訳）

内　　容	件数
一部事務組合	３件
個人	１件

（3）実施サービス

問3　貴事業所が実施しているサービス別にあてはまるものすべてに○をつけてください。

実施しているサービスは、「居宅介護支援」が 42.5%と最も多く、次いで、「通所介護」が 30.1%、「訪問介護」が 24.7%となっている。前回調査と比べると、「通所介護」（前回 39.7%）が 9.6 ポイント減っている。

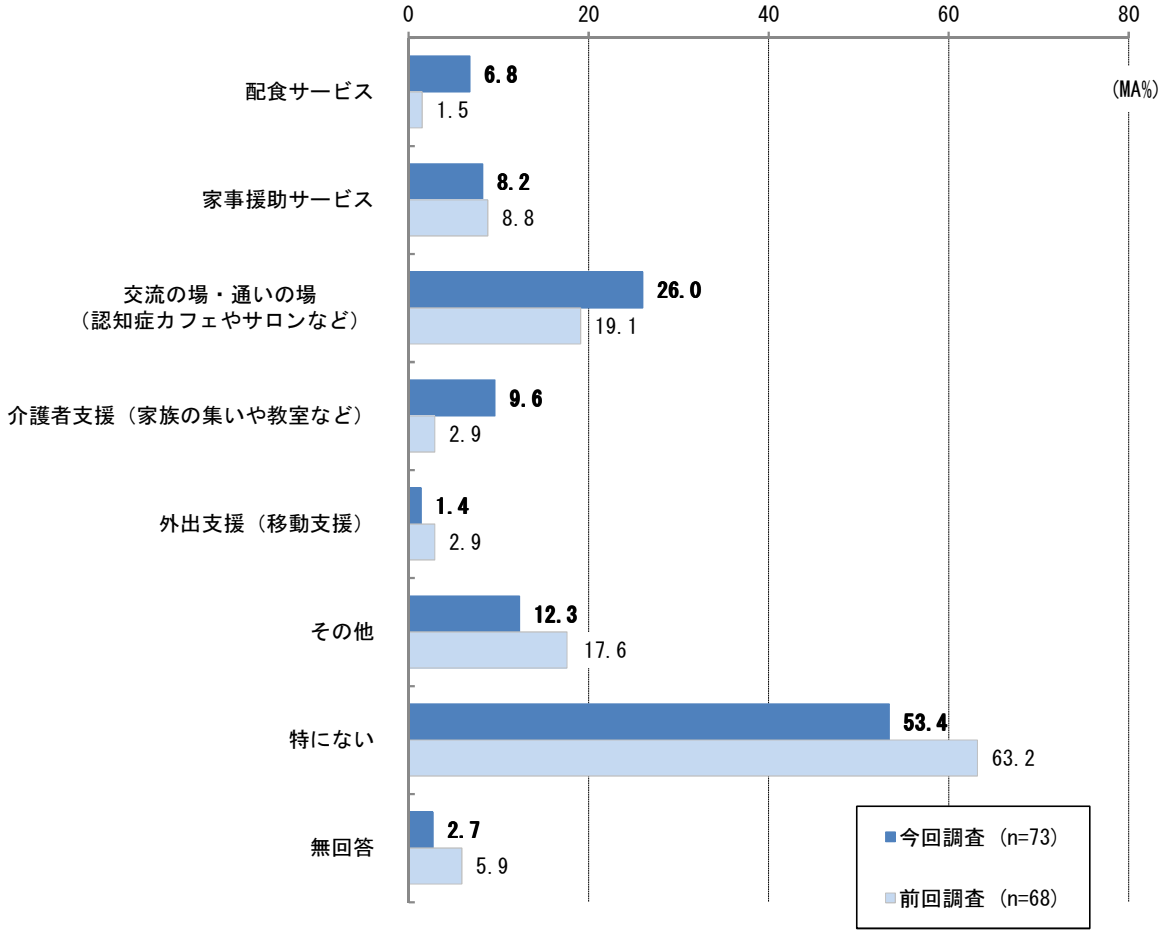


※★印のサービスは、予防サービス、総合事業を含む。

（4）介護保険以外の提供サービス

問4　貴事業所では、介護保険以外で提供しているサービスはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

介護保険以外で提供しているサービスは、「特にない」が 53.4%と半数以上を占め、提供しているサービスでは「交流の場・通いの場（認知症カフェやサロンなど）」が 26.0%と最も多くなっている。前回調査と比べると、「交流の場・通いの場（認知症カフェやサロンなど）」（前回 19.1%）が 6.9 ポイント、「介護者支援（家族の集いや教室など）」（今回 9.6%、前回 2.9%）が 6.7 ポイント、「配食サービス」（今回 6.8%、前回 1.5%）が 5.3 ポイント増えている。



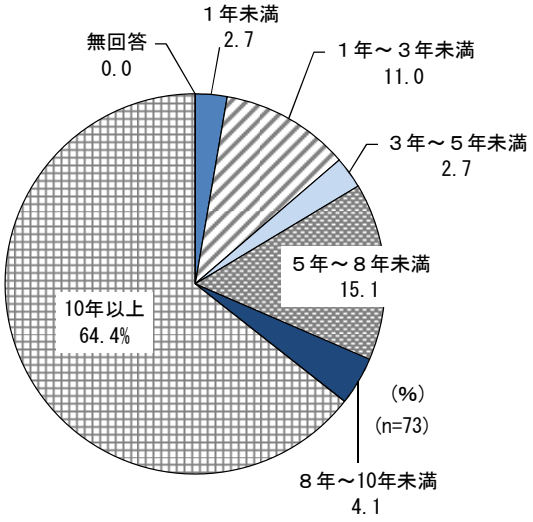
（その他内訳）

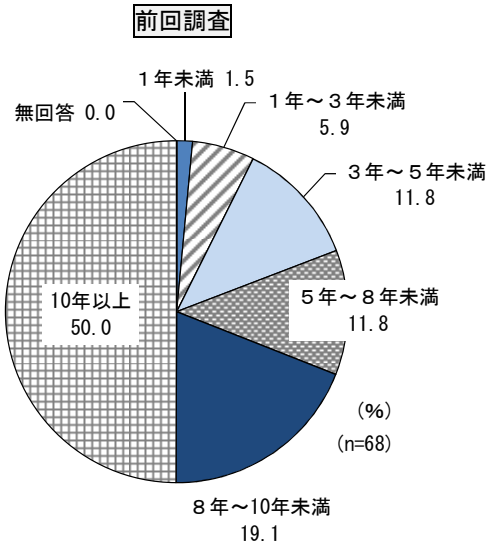
内　　容	件数
自費支援サービス（介護・看護、窓ガラスみがき）	3 件
24 時間緊急対応、アクティビティ等	2 件
サロン送迎	1 件
理容	1 件
入居者の洗濯	1 件
訪問、ヘルパー	1 件
一般高齢者運動器機能向上事業	1 件
地域包括支援センター	1 件

（５）事業開始経過年数

問５　貴事業所の事業開始後の経過年数はどれくらいですか。あてはまるもの１つに○をつけてください。

事業開始後の経過年数は、「10 年以上」が 64.4%と最も多く、前回調査（前回 50.0%）から 14.4 ポイント増えている。次いで、「５年～８年未満」が 15.1%、「１年～３年未満」が 11.0%となっている。

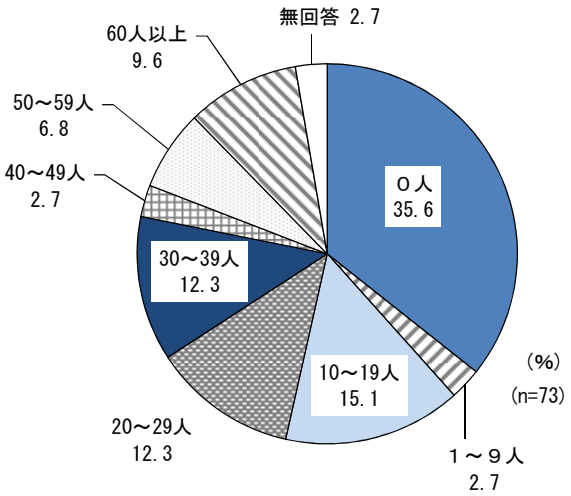


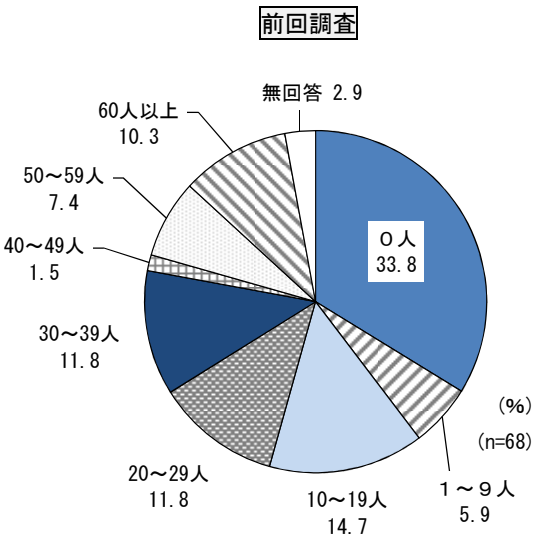


（６）利用定員数

問６　貴事業所の利用定員数をご記入ください。

利用定員数は、「０人」が 35.6%と最も多く、次いで、「10～19 人」が 15.1%、「20～29 人」、「30～39 人」がそれぞれ 12.3%で、前回調査と同じ傾向となっている。





※居宅介護支援事業所、訪問系サービスは「0」を記入。

※通所については、１日の定員数を記入。

※小規模多機能型居宅介護については、登録定員を記入。

※短期入所生活介護の空床利用型分は除く。

【実施サービス別　利用定員数】

（上段：件、下段：%）

		n	0人	1～9人	10～19人	20～29人	30～39人	40～49人	50～59人	60人以上	無回答	平均（人）
全　体		73	26	2	11	9	9	2	5	7	2	25.9
		100	35.6	2.7	15.1	12.3	12.3	2.7	6.8	9.6	2.7	
実施しているサービス別	訪問介護	18	11	0	0	1	2	2	2	0	0	15.3
		100	61.1	0	0	5.6	11.1	11.1	11.1	0	0	
	訪問入浴介護	4	3	0	0	0	1	0	0	0	0	8.8
		100	75.0	0	0	0	25.0	0	0	0	0	
	訪問看護	14	9	0	0	1	1	1	1	0	1	11.4
		100	64.3	0	0	7.1	7.1	7.1	7.1	0	7.1	
	訪問リハビリテーション	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	10.0
		100	50.0	0	0	50.0	0	0	0	0	0	
	通所介護	22	8	0	2	2	8	1	1	0	0	19.2
		100	36.4	0	9.1	9.1	36.4	4.5	4.5	0	0	
	通所リハビリテーション	6	1	0	0	2	0	0	0	2	1	50.0
		100	16.7	0	0	33.3	0	0	0	33.3	16.7	
	短期入所生活介護	13	4	1	0	4	1	1	2	0	0	19.5
		100	30.8	7.7	0	30.8	7.7	7.7	15.4	0	0	
	短期入所療養介護	3	0	0	0	1	0	0	0	1	1	60.0
		100	0	0	0	33.3	0	0	0	33.3	33.3	
	特定施設入居者生活介護	3	0	0	0	0	0	0	0	3	0	145.0
		100	0	0	0	0	0	0	0	100.0	0	
	地域密着型通所介護	6	0	0	5	1	0	0	0	0	0	15.0
		100	0	0	83.3	16.7	0	0	0	0	0	
	認知症対応型通所介護	8	1	0	4	2	1	0	0	0	0	18.0
		100	12.5	0	50.0	25.0	12.5	0	0	0	0	
	小規模多機能型居宅介護	7	1	0	3	3	0	0	0	0	0	18.0
		100	14.3	0	42.9	42.9	0	0	0	0	0	
	認知症対応型共同生活介護	8	1	1	4	2	0	0	0	0	0	15.5
		100	12.5	12.5	50.0	25.0	0	0	0	0	0	
	居宅介護支援	31	21	0	2	2	2	1	2	1	0	11.3
		100	67.7	0	6.5	6.5	6.5	3.2	6.5	3.2	0	
	介護老人福祉施設	13	4	0	0	2	1	1	4	1	0	31.5
		100	30.8	0	0	15.4	7.7	7.7	30.8	7.7	0	
	介護老人保健施設	3	0	0	0	1	0	0	0	1	1	60.0
		100	0	0	0	33.3	0	0	0	33.3	33.3	

※実施サービスについては複数回答のため、他のサービスと重複している場合がある

2　職員の確保について

（1）職員数

問7　貴事業所で実際に従事している職員の人数を職種・雇用形態ごとにご記入ください。
また、「パート（常勤）」、「パート（非常勤）」及び「その他」の職員については、常勤換算数を＜　　＞内にご記入ください。

※主に従事している職種・雇用形態のみに人数を含めるように数え、人数を重複して数えないようにしてください。
※常勤換算数の計算方法
[換算数]＝[職員の１週間の勤務時間の合計]÷[施設が定めている１週間の勤務時間]
小数点以下第２位を四捨五入して小数点以下第１位まで記入してください。得られた結果が0.1に満たない場合は、「0.1」と記入してください。

【A　介護支援専門員】　※計画作成担当者を含む　　※無回答、0人を除いて集計（以下同様）

介護支援専門員の職員数は、「正社員・正職員」は「１人」が43.2%、「２人」が35.1%、「３人」が10.8%となっている。「パート（常勤）」、「その他」は「１人」が100.0%、「パート（非常勤）」は「１人」が66.7%、「２人」、「４人」がそれぞれ16.7%となっている。

（%）

		n	1人	2人	3人	4人	5～9人	10人以上
①正社員・正職員	**今回調査**	**37**	**43.2**	**35.1**	**10.8**	**8.1**	**2.7**	**0**
	前回調査	30	50.0	36.7	10.0	3.3	0	0
②パート（常勤）	**今回調査**	**1**	**100.0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
	前回調査	3	33.3	33.3	33.3	0	0	0
③パート（非常勤）	**今回調査**	**6**	**66.7**	**16.7**	**0**	**16.7**	**0**	**0**
	前回調査	1	0	0	0	0	100.0	0
④その他	**今回調査**	**2**	**100.0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
	前回調査	2	50.0	50.0	0	0	0	0

【A　介護支援専門員（常勤換算数）】　※計画作成担当者を含む

常勤換算数でみると、「パート（常勤）」は「０～１人未満」が100.0%となっている。「パート（非常勤）」は「０～１人未満」が60.0%、「２～３人未満」、「３～４人未満」がそれぞれ20.0%となっている。「その他」は「１～２人未満」が100.0%となっている。

（%）

		n	0～1人未満	1～2人未満	2～3人未満	3～4人未満	4～5人未満	5～10人未満	10人以上
②パート（常勤）	**今回調査**	**1**	**100.0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
	前回調査	3	0	50.0	36.7	10.0	3.3	0	0
③パート（非常勤）	**今回調査**	**5**	**60.0**	**0**	**20.0**	**20.0**	**0**	**0**	**0**
	前回調査	1	66.7	33.3	0	0	0	0	0
④その他	**今回調査**	**2**	**0**	**100.0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
	前回調査	3	33.3	33.3	33.3	0	0	0	0

【B　相談員】

相談員の職員数は、「正社員・正職員」は「１人」が 64.3%、「２人」が 25.0%となっている。「パート（常勤)」は「１人」が 100.0%、「パート（非常勤)」は「１人」、「２人」、「３人」がそれぞれ 33.3%となっている。

(%)

		n	1人	2人	3人	4人	5～9人	10人以上
①正社員・正職員	**今回調査**	**28**	**64.3**	**25.0**	**3.6**	**3.6**	**3.6**	**0**
	前回調査	27	59.3	22.2	11.1	3.7	3.7	0
②パート（常勤）	**今回調査**	**4**	**100.0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
	前回調査	2	100.0	0	0	0	0	0
③パート（非常勤）	**今回調査**	**3**	**33.3**	**33.3**	**33.3**	**0**	**0**	**0**
	前回調査	5	60.0	20.0	20.0	0	0	0
④その他	**今回調査**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
	前回調査	1	100.0	0	0	0	0	0

【B　相談員（常勤換算数)】

常勤換算数でみると、「パート（常勤)」、「パート（非常勤)」ともに「０～１人未満」、「１～２人未満」がそれぞれ 50.0%となっている。

(%)

		n	0～1人未満	1～2人未満	2～3人未満	3～4人未満	4～5人未満	5～10人未満	10人以上
②パート（常勤）	**今回調査**	**2**	**50.0**	**50.0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
	前回調査	1	100.0	0	0	0	0	0	0
③パート（非常勤）	**今回調査**	**2**	**50.0**	**50.0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
	前回調査	4	50.0	50.0	0	0	0	0	0
④その他	**今回調査**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
	前回調査	1	0	100.0	0	0	0	0	0

【C　看護職員】

看護職員の職員数は、「正社員・正職員」は「１人」が 42.4%、「３人」が 24.2%、「５～９人」が 21.2%となっている。「パート（常勤）」は「１人」が 63.6%、「２人」が 27.3%、「パート（非常勤）」は「１人」が 33.3%、「４人」が 18.5%となっている。

(%)

		n	1人	2人	3人	4人	5～9人	10人以上
①正社員・正職員	**今回調査**	**33**	**42.4**	**6.1**	**24.2**	**6.1**	**21.2**	**0**
	前回調査	25	28.0	12.0	28.0	8.0	16.0	8.0
②パート（常勤）	**今回調査**	**11**	**63.6**	**27.3**	**0**	**9.1**	**0**	**0**
	前回調査	7	85.7	0	14.3	0	0	0
③パート（非常勤）	**今回調査**	**27**	**33.3**	**14.8**	**14.8**	**18.5**	**14.8**	**3.7**
	前回調査	27	37.0	22.2	0	22.2	18.5	0
④その他	**今回調査**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
	前回調査	0	0	0	0	0	0	0

【C　看護職員（常勤換算数）】

常勤換算数でみると、「パート（常勤）」は「１～２人未満」が 66.7%、「０～１人未満」、「３～４人未満」がそれぞれ 16.7%となっている。「パート（非常勤）」は「０～１人未満」が 45.5%、「１～２人未満」が 27.3%、「２～３人未満」が 18.2%となっている。

(%)

		n	0～1人未満	1～2人未満	2～3人未満	3～4人未満	4～5人未満	5～10人未満	10人以上
②パート（常勤）	**今回調査**	**6**	**16.7**	**66.7**	**0**	**16.7**	**0**	**0**	**0**
	前回調査	6	83.3	0	0	16.7	0	0	0
③パート（非常勤）	**今回調査**	**22**	**45.5**	**27.3**	**18.2**	**9.1**	**0**	**0**	**0**
	前回調査	28	60.7	17.9	14.3	3.6	0	3.6	0
④その他	**今回調査**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
	前回調査	0	0	0	0	0	0	0	0

【D　介護職員】

介護職員の職員数は、「正社員・正職員」は、「５～９人」が 30.4%、「10 人以上」が 28.3%、「２人」が 21.7%となっている。「パート（常勤)」は「２人」が 47.6%、「１人」が 38.1%となっている。「パート（非常勤)」は「５～９人」が 42.1%、「３人」、「４人」がそれぞれ 15.8%となっている。「その他」は「１人」が 66.7%、「２人」が 33.3%となっている。

(%)

		n	1人	2人	3人	4人	5～9人	10人以上
①正社員・正職員	**今回調査**	**46**	**6.5**	**21.7**	**10.9**	**2.2**	**30.4**	**28.3**
	前回調査	42	11.9	14.3	7.1	7.1	33.3	26.2
②パート（常勤）	**今回調査**	**21**	**38.1**	**47.6**	**0**	**0**	**9.5**	**4.8**
	前回調査	20	45.0	20.0	15.0	15.0	5.0	0
③パート（非常勤）	**今回調査**	**38**	**5.3**	**7.9**	**15.8**	**15.8**	**42.1**	**13.2**
	前回調査	35	11.4	17.1	17.1	14.3	22.9	17.1
④その他	**今回調査**	**6**	**66.7**	**33.3**	**0**	**0**	**0**	**0**
	前回調査	5	0	40.0	0	20.0	20.0	20.0

【D　介護職員（常勤換算数)】

常勤換算数でみると、「パート（常勤)」は「２～３人未満」が 43.8%、「１～２人未満」が 25.0%、「０～１人未満」が 18.8%となっている。「パート（非常勤)」は「１～２人未満」が 36.7%、「２～３人未満」が 20.0%、「５～10 人未満」が 16.7%、「０～１人未満」が 13.3%となっている。その他は「０～１人未満」が 66.7%、「２～３人未満」が 33.3%となっている。

(%)

		n	0～1人未満	1～2人未満	2～3人未満	3～4人未満	4～5人未満	5～10人未満	10人以上
②パート（常勤）	**今回調査**	**16**	**18.8**	**25.0**	**43.8**	**0**	**0**	**6.3**	**6.3**
	前回調査	15	26.7	33.3	13.3	13.3	6.7	6.7	0
③パート（非常勤）	**今回調査**	**30**	**13.3**	**36.7**	**20.0**	**6.7**	**3.3**	**16.7**	**3.3**
	前回調査	36	22.2	30.6	13.9	13.9	5.6	11.1	2.8
④その他	**今回調査**	**6**	**66.7**	**0**	**33.3**	**0**	**0**	**0**	**0**
	前回調査	7	28.6	28.6	14.3	0	0	14.3	14.3

【E　機能訓練指導員】

機能訓練指導員の職員数は、「正社員・正職員」は「１人」が 66.7%、「２人」が 20.0%となっている。「パート（常勤）」は「１人」が 100.0%となっている。「パート（非常勤）」は「１人」が 36.4%、「２人」が 27.3%、「５～９人」が 18.2%となっている。

(%)

		n	1人	2人	3人	4人	5～9人	10人以上
①正社員・正職員	**今回調査**	**15**	**66.7**	**20.0**	**6.7**	**0**	**6.7**	**0**
	前回調査	14	57.1	21.4	7.1	7.1	0	7.1
②パート（常勤）	**今回調査**	**2**	**100.0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
	前回調査	4	75.0	0	0	0	25.0	0
③パート（非常勤）	**今回調査**	**11**	**36.4**	**27.3**	**9.1**	**9.1**	**18.2**	**0**
	前回調査	11	63.6	9.1	0	0	27.3	0
④その他	**今回調査**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
	前回調査	3	66.7	33.3	0	0	0	0

【E　機能訓練指導員（常勤換算数）】

常勤換算数でみると、「パート（非常勤）」は「０～１人未満」が 66.7%、「１～２人未満」が 33.3%となっている。

(%)

		n	0～1人未満	1～2人未満	2～3人未満	3～4人未満	4～5人未満	5～10人未満	10人以上
②パート（常勤）	**今回調査**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
	前回調査	3	0	100.0	0	0	0	0	0
③パート（非常勤）	**今回調査**	**9**	**66.7**	**33.3**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
	前回調査	11	81.8	18.2	0	0	0	0	0
④その他	**今回調査**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
	前回調査	2	100.0	0	0	0	0	0	0

【F　その他】

その他の職員の職員数は、「正社員・正職員」は「１人」が 35.3%、「５～９人」が 23.5%、「３人」、「10 人以上」がそれぞれ 17.6%となっている。「パート（常勤）」は「１人」が 80.0%となっている。「パート（非常勤）」は「１人」が 38.1%、「５～９人」、「10 人以上」がそれぞれ 19.0%となっている。「その他」は「５～９人」が 60.0%となっている。

(%)

		n	１人	２人	３人	４人	５～９人	10人以上
①正社員・正職員	**今回調査**	**17**	**35.3**	**5.9**	**17.6**	**0**	**23.5**	**17.6**
	前回調査	15	53.3	13.3	0	0	20.0	13.3
②パート（常勤）	**今回調査**	**5**	**80.0**	**0**	**0**	**20.0**	**0**	**0**
	前回調査	2	50.0	50.0	0	0	0	0
③パート（非常勤）	**今回調査**	**21**	**38.1**	**14.3**	**0**	**9.5**	**19.0**	**19.0**
	前回調査	16	31.3	12.5	12.5	6.3	18.8	18.8
④その他	**今回調査**	**5**	**20.0**	**20.0**	**0**	**0**	**60.0**	**0**
	前回調査	3	66.7	0	33.3	0	0	0

【F　その他（常勤換算数）】

常勤換算数でみると、「パート（常勤）」は「１～２人未満」が 100.0%となっている。「パート（非常勤）」は「０～１人未満」が 36.8%、「１～２人未満」、「３～４人未満」がそれぞれ 21.1%となっている。「その他」は「０～１人未満」、「１～２人未満」、「４～５人未満」がそれぞれ 33.3%となっている。

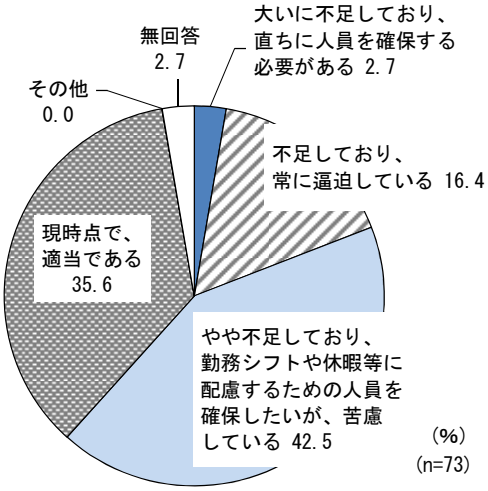
(%)

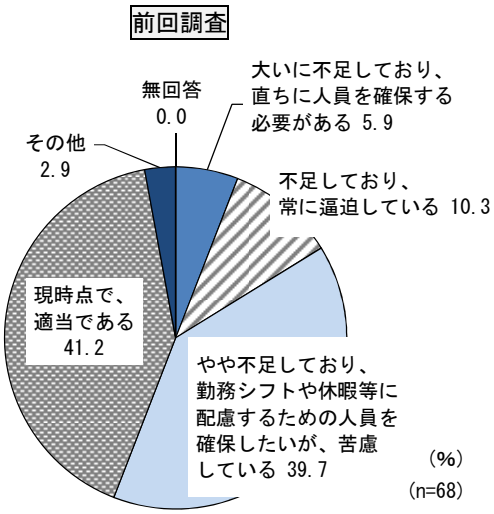
		n	０～１人未満	１～２人未満	２～３人未満	３～４人未満	４～５人未満	５～10人未満	10人以上
②パート（常勤）	**今回調査**	**5**	**0**	**100.0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
	前回調査	1	100.0	0	0	0	0	0	0
③パート（非常勤）	**今回調査**	**19**	**36.8**	**21.1**	**5.3**	**21.1**	**0**	**15.8**	**0**
	前回調査	16	56.3	6.3	6.3	12.5	12.5	6.3	0
④その他	**今回調査**	**3**	**33.3**	**33.3**	**0**	**0**	**33.3**	**0**	**0**
	前回調査	3	66.7	33.3	0	0	0	0	0

（2）職員の配置状況

問８　貴事業所の職員の配置状況について、現在どのような状況ですか。あてはまるもの１つに○をつけてください。

職員の配置状況については、「やや不足しており、勤務シフトや休暇等に配慮するための人員を確保したいが、苦慮している」が 42.5%と最も多く、「不足しており、常に逼迫している」（16.4%）、「大いに不足しており、直ちに人員を確保する必要がある」（2.7%）と合わせて６割（61.6%）が『不足している』と回答しており、前回調査（55.9%）から 5.8 ポイント増えている。

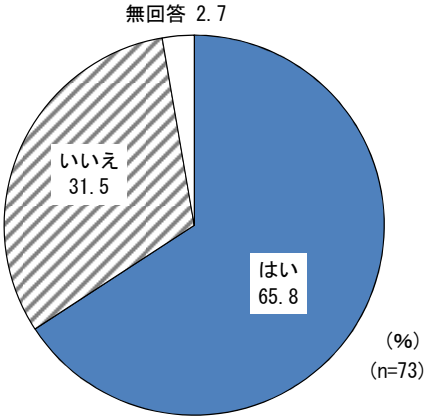


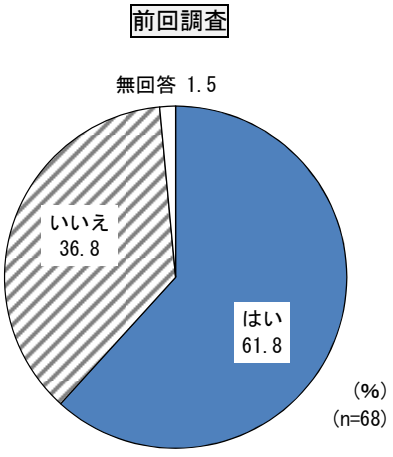


（3）職員の確保で苦慮していること

問９　貴事業所で職員を確保するにあたって、苦慮していることはありますか。あてはまるもの１つに○をつけてください。

職員を確保するにあたって、苦慮していることがあるかについては、「はい」が 65.8%となっており、前回調査（61.8%）から 4.0 ポイント増えている。

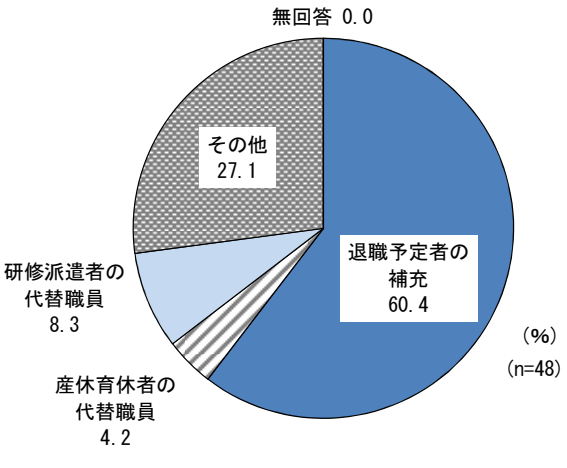


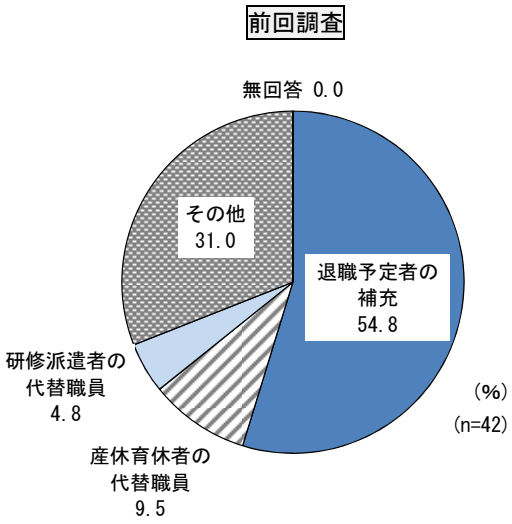


【問９で「１ はい」と回答した事業所のみ】

問 10　どのようなことに苦慮されていますか。あてはまるもの１つに○をつけてください。

問９で「１．はい」と回答した事業所に、どのようなことに苦慮しているかをたずねたところ、「退職予定者の補充」が 60.4%と最も多くなっており、前回調査（54.8%）から 5.6 ポイント増えている。





（その他内訳）

内　　容	件数
求人に対する応募がない	３件
常に人員が不足している	２件
介護や有給取得時の代替職員	２件
優秀な人材の確保	１件
サービス提供責任者の仕事が後回しになる	１件
職員の異動	１件
増員時の募集	１件

（4）事業所全体の退職者数

問 11　貴事業所における平成 30 年度の退職者数についてご記入ください。

平成 30 年度の退職者数について、定年による退職者は「１人」が 100.0%となっている。定年以外の理由による退職者は「２人」が 26.2%、「１人」が 21.4%、「３人」が 19.0%、「８人以上」が 14.3%となっている。

(%)

		n	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人以上
①定年による退職	**今回調査**	**6**	**100.0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
	前回調査	3	100.0	0	0	0	0	0	0	0
②定年以外の理由による退職	**今回調査**	**42**	**21.4**	**26.2**	**19.0**	**7.1**	**4.8**	**2.4**	**4.8**	**14.3**
	前回調査	47	25.5	29.8	8.5	6.4	4.3	6.4	6.4	12.8

※無回答、0 人を除いて集計

（5）職種別、定年以外の退職者数

【問 11 で選択肢「2 定年以外の理由による退職」に回答した事業所のみ】

問 12　定年以外で退職された方について、Ａ～Ｆの職種ごとに退職者数をご記入ください。

問 11 で「2．定年以外の理由による退職」に回答した事業所に、職種ごとの退職者数をたずねたところ、介護支援専門員は「１人」、相談員は「２人」がそれぞれ 100.0%となっている。看護職員では「１人」が 80.0%、「４人」が 13.3%、機能訓練指導員では「１人」が 75.0%、「２人」が 25.0%となっている。定年以外の退職者は介護職員で多くみられ、「２人」が 30.3%、「１人」が 21.2%、「４人」が 15.2%となっている。

(%)

		n	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人以上
A.介護支援専門員	**今回調査**	**4**	**100.0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
（計画作成担当者を含む）	前回調査	6	66.7	33.3	0	0	0	0	0	0
B.相談員	**今回調査**	**1**	**0**	**100.0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
	前回調査	1	0	100.0	0	0	0	0	0	0
C.看護職員	**今回調査**	**15**	**80.0**	**0**	**6.7**	**13.3**	**0**	**0**	**0**	**0**
	前回調査	17	70.6	17.6	11.8	0	0	0	0	0
D.介護職員	**今回調査**	**33**	**21.2**	**30.3**	**12.1**	**15.2**	**3.0**	**12.1**	**0**	**6.1**
	前回調査	36	25.0	27.8	8.3	8.3	8.3	8.3	2.8	11.1
E.機能訓練指導員	**今回調査**	**4**	**75.0**	**25.0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
	前回調査	4	100.0	0	0	0	0	0	0	0
F.その他	**今回調査**	**10**	**30.0**	**30.0**	**10.0**	**10.0**	**0**	**0**	**0**	**20.0**
	前回調査	11	63.6	0	0	0	18.2	0	18.2	0

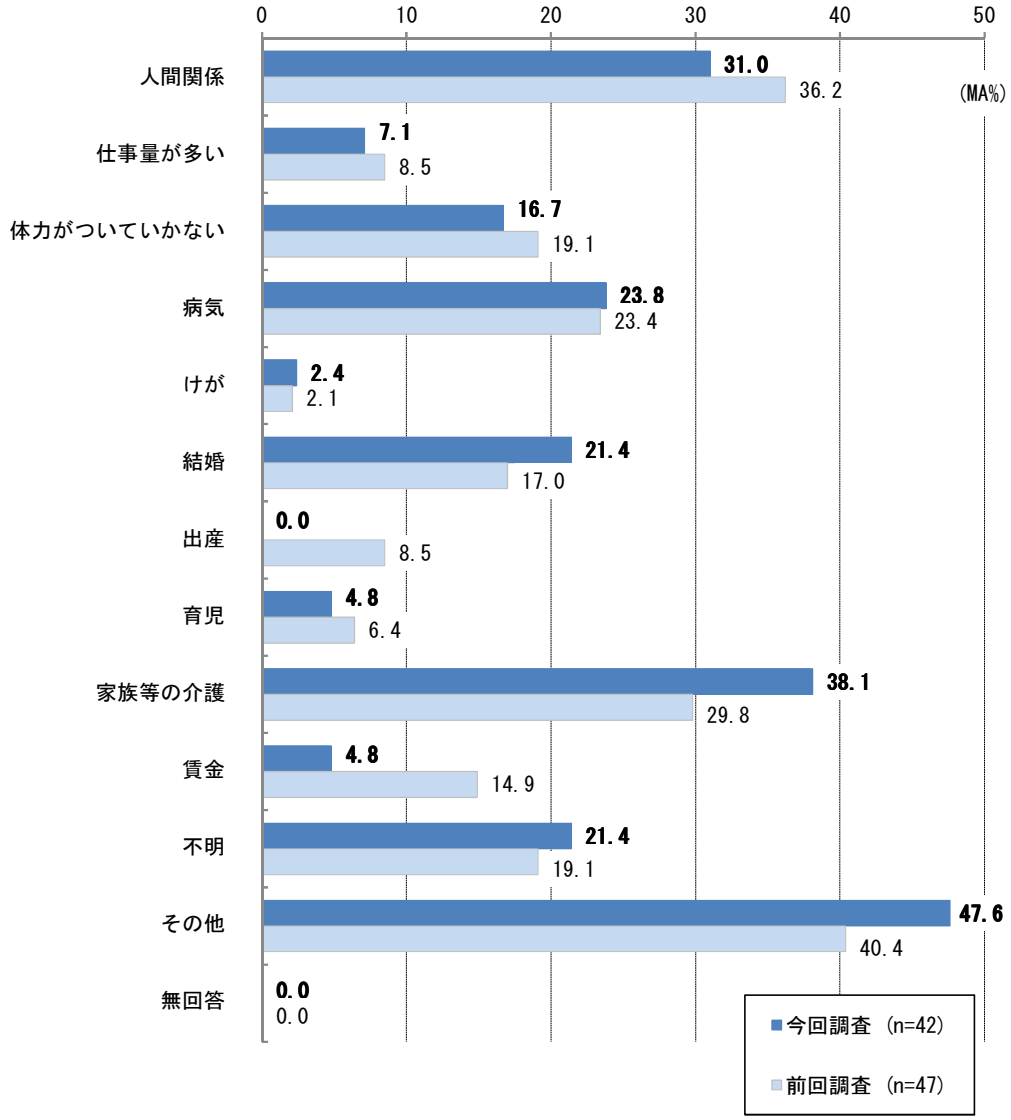
※無回答、0 人を除いて集計

（６）定年以外の退職理由

【問 11 で選択肢「２ 定年以外の理由による退職」に回答した事業所のみ】

問 13　定年以外で退職された理由について、あてはまるものすべてに○をつけてください。

問 11 で「２．定年以外の理由による退職」に回答した事業所に、定年以外で退職された理由についてたずねたところ、「家族等の介護」が 38.1%と最も多く、次いで、「人間関係」が 31.0%となっている。前回調査と比べると、上位項目は同じだが、「家族等の介護」（前回 29.8%）が 8.3 ポイント増え、「人間関係」（前回 36.2%）は 5.2 ポイント減っている。



（その他内訳）

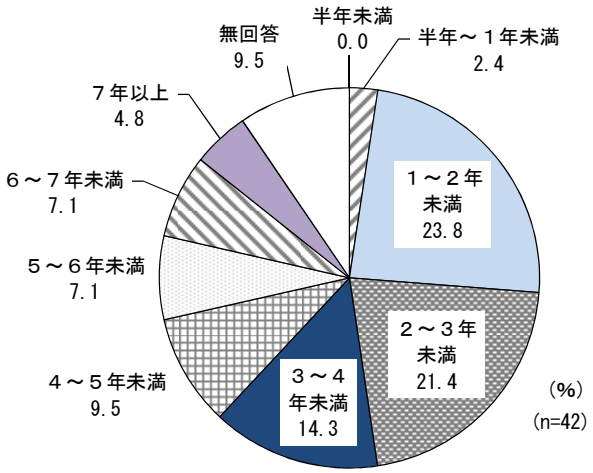
内　　容	件数
転職、スキルアップのため	７件
能力の欠如、向いていない	４件
転居	３件
家庭の事情	３件
正職員になれない	２件
緊急訪問対応ができないと要望あり退職	１件
仕事上のトラブルのため	１件

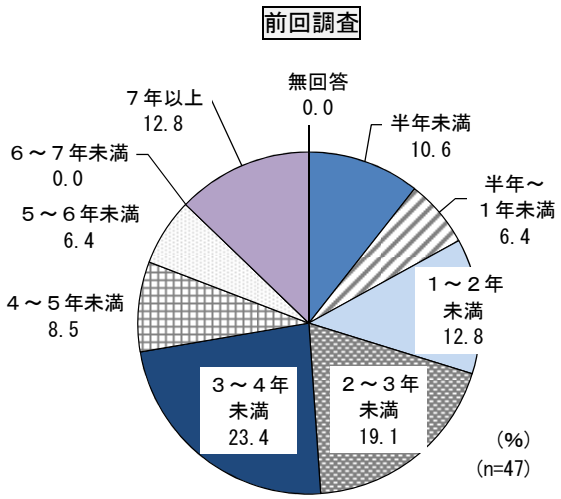
（７）退職者の平均経験年数

【問 11 で選択肢「２ 定年以外の理由による退職」に回答した事業所のみ】

問 14　定年以外で退職された方の当事業所での入職後の平均経験年数をご記入ください。（人事異動等で職場を異動した場合、前の職場の年数は含めないでください。）

問 11 で「２．定年以外の理由による退職」に回答した事業所に、定年以外で退職された方の当事業所での入職後の平均経験年数をたずねたところ、「１～２年未満」が 23.8%と最も多く、前回調査（12.8%）から 11.0 ポイント増えている。次いで、「２～３年未満」が 21.4%、「３～４年未満」が 14.3%となっている。

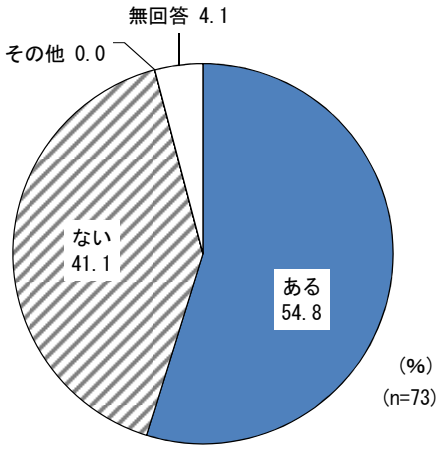


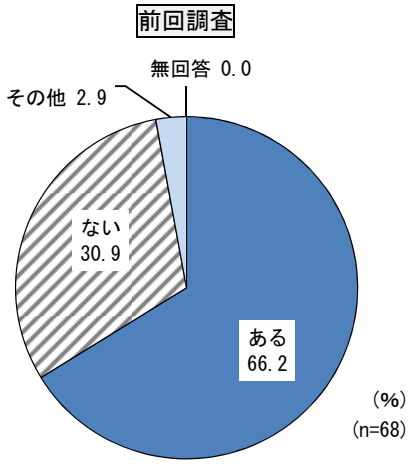


（８）他の事業所との連携

問 15　貴事業所では、他の法人の事業所との連携はありますか。あてはまるもの１つに○をつけてください。

他の法人の事業所との連携については、「ある」が 54.8%、「ない」が 41.1%となっており、前回調査と比べると、「ある」（前回 66.2%）が 11.4 ポイント減り、「ない」（前回 30.9%）が 10.2 ポイント増えている。

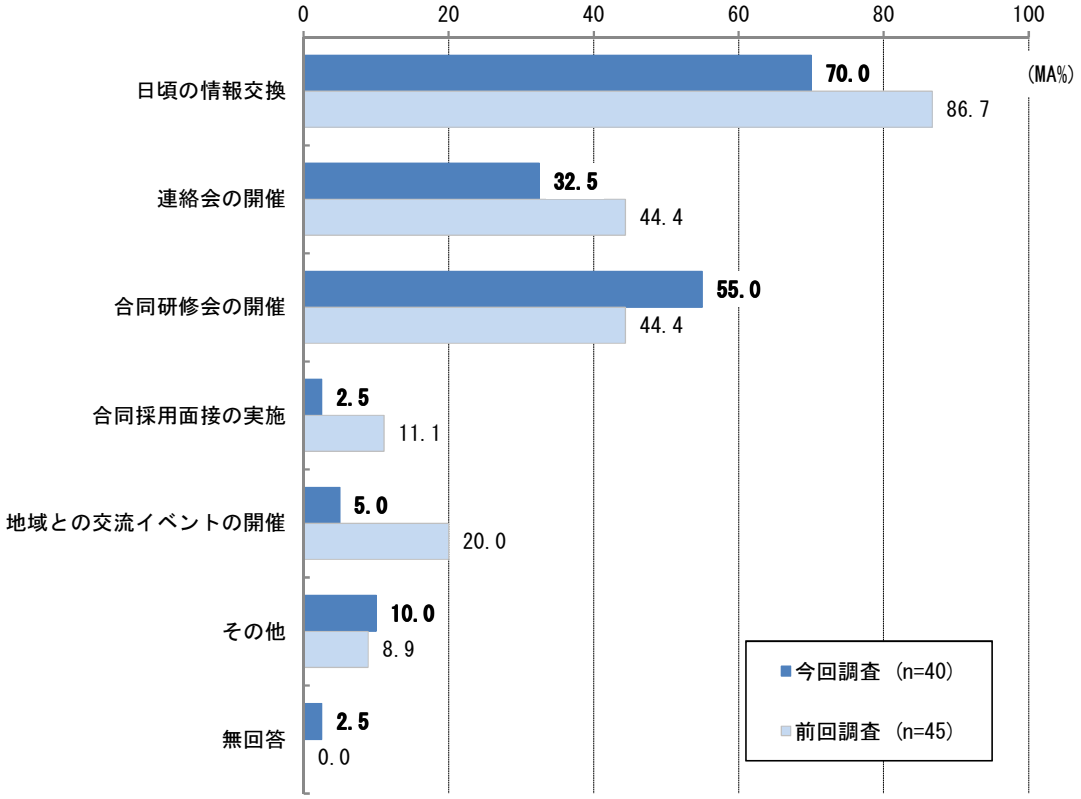




【問 15 で「1　ある」と回答した事業所のみ】

問 16　どのようなことを連携していますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

他の法人の事業所との連携が「ある」と回答した事業所に、どのようなことを連携しているかをたずねたところ、「日頃の情報交換」が 70.0%と最も多く、次いで、「合同研修会の開催」が 55.0%、「連絡会の開催」が 32.5%となっている。前回調査と比べると、「合同研修会の開催」（前回 44.4%）が 10.6 ポイント増え、「日頃の情報交換」（前回 86.7%）が 16.7 ポイント、「連絡会の開催」（前回 44.4%）が 11.9 ポイント減っている。



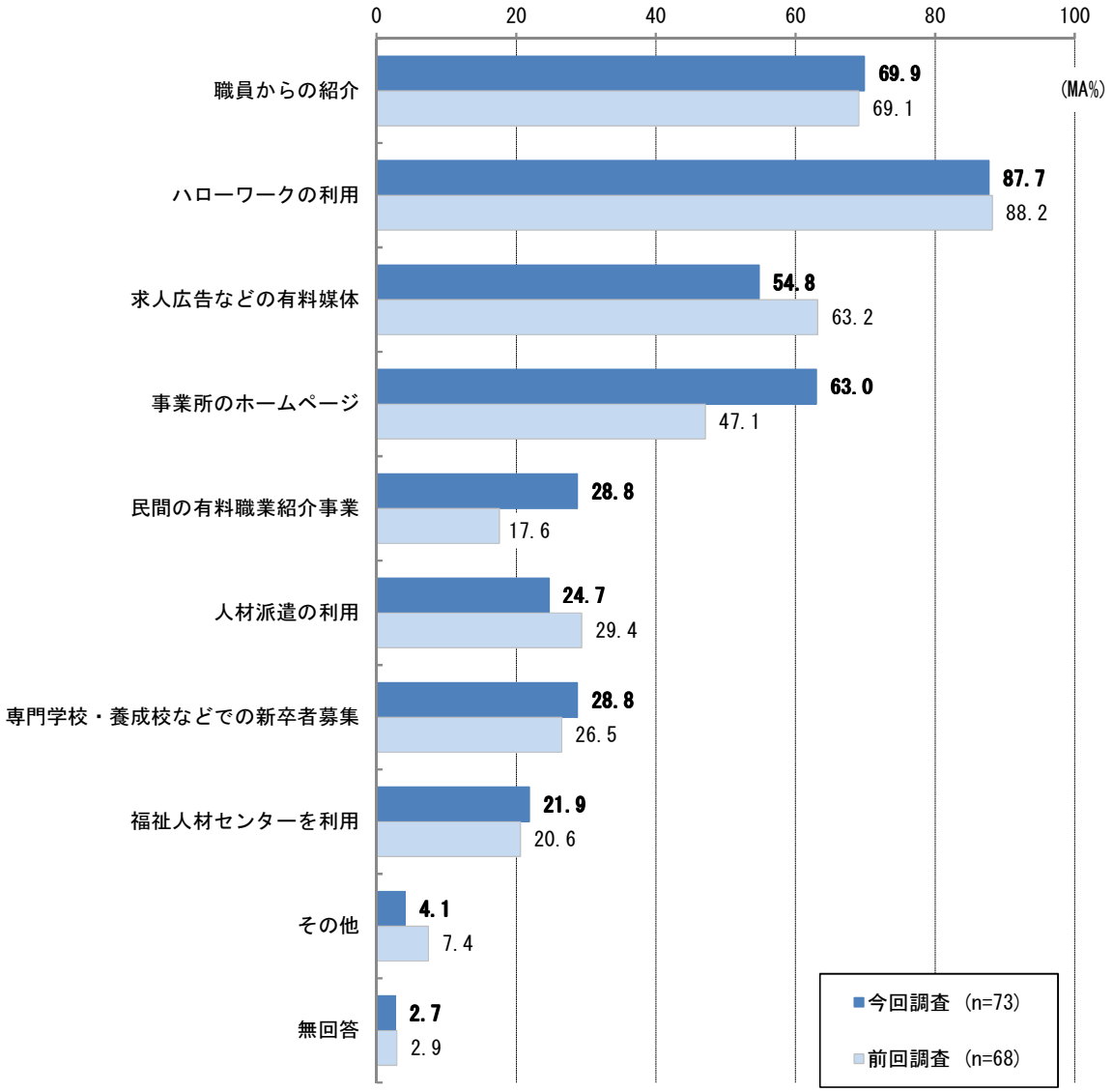
（その他内訳）

内　　容	件数
共同見学会の実施	1 件
事例検討	1 件
職員研修の依頼等	1 件
木津川市ケアマネ会	1 件

（９）職員募集の方法

問 17　貴事業所における職員募集の方法はどれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

職員募集の方法は、「ハローワークの利用」が 87.7%と最も多く、次いで、「職員からの紹介」が 69.9%、「事業所のホームページ」が 63.0%、「求人広告などの有料媒体」が 54.8%となっている。前回調査と比べると、「事業所のホームページ」（前回 47.1%）が 15.9 ポイント、「民間の有料職業紹介事業」（今回 28.8%、前回 17.6%）が 11.2 ポイント増え、「求人広告などの有料媒体」（前回 63.2%）が 8.4 ポイント減っている。



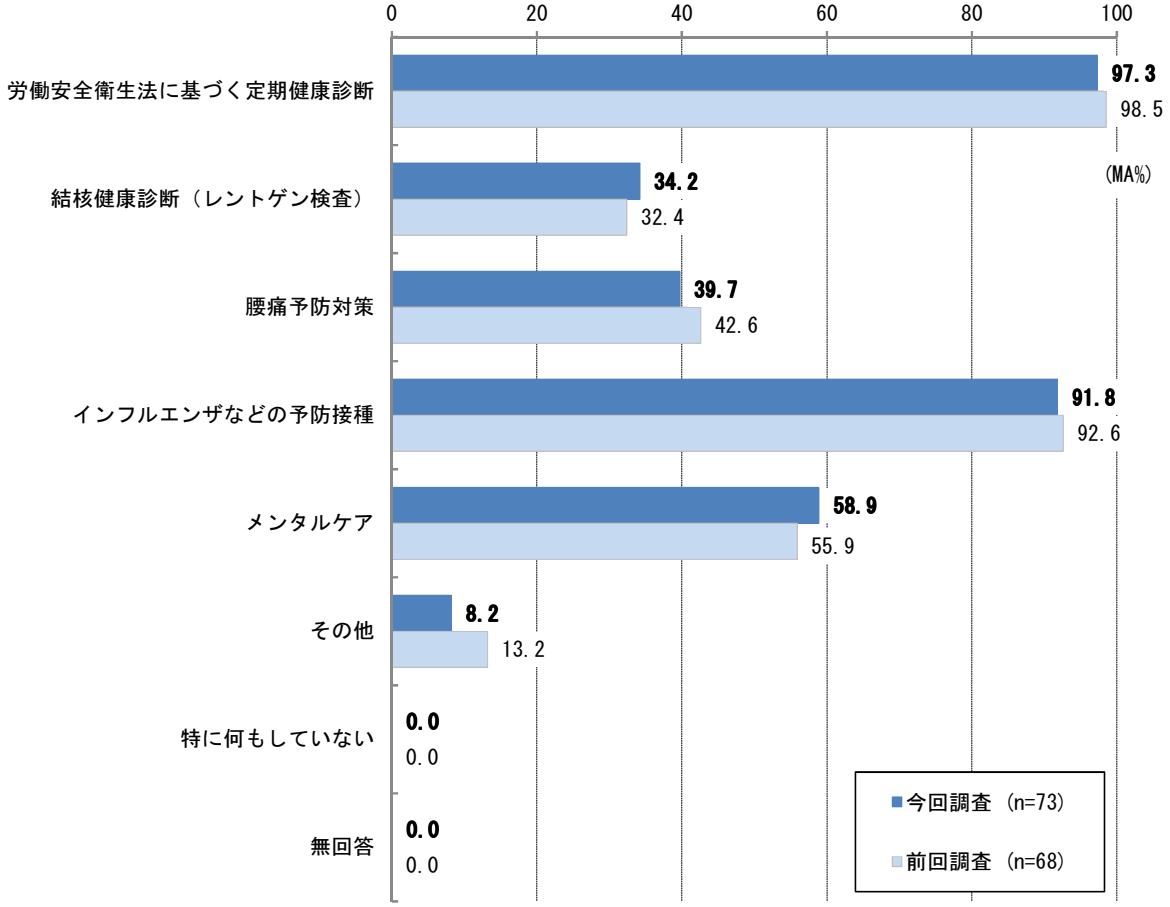
（その他内訳）

内　　容	件数
高卒、大卒の新卒者募集	２件

（10）職員の健康管理

問 18　貴事業所において、職員の健康管理として実施しているものは何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

職員の健康管理として実施しているものは、「労働安全衛生法に基づく定期健康診断」が 97.3%と最も多く、次いで、「インフルエンザなどの予防接種」が 91.8%、「メンタルケア」が 58.9%となっており、前回調査とほぼ同じ傾向となっている。



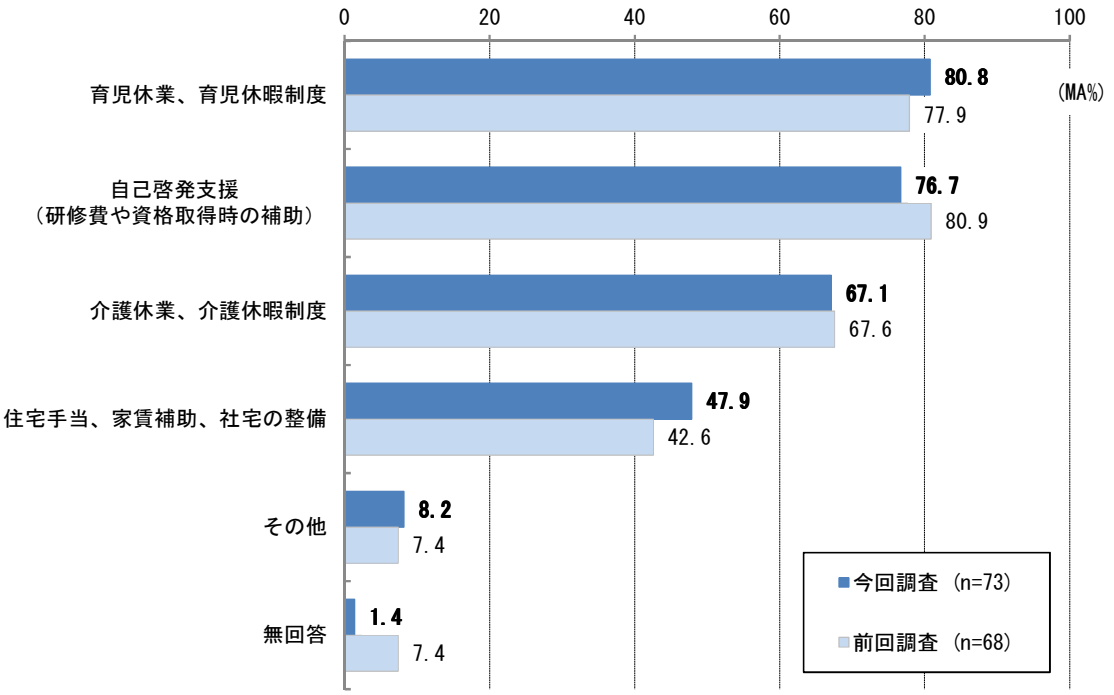
（その他内訳）

内　　容	件数
人間ドック	3件
ストレスチェックの実施	3件

（11）福利厚生

問 19　貴事業所では、福利厚生として、現在どのようなものを導入されていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

福利厚生として導入しているものは、「育児休業、育児休暇制度」が 80.8%と最も多く、次いで、「自己啓発支援（研修費や資格取得時の補助）」が 76.7%、「介護休業、介護休暇制度」が 67.1%、「住宅手当、家賃補助、社宅の整備」が 47.9%となっており、前回調査とほぼ同じ傾向となっている。



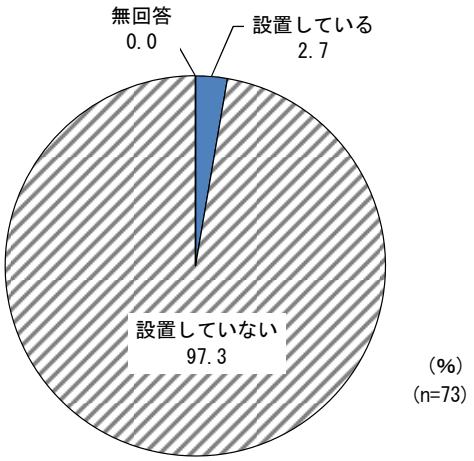
（その他内訳）

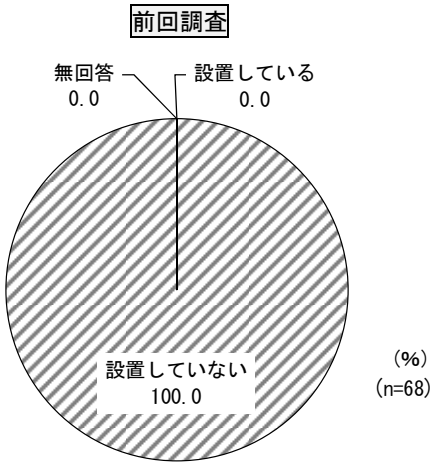
内　　容	件数
娯楽・保養・親睦（旅行、親睦会、娯楽サービス　など）	４件
年金制度、確定拠出年金	２件
家族手当	１件
社員食堂（安価提供）	１件
なし	１件

（12）託児所・保育所の設置

問 20　貴事業所内で託児所や保育所の設置をしていますか。あてはまるもの１つに○をつけてください。

事業所内への託児所・保育所の設置については、「設置している」が 2.7%、「設置していない」が 97.3%となっており、「設置している」が前回調査（0.0%）から 2.7 ポイント増えている。

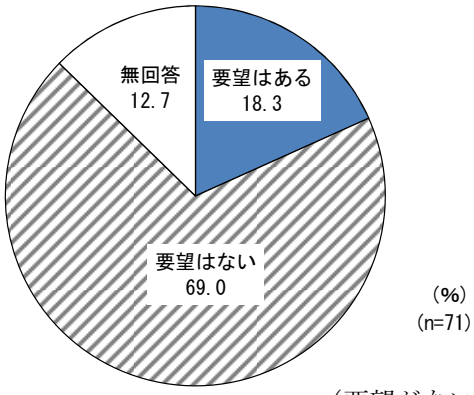


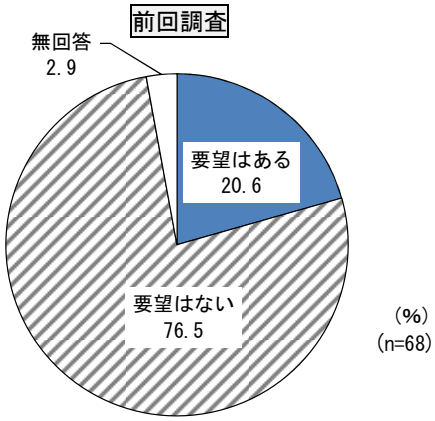


【問 20 で「２ 設置していない」と回答した事業所のみ】

問 21　設置の要望はありますか。あてはまるもの１つに○をつけてください。要望がない場合、考えられる理由をご記入ください。

問 20 で「２ 設置していない」と回答した事業所に、設置の要望があるかをたずねたところ、「要望はある」が 18.3%、「要望はない」が 69.0%となっており、前回調査とほぼほぼ同じ傾向となっている。





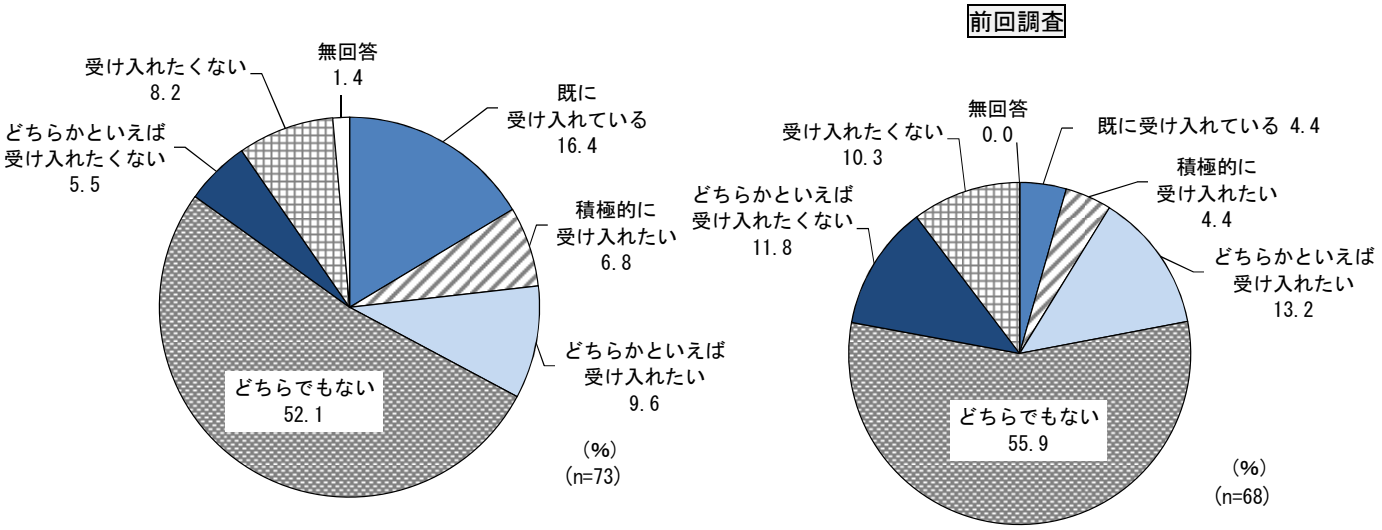
（要望がない理由）

要望がないことについて考えられる理由	件数
託児や保育の必要な職員がいない（少ない） ・子育て中の職員がいない ・中高年層の職員が多い ・既に他の施設に預けている　など	２４件
経営上の負担、予算が足りない	３件
その他 ・よくわからない、把握していない　など	５件

（13）外国人労働者の受け入れ

問 22　貴事業所では、外国人労働者の受け入れについて、どのように考えていますか。あてはまるもの１つに○をつけてください。

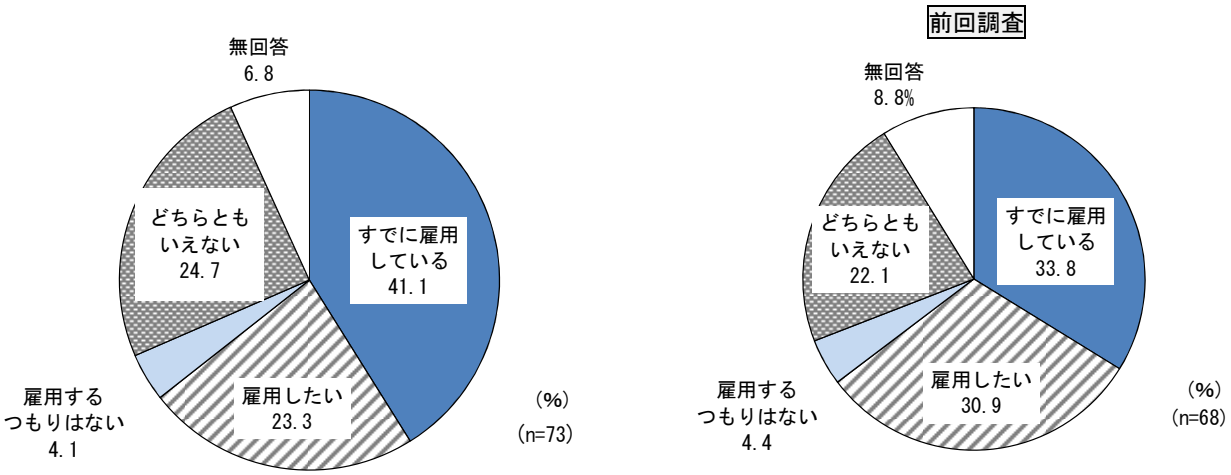
外国人労働者の受け入れについては、「既に受け入れている」が 16.4%で、「積極的に受け入れたい」（6.8%）、「どちらかといえば受け入れたい」（9.6%）を合わせた、受け入れ意向のある事業所は合計 32.9%で、前回調査（22.1%）から 10.8 ポイント増えている。



（14）中高年齢者等の雇用

問 23　貴事業所では、介護の入門研修等を受講して、介護に係る基礎知識を有している中高年齢者等（子育てを終えた主婦やシニア層）を雇用したいと思いますか。あてはまるもの１つに○をつけてください。

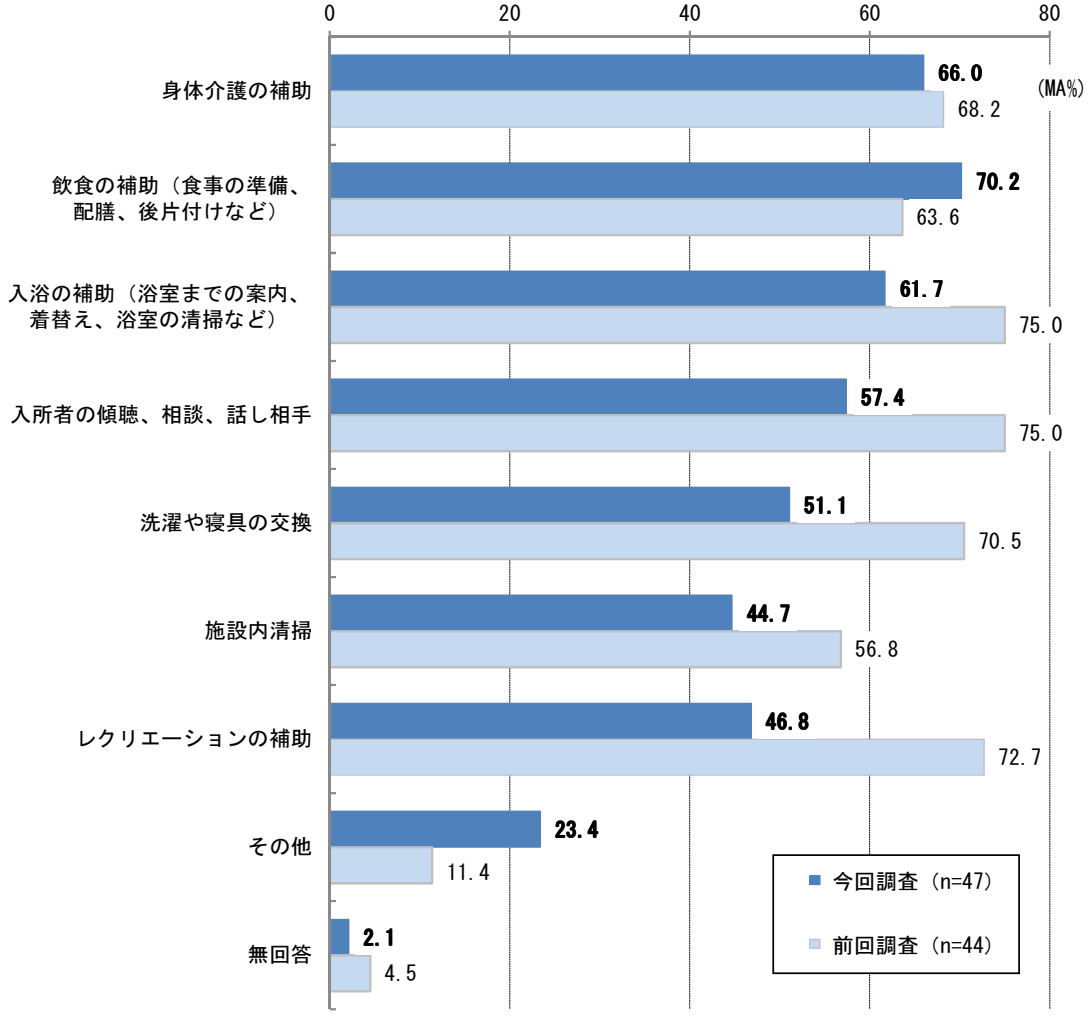
介護の入門研修等を受講して、介護に係る基礎知識を有している中高年齢者等（子育てを終えた主婦やシニア層）を雇用したいと思うかについては、「すでに雇用している」が 41.1%で、「雇用したい」（23.3%）と合わせると、雇用意向のある事業所は合計６割（64.4%）となっている。前回調査と比べると、「すでに雇用している」（前回 33.8%）が 7.3 ポイント増えている。



【問 23 で選択肢「1　すでに雇用している」又は「2　雇用したい」と回答した事業所のみ】

問 24　中高年齢者等が従事する業務にはどのようなものがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

問 23 で選択肢「1　すでに雇用している」又は「2　雇用したい」と回答した事業所に、中高年齢者等が従事する業務についてたずねたところ、「飲食の補助（食事の準備、配膳、後片付けなど）」が 70.2%と最も多く、次いで、「身体介護の補助」が 66.0%、「入浴の補助（浴室までの案内、着替え、浴室の清掃など）」が 61.7%となっている。前回調査と比べると、「入浴の補助（浴室までの案内、着替え、浴室の清掃など）」、「入所者の傾聴、相談、話し相手」、「洗濯や寝具の交換」、「施設内清掃」、「レクリエーションの補助」などでそれぞれ 10 ポイント以上減っている。



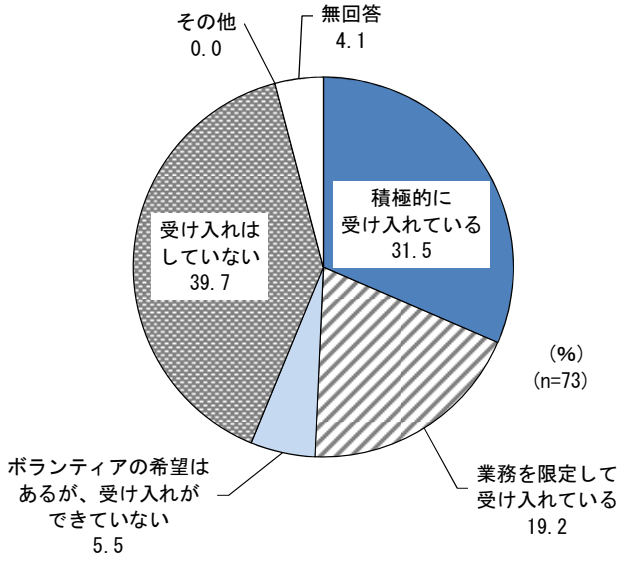
（その他内訳）

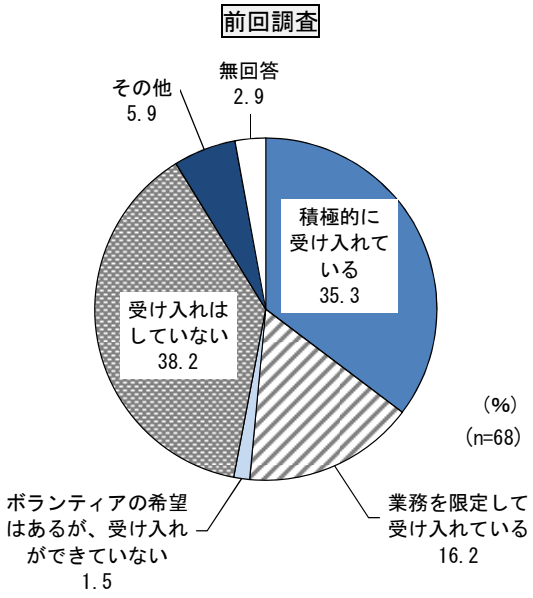
内　　容	件数
介護職員としての仕事	4 件
ドライバー、送迎	2 件
リハビリの補助	1 件
調理、掃除	1 件
事務作業	1 件
ケアマネジメント業務	1 件
相談業務（マネジャー）	1 件

(15) ボランティアの受け入れ

問 25　貴事業所では、ボランティアの受け入れをしていますか。あてはまるもの１つに○をしてください。

ボランティアの受け入れについては、「積極的に受け入れている」が 31.5%、「業務を限定して受け入れている」(19.2%) を合わせた５割 (50.7%) の事業所が受け入れを行っており、前回調査 (51.5%) と同じ程度となっている。一方で、「受け入れはしていない」が 39.7%、「ボランティアの希望はあるが、受け入れができていない」が 5.5%となっている。

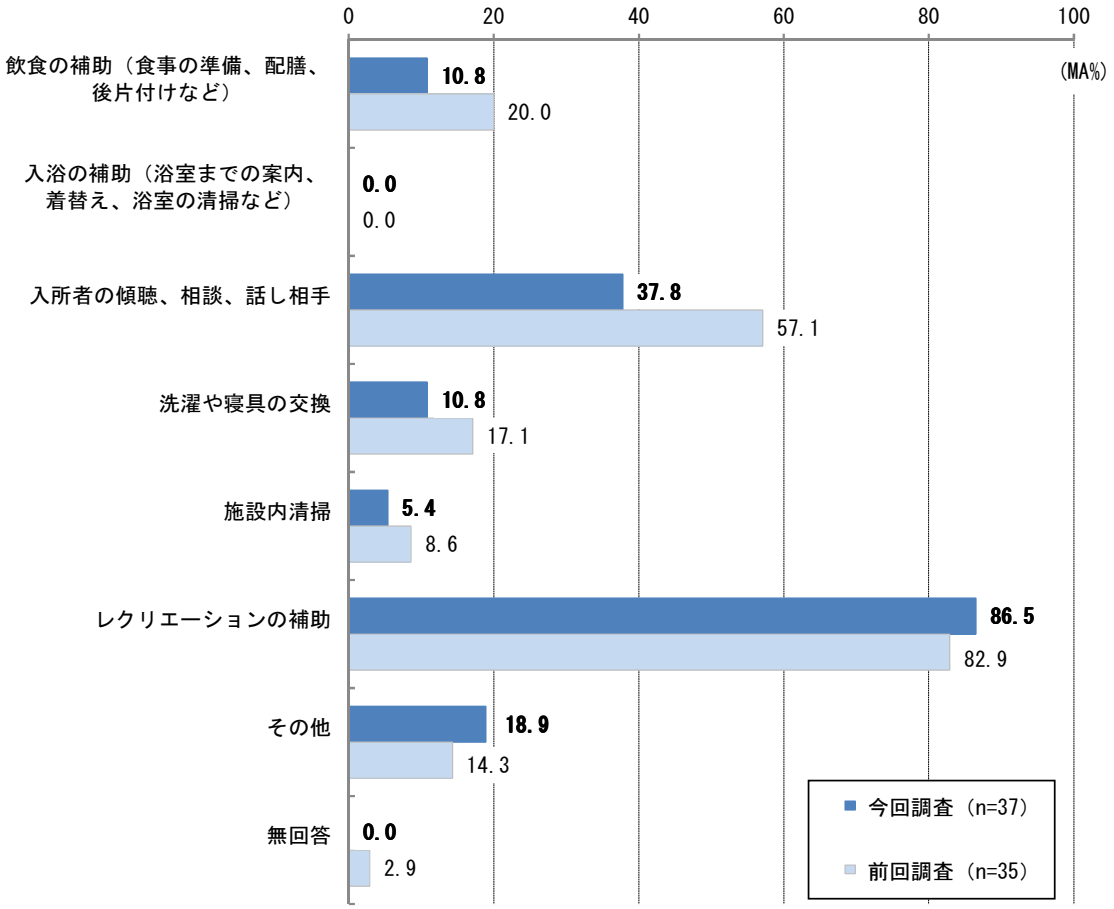




【問 25 で選択肢「１ 積極的に受け入れている」又は「２ 業務を限定して受け入れている」と回答した事業所のみ】

問 26　どのような業務でボランティアを受け入れていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

問 25 で「１ 積極的に受け入れている」又は「２ 業務を限定して受け入れている」と回答した事業所に、どのような業務でボランティアを受け入れているかをたずねたところ、「レクリエーションの補助」が 86.5%と最も多く、次いで、「入所者の傾聴、相談、話し相手」が 37.8%となっている。前回調査と比べると、「入所者の傾聴、相談、話し相手」（前回 57.1%）が 19.3 ポイント減っている。



（その他内訳）

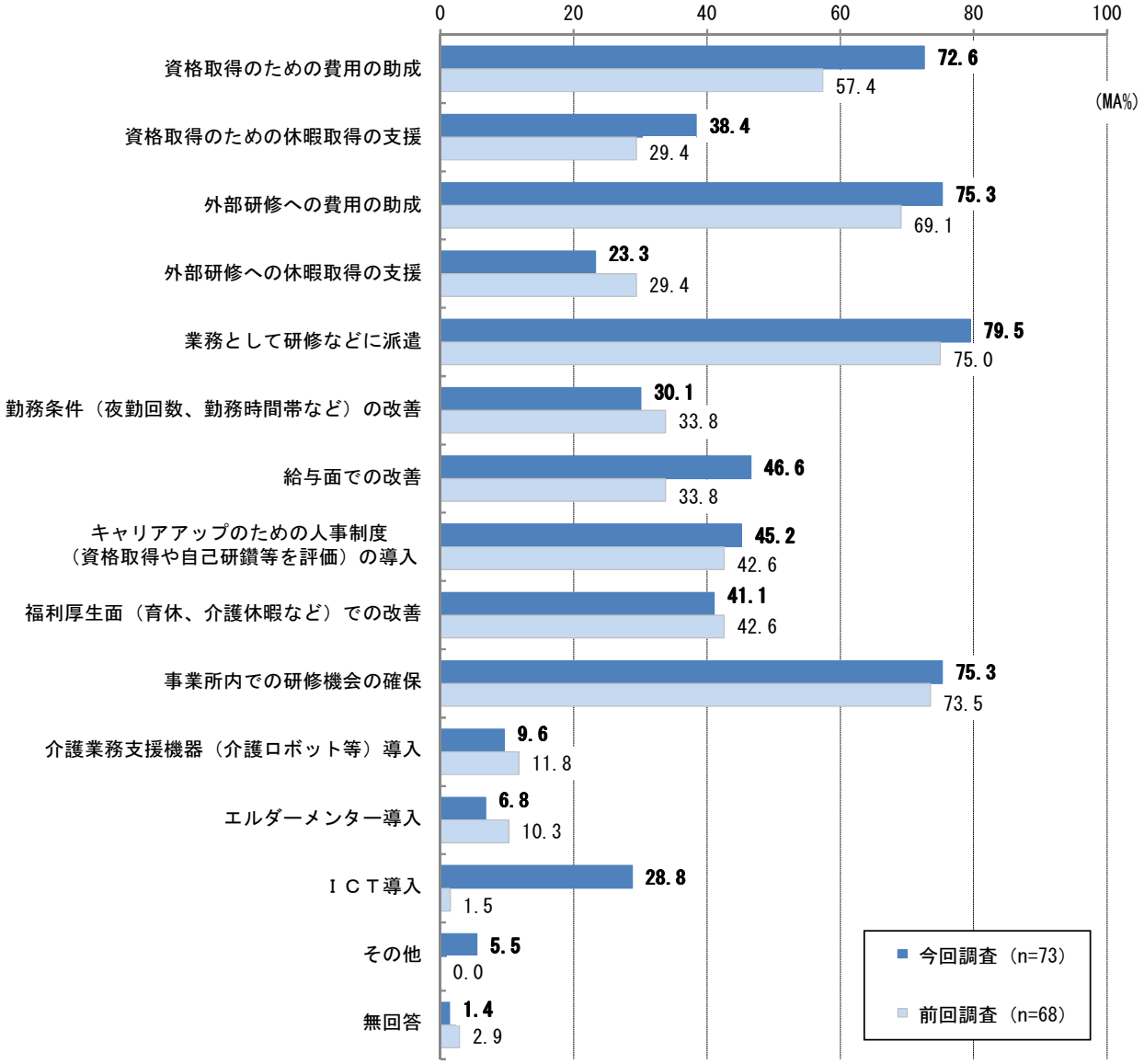
内　　容	件数
認知症カフェ、喫茶の運営	６件
ドッグセラピー	２件
歌、演奏	１件

3　職員の研修や資格に関することについて

（1）職員定着のために行っている取組

問 27　貴事業所で職員定着のために行っている取組にはどのようなことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

職員定着のために行っている取組は、「業務として研修などに派遣」が 79.5%と最も多く、次いで、「外部研修への費用の助成」、「事業所内での研修機会の確保」がそれぞれ 75.3%、「資格取得のための費用の助成」が 72.6%となっている。前回調査と比べると、「ＩＣＴ導入」（今回 28.8%、前回 1.5%）が 27.3 ポイント、「資格取得のための費用の助成」（前回 57.4%）が 15.2 ポイント、「給与面での改善」（今回 46.6%、前回 33.8%）が 12.8 ポイント増えている。



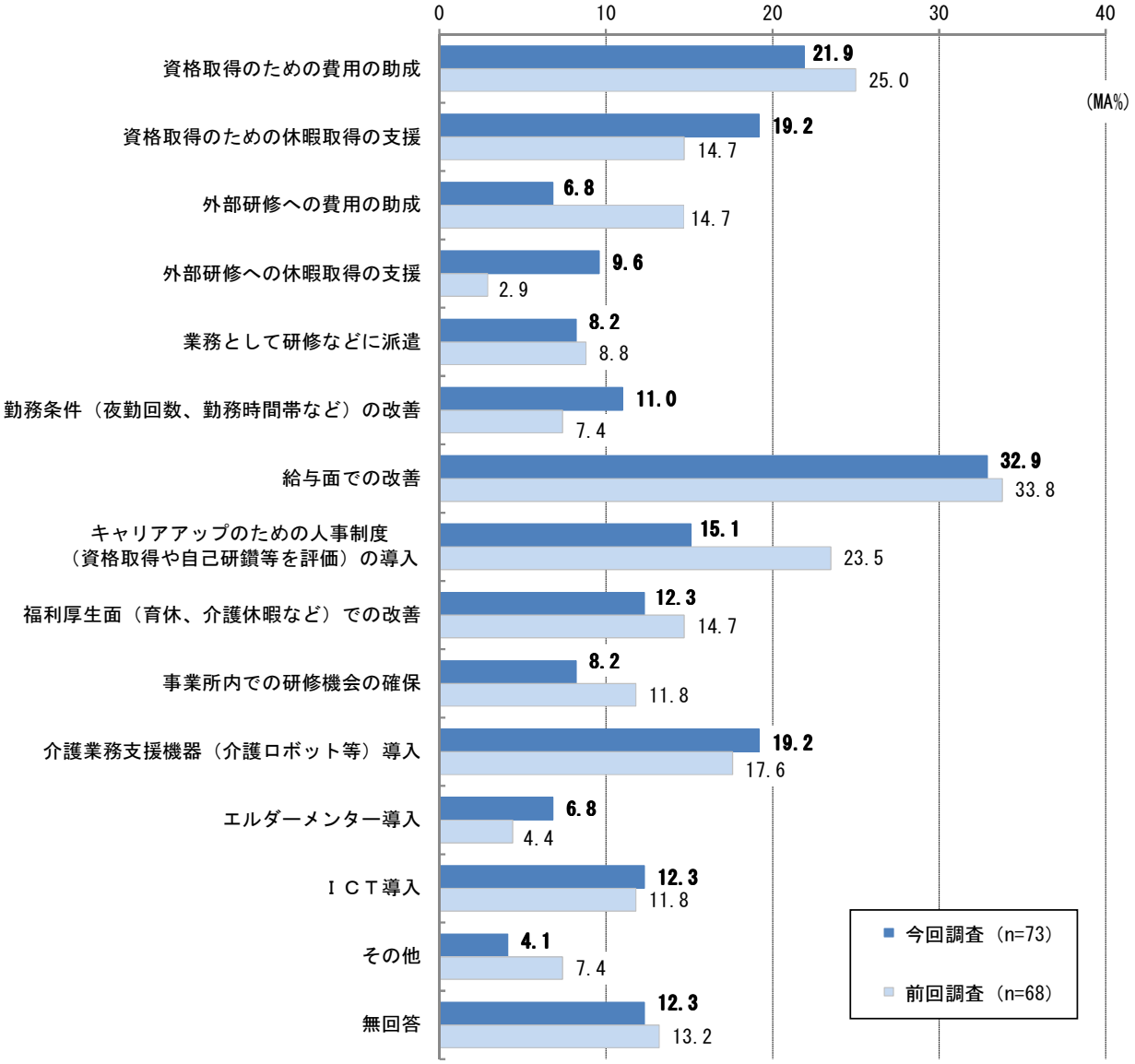
（その他内訳）

内　　容	件数
上級職（支配人など）への登用実績	1 件
全職員と管理職による個別面談で意見要望の吸い上げ	1 件
親睦会	1 件

（2）職員定着のために必要と思う取組

問 28　貴事業所で職員定着のために現在行ってはいないが、必要と思われる取組にはどのようなことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

職員定着のために必要と思われる取組は、「給与面での改善」が 32.9%と最も多く、次いで、「資格取得のための費用の助成」が 21.9%、「資格取得のための休暇取得の支援」、「介護業務支援機器（介護ロボット等）導入」がそれぞれ 19.2%となっている。前回調査と比べると、「外部研修への休暇取得の支援」（今回 9.6%、前回 2.9%）が 6.7 ポイント増え、「キャリアアップのための人事制度（資格取得や自己研鑽等を評価）の導入」（今回 15.1%、前回 23.5%）が 8.4 ポイント、「外部研修への費用の助成」（今回 6.8%、前回 14.7%）が 7.9 ポイント減っている。



（その他内訳）

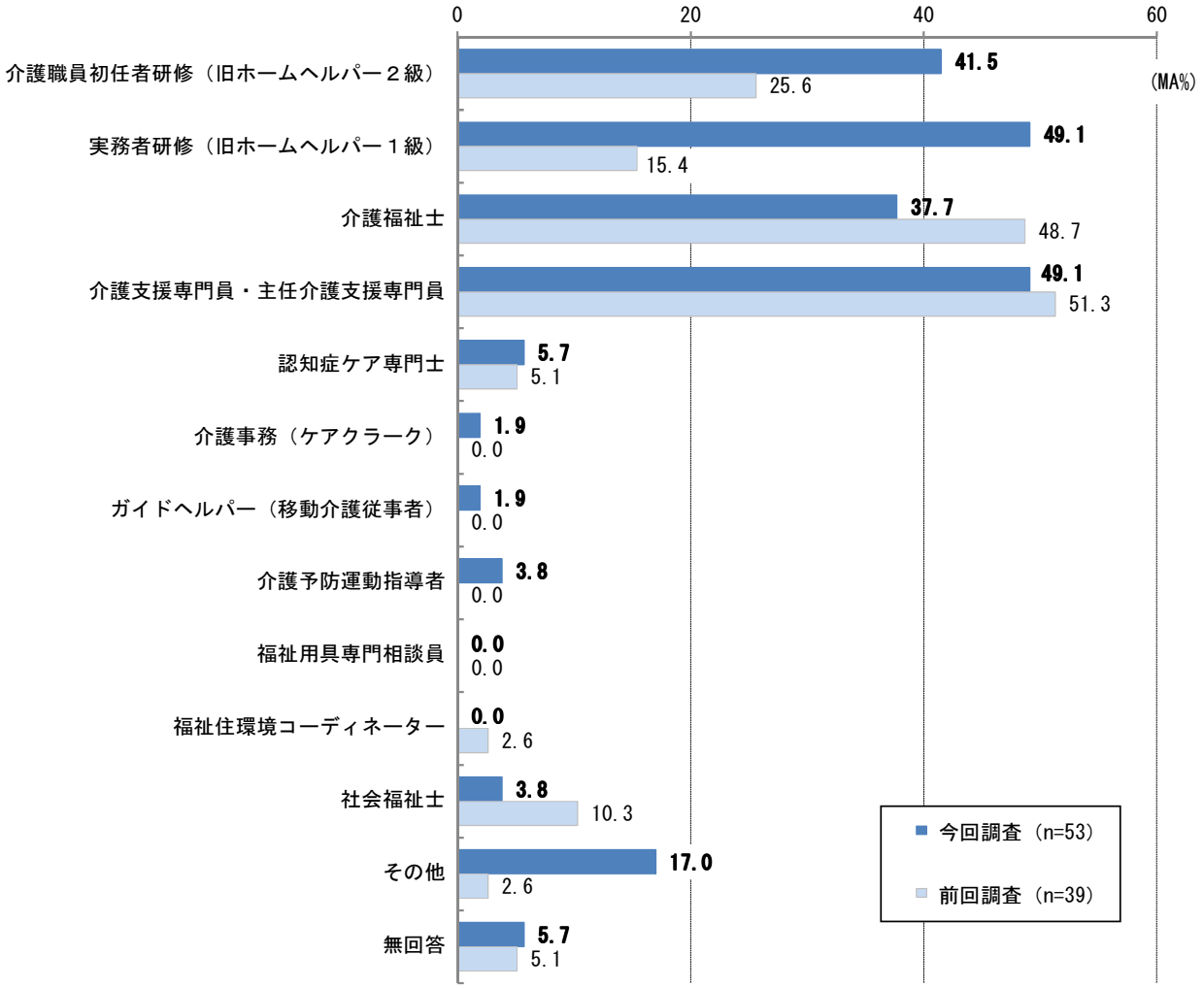
内　　容	件数
介護職員の正職員雇用	3 件

（3）費用面で支援している研修や資格

【問 27 で選択肢「1　資格取得のための費用の助成」と回答した事業所のみ】

問 29　次の研修や資格のうち、費用面で職員を支援しているものがあれば、あてはまるものすべてに○をつけてください。

問 27 で選択肢「1　資格取得のための費用の助成」と回答した事業所に、費用面で職員を支援している研修や資格をたずねたところ、「実務者研修（旧ホームヘルパー１級）」、「介護支援専門員・主任介護支援専門員」がそれぞれ 49.1%と最も多く、次いで、「介護職員初任者研修（旧ホームヘルパー２級）」が 41.5%、「介護福祉士」が 37.7%となっている。前回調査と比べると、「実務者研修（旧ホームヘルパー１級）」（前回 15.4%）が 33.7 ポイント、「介護職員初任者研修（旧ホームヘルパー２級）」（前回 25.6%）が 15.9 ポイント増えている。



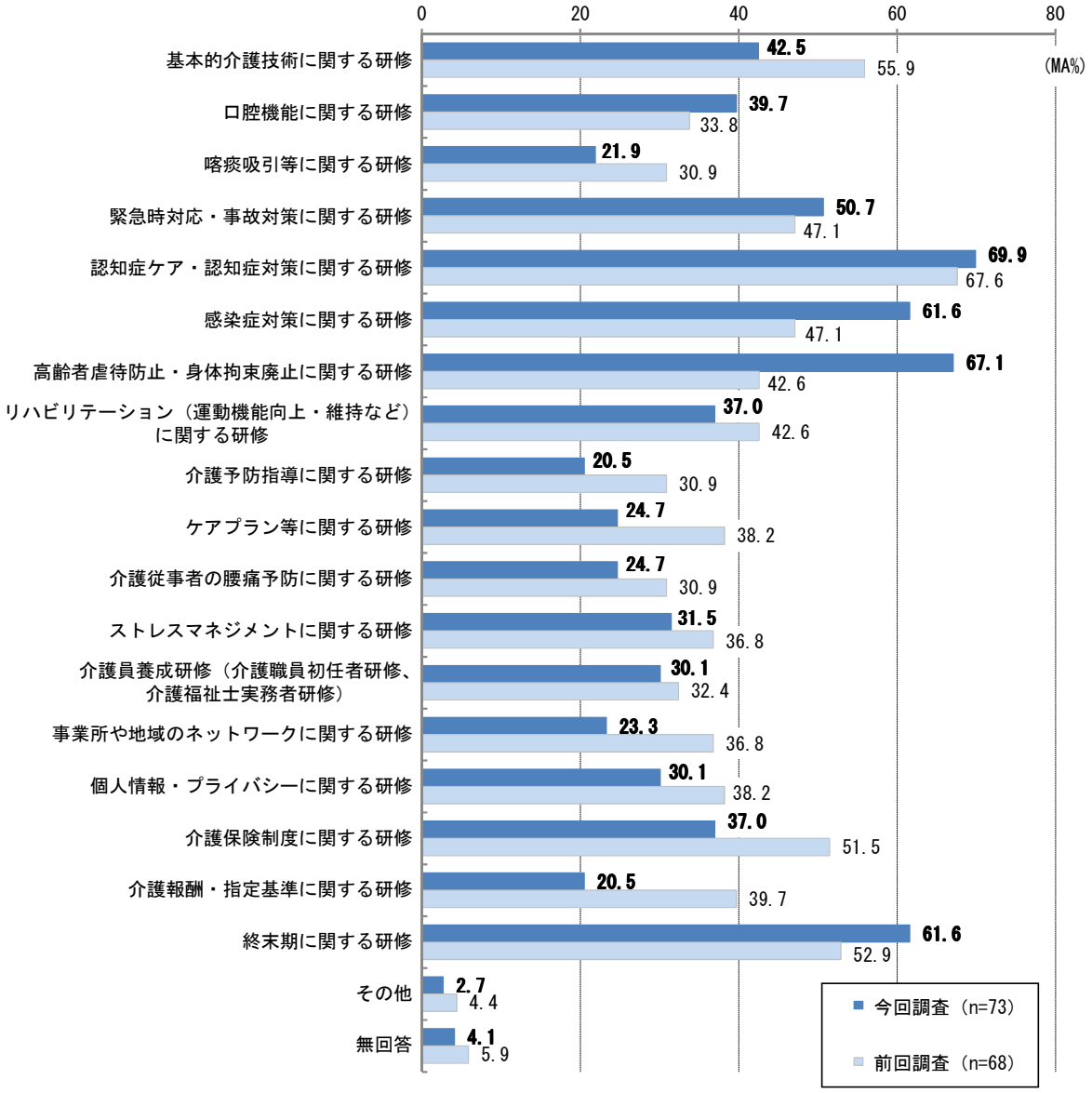
（その他内訳）

内　　容	件数
認知症介護実践者研修、認知症介護実践リーダー研修	3 件
介護福祉士実習指導者	2 件
訪問看護養成講習	1 件
専門分野での資格	1 件
介護支援専門員更新のための費用	1 件

（4）職員に受けさせたい研修

問 30　貴事業所の職員に受けさせたい研修はどのようなものがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

職員に受けさせたい研修は、「認知症ケア・認知症対策に関する研修」が 69.9%と最も多く、次いで、「高齢者虐待防止・身体拘束廃止に関する研修」が 67.1%、「感染症対策に関する研修」、「終末期に関する研修」がそれぞれ 61.6%となっている。前回調査と比べると、「高齢者虐待防止・身体拘束廃止に関する研修」（前回 42.6%）が 24.5 ポイント、「感染症対策に関する研修」（前回 47.1%）が 14.5 ポイント増えている。



（その他内訳）

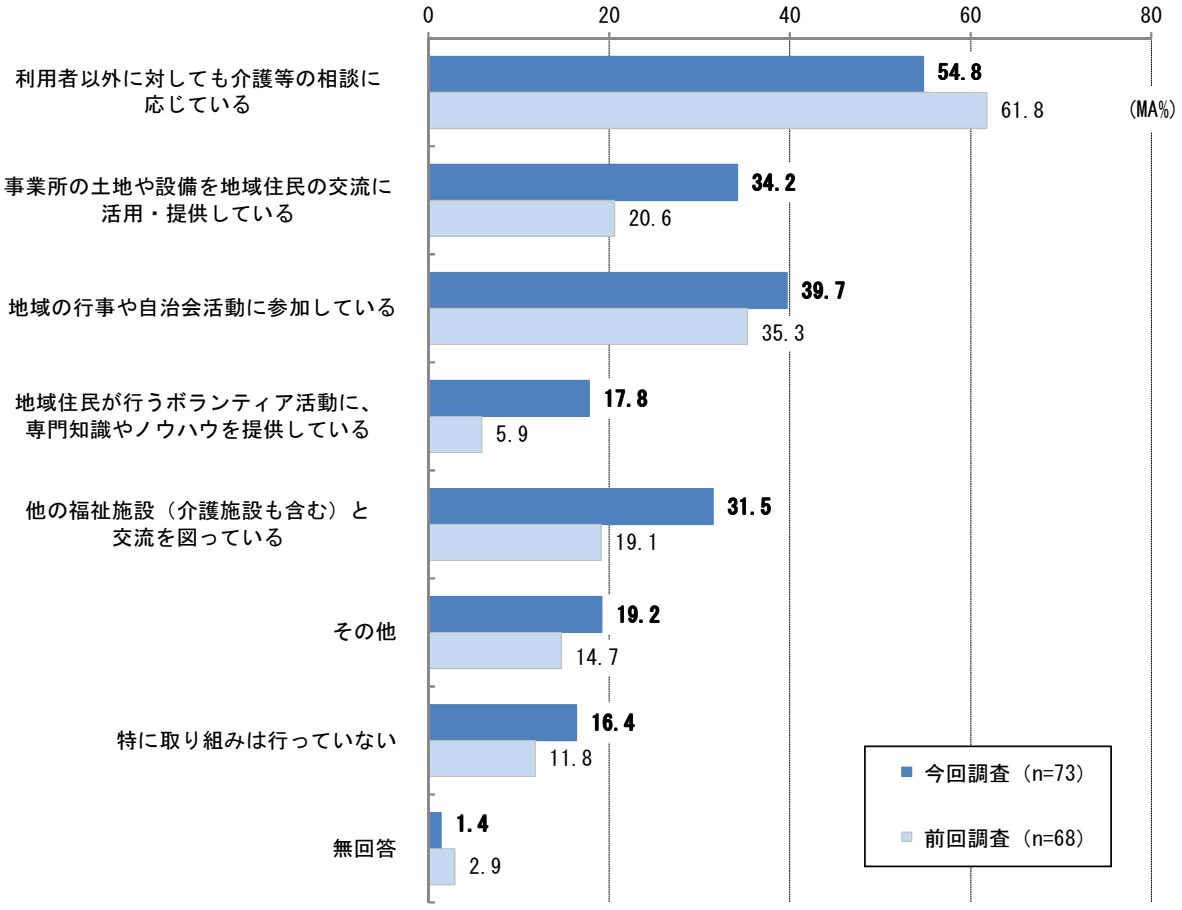
内　　容	件数
総合支援事業に関する研修	1 件
コミュニケーション技術など	1 件
全て受けて頂きたい	1 件

4　事業所の運営について

（1）地域との交流・連携のために行っている取組

問 31　貴事業所では、地域との交流・連携のために行っている取組はありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

地域との交流・連携のために行っている取組は、「利用者以外に対しても介護等の相談に応じている」が 54.8%と最も多く、次いで、「地域の行事や自治会活動に参加している」が 39.7%、「事業所の土地や設備を地域住民の交流に活用・提供している」が 34.2%、「他の福祉施設（介護施設も含む）と交流を図っている」が 31.5%となっている。前回調査と比べると、「事業所の土地や設備を地域住民の交流に活用・提供している」（前回 20.6%）が 13.6 ポイント、「他の福祉施設（介護施設も含む）と交流を図っている」（前回 19.1%）が 12.4 ポイント、「地域住民が行うボランティア活動に、専門知識やノウハウを提供している」（今回 17.8%、前回 5.9%）が 11.9 ポイント増えている。



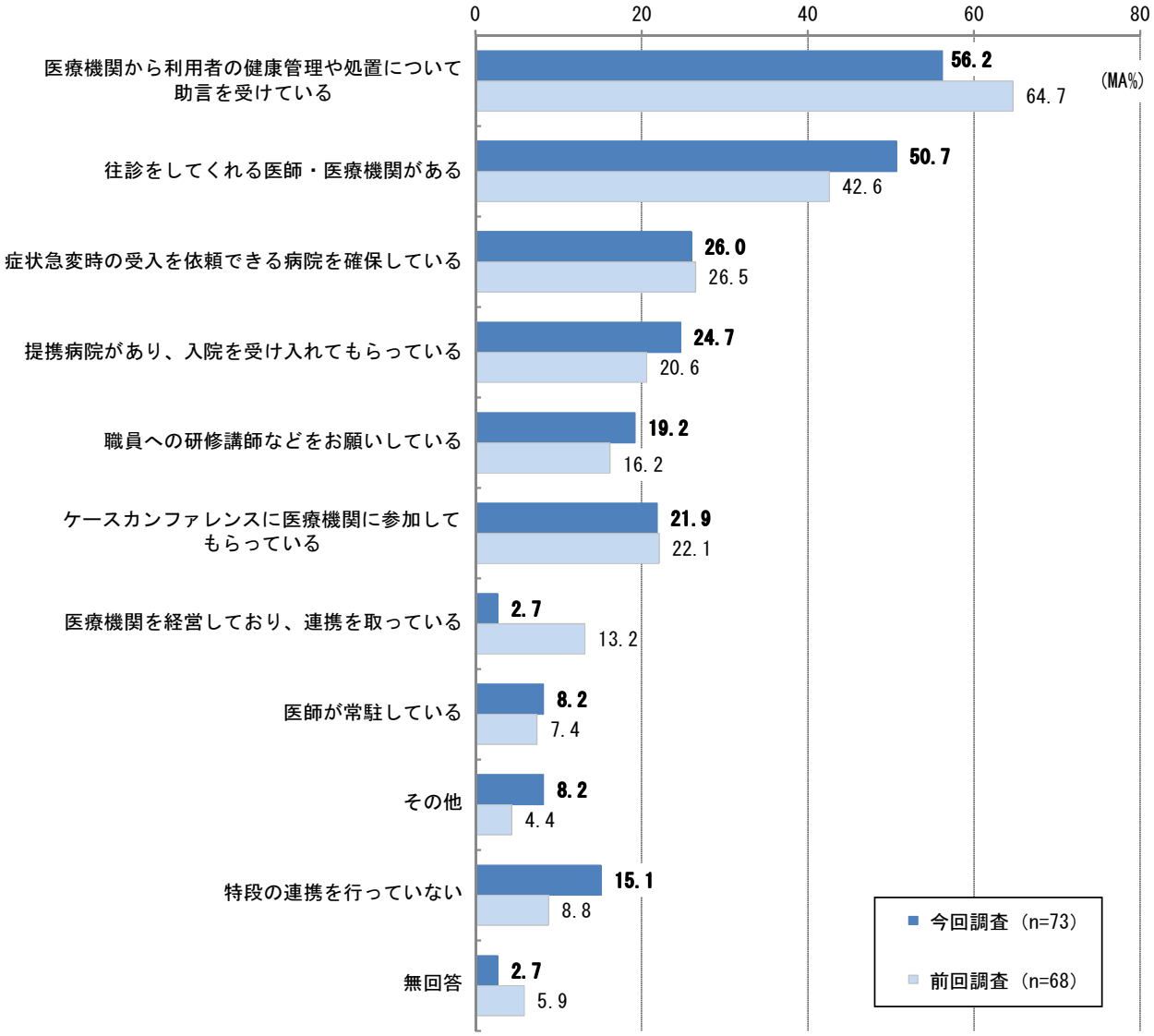
（その他内訳）

内　　容	件数
認知症カフェ	8件
サロンの送迎、サロンの体操教室の手伝い	2件
認知症キャラバンメイト活動	1件
近隣の学校への福祉授業（車イスの利用法など）	1件
近隣住民も参加できる施設の祭りの開催	1件
自治会との情報交換	1件

（２）医療機関との連携

問 32　貴事業所では、医療機関とはどのような連携をとっていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

医療機関との連携については、「医療機関から利用者の健康管理や処置について助言を受けている」が 56.2%と最も高く、次いで、「往診をしてくれる医師・医療機関がある」が 50.7%となっている。前回調査と比べると、「往診をしてくれる医師・医療機関がある」（前回 42.6%）が 8.1 ポイント増え、「医療機関から利用者の健康管理や処置について助言を受けている」（前回 64.7%）が 8.5 ポイント減っている。



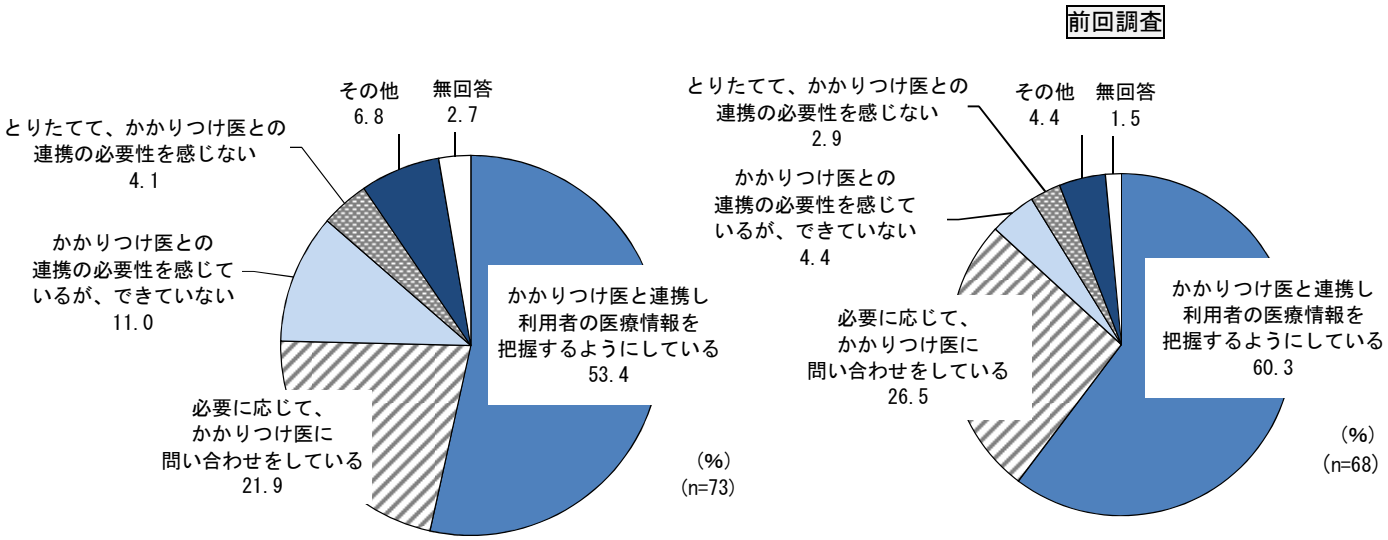
（その他内訳）

内　　容	件数
地域リハビリテーションを活用している	３件
ケアマネジャーを介して連絡をとっている	２件
他法人の訪問看護ステーションとの連携	１件

（３）かかりつけ医との連携

問 33　利用者のかかりつけ医との連携や情報交換を行っていますか。あてはまるもの１つに○をしてください。

利用者のかかりつけ医との連携や情報交換については、「かかりつけ医と連携し利用者の医療情報を把握するようにしている」が 53.4%と最も多く、次いで、「必要に応じて、かかりつけ医に問い合わせをしている」が 21.9%で、何らかの連携や情報交換をしている事業所は７割（75.3%）となっており、前回調査（86.8%）から 11.4 ポイント減っている。



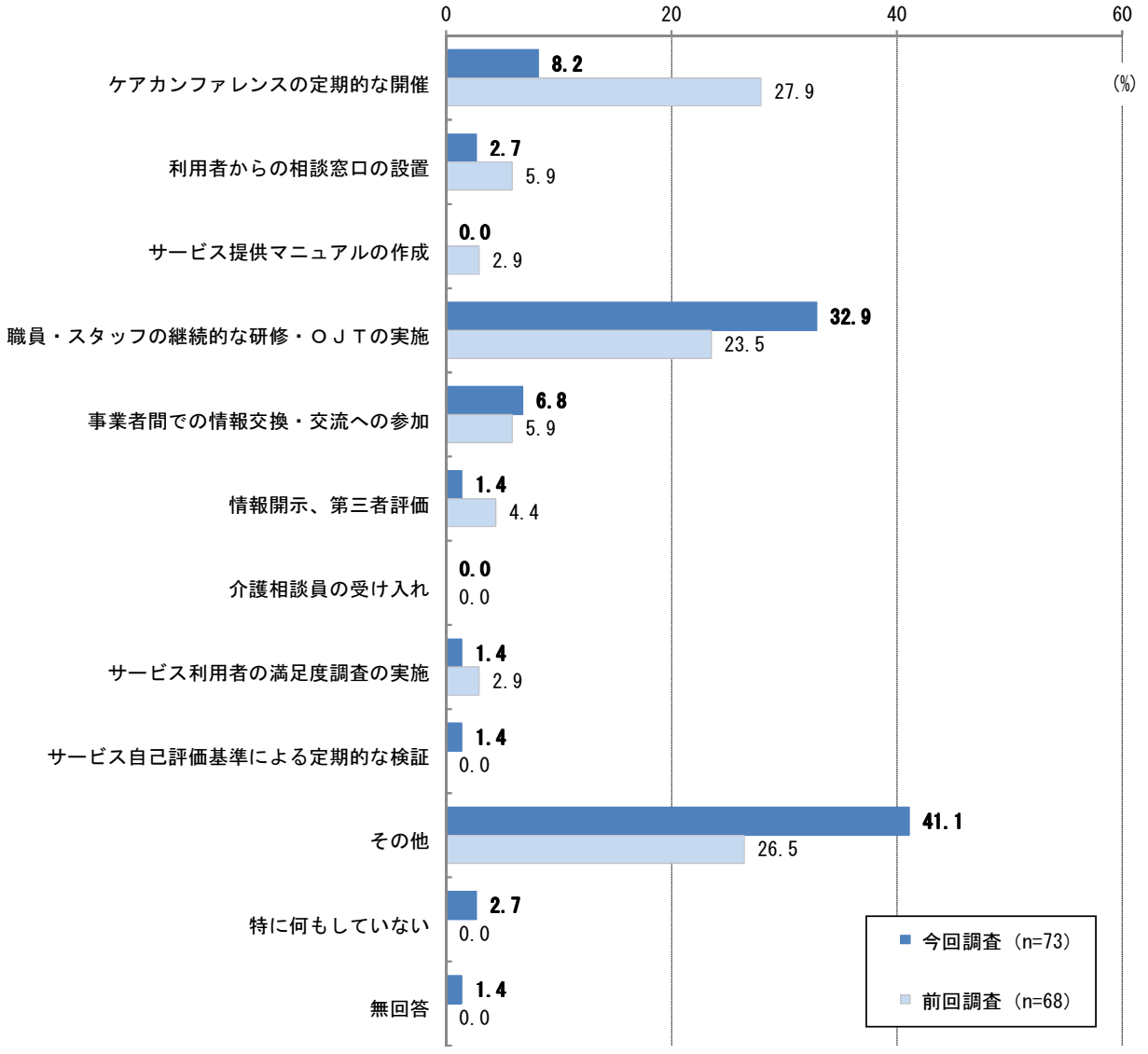
（その他内訳）

内　　容	件数
ケアマネジャーを通して連携	５件

（4）サービス向上のために力を入れている取組

問 34　貴事業所では、サービスの質の向上のために、どのような取組に最も力を入れていますか。あてはまるもの１つに○をつけてください。

サービスの質の向上のために最も力を入れている取組は、「職員・スタッフの継続的な研修・ＯＪＴの実施」が 32.9%と最も多く、前回調査（23.5%）から 9.4 ポイント増えている。一方、「ケアカンファレンスの定期的な開催」（今回 8.2%、前回 27.9%）は 19.7 ポイント減っている。



※「その他」には複数回答者を含む

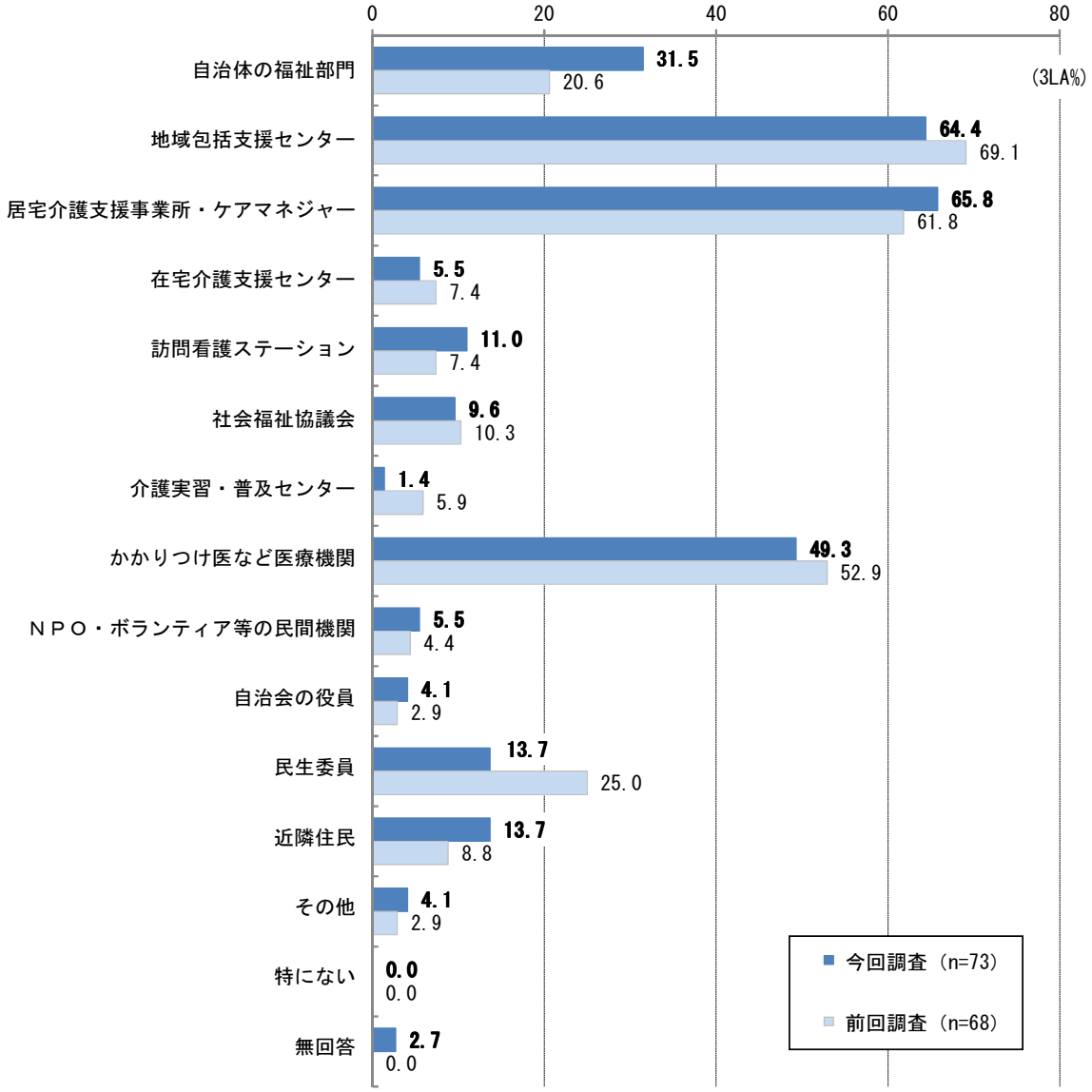
（その他内訳）

内　　容	件数
接遇	１件

（５）連携を強めたい機関・窓口

問 35　貴事業所が介護事業所の運営をする上で最も連携を強めたい機関・窓口はどこですか。主なもの３つまでに○をつけてください。

介護事業所の運営をする上で最も連携を強めたい機関・窓口は、「居宅介護支援事業所・ケアマネジャー」が 65.8%と最も多く、次いで、「地域包括支援センター」が 64.4%、「かかりつけ医など医療機関」が 49.3%、「自治体の福祉部門」が 31.5%となっている。前回調査と比べると、「自治体の福祉部門」（前回 20.6%）が 10.9 ポイント増え、「民生委員」（今回 13.7%、前回 25.0%）が 11.3 ポイント減っている。



（その他内訳）

内　　容	件数
併設医療機関	２件
地域の方々、家族の方々	１件

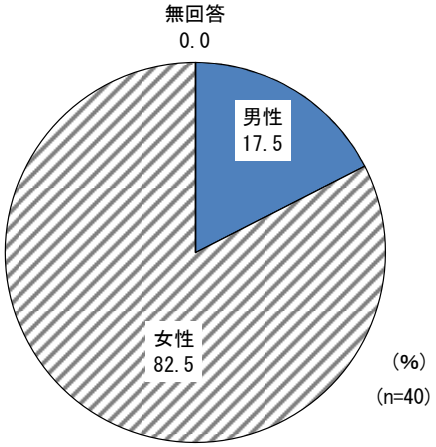
Ⅱ-５　介護支援専門員調査

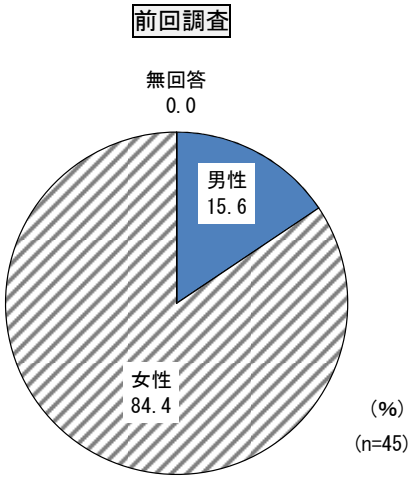
1　回答者属性

（1）性別

問１　あなたの性別について、あてはまるものに○印をつけてください。

回答者の性別は、「男性」が 17.5%、「女性」が 82.5%となっており、前回調査と比べると、男性（前回 15.6%）が 1.9 ポイント増えている。

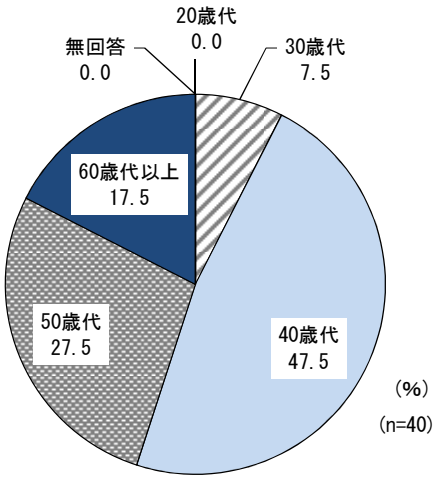


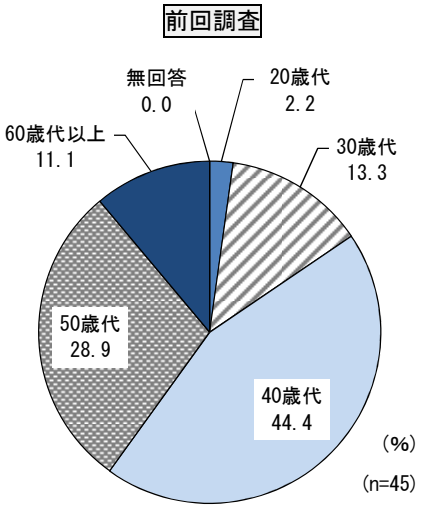


（2）年齢

問２　あなたの年齢について、あてはまるものに○印をつけてください。

回答者の年齢は、「40 歳代」が 47.5%と最も多く、次いで、「50 歳代」が 27.5%、「60 歳代以上」が 17.5%、「30 歳代」が 7.5%となっている。前回調査と比べると、60 歳代以上（前回 11.1%）が 6.4 ポイント増え、30 歳代（前回 13.3%）が 5.8 ポイント減っている。

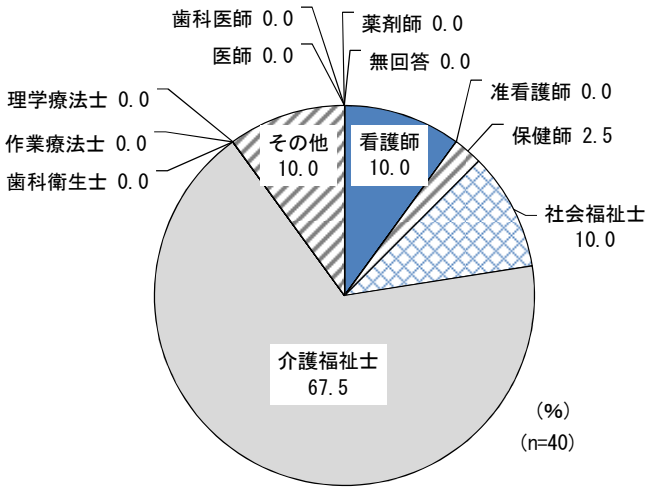


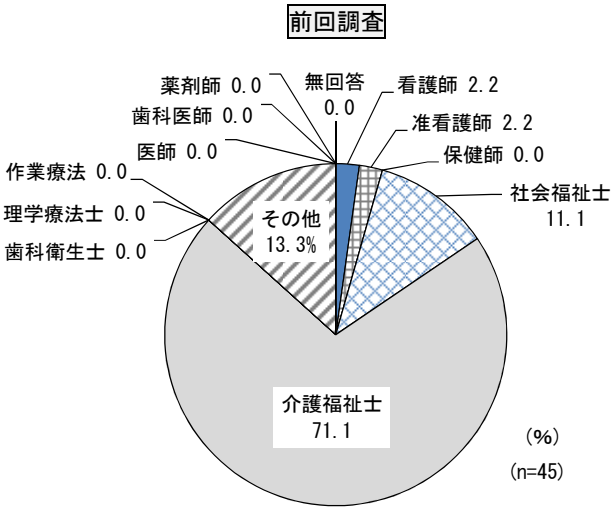


（3）職種（資格）

問3　あなたの職種（資格）について、主たるものに１つだけ○印をつけてください。

回答者の職種（資格）は、「介護福祉士」が 67.5%と最も多く、次いで、「看護師」、「社会福祉士」がそれぞれ 10.0%となっている。前回調査と比べると、「看護師」（前回 2.2%）が 7.8 ポイント増えている。

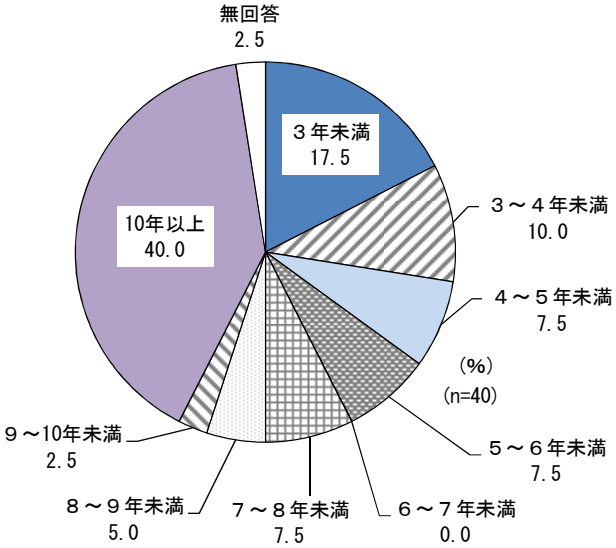


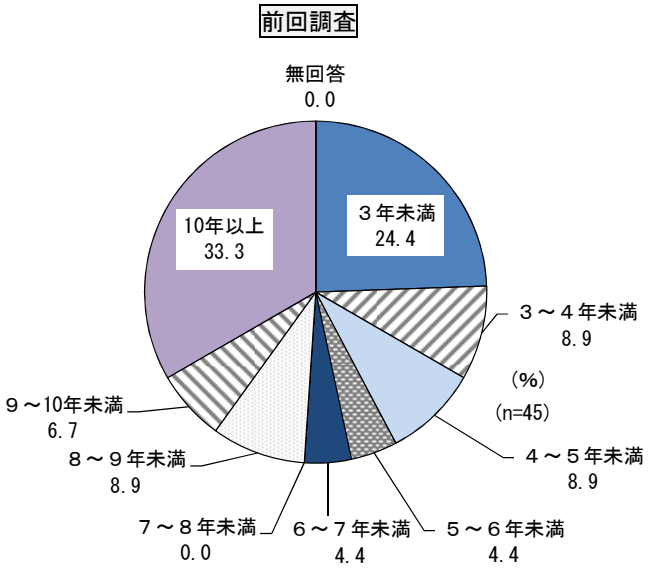


（4）介護支援専門員としての実務経験年数

問3－1　あなたの介護支援専門員としての実務経験年数を記入してください。

介護支援専門員としての実務経験年数は、「10 年以上」が 40.0%と最も多く、次いで、「３年未満」が 17.5%、「３～４年未満」が 10.0%となっている。前回調査と比べると、「10 年以上」（前回 33.3%）が 6.7 ポイント増え、「３年未満」（前回 24.4%）が 6.9 ポイント減っている。

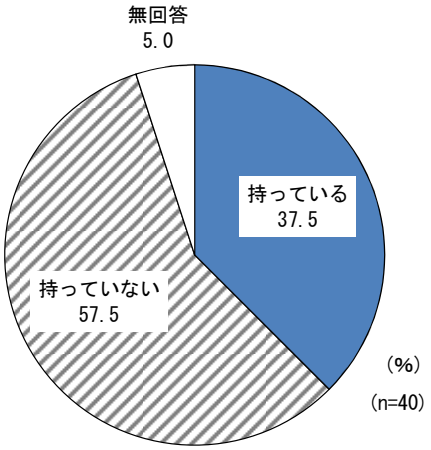


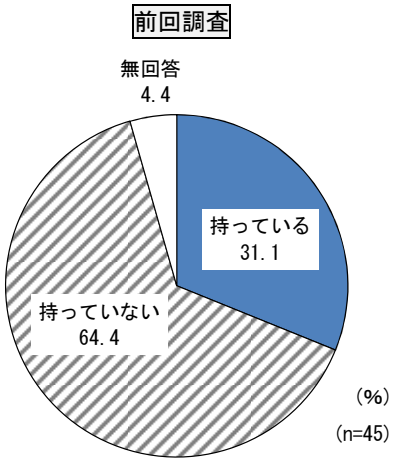


（5）主任介護支援専門員の資格の有無

問3-2　あなたは、主任介護支援専門員の資格を持っていますか。

主任介護支援専門員の資格を「持っている」は 37.5%、「持っていない」は 57.5%となっており、前回調査と比べると、「持っている」（前回 31.1%）が 6.4 ポイント増えている。



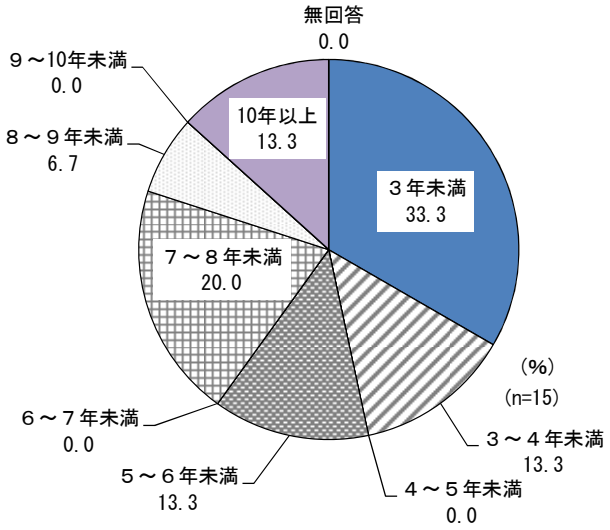


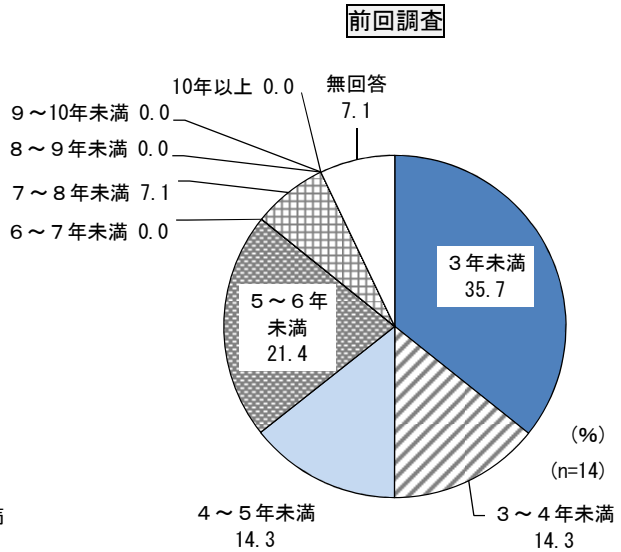
（6）主任介護支援専門員としての実務経験年数

【問3-2で「1．持っている」と回答した人のみ】

副問3-2-1　あなたの主任介護支援専門員としての実務経験年数を記入してください。

問3-2で「1．持っている」と回答した方に、主任介護支援専門員としての実務経験年数をたずねたところ、「3年未満」が 33.3%と最も多く、次いで、「7～8年未満」が 20.0%となっている。前回調査と比べると、「10 年以上」（今回 13.3%、前回 0.0%）が 13.3 ポイント、「7～8年未満」（前回 7.1%）が 12.9 ポイント増えている。



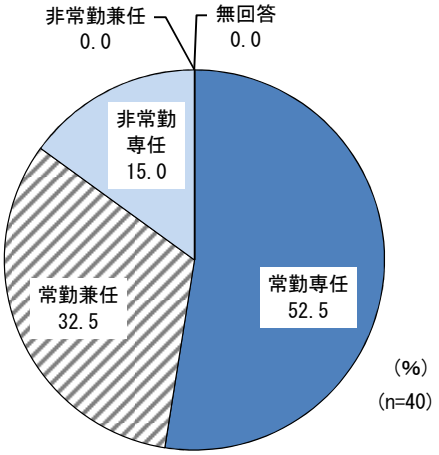


2　勤務状況

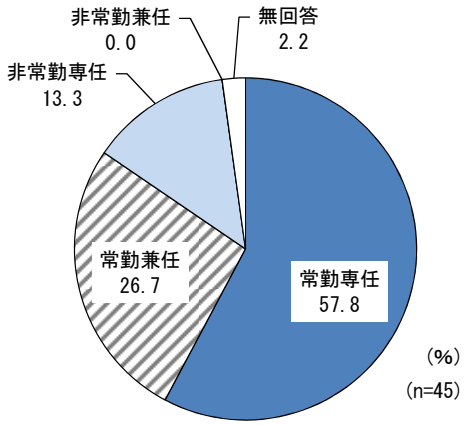
（1）勤務形態

問４　あなたの勤務形態について、あてはまるものに○印をつけてください。

勤務形態については、「常勤専任」が 52.5%、「常勤兼任」が 32.5%、「非常勤専任」が 15.0%となっており、前回調査と比べると、「常勤兼任」（前回 26.7%）が 5.8 ポイント増えている。



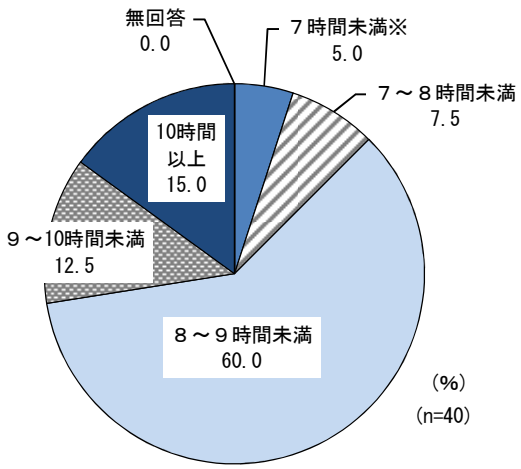
前回調査



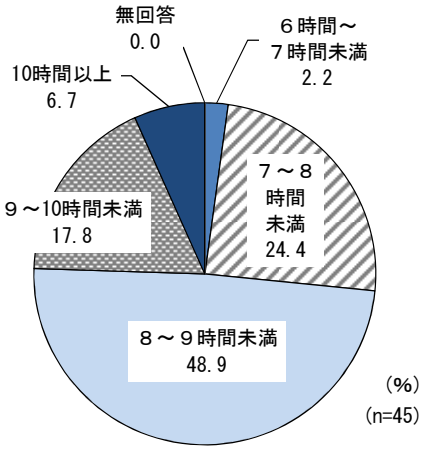
（2）平均勤務時間

問５　あなたの一日当たりの平均勤務時間数（介護支援専門員の業務を含めたすべての業務）を記入してください。

一日当たりの平均勤務時間数（介護支援専門員の業務を含めたすべての業務）は、「８～９時間未満」が 60.0%と最も多く、次いで、「10 時間以上」が 15.0%、「９～10 時間未満」が 12.5%となっている。前回調査と比べると、「８～９時間未満」（前回 48.9%）が 11.1 ポイント、「10 時間以上」（前回 6.7%）が 8.3 ポイント増えている。



前回調査

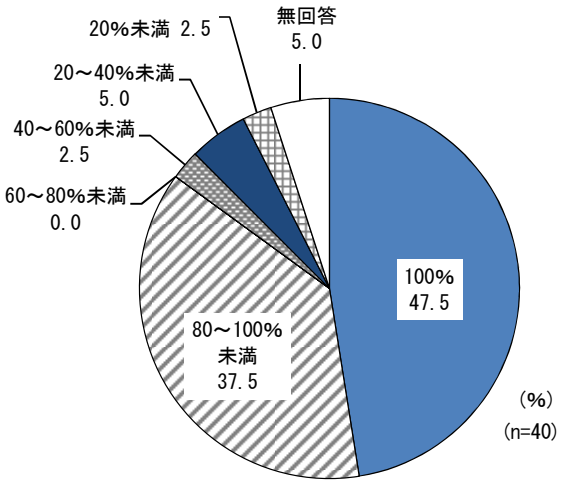


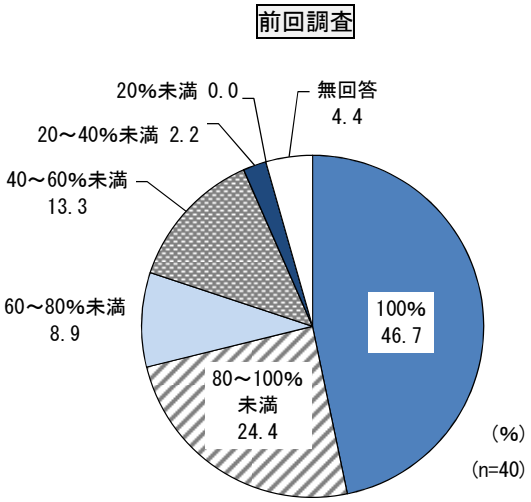
※前回調査は、「６時間～７時間未満」

（3）介護支援専門員としての業務の割合

問６　あなたの介護支援専門員としての業務の割合は全体のおよそ何%程度ですか。あてはまるものに○印をつけてください。

介護支援専門員としての業務の割合は、「100%」が 47.5%、「80～100%未満」が 37.5%となっており、前回調査と比べると、「80～100%未満」（前回 24.4%）が 13.1 ポイント増えている。

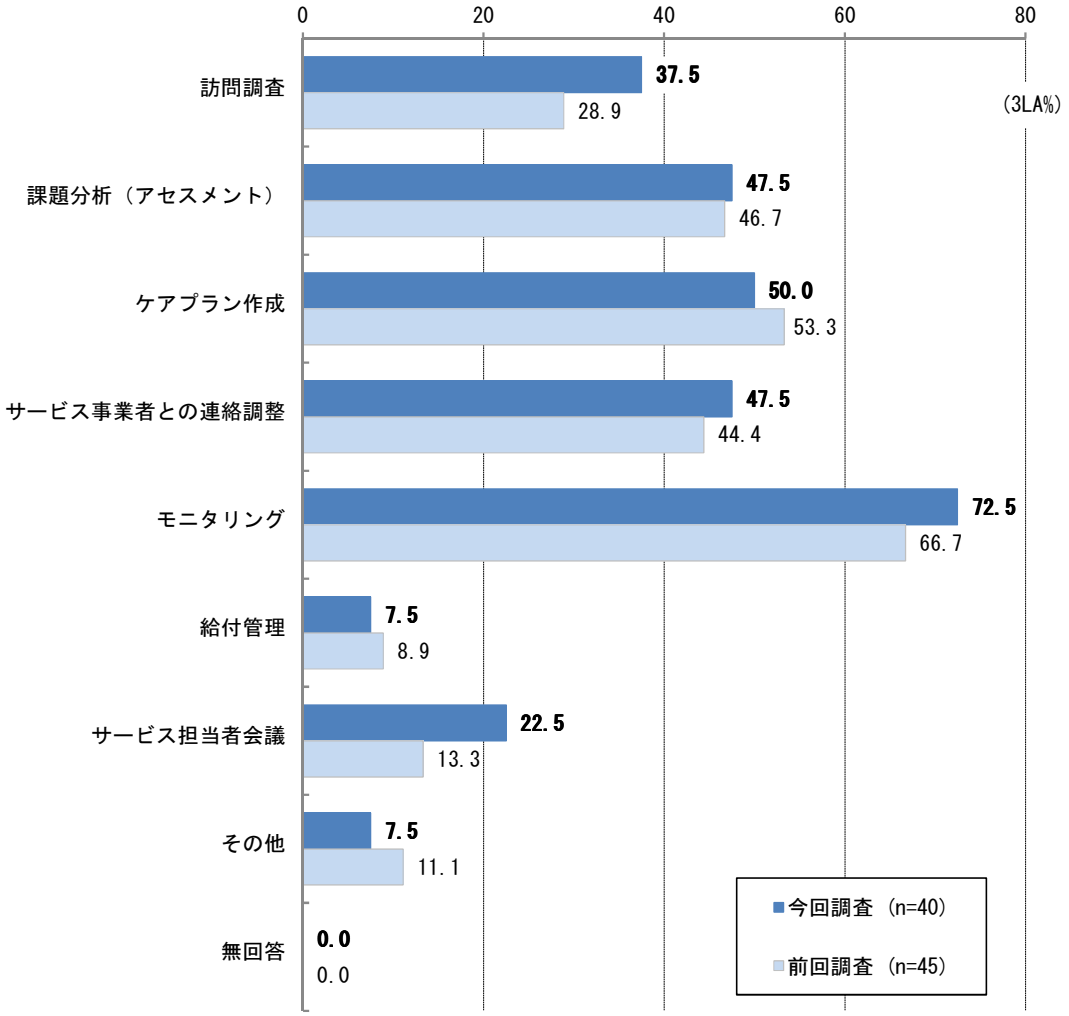




（４）特に時間を費やす業務

問７　あなたは、介護支援専門員としての業務の中で特に時間を費やす業務はどれですか。あてはまるものを３つまで選び○印をつけてください。

介護支援専門員としての業務の中で特に時間を費やす業務は、「モニタリング」が 72.5%と最も多く、次いで、「ケアプラン作成」が 50.0%、「課題分析（アセスメント）」、「サービス事業者との連絡調整」がそれぞれ 47.5%となっている。前回調査と比べると、「サービス担当者会議」（今回 22.5%、前回 13.3%）が 9.2 ポイント、「訪問調査」（今回 37.5%、前回 28.9%）が 8.6 ポイント増えている。



（その他内訳）

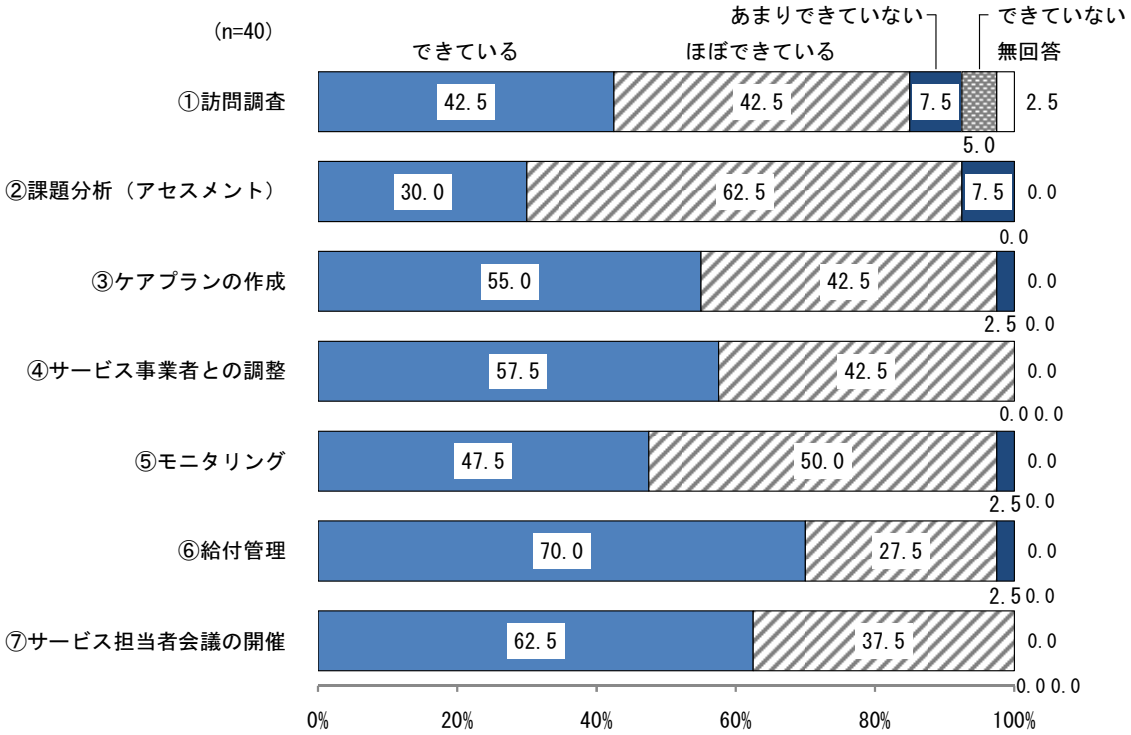
内　　容	件数
記録等の事務作業	３件

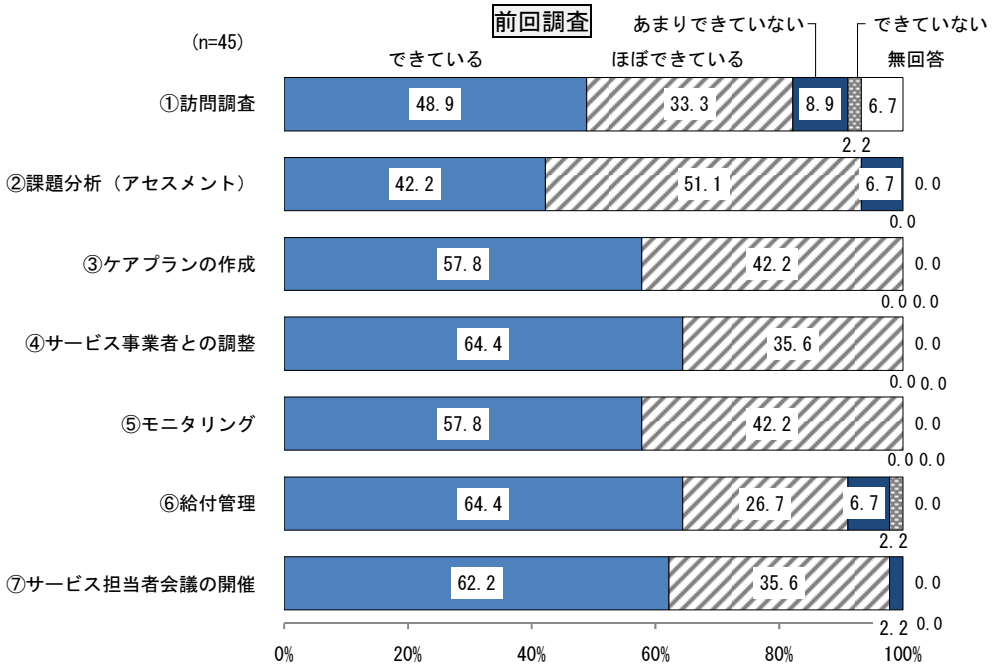
3　介護支援専門員としての業務

（1）介護支援専門員としての業務の実施状況

問８　介護支援専門員としての業務の実施状況についておたずねします。下記の各項目について４つの選択肢の中から該当する番号を選び、□の中に記入してください。

介護支援専門員としての業務の実施状況については、どの項目も「できている」と「ほぼできている」を合わせた『できている』が８割以上となっており、とくに、「サービス事業者との調整」、「サービス担当者会議の開催」では『できている』が 100%となっている。一方、「訪問調査」、「課題分析（アセスメント）」では、「あまりできていない」と「できていない」を合わせた『できていない』が１割前後みられる。前回調査と比べると、「給付管理」で『できている』が 6.4 ポイント増えている。

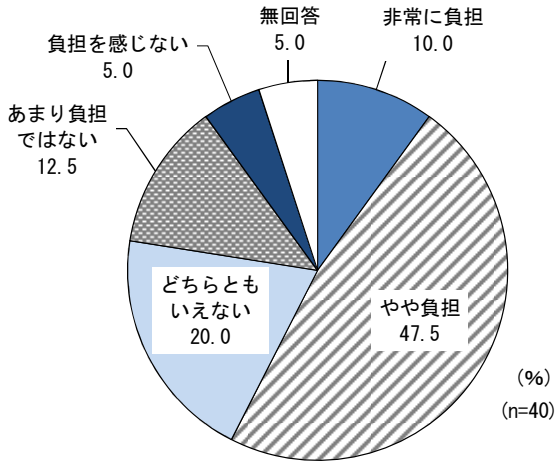


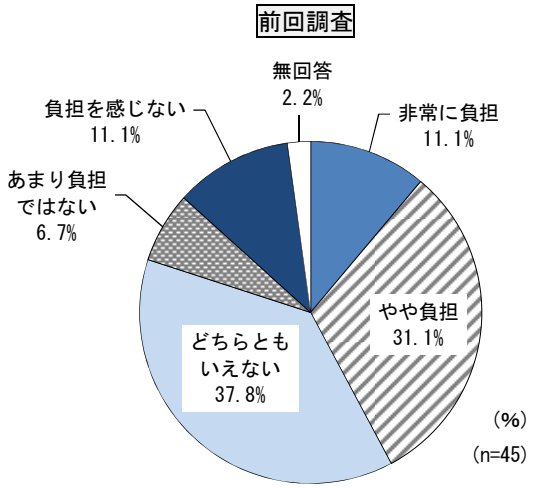


（２）業務の負担感

問９　現在担当している介護支援専門員としての業務の負担感はどの程度ですか。あてはまるものに○印をつけてください。

介護支援専門員としての業務の負担感については、「やや負担」が 47.5%と最も多く、「非常に負担」（10.0%）と合わせて約６割（57.5%）の人が『負担』と回答しており、前回調査（42.2%）から 15.3 ポイント増えている。



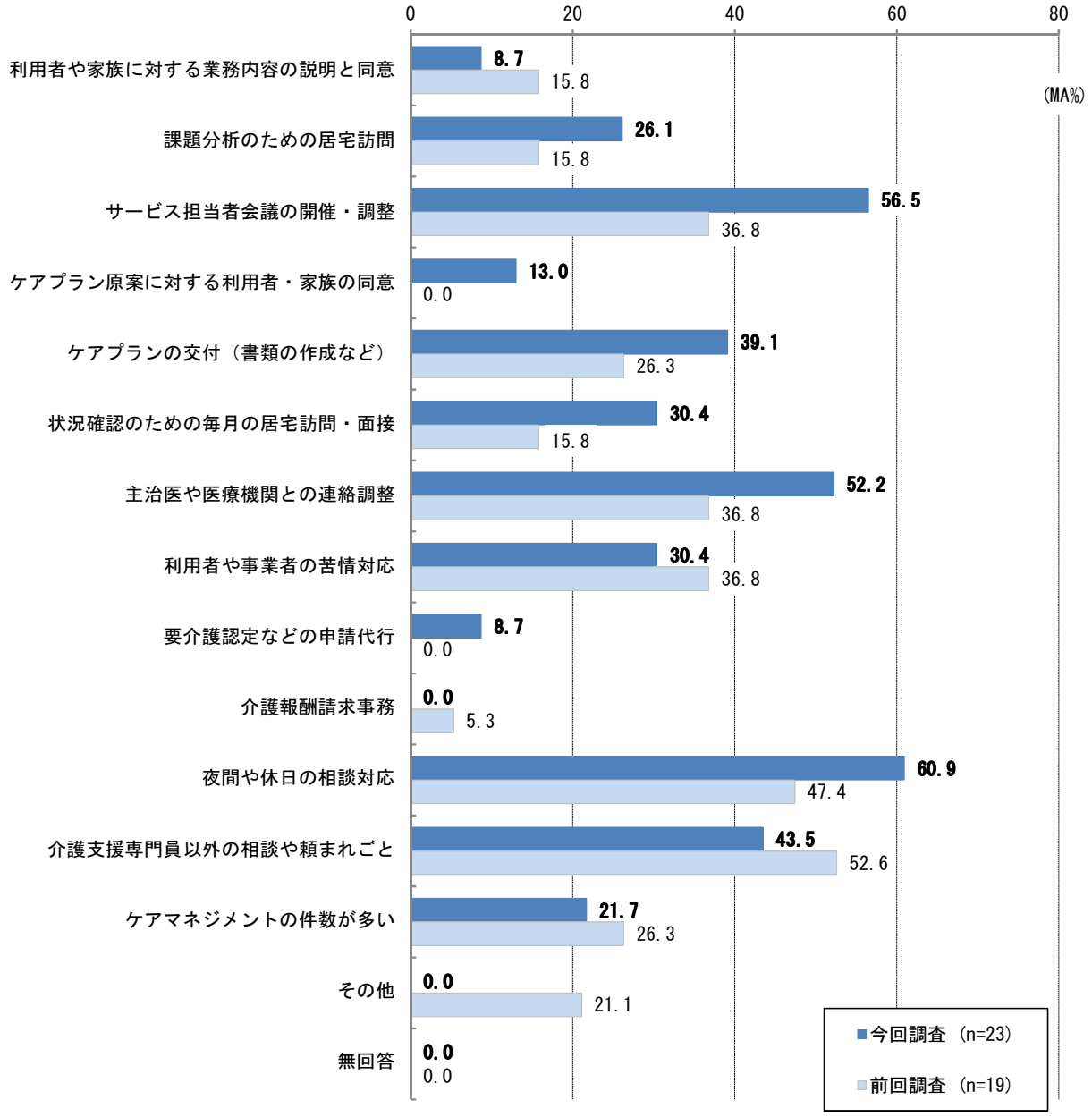


（3）負担に感じていることの内容

【問９で、「１．非常に負担」または「２．やや負担」と回答した人のみ】

問９－１　介護支援専門員の業務の中で、どのようなことに負担を感じていますか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

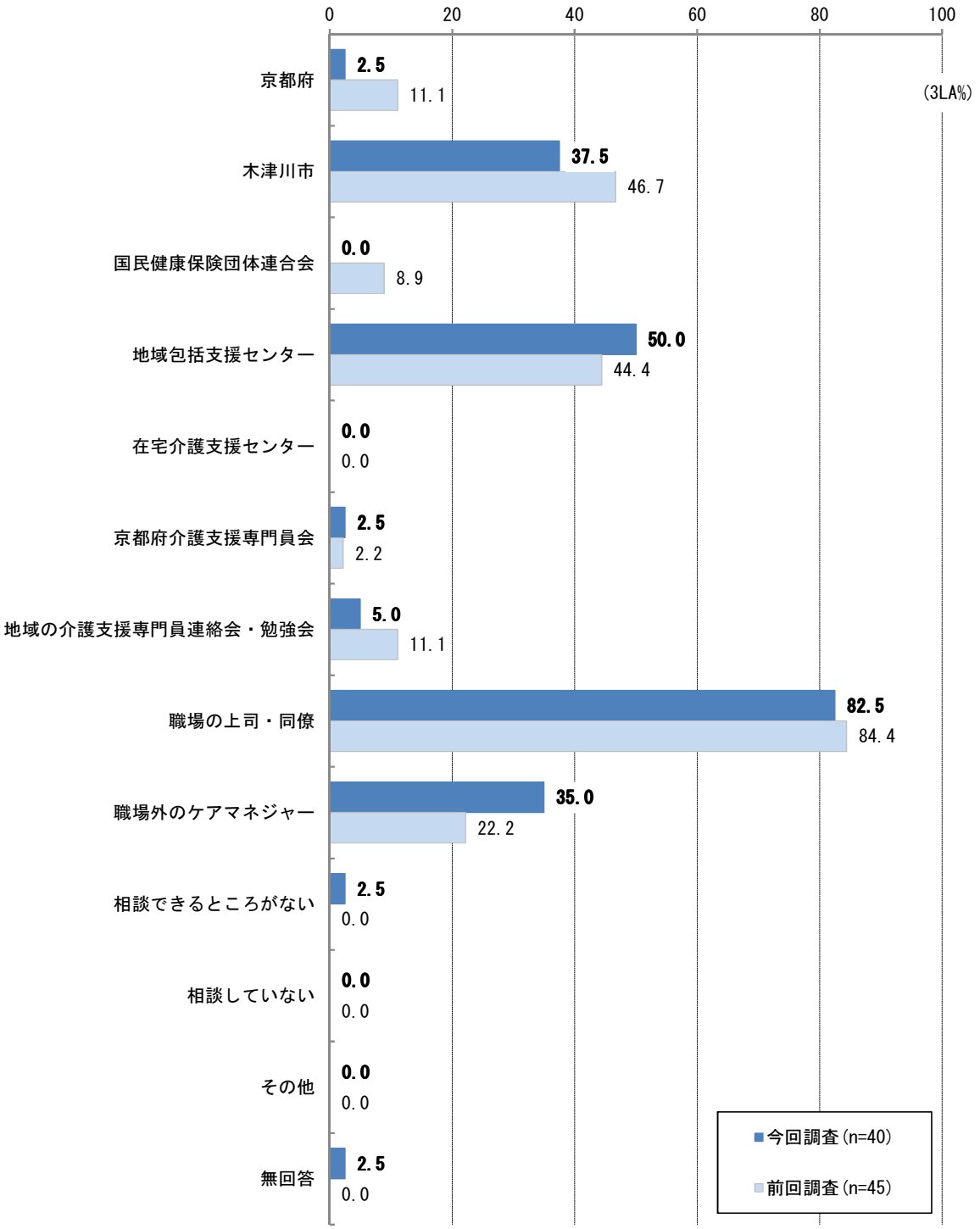
問９で「非常に負担」または「やや負担」と回答した方に、介護支援専門員の業務の中で負担を感じていることをたずねたところ、「夜間や休日の相談対応」が 60.9%と最も多く、次いで、「サービス担当者会議の開催・調整」が 56.5%、「主治医や医療機関との連絡調整」が 52.2%、「介護支援専門員以外の相談や頼まれごと」が 43.5%となっている。前回調査と比べると、「サービス担当者会議の開催・調整」（前回 36.8%）が 19.7 ポイント、「主治医や医療機関との連絡調整」（前回 36.8%）が 15.4 ポイント、「状況確認のための毎月の居宅訪問・面接」（今回 30.4%、前回 15.8%）が 14.6 ポイント増えている。



（4）困った時の相談先

問 10　現在、あなたが事務を進めるうえで困った時、主にどこに（だれに）相談していますか。該当するものを３つまで選び○印をつけてください。

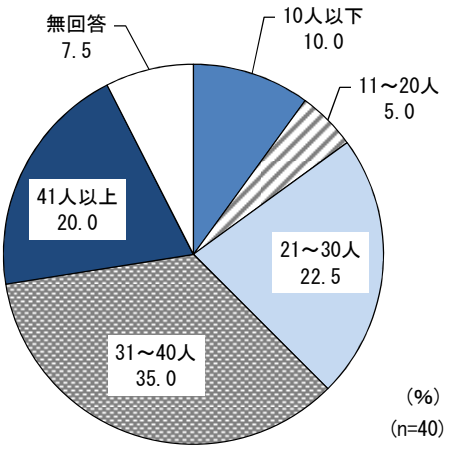
事務を進めるうえで困った時の相談先は、「職場の上司・同僚」が 82.5%と最も多く、次いで、「地域包括支援センター」が 50.0%、「木津川市」が 37.5%、「職場外のケアマネジャー」が 35.0%となっている。前回調査と比べると、「職場外のケアマネジャー」（前回 22.2%）が 12.8 ポイント増えている。



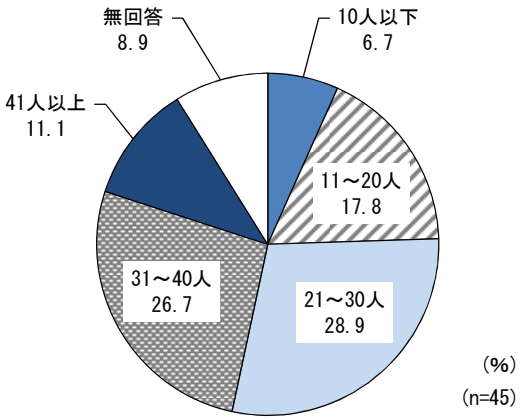
（５）現在の担当人数

問 11　あなたが現在（令和２年１月現在）担当している利用者数についておうかがいします。何人を担当されていますか。

現在（令和２年１月現在）の担当利用者数は、「31～40 人」が 35.0%と最も多く、「21～30 人」が 22.5%、「41 人以上」が 20.0%となっている。平均担当人数は 32.0 人で、前回調査（28.2 人）より増えている。

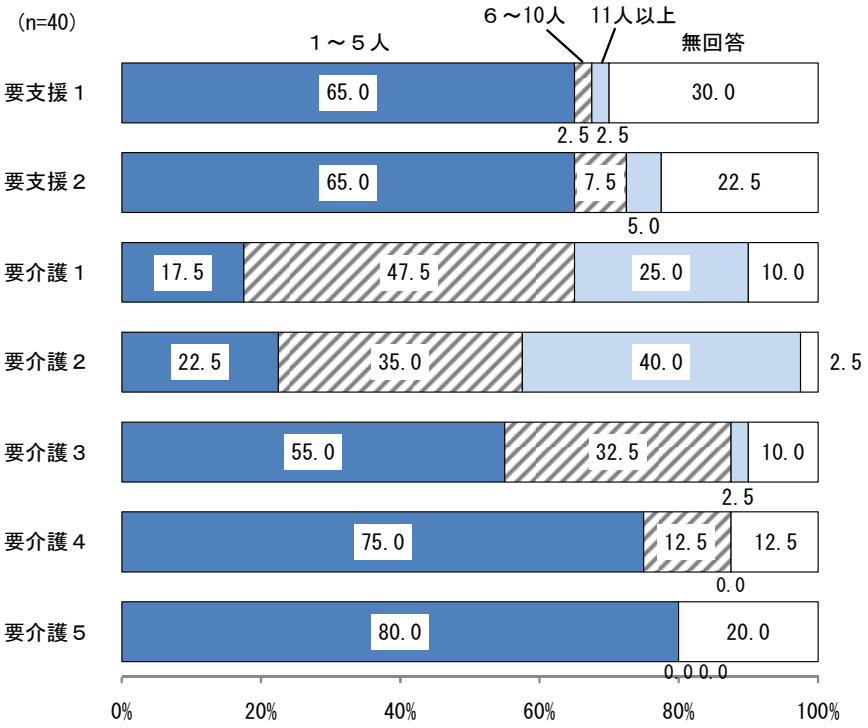


前回調査

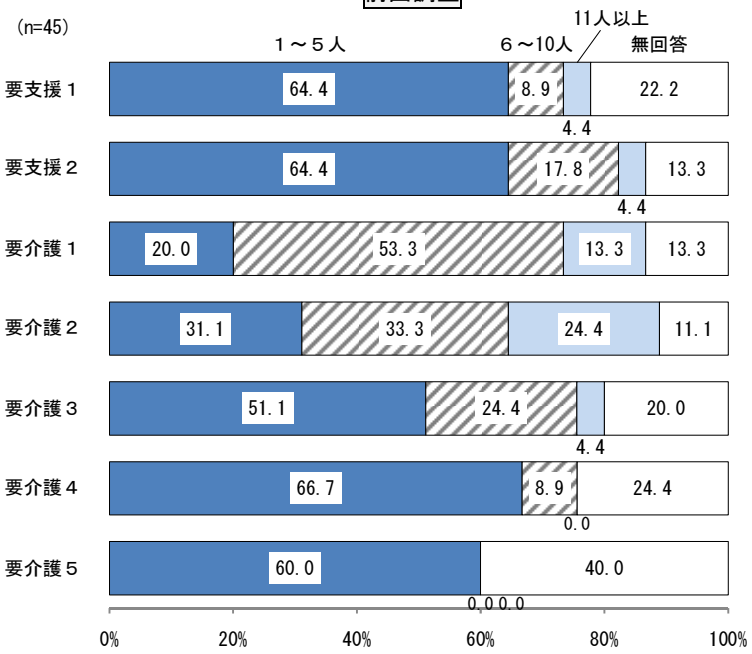


※上記の「担当利用者数」について、要介護度の人数の内訳を記入してください。

担当利用者数の要介護度別の内訳については、要支援１・２、要介護３・４・５では「１～５人」が最も多く、要支援１・２で 65.0%、要介護３で 55.0%、要介護４で 75.0%、要介護５で 80.0%となっている。要介護１では「６～10 人」が 47.5%、「11 人以上」が 25.0%、「１～５人」が 17.5%、要介護２は「11 人以上」が 40.0%、「６～10 人」が 35.0%、「１～５人」が 22.5%となっている。前回調査と比べると、同じような傾向となっている。



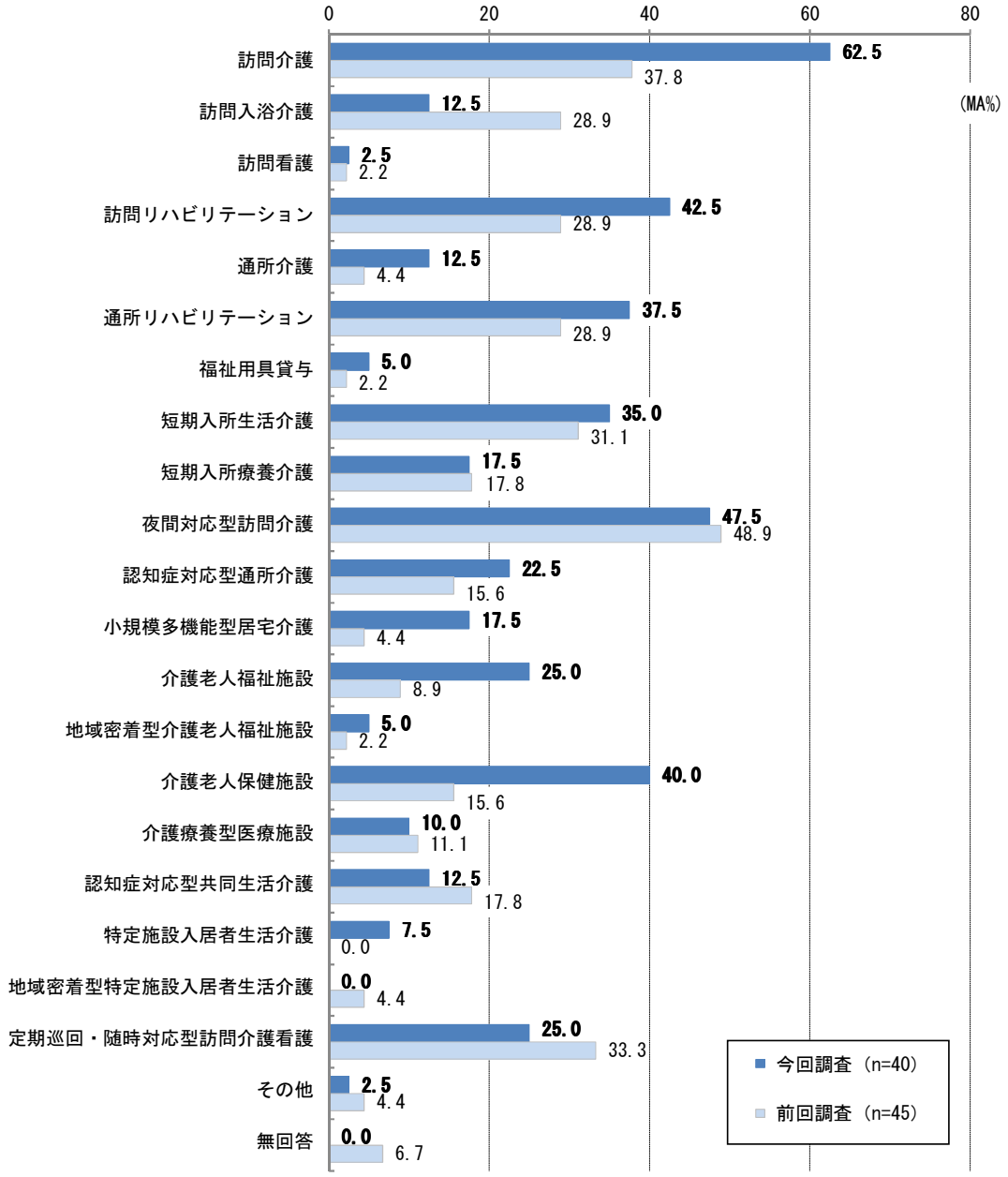
前回調査



（6）量的に不足していると思われるサービス

問 12　あなたは、介護サービス計画（ケアプラン）を作成するにあたり、市内の事業所数もしくは定員など、量的に不足していると思われるサービスはありますか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

介護サービス計画（ケアプラン）を作成するにあたり、量的に不足していると思われるサービスは、「訪問介護」が 62.5%と最も多く、次いで、「夜間対応型訪問介護」が 47.5%、「訪問リハビリテーション」が 42.5%、「介護老人保健施設」が 40.0%となっている。前回調査と比べると、「訪問介護」（前回 37.8%）が 24.7 ポイント、「介護老人保健施設」（15.6%）が 24.4 ポイントと大きく増えている。



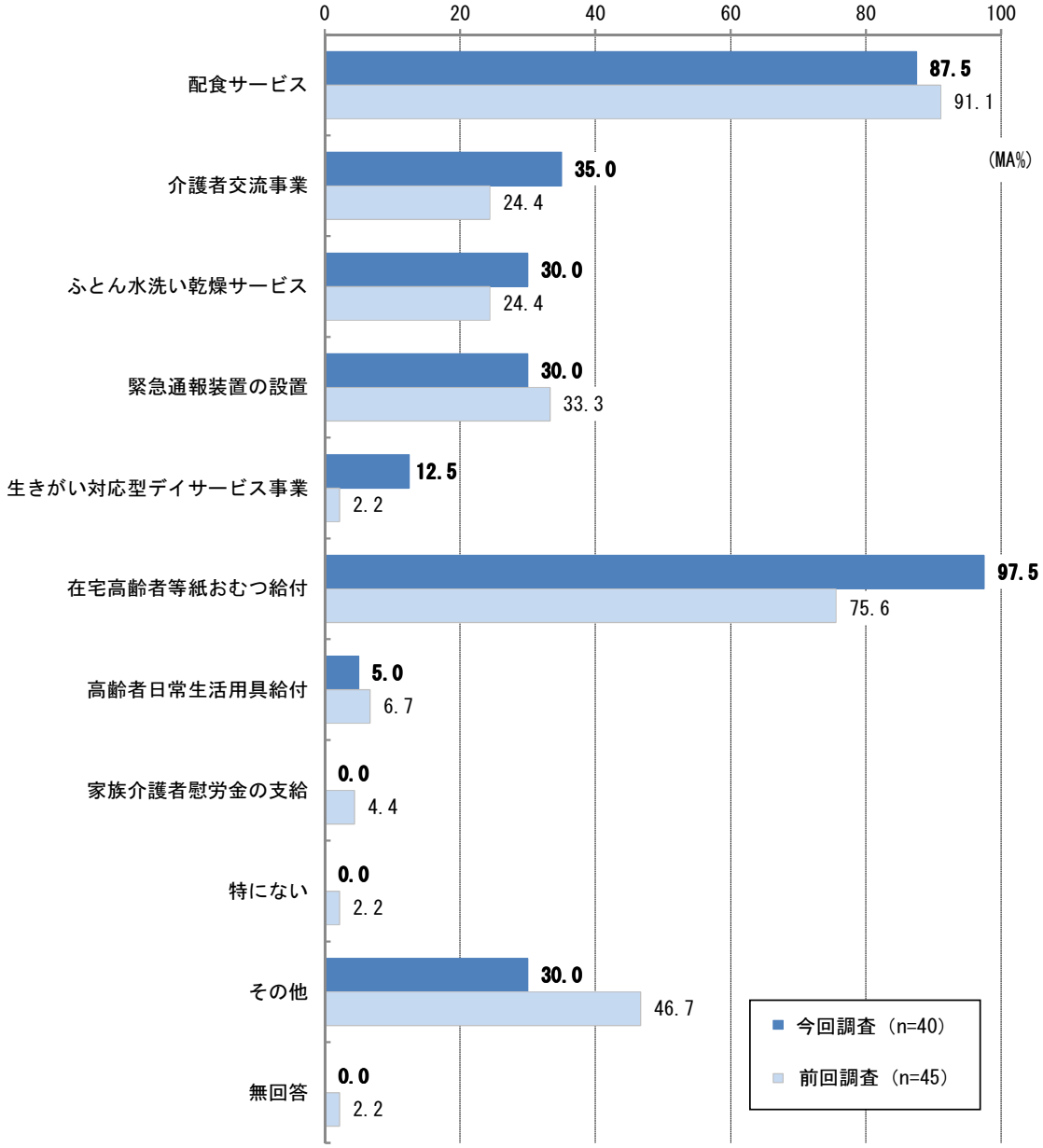
（その他内訳）

内　　容	件数
短時間リハ特化型デイ等	1 件

（7）介護保険以外で活用するサービス

問 13　介護保険のサービス以外の主な高齢者福祉サービスでよく活用したり、利用者に紹介したりしているサービスは何がありますか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

介護保険のサービス以外の主な高齢者福祉サービスでよく活用したり、利用者に紹介したりしているサービスは、「在宅高齢者等紙おむつ給付」が 97.5%と最も高く、次いで、「配食サービス」が 87.5%となっている。前回調査と比べると、「在宅高齢者等紙おむつ給付」（前回 75.6%）が 21.9 ポイントと大きく増えている。



（その他内訳）

内　　容	件数
住民参加型助け合いサービス	5件
介護タクシー、福祉車両	4件
ふれあい収集	1件
地域のサロン	1件

（8）今後充実が必要だと思う介護保険外のサービス（自由記述）

問 14　今後充実が必要だと思う介護保険外のサービスについて、ご自由にご記入ください。

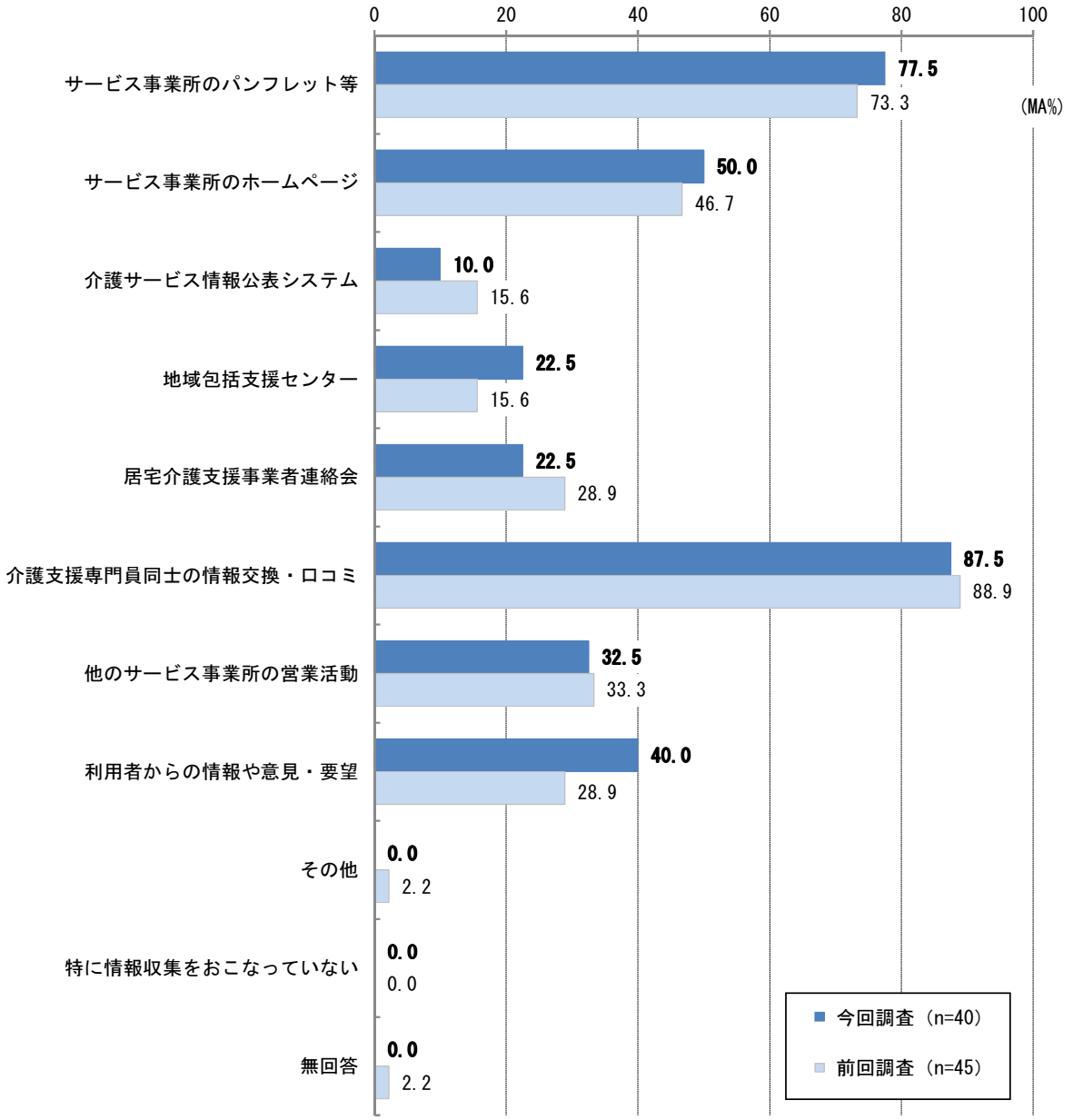
以下、のべ２４件のご意見をいただきました。

意　見　内　容	件数
移送・送迎・同行サービス ・通院付き添い、受診同行、透析の送迎 ・一緒に買い物へ行ってくれるサービス　など	１２件
生活支援サービス ・家事支援、買物支援 ・ヘルパーでは行えない生活支援サービス（必要時に利用できるもの）	３件
集いの場	１件
働く場（ボランティア含む）	１件
話し相手	１件
犬の散歩等	１件
訪問理美容	１件
訪問介護、通所介護でのリハビリの充実	１件
保険外実員ヘルパー	１件
要支援の方や認知症の方が安心して利用できるサービス	１件
成年後見制度の普及	１件

（9）サービス事業所に関する情報源

問 15　サービス事業所に関する情報はどこから得ていますか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

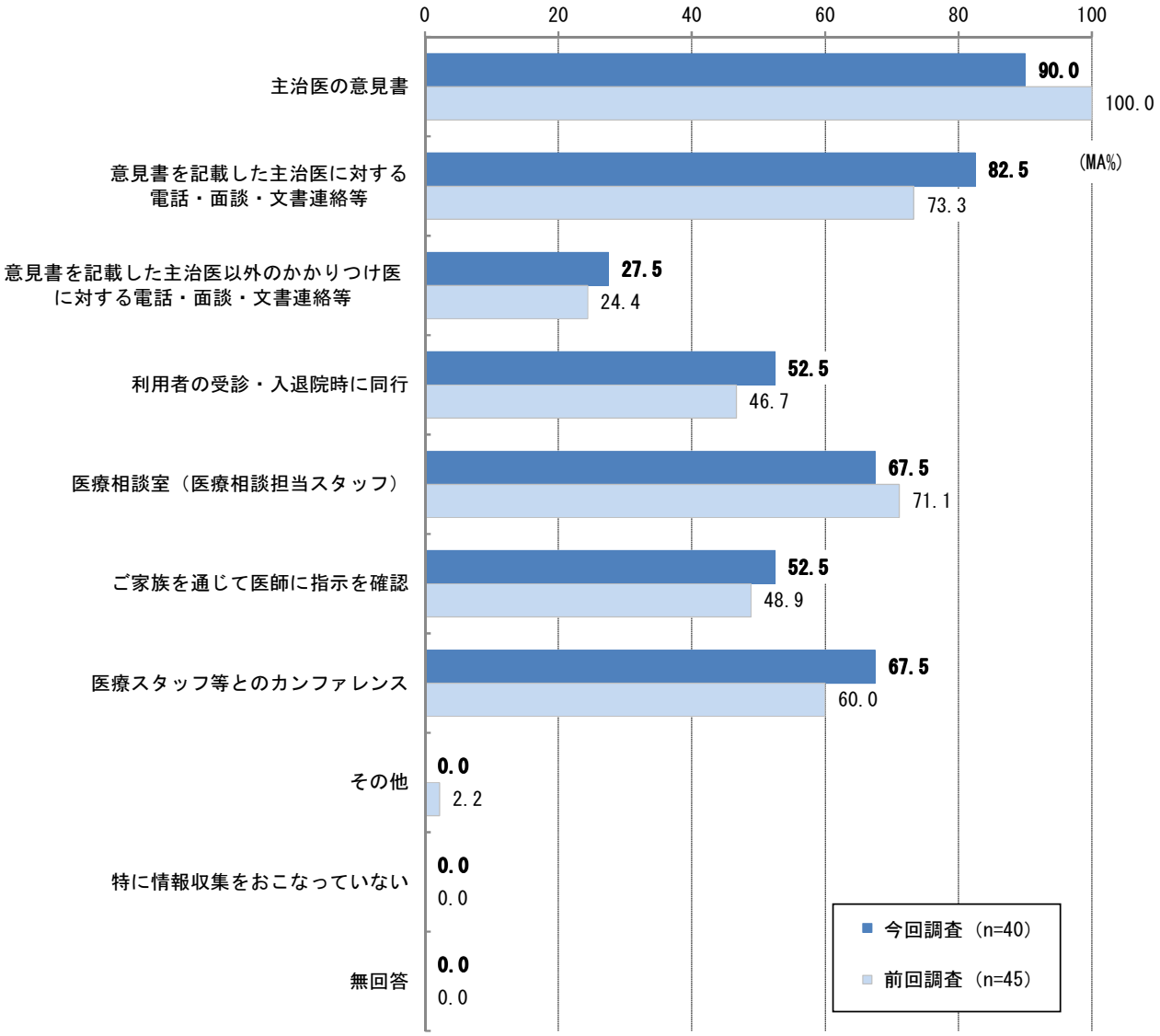
サービス事業所に関する情報をどこから得ているかについては、「介護支援専門員同士の情報交換・口コミ」が 87.5%と最も多く、次いで、「サービス事業所のパンフレット等」が 77.5%、「サービス事業所のホームページ」が 50.0%となっている。前回調査と比べると、「利用者からの情報や意見・要望」（今回 40.0%、前回 28.9%）が 11.1 ポイント、「地域包括支援センター」（今回 22.5%、前回 15.6%）が 6.9 ポイント増えている。



(10) 医療に関する情報収集方法

問 16　ケアプランの作成にあたって、医療に関する情報収集をどのようにおこなっていますか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

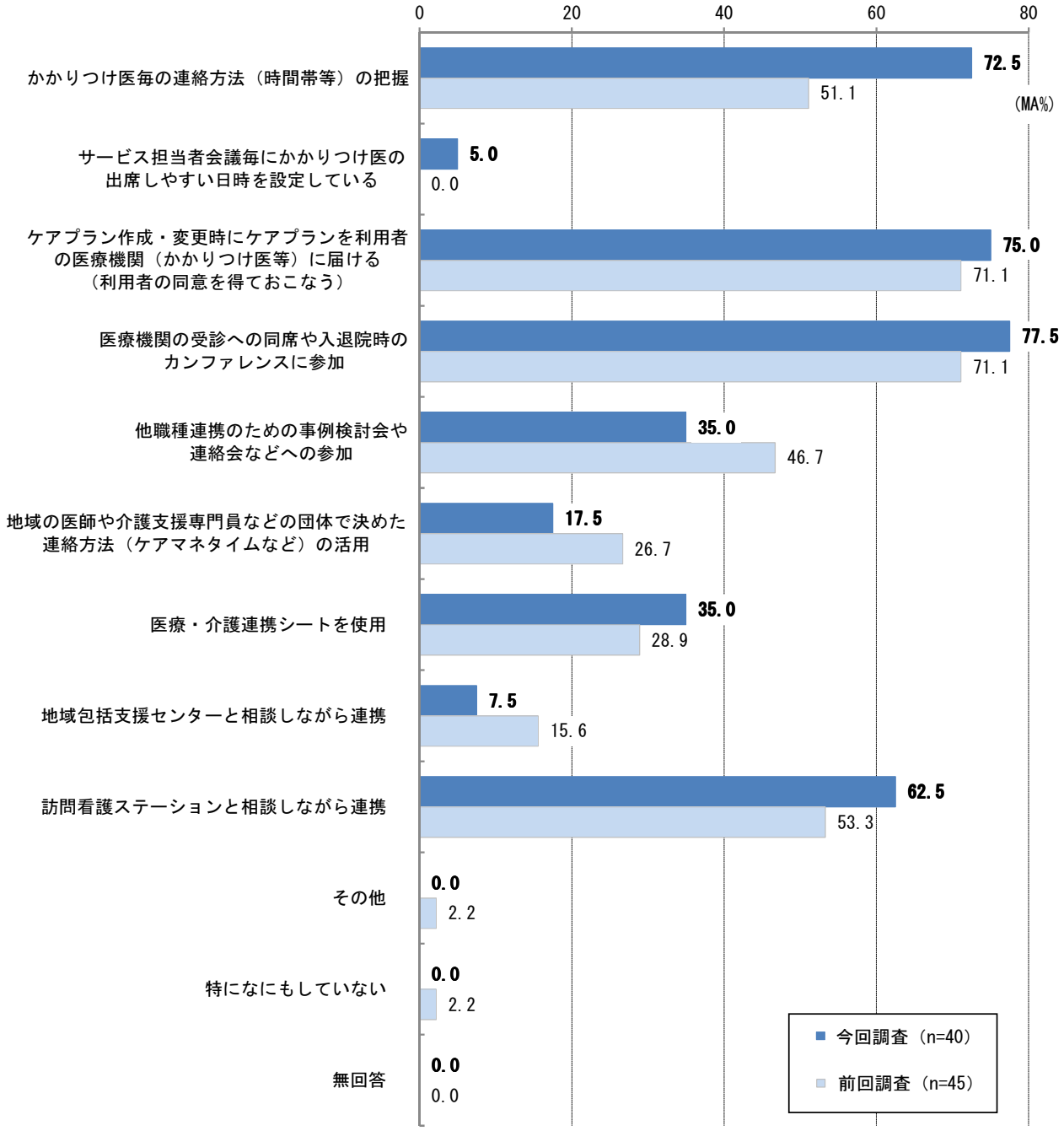
ケアプランの作成にあたって、医療に関する情報収集をどのようにおこなっているかについては、「主治医の意見書」が 90.0%と最も多く、次いで、「意見書を記載した主治医に対する電話・面談・文書連絡等」が 82.5%、「医療相談室（医療相談担当スタッフ）」、「医療スタッフ等とのカンファレンス」がそれぞれ 67.5%となっている。前回調査と比べて、「意見書を記載した主治医に対する電話・面談・文書連絡等」（前回 73.3%）が 9.2 ポイント、「医療スタッフ等とのカンファレンス」（前回 60.0%）が 7.5 ポイント増えている。



（11）医療機関（かかりつけ医等）と連携する工夫

問 17　医療機関（かかりつけ医等）と連携するうえでどのような工夫をおこなっていますか。
あてはまるものすべてに○印をつけてください。

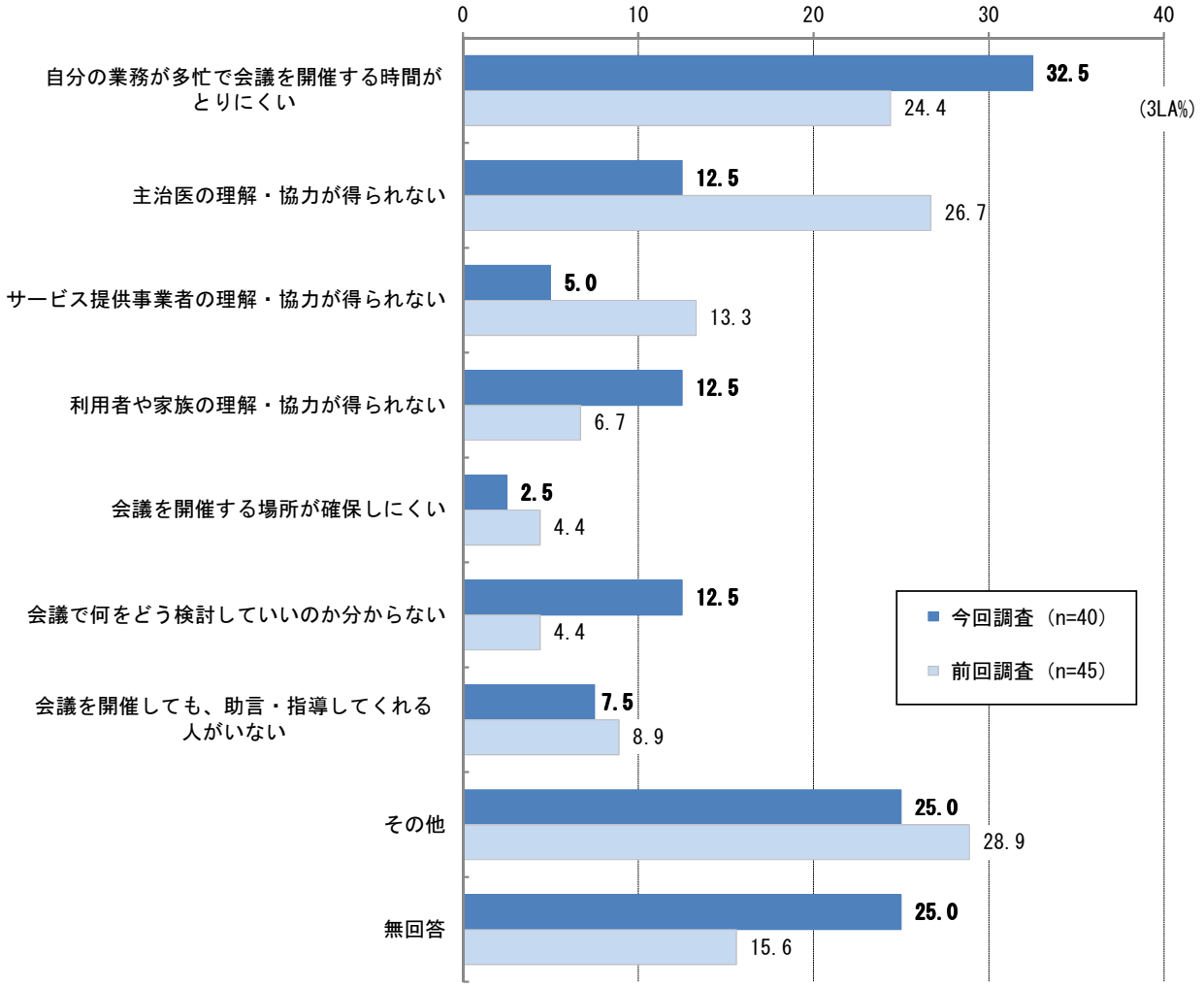
医療機関（かかりつけ医等）と連携するうえでどのような工夫をおこなっているかについては、「医療機関の受診への同席や入退院時のカンファレンスに参加」が 77.5%と最も多く、次いで、「ケアプラン作成・変更時にケアプランを利用者の医療機関（かかりつけ医等）に届ける（利用者の同意を得ておこなう）」が 75.0%、「かかりつけ医毎の連絡方法（時間帯等）の把握」が 72.5%となっている。前回調査と比べると、「かかりつけ医毎の連絡方法（時間帯等）の把握」（前回 51.1%）が 21.4 ポイント増えている。



(12) サービス担当者会議を開催するにあたって困っていること

問 18　サービス担当者会議を開催するにあたって困っていることは何ですか。該当するものを３つまで選び○印をつけてください。

サービス担当者会議を開催するにあたって困っていることについては、「自分の業務が多忙で会議を開催する時間がとりにくい」が 32.5%と最も多くなっている。前回調査と比べると、「自分の業務が多忙で会議を開催する時間がとりにくい」(前回 24.4%)、「会議で何をどう検討していいのか分からない」(今回 12.5%、前回 4.4%) がそれぞれ 8.1 ポイント増え、「主治医の理解・協力が得られない」(今回 12.5%、前回 26.7%) が 14.2 ポイント、「サービス提供事業者の理解・協力が得られない」(今回 5.0%、前回 13.3%) が 8.3 ポイント減っている。



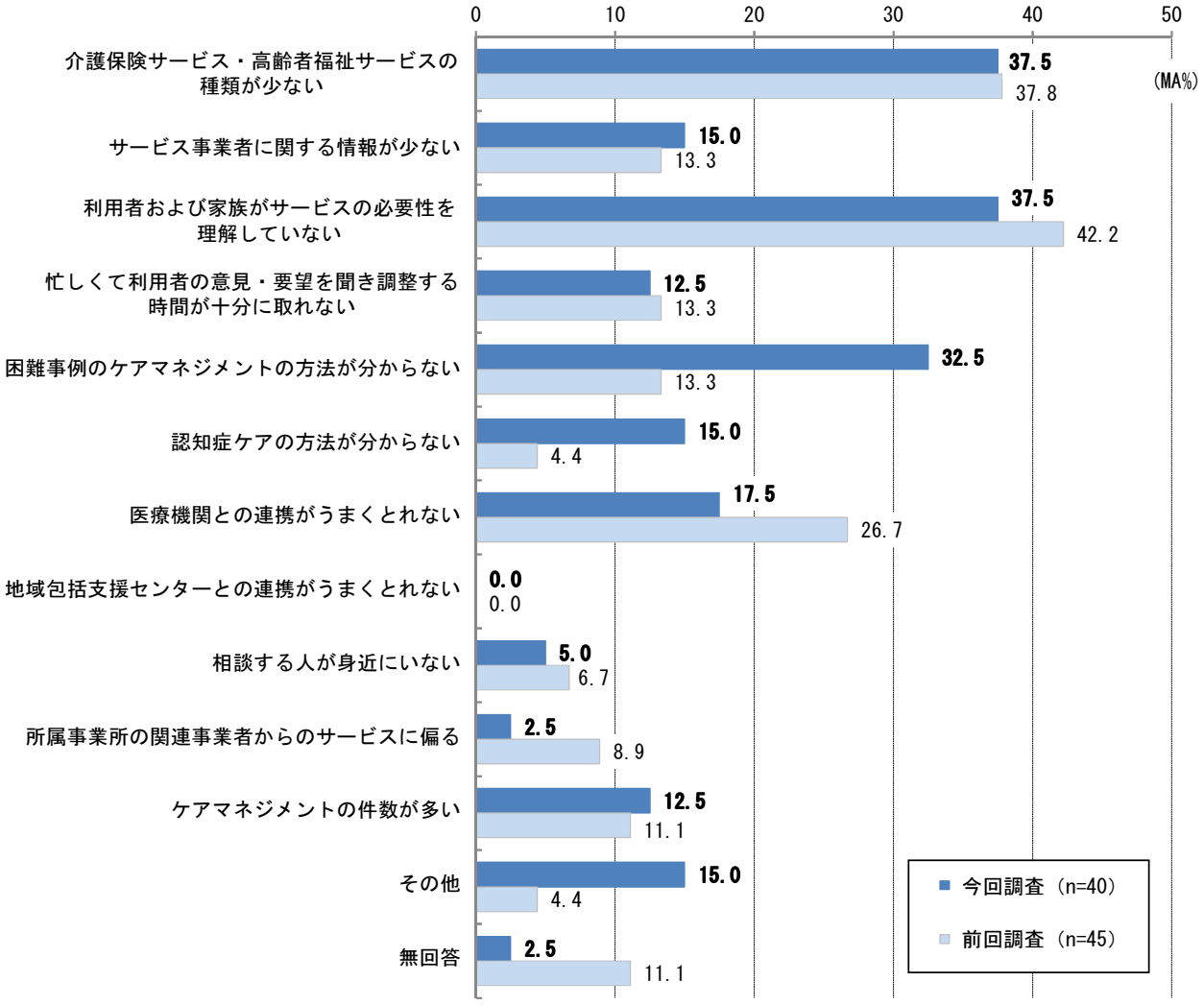
(その他内訳)

内　　容	件数
日程、人員の調整が難しい (多忙、事業所が多い、認定結果がギリギリに出る)	８件
サービス会議の量が多すぎる	１件

（13）介護支援専門員業務の課題

問 19　介護支援専門員の業務を行う上で課題として考えているのはどのようなことですか。
あてはまるものすべてに○印をつけてください。

介護支援専門員の業務を行う上で課題として考えていることは、「介護保険サービス・高齢者福祉サービスの種類が少ない」、「利用者および家族がサービスの必要性を理解していない」がそれぞれ37.5%と最も多く、次いで、「困難事例のケアマネジメントの方法が分からない」が32.5%となっている。前回調査と比べると、「困難事例のケアマネジメントの方法が分からない」（前回 13.3%）が19.2ポイント、「認知症ケアの方法が分からない」（今回 15.0%、前回 4.4%）が10.6ポイント増え、「医療機関との連携がうまくとれない」（今回 17.5%、前回 26.7%）が9.2ポイント減っている。



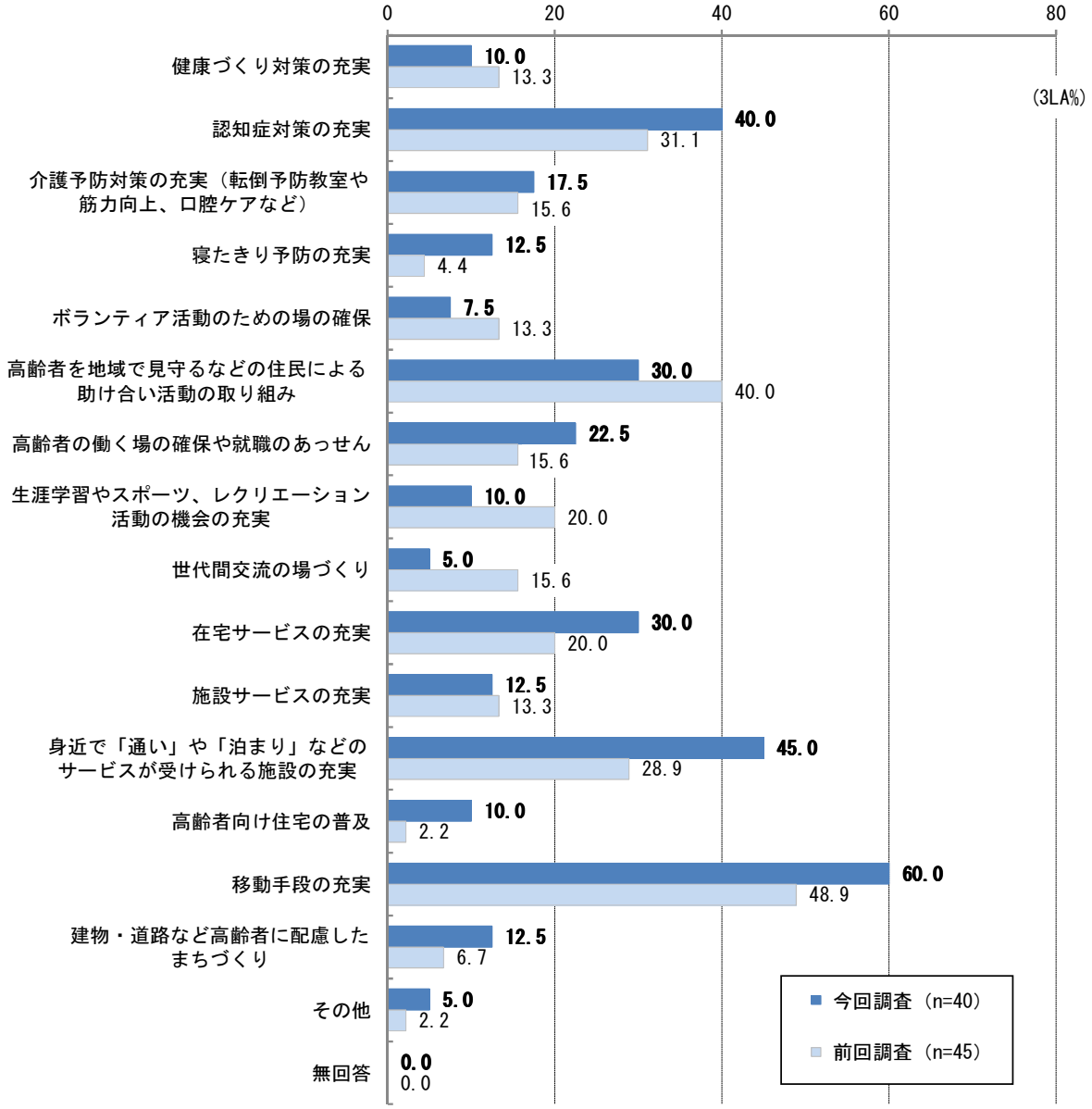
（その他内訳）

内　　容	件数
記録に時間がかかる、事務負担が増えすぎ	2件
移動に時間がかかる	1件
サービス事業者の質の確保	1件
家族の認知症への理解	1件
認知症の周辺症状が強い方のサービス受け入れが少ない	1件
その都度、関係機関に相談しているので、課題とは考えていない	1件

（14）高齢者福祉について、今後拡充するべき施策

問 20　高齢者福祉について、今後どのような施策の拡充が重要とお考えですか。重要と思われるものを３つまで選び○印をつけてください。

高齢者福祉について、今後どのような施策の拡充が重要と考えるかについては、「移動手段の充実」が 60.0%と最も多く、次いで、「身近で「通い」や「泊まり」などのサービスが受けられる施設の充実」が 45.0%、「認知症対策の充実」が 40.0%となっている。前回調査と比べると、「身近で「通い」や「泊まり」などのサービスが受けられる施設の充実」（前回 28.9%）が 16.1 ポイント、「移動手段の充実」（前回 48.9%）が 11.1 ポイント、「在宅サービスの充実」（今回 30.0%、前回 20.0%）が 10.0 ポイント増えている。



（その他内訳）

内　　容	件数
買物支援	1 件
介護サービス未利用者の介護予防に関する意識の向上	1 件

4　自由意見

介護保険制度について、ご意見・ご要望がありましたらご自由にご記入ください。

以下、７件のご意見をいただきました。

意　見　内　容	件数
ケアマネジャーの業務や待遇の改善 ・介護報酬が少ない、処遇改善等の対象にもならず、課せられるものは多い。ケアマネ離れや、事業所を閉めるところも増えると思う。 ・書類が多すぎる。 ・利用者が増えるなか少しでも事務手続きが減り、対応できる時間が増える事を望む。	３件
ケアマネジャーの自己負担の導入について ・支援が必要であるにも関わらず、自身での必要性がわからず支援を要望できる人、又は拒否や虐待のあるケースでアウトリーチが必要な方への支援においては自己負担が弊害となる事もある。	１件
困難ケースへの支援について ・高齢者を支えるサービスとして、家族がいない、高齢者、遠方、仕事等で支援が困難なケースが増えている。また、在宅サービスだけでは不安で、施設サービスを検討するが費用の面等で困難、安心して暮らせる社会がくるのか不安である、みんなで強いスクラムを組んで支援していきたい。	１件
医療と介護の連携についての周知を ・医療と介護が連携し合って、というのは私たち専門職では常識ですが、利用者にはまだまだ理解が得られていない点が多く、中には医療機関でもそういう所も存在している。医療保険制度と介護保険制度の連携の必要性をもっと利用者や住民の皆さんに周知して頂けたら連携がもっともっとスムーズになるのに、と思う。	１件
認知症のある方が活躍できる場を ・介護を受けるという立場で活躍の場も失いがちになっているように思う。	１件

資料編

木津川市　介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（令和元年度）

平素は、本市の高齢者福祉及び介護保険事業にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

本市では、３年に一度「高齢者福祉計画・介護保険事業計画」の見直しを行い、高齢者福祉施策や介護保険事業の推進に取り組んでおります。

このたび、本市にお住まいの 65 歳以上の方から、無作為に選んだ皆様を対象に、現在の心身の状況や、介護保険制度・高齢者福祉サービスに対するお考えをお聞かせいただくため、健康や日常生活に関する調査を実施します。調査結果は、令和２年度に策定する「第９次木津川市高齢者福祉計画・第８期木津川市介護保険事業計画」の基礎資料として活用させていただきます。

本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

木津川市 健康福祉部 高齢介護課

お問い合わせ（平日8:30～17:15）	TEL 0774-75-1213 FAX 0774-72-0553

記 入 に 際 し て の お 願 い

1．ご回答にあたっては、 **封筒のあて名ご本人様について** お答えいただきますが、**ご家族等がご本人様の立場にたって回答されてもかまいません。**

2．この調査は無記名回答方式ですので、名前を記入いただく必要はありません。また、ご記入いただいた内容は、すべて統計的に処理し、本調査以外の目的に使用いたしません。

3．ご回答にあたっては質問をよく読んでいただき、該当する番号を○で囲んでください。数字を記入する欄（らん）は右詰め（例　| | 6 | 2 | kg）でご記入ください。

4．とくに断りの無い場合は選択肢の１つに○をつけてください。「いくつでも」等の表記があれば、その内容にしたがって○をつけてください。

5．調査票記入後は３つ折りにし同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、**２月10日（月）まで** に投函してください。

○以下、記入をお願いします。

記　入　日	令和　　年　　月　　日
調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。	
１．あて名のご本人が記入　　２．ご家族が記入（あて名のご本人からみた続柄＿＿＿＿＿）	
３．その他の人（　　）	

○**あて名のご本人様の情報** を記入してください（それぞれ1つに○）

性　別	１．男　　２．女
年　齢	１．65 歳～69 歳　　２．70 歳～74 歳　　３．75 歳～79 歳 ４．80 歳～84 歳　　５．85 歳～89 歳　　６．90 歳以上
要介護認定の有無	１．要支援１　　２．要支援２　　３．認定を受けていない
お　住　ま　い	１．山城地区　　２．加茂地区 ３．木津地区（木津地区の方は、下記のどちらかに○をつけてください） ⋮→ 中央体育館より { １．東側（鹿川より東側） ２．西側（鹿川より西側） ※地区等が分からない場合は、下記に町名を記入してください。 （　　）　例）木津南垣外、木津駅前１丁目

問１　あなたのご家族や生活状況について

（１）家族構成をお教えください

１．１人暮らし　　２．夫婦２人暮らし（配偶者 65 歳以上）
３．夫婦２人暮らし（配偶者 64 歳以下）　　４．息子・娘との２世帯
５．その他（具体的に：　　）

（２）あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか

１．介護・介助は必要ない　⇒（３）へ
２．何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
３．現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）

【（２）において「2.」又は「3.」（介護・介助が必要）を選ばれた方のみ】

① 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか（いくつでも）

１．脳卒中（脳出血・脳梗塞等）　　２．心臓病
３．がん（悪性新生物）　　４．呼吸器の病気（肺気腫・肺炎等）
５．関節の病気（リウマチ等）　　６．認知症（アルツハイマー病等）
７．パーキンソン病　　８．糖尿病
９．腎疾患（透析）　　10．視覚・聴覚障害
11．骨折・転倒　　12．脊椎損傷
13．高齢による衰弱　　14．その他（　　）　　15．不明

【（２）において「3.」（介護・介助が必要）を選ばれた方のみ】

② 主にどなたの介護、介助を受けていますか（いくつでも）

１．配偶者（夫・妻）　　２．息子　　３．娘
４．子の配偶者　　５．孫　　６．兄弟・姉妹
７．介護サービスのヘルパー　　８．その他（具体的に：　　）

（３）現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか

１．大変苦しい　　２．やや苦しい　　３．ふつう
４．ややゆとりがある　　５．大変ゆとりがある

（４）お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか

１．持家（一戸建て）　　２．持家（集合住宅）
３．公営賃貸住宅　　４．民間賃貸住宅（一戸建て）
５．民間賃貸住宅（集合住宅）　　６．借家
７．その他（具体的に：　　）

問２　からだを動かすことについて

（１）階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか

１．できるし、している　　２．できるけどしていない　　３．できない

（２）椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか

１．できるし、している　　２．できるけどしていない　　３．できない

（３）15 分位続けて歩いていますか

１．できるし、している　　２．できるけどしていない　　３．できない

（４）過去１年間に転んだ経験がありますか

１．何度もある　　２．１度ある　　３．ない

（５）転倒に対する不安は大きいですか

１．とても不安である　　２．やや不安である　　３．あまり不安でない　　４．不安でない

（６）週に１回以上は外出していますか

１．ほとんど外出しない　２．週１回　　３．週２～４回　　４．週５回以上

（７）昨年と比べて外出の回数が減っていますか

１．とても減っている　　２．減っている　　３．あまり減っていない　　４．減っていない

（８）外出を控えていますか

１．はい　⇒（８）① へ　　２．いいえ ⇒（９） へ

【（８）において「1. はい」（外出を控えている）の方のみ】

① 外出を控えている理由は、次のどれですか（いくつでも）

１．病気
２．障害（脳卒中の後遺症など）
３．足腰などの痛み
４．トイレの心配（失禁など）
５．耳の障害（聞こえの問題など）
６．目の障害
７．外での楽しみがない
８．経済的に出られない
９．交通手段がない
10．その他（　　）

（９）外出する際の移動手段は何ですか（いくつでも）

１．徒歩
２．自転車
３．バイク
４．自動車（自分で運転）
５．自動車（人に乗せてもらう）
６．電車
７．路線バス
８．病院や施設のバス
９．車いす
10．電動車いす（カート）
11．歩行器・シルバーカー
12．タクシー
13．その他（具体的に：　　）

問３　食べることについて

（１）身長・体重

身長 [　　] cm　　体重 [　　] kg

（２）半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか

１．はい　　２．いいえ

（３）お茶や汁物等でむせることがありますか

１．はい　　２．いいえ

（４）口の渇きが気になりますか

１．はい　　２．いいえ

（５）歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか

１．はい　　２．いいえ

（６）歯の数と入れ歯の利用状況をお教えください（成人の歯の総本数は、親知らずを含めて 32 本です）

１．自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用
２．自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし
３．自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用
４．自分の歯は 19 本以下、入れ歯の利用なし

① 噛み合わせは良いですか

１．はい　　２．いいえ

【（６）において「1. 自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」「3. 自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」の方のみ】

② 毎日入れ歯の手入れをしていますか

１．はい　　２．いいえ

（７）６か月間で２～３kg 以上の体重減少がありましたか

１．はい　　２．いいえ

（８）どなたかと食事をともにする機会はありますか

１．毎日ある　　２．週に何度かある　　３．月に何度かある
４．年に何度かある　　５．ほとんどない

問４　毎日の生活について

（１）物忘れが多いと感じますか

１．はい　　２．いいえ

（２）自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか

１．はい　　２．いいえ

（３）今日が何月何日かわからない時がありますか

１．はい　　２．いいえ

（４）バスや電車を使って１人で外出していますか（自家用車でも可）

１．できるし、している　　２．できるけどしていない　　３．できない

（５）自分で食品・日用品の買物をしていますか

１．できるし、している　　２．できるけどしていない　　３．できない

（６）自分で食事の用意をしていますか

１．できるし、している　　２．できるけどしていない　　３．できない

（７）自分で請求書の支払いをしていますか

１．できるし、している　　２．できるけどしていない　　３．できない

（８）自分で預貯金の出し入れをしていますか

１．できるし、している　　２．できるけどしていない　　３．できない

（９）年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか

１．はい　　２．いいえ

(10) 新聞を読んでいますか

１．はい　　２．いいえ

(11) 本や雑誌を読んでいますか

１．はい　　２．いいえ

(12) 健康についての記事や番組に関心がありますか

１．はい　　２．いいえ

(13) 友人の家を訪ねていますか

１．はい　　２．いいえ

(14) 家族や友人の相談にのっていますか

１．はい　　２．いいえ

(15) 病人を見舞うことができますか

１．はい　　２．いいえ

(16) 若い人に自分から話しかけることがありますか

１．はい　　２．いいえ

(17) 趣味はありますか

１．趣味あり（具体的に：　　）　　２．思いつかない

(18) 生きがいはありますか

１．生きがいあり（具体的に：　　）　　２．思いつかない

問５　地域での活動について

（１）以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか
※ ① ～ ⑧ それぞれに回答してください

	週４回以上	週2～3回	週１回	月1～3回	年に数回	参加していない
① ボランティアのグループ	1	2	3	4	5	6
② スポーツ関係のグループやクラブ	1	2	3	4	5	6
③ 趣味関係のグループ	1	2	3	4	5	6
④ 学習・教養サークル	1	2	3	4	5	6
⑤（元気デイ、元気もりもりクラブなど）介護予防のための通いの場	1	2	3	4	5	6
⑥ 老人クラブ	1	2	3	4	5	6
⑦ 町内会・自治会	1	2	3	4	5	6
⑧ 収入のある仕事	1	2	3	4	5	6

(1)-1　前の質問で参加していると答えた方について、そこではどのような活動をしていますか
また、どれくらいの回数ですか　　※① ～ ⑦それぞれに回答してください

	週４回以上	週2～3回	週１回	月1～3回	年に数回	参加していない
① 体を動かす	1	2	3	4	5	6
② おしゃべりをする	1	2	3	4	5	6
③ 趣味の活動	1	2	3	4	5	6
④ お茶を飲んだり食事をする	1	2	3	4	5	6
⑤ 好きな時に参加して自由に過ごす	1	2	3	4	5	6
⑥ ボランティア活動	1	2	3	4	5	6

⑦ その他　（例：〇〇（活動内容）を、□に△回程度行っている）
（　　）

（２）地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか

１．是非参加したい　　２．参加してもよい
３．参加したくない（理由：　　）　　４．既に参加している

（３）地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか

１．是非参加したい　　２．参加してもよい
３．参加したくない（理由：　　）　　４．既に参加している

（４）次の項目で、生活行為ができにくくなっている高齢者に対する手助けとして、あなた自身が支援出来る内容はどれですか（１～23 の中からあてはまるもの５つまでに○）

１．食事の準備・後片付け	２．食事の配達	３．買物の代行
４．買物や病院などへの車両による送迎	５．病院予約・連絡、薬の受け取り	
６．預金の預け払いや振替、公共料金の支払いなど手続きの代行	７．公共機関での手続きの代行	
８．掃除	９．洗濯	10．布団干し　11．ゴミだし・分別
12．敷地の手入れ（草刈り、葉刈り等）	13．農作業支援	
14．ストーブへの給油	15．郵便物の確認、広報誌等の代読、書類の代筆	
16．ペットの世話や預かり	17．墓の掃除や管理	
18．電球交換・住居の軽微な修繕	19．買物への付き添い	
20．公共機関・通院・金融機関への付き添い	21．話し相手、相談相手	
22．見守りや声掛け	23．その他（　　）	

問６　たすけあいについて　あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします

（１）あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人（いくつでも）

１．配偶者　２．同居の子ども　３．別居の子ども　４．兄弟姉妹・親戚・親・孫
５．近隣　６．友人　７．その他（　　）　８．そのような人はいない

（２）反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人（いくつでも）

１．配偶者　２．同居の子ども　３．別居の子ども　４．兄弟姉妹・親戚・親・孫
５．近隣　６．友人　７．その他（　　）　８．そのような人はいない

（３）あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（いくつでも）

１．配偶者　２．同居の子ども　３．別居の子ども　４．兄弟姉妹・親戚・親・孫
５．近隣　６．友人　７．その他（　　）　８．そのような人はいない

（４）反対に、看病や世話をしてあげる人（いくつでも）

１．配偶者　２．同居の子ども　３．別居の子ども　４．兄弟姉妹・親戚・親・孫
５．近隣　６．友人　７．その他（　　）　８．そのような人はいない

（５）家族や友人･知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください　（いくつでも）

１．自治会・町内会・老人クラブ	２．社会福祉協議会・民生委員	３．ケアマネジャー
４．医師・歯科医師・看護師	５．地域包括支援センター	６．市役所
７．その他（　　）		８．そのような人はいない

（６）友人・知人と会う頻度はどれくらいですか

１．毎日ある	２．週に何度かある	３．月に何度かある
４．年に何度かある	５．ほとんどない	

（７）この１か月間、何人の友人・知人と会いましたか（※同じ人には何度会っても１人と数えることとします）

１．０人（いない）	２．１～２人	３．３～５人
４．６～９人	５．１０人以上	

（８）よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか（いくつでも）

１．近所・同じ地域の人	２．幼なじみ	３．学生時代の友人
４．仕事での同僚・元同僚	５．趣味や関心が同じ友人	６．ボランティア等の活動での友人
７．その他（具体的に：　　）		８．いない

問７　健康について

（１）現在のあなたの健康状態はいかがですか

１．とてもよい　　２．まあよい　　３．あまりよくない　　４．よくない

（２）あなたは、現在どの程度幸せですか（※「とても不幸」を０点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください）

（とても不幸）　　（とても幸せ）

０点　１点　２点　３点　４点　５点　６点　７点　８点　９点　10点

（３）この１か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか

１．はい　　２．いいえ

（４）この１か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか

１．はい　　２．いいえ

（５）お酒は飲みますか

１．ほぼ毎日飲む　　２．時々飲む　　３．ほとんど飲まない　　４．もともと飲まない

（６）タバコは吸っていますか

１．ほぼ毎日吸っている　２．時々吸っている　３．吸っていたがやめた　４．もともと吸っていない

（７）現在治療中、または後遺症のある病気はありますか（いくつでも）

１．ない　　２．高血圧　　３．脳卒中（脳出血・脳梗塞等）
４．心臓病　　５．糖尿病　　６．高脂血症（脂質異常）
７．呼吸器の病気（肺炎や気管支炎等）　８．胃腸・肝臓・胆のうの病気　９．腎臓・前立腺の病気
10．筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）　11．外傷（転倒・骨折等）
12．がん（悪性新生物）　13．血液・免疫の病気　14．うつ病
15．認知症（アルツハイマー病等）　16．パーキンソン病　17．目の病気
18．耳の病気　19．その他（具体的に：　　）

問８　認知症について

（１）認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか

１．はい　　２．いいえ

（２）認知症に関する相談窓口（地域包括支援センターなど）を知っていますか

１．はい　　２．いいえ

（３）あなたにとって認知症予防の方法として、重要なものは次のうち、どれだと思いますか（あてはまるもの３つまでに○）

１．家族・友人・隣人等と積極的にコミュニケ―ションをとる
２．定期的に健康診査を受ける　　３．高血圧症、高脂血症、肥満等生活習慣病を予防する
４．人の役に立つことを日課に取り入れる　　５．運動を習慣化する
６．楽しみながら続けられる趣味などをもつ
７．その他（具体的に：　　）

（４）認知症の人への支援で必要なことはどのようなことだと思いますか（いくつでも）

１．認知症の人を介護している家族のための介護教室や家族サロンの開催
２．認知症についての正しい知識を持った支援者の養成
３．認知症についての正しい知識を普及するための啓発活動
４．近隣住民による見守り　　５．成年後見制度の利用促進
６．その他（具体的に：　　）　７．特にない

（５）木津川市が実施している認知症に関する事業を知っていますか（いくつでも）

１．認知症初期集中支援チーム（認知症の人やその家族のところへ訪問し、相談に応じます）
２．認知症対応型カフェ事業（認知症の人や認知症の不安のある人及びその家族が交流できる場です）
３．認知症高齢者等 SOS ネットワーク事業（事前に登録し、万が一行方不明になられた場合、登録した情報をもとに早期発見につなげます）
４．認知症サポーター養成講座（認知症の人やその家族の応援者として活動する人を養成します）
５．認知症高齢者等見守り及び声かけ訓練（認知症について正しく理解し、接し方を学び地域全体で見守る仕組みつくり）
６．全く知らない

問９　その他

（１）在宅生活を続ける上で、利用したいと考えるサービスはどれですか
（１～26 の中からあてはまるもの５つまでに○）

１．食事の準備・後片付け　　２．食事の配達
３．買物の代行　　４．買物や病院などへの車両による送迎
５．病院予約・連絡、薬の受け取り　　６．預金の預け払いや振替、公共料金の支払いなど手続きの代行
７．公共機関での手続きの代行　　８．掃除
９．洗濯　　10．布団干し
11．ゴミだし・分別　　12．敷地の手入れ（草刈り、葉刈り等）
13．農作業支援　　14．ストーブへの給油
15．郵便物の確認、広報誌等の代読、書類の代筆　　16．ペットの世話や預かり
17．墓の掃除や管理　　18．電球交換・住居の軽微な修繕
19．買物への付き添い　　20．公共機関・通院・金融機関への付き添い
21．話し相手、相談相手　　22．見守りや声掛け
23．体操・運動などの教室　　24．みんなが交流できる場
25．余暇支援やレクリエーションの提供　　26．その他（　　）

（２）介護予防についておうかがいします。

⑵-1　あなたは、介護予防（介護が必要になることを予防すること）について関心がありますか

１．非常に関心がある　　２．やや関心がある　　３．あまり関心がない
４．まったく関心がない　　５．わからない

【⑵-1 において「1.非常に関心がある」又は「2.やや関心がある」の方のみ】 ※それ以外の方は⑵-2 へ

⑵-1-1　どのような介護予防に関心がありますか（あてはまるもの３つまでに○）

１．運動機能　　２．栄養　　３．口腔機能　　４．閉じこもり
５．認知症　　６．うつ　　７．その他（　　）

(2)-2　あなたは、介護予防事業の参加について１回いくらまで出費することが出来ますか

１．200 円まで　　２．500 円まで　　３．1,000 円まで　　４．その他（　　）

(2)-3　あなたは次の介護予防事業を利用したことがありますか（それぞれ１つに○）

① 生きがい対応型デイサービス事業（元気デイ） 閉じこもりの防止や認知症予防、健康維持のための介護予防教室	１．利用している（利用したことがある） ２．知っているが利用していない ３．知らない
② 一般高齢者運動器機能向上事業（元気もりもりクラブ） 運動による体力向上や地域交流を目的とし、地域における自発的な介護予防教室を広げていく	１．利用している（利用したことがある） ２．知っているが利用していない ３．知らない
③ 元気アップ体操教室 介護予防サポーターによる音楽体操や筋力トレーニングを取り入れた健康づくり体操教室	１．利用している（利用したことがある） ２．知っているが利用していない ３．知らない
④ 介護予防安心住まい推進事業 要支援・要介護認定を受けていない方で、すこやか度確認リストで該当の方の住宅改修	１．利用している（利用したことがある） ２．知っているが利用していない ３．知らない

(2)-4　介護予防事業を利用するために必要な条件は何だと思いますか（あてはまるもの３つまでに○）

１．自宅に近い場所で行われること　　２．料金が無料または安いこと
３．一緒に参加する仲間や友人がいること　　４．参加した効果が実感できること
５．内容について事前に分かりやすい説明があること　　６．利用日や時間帯を選択できること
７．楽しくできる雰囲気があること　　８．その他（　　）
９．条件にかかわらず利用したくない

（３）災害時の対応についておうかがいします

(3)-1　地震や風水害などの災害時に対し、不安に思うことはありますか（いくつでも）

１．災害に関する情報が入手できるかわからない
２．どこ（だれ）に助けをもとめてよいかわからない（身近に頼れる人がいない）
３．安全な場所まで自力で避難できるかわからない　　４．地域の避難場所がどこなのか知らない
５．地域の危険な箇所がわからない　　６．防災グッズや非常食を常備していない
７．健康面に不安がある（治療の必要な持病がある、服薬など）
８．その他（具体的に：　　）　　９．不安は特にない

(3)-2　災害等で避難が必要な際、頼れる人はいますか（いくつでも）

１．家族・親族　　２．近所の人　　３．友人・知人
４．自治会の人　　５．民生委員　　６．老人クラブの人
７．その他（　　）　　８．頼れる人はいない

(3)-3　市では、災害時の支援体制づくりとして、支援が必要な方（災害時要援護者）を対象に市への登録申請を受け付けています（木津川市避難行動要支援者名簿登録制度*）。将来的に、ご自身が支援が必要な状態になった場合、要支援者として登録したいと思いますか

＊災害時に支援が必要な方（災害時要援護者）が、自身の情報を事前に市に登録し、市がその情報を地域の関係者（自治会長・民生委員・避難支援者）に提供することで、災害時の支援体制づくりに備えています。

１．登録したい（検討したい）　　２．すでに登録している　　３．登録したいとは思わない

（４）今後、日常生活に不安を感じたり、介護が必要になった場合などの住まいについて、どのようにお考えですか。あなたのお考えにもっとも近いものを選んでください

１．現在の住居に最期まで住み続けたい　　２．息子、娘、孫など親族の家に移り、同居したい
３．大規模で専門の職員のいる介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい
４．現在の居住地に近いところで、グループホームなど小規模で地域に密着した介護サービスを利用（入居）したい
５．可能な限り現在の住居に住み続け、介護が必要（または現在より重度になった場合）となった時、改めて施設（特別養護老人ホーム）などを検討したい
６．バリアフリーで食事の提供や安否確認、生活相談等があるサービス付きのアパートやマンション（サービス付き高齢者向け住宅）に住み替えたい
７．その他（具体的に：　　）

（５）高齢者に対してどのような支援があれば、身近な地域や自宅での生活を続けていくことができると思いますか（あてはまるもの３つまでに○）

１．日中の活動や交流できる場が身近にあること
２．近隣の人がお互いに声かけや見守りを行うこと
３．気軽に介護のことなどについて相談できる窓口が身近にあること
４．24 時間体制の安心できるサービスがあること
５．必要なとき、施設に宿泊できること
６．災害時にも地域の対応がしっかりしていて、安心して暮らせること
７．契約や財産管理の手続きを援助してもらえること
８．手すりの取り付けや段差解消などの住宅改修
９．在宅や通所でのリハビリテーションが十分できること
10．訪問介護や通所サービスを利用しながら、医師の訪問診療も利用できること
11．買い物や通院時などの介助や送迎
12．簡単な日常生活への支援（電球の交換や窓ふき、ゴミ出しなど）
13．その他（具体的に：　　）　　14．特にない

（６）高齢者福祉について、今後どのような施策の拡充が重要とお考えですか（いくつでも）

１．健康づくり対策の充実　　２．認知症対策の充実
３．介護予防対策の推進（健康体操など）　　４．寝たきり予防の充実
５．ボランティア活動のための場の確保　　６．高齢者の働く場の確保や就職のあっせん
７．高齢者を地域で見守るなどの住民による助け合い活動の取り組み
８．生涯学習やスポーツ、レクリエーション活動の機会の充実　９．世代間交流の場づくり
10．在宅サービスの充実　　11．施設サービスの充実
12．身近で「通い」や「泊まり」などのサービスが受けられる事業所等の充実
13．高齢者向け住宅の普及　　14．移動手段の充実
15．建物・道路など高齢者に配慮したまちづくり　　16．介護している家族等の支援
17．その他（具体的に：　　）

（７）高齢者の権利擁護（高齢者の権利や生活、財産などを守ります）のための制度についておうかがいします

(7)-1　次の事業や制度を知っていますか（いくつでも）

１．日常生活自立支援事業（福祉サービス利用援助事業）　２．成年後見制度　３．どちらも知らない

(7)-2　利用したこと（利用している）がありますか（いくつでも）

１．日常生活自立支援事業　２．成年後見制度　３．どちらも利用したことがない

（8）あなたが高齢者への虐待だと思う行為はどれですか（いくつでも）

1．つねる、たたく、ける、なぐるなど身体に暴力を加えられる
2．閉じ込められたり、戸外に締め出されたりする
3．どなられる、悪口を言われる、話しかけても無視をされる
4．食事や入浴、排せつの世話などを十分にしてくれない
5．治療が必要な場合でも治療を受けさせてもらえない
6．本人に無断で本人の年金を使ってしまう、自由になるお金を持たせてくれない
7．性的な行為を強要される

（9）高齢者の虐待についての相談先としてどんなところを知っていますか（いくつでも）

1．地域包括支援センター　2．市役所　3．ケアマネジャー
4．民生委員　5．医療関係者（医師、看護師など）
6．木津川市社会福祉協議会　7．警察　8．京都府高齢者情報相談センター
9．その他（具体的に：　　）　10．どこに相談したらよいのか知らない

（10）あなたは、振り込め詐欺をはじめとする悪質商法の被害にあった経験や見聞きしたことがありますか

1．被害を受けたことがある、被害にあいそうになったことがある
2．身近に被害を受けた当事者がいる
3．身近に当事者はいないが、うわさを耳にしたことがある
4．受けたことも見聞きしたこともない
5．その他（具体的に：　　）

（11）介護保険の保険料は、市全体で使われた介護サービスの量で決まります。あなたは、保険料の負担と介護サービスについてどう思いますか

1．介護サービスが充実するなら、保険料が高いのは仕方がない　2．介護サービスの充実より、保険料が安い方がよい
3．その他（具体的に：　　）　4．わからない

■　最後に、介護保険や高齢者施策の推進、暮らしやすい地域づくりなどについて、ご意見やご要望などがございましたら、ご記入ください

■■■以上で調査は終了です。ご協力ありがとうございました■■■

・長時間のご協力ありがとうございました。記入もれがないか、再度お確かめください
・記入した調査票は切り離すことなく、同封した返信用封筒に入れて、
２月 10 日（月）まで に投函してください
・返信用封筒に、この調査票のみを入れてご投函ください

木津川市 在宅介護実態調査（令和元年度）

日頃は、本市の高齢者福祉及び介護保険事業にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

本市では、３年に一度「高齢者福祉計画・介護保険事業計画」の見直しを行い、高齢者福祉施策や介護保険事業の推進に取り組んでおります。

このたび、本市にお住まいの在宅で介護保険の更新申請又は変更申請等を行い、認定調査を受けた方から無作為に選んだ皆様を対象に、現在の心身状況、介護保険制度・高齢者福祉サービスに対するお考えや介護者の方に関する日常生活をお聞かせいただく調査を実施します。調査結果は、高齢者等の適切な在宅生活の継続と家族等介護者の就労継続に向けて、介護サービスのあり方を検討する基礎資料として活用させていただきます。

なお、ご記入いただきました内容は、すべて統計的に処理し、本調査以外の目的に使用いたしません。趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

木津川市 健康福祉部 高齢介護課

お問い合わせ（平日8:30～17:15）	TEL 0774-75-1213 FAX 0774-72-0553

記 入 に 際 し て の お 願 い

1．ご回答にあたってA票は、**封筒のあて名ご本人について**お答えいただきますが、**ご家族の人等がご本人の立場にたって回答されてもかまいません**。B票は、主たる介護者の方がお答えください。

2．ご回答にあたっては質問をよく読んでいただき、該当する番号を○で囲んでください。

3．とくに断りの無い場合は選択肢の１つに○をつけてください。「いくつでも」等の表記があれば、その内容にしたがって○をつけてください。

4．調査票記入後は３つ折りにし同封の返信用封筒に入れて、**２月10日（月）まで**に投函してください。

個 人 情 報 の 取 り 扱 い に つ い て

個人情報の保護および活用目的は以下のとおりですので、ご確認ください。

なお、本調査票のご返送をもちまして、下記にご同意いただいたものと見なさせていただきます。

【個人情報の保護および活用目的について】

●本調査で得られた情報については、調査目的以外には利用いたしません。また当該情報については適切に管理いたします。

●ただし、介護保険事業計画策定時に本調査で得られたデータを活用するにあたり、厚生労働省の管理するデータベース内に情報を登録し、必要に応じて集計・分析することがあります。

○以下、記入をお願いします。

記　　入　　日	令和　　年　　月　　日
現在、この調査票にご回答を頂いているのは、どなたですか（いくつでも）	
１．調査対象者本人	２．主な介護者となっている家族・親族
３．主な介護者以外の家族・親族	４．その他

Ａ票　調査対象者様ご本人について、お伺いします

問１　世帯類型について、ご回答ください（○は１つ）

１．単身世帯	２．夫婦のみ世帯	３．その他

問２　ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）（○は１つ）

１．ない　→　**問8へ**

２．家族・親族の介護はあるが、週に１日よりも少ない
３．週に１～２日ある
４．週に３～４日ある
５．ほぼ毎日ある　→　**問３へ**

問３　主な介護者の方は、どなたですか（○は１つ）

１．配偶者	２．子	３．子の配偶者
４．孫	５．兄弟・姉妹	６．その他

問４　主な介護者の方の性別について、ご回答ください（○は１つ）

１．男性	２．女性

問５　主な介護者の方の年齢について、ご回答ください（○は１つ）

１．20 歳未満	２．20 代	３．30 代
４．40 代	５．50 代	６．60 代
７．70 代	８．80 歳以上	９．わからない

問６　現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください（いくつでも）

〔身体介護〕

１．日中の排泄	２．夜間の排泄
３．食事の介助（食べる時）	４．入浴・洗身
５．身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	６．衣服の着脱
７．屋内の移乗・移動	８．外出の付き添い、送迎等
９．服薬	10．認知症状への対応
11．医療面での対応（経管栄養、ストーマ 等）	

〔生活援助〕

12．食事の準備（調理等）	13．その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）
14．金銭管理や生活面に必要な諸手続き	

〔その他〕

15．その他	16．わからない

問７　ご家族やご親族の中で、ご本人（調査対象者）の介護を主な理由として、過去 1 年の間に仕事を辞めた方はいますか(現在働いているかどうかや､現在の勤務形態は問いません)（いくつでも）

１．主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）	２．主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）
３．主な介護者が転職した	４．主な介護者以外の家族・親族が転職した
５．介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない	６．わからない

※ 自営業や農林水産業のお仕事を辞めた方を含みます。

※ここから再び、全員の方にお伺いします。

問８　「介護保険サービス以外」で、現在利用している支援・サービスについて、ご回答ください（いくつでも）

１．配食	２．調理	３．掃除・洗濯
４．買い物（宅配は含まない）	５．ゴミ出し	６．外出同行（通院、買い物など）
７．移送サービス（介護・福祉タクシー等）	８．見守り、声かけ	９．サロンなどの定期的な通いの場
10．その他	11．利用していない	

※総合事業に基づく支援・サービスは、「介護保険サービス」に含めます。

問９　今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください（いくつでも）

１．配食	２．調理	３．掃除・洗濯
４．買い物（宅配は含まない）	５．ゴミ出し	６．外出同行（通院、買い物など）
７．移送サービス（介護・福祉タクシー等）	８．見守り、声かけ	９．サロンなどの定期的な通いの場
10．その他	11．特になし	

※ 介護保険サービス、介護保険以外の支援・サービスともに含みます。

問 10　現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください（○は１つ）

１．入所・入居は検討していない	２．入所・入居を検討している
３．すでに入所・入居申し込みをしている	

※「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院、特定施設（有料老人ホーム等）、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。

問 10-１　施設入所あるいは入居を希望される方にお伺いします。どのような施設を希望しますか（いくつでも）

１．特別養護老人ホーム※1　　２．老人保健施設※2　　３．介護療養型医療施設※3
４．介護医療院※4　　５．有料老人ホーム※5　　６．軽費老人ホーム（ケアハウス）※6
７．認知症対応型共同生活介護（グループホーム）※7
８．バリアフリー化など高齢者に配慮した賃貸住宅
９．その他（具体的に　　）

施設種類	概　要
※1 特別養護老人ホーム（特養）	常時の介護が必要な要介護者が入所し、食事、入浴、排せつなどの日常生活上の介護や機能訓練などのサービスを受けられる施設
※2 老人保健施設（老健）	症状が安定期にある要介護者が入所し、在宅復帰に向けて医療、看護、医学的な管理のもとで介護や機能訓練などのサービスを受けられる施設
※3 介護療養型医療施設	主に長期にわたって療養を必要とする方が病院等に入所し、医療、看護、医学的な管理のもとで介護や機能訓練などを受けられる施設
※4 介護医療院	長期療養のための医療と日常生活上の介護を一体的に提供する施設
※5 有料老人ホーム	特養や軽費老人ホーム以外で、高齢者が入居し、食事などの介護や日常生活上必要なサービスを受けられる施設
※6 軽費老人ホーム（ケアハウス）	低額な料金で施設に入居し、生活支援や介護など日常生活上必要な便宜が受けられる施設
※7 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）	地域の中で、認知症を抱えた高齢者が少人数の家庭的な環境の中で暮らし、食事などの介護が受けられる施設

問 10-２　施設入所あるいは入居を希望される方にお伺いします。あなたが施設での介護を希望される主な理由は、次のうちどれですか（○は３つまで）

１．専門的な介護が受けられて、安心して生活できるから
２．緊急時の対応の面で安心だから
３．家族等に介護による負担や迷惑をかけたくないから
４．家族が仕事をしているなど、介護の時間が十分にとれないから
５．介護のための部屋がない、入浴しにくいなど住宅の構造に問題があるから
６．家族は高齢や体が弱い、障がいがあるなどで、十分な介護ができないから
７．介護をしてくれる家族等がいないから
８．家族の介護が期待できないから
９．その他（具体的に　　）

問 11　ご本人（調査対象者）が現在抱えている傷病について、ご回答ください（いくつでも）

１．脳血管疾患（脳卒中）	２．心疾患（心臓病）
３．悪性新生物（がん）	４．呼吸器疾患
５．腎疾患（透析）	６．筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）
７．膠原病（関節リウマチ含む）	８．変形性関節疾患
９．認知症	10．パーキンソン病
11．難病（パーキンソン病を除く）	12．糖尿病
13．眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）	14．その他
15．なし	16．わからない

問 12　ご本人（調査対象者）は、現在、訪問診療を利用していますか（○は１つ）

１．利用している	２．利用していない

※ 訪問歯科診療や居宅療養管理指導等は含みません。

問 13　現在、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用していますか（○は１つ）

１．利用している　⇒ **問 15 へ**
２．利用していない　⇒ **問 14-1・14-2へ**

問 14-１　問 13 で「２.」と回答した方にお伺いします。介護保険サービスを利用していない理由は何ですか（いくつでも）

１．現状では、サービスを利用するほどの状態ではない	２．本人にサービス利用の希望がない
３．家族が介護をするため必要ない	４．以前、利用していたサービスに不満があった
５．利用料を支払うのが難しい	６．利用したいサービスが利用できない、身近にない
７．住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため	
８．サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない	９．その他

問 14-２　問 13 で「２.」と回答した方にお伺いします。今後の介護保険サービスの利用について、どのようにお考えですか(○は１つ)

１．将来、要介護状態が悪化したらすぐサービスを利用したい
２．家族介護が困難になったらサービス利用を考える
３．定期的な利用は考えていないが、緊急時にショートステイ利用を考える
４．将来的にもできるだけサービスを利用したくない
５．そろそろサービス利用を考えている
６．わからない
７．その他（具体的に　　）

問 15　すべての方にお伺いします。介護サービスについて、今後の希望をお答えください（○は１つ）

１．自宅で介護サービスを利用しないで家族介護を中心に暮らしたい
２．自宅で介護サービスを利用しながら暮らしたい
３．いずれは高齢者向けの施設に入所あるいは入居したい
４．考えていない

問 16　高齢者に対してどのような支援があれば、身近な地域や自宅での生活を続けていくことができると思いますか（○は３つまで）

１．日中の活動や交流できる場が身近にあること
２．近隣の人がお互いに声かけや見守りを行うこと
３．気軽に介護のことなどについて相談できる窓口が身近にあること
４．24 時間体制の安心できるサービスがあること
５．必要なとき、施設に宿泊できること
６．災害時にも地域の対応がしっかりしていて、安心して暮らせること
７．契約や財産管理の手続きを援助してもらえること
８．手すりの取り付けや段差解消などの住宅改修
９．在宅や通所でのリハビリテーションが十分できること
10．訪問介護や通所サービスを利用しながら、医師の訪問診療も利用できること
11．買い物や通院時などの介助や送迎
12．簡単な日常生活への支援（電球の交換や窓ふき、ゴミ出しなど）
13．特にない
14．その他（具体的に　　）

問 17　高齢者福祉について、今後どのような施策の拡充が重要とお考えですか（いくつでも）

１．健康づくり対策の充実　　２．認知症対策の充実
３．介護予防対策の推進（健康体操など）　　４．寝たきり予防の充実
５．ボランティア活動のための場の確保　　６．高齢者の働く場の確保や就職のあっせん
７．高齢者を地域で見守るなどの住民による助け合い活動の取り組み
８．生涯学習やスポーツ、レクリエーション活動の機会の充実　　９．世代間交流の場づくり
10．在宅サービスの充実　　11．施設サービスの充実
12．身近で「通い」や「泊まり」などのサービスが受けられる事業所等の充実
13．高齢者向け住宅の普及　　14．移動手段の充実
15．建物・道路など高齢者に配慮したまちづくり　　16．介護している家族等の支援
17．その他（具体的に：　　）

問 18　認知症があっても住み慣れた地域で安心して生活を続けるために、どのようなことが大切だと思いますか（いくつでも）

１．日ごろからの声かけや挨拶、地域での見守り
２．老人クラブ、認知症カフェなどの居場所づくり
３．認知症であることを話しておくこと
４．認知症の理解を深め、認知症の人への対応を学ぶこと（認知症サポーターの養成）
５．認知症高齢者等の事前登録（ＳＯＳネットワーク事業）
６．特にない
７．その他（具体的に：　　）

● **A票の問２で「２.」～「５.」を選択された場合は、「主な介護者」の方に B 票へのご回答・ご記入をお願いします。**
● **「主な介護者」の方のご回答・ご記入が難しい場合は、ご本人様（調査対象者様）にご回答・ご記入をお願いします（ご本人様のご回答・ご記入が難しい場合は、無回答で結構です）。**

B票　主な介護者の方について、お伺いします

問１　主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください（○は１つ）

１．フルタイムで働いている
２．パートタイムで働いている　→ **問2～問5へ**
３．働いていない
４．主な介護者に確認しないと、わからない　→ **問5へ**

※「パートタイム」とは、「1 週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方」が該当します。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等の方を含みます。自営業等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」・「パートタイム」のいずれかを選択してください。

問２　問１で「１.」「２.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか（いくつでも）

１．特に行っていない
２．介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている
３．介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている
４．介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている
５．介護のために、２～４以外の調整をしながら、働いている
６．主な介護者に確認しないと、わからない

問３　問１で「１.」「２.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか（○は３つまで）

１．自営業等のため、勤め先はない
２．介護休業・介護休暇等の制度の充実
３．制度を利用しやすい職場づくり
４．労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）
５．働く場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）
６．仕事と介護の両立に関する情報の提供
７．介護に関する相談窓口・相談担当者の設置
８．介護をしている従業員への経済的な支援
９．その他
10．特にない
11．主な介護者に確認しないと、わからない

問４　問１で「１.」「２.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか（○は１つ）

１．問題なく、続けていける	２．問題はあるが、何とか続けていける
３．続けていくのは、やや難しい	４．続けていくのは、かなり難しい
５．主な介護者に確認しないと、わからない	

問５　現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください（現状で行っているか否かは問いません）（○は３つまで）

〔身体介護〕

１．日中の排泄	２．夜間の排泄
３．食事の介助（食べる時）	４．入浴・洗身
５．身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	６．衣服の着脱
７．屋内の移乗・移動	８．外出の付き添い、送迎等
９．服薬	10．認知症状への対応
11．医療面での対応（経管栄養、ストーマ 等）	

〔生活援助〕

12．食事の準備（調理等）	13．その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）
14．金銭管理や生活面に必要な諸手続き	

〔その他〕

15．その他	16．不安に感じていることは、特にない
17．主な介護者に確認しないと、わからない	

■■■以上で調査は終了です。ご協力ありがとうございました■■■

・長時間のご協力ありがとうございました。記入もれがないか、再度お確かめください
・記入した調査票は切り離すことなく、同封した返信用封筒に入れて、

２月 10 日（月）までに投函してください

・返信用封筒に、この調査票のみを入れてご投函ください

木津川市 介護サービス事業所調査（令和元年度）

平素は、本市の高齢者福祉及び介護保険事業にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

本市では、３年に一度「高齢者福祉計画・介護保険事業計画」の見直しを行い、高齢者福祉施策や介護保険事業の推進に取り組んでおります。このたび、令和２年度に「第９次木津川市高齢者福祉計画・第８期木津川市介護保険事業計画」を策定するにあたり、アンケート調査を実施することと致しました。

この調査は介護サービス事業所運営法人の皆様を対象にしたもので、今後の高齢者福祉サービスの推進及び介護サービスの充実と質の向上の取組において、大変重要な調査となります。

お忙しいところ誠に恐縮ではございるが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいるようお願い申し上げます。

木津川市 健康福祉部 高齢介護課

お問い合わせ （平日8:30～17:15）	TEL 0774-75-1213 FAX 0774-72-0553

記 入 に 際 し て の お 願 い

○施設・事業所の管理者様がご回答くださいるようお願いします。

○設問の中で特に指示がない場合は、令和２年１月１日現在の状況についてご回答ください。

○回答方法は、あてはまる選択肢の番号に○印をつけたり、回答欄にご記入いただいたりするものです。選択肢の「その他」を選ばれた場合は、（　　）内に具体的な内容をご記入ください。

○ご回答が済みましたら、お手数ですが、同封の返信用封筒（切手はいりません）をご利用いただき、**令和２年２月 10 日（月）まで**にご投函ください。

○　本調査票の記入者についてご記入ください。

事 業 所 名	
記 入 者 名	
職　　種	１　管理者　　２　その他（　　）
電 話 番 号	

１．貴事業所のことについて、おたずねします。

問１　貴事業所の所在地はどこですか。あてはまるもの１つに○をつけてください。

１．山城地区　　２．加茂地区

３．木津地区（木津地区の場合は、下記のどちらかに○をつけてください）

※地区等が分からない場合は、下記に町名を記入してください。

（　　）　例）木津南垣外、木津駅前１丁目

問２　貴事業所の運営主体について、あてはまるもの１つに○をつけてください。

１　社会福祉法人　　２　医療法人

３　営利法人（株式会社・有限会社など）　　４　ＮＰＯ法人

５　その他（　　）

問３　貴事業所が実施しているサービス別にあてはまるものすべてに○をつけてください。

１　訪問介護
２　訪問入浴介護
３　訪問看護
４　訪問リハビリテーション
５　通所介護
６　通所リハビリテーション
７　短期入所生活介護
８　短期入所療養介護
９　特定施設入居者生活介護
10　地域密着型通所介護
11　認知症対応型通所介護
12　小規模多機能型居宅介護
13　認知症対応型共同生活介護
14　居宅介護支援
15　介護老人福祉施設
16　介護老人保健施設

※1～９、11～14 は予防サービス、総合事業を含む。

問４　貴事業所では、介護保険以外で提供しているサービスはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1　配食サービス
2　家事援助サービス
3　交流の場・通いの場（認知症カフェやサロンなど）
4　介護者支援（家族の集いや教室など）
5　外出支援（移動支援）
6　その他（　　）
7　特にない

問５　貴事業所の事業開始後の経過年数はどれくらいですか。あてはまるもの１つに○をつけてください。

1　１年未満	2　１年～３年未満
3　３年～５年未満	4　５年～８年未満
5　８年～10 年未満	6　10 年以上

問６　貴事業所の利用定員数をご記入ください。

利用定員　　人

※居宅介護支援事業所、訪問系サービスは「０」を記入。
※通所については、１日の定員数を記入。
※小規模多機能型居宅介護については、登録定員を記入。
※短期入所生活介護の空床利用型分は除く。

２．職員の確保に関することについて、おたずねします。

問７　貴事業所で実際に従事している職員の人数を職種・雇用形態ごとにご記入ください。
また、「パート（常勤）」、「パート（非常勤）」及び「その他」の職員については、常勤換算数を＜　＞内にご記入ください。

	正社員・正職員	パート（常勤）	パート（非常勤）	その他
A　介護支援専門員 （計画作成担当者を含む）	人	人 ＜　．　人＞	人 ＜　．　人＞	人 ＜　．　人＞
B　相談員	人	人 ＜　．　人＞	人 ＜　．　人＞	人 ＜　．　人＞
C　看護職員	人	人 ＜　．　人＞	人 ＜　．　人＞	人 ＜　．　人＞
D　介護職員	人	人 ＜　．　人＞	人 ＜　．　人＞	人 ＜　．　人＞
E　機能訓練指導員	人	人 ＜　．　人＞	人 ＜　．　人＞	人 ＜　．　人＞
F　その他	人	人 ＜　．　人＞	人 ＜　．　人＞	人 ＜　．　人＞

※主に従事している職種・雇用形態にのみ人数を含めるように数え、人数を重複して数えないようにしてください。

※常勤換算数の計算方法

［換算数］＝［職員の1週間の勤務時間の合計］÷［施設が定めている1週間の勤務時間］

小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位まで記入してください。得られた結果が0.1に満たない場合は、「0．1」と記入してください。

問８　貴事業所の職員の配置状況について、現在どのような状況ですか。あてはまるもの１つに○をつけてください。

1　大いに不足しており、直ちに人員を確保する必要がある
2　不足しており、常に逼迫している
3　やや不足しており、勤務シフトや休暇等に配慮するための人員を確保したいが、苦慮している
4　現時点で、適当である
5　その他（　　）

問９　貴事業所で職員を確保するにあたって、苦慮していることはありますか。あてはまるもの１つに○をつけてください。

１　はい	２　いいえ

問 10　問９で選択肢「１　はい」とお答えの事業所にお聞きします。
どのようなことに苦慮されているか。あてはまるもの１つに○をつけてください。

１　退職予定者の補充	２　産休育休者の代替職員
３　研修派遣者の代替職員	４　その他（　　）

問 11　貴事業所における平成 30 年度の退職者数についてご記入ください。

１　定年による退職	→（　　）人
２　定年以外の理由による退職	→（　　）人

問 12　問 11 で選択肢「２　定年以外の理由による退職」とお答えの事業所にお聞きします。
定年以外で退職された方について、Ａ～Ｆの職種ごとに退職者数をご記入ください。

	定年以外で 退職された人数
Ａ　介護支援専門員 （計画作成担当者を含む）	人
Ｂ　相談員	人
Ｃ　看護職員	人
Ｄ　介護職員	人
Ｅ　機能訓練指導員	人
Ｆ　その他	人

問 13　問 11 で選択肢「２　定年以外の理由による退職」とお答えの事業所にお聞きします。
定年以外で退職された理由について、あてはまるものすべてに○をつけてください。

１　人間関係	２　仕事量が多い
３　体力がついていかない	４　病気
５　けが	６　結婚
７　出産	８　育児
９　家族等の介護	10　賃金
11　不明	12　その他（　　）

問 14　問 11 で選択肢「2　定年以外の理由による退職」とお答えの事業所にお聞きします。
定年以外で退職された方の当事業所での入職後の平均経験年数をご記入ください。（人事異動等で職場を異動した場合、前の職場の年数は含めないでください。）

退職者の入職後の平均経験年数　　年

問 15　貴事業所では、他の法人の事業所との連携はありますか。あてはまるもの１つに○をつけてください。

1　ある　　2　ない
3　その他（　　）

問 16　問 15 で選択肢「1　ある」とお答えの事業所にお聞きします。
どのようなことを連携しているか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1　日頃の情報交換
2　連絡会の開催
3　合同研修会の開催
4　合同採用面接の実施
5　地域との交流イベントの開催
6　その他（　　）

問 17　貴事業所における職員募集の方法はどれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1　職員からの紹介
2　ハローワークの利用
3　求人広告などの有料媒体
4　事業所のホームページ
5　民間の有料職業紹介事業
6　人材派遣の利用
7　専門学校・養成校などでの新卒者募集
8　福祉人材センターを利用
9　その他（　　）

問 18　貴事業所において、職員の健康管理として実施しているものは何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1　労働安全衛生法に基づく定期健康診断
2　結核健康診断（レントゲン検査）
3　腰痛予防対策
4　インフルエンザなどの予防接種
5　メンタルケア
6　その他（　　）
7　特に何もしていない

問 19　貴事業所では、福利厚生として、現在どのようなものを導入されているか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1　育児休業、育児休暇制度
2　自己啓発支援（研修費や資格取得時の補助）
3　介護休業、介護休暇制度
4　住宅手当、家賃補助、社宅の整備
5　その他（　　）

問 20　貴事業所内で託児所や保育所の設置をしているか。あてはまるもの１つに○をつけてください。

1　設置している
2　設置していない

問 21　問 20 で選択肢「２　設置していない」とお答えの事業所にお聞きします。
設置の要望はありますか。あてはまるもの１つに○をつけてください。要望がない場合、考えられる理由をご記入ください。

1　要望はある
2　要望はない　　→　　理由（　　）

問 22　貴事業所では、外国人労働者の受け入れについて、どのように考えているか。あてはまるもの１つに○をつけてください。

1　既に受け入れている
2　積極的に受け入れたい
3　どちらかといえば受け入れたい
4　どちらでもない
5　どちらかといえば受け入れたくない
6　受け入れたくない

問 23　貴事業所では、介護の入門研修等を受講して、介護に係る基礎知識を有している中高年齢者等（子育てを終えた主婦やシニア層）を雇用したいと思いるか。あてはまるもの１つに○をつけてください。

1　すでに雇用している
2　雇用したい
3　雇用するつもりはない
4　どちらともいえない

問 24　問 23 で選択肢「１ すでに雇用している」又は「２ 雇用したい」とお答えの事業所にお聞きします。
中高年齢者等が従事する業務にはどのようなものがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1　身体介護の補助
2　飲食の補助（食事の準備、配膳、後片付けなど）
3　入浴の補助（浴室までの案内、着替え、浴室の清掃など）
4　入所者の傾聴、相談、話し相手
5　洗濯や寝具の交換
6　施設内清掃
7　レクリエーションの補助
8　その他（　　）

問 25　貴事業所では、ボランティアの受け入れをしているか。あてはまるもの１つに○をしてください。

1　積極的に受け入れている
2　業務を限定して受け入れている
3　ボランティアの希望はあるが、受け入れができていない
4　受け入れはしていない
5　その他（　　）

問 26　問 25 で選択肢「１　積極的に受け入れている」又は「２　業務を限定して受け入れている」とお答えの事業所にお聞きします。
どのような業務でボランティアを受け入れているか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1　飲食の補助（食事の準備、配膳、後片付けなど）
2　入浴の補助（浴室までの案内、着替え、浴室の清掃など）
3　入所者の傾聴、相談、話し相手
4　洗濯や寝具の交換
5　施設内清掃
6　レクリエーションの補助
7　その他（　　）

３．職員の介護に係る研修や資格に関することについて、おたずねします。

問 27　貴事業所で職員定着のために行っている取組にはどのようなことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1　資格取得のための費用の助成
2　資格取得のための休暇取得の支援
3　外部研修への費用の助成
4　外部研修への休暇取得の支援
5　業務として研修などに派遣
6　勤務条件（夜勤回数、勤務時間帯など）の改善
7　給与面での改善
8　キャリアアップのための人事制度（資格取得や自己研鑽等を評価）の導入
9　福利厚生面（育休、介護休暇など）での改善
10　事業所内での研修機会の確保
11　介護業務支援機器（介護ロボット等）導入
12　エルダーメンター導入
13　ＩＣＴ導入
14　その他（　　）

問 28　貴事業所で職員定着のために現在行ってはいないが、必要と思われる取組にはどのようなことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1　資格取得のための費用の助成
2　資格取得のための休暇取得の支援
3　外部研修への費用の助成
4　外部研修への休暇取得の支援
5　業務として研修などに派遣
6　勤務条件（夜勤回数、勤務時間帯など）の改善
7　給与面での改善
8　キャリアアップのための人事制度（資格取得や自己研鑽等を評価）の導入
9　福利厚生面（育休、介護休暇など）での改善
10　事業所内での研修機会の確保
11　介護業務支援機器（介護ロボット等）導入
12　エルダーメンター導入
13　ＩＣＴ導入
14　その他（　　）

問 29　問 27 で選択肢「1　資格取得のための費用の助成」とお答えの事業所にお聞きします。
次の研修や資格のうち、費用面で職員を支援しているものがあれば、あてはまるものすべてに○をつけてください。

1　介護職員初任者研修（旧ホームヘルパー２級）
2　実務者研修（旧ホームヘルパー１級）
3　介護福祉士
4　介護支援専門員・主任介護支援専門員
5　認知症ケア専門士
6　介護事務（ケアクラーク）
7　ガイドヘルパー（移動介護従事者）
8　介護予防運動指導者
9　福祉用具専門相談員
10　福祉住環境コーディネーター
11　社会福祉士
12　その他（　　）

問 30　貴事業所の職員に受けさせたい研修はどのようなものがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1　基本的介護技術に関する研修
2　口腔機能に関する研修
3　喀痰吸引等に関する研修
4　緊急時対応・事故対策に関する研修
5　認知症ケア・認知症対策に関する研修
6　感染症対策に関する研修
7　高齢者虐待防止・身体拘束廃止に関する研修
8　リハビリテーション（運動機能向上・維持など）に関する研修
9　介護予防指導に関する研修
10　ケアプラン等に関する研修
11　介護従事者の腰痛予防に関する研修
12　ストレスマネジメントに関する研修
13　介護員養成研修（介護職員初任者研修、介護福祉士実務者研修）
14　事業所や地域のネットワークに関する研修
15　個人情報・プライバシーに関する研修
16　介護保険制度に関する研修
17　介護報酬・指定基準に関する研修
18　終末期に関する研修
19　その他（　　）

４．事業所の運営に関することについて、おたずねします。

問 31　貴事業所では、地域との交流・連携のために行っている取組はありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1　利用者以外に対しても介護等の相談に応じている
2　事業所の土地や設備を地域住民の交流に活用・提供している
3　地域の行事や自治会活動に参加している
4　地域住民が行うボランティア活動に、専門知識やノウハウを提供している
5　他の福祉施設（介護施設も含む）と交流を図っている
6　その他（　　）
7　特に取り組みは行っていない

問 32　貴事業所では、医療機関とはどのような連携をとっているか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1　医療機関から利用者の健康管理や処置について助言を受けている
2　往診をしてくれる医師・医療機関がある
3　症状急変時の受入を依頼できる病院を確保している
4　提携病院があり、入院を受け入れてもらっている
5　職員への研修講師などをお願いしている
6　ケースカンファレンスに医療機関に参加してもらっている
7　医療機関を経営しており、連携を取っている
8　医師が常駐している
9　その他（　　）
10　特段の連携を行っていない

問 33　利用者のかかりつけ医との連携や情報交換を行っているか。あてはまるもの１つに○をしてください。

1　かかりつけ医と連携し利用者の医療情報を把握するようにしている
2　必要に応じて、かかりつけ医に問い合わせをしている
3　かかりつけ医との連携の必要性を感じているが、できていない
4　とりたてて、かかりつけ医との連携の必要性を感じない
5　その他（　　）

問 34　貴事業所では、サービスの質の向上のために、どのような取組に最も力を入れているか。あてはまるもの１つに○をつけてください。

1　ケアカンファレンスの定期的な開催
2　利用者からの相談窓口の設置
3　サービス提供マニュアルの作成
4　職員・スタッフの継続的な研修・ＯＪＴの実施
5　事業者間での情報交換・交流への参加
6　情報開示、第三者評価
7　介護相談員の受け入れ
8　サービス利用者の満足度調査の実施
9　サービス自己評価基準による定期的な検証
10　その他（　　）
11　特に何もしていない

問 35　貴事業所が介護事業所の運営をする上で最も連携を強めたい機関・窓口はどこですか。主なもの３つまでに○をつけてください。

1　自治体の福祉部門
2　地域包括支援センター
3　居宅介護支援事業所・ケアマネジャー
4　在宅介護支援センター
5　訪問看護ステーション
6　社会福祉協議会
7　介護実習・普及センター
8　かかりつけ医など医療機関
9　ＮＰＯ・ボランティア等の民間機関
10　自治会の役員
11　民生委員
12　近隣住民
13　その他（　　）
14　特にない

アンケート調査は以上です。ご協力ありがとうございました。

木津川市 介護支援専門員調査票（令和元年度）

平素は、本市の高齢者福祉及び介護保険事業にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

本市では、３年に一度「高齢者福祉計画・介護保険事業計画」の見直しを行い、高齢者福祉施策や介護保険事業の推進に取り組んでおります。このたび、令和２年度に「第９次木津川市高齢者福祉計画・第８期木津川市介護保険事業計画」を策定するにあたり、アンケート調査を実施することと致しました。

この調査はケアプラン作成に携わっておられる介護支援専門員の方々にお願いするもので、今後の高齢者福祉サービスの推進及び介護サービスの充実と質の向上の取組において、大変重要な調査となります。

お忙しいところ誠に恐縮ではございるが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいるようお願い申し上げます。

木津川市 健康福祉部 高齢介護課

お問い合わせ （平日8:30～17:15）	TEL 0774-75-1213 FAX 0774-72-0553

記 入 に 際 し て の お 願 い

○介護支援専門員の方がご回答くださいるようお願いします。

○設問の中で特に指示がない場合は、令和２年１月１日現在の状況についてご回答ください。

○回答方法は、あてはまる選択肢の番号に○印をつけたり、回答欄にご記入いただいたりするものです。

選択肢の「その他」を選ばれた場合は、（　　）内に具体的な内容をご記入ください。

○ご回答が済みましたら、お手数ですが、同封の返信用封筒（切手はいりません）をご利用いただき、

令和２年２月 10 日（月）までにご投函ください。

■ 最初に、あなたご自身のことについておたずねします。

問１．あなたの性別について、あてはまるものに○印をつけてください。

１．男性　　２．女性

問２．あなたの年齢について、あてはまるものに○印をつけてください。

１．２０歳代　　２．３０歳代　　３．４０歳代

４．５０歳代　　５．６０歳代以上

問３．あなたの職種（資格）について主たるものに１つだけ○印をつけてください。

１．医師　　２．歯科医師　　３．薬剤師

４．看護師　　５．准看護師　　６．保健師

７．社会福祉士　　８．介護福祉士　　９．歯科衛生士

10．理学療法士　　11．作業療法士　　12．その他（　　）

問３-1．あなたの介護支援専門員としての実務経験年数を記入してください。

介護支援専門員としての実務経験年数　　年　　カ月

問３-2．あなたは、主任介護支援専門員の資格を持っているか。

１．持っている　　→副問３-2-1 へ

２．持っていない　　→問４へ

副問３-2-1．問３-2 で、「１．持っている」と答えられた方におたずねします。あなたの主任介護支援専門員としての実務経験年数を記入してください。

主任介護支援専門員としての実務経験年数　　年　　カ月

■ 勤務状況についておたずねします。

問４．あなたの勤務形態について、あてはまるものに○印をつけてください。

１．常勤専任　　２．常勤兼任

３．非常勤専任　　４．非常勤兼任

問５．あなたの一日当たりの平均勤務時間数（介護支援専門員の業務を含めたすべての業務）を記入してください。

一日あたりの平均勤務時間　　時間

問６．あなたの介護支援専門員としての業務の割合は全体のおよそ何%程度ですか。あてはまるものに○印をつけてください。

１．20%未満　　２．20～40%未満　　３．40～60%未満

４．60～80%未満　　５．80～100%未満　　６．100%

問７．あなたは、介護支援専門員としての業務の中で特に時間を費やす業務はどれですか。あてはまるものを３つまで選び○印をつけてください。

１．訪問調査　　２．課題分析（アセスメント）

３．ケアプラン作成　　４．サービス事業者との連絡調整

５．モニタリング　　６．給付管理

７．サービス担当者会議　　８．その他（　　）

■ 介護支援専門員としての業務についておたずねします。

問８．介護支援専門員としての業務の実施状況についておたずねします。下記の各項目について４つの選択肢の中から該当する番号を選び、□の中に記入してください。

①. 訪問調査	
②. 課題分析（アセスメント）	
③. ケアプランの作成	
④. サービス事業者との調整	
⑤. モニタリング	
⑥. 給付管理	
⑦. サービス担当者会議の開催	

選択肢

１．できている

２．ほぼできている

３．あまりできていない

４．できていない

問９．現在担当している介護支援専門員としての業務の負担感はどの程度ですか。あてはまるものに○印をつけてください。

１．非常に負担　　→副問９-1 へ

２．やや負担　　→副問９-1 へ

３．どちらともいえない　　→問 10 へ

４．あまり負担ではない　　→問 10 へ

５．負担を感じない　　→問 10 へ

副問9-1. 問9で、「1　非常に負担」または「2　やや負担」と答えられた方におたずねします。

介護支援専門員の業務の中で、どのようなことに負担を感じているか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

1．利用者や家族に対する業務内容の説明と同意
2．課題分析のための居宅訪問
3．サービス担当者会議の開催・調整
4．ケアプラン原案に対する利用者・家族の同意
5．ケアプランの交付（書類の作成など）
6．状況確認のための毎月の居宅訪問・面接
7．主治医や医療機関との連絡調整
8．利用者や事業者の苦情対応
9．要介護認定などの申請代行
10. 介護報酬請求事務
11. 夜間や休日の相談対応
12. 介護支援専門員以外の相談や頼まれごと
13. ケアマネジメントの件数が多い
14. その他（具体的に　　）

問 10. 現在、あなたが事務を進めるうえで困った時、主にどこに（だれに）相談しているか。該当するものを3つまで選び○印をつけてください。

1．京都府　　2．木津川市
3．国民健康保険団体連合会　　4．地域包括支援センター
5．在宅介護支援センター　　6．京都府介護支援専門員会
7．地域の介護支援専門員連絡会・勉強会　　8．職場の上司・同僚
9．職場外のケアマネジャー　　10. 相談できるところがない
11. 相談していない　　12. その他（　　）

問 11. あなたが現在（令和2年1月現在）担当している利用者数についておうかがいします。何人を担当されているか。

担当利用者数（令和2年1月現在）→（　　）人

※上記の「担当利用者数」について、要介護度の人数の内訳を記入してください。

要支援1（　　）人　要支援2（　　）人

要介護1（　　）人　要介護2（　　）人　要介護3（　　）人

要介護4（　　）人　要介護5（　　）人

問 12. あなたは、介護サービス計画（ケアプラン）を作成するに当たり、市内の事業所数もしくは定員など、量的に不足していると思われるサービスはありますか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

1．訪問介護
2．訪問入浴介護
3．訪問看護
4．訪問リハビリテーション
5．通所介護
6．通所リハビリテーション
7．福祉用具貸与
8．短期入所生活介護
9．短期入所療養介護
10. 夜間対応型訪問介護
11. 認知症対応型通所介護
12. 小規模多機能型居宅介護
13. 介護老人福祉施設
14. 地域密着型介護老人福祉施設
15. 介護老人保健施設
16. 介護療養型医療施設
17. 認知症対応型共同生活介護
18. 特定施設入居者生活介護
19. 地域密着型特定施設入居者生活介護
20. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護
21. その他（　　）

※事業所種別には介護予防サービス事業所を含む

問 13. 介護保険のサービス以外の主な高齢者福祉サービスでよく活用したり、利用者に紹介したりしているサービスは何がありますか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

1．配食サービス
2．介護者交流事業
3．ふとん水洗い乾燥サービス
4．緊急通報装置の設置
5．生きがい対応型デイサービス事業
6．在宅高齢者等紙おむつ給付
7．高齢者日常生活用具給付
8．家族介護者慰労金の支給
9．特にない
10. その他（例：住民参加型助け合いサービス等　　）
（　　）

問 14. 今後充実が必要だと思う介護保険外サービスについて、ご自由にご記入ください。

問 15. サービス事業所に関する情報はどこから得ているか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

1．サービス事業所のパンフレット等
2．サービス事業所のホームページ
3．介護サービス情報公表システム
4．地域包括支援センター
5．居宅介護支援事業者連絡会
6．介護支援専門員同士の情報交換・口コミ
7．他のサービス事業所の営業活動
8．利用者からの情報や意見・要望
9．その他（　　）
10. 特に情報収集をおこなっていない

問 16. ケアプランの作成にあたって、医療に関する情報収集をどのようにおこなっているか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

1．主治医の意見書

2．意見書を記載した主治医に対する電話・面談・文書連絡等

3．意見書を記載した主治医以外のかかりつけ医に対する電話・面談・文書連絡等

4．利用者の受診・入退院時に同行

5．医療相談室（医療相談担当スタッフ）

6．ご家族を通じて医師に指示を確認

7．医療スタッフ等とのカンファレンス

8．その他（　　）

9．特に情報収集をおこなっていない

問 17. 医療機関（かかりつけ医等）と連携するうえでどのような工夫をおこなっているか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

1．かかりつけ医毎の連絡方法（時間帯等）の把握

2．サービス担当者会議毎にかかりつけ医の出席しやすい日時を設定している

3．ケアプラン作成・変更時にケアプランを利用者の医療機関（かかりつけ医等）に届ける（利用者の同意を得ておこなう）

4．医療機関の受診への同席や入退院時のカンファレンスに参加

5．他職種連携のための事例検討会や連絡会などへの参加

6．地域の医師や介護支援専門員などの団体で決めた連絡方法（ケアマネタイムなど）の活用

7．医療・介護連携シートを使用

8．地域包括支援センターと相談しながら連携

9．訪問看護ステーションと相談しながら連携

10．その他（　　）

11．特になにもしていない

問 18. サービス担当者会議を開催するにあたって困っていることは何ですか。該当するものを3つまで選び○印をつけてください。

1．自分の業務が多忙で会議を開催する時間がとりにくい

2．主治医の理解・協力が得られない

3．サービス提供事業者の理解・協力が得られない

4．利用者や家族の理解・協力が得られない

5．会議を開催する場所が確保しにくい

6．会議で何をどう検討していいのか分からない

7．会議を開催しても、助言・指導してくれる人がいない

8．その他（　　）

問 19. 介護支援専門員の業務を行う上で課題として考えているのはどのようなことですか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

1．介護保険サービス・高齢者福祉サービスの種類が少ない

2．サービス事業者に関する情報が少ない

3．利用者および家族がサービスの必要性を理解していない

4．忙しくて利用者の意見・要望を聞き調整する時間が十分に取れない

5．困難事例のケアマネジメントの方法が分からない

6．認知症ケアの方法が分からない

7．医療機関との連携がうまくとれない

8．地域包括支援センターとの連携がうまくとれない

9．相談する人が身近にいない

10. 所属事業所の関連事業者からのサービスに偏る

11. ケアマネジメントの件数が多い

12. その他（　　）

問 20. 高齢者福祉について、今後どのような施策の拡充が重要とお考えですか。重要と思われるものを３つまで選び○印をつけてください。

1．健康づくり対策の充実

2．認知症対策の充実

3．介護予防対策の充実（転倒予防教室や筋力向上、口腔ケアなど）

4．寝たきり予防の充実

5．ボランティア活動のための場の確保

6．高齢者を地域で見守るなどの住民による助け合い活動の取り組み

7．高齢者の働く場の確保や就職のあっせん

8．生涯学習やスポーツ、レクリエーション活動の機会の充実

9．世代間交流の場づくり

10. 在宅サービスの充実

11. 施設サービスの充実

12. 身近で「通い」や「泊まり」などのサービスが受けられる施設の充実

13. 高齢者向け住宅の普及

14. 移動手段の充実

15. 建物・道路など高齢者に配慮したまちづくり

16. その他（具体的に　　）

■ 最後にあなたのご意見やご要望をお聞かせください。

介護保険制度について、ご意見・ご要望がありましたらご自由にご記入ください。

長時間調査にご協力いただき大変ありがとうございました。

ご記入いただきました本調査票は、同封の返信用封筒に入れ、2月10日（月）までにご投函いただきますようお願いいたします。

高齢者実態調査等

報　告　書

発行　木津川市 健康福祉部 高齢介護課

〒619-0286
京都府木津川市木津南垣外 110-9

電話 0774-75-1213

FAX　0774-72-0553

令和２年３月